

# Syllabus2021

---

シラバス (教授要目)

北陸学院大学

**Realize Your Mission**

あなたの使命を実現しよう



# 学 事 曆

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

3月22日(月)～26日(金) 前期履修登録期間(2・3・4年)  
 3月30日(火)～4月2日(金) 前期履修登録期間(1年)  
 3月30日(火)～4月3日(土) オリエンテーション期間  
 4月2日(金) 入学式(午後)  
 4月5日(月) 前期授業開始  
 4月14日(水)～16日(金) 前期履修登録変更期間

4月29日(木) 通常講義日  
 5月5日(水) 通常講義日  
 5月12日(水) 金曜代替講義日  
 5月14日(金)～15日(土) フレッシュマン・セミナー(1年)  
 5月14日(金) 2～4年休講  
 6月7日(月)～6月11日(金) 特別伝道礼拝週間(1・3年)  
 6月14日(月)～6月18日(金) 特別伝道礼拝週間(1・3年)  
 7月21日(水) 前期授業終了  
 7月24日(土)～7月30日(金) 前期試験期間  
 7月31日(土)～9月11日(土) 夏期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

9月9日(木) 北陸学院創立記念日  
 9月6日(月)～10日(金) 後期履修登録期間  
 9月13日(月) 後期授業開始  
 9月22日(水)～24日(金) 後期履修登録変更期間  
 10月4日(月)～8日(金) 特別伝道礼拝週間(2・4年)  
 10月11日(月)～15日(金) 特別伝道礼拝週間(2・4年)  
 10月21日(木) 大学祭準備(休講)  
 10月22日(金)～23日(土) 大学祭(栄光祭)

11月3日(水) 通常講義日・金曜代替講義日  
 11月12日(金)～13日(土) オータム・セミナー(1・2年)  
 11月12日(金) 3・4年休講  
 11月24日(水) クリスマス・ツリー点灯式(5限振替)  
 12月21日(火) クリスマス礼拝(休講)  
 12月23日(木) 全学休校予備日  
 12月24日(金)～1月5日(水) 冬期休業期間(補講・集中講義)

1月15日(土) 全学休校予備日  
 1月20日(木) 後期授業終了  
 1月21日(金)～1月27日(木) 後期試験期間  
 1月22日(土) 全学休校予備日  
 1月28日(金)～3月31日(木) 春期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

2月25日(金) 卒業者発表  
 3月7日(月) 卒業感謝礼拝  
 3月8日(火) 卒業証書・学位記授与式

## まえがき

この「教授要目」は、2021年度に開講する学科目の授業計画を記載したものです。

「教授要目」は、Syllabus（シラバス）と呼ばれ、各学科目の授業内容を授業時間毎に紹介しているものです。

したがって、それぞれの学科目の具体的内容を表しているものとして、大変重要な資料です。

授業はここに示された計画に従って進められますが、進行状況によっては一部内容が変更される場合もあります。

みなさんは、各授業の履修に先立って、「教授要目」をよく読んで、授業のねらいや内容をよく把握しておいてください。予習や復習はもちろん、学科目の選択に際しても、参考になります。

「教授要目」は、在学中および卒業後も大切に保管してください。他大学や公的教育機関へ編入学をする際にも必要な資料として用いられます。

この「教授要目」を大いに活用して、学修の一層の活性化を図ってください。

## 子ども教育学科

### 1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

#### （1）教育理念、AP・CP・DP

##### 教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

##### アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- 1 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同し、本学で意欲的に学ぶ意思がある者。（\*）
- 2 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。
- 3 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭（英語）・高等学校教諭（英語）を目指し、学業に意欲的に取り組むことができる者。
- 4 人間の発達や成長に関心のある者。

\*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

##### カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部には社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- 1 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群。
- 2 学生の学修能力の状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- 3 学生が自ら目指す進路のために学科別教育課程を配置する。

- 4 専門的な知識と方法論を系統立てて学ぶために、「初等・中等教育コース」、「幼児・児童教育コース」、「幼児教育・保育コース」を置く。
- 5 1年次より現場体験学習を重視し、理論的学びと連動させる。
- 6 人格形成や教育科学の視点から、子どもの育ちや発達に関する学科専門科目を配置する。
- 7 専門の学びに関連する資格科目を配置する。

### ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。
- 2 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。
- 3 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。
- 4 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。
- 5 幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容を良く理解している。
- 6 子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・小・中・高の教育連携、自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。
- 7 子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観並びに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。

## （2）コースの概要

### 幼児教育・保育コース(A)

幼稚園教諭免許と保育士資格の2つを取得し、幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設など、多様化する教育・福祉のニーズにこたえる教育者・保育者を養成する。

### 幼児・児童教育コース(B)

幼小連携に対応しながら、様々な状況に置かれている子どもへの指導、支援に加え、小学校における英語教育や外国語活動も指導できる教育者を養成する。

### 初等・中等教育コース (C)

小学校教諭と中学校・高等学校教諭（英語）の免許取得を可能とするコースで、小学校段階から高等学校段階までの教育連携・接続に貢献し、英語に強い教育者を養成する。

## 2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

### (1) 全学共通科目

- H G : 北陸学院科目
- G E : 総合教養
- L J : 言語教育 (日本語)
- L E : 言語教育 (英語)
- L C : 言語教育 (中国語)
- L F : 言語教育 (フランス語)
- P E : スポーツ・健康
- H C : キャリア教育

### (2) 学科科目 (基幹科目・学科専門科目・資格科目)

- E : 子ども教育
- E K : 基幹科目 \*Key
- E L : 英会話 \*Language
- E S : 「中学校教諭」「高等学校教諭」科目 \*Secondary
- E E : 「小学校教諭」科目 \*Elementary
- E C : 「幼児・児童教育」科目 \*Childhood
- E N : 「保育教諭」科目 \*Nursing
- E D : 心理学・教育科学科目 \*Education
- E T : 資格科目 (実習関係科目) \*Teacher Certificate

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)、300番台 (主として3、4年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

## 子ども教育学科（カリキュラム体系図）

EK：基幹科目

EL：英会話

ES：「中・高等学校教諭」科目

EE：「小学校教諭」科目

### <300番台>

EK360U 卒業研究	EL370U バイブル・イングリッシュ	ES355U 英語科教育法Ⅳ	EE363U 教育相談（小中高）
EK350U キリスト教と教育	EL360U エッセイ・ライティング	ES350U 英語科教育法Ⅲ	EE346U 英語科指導法
EK305U 専門ゼミⅡ	EL350U インテンシブ・リーディング	ES340U コミュニティブ・イングリッシュB	EE341U 体育科指導法
EK300U 専門ゼミⅠ	EL320U ムービー・イングリッシュB	ES331U 英語文学Ⅱ	EE336U 家庭科指導法
	EL310U ムービー・イングリッシュA	ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ	EE331U 音楽科指導法
		ES310U 英語音声学Ⅱ	EE326U 図画工作指導法
		ES301U 英語学	EE321U 生活科指導法
			EE316U 理科指導法
			EE311U 算数科指導法
			EE306U 国語科指導法（書写を含む）
			EE301U 社会科指導法

### <200番台>

EK290U 郷土の文学を楽しむ	EL240U ビジネス・イングリッシュB	ES265U 英語科教育法Ⅱ	EE243U 生徒・進路指導論（小中高）
EK280U 児童文学	EL230U ビジネス・イングリッシュA	ES260U 英語科教育法Ⅰ	EE238U 教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）
EK270U 異文化間コミュニケーション論	EL225U プレゼンテーション	ES250U コミュニティブ・イングリッシュA	EE228U 道德教育指導論（小中）
EK240U 初歩文献講読	EL220U トラベル・イングリッシュB	ES241U 英語圏の児童文学	EE215U 家庭
EK230U 教育心理学	EL210U トラベル・イングリッシュA	ES231U 英語文学Ⅰ	EE210U 理科
EK220U 発達心理学	EL205U エクステンシブ・リーディング	ES220U 言語教育のための英文法Ⅰ	EE200U 社会
EK210U プロゼミB	EL200U スピーチ&ドラマ	ES210U 英語音声学Ⅰ	
EK200U プロゼミA		ES201U 英語学概論	

### <100番台>

EK160U 日本国憲法	EL135U シンプル・イングリッシュB
EK151U 特別支援教育論	EL130U シンプル・イングリッシュA
EK142U 保育者論	EL125U キッズ・イングリッシュB
EK140U 教職論	EL120U キッズ・イングリッシュA
EK130U 教育学概論	EL110U プラクティカル・イングリッシュ
EK120U 地域社会と子ども	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ
EK110U 基礎ゼミⅡ	
EK100U 基礎ゼミⅠ	

### <090番台>



EC：「幼児・児童教育」科目

EN：「保育教諭」科目

ED：心理学・教育科学科目

ET：資格科目（実習関係科目）

<300番台>

		ED396U 教育実践研究B	
		ED393U 教育実践研究A	
		ED391U 教育学理論研究	
		ED386U 教育学文献講読B3	
		ED383U 教育学文献講読B2	
		ED381U 教育学文献講読B1	
		ED376U 教育学文献講読A3	
		ED373U 教育学文献講読A2	
		ED371U 教育学文献講読A1	
		ED361U 比較教育学	ET386U 教職実践演習(幼小中高・保)
		ED356U 子どもと法	ET371U 教育実習Ⅱ(中高)
		ED351U 教育史	ET366U 教育実習Ⅰ(中高)
		ED341U 選択音楽	ET361U 教育実習指導(中高)
		ED336U 障害者・障害児心理学	ET340U 介護等体験
EC350U 子どもの理解と援助	EN331U 子育てと支援	ED331U 心理演習	ET335U 保育実習Ⅲ(施設)
EC345U 幼児理解	EN325U 乳児保育Ⅱ	ED327U 学校心理学(教育・学校心理学)	ET330U 保育実習指導Ⅲ
EC341U 表現	EN320U 家庭支援論	ED326U 心理学的支援法	ET325U 保育実習Ⅱ(保育所)
EC336U 人間関係	EN315U 子どもの食と栄養	ED321U 感情心理学(感情・人格心理学B)	ET320U 保育実習指導Ⅱ
EC331U 言葉	EN311U 子どもの健康	ED316U 知覚・認知心理学	ET316U 教育実習Ⅱ(小)
EC326U 健康活動	EN306U 家庭支援の心理学	ED311U 産業・組織心理学	ET306U 教育実習Ⅱ(幼)
EC321U 環境	EN301U 子ども家庭福祉論Ⅱ	ED306U 社会・集団・家族心理学	ET301U 教育実習指導Ⅱ(幼)

<200番台>

EC281U 保育内容・表現指導法			
EC276U 保育内容・人間関係指導法			
EC271U 保育内容・言葉指導法			
EC266U 保育内容・健康指導法			
EC261U 保育内容・環境指導法			
EC256U 保育内容総論			
EC251U 教育課程論			
EC245U 器楽Ⅱ			
EC238U 教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	EN295U 絵本論		
EC230U 教育社会学	EN290U 身体表現		ET235U 保育実習Ⅰ(保育所)
EC228U 英語	EN285U 児童文化		ET230U 保育実習指導Ⅰ(保育所)
EC225U 体育	EN280U 障がい児保育	ED256U 人格心理学(感情・人格心理学A)	ET225U 保育実習Ⅰ(施設)
EC220U 音楽	EN275U 乳児保育Ⅰ	ED251U 心理学実験Ⅱ	ET220U 保育実習指導Ⅰ(施設)
EC215U 図画工作	EN266U 子どもの保健	ED246U 心理的アセスメント	ET216U 教育実習Ⅰ(小)
EC210U 生活	EN260U 社会的養護内容	ED231U 心理学実験Ⅰ	ET211U 教育実習指導(小)
EC205U 算数	EN255U 社会的養護	ED226U 心理学研究法	ET206U 教育実習Ⅰ(幼)
EC200U 国語	EN251U 子ども家庭福祉論Ⅰ	ED221U 心理学統計法	ET201U 教育実習指導Ⅰ(幼)

<100番台>

	EN165U 音楽表現Ⅱ	
	EN160U 音楽表現Ⅰ	ED110U 臨床心理学概論
	EN155U 社会福祉	ED105U 心理学概論B
EC110U 器楽Ⅰ	EN150U 保育原理	ED100U 心理学概論A

<090番台>

EC090U 器楽入門◆
--------------

**子ども教育学科 科目見取表**  
1・2年

科目概要	Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相					Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相		成績評価の対象となるもの	ディプロマポリシー				
	Reflexive 学生個人による 内省的学習	Interactive 教員との 双方向 学習	Peer 学生間の 深化型学習	Exercise 演習	Practice 現場実践	① 期未試験(16回自試験)	② 期末レポート						
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	単位数	標準履修年次	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型 ワークシート 振り返りシート コミュニケーションシート	ディスカッション グループワーク(三人以上一組) ペアワーク(二人一組) SNS等を用いた双方向型講義	プレゼンテーション 反転授業 ロールプレイ 実践型フィールドワーク	③ 小テスト ④ 課題レポート・提出物 ⑤ 口頭発表・ロールプレイング ⑥ 授業への積極性、態度 ⑦ ルーブリック ⑧ その他	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	
P. 3	HG100U	北陸学院セミナー I	1	1	必修	演習							
P. 5	HG110U	キリスト教概論 I	1	1	必修	講義							
P. 6	HG120U	キリスト教概論 II	1	1	必修	講義							
P. 9	GE100U	総合教養A I	1	2	必選	講義							
P. 10	GE110U	総合教養A II	1	2	必選	講義							
P. 11	GE120U	総合教養B I	1	2	必選	講義							
P. 12	GE130U	総合教養B II	1	2	必選	講義							
P. 13	GE140U	総合教養C I	1	2	必選	講義							
P. 14	GE150U	総合教養C II	1	2	必選	講義							
P. 15	GE160U	総合教養D I	1	2	必選	講義							
P. 16	GE170U	総合教養D II	1	2	必選	講義							
P. 17	LJ090U	日本語基礎	1	1	自由	演習							
P. 18	LJ110U	日本語表現法 I	1	1	必修	演習							
P. 19	LJ120U	日本語表現法 II	1	1	必修	演習							
P. 20	LE090U	英語基礎	1	1	自由	演習							
P. 21	LE155U	英語A I	1	1	必選	演習							
P. 22	LE160U	英語A II	1	1	必選	演習							
P. 23	LE145U	英語B I	1	1	必選	演習							
P. 24	LE150U	英語B II	1	1	必選	演習							
P. 25	LE135U	英語C I	1	1	必選	演習							
P. 26	LE140U	英語C II	1	1	必選	演習							
P. 27	LE125U	英語D I	1	1	必選	演習							
P. 28	LE130U	英語D II	1	1	必選	演習							
P. 29	LE115U	英語E I	1	1	必選	演習							
P. 30	LE120U	英語E II	1	1	必選	演習							
P. 31	LE105U	英語F I	1	1	必選	演習							
P. 32	LE110U	英語F II	1	1	必選	演習							
P. 33	LE165U	アタゴ・イングリッシュA	1	1	選択	演習							
P. 34	LE170U	アタゴ・イングリッシュB	1	2	選択	演習							
P. 35	LE175U	アタゴ・イングリッシュC	1	3	選択	演習							
P. 40-42	PE100U	生涯スポーツA	1	1	必修	実技							
P. 43-45	PE110U	生涯スポーツB	1	1	必修	実技							
P. 46	PE120U	健康科学	1	2	必修	講義							
P. 47-48	HC100U	キャリアデザイン I	1	1	必修	演習							
P. 49-50	HC110U	キャリアデザイン II	1	1	必修	演習							
P. 59-60	HC160U	情報機器演習A	1	1	必修	演習							
P. 61-62	HC170U	情報機器演習B	1	1	必修	演習							
P. 65	EK100U	基礎ゼミ I	1	2	必修	演習							
P. 66	EK110U	基礎ゼミ II	1	2	必修	演習							
P. 71	EK120U	地域社会と子ども	1	2	必修	講義							
P. 72	EK130U	教育学概論	1	2	必修	講義							
P. 75	EK151U	特別支援教育論	1	2	※	講義							
P. 79	EK160U	日本国憲法	1	2	必修	講義							
P. 83	ES201U	英語学概論	1	2	必修	講義							
P. 85	ES210U	英語音声学 I	1	2	※	演習							
P. 86	ES310U	英語音声学 II	1	2	※	演習							
P. 87	ES220U	言語教育のための英文法 I	1	2	※	演習							
P. 88	ES320U	言語教育のための英文法 II	1	2	※	演習							
P. 98	EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	1	2	※	演習							
P. 99	EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	1	2	※	演習							
P. 100	EL120U	キッズ・イングリッシュA	1	2	※	演習							
P. 101	EL125U	キッズ・イングリッシュB	1	2	必修	演習							











## 2021年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	掲載ページ
伊藤 雄二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外(イタリア・ミラノ)日本人学校の小・中学部の教員として3年間勤務</li> <li>・公立及び国立大学附属中学校教員として23年勤務</li> <li>・国立大学附属高等学校教員として11年勤務</li> <li>・2020年度より、石川県英語教育指導アドバイザーとして学校現場の巡回指導を行っている。</li> <li>・2018年度より県内中学校・高等学校の英語教員のための授業研究会を主宰し、英語による授業(Oral Method)の具体的方法を広めている。</li> </ul>	地域社会と子ども	2	P. 71
		言語教育のための英文法Ⅰ	2	P. 87
		言語教育のための英文法Ⅱ	2	P. 88
		コミュニケーション・イングリッシュA	2	P. 92
		英語	2	P. 138
		英語科教育法Ⅱ	2	P. 95
		英語科教育法Ⅲ	2	P. 96
		教育実習指導(中高)	1	P. 203
		小学校英語科教育法Ⅲ	2	P. 221
		教職実践演習(幼・小・中)	2	P. 226
		アクティブ・イングリッシュB	2	P. 34
岡田 文貴	社会福祉事業に35年勤務し、その中で障害児の相談援助や直接支援に5年勤務	社会福祉	2	P. 160
川真田 早苗	小学校教諭として33年勤務	理科	2	P. 116
		算数科指導法	2	P. 120
		理科指導法	2	P. 121
		算数	2	P. 133
		教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	2	P. 130
		教育実習指導(小)	1	P. 201
楠本 史郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本基督教団牧師経験41年勤務(教会担任教師として28年勤務・教務教師として13年勤務)</li> <li>・幼稚園園長として30年勤務</li> <li>・金沢刑務所宗教教諭として18年勤務</li> </ul>	キリスト教概論Ⅰ	1	P. 5
		キリスト教概論Ⅱ	1	P. 6
		キリスト教と教育	2	P. 219
齊藤 英俊	臨床心理士、非常勤のカウンセラー(主にスクールカウンセラー)として11年間勤務	発達心理学	2	P. 76
		教育心理学	2	P. 77
		家庭支援の心理学	2	P. 161
		心理演習	2	P. 192
		幼児理解	2	P. 227
側垣 二也	児童養護施設に39年勤務	社会的養護	2	P. 162



## 2021年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	掲載ページ
高村 真希	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として12年勤務</li> <li>・日保協幼児教育実践研究会グループ研究アドバイザー(2019年度)</li> <li>・金沢市保育部会 保育士会 フロック研究アドバイザー(2020年4月から2022年3月)</li> </ul>	地域社会と子ども	2	P. 71
		保育内容・言葉指導法	2	P. 150
		言葉	2	P. 151
		乳児保育Ⅱ	2	P. 169
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	P. 207
		保育実習指導Ⅱ	1	P. 209
		教職実践演習(幼・保)	2	P. 225
谷 昌代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。</li> <li>・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。</li> <li>・初任～3年目対象保育士訪問サポート研修担当。</li> <li>・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。</li> </ul>	特別支援教育論	2	P. 75
		保育内容・人間関係指導法	2	P. 152
		乳児保育Ⅰ	2	P. 168
		人間関係	2	P. 153
		子どもの理解と援助	1	P. 156
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	1	P. 207
		保育実習指導Ⅱ	1	P. 209
		幼児理解	2	P. 227
		教職実践演習(幼・保)	2	P. 225
徳田 茂	障害児通園施設に46年勤務	障がい児保育	2	P. 170
中島 賢介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校で国語科教諭として5年間勤務</li> <li>・北陸学院小学校校長として3年間勤務</li> </ul>	国語	2	P. 132
		キャリアデザインⅤ	1	P. 55
		キャリアデザインⅥ	1	P. 57
		キリスト教と教育	2	P. 219
中野 聡	小学校、中学校の教員として30年以上勤務	総合教養AⅠ	2	P. 9
		総合教養AⅡ	2	P. 10
		英語EⅠ	1	P. 29
		英語EⅡ	1	P. 30
		地域社会と子ども	2	P. 71
		シンプル・イングリッシュA	2	P. 102
		シンプル・イングリッシュB	2	P. 103
		英語	2	P. 138
		インテンシブ・リーディング	2	P. 113
		エッセイ・ライティング	2	P. 114
		教育実践研究A	2	P. 196

## 2021年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	掲載ページ
福江 厚啓	・公立小学校教諭9年間、国立幼稚園教諭9年間の実務経験 ・3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任(知障・自情)、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当、副教務、情報教育主担等	総合教養A I	2	P. 9
		総合教養A II	2	P. 10
		キャリアデザインII	1	P. 49
		生活	2	P. 134
		社会	2	P. 117
		社会科指導法	2	P. 122
		生活科指導法	2	P. 123
		教育実践研究A	2	P. 196
		教育実習指導(小)	1	P. 201
		教職実践演習(幼・小・中)	2	P. 226
松下 健	臨床心理士、スクールカウンセラーとして4年間勤務	教育相談(小・中)	2	P. 222
幸 聖二郎	・公立小学校教諭として16年間、公立小学校教頭として3年間勤務。 ・公立幼稚園副園長(公立小教頭兼任)として3年間勤務、町教育委員会指導主事として1年間勤務。 ・私立小学校設立準備室設立準備委員として1年間勤務。 ・私立小学校教諭として2年間、私立小学校校長として6年間、私立幼稚園園長(私立小校長兼任)として5年間勤務。	日本語表現法 I	1	P. 18
		日本語表現法 II	1	P. 19
		地域社会と子ども	2	P. 71
		教職論	2	P. 73
		国語	2	P. 132
		生徒・進路指導論(小中高)	2	P. 131
		教育実習指導(小)	1	P. 201
		国語科指導法(書写を含む)	2	P. 119
		教育実践研究A	2	P. 196
向出 圭吾	幼稚園教諭として13年間勤務	総合教養A II	2	P. 10
		地域社会と子ども	2	P. 71
		保育内容・環境指導法	2	P. 146
		保育内容・表現指導法	2	P. 154
		教育実習指導 I (幼)	1	P. 197
		環境	2	P. 147
		表現	2	P. 155
		教育実習指導 II (幼)	1	P. 198
		幼児理解	2	P. 227
		教職実践演習(幼・保)	2	P. 225

2021年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	掲載ページ
虫明 淑子	・幼稚園教諭として20年間勤務	総合教養A I	2	P. 9
		総合教養A II	2	P. 10
		保育原理	2	P. 157
		教職論	2	P. 73
		保育者論	2	P. 74
		教育課程論	2	P. 144
		保育内容総論	1	P. 145
		教育実習指導 I (幼)	1	P. 197
		教育実習指導 II (幼)	1	P. 198
		教育実践研究B	2	P. 224
		教職実践演習(幼・小・中)	2	P. 226
村井 万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員(日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー)として小学校、中学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について共同研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育学概論	2	P. 72
		特別支援教育論	2	P. 75
		初歩文献講読	2	P. 78
		道徳教育指導論(小中)	2	P. 129
		教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	2	P. 130
		生徒・進路指導論(小中高)	2	P. 131
		教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	2	P. 140
		教育史	2	P. 193
		教育実習指導(小)	1	P. 201
		教職実践演習(幼・小・中)	2	P. 226
介護等体験	2	P. 233		

## 社会学科

### 1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

#### 教育理念

北陸学院大学は、キリスト教精神に基づいて人間についての理解と学びを教育や社会の視点から総合的にとらえ、知識を統合していくことを教育及び研究上の目的とし、その達成を通じて専門的知識とともに幅広い教養に裏打ちされた心の豊かさや人間的資質を備えた人材の育成を目指します。

#### アドミッションポリシー（AP）

北陸学院大学では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- 1 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同し、本学で意欲的に学ぶ意思がある者。
- 2 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者。（\*）
- 3 社会のさまざまな課題に意欲的に取り組むことができる者。

\*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」の学びを義務づけます。

#### カリキュラムポリシー（CP）

北陸学院大学では、教育理念に掲げた人材を育成するために、人間総合学部社会学科と子ども教育学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- 1 学部の掲げるディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を達成するために、4つの科目群を配置し、系統的な履修を促す。「全学共通科目」群（「北陸学院科目」、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」）、「基幹科目」群、「学科専門科目」群、「資格科目」群。
- 2 学生の学修能力の状況に合わせた段階的な科目配置を行う。大学での学びに必要なスタディスキルズから始まり、主体的な学びに必要な課題探究能力、批判的分析思考能力、情報リテラシー、コミュニケーション能力など、社会において欠くことのできない能力の育成を達成するために、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（1年次）、「プロゼミA・B」（2年次）、「専門ゼミⅠ」（3年次）、「専門ゼミⅡ」（4年次）などを配置する。
- 3 学生が自ら目指す進路のために学科別教育課程を配置する。
- 4 社会への理解を深めるために、データに基づき社会の様々な現象を検証する技能を理論的に身につけることを重視する。

1年次では、社会学とその関連領域および社会調査に関する基礎的な知識・技能を学び、2年次からの専門的な学びにつなげる。

2年次以降は、学科専門科目の基礎となる科目群として「基本科目」、より専門性

の高い「応用領域」として「文化と共生」、「くらしと政策」、「心理と社会」の科目群を配置する。

- 5 自らの専門性と学修目標を認識し、系統的に履修できるよう、上記の科目の組み合わせより「現代社会・国際理解コース」、「心理・カウンセリングコース」、「環境福祉マネジメントコース」、「政治経済・経営コース」、「情報・図書館司書コース」の履修モデルコースを示す。
- 6 専門の学びに関連する資格科目を配置する。

### ディプロマポリシー（DP）

北陸学院大学では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1 キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。
- 2 全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。
- 3 学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。
- 4 4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によつて的確に他者に伝えることができる。
- 5 現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。
- 6 現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。
- 7 現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。

## 2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

### (1) 全学共通科目

- H G : 北陸学院科目
- G E : 総合教養
- L J : 言語教育（日本語）
- L E : 言語教育（英語）
- L C : 言語教育（中国語）
- L F : 言語教育（フランス語）
- P E : スポーツ・健康
- H C : キャリア教育

### (2) 学科科目（基幹科目・学科専門科目・資格科目）

- S : 社会学
- S K : 基幹科目 \*Key

S O : 基本・共通科目 \*Sociology  
S C : 「文化と共生」科目 \*Culture, Congruity  
S L : 「くらしと政策」科目 \*Living  
S P : 「心理と社会」科目 \*Psychology  
S W : 「社会福祉士国家試験受験資格」科目 \*Welfare  
S S : 「スクールソーシャルワーク」科目 \*School  
S B : 「司書資格」科目 \*Books  
S T : 「公認心理師」科目 \*(Psycho) Therapist

- 注1) 基礎科目を100番台（主として1年次）、学科専門200番台（主として2年次）、300番台（主として3、4年次）、400番台（4年次）
- 注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。



## 社会学科（カリキュラム体系図）

SK：基幹科目

SO：基本・共通科目

SC：「文化と共生」科目

SL：「くらしと政策」科目

### <400番台>

### <300番台>

SK310U 卒業研究		SC320U メディア文化論	SL355U 刑事司法と福祉
SK305U 専門ゼミⅡ	SO305U 社会調査実習	SC315U 社会病理学	SL350U 権利擁護を支える法制度
SK300U 専門ゼミⅠ	SO300U 応用心理社会統計法	SC305U 教育社会学	SL345U 経済学Ⅳ
		SC300U 石川の伝統文化と産業	SL340U 経済学Ⅲ
			SL335U マーケティング論
			SL330U 地域環境マネジメント論
			SL325U 社会貢献実習
			SL320U 地域社会政策論
			SL315U 政治学
			SL310U 法律学
			SL300U 地域行政入門

### <200番台>

			SL250U 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
			SL245U 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ
			SL240U 社会保障論
			SL235U 環境と開発
			SL230U 経済学Ⅱ
	SO220U 環境社会学	SC220U グローバル社会論	SL225U 経済学Ⅰ
	SO215U 都市社会学	SC215U 多文化共生論	SL220U 情報技術論
SK210U 質的研究法	SO210U 家族社会学	SC210U 社会と言語	SL215U 障害者スポーツ
SK205U プロゼミB	SO205U 社会学理論	SC205U 若者文化論	SL205U 高齢者福祉論
SK200U プロゼミA	SO201U 心理学統計法	SC200U 宗教と社会	SL200U 社会貢献論

### <100番台>

SK135U 統計データの読み方			
SK130U 社会調査法			
SK125U 社会調査論	SO125U 心理学概論B		
SK120U 社会学概論B	SO120U 心理学概論A		
SK115U 社会学概論A	SO115U 現代社会と福祉Ⅱ		SL120U 障害者福祉論
SK110U 社会学リレー講義	SO110U 現代社会と福祉Ⅰ		SL115U 児童福祉論
SK105U 基礎ゼミⅡ	SO105U 文化人類学		SL105U 経営学入門
SK100U 基礎ゼミⅠ	SO100U データ処理基礎		SL100U 図書館概論



SP：「心理と社会」科目

SW：「社会福祉士国家試験  
受験資格」科目

SS：「スクールソーシャル  
ワーク」科目

SB：「司書資格」科目

ST：「公認心理師」科目

<400番台>

ST400U 心理実習
-------------

<300番台>

	SW371U ソーシャルワーク実習Ⅱ			
	SW366U ソーシャルワーク実習Ⅰ			
	SW361U ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			
	SW356U ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			
	SW351U ソーシャルワーク実習指導Ⅰ			
SP336U 心理演習	SW346U ソーシャルワーク演習Ⅴ		SB340U 図書館実習	
SP332U 学校心理学(教育・学校心理学)	SW341U ソーシャルワーク演習Ⅳ		SB335U 図書・図書館史	
SP331U 心理学的支援法	SW336U ソーシャルワーク演習Ⅲ		SB330U 図書館情報資源概論	
SP326U 障害者・障害児心理学	SW325U 保健医療サービス	SS320U スクールソーシャルワーク実習	SB325U 情報資源組織演習Ⅱ	
SP321U 感情心理学(感情・人格心理学B)	SW320U 公的扶助論	SS315U スクールソーシャルワーク実習指導	SB320U 情報資源組織演習Ⅰ	ST320U 関係行政論
SP316U 知覚・認知心理学	SW315U 福祉サービスの組織と経営	SS310U スクールソーシャルワーク演習	SB315U 情報サービス演習Ⅱ	ST315U 健康・医療心理学
SP311U 産業・組織心理学	SW306U ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	SS305U スクールソーシャルワーク論	SB310U 情報サービス演習Ⅰ	ST310U 精神疾患とその治療
SP306U 社会・集団・家族心理学	SW301U ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	SS300U 精神保健学	SB305U 図書館制度・経営論	ST305U 司法・犯罪心理学
			SB300U 児童サービス論	ST300U 福祉心理学

<200番台>

SP236U 人格心理学(感情・人格心理学A)				
SP230U 教育心理学				
SP225U 発達心理学	SW226U ソーシャルワーク演習Ⅱ			
SP216U 心理的アセスメント	SW221U ソーシャルワーク演習Ⅰ			
SP211U 心理学研究法	SW211U ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		SB210U 情報資源組織論	ST210U 人体の構造と機能及び疾病
SP206U 心理学実験Ⅱ	SW206U ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		SB205U 情報サービス論	ST205U 神経・生理心理学
SP201U 心理学実験Ⅰ	SW201U ソーシャルワークの基盤と専門職		SB200U 図書館サービス概論	ST200U 学習・言語心理学

<100番台>

SP100U 臨床心理学概論		SB100U 生涯学習概論	ST100U 公認心理師の職責
----------------	--	---------------	-----------------



**社会学科 科目見取表  
1・2年**

科目概要	Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相			Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相		成績評価の対象となるもの	ディプロマポリシー										
	Reflexive 学生個人による 内省的学習	Interactive 教員との 双方向 学習	Peer 学生間の 深化型学習	Exercise 演習	Practice 現場実践												
								体験型 フィードバック ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた 双方向型講義	グループワーク (三人以上一組)	ディスカッション	プレゼンテーション	レポート	反転授業	実践型フィードバック ロールプレイ
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式											
P. 259	SK200U	プロゼミA	2	2	必修	演習											
P. 260	SK205U	プロゼミB	2	2	必修	演習											
P. 261	SK210U	質的研究法	2	2	選択	講義	○	○									
P. 262	SO200U	心理学統計法	2	2	選択	講義	○	○									
P. 263	SO205U	社会学理論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 264	SO210U	家族社会学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 265	SO215U	都市社会学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 266	SO220U	環境社会学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 267	SC200U	宗教と社会	2	2	選択	講義	○	○									
P. 268	SO215U	多文化共生論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 269	SC310U	犯罪社会学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 270	SC315U	社会病理学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 271	SL315U	政治学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 272	SL320U	地域社会政策論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 273	SL200U	社会貢献論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 274	SL235U	環境と開発	2	2	選択	講義	○	○									
P. 275	SL110U	地域福祉論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 276	SL205U	高齢者福祉論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 277	SL240U	社会保障論	2	2	選択	講義	○	○									
P. 278	SL215U	障害者スポーツ	2	2	選択	講義	○	○									
P. 279	SL100U	図書館概論	2	2	選択	講義											
P. 280	SL220U	情報技術論	2	2	選択	講義											
P. 281	SP201U	心理学実験 I	2	2	選択	実習											
P. 282	SP206U	心理学実験 II	2	2	選択	実習											
P. 283	SP211U	心理学研究法	2	2	選択	講義	○	○									
P. 284	SP216U	心理的アセスメント	2	2	選択	講義											
P. 285	SP225U	発達心理学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 286	SP230U	教育心理学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 287	SP236U	人格心理学(感情・人格心理学A)	2	2	選択	講義	○	○									
P. 288	SW200U	相談援助の基盤と専門職	2	2	選択	講義	○	○									
P. 289	SW205U	相談援助の理論と方法 I	2	2	選択	講義	○	○									
P. 290	SW210U	相談援助の理論と方法 II	2	2	選択	講義	○	○									
P. 291	SW220U	相談援助演習 I	2	2	選択	演習	○	○									
P. 292	SW225U	相談援助演習 II	2	2	選択	演習	○	○									
P. 293	SW350U	相談援助実習指導 I	3	2	選択	演習	○	○									
P. 294	SW365U	相談援助実習 I	3	2	選択	実習	○	○									
P. 295	SB200U	図書館サービス概論	2	2	選択	講義											
P. 296	SB205U	情報サービス論	2	2	選択	講義											
P. 297	SB210U	情報資源組織論	2	2	選択	講義											
P. 298	ST200U	学習・言語心理学	2	2	選択	講義	○	○									
P. 299	ST205U	神経・生理心理学	2	2	選択	講義											
P. 300	ST210U	人体の構造と機能及び疾病	2	2	選択	講義	○	○									



## 2021年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

## 【社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	掲載ページ
井上 克洋	・公益社団法人 日本監査役協会に8年勤務	経済学Ⅲ	2	P. 316
		経済学Ⅳ	2	P. 317
楠本 史郎	・日本基督教団牧師経験41年勤務(教会担任教師として28年勤務・教務教師として13年勤務) ・幼稚園園長として30年勤務 ・金沢刑務所宗教教諭として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	P. 5
		キリスト教概論Ⅱ	1	P. 6
		宗教と社会	2	P. 267
		社会学リレー講義	2	P. 239
真砂 良則	福祉施設において16年間勤務	社会学リレー講義	2	P. 239
		高齢者福祉論	2	P. 276
		現代社会と福祉Ⅰ	2	P. 247
		現代社会と福祉Ⅱ	2	P. 248
		相談援助演習Ⅰ	2	P. 291
		相談援助演習Ⅱ	2	P. 292
		相談援助の理論と方法Ⅲ	2	P. 330
		相談援助の理論と方法Ⅳ	2	P. 331
		相談援助実習指導Ⅰ	2	P. 340
		相談援助実習指導Ⅱ	2	P. 341
		相談援助実習指導Ⅲ	2	P. 342
松下 健	臨床心理士、スクールカウンセラーとして4年間勤務	心理的アセスメント	2	P. 284
		心理演習	2	P. 329
		心理実習	2	P. 364
上農 肇	公立学校教員として31年勤務(特別支援教育教員として26年勤務) 教育委員会指導主事として7年勤務 スクールカウンセラーとして3年勤務	学校心理学(教育・学校心理学)	2	P. 328
齊藤 英俊	臨床心理士、非常勤のカウンセラー(主にスクールカウンセラー)として11年間勤務	発達心理学	2	P. 285
		教育心理学	2	P. 286
		心理演習	2	P. 329
野林 晴彦	企業に勤務し、営業、人材開発、マーケティング、事業スタッフなどの部署での業務を経験した(26年間勤務)。	経営学入門	2	P. 251
		マーケティング論	2	P. 321
大矢 正則	小学校・中学校・高等学校の校長として勤務、児童相談所や、市区の子ども家庭支援センターの職員等と連携・協同して、困難な状況下におかれた子どもたちの安全・安心の確保に努めている。 その間、病院倫理委員として終末期医療を受ける高齢者および家族に対する職員の倫理に関して、心理学の観点から意見を発信している。 特定非営利法人ストレス対処法研究所にて、監事を務めている。監事となる前はカウンセラーとして若者の就労支援にあたっていた。また路上生活者支援を教育活動にも携わっている。	福祉心理学	2	P. 359
小笠原 知子	大学学生相談室のカウンセラーとして勤務(6年)メンタルヘルスカウンセラー及び夫婦家族療法士として米國で病院・学校臨床に従事(実習を含め約10年)	関係行政論	2	P. 363
辰巳 平一	放送局において40年間勤務	メディア文化論	2	P. 314

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	掲載ページ
高橋 律子	学芸員として19年間勤務	生涯学習概論	2	P. 255
前川 直樹	社会福祉法人職員として15年間勤務	相談援助演習V	2	P. 339
松多 岳史	医療機関において18年勤務	保健医療サービス	2	P. 335
三田村 悦子	公立図書館に正規職員(司書)として勤務(23年半) 公立図書館長として勤務(10年)	児童サービス論	2	P. 350
		図書館制度・経営論	2	P. 351
大和 太郎	医師として26年以上勤務 (現在、クリニック院長)	人体の構造と機能及び疾病	2	P. 300
柚木 颯偲	臨床心理士／公認心理師として勤務(12年)	健康・医療心理学	2	P. 362
吉井 光信	精神医学研究員、精神科医として勤務(50年)	精神疾患とその治療	2	P. 361

全学共通科目	
1～4年次	1～62
子ども教育学科	
1～3年次	63～212
4年次	213～233
社会学科	
1年次	235～256
2年次	257～300
3～4年次	301～364
教職員録	365～366
案内図	367～370

# カリキュラム 目次

※頁番号が一の科目は、2021年度開講せず

## 全学共通科目 (1～4年次)

### 〔北陸学院科目〕

HG100U	北陸学院セミナーⅠ	3
HG200U	北陸学院セミナーⅡ	4
HG110U	キリスト教概論Ⅰ	5
HG120U	キリスト教概論Ⅱ	6
HG130U	キリスト教人間論Ⅰ	7
HG140U	キリスト教人間論Ⅱ	8

### 〔総合教養科目〕

GE100U	総合教養AⅠ	9
GE110U	総合教養AⅡ	10
GE120U	総合教養BⅠ	11
GE130U	総合教養BⅡ	12
GE140U	総合教養CⅠ	13
GE150U	総合教養CⅡ	14
GE160U	総合教養DⅠ	15
GE170U	総合教養DⅡ	16

### 〔言語教育科目〕

LJ090U	日本語基礎	17
LJ110U	日本語表現法Ⅰ	18
LJ120U	日本語表現法Ⅱ	19
LE090U	英語基礎	20
LE155U	英語AⅠ	21
LE160U	英語AⅡ	22
LE145U	英語BⅠ	23
LE150U	英語BⅡ	24
LE135U	英語CⅠ	25
LE140U	英語CⅡ	26
LE125U	英語DⅠ	27
LE130U	英語DⅡ	28
LE115U	英語EⅠ	29
LE120U	英語EⅡ	30
LE105U	英語FⅠ	31
LE110U	英語FⅡ	32
LE165U	アクティブ・イングリッシュA	33
LE170U	アクティブ・イングリッシュB	34
LE175U	アクティブ・イングリッシュC	35
LC100U	中国語Ⅰ	36
LC110U	中国語Ⅱ	37
LF100U	フランス語Ⅰ	38
LF110U	フランス語Ⅱ	39

### 〔スポーツ・健康科目〕

PE100U	生涯スポーツA	40～42
PE110U	生涯スポーツB	43～45
PE120U	健康科学	46

### 〔キャリア教育科目〕

HC100U	キャリアデザインⅠ	47～48
HC110U	キャリアデザインⅡ	49～50
HC200U	キャリアデザインⅢ	51～52
HC210U	キャリアデザインⅣ	53～54
HC300U	キャリアデザインⅤ	55～56
HC310U	キャリアデザインⅥ	57～58
HC160U	情報機器演習A	59～60
HC170U	情報機器演習B	61～62

## 子ども教育学科 (1～3年次)

### 〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	65
EK110U	基礎ゼミⅡ	66
EK200U	プロゼミA	67
EK210U	プロゼミB	68
EK300U	専門ゼミⅠ	69～70
EK120U	地域社会と子ども	71
EK130U	教育学概論	72
EK140U	教職論	73
EK142U	保育者論	74
EK151U	特別支援教育論	75
EK220U	発達心理学	76
EK230U	教育心理学	77
EK240U	初歩文献講読	78
EK160U	日本国憲法	79
EK270U	異文化間コミュニケーション論	80
EK280U	児童文学	81
EK290U	郷土の文学を楽しむ	82

### 〔学科専門科目〕

ES201U	英語学概論	83
ES301U	英語学	84
ES210U	英語音声学Ⅰ	85
ES310U	英語音声学Ⅱ	86
ES220U	言語教育のための英文法Ⅰ	87
ES320U	言語教育のための英文法Ⅱ	88
ES231U	英語文学Ⅰ	89
ES331U	英語文学Ⅱ	90
ES241U	英語圏の児童文学	91



ES250U	コミュニケーション・イングリッシュ A	92	EC238U	教育の方法・技術（総合的な学習の時間の対応を含む）（幼小中高）	140
ES340U	コミュニケーション・イングリッシュ B	93	EC090U	器楽入門	141
ES260U	英語科教育法 I	94	EC110U	器楽 I	142
ES265U	英語科教育法 II	95	EC245U	器楽 II	143
ES350U	英語科教育法 III	96	EC251U	教育課程論	144
ES355U	英語科教育法 IV	97	EC256U	保育内容総論	145
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	98	EC261U	保育内容・環境指導法	146
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	99	EC321U	環境	147
EL120U	キッズ・イングリッシュ A	100	EC266U	保育内容・健康指導法	148
EL125U	キッズ・イングリッシュ B	101	EC326U	健康活動	149
EL130U	シンプル・イングリッシュ A	102	EC271U	保育内容・言葉指導法	150
EL135U	シンプル・イングリッシュ B	103	EC331U	言葉	151
EL200U	スピーチ&ドラマ	104	EC276U	保育内容・人間関係指導法	152
EL205U	エクステンシブ・リーディング	105	EC336U	人間関係	153
EL210U	トラベル・イングリッシュ A	106	EC281U	保育内容・表現指導法	154
EL220U	トラベル・イングリッシュ B	107	EC341U	表現	155
EL225U	プレゼンテーション	108	EC350U	子どもの理解と援助	156
EL310U	ムービー・イングリッシュ A	109	EN150U	保育原理	157
EL320U	ムービー・イングリッシュ B	110	EN251U	子ども家庭福祉論 I	158
EL230U	ビジネス・イングリッシュ A	111	EN301U	子ども家庭福祉論 II	159
EL240U	ビジネス・イングリッシュ B	112	EN155U	社会福祉	160
EL350U	インテンシブ・リーディング	113	EN306U	家庭支援の心理学	161
EL360U	エッセイ・ライティング	114	EN255U	社会的養護	162
EL370U	バイブル・イングリッシュ	115	EN260U	社会的養護内容	163
EE210U	理科	116	EN266U	子どもの保健	164
EE200U	社会	117	EN311U	子どもの健康	165
EE215U	家庭	118	EN315U	子どもの食と栄養	166
EE306U	国語科指導法（書写を含む）	119	EN320U	家庭支援論	167
EE311U	算数科指導法	120	EN275U	乳児保育 I	168
EE316U	理科指導法	121	EN325U	乳児保育 II	169
EE301U	社会科指導法	122	EN280U	障がい児保育	170
EE321U	生活科指導法	123	EN160U	音楽表現 I	171
EE326U	図画工作指導法	124	EN165U	音楽表現 II	172
EE331U	音楽科指導法	125	EN290U	身体表現	173
EE336U	家庭科指導法	126	EN285U	児童文化	174
EE341U	体育科指導法	127	EN295U	絵本論	175
EE346U	英語科指導法	128	ED100U	心理学概論 A	176
EE228U	道徳教育指導論（小中）	129	ED105U	心理学概論 B	177
EE238U	教育課程編成論（特別活動を含む）（幼小中高）	130	ED110U	臨床心理学概論	178
EE243U	生徒・進路指導論（幼小中高）	131	ED221U	心理学統計法	179
EC200U	国語	132	ED231U	心理学実験 I	180
EC205U	算数	133	ED251U	心理学実験 II	181
EC210U	生活	134	ED226U	心理学研究法	182
EC215U	図画工作	135	ED246U	心理的アセスメント	183
EC220U	音楽	136	ED256U	人格心理学（感情・人格心理学 A）	184
EC225U	体育	137	ED306U	社会・集団・家族心理学	185
EC228U	英語	138	ED311U	産業・組織心理学	186
EC230U	教育社会学	139	ED316U	知覚・認知心理学	187

ED321U	感情心理学（感情・人格心理学B）	188
ED326U	心理学の支援法	189
ED327U	学校心理学（教育・学校心理学）	190
ED336U	障害者・障害児心理学	191
ED331U	心理演習	192
ED351U	教育史	193
ED371U	教育学文献講読A1	194
ED381U	教育学文献講読B1	195
ED393U	教育実践研究A	196

〔資格科目〕

ET201U	教育実習指導Ⅰ（幼）	197
ET301U	教育実習指導Ⅱ（幼）	198
ET206U	教育実習Ⅰ（幼）	199
ET306U	教育実習Ⅱ（幼）	200
ET211U	教育実習指導（小）	201
ET216U	教育実習Ⅰ（小）	202
ET361U	教育実習指導（中高）	203
ET366U	教育実習Ⅰ（中高）	204
ET220U	保育実習指導Ⅰ（施設）	205
ET225U	保育実習Ⅰ（施設）	206
ET230U	保育実習指導Ⅰ（保育所）	207
ET235U	保育実習Ⅰ（保育所）	208
ET320U	保育実習指導Ⅱ	209
ET325U	保育実習Ⅱ（保育所）	210
ET330U	保育実習指導Ⅲ	211
ET335U	保育実習Ⅲ（施設）	212

〔中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語） 社会学科開講科目〕

SC215U	多文化共生論	268
--------	--------	-----

〔2021年度開講せず科目〕

ED356U	子どもと法	—
ED373U	教育学文献講読A2	—
ED376U	教育学文献講読A3	—
ED383U	教育学文献講読B2	—
ED386U	教育学文献講読B3	—

## 子ども教育学科（4年次）

〔基幹科目〕

EK100U	基礎ゼミⅠ	—
EK110U	基礎ゼミⅡ	—
EK200U	プロゼミA	—
EK210U	プロゼミB	—
EK300U	専門ゼミⅠ	—
EK305U	専門ゼミⅡ	215～216

EK360U	卒業研究	217～218
EK120U	地域社会と子ども	—
EK130U	教育学概論	—
EK140U	教職論	—
EK150U	発達支援論	—
EK220U	発達心理学	—
EK230U	教育心理学	—
EK250U	教育史	—
EK350U	キリスト教と教育	219
EK240U	初歩文献講読	—
EK310U	教育学文献講読A1	—
EK315U	教育学文献講読A2	—
EK320U	教育学文献講読A3	—
EK325U	教育学文献講読B1	—
EK330U	教育学文献講読B2	—
EK335U	教育学文献講読B3	—

〔学科専門科目〕

ES200U	英語学概論Ⅰ	—
ES300U	英語学概論Ⅱ	—
ES210U	英語音声学Ⅰ	—
ES310U	英語音声学Ⅱ	—
ES220U	言語教育のための英文法Ⅰ	—
ES320U	言語教育のための英文法Ⅱ	—
ES230U	英米文学Ⅰ	—
ES330U	英米文学Ⅱ	—
ES240U	欧米の児童文学	220
ES250U	コミュニケーション・イングリッシュA	—
ES340U	コミュニケーション・イングリッシュB	—
ES260U	英語科教育法Ⅰ	—
ES265U	英語科教育法Ⅱ	—
ES350U	英語科教育法Ⅲ	—
ES355U	英語科教育法Ⅳ	—
EL100U	コミュニケーション・イングリッシュ	—
EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	—
EL210U	トラベル・イングリッシュA	—
EL220U	トラベル・イングリッシュB	—
EL230U	ビジネス・イングリッシュA	—
EL240U	ビジネス・イングリッシュB	—
EL310U	ムービー・イングリッシュA	—
EL320U	ムービー・イングリッシュB	—
EE210U	理科	—
EE200U	社会	—
EE215U	家庭	—
EE305U	国語科教育法（書写を含む）	—
EE310U	算数科教育法	—
EE315U	理科教育法	—
EE300U	社会科教育法	—

EE320U	生活科教育法	—
EE325U	図画工作教育法	—
EE330U	音楽科教育法	—
EE335U	家庭科教育法	—
EE340U	体育科教育法	—
EE237U	教育課程編成論 (小・中)	—
EE227U	道徳教育指導論 (小・中)	—
EE232U	特別活動指導論 (小・中)	—
EE242U	生徒・進路指導論 (小・中)	—
EE220U	小学校英語科教育法Ⅰ	—
EE345U	小学校英語科教育法Ⅱ	—
EE350U	小学校英語科教育法Ⅲ	221
EE362U	教育相談 (小・中)	222
EC100U	日本国憲法	—
EC200U	国語	—
EC205U	算数	—
EC210U	生活	—
EC215U	図画工作	—
EC220U	音楽	—
EC225U	体育	—
EC230U	教育社会学	—
EC237U	教育方法論 (幼・小・中)	—
EC240U	子どもと法	—
EC090U	器楽入門	—
EC110U	器楽Ⅰ	—
EC245U	器楽Ⅱ	—
EC300U	選択音楽	223
EC305U	教育実践研究A	—
EC310U	教育実践研究B	224
ET380U	教職実践演習 (幼・保)	225
ET385U	教職実践演習 (幼・小・中)	226
EC250U	保育課程論	—
EC255U	保育内容総論	—
EC260U	保育内容・環境Ⅰ	—
EC320U	保育内容・環境Ⅱ	—
EC265U	保育内容・健康Ⅰ	—
EC325U	保育内容・健康Ⅱ	—
EC270U	保育内容・言葉Ⅰ	—
EC330U	保育内容・言葉Ⅱ	—
EC275U	保育内容・人間関係Ⅰ	—
EC335U	保育内容・人間関係Ⅱ	—
EC280U	保育内容・表現Ⅰ	—
EC340U	保育内容・表現Ⅱ	—
EC345U	幼児理解	227
EN150U	保育原理	—
EN250U	児童家庭福祉論Ⅰ	—
EN300U	児童家庭福祉論Ⅱ	—
EN155U	社会福祉	—

EN305U	相談援助技術	—
EN255U	社会的養護	—
EN260U	社会的養護内容	—
EN265U	子どもの保健ⅠA	—
EN270U	子どもの保健ⅠB	—
EN310U	子どもの保健Ⅱ	—
EN315U	子どもの食と栄養	—
EN320U	家庭支援論	—
EN275U	乳児保育Ⅰ	—
EN325U	乳児保育Ⅱ	—
EN280U	障がい児保育	—
EN330U	保育カウンセリング	228
EN160U	音楽表現Ⅰ	—
EN165U	音楽表現Ⅱ	—
EN290U	身体表現	—
EN285U	児童文化	—
ED200U	異文化間コミュニケーション論	—
ED205U	児童文学	—
ED210U	絵本論	—
ED215U	郷土の文学を楽しむ	—
ED100U	心理学概論A	—
ED105U	心理学概論B	—
ED110U	臨床心理学概論	—
ED221U	心理学統計法	—
ED231U	心理学実験Ⅰ	—
ED251U	心理学実験Ⅱ	—
ED226U	心理学研究法	—
ED246U	心理的アセスメント	—
ED256U	人格心理学 (感情・人格心理学A)	—
ED306U	社会・集団・家族心理学	—
ED311U	産業・組織心理学	—
ED316U	知覚・認知心理学	—
ED321U	感情心理学 (感情・人格心理学B)	—
ED336U	障害者・障害児心理学	—
ED326U	心理学的支援法	—
ED327U	学校心理学 (教育・学校心理学)	—
ED331U	心理演習	—

## 〔資格科目〕

ET200U	幼稚園教育実習指導Ⅰ	—
ET205U	幼稚園教育実習Ⅰ	—
ET300U	幼稚園教育実習指導Ⅱ	—
ET305U	幼稚園教育実習Ⅱ	—
ET210U	小学校教育実習指導Ⅰ	—
ET215U	小学校教育実習Ⅰ	—
ET310U	小学校教育実習指導Ⅱ	—
ET315U	小学校教育実習Ⅱ	—
ET360U	中学校教育実習指導	—

ET365U	中学校教育実習Ⅰ	229
ET370U	中学校教育実習Ⅱ	230
ET220U	保育実習指導Ⅰ（施設）	—
ET225U	保育実習Ⅰ（施設）	—
ET230U	保育実習指導Ⅰ（保育所）	—
ET235U	保育実習Ⅰ（保育所）	—
ET320U	保育実習指導Ⅱ	231
ET325U	保育実習Ⅱ（保育所）	232
ET330U	保育実習指導Ⅲ	—
ET335U	保育実習Ⅲ（施設）	—
ET340U	介護等体験	233

〔2021年度開講せず〕

EK260U	比較教育学	—
EK340U	教育学理論研究	—

## 社会学科（1年次）

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミⅠ	237
SK105U	基礎ゼミⅡ	238
SK110U	社会学リレー講義	239
SK115U	社会学概論A	240
SK120U	社会学概論B	241
SK125U	社会調査論	242
SK130U	社会調査法	243
SK135U	統計データの読み方	244

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	245
SO105U	文化人類学	246
SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	247
SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	248
SO120U	心理学概論A	249
SO125U	心理学概論B	250
SL105U	経営学入門	251
SL115U	児童福祉論	252
SL120U	障害者福祉論	253
SP100U	臨床心理学概論	254

〔資格科目〕

SB100U	生涯学習概論	255
ST100U	公認心理師の職責	256

## 社会学科（2年次）

〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミⅠ	—
--------	-------	---

SK105U	基礎ゼミⅡ	—
SK200U	プロゼミA	259
SK205U	プロゼミB	260
SK110U	社会学リレー講義	—
SK115U	社会学概論A	—
SK120U	社会学概論B	—
SK125U	社会調査論	—
SK130U	社会調査法	—
SK135U	統計データの読み方	—
SK210U	質的研究法	261

〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	—
SO201U	心理学統計法	262
SO205U	社会学理論	263
SO210U	家族社会学	264
SO215U	都市社会学	265
SO220U	環境社会学	266
SO105U	文化人類学	—
SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	—
SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	—
SO120U	心理学概論A	—
SO125U	心理学概論B	—
SC200U	宗教と社会	267
SC215U	多文化共生論	268
SC310U	犯罪社会学	269
SC315U	社会病理学	270
SL315U	政治学	271
SL320U	地域社会政策論	272
SL105U	経営学入門	—
SL200U	社会貢献論	273
SL235U	環境と開発	274
SL110U	地域福祉論	275
SL115U	児童福祉論	—
SL205U	高齢者福祉論	276
SL210U	障害者福祉論	—
SL240U	社会保障論	277
SL215U	障害者スポーツ	278
SL100U	図書館概論	279
SL220U	情報技術論	280
SP100U	臨床心理学概論	—
SP201U	心理学実験Ⅰ	281
SP206U	心理学実験Ⅱ	282
SP211U	心理学研究法	283
SP216U	心理的アセスメント	284
SP225U	発達心理学	285
SP230U	教育心理学	286
SP236U	人格心理学（感情・人格心理学A）	287

## 〔資格科目〕

SW200U	相談援助の基盤と専門職	288
SW205U	相談援助の理論と方法Ⅰ	289
SW210U	相談援助の理論と方法Ⅱ	290
SW220U	相談援助演習Ⅰ	291
SW225U	相談援助演習Ⅱ	292
SW350U	相談援助実習指導Ⅰ	293
SW365U	相談援助実習Ⅰ	294
SB100U	生涯学習概論	—
SB200U	図書館サービス概論	295
SB205U	情報サービス論	296
SB210U	情報資源組織論	297
ST100U	公認心理師の職責	—
ST200U	学習・言語心理学	298
ST205U	神経・生理心理学	299
ST210U	人体の構造と機能及び疾病	300

## 〔2021年度開講せず科目〕

SC205U	若者文化論	—
SC210U	社会と言語	—
SC220U	グローバル社会論	—
SL225U	経済学Ⅰ	—
SL230U	経済学Ⅱ	—

**社会学科 (3～4年次)**

## 〔基幹科目〕

SK100U	基礎ゼミⅠ	—
SK105U	基礎ゼミⅡ	—
SK200U	プロゼミA	—
SK205U	プロゼミB	—
SK300U	専門ゼミⅠ	303～304
SK305U	専門ゼミⅡ	305～306
SK310U	卒業研究	307～308
SK110U	社会学リレー講義	—
SK115U	社会学概論A	—
SK120U	社会学概論B	—
SK125U	社会調査論	—
SK130U	社会調査法	—
SK135U	統計データの読み方	—
SK210U	質的研究法	—

## 〔学科専門科目〕

SO100U	データ処理基礎	—
SO201U	心理学統計法	—
SO205U	社会学理論	—
SO210U	家族社会学	—
SO215U	都市社会学	—

SO220U	環境社会学	—
SO105U	文化人類学	—
SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	—
SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	—
SO120U	心理学概論A	—
SO125U	心理学概論B	—
SO300U	応用心理社会統計法	309
SO305U	社会調査実習	310～311
SC200U	宗教と社会	—
SC300U	石川の伝統文化と産業	312
SC305U	教育社会学	313
SC205U	若者文化論	—
SC210U	社会と言語	—
SC215U	多文化共生論	—
SC220U	グローバル社会論	—
SC310U	犯罪社会学	—
SC315U	社会病理学	—
SC320U	メディア文化論	314
SL300U	地域行政入門	315
SL225U	経済学Ⅰ	—
SL230U	経済学Ⅱ	—
SL340U	経済学Ⅲ	316
SL345U	経済学Ⅳ	317
SL310U	法律学	318
SL315U	政治学	—
SL320U	地域社会政策論	—
SL105U	経営学入門	—
SL200U	社会貢献論	—
SL325U	社会貢献実習	319
SL235U	環境と開発	—
SL330U	地域環境マネジメント論	320
SL205U	高齢者福祉論	—
SL210U	障害者福祉論	—
SL215U	障害者スポーツ	—
SL100U	図書館概論	—
SL220U	情報技術論	—
SL335U	マーケティング論	321
SP100U	臨床心理学概論	—
SP201U	心理学実験Ⅰ	—
SP206U	心理学実験Ⅱ	—
SP211U	心理学研究法	—
SP216U	心理的アセスメント	—
SP225U	発達心理学	—
SP230U	教育心理学	—
SP236U	人格心理学 (感情・人格心理学A)	—
SP306U	社会・集団・家族心理学	322
SP311U	産業・組織心理学	323
SP316U	知覚・認知心理学	324

SP321U	感情心理学（感情・人格心理学B）	325	ST100U	公認心理師の職責	—
SP326U	障害者・障害児心理学	326	ST200U	学習・言語心理学	—
SP331U	心理学的支援法	327	ST205U	神経・生理心理学	—
SP332U	学校心理学（教育・学校心理学）	328	ST210U	人体の構造と機能及び疾病	—
SP336U	心理演習	329	ST300U	福祉心理学	359
〔資格科目〕					
SW200U	相談援助の基盤と専門職	—	ST305U	司法・犯罪心理学	360
SW205U	相談援助の理論と方法Ⅰ	—	ST310U	精神疾患とその治療	361
SW210U	相談援助の理論と方法Ⅱ	—	ST315U	健康・医療心理学	362
SW300U	相談援助の理論と方法Ⅲ	330	ST320U	関係行政論	363
SW305U	相談援助の理論と方法Ⅳ	331	ST400U	心理実習	364
SW310U	福祉行財政と福祉計画	332			
SW315U	福祉サービスの組織と経営	333			
SW100U	地域福祉論	—			
SW215U	社会保障論	—			
SW320U	公的扶助論	334			
SW105U	児童福祉論	—			
SW325U	保健医療サービス	335			
SW330U	就労支援サービス	336			
SW220U	相談援助演習Ⅰ	—			
SW225U	相談援助演習Ⅱ	—			
SW335U	相談援助演習Ⅲ	337			
SW340U	相談援助演習Ⅳ	338			
SW345U	相談援助演習Ⅴ	339			
SW350U	相談援助実習指導Ⅰ	340			
SW355U	相談援助実習指導Ⅱ	341			
SW360U	相談援助実習指導Ⅲ	342			
SW365U	相談援助実習Ⅰ	343			
SW370U	相談援助実習Ⅱ	344			
SS300U	精神保健学	345			
SS305U	スクールソーシャルワーク論	346			
SS310U	スクールソーシャルワーク演習	347			
SS315U	スクールソーシャルワーク実習指導	348			
SS320U	スクールソーシャルワーク実習	349			
SB100U	生涯学習概論	—			
SB200U	図書館サービス概論	—			
SB205U	情報サービス論	—			
SB300U	児童サービス論	350			
SB210U	情報資源組織論	—			
SB305U	図書館制度・経営論	351			
SB310U	情報サービス演習Ⅰ	352			
SB315U	情報サービス演習Ⅱ	353			
SB320U	情報資源組織演習Ⅰ	354			
SB325U	情報資源組織演習Ⅱ	355			
SB330U	図書館情報資源概論	356			
SB335U	図書・図書館史	357			
SB340U	図書館実習	358			

**全学共通科目  
(1～4年次)**

















授業科目名	GE100U 総合教養A I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江 厚啓・田邊 圭子・中島 賢介・中野 聡・虫明 淑子 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1~3回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものか考えることができる。(福江)</p> <p>4~6回：令和2年度から本格実施される小学校外国語活動(3,4年生)、英語科(5,6年生)の現状を通時的、共時的に理解するとともに、「意味あるやり取り」とはどのようなものか体験も通じて考えることができる。(中野)</p> <p>7~9回：これまで自ら経験してきた、体育授業や部活動、スポーツ観戦等その他スポーツ活動について振り返り、「スポーツとは何か」について「これからのスポーツの在り方」と共に考えることができる。(田邊)</p> <p>10~12回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつことと、幼児期の教育を充実することが重要であることを理解する。(虫明)</p> <p>13~15回：児童文学作品を通して、子どもとともにさまざまな問題について考えることができる。(中島)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。					福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。					福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。					福江
4	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、取り組もうとしていること					中野
5	言語活動を通して学ぶ：小学校外国語活動の歴史、諸外国の現状、「意味あるやり取り」					中野
6	意味あるやり取り：Small Talkについて					中野
7	子どもとスポーツ：子どものためのスポーツについて考える。					田邊
8	学校とスポーツ：「体育」や「部活動」など、学校教育の中で行われているスポーツ活動全般の現状と課題について考える。					田邊
9	これからのスポーツ：これからのスポーツのあり方について、様々な角度から考える					田邊
10	子どもを取り巻く環境の変化に伴う教育上の課題を考える。					虫明
11	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。					虫明
12	「遊び」がなぜ「学び」につながるのかについて考える。					虫明
13	子どもと哲学に向き合う 児童文学の中で哲学的話題に関する作品を紹介・解説し、哲学的話題とどのように向き合うかを考える。					中島
14	子どもと平和に向き合う 児童文学の中で戦争などに関する作品を紹介・解説し、平和とどのように向き合うかを考える。					中島
15	子どもと災害に向き合う 児童文学の中で災害などに関する作品を紹介・解説し、災害とどのように向き合うかを考える。					中島
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。		
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	・代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>中野：小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。</p> <p>福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもたちの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。</p> <p>虫明：幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。</p>						

授業科目名	GE110U 総合教養A II		開講学科	人間総合	必修・選択	必修	選択必修	
担当教員名	福江 厚啓・田邊 圭子・中野 聡・虫明 淑子・向出 吾吾 (代表教員 福江 厚啓)							
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義	
他学科の履修	不可	関連資格	なし					
授業の概要				授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>				<p>1~3回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもの特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものなのか考えることができる。(福江)</p> <p>4~6回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にある「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心をもてるようになる。(向出)</p> <p>7~9回：これまで自ら経験してきた、体育授業や部活動、スポーツ観戦等その他スポーツ活動について振り返り、「スポーツとは何か」について「これからのスポーツの在り方」と共に考えることができる。(田邊)</p> <p>10~12回：子どもが生きていく未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつことと、幼児期の教育を充実することが重要であることを理解する。(虫明)</p> <p>13~15回：令和2年度から本格実施される小学校外国語活動(3,4年生)、英語科(5,6年生)の現状を、通時的・共時的に理解するとともに、「意味あるやり取り」とはどのようなものかを体験を通して考えることができる。(中野)</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義							
履修条件	なし							
授 業 計 画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。							福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。							福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。							福江
4	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(1) 実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。							向出
5	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(2) 遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。							向出
6	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。							向出
7	子どもとスポーツ：子どものためのスポーツについて考える。							田邊
8	学校とスポーツ：「体育」や「部活動」など、学校教育の中で行われているスポーツ活動全般の現状と課題について考える。							田邊
9	これからのスポーツ：これからのスポーツのあり方について、様々な角度から考える							田邊
10	子どもを取り巻く環境の変化に伴う教育上の課題を考える。							虫明
11	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。							虫明
12	「遊び」がなぜ「学び」につながるのかについて考える。							虫明
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、取り組もうとしていること							中野
14	言語活動を通して学ぶ：小学校外国語活動の歴史、諸外国の現状、「意味あるやり取り」							中野
15	意味あるやり取り：Small Talkについて							中野
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100 (20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している						
授業外における学習(事前・事後学習等)					課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]					各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。				教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし				その他・特記事項	・代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。		
実務経験を活かした授業の概要								
<p>中野：小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切さを指導している。</p> <p>福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもたちの姿を紹介し、「物語論的に」子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。</p> <p>向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては単なる遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。</p> <p>虫明：幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。</p>								



授業科目名	GE120U 総合教養B I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	加藤 仁・小林 正史・田中 純一 (代表教員 加藤 仁)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の研究知見に基づくこころの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。(加藤)</li> <li>・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林)</li> <li>・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中)</li> <li>・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中)</li> </ul>				
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。					加藤	
2	パーソナリティの心理学：ダークトライアド概念について理解する。					加藤	
3	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。					加藤	
4	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。					加藤	
5	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。					加藤	
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林	
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林	
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林	
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林	
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林	
11	復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中	
12	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中	
13	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中	
14	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中	
15	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのかについて、減災という観点から理解する。					田中	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。		
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]			個々の教員の指導に従うこと。				
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	GE130U 総合教養BII		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	加藤 仁・小林 正史・田中 純一 (代表教員 加藤 仁)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の研究知見に基づくこころの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。(加藤)</li> <li>・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林)</li> <li>・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中)</li> <li>・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中)</li> </ul>				
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。					加藤	
2	パーソナリティの心理学：ダークトライアド概念について理解する。					加藤	
3	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。					加藤	
4	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。					加藤	
5	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。					加藤	
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林	
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林	
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林	
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林	
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林	
11	復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧→復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中	
12	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中	
13	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中	
14	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中	
15	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのかについて、減災という観点から理解する。					田中	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。		
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと [30分] その日のうちに学んだことを復習すること [30分]			個々の教員の指導に従うこと。				
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	GE140U 総合教養C I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・田中 弘美・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。  ②栄養素と健康の関連を理解する。  ③正しい食生活のあり方を理解する。  ④食と心理の関係を理解する。  ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を見つける。					田中	
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井	
4	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井	
5	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井	
6	食品の三次機能について学ぶ -機能成分-					坂井	
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田	
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田	
9	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）					田中	
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。					田中	
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田	
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田	
13	食と心理①：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について、特に発達観の観点から考える。					上農	
14	食と心理②：食行動の健康と病理について、特に家族関係の観点から考える。					上農	
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。					田中	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	代替授業はミーティングによるオンライン授業またはClassroomにより課題提示		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	GE150U 総合教養CII		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・俵 万里子・西 正人 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>				
教授方法	4名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤	
2	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤	
3	ライフステージに応じた食育(胎児期・乳児期)：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					俵	
4	ライフステージに応じた食育(成長期)：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					俵	
5	ライフステージに応じた食育(成人期)：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					俵	
6	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					俵	
7	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西	
8	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西	
9	食品と薬剤3：食品中の特定成分(カフェイン、色素、食品群別)が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西	
10	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。					西	
11	食と心理①：食を食べることや食べるものによる私たちの心理面や行動面に与える影響について、特に発達の観点から考える。					上農	
12	食と心理②：食行動の健康と病理について、特に家族関係の観点から考える。					上農	
13	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。					新澤	
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える。					新澤	
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する。					新澤	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲	
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>							
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	代替授業はミーティングによるオンライン授業またはClassroomにより課題提示		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	GE160U 総合教養D I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義でははじめにホスピタリティ産業から、サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足について理解を深めるとともに、コロナ禍における人と人とのつながり、社会で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。次にキリスト教的視点に立ち、他者支援・援助のあり方を通してホスピタリティについて学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いを説明できる。</li> <li>・ホスピタリティマインドを理解する。</li> <li>・基本的なコミュニケーションスキルを身につける。</li> <li>・ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。</li> <li>・社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。</li> </ul>				
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション					葦名・富岡	
2	ホスピタリティについての基礎知識を確認、サービス・おもてなしとの違いを理解する。					葦名	
3	ホスピタリティ産業とは？① プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名	
4	コミュニケーションスキル① 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名	
5	コミュニケーションスキル② 外見からの第一印象を通し、身だしなみを整える必要性を理解する。					葦名	
6	コミュニケーションスキル③ 聞く力 スピーキングテクニックとアクティブ・リスニングを理解し、活用例を学ぶ。					葦名	
7	コミュニケーションスキル④ 話す力 スピーキングテクニックを理解し、活用例を学ぶ 最終課題について。					葦名	
8	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名	
9	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。					富岡	
10	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。					富岡	
11	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。					富岡	
12	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。					富岡	
13	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。					富岡	
14	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。					富岡	
15	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。					富岡	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
振り返りシート・レポート	30	・振り返りシート、など提出物にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔葦名 15%〕 ・授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡 15%〕	授業参加態度	20	授業への積極的参加や取り組み態度を評価する。〔葦名 10%〕〔富岡 10%〕		
最終課題	25	学んだ内容(コミュニケーションスキル)を活用した内容を評価する。〔葦名〕	ワークシート	25	授業ごとのまとめシート(ワークシート)にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔富岡〕		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
【葦名】 ・日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること〔60分〕 【富岡】 ・シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔30分〕 ・授業で取り上げられた人物について調べる。〔15分〕 ・指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔約70分〕			課題提出物などについては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。				
受講生に望むこと	・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む。 ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。		教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。			
指定図書/参考書等	なし/なし 適時講義の中で紹介する。		その他・特記事項	代替授業はオンデマンド配信 (Google Classroom)			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	GE170U 総合教養DII		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義でははじめにホスピタリティ産業から、サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足について理解を深めるとともに、コロナ禍における人と人とのつながり、社会で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。次にキリスト教的視点に立ち、他者支援・援助のあり方を通してホスピタリティについて学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いを説明できる。</li> <li>ホスピタリティマインドを理解する。</li> <li>基本的なコミュニケーションスキルを身につける。</li> <li>ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。</li> <li>社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。</li> </ul>				
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション					葦名・富岡	
2	ホスピタリティについての基礎知識を確認、サービス・おもてなしとの違いを理解する。					葦名	
3	ホスピタリティ産業とは？① プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名	
4	コミュニケーションスキル① 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名	
5	コミュニケーションスキル② 外見からの第一印象を通し、身だしなみを整える必要性を理解する。					葦名	
6	コミュニケーションスキル③ 聞く力 スピーキングテクニックとアクティブ・リスニングを理解し、活用例を学ぶ。					葦名	
7	コミュニケーションスキル④ 話す力 スピーキングテクニックを理解し、活用例を学ぶ 最終課題について。					葦名	
8	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名	
9	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。					富岡	
10	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。					富岡	
11	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。					富岡	
12	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。					富岡	
13	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。					富岡	
14	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。					富岡	
15	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。					富岡	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
振り返りシート・レポート	30	・振り返りシート、など提出物にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔葦名 15%〕 ・授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡 15%〕	授業参加態度	20	授業への積極的参加や取り組み態度を評価する。〔葦名 10%〕〔富岡 10%〕		
最終課題	25	学んだ内容(コミュニケーションスキル)を活用した内容を評価する。〔葦名〕	ワークシート	25	授業ごとのまとめシート(ワークシート)にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔富岡〕		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
【葦名】 ・日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること〔60分〕 【富岡】 ・シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔30分〕 ・授業で取り上げられた人物について調べる。〔15分〕 ・指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔約70分〕			課題提出物などについては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。				
受講生に望むこと	・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。		教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。			
指定図書/参考書等	なし/なし 適時講義の中で紹介する。		その他・特記事項	代替授業はオンデマンド配信 (Google Classroom)			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	LJ090U 日本語基礎		開講学科	人間総合	必修・選択	自由	
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活に必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。			①辞書に親しみ、使いこなすことができる ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ				
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語表現力」とはどういうものかを理解する。 ・「自己紹介文」を書く。						
2	・前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、改善点を考える。 ・辞書を使い慣れる。(漢和辞典の活用)						
3	【課題学習①】表現を豊かにする語彙(対義語) ・演習問題「対義語」に取り組む。(対面授業時に提出)						
4	(課題点検と解説)「対義語」 ・表現力を豊かにする語彙「同義語」 ・文章表現の基礎(「構成」を考える)						
5	【課題学習②】表現力を豊かにする語彙「四字熟語」 ・演習問題「四字熟語」に取り組む。(対面授業時に提出)						
6	(課題点検と解説)「四字熟語」 ・文章表現の基礎(「起承転結」を考える) ・表現力を豊かにする語彙(三字熟語)						
7	【課題学習③】表現力を豊かにする語彙「故事成語」 ・演習問題「故事成語」に取り組む(対面授業時に提出)						
8	(課題点検と解説)「故事成語」 ・口頭表現の実践(「詩」「散文」の朗読)						
9	【課題学習④】表現力を豊かにするために「仮名遣い」 ・演習問題「仮名遣い」に取り組む。(対面授業時に提出)						
10	(課題点検と解説)「仮名遣い」 ・表現力を豊かにするために(言葉の意味) ・到達度確認テスト						
11	【課題学習⑤】表現力を豊かにするために「ことわざ」 ・演習問題「ことわざ」に取り組む。(対面授業時に提出)						
12	(課題点検と解説)「ことわざ」 ・文章表現の実践(「意見文」を書く)						
13	【課題学習⑥】表現力を豊かにするために「慣用句・ことわざ」 ・演習問題「慣用句・ことわざ」に取り組む。(対面授業時に提出)						
14	(課題点検と解説)「慣用句・ことわざ」 ・表現力を確実にするために(日本語の乱れ・文法) ・(教育漢字・常用漢字)						
15	【課題学習⑦】表現力を確実にするために「常用漢字」「表外漢字」 ・演習問題「常用漢字表・付表」に取り組む。 ・文章表現の実践(小論文を書く)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
課題提出状況	30	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」において自分の考え・意見を表現しているか。		到達確認テスト	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか。	
授業参加態度	20	課題に取り組む、弱点を克服しているか。		定期試験	30	各回の講義内容・演習内容を理解しているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと [40分]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。			教科書・テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	代替授業【課題学習】は指定された演習問題に取り組むこととし、対面授業時に確認および解説を行う。 ・辞書(電子辞書が望ましい)を持参すること		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LJ110U 日本語表現法 I		開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置づけられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			①言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) ②敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 ③問題演習などを通して、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 ④基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 ⑤総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。					
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法 I」を履修することができる。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「敬語の種類と使い分け」について理解する。/ 「尊敬語」「謙譲語 I」「謙譲語 II」「丁寧語」「美化語」それぞれを適切な場で、適切に使うことができるようになる。					全員
2	「注意すべき敬語」について理解する。/ 尊敬語・謙譲語の混同をはじめ、二重敬語・マニュアル敬語といった日常よく耳にする間違いやすい敬語について理解することができる。					全員
3	「配慮を示す言葉」について理解する。/ 円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動について理解し、必要などきに、必要な場で、正しい敬語を使うことができるようになる。					全員
4	「品詞・活用の種類」について理解する。/ 文法を学ぶための必要な基本的知識として、品詞の種類や、述語に用いられる動詞や形容詞の活用について理解することができる。					全員
5	「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」について理解する。/ 「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」は、どういう点で問題があるのかについて理解し、このような誤った言葉遣いをしないためには、どうすればいいのかについて、考えることができる。					全員
6	「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」について理解する。/ 長い文、あるいは構造が複雑な文の、主語・述語が対応しているかどうか、文の複数の意味を持つあいまいな文になっていないかどうかなどを判断することができる。					全員
7	「接続語・指示語と文章」について理解する。/ 接続語や指示語が、意見の要点を定めたり、論の展開を考えるのにとっても大切な役割を果たしていることに気付き、それぞれの語を正しく理解し、効果的に使うことができるようになる。					全員
8	「類義語・対義語」について理解する。/ 類義語や同義語の使い分けについて整理することができる。					全員
9	「動詞の自他・視点」について理解する。/ 物事を描写する方法は一つではないこと、どこに視点を置いて述べるかによって、伝えられる内容が変わって見えることについて、理解することができる。					全員
10	「文体、話し言葉・書き言葉」について理解する。/ 言語を表現する際、条件によって整える必要のある「文体」について、その使い分けのポイントを理解することができる。					全員
11	「コロケーション」について理解する。/ 「肩で風を切って歩く」「的を射る」等、慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。					全員
12	「部首・音訓・熟語」について理解する。/ 漢字に関わる事項の中で、部首や読み方(音読み・訓読み)、熟語について、理解することができる。					全員
13	「仮名遣い・送り仮名」について理解する。/ 現代仮名遣いと送り仮名の付け方について理解する。					全員
14	「スキルアップ!日本語力」(東京書籍)に取り組んでの気付き、発見、学びを「A4」1枚にまとめることができる。					全員
15	レポートの書き方について、理解を深めることができる。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	20	①必要な準備をして参加している。 ②毎回の学習事項について予習復習をしている。 ③積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	①授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 ②日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	①授業で取り組んだ各分野の内容を概ね修得している。 ②得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服している。 ③日本語検定3級以上の実力がついている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] ②苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書(欄参照))に取り組む。[40分] ③前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日~14日間程度]				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	①毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) ②主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 ③各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。			教科書・テキスト	『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN: 978-4-487-80364-4	
指定図書/参考書等	日本語検定委員会 (東京書籍 2008) 発行の以下のテキストより 1冊を選んで問題を解く。 ①日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 ②日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 ③日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 ④日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 ⑤日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802971			その他・特記事項	①基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 ②日本語表現法IIにおいてもテキストを継続して使用する。 ③代替授業の課題は、対面授業の折に提示する。	
実務経験を活かした授業の概要						
幸: 小学校教諭としての経験をもとに、スピーチや音読活動等、実際の小学校の国語科の授業で行ったやり方をふまえて、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。						



授業科目名	LJ120U 日本語表現法Ⅱ		開講学科	人間総合	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに高度な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、レポート作成を通して形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			①言葉で伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章表現(主としてレポート作成)に必要な知識やルールを理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。				
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。						
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位を修得済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：日本語表現法Ⅱで学ぶ口頭表現(スピーチ・研究レポート発表)について					全員	
2	テキスト①「発表を準備する」 テキスト②「重要語句の確認」					全員	
3	スピーチについて					全員	
4	テキスト①「発表を準備する」 テキスト②「重要語句の確認」 スピーチ原稿作成・スピーチ練習					全員	
5	スピーチの実践					全員	
6	テキスト①「発表を準備する」 テキスト②「重要語句の確認」 スピーチの実践のふりかえり					全員	
7	研究レポート発表(プレゼン)の仕方					全員	
8	テキスト①「口頭発表をする」 テキスト②「重要語句の確認」 研究レポート発表の練習					全員	
9	研究レポート発表会①					全員	
10	テキスト①「口頭発表をする」 テキスト②「重要語句の確認」 研究レポート発表のふりかえり					全員	
11	研究レポート発表会②					全員	
12	テキスト①「口頭発表をする」 テキスト②「重要語句の確認」 研究レポート発表のふりかえり					全員	
13	研究レポート発表会③					全員	
14	テキスト①「学んだことをふりかえる」 テキスト②「重要語句の確認」 研究レポート発表のふりかえり					全員	
15	授業全体のまとめ					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
スピーチ	25	①十分な準備をし、自信をもって、堂々と発表している。 ②聞き手の目を見ながら生き生きと発表している。③目を見る、微笑む、頷く、相槌を打つことを意識して、スピーチを聞いている。		研究レポートの内容	25	形式・内容の両面において学習内容がレポートに反映されている。	
代替授業におけるミニレポート	25	教科書に書かれている内容をよく理解した上で、自分の気持ち、発見、学びをきちんと述べている。 スピーチの実践や研究レポート発表会での気持ち・発見・学びを自分の言葉できちんと述べている。		研究レポートの発表(プレゼン)	25	①周到な準備ができています。 ②定められた時間内に、主張のあるまとまった内容を発表している。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日～14日間] ②レポート発表は、各自が自分に最適だと思われる方法を考え準備する。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	①「日本語表現法Ⅰ」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習をしておくこと。 ②授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。			教科書・テキスト	①『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 ②『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN: 978-4-487-80364-4		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	日本語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
幸：小学校教諭としての経験をもとに、レポート発表会の際に、小学校の国語科の授業で行ったやり方を参考に、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。							

授業科目名	LE090U 英語基礎		開講学科	人間総合	必修・選択	自由	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。</li> <li>・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。</li> <li>・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。</li> </ul>				
教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。						
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1) 現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ						
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。						
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。						
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。						
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習						
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。						
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。						
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。						
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。						
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。						
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う。						
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。						
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。						
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題(ノートづくり)ができています。 ②質問して分かったことがノートにメモされている。 ③復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。		
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味(発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。[40分] 不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。[20分] ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。			随時行う				
受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎日出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。		教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F1」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得できなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LE155U 英語A I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	アンソニー ダガン						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。</li> <li>・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。</li> <li>・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。</li> <li>・CEFRのB2+～C1レベルに近い言語運用力を身につける。</li> </ul>				
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。						
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction						
2	Unit 1 (1) Artificial Intelligenceをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする						
3	Unit 1 (2) Artificial Intelligenceについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる						
4	Unit 2 (1) Business:The Sharing Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする						
5	Unit 2 (2) Business:The Sharing Economyについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる						
6	Unit 3 (1) Food Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする						
7	Unit 3 (2) Food Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する						
8	Unit 4 (1) Plastic Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションの準備をする						
9	Unit 4 (2) Plastic Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する						
10	Unit 5 (1) The Japanese Mentalityをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
11	Unit 5 (2) The Japanese Mentalityについてディスカッションを振り返り、自分の意見をまとめ発表する Unit 1～Unit 5の復習、振り返り						
12	外部テスト（特記事項参照）						
13	Unit 6 (1) Space Explorationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
14	Unit 6 (2) Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する Unit 7 (1) Immigrationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
15	Unit 7 (2) Immigrationについて自分の意見をまとめ発表する Unit 6～Unit 7の復習、前期の振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。〔40分〕不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。〔20分〕 ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。〔50分〕				随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	CLIL Discuss the Changing World. Miyako Nakaya et al. 2020. 成美堂. ISBN:978-4791972081		
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。④外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LE160U 英語AⅡ		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	アンソニー ダガン						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。  ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。  ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。  ・CEFRのB2+～C1レベルに近い言語運用力を身につける。</p>				
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。						
履修条件	「英語AⅠ」を履修した者（単位未修得可）。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラスオリエンテーション、Unit 8 (1) Education: Online Learningをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、ディスカッションを行う						
2	Unit 8 (2) Online Learningについて自分の意見をまとめ発表する						
3	Unit 9 (1) Entertainmentをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
4	Unit 9 (2) Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する						
5	Unit 10 (1) The Agricultural Revolutionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
6	Unit 10 (2) The Agricultural Revolutionについて自分の意見をまとめ発表する Unit 11 (1) The Aging Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
7	Unit 11 (2) The Aging Societyについて自分の意見をまとめ発表する Unit 12 (1) DNA Technologyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
8	Unit 12 (2) DNA Technologyについて自分の意見をまとめ発表する Unit 8～Unit 12の復習、振り返り						
9	Unit 13 (1) Trade Warをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
10	Unit 13 (2) Trade Warについて自分の意見をまとめ発表する Unit 14 (1) Religionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
11	Unit 14 (2) Religionについて自分の意見をまとめ発表する						
12	外部テスト（特記事項参照）						
13	Unit 15 (1) Privacy and Freedom of Expressionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う						
14	Unit 15 (2) Privacy and Freedom of Expressionについて自分の意見をまとめ発表する Unit 13～Unit 15の復習、振り返り						
15	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う Unit 8～Unit 15の復習、振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。[50分]				随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	CLIL Discuss the Changing World. Miyako Nakaya et al. 2020. 成美堂. ISBN:978-4791972081		
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LE145U 英語B I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。</li> <li>・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。</li> <li>・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。</li> <li>・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction					
2	Unit 1 (1) Cell phonesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。					
3	Unit 1 (2) Cell phonesをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行う。					
4	Unit 2 (1) 'Freeters'をテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。					
5	Unit 2 (2) 'Freeters'をテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行う。					
6	Unit 3 (1) The Olympic Gamesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。					
7	Unit 3 (2) The Olympic Gamesをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行う。					
8	Unit 4 (1) Marriageをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。					
9	Unit 4 (2) Marriageをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。					
10	Unit 5 (1) Smoking and drinkingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。					
11	Unit 5 (2) Smoking and drinkingをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。					
12	外部テスト（特記事項参照）					
13	Unit 6 Englishをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。					
14	Unit 7 Exerciseをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。					
15	Unit 1~Unit 7 これまで学んだことがらから各自1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 Unit 1~Unit 7の復習、振り返り。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。[50分]				随時行う		
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition. 2017. Gillian Flaherty. 成美堂. ISBN: 978-4791960286	
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。④外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE150U 英語B II		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。</li> <li>・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。</li> <li>・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。</li> <li>・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>				
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。						
履修条件	「英語B I」を履修した者（単位未修得可）。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Divorceをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。						
2	Unit 8 (2) Divorceをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。						
3	Unit 9 (1) Traffic in city centersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。						
4	Unit 9 (2) Traffic in city centersをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。						
5	Unit 10 (1) Working parentsをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。						
6	Unit 10 (2) Working parentsをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。						
7	Unit 11 (1) Computersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。						
8	Unit 11 (2) Computersをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。						
9	Unit 12 (1) Televisionをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。						
10	Unit 12 (2) Televisionをテーマにディスカッション方略を学び、統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。						
11	Unit 13 Gamblingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。						
12	外部テスト（特記事項参照）						
13	Unit 14 Gender gapをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。						
14	Unit 15 Cloningをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。						
15	Unit 8～Unit 15 これまで学んだことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 Unit 8～Unit 15の復習、振り返り。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。		
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。〔40分〕不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。〔20分〕 ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。〔50分〕			随時行う				
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。		教科書・ テキスト	Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition. 2017. Gillian Flaherty. 成美堂. ISBN: 978-4791960286			
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。④外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LE135U 英語C I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	カーラ カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。</li> <li>・得た情報をもとに言語使用ができる。</li> <li>・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。</li> <li>・CEFRのB1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>				
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。						
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction						
2	Unit 1 (1) Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。						
3	Unit 1 (2) OccupationsについてDear Future Selfと題した手紙を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
4	Unit 2 (1) At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。can/could/mightなどの接続詞の法助動詞が正しく使えるようになる。						
5	Unit 2 (2) At the Dinner Tableについてレストランでの会話を完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
6	Unit 3 (1) Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。						
7	Unit 3 (2) Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
8	Unit 4 (1) Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。						
9	Unit 4 (2) Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
10	Unit 5 (1) Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。						
11	Unit 5 (2) Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像して書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
12	外部テスト（特記事項参照）						
13	Unit 6 (1) At the Moviesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。						
14	Unit 6 (2) At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
15	Review (Unit 1 - Unit 6)に取り組む Unit 1～Unit 6 これまで学んだことから各自1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末ト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	Live Escalate: Trekking. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227		
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語 I の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語 II の授業を履修し、翌年英語 I を再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルの I・II の2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します ④外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	LE140U 英語CII		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修	
担当教員名	カーラ カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。</li> <li>・得た情報をもとに言語使用ができる。</li> <li>・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。</li> <li>・CEFRのB1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>				
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。						
履修条件	「英語C I」を履修した者（単位未修得可）。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション Unit 7 (1) Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SV00とSVO + Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。						
2	Unit 7 (2) Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
3	Unit 8 (1) Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。						
4	Unit 8 (2) Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
5	Unit 9 (1) Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。						
6	Unit 9 (2) Looking on the Bright Sideについて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
7	Unit 10 (1) Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。						
8	Unit 10 (2) Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
9	Unit 11 (1) Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。						
10	Unit 11 (2) Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
11	Unit 12 (1) The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。						
12	外部テストによる到達度確認（特記事項参照）						
13	Unit 12 (2) The Power of Wordsについてriddlesの作り方を参考に自分でもriddleを作り、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。						
14	Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組む、Unit 7～Unit 12の復習、振り返りを行う。						
15	Unit 7～Unit 12 これまで学んだことから各自1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	小テスト・発表・タスク・リフレクション等 ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	Live Escalate: Trekking. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227		
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。④外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	LE125U 英語D I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック モーニン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣等の話題に用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。          ・理解した内容についてスピーキング、ライティングができる。          ・CEFRのA2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(助業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する					
2	Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
3	Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					
4	Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
5	Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
6	Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
7	Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、 Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
9	Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
10	Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
11	Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
12	外部テスト(特記事項参照)					
13	Unit 7 (1) カップドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
14	Unit 7 (2) カップドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う 前期の学習の確認、振り返り					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]			随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。		教科書・ テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784		
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストについては別途指示に従う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE130U 英語DII		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック モーニン					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣あるいは新聞記事等で用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。          ・理解した内容についてプレゼンテーション、ライティングができる。          ・CEFRのA2+～B1レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。					
履修条件	「英語D I」を履修した者（単位未修得可）。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
2	Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する					
3	Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。					
4	Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					
5	Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
6	Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する Unit 8～Unit 10の振り返り					
7	Unit 11 (1) アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
8	Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
9	Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
10	Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
11	Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
12	外部テスト（特記事項参照）					
13	13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
14	Unit 11～Unit 13の振り返り Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてリサーチを行いプレゼンテーションの準備をする					
15	Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてプレゼンテーションを行う 振り返り、リフレクション最終提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]			随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。		教科書・ テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN:9784384334784		
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	①当該レベルの英語 I の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語 II の授業を履修し、翌年英語 I を再履修する。②「英語A～D」のうち、当該レベルの I・II の2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストについては別途指示に従う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE115U 英語E I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・中野 聡・マシュー ボッシュ・白井 雅代・本間 千重子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種 (英語)・高一種 (英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能 (聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く) の伸長を目指す。</p>			<p>・異文化理解、外国語学習など大学生に身近な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。          ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。          ・CEFRのA2に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習 (発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級 (証明書コピー) によって本レベルの受講を指定された者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション (授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction					
2	Unit 1 (1) 異文化理解をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
3	Unit 1 (2) 異文化理解について前回のリーディングの要点を確認し、テキストの内容について自分の意見をまとめ、発表する					
4	Unit 2 (1) 和食をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
5	Unit 2 (2) 和食について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する					
6	Unit 3 (1) 外国語学習をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
7	Unit 3 (2) 外国語学習について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する					
8	Unit 1~Unit 3の復習、振り返り Unit 4 (1) スポーツをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
9	Unit 4 (2) スポーツについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する					
10	Unit 5 (1) ファッションをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
11	Unit 5 (2) ファッションについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 1~Unit5の復習、振り返り					
12	外部テスト (特記事項参照)					
13	Unit 1~Unit 5で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチをする Unit 6 (1) 生き物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
14	Unit 6 (2) 生き物について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 7 (1) 芸術について英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
15	Unit 7 (2) 芸術について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する これまで学んだことの復習、振り返り					各担当教員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語 (発音・意味) や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。 [40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。 [20分]			随時行う			
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出 (予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること) 等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。		教科書・ テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549		
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	①当該レベルの英語 I の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語 II の授業を履修し、翌年英語 I を再履修する。②「英語A~F」のうち、当該レベルの I・II の2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストについては別途指示に従う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中野：小中学校での指導経験を生かしてプロジェクト活動や様々なペアワーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。						

授業科目名	LE120U 英語EⅡ		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・中野 聡・マシュー ボッシュ・白井 雅代・本間 千重子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・児童就労や長寿などの社会的な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。          ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。          ・CEFRのA2レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト)。					
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者(単位未修得可)。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り、short speeches on summer vacation等					
2	Unit 9 (1) ニンジャをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
3	Unit 9 (2) ニンジャについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 10 (1) 児童就労をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
4	Unit 10 (2) 児童就労について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 11 (1) 長寿をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
5	Unit 11 (2) 長寿について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 9 ~ Unit 11の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする					
6	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 12 (1) 騒音公害をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
7	Unit 12 (2) 騒音公害について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 13 (1) 食物廃棄をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
8	Unit 13 (2) 食物廃棄について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 12 ~ Unit 13の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする					
9	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 14 (1) ダンスクラブと法規制をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する					
10	Unit 14 (2) ダンスクラブと法規制についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認の後、意見発表の準備をする					
11	Unit 14 (3) ダンスクラブと法規制について意見を発表する Unit 15 (1) ドローンを例に科学技術の進歩をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する					
12	外部テスト(特記事項参照)					
13	Unit 15 (2) ドローンを例に科学技術の進歩についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認し、意見発表の準備をする					
14	Unit 15 (3) ドローンを例に科学技術の進歩について意見を発表する Unit 12 ~ Unit 15の復習、振り返り、その中からテーマを各自一つ選びプレゼンテーションの準備をする					
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う、振り返り リフレクション最終提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト 期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストについては別途指示に従う。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中野：小中学校での指導経験を生かしてプロジェクト活動や様々なペアワーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。						

授業科目名	LE105U 英語F I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村 ゆかり・本間 千重子（代表教員 木村 ゆかり）					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・自己紹介、住む町など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解・発信できる。          ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができる。          ・CEFRのA1に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい、履修上の注意等) Self-introduction					
2	Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する					
3	Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する					
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の住む町について説明する					
5	Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う					
6	Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて休日の過ごし方を述べる					
7	Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う Unit 1 ～ Unit 3の振り返り					
8	Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の持ち物について説明する表現を学ぶ					
9	Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う					
10	Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてある日の行動についての表現を学び、自分のある日の習慣的行動を作文する					
11	Unit 5 (2) 自分のある日の習慣的行動について発表を行う Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて過去と現在における自分の変化を述べる表現を学び、作文する					
12	外部テスト(特記事項参照)					
13	Unit 6 (2)過去と現在における自分の変化についての発表を行う Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の未来の目標や夢について述べる表現を学び、作文する					
14	Unit 7 (2)自分の未来の目標や夢についての発表を行う Unit 4 ～ Unit 7の振り返り					
15	Unit 1～Unit 7 これまで学んだことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う、振り返り					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができる。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に 望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・ テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストについては別途指示に従う。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE110U 英語FⅡ		開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村 ゆかり・本間 千重子（代表教員 木村 ゆかり）					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の予定、大学についての説明など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できる。</li> <li>・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができる。</li> <li>・CEFRのA1レベルの英語運用力を身につける。</li> </ul>			
教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。					
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて今後の予定を述べる表現を学ぶ					
2	Unit 8 (2) 今後の予定について述べる英文を理解し、自分の今後の予定について作文する発表を行う					
3	Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる					
4	Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う					
5	Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてこれまでの経験について述べる表現を学ぶ					
6	Unit 10 (2) これまでの状況や経験を説明する英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う					
7	Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じていろいろな場面での自分の感情について述べる					
8	Unit 11 (2) 自分がどのような時にどのような感情をもつかについての発表を行う Unit 8～Unit 11の振り返り					
9	Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてスポーツや人物を比較する表現を学び、自分の2人の友人についての作文をする					
10	Unit 12 (2) 自分の2人の友人についての発表を行う Unit 13(1) 受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてお気に入りの映画等について説明する表現を学び、作文をする					
11	Unit 13 (2) 自分のお気に入りの映画について発表を行う Unit 14 (1) 分詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて絵に描かれている状況を説明する表現を学び、作文をする					
12	外部テスト（特記事項参照）					
13	Unit 14 (2) 絵に描かれている状況説明の発表を行う Unit 15 (1) 関係詞の用法を確認しつつ、一年間の活動やある場所を説明する表現を学び、自分の大学についての作文をする					
14	Unit 15 (2) 自分の大学についての発表を行う Unit 12～Unit 15の振り返り					
15	これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業・課題 取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。	
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]			随時行う			
受講生に 望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。		教科書・ テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703		
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します④外部テストについては別途指示に従う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE165U アクティブ・イングリッシュA		開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills(福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)</p>			<p>①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。  ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。  ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。  ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。  ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。  ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。  ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修(福島県)に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills(以下BH)(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。					
5	BH(2)Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。					
6	BH(3)Dance: 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。(※受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)					
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。					
8	BH(5) British Wedding: イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
9	BH(6) World of Food: 世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。					
10	BH(7) Travel in UK: 英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。					
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。					
12	BH(9)Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。					
13	BH(10)Group presentation 3: 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。					
14	BH(11)Group presentation 4: 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身に付ける。 ③英語運用力測定。		BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はこのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う		
受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。 ②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LE170U アクティブ・イングリッシュB		開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>2021年8月下旬～9月上旬に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州オースセントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。</p> <p>事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国後に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会では英語でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>①海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。</p> <p>②英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。</p> <p>③異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介できるようになる。</p> <p>④ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。</p> <p>⑤語学研修・ボランティア活動を通じて、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。</p> <p>⑥語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告できるようになる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) ※参加希望者は必ず出席すること。					伊藤・葦名
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。教科書の自己紹介スクリプトを参考にプレゼンの準備をし、プレゼン用ソフトを用いて英語で自己紹介を行う。					伊藤・葦名
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。日本文化についてのトピックの一つを設定し、外国人に説明するためのプレゼンを行い、事後学習(発表会)の練習をする。					伊藤・葦名
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					伊藤・葦名
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	20	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、聞き手に分かりやすく発表する。 ②事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。		カナダ研修参加態度	40	①カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。
英文日誌と事後レポート	20	①授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ②どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ③集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。				随時行う		
受講生に望むこと	①渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ②どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。 ③集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentations』 Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN: 978-4791934249	
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	①履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ②事前学習以外に、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ③事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 ④事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。 ⑤代替授業をする場合はclassroomを用いて課題を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活(約2週間)を実現するための一助としている。						



授業科目名	LE175U アクティブ・イングリッシュC		開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見直しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>			<p>・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。</p> <p>・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。</p> <p>・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。</p> <p>・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)					
履修条件	学科指定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。					
2	事前学習② 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。					
3	事前学習③ 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。					
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在					
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習① 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)					
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	①留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する		事後学習	20	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。「毎日40分」英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。【毎日30分】				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では自力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。</li> <li>英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。</li> <li>事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける</li> <li>留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。</li> </ul>	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LC100U 中国語 I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択	
担当教員名	渡邊 彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では中国語を用いた初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。そのために発音を確実に身につけながら、「話す」スキルを向上させていく。同時に「聞く・読む・書く」技能もバランスよく習得する。また、中国との経済交流や人的交流が多い今日、本授業で中国語を学びながら中国に関する新たな知識や理解を得る。</p>			<p>①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。          ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。          ③中国語の文法を理解する。          ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。</p>				
教授方法	講義形式(ロールプレイ等の能動的な練習)と遠隔形式(資料を参考に文法を習得し、練習問題等に取り組む)を交互におこなう。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法について等)後、単母音の発音と声調(音の高低)を習得する。						
2	単母音と声調の復習 複母音・子音の発音を練習し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。						
3	子音と母音の組み合わせ練習 鼻音・軽声・声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。						
4	発音を総復習してから、挨拶等の簡単な日常会話ができるようになる。						
5	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)						
6	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。)						
7	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」(希望の尋ね方や相手に質問を返す表現を身につける。)						
8	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)						
9	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして友人の紹介ができるようになる。						
10	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、何時に何をするかという表現を身につける。)						
11	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。)						
12	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)						
13	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)						
14	第8課「値段の交渉をする」の復習後、第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。						
15	前期に学んだ学習内容を総復習し、自己紹介文を作成する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	20	予習・復習をおこない、積極的に授業へ取り組み姿勢(ロールプレイ練習にすすんで参加する等)を評価する。		提出課題の完成度	20	授業で課された課題への取り組みを評価する。	
小テスト	30	対面授業ごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。		自己紹介文の完成度	30	第15回授業で自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)、新たに学習した文法項目を復習し、授業で出された課題に取り組むこと。[60分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]			①課題・小テストは添削・採点をしたものを次回対面授業の冒頭に返却する。 ②採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。 ③学期末の自己紹介文はオンラインで提出、それに対してコメントを付けて返却する。				
受講生に望むこと	語学は毎日の積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりとこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。		教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著 白水社 2019年 ISBN :978-4-560-06935-6			
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 ISBN:978-4095-156040 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年 ISBN:978-4-8102-0327-1		その他・特記事項	代替授業日にはClassroomを用いて課題内容や参考資料を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LC110U 中国語Ⅱ		開講学科	人間総合	必修・選択	選択	
担当教員名	渡邊 彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。</p>			<p>①中国語を正確に発音できるようになる。          ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。          ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。          ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。</p>				
教授方法	講義形式(ロールプレイ等の能動的な練習)と遠隔形式(資料を参考に文法を習得し、練習問題等に取り組む)を交互におこなう。						
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前期の復習 復習文を参考にして放課後何をするか説明できるようになる。						
2	第9課「出来事を尋ねる①」(完了形の言い方を習得し、さらに「～しに行く、しに来る」という連動文の言い方を身につける。)						
3	第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」(「～するのが…だ」という表現を習得する。)						
4	第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」(相手の希望の尋ね方、「どこで～する」の表現を身につける。)						
5	第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」(道の尋ね方、選択疑問文を習得する。)						
6	第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」(経験の有無の言い方を習得する。)						
7	第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして長期休暇に何をしたのかを説明できるようになる。						
8	第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。)						
9	第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」(比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。)						
10	第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」(2点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。)						
11	第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」(進行表現、結果補語を習得する。)						
12	第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」(義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。)						
13	第18課の復習と練習問題を通して、文法の理解をさらに深める。						
14	第14課から第18課の復習文を参考にして今後の夢を説明できるようになる。						
15	1年間の学習内容を総復習し、学期末課題の自由テーマ文を完成させる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	20	予習・復習をおこない、積極的に授業へ取り組む姿勢(ロールプレイ練習にすすんで参加する等)を評価する。		提出課題	20	授業で課された課題への取り組みを評価する。	
小テスト	30	対面授業ごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。		自由テーマ文の完成度	30	第15回授業で自由テーマ文を作成する。その完成度で評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)、新たに学習した文法項目を復習し、授業で出された課題に取り組むこと。[60分] ③学期末の自由テーマ文作成に備えて事前にテーマを決め、日頃から準備をすすめておくこと。[20分]				①課題・小テストは添削・採点をしたものを次回対面授業の冒頭に返却する。 ②採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。 ③学期末の自由テーマ文はオンラインで提出、それに対してコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。学期末には自由なテーマで文章を作成してもらいます。あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。			教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著 白水社 2019年 ISBN:978-4-560-06935-6		
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 ISBN:978-4095-156040 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年 ISBN:978-4-8102-0327-1			その他・特記事項	代替授業日にはClassroomを用いて課題内容や参考資料を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	LF100U フランス語 I		開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。			①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous					
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.					
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin					
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler					
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?					
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?					
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler					
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.					
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté					
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?					
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.					
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?					
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.					
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif					
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得している。		受講態度	30	講義に積極的に参加している。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]			付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。		教科書・テキスト	『Moi, je . . . コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。		その他・特記事項	代替授業日には、事前に指定した課題を実施します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	LF110U フランス語Ⅱ		開講学科	人間総合	必修・選択	選択	
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>			<p>①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>				
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.						
2	数字 1-6 9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?						
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.						
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.						
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.						
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?						
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.						
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a~の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?						
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation						
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?						
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait						
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.						
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.						
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.						
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
講義内試験	70	学習内容をきちんと習得している。		受講態度	30	講義に積極的に参加している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習して下さい。[120分] 代替授業として配布されたプリントの問題を完了し提出すること。[120分]</p>			<p>付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。</p>				
受講生に望むこと	<p>語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを開き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。</p>		教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuysse 他著 (アルマ出版) 2015年 ISBN 978-4-905343-03-5			
指定図書/参考書等	<p>授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。</p>		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (ゴルフ)		開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ゴルフの競技特性を理解する。  ② ゴルフの基本的技術を習得する。  ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。  ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。  ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	リモート及び対面授業によるスポーツ実技。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グループング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					
3	ショットの基礎①：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ボスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					
4	ショットの基礎②：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					
5	ショットの基本③：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					
7	ショットの基本⑤：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ること、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する					
11	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする					
12	ターゲットバードゴルフ① ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					
13	ターゲットバードゴルフ② ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。					
14	ショートゲームテストとまとめ					
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現について考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。[準備体操を含め60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1～7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (テニス)		開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・熊谷 史佳 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① テニスの競技特性を理解する。  ② テニスの基本的技術を習得する。  ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。  ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。  ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	リモート及び対面授業によるスポーツ実技。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊・熊谷
2	グリップング、ラケットワーク					田邊・熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。					田邊・熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊・熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊・熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊・熊谷
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊・熊谷
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊・熊谷
13	ゲーム3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊・熊谷
14	ゲーム4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊・熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現について考える。					田邊・熊谷
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することが原則です。運動ができる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行います。外履き用の運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子など用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA (ダンス)		開講学科	人間総合	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一・木藤 由麻 (代表教員 永山 亮一)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種 (英語)・高一種 (英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>① ダンスの特性を理解する。 ② ダンスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>				
教授方法	リモート及び対面授業によるスポーツ実技。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。					木藤	
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。					木藤	
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。					木藤	
4	基本のステップ 1：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。					木藤	
5	基本のステップ 2：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。					木藤	
6	基本のステップ 3：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。					木藤	
7	簡易創作 1：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。					木藤	
8	基本のステップ 4：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。					木藤	
9	簡易創作 2：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。					木藤	
10	講義：ダンスの歴史を理解する。					木藤	
11	創作活動 1：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。					木藤	
12	作品発表 1：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。					木藤	
13	創作活動 4：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。					木藤	
14	作品発表 2：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。					木藤	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現について考える。					木藤	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。	
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。【準備運動を含め 60分程度】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じてタオルなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義：スキー)		開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種 (英語)・高一種 (英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県穂池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、「スキーヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー (本頁)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。</p> <p>④ ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う。</p> <p>⑤ ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。</p> <p>⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備 (用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後 I】 開講式／クラス編成確認 (技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後 II】 クラス別レッスン①					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義：スキー技術の変遷／スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前 I】 VTR 撮影／クラス別レッスン②					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前 II】 クラス別レッスン③					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後 I】 クラス別レッスン④					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後 II】 クラス別レッスン⑤／ VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前 I】 VTR 撮影／クラス再編成／クラス別レッスン⑥					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前 II】 クラス別レッスン⑦					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後 I】 クラス別レッスン⑧					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後 II】 クラス別レッスン⑨／ VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン⑩／閉講式					各班担当者
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準	
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。	実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。	
<b>授業外における学習 (事前・事後学習等)</b>			<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。[最低1日] ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。 詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。		教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義：ゴルフセミナー)		開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種 (英語) ・高一種 (英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは 4 日間における集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの格化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーも盛んになり、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>③ グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。</p> <p>④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。</p> <p>⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グラウンド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午前 I】 開講式/レッスン①：スタンスの確認 (グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング ~ スリークォーターズスイング (9I)					永山、田邊
3	【実習 1 日目 午前 II】 レッスン②：スリークォーターズスイング ~ ハーフスイング (9I)					永山、田邊
4	【実習 1 日目 午後 I】 レッスン③：ハーフスイング ~ フルスイング (9I)					永山、田邊
5	【実習 1 日目 午後 II】 レッスン④：ハーフスイング ~ フルスイング (9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2 日目 午前 I】 レッスン⑤：9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR 撮影					永山、田邊
7	【実習 2 日目 午前 II】 レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/ VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2 日目 午後 I】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング (ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2 日目 午後 II】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前 I】 レッスン⑨：VTR によるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3 日目 午前 II】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3 日目 午後 I】 レッスン⑪：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3 日目 午後 II】 レッスン⑫：グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネジメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4 日目 午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4 日目 午後】 ラウンド実習⑭：本コース 9ホール のハーフラウンド体験を行う。/閉講式					各担当者
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。【1回60分程度】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB		開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を授業科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業(本頁)」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p>			<p>① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>④ ①～③を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>⑤ ①～③を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。					
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッジビーなどのゲームを楽しむ。					
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。					
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。					
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。					
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。					
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。(ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク)					
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。(スティックワーク、パス、ショット)					
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 タグラグビーの基礎的技術を習得する。					
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	PE120U 健康科学		開講学科	人間総合	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>① 健康的な生活の意義を理解する。  ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。  ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方①：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまで学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
受講態度	60	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させているか。	学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。				
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。		教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。			
指定図書／参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	HC100U キャリアデザイン I		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	松本 理沙					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。具体的には本学内の大学祭の企画・運営の過程の中でチームで働く力を身につけることを目指す。			①自己理解：自分に足りない能力や自分の能力・正確に気づく。 ②課題対応能力・対人対応能力：社会の中で人と関わる力・社会で必要となる力に気づく。			
教授方法	講義、演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、授業外における学習など					
2	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインとは何か、キャリアデザインの基本と方法					
3	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える①（これまでの自分を振り返る）					
4	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える②（自己概念を知る）					
5	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える③（大学で学ぶとは）					
6	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える④（4年後を見据えて）					
7	キャリアデザインと人生設計：現代人のライフサイクルと職業について（社会人から学ぶ）					
8	自身の表現を考える（言葉遣い・メール・電話対応・SNS）					
9	学童保育とは：学童クラブで児童と関わる方から学ぶ。					
10	1年次体験活動について：体験活動を充実させるためのポイントを考える。					
11	大学祭とは：大学祭の在り方を考えるとともに、イベントの企画を行う。					
12	大学祭①イベントの企画・準備を行う。					
13	大学祭②イベントの企画・準備を行う。					
14	組織マネジメントの理解とチームワークの醸成					
15	今後に向けての歩みを考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	対面授業の授業態度を重視する		報告書・レポート	30	大学祭企画書 及び最終レポート ・期限内に提出しているか・指定された分量が書かれているか ・課題に即した内容となっているか・自身の振り返りができているか（考察）・振り返りを今後につなげようとしているか
提出物	40	・期限内に提出しているか ・指定された分量が書かれているか ・課題に即した内容となっているか ・自身の振り返りができているか（考察）				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
・授業内容（対面授業+代替授業課題）から自身の知的好奇心を促進したものについての自己分析を行う。 ・代替授業課題に取り組む。				・グループ単位で事前事後のディスカッションを行うことでPDCAサイクルを体験する。 ・他の学生と課題レポートを見せ合い、他者から学ぶ。 ・課題によっては教員からコメントをする。		
受講生に望むこと	①キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目であり自分自身と真摯に向き合うことが望まれる。②理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習がある。（家族や身近な人から学ぶ体験あり）			教科書・テキスト	『新・大学でなにを学ぶか』上田紀行編 岩波ジュニア新書 2020年 ISBN:978-4-00-500912-1	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	適宜、配付資料にて演習を展開する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC100U キャリアデザインⅠ		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	小林 正史・井上 克洋・松下 健・加藤 仁（代表教員 小林 正史）					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>授業の目的は2つある。1つ目は、社会で必要な力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らを考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では、実際の社会が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が社会で直面している課題を受け取り、その課題を解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。</p>			<p>①社会で必要な力に気づく。 ②自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 ③社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。					全教員
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。					全教員
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員
4	第1次提案に向けて：チーム活動。第1次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全教員
5	第1次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員
6	第2次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。					全教員
7	第2次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員
8	課題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。					全教員
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員
10	第1次提案に向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスももらえば議論が進むのかを整理する。					全教員
11	第1次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員
12	第2次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項をチェックし、準備を整える。					全教員
13	第2次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員
14	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすのかをまとめる。					全教員
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。					全教員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加している。		提出物	50	①期限内に提出している。 ②課題に即した内容となっている（例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記され、規定字数を満たしている）。
発表	20	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
課題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備を進めてください。準備はほぼ授業時間外で進めることになります。[120分]				プレゼンテーションや提出物などの課題について、次学期のキャリアデザインⅡにおいてコメントします。		
受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけましょう。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN：なし	
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	代替授業はGoogleクラスルームで実施する。詳細は別途指示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC110U キャリアデザインII		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、学部「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインIに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・表現する力を高めたい。 教育系学科であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、社会から求められる事柄が何であるのかを知る。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。			①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。					全員	
2	キャリアデザインと職場理解：キャリア考察「今の自分、これからの自分」					全員	
3	春季放課後児童クラブ(学童保育) 体験について概要を理解し、計画を立てる。					全員	
4	春季放課後児童クラブ(学童保育) 体験について計画を立て、準備を進める。					全員	
5	放課後児童クラブ(学童保育) について理解する。					全員	
6	「キャリア体験学習」ワークショップに生かせそうなことの事前学習(個人調べ)					全員	
7	「キャリア体験学習」の説明と役割分担、連絡方法の確認、ワークショップ内容決定、予算計画等					全員	
8	「キャリア体験学習」の第1回事前学習(準備)					全員	
9	「キャリア体験学習」の第2回事前学習(準備)					全員	
10	「キャリア体験学習」の第3回事前学習(模擬実施と反省) ※体育館使用予定					全員	
11	「キャリア体験学習」の第4回事前学習(最終準備と打合せ)					全員	
12	「キャリア体験学習」(公民館イベント) ①					全員	
13	「キャリア体験学習」(公民館イベント) ②					全員	
14	「キャリア体験学習」の事後学習(個人まとめ)					全員	
15	「キャリア体験学習」の事後学習と報告書・引継書(ポスター型)作成					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業態度	40	①講義内容についての理解ができている ②自己への問題提起が身についている ③新しい発見ができています ※代替授業時の提出課題を含む	最終レポート	30	「これが私の進む道」 学びを踏まえ、今後の自己課題を明確に。 (体験学習の報告、発表の反省を含むこと)		
ミニレポート	30	「キャリア体験学習」の準備作業記録と事後レポート					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
専門的な職業能力に直結する「キャリア体験学習」に取り組みます。その体験学習に際しては事前の入念な準備と事後の振り返りが大切であり、それに要する時間は延べ6時間以上が目安です。 単に時間を要する、ということよりも、チームとしての報告・連絡・相談が大切になります。			グループごとに事業計画を立て、役割分担、調査研究や準備を行い、記録することで自己フィードバックする。 最終レポートは、評価が終わり次第返却する。				
受講生に望むこと	①積極的に参加すること。 ②理論だけでなく、実際に行動すること。 ③グループにより、準備等のスケジュールは異なるので各自が手帳等を準備し、自己管理して下さい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	「キャリア体験学習」は12月(土、日付未定)公民館イベント運営を以て2コマに充てる。 (代休講2回、対面授業日の日程等、詳細については開講時に説明する) 代替授業の課題は対面時に提出する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。							

授業科目名	HC110U キャリアデザインII		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目のキャリア教育科目に位置づけられるものである。キャリアデザインIIでは、キャリアデザインIで培われた気づきを拡張、深化させていく。そのために、MIP1の振り返りや批判的、論理的な思考力を高めるトレーニング、また、働き方や社会の動き、先達の話や聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。</p>			<p>①グループワークや発表をとおして、自身の意見を的確に他者に伝えることができる。  ②先達の話や社会の動き捉える活動から、現代社会の情勢などの知識を身につける。  ③仕事につく際に必要とされるが、現在は不足している力について、学生時代にどのようにして身につけるかの具体的なプランが立てられる。</p>				
教授方法	教員による講義、ゲストスピーカーによる講演、グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明および前期の振り返りと自己評価の分析を行う。					全員	
2	クリティカルシンキングの自己分析を行う。					全員	
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版を考え、発表を行う。					全員	
4	社会の情勢を把握し他者に伝える(1)：新聞を用い社会の出来事について考察する。					全員	
5	社会の情勢を把握し他者に伝える(2)：新聞を用いたグループワークおよび発表を行う。					全員	
6	会社の仕組み、仕事の仕組みについて考える。					全員	
7	職業選択について(1)：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。					全員	
8	職業選択について(2)：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークの結果を発表する。					全員	
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。					全員	
10	グローバル企業で働く際の問題点と解決策について具体的に考える(MIP2に向けて)。					全員	
11	就職活動とは：4年生と卒業生の話聞く。					全員	
12	ワークライフバランスについて考える。					全員	
13	労働者の権利について考える。					全員	
14	企業の社長たちの学生時代の話聞く(パネルディスカッション)					全員	
15	自己を振り返る(自分史を作る自己分析)。授業の総括とMIP2へのつながりの説明					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度、および演習への参加態度	リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されている。		
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容	グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されており、わかりやすい話し方である。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①グループ・個人に課された課題・レポートの作成 [120分] ②日頃から新聞等を読み、社会の事象等に関心を持つ。[60分]			グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。				
受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので、学生の活発な参加が求められる。社会学科のためにも、社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。		教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	代替授業は別途指示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	HC200U キャリアデザインⅢ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインⅡに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する力を高めたい。 具体的には自己課題に基づいて様々な事業から自己決定し、都合4回の「運営スタッフ活動」を経験する。運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会の一員として自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。			①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 (または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力) ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。			
教授方法	講義、演習、体験学習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。					
2	ブレ実習を活用したキャリア考察をおこない、自己課題を明らかにする。					
3	「運営スタッフ活動」(選択) 予定の立案を行う。					
4	「運営スタッフ活動」(選択) 予定を決定し、報告を行う。					
5	「運営スタッフ活動」①に向けての事前学習					
6	「運営スタッフ活動」①(選択)					
7	「運営スタッフ活動」①の振り返りと②に向けての事前学習					
8	「運営スタッフ活動」②(選択)					
9	「運営スタッフ活動」②の振り返りと③に向けての事前学習					
10	「運営スタッフ活動」③(選択)					
11	「運営スタッフ活動」③の振り返りと④に向けての事前学習					
12	「運営スタッフ活動」④(選択)					
13	「運営スタッフ活動」④の振り返り。発表のきまりについて理解し、準備を行う。					
14	発表に向けて準備を進める。					
15	まとめ：「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」に関する発表と討論。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	20	「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」をテーマにしたレポートを作成することができるか(1600字)。		PDCAシート	40	①学びや自己課題の分析が行われているか。 ②学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができていくか。(10×4回)
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に運営スタッフ活動に参加できたか。		社会的態度	20	講義及び外部での代替授業に積極的に取り組むことができていたか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①自分で選択した「運営スタッフ活動」に関し、PDCAシートを用いて自己分析を行う。[60分] ②本科目も含め、前期期間の予定を適切に管理する[30分]				課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価ののちすみやかに返却する。		
受講生に望むこと	将来の社会参加を念頭に、一つひとつの活動に目当てをもって取り組んでほしい。 また、社会の一端を担うものとしての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談の在り方を実践的に学んでほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	各自が選択した「運営スタッフ活動」を以て代替授業4コマ分に充てる。 具体的な日程等については、Classroomを用いて調整する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC200U キャリアデザインⅢ		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	俵 希實・小林 正史・若山 将実 (代表教員 俵 希實)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>授業の前半は、グローバル企業と連携し、ICTを用いて授業を進める。グローバル企業が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。第一次提案と最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。授業の後半は、「キャリアデザイン」で学んできたことを活かして、大学生対象ビジネスコンテスト「キャリアインカレ」(企業がテーマを出題し、学生はチームを組みテーマについてプレゼンテーションを行う。コンペティション方式で優勝を目指す)に参加する。</p>			<p>①グローバル企業で働くために必要な知識・グローバルコミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 ②グローバル企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ③ICTを用いて多文化共生の実践的経験を学び、海外業務に必要な表現形式を習得する。 ④コンペティション方式に対応したプレゼンテーションができるようになる。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーションと課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。					全員
2	課題提示：企業担当者から課題を受け取る。					全員
3	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員
4	第一次提案に向けての準備：文化的背景の異なる相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。					全員
5	第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。					全員
6	最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。					全員
7	リハーサル：最終提案に向けてチームで準備を整える。					全員
8	最終提案①：ICT技術を用いて最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。					全員
9	最終提案②：ICT技術を用いて最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。					全員
10	最終提案のふりかえり：チームで、自分たちの活動(文献調査、社会調査、議論など)を振り返る。					全員
11	「キャリアインカレ」参加にあたって担当者から内容説明を受ける。					全員
12	ビデオ視聴による分析①：これまでのキャリアインカレで入賞したチームのプレゼンテーションのビデオを観て、どの点が評価されているのかを分析する。					全員
13	グループワーク：どの企業の課題に挑戦するのかをグループで決定する。					全員
14	ビデオ視聴による分析②：これまでのキャリアインカレで入賞したチームのプレゼンテーションのビデオを観て、どの点が評価されているのかを分析する。					全員
15	中間報告会：他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	授業に参加し、チームに貢献しているか。		提出物	50	①期限内に提出しているか ②課題に即した内容となっているか ③指定された分量が書けているか ④指定された形式になっているか ⑤ふりかえりができているか
プレゼンテーション	20	①内容：課題に即した内容となっているか/指定された様式・時間を守っているか ②態度 ③質疑への応答				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
プレゼンテーションの準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]				プレゼンテーションに対して企業担当者および教員がコメントする。		
受講生に望むこと	チームワークをうまく進めていくために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN：なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC210U キャリアデザインⅣ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	高村 真希						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置づく。キャリアデザインⅢの学外での「運営スタッフ活動」に引き続き、キャリアデザインⅣでは学内外での主体的活動を通して、さらに構想・設計・実現する力を高めたい。			①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 （または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解、自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を活動を通じて総合的に高め、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることができる。				
教授方法	講義・演習・体験学習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の進め方、到達目標、成績評価の方法等の説明 就職活動や学業に関する現在の悩みや考えを語り、今後の計画を行う					高村	
2	なりたい自分になるための「大学生活の目標」を立てる。 PDCAサイクルを理解し、活用する					外部講師	
3	体験学習の目的と意義を理解する。					外部講師	
4	体験学習を行うために：電話対応・訪問マナー等を学び、実践する。					外部講師	
5	体験学習①（学外での体験）の事前学習（体験における目標設定とタイムスケジュールを立案する）					高村	
6	体験学習（学内外での体験）①					高村	
7	体験学習①（学外での体験）の事後学習、お礼状の作成					高村	
8	体験学習②（学外での体験）の事前学習					高村	
9	体験学習②（学外での体験）					高村	
10	体験学習②（学外での体験）の事後学習、お礼状の作成					高村	
11	卒業生（または4年次生）からの学び：卒業生との対話からの学び					高村	
12	体験学習①②（学外での体験）＋卒業生（または4年次生）からの学びの時間としてカウントする					高村	
13	発表に向けての準備①（学生間で発表のタイムスケジュールや役割分担を行う） 卒業生との対話からの学び（事後学習）、お礼状の作成					高村	
14	発表に向けての準備②					高村	
15	キャリアデザインⅣ全15回を振り返っての自身の学びと今後の課題等を発表する					高村	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
発表（第15回）	20	「主体的活動を通して学んだこと」を到達目標と照らし合わせて発表されているか。		主体的態度	40	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に活動や授業に参加できたか。グループに貢献できたか。	
PDCAシート・課題シート	40	①学びや自己課題の分析が行われているか。 ②学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①体験学習担当の外部講師との打ち合わせ（電話連絡、資料作成） [60分] ②体験学習の事前準備 [30分×3] ③第15回の発表準備を進める [90分]			課題（PDCAシート）は期末にまとめて返却する。				
受講生に望むこと	前期科目「キャリアデザインⅢ」での学びの成果を今後の活動に活かしてほしい。また、前期に引き続いて社会の一端を担うものとしての自覚をもち続け、日頃から報告・連絡・相談を心掛けること。さらに、その場に応じて臨機応変に対応できるように期待する。		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし		その他・特記事項	外部講師や卒業生の都合により、日程の変更がある可能性がある。 代替授業においては、担当教員からClassroomで案内する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	HC210U キャリアデザインⅣ		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・若山 将実 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
前半は、「キャリアデザインⅢ」のキャリア・インカレプロジェクトを継続する。すなわち、企業から提示された課題について、社員の立場に立って企画を作り、プレゼンを行う。後半では、社会人基礎力（経産省が提唱する、仕事を行っていく上で必要な基礎的能力）を高めるためのワークを通して、社会へでるまでに各学生がどのような準備をすべきかを考える。			①グループワークを通して、課題解決力を身につける。 ②自分に足りない能力や知識、および、自分の強みを明確に認識する。 ③社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考えることができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明。キャリアインカレの概要説明とグループエントリー					全教員	
2	キャリア・インカレの企業の選択					全教員	
3	キャリア・インカレ企画書案の作成：グループワーク					全教員	
4	キャリア・インカレ企画書案の作成と修正：グループワーク					全教員	
5	キャリア・インカレ企画書案の学内プレゼン（前半グループ）					全教員	
6	キャリア・インカレ企画書案の学内プレゼン（後半グループ）					全教員	
7	企画書の提出： グループワーク					全教員	
8	他グループのPeer Reviewを文章化し提出					全教員	
9	最終企画書の作成と提出： グループワーク					全教員	
10	最終企画書の提出					全教員	
11	社会人基礎力の自己判定：社会人基礎力の判定テストを通して、自分の不足している力と強みを認識する。					全教員	
12	SPI 就職模擬テストの実施。					全教員	
13	時間管理（外部講師による講座）					全教員	
14	キャリアパスの多様性（外部講師による講座）：計画性を持って行動する必要性を認識する。					全教員	
15	大学の学びと就職後の仕事（外部講師による講座）					全教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
受講態度	30	積極的にグループワークや授業に参加している。		キャリア・インカレ企画書	20	企画書内容がグループワークの成果を反映した内容になっている。	
その他提出物	50	リアクションシートなどのその他提出物が、①期限内に提出されている、②課題に即した内容、③指定された分量や様式、④振り返りができている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
キャリア・インカレ企画書の作成は、授業時間内だけでは足りないため、授業外でも行う。[90分]			この授業の核となるキャリア・インカレ企画書について、①担当教員との質疑応答、②外部スタッフ（マイナビ）からのアドバイスを踏まえたグループ間の相互コメントの側面からフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	グループワークにおいて、各学生が主体的に参加することを希望する。		教科書・テキスト	随時、資料を配布する。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業を行う場合はグーグルクラスルームで実施する。詳細は別途指示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	HC300U キャリアデザインV			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。保育・教育、行政機関及び一般企業への就職活動の取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析する必要がある。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握し設定した上でこれらの活動に参加する。				①これまで培ってきたPDCAサイクルの学びを体験学習に生かすことができる。 ②自分の将来計画に基づいた課題に応じて、自分の資質・能力を向上させることができる。 ③ディスカッションを通して、やりがいのある仕事・よりよい働き方について考察することができる。 ④就職活動に必要な書類作成の準備段階として、働くことを前提とした体験学習を行うことができる。			
教授方法	講義・演習・体験学習						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	これまでの学びを整理し、今後の授業計画を理解する。 ※Classroomで配信予定						
2	就職活動に関する準備：自己分析の基本、就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録						
3	体験学習・フィールドワーク等に関する理解①：保育・教育施設等における体験学習・フィールドワーク等、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの目的・意義						
4	体験学習・フィールドワーク等に関する理解②：連携事業、地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段 ※Classroom及びMeetで実施						
5	体験学習・フィールドワーク等に関する理解③：事前打ち合わせと自己課題整理						
6	体験学習・フィールドワーク等の参加①						
7	体験学習・フィールドワーク等の参加②						
8	体験学習・フィールドワーク等の参加③						
9	体験学習・フィールドワーク等の参加④						
10	体験学習・フィールドワーク等の参加⑤						
11	体験学習・フィールドワーク等の参加⑥						
12	体験学習・フィールドワーク等の参加⑦						
13	体験学習・フィールドワーク等の振り返り ※Classroom及びMeetで実施						
14	体験学習・フィールドワーク等報告会						
15	授業のまとめ、最終課題に関する説明及び質疑応答 ※Classroom及びMeetで実施						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	①授業・活動に対して積極的な姿勢で臨んでいる。 ②不明な点や疑問点を適宜確認・質問などができる。			体験学習等の参加状況	40	①報告・連絡・相談が徹底されている。 ②PDCAサイクルが定着している。
最終課題	20	今後の自己のキャリア形成に関する内容を、具体的に記述している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①就活サイトの確認 [30分] ②体験学習・フィールドワーク等に関する事前研究 [60分] ③体験学習・フィールドワーク等に関する事後研究 [60分] ④最終課題の作成 [60分]				コメントペーパーの内容・質問などについて授業内で回答する。			
受講生に望むこと	体験学習・フィールドワーク等については、これまでのキャリアデザインで培った知識や技術を生かすこと。 欠席、遅刻、早退等について必ず担当教員に連絡すること。 「PROGの強化書」を持参すること。			教科書・テキスト	「PROGの強化書」（配付済）		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	体験学習にかかる費用は自己負担とする。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
高等学校における進路指導の経験や小学校校長としての現任研修の経験をもとに、社会人として自己課題の明確化と、自己課題に対する主体性ある取組みの必要性を具体性を挙げて講義する。							

授業科目名	HC300U キャリアデザインV		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実・井上 克洋 (代表教員 若山 将実)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、「キャリアデザインⅠ」(MIP1)、「キャリアデザインⅡ」,「キャリアデザインⅢ」(MIP2),「キャリアデザインⅣ」で学んだことを活かして,就職活動に必要な実践力を養う。実践力を養う1つの方法として,インターンシップに参加する。そのために,説明会への参加,企業研究などの準備を行う。			①就職活動の流れを把握する。 ②就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 ③インターンシップに参加し,働く自分を具体的にイメージできるようになる。				
教授方法	講義, 演習						
履修条件	「キャリアデザインⅠ」～「キャリアデザインⅣ」を履修済であることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	就職活動とは何か: オリエンテーションとして授業内容と評価基準について説明した後,就職活動とインターンシップの基本について講義する。					全教員	
2	就職活動とは何か: 就職活動とインターンシップに関する代替課題に取り組む					全教員	
3	自分に合う企業の探し方: インターンシップの活用と企業の見方について理解する					全教員	
4	ジョブカフェ石川学内説明会参加: 就職活動に関する情報を収集する					全教員	
5	自分に合う企業の探し方: インターンシップの活用と企業の見方に関する課題に取り組む					全教員	
6	県のインターンシップフェス参加					全教員	
7	インターンシップ参加に向けて: 合同説明会の回り方とインターンシップの探し方について理解する					全教員	
8	リクナビインターンシップイベント参加: インターンシップについての情報を収集する					全教員	
9	自己分析はなぜ重要か: 社会人基礎力の判定					全教員	
10	マイナビインターンシップイベント参加: インターンシップについての情報を収集する。					全教員	
11	インターンシップイベントの振り返りと筆記試験の準備について理解する					全教員	
12	WEBテストの受検体験					全教員	
13	インターンシップ準備: 参加の心構えと企業訪問マナーについて理解する					全教員	
14	インターンシップ準備: 参加の心構えと企業訪問マナーに関する課題に取り組む					全教員	
15	インターンシップ参加: 希望企業のインターンシップに参加する。					全教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	①授業中のワークを達成できた。 ②講義・演習(グループワーク含む)に対して積極的に参加している。		インターンシップへの参加	40	インターンシップに参加した。	
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっている。 ②定められた期間内に提出している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
インターンシップに参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を行うこと。〔60分〕				課題についてコメントする。			
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので,真面目に,かつ積極的に取り組んでください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	インターンシップ参加については各自実費となります。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	HC310U キャリアデザインVI		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業はキャリア教育科目の集大成として、実際の就職活動の流れと並行し、より現実的な就活スキルについて実践的な学びを深める。具体的には、履歴書・エントリーシート等、就職活動で不可欠な書類作成の方法とさまざまな種類の面談方法への対応、就職説明会への参加方法等について、演習やディスカッションを通して理解を深める。			①履歴書・エントリーシート等の就職活動に必要な書類作成について、自分らしさを相手に伝わりやすい表現で作成することができる。 ②様々な面談において、自分の人柄や意欲などを相手に伝わりやすい表現で対応することができる。 ③就職説明会に関する情報を収集し、的確に対応することができる。				
教授方法	講義・演習・ディスカッション						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要に関する説明。就職活動の流れの把握。						
2	自分が希望する進路の明確化 ※ClassroomとMeetで実施						
3	就職活動に関する書類作成①：履歴書の書き方について理解を深める。						
4	就職活動に関する書類作成②：履歴書に書く内容を考え、表現する。※ClassroomとMeetで実施						
5	就職活動に関する書類作成③：エントリーシートの書き方について理解を深める。						
6	就職活動に関する書類作成④：エントリーシートに書く内容を考え、表現する。※ClassroomとMeetで実施						
7	面接に対する事前準備①：面接の種類と方法について、理解を深める。						
8	面接に対する事前準備②：リモート模擬個人面接を実施する。※ClassroomとMeetで実施						
9	面接に対する事前準備③：対面による模擬個人面接を実施する。						
10	面接に対する事前準備④：グループディスカッションについて理解を深める。※ClassroomとMeetで実施						
11	面接に対する事前準備⑤：模擬グループディスカッションを実施する。						
12	就職説明会に対する準備①：就職説明会の種類や開催時期、参加の方法等について理解する。※ClassroomとMeetで実施						
13	挨拶、身だしなみ、電話対応、手紙やメールの内容等、ビジネスマナーについて理解する。						
14	就職活動計画の立案：個々の就職活動計画を立案し、実施に向けて検討する。※ClassroomとMeetで実施						
15	今後の就職活動を意義あるものとするために、学びの成果を発表する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
受講姿勢	40	①授業・活動に対して積極的な姿勢で臨んでいる。 ②不明な点や疑問点を適宜確認・質問などができる。		課題への取り組み状況	40	履歴書、エントリーシート、面接などに対して適切に作成・対応できている。	
最終課題	20	①ビジネスマナーについての自分の考え ②面接に臨むにあたっての自分の考え ③就職活動に対する自分の決意等					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
履歴書の作成 [90分] エントリーシートの作成 [90分] 面接準備・練習 [30分] グループディスカッションの準備・練習 [30分]			履歴書・エントリーシート、面接準備シート、ディスカッションシートについて、適宜助言する。				
受講生に望むこと	時事問題、常識問題、基本的なマナーなど、就職に必要な知識と技術について、積極的に学んでほしい。		教科書・テキスト	「PROGの強化書」（配付済）			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
高等学校における進路指導の経験や小学校校長としての現任研修の経験をもとに、社会人として自己課題の明確化と、自己課題に対する主体性ある取組みの必要性を具体性を挙げて講義する。							

授業科目名	HC310U キャリアデザインVI		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	井上 克洋					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、「キャリアデザインV」に引き続いて行う内容となっている。「キャリアデザインV」で体験したインターンシップやそのための準備で経験したことをふまえて、社会で求められる力を認識するとともに、実際の就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			①社会で求められる力を具体的に述べることができるようになる。 ②就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			
教授方法	講義, 演習					
履修条件	「キャリアデザインI」～「キャリアデザインV」を履修済であることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：オリエンテーションとして授業内容と評価基準について説明した後、インターンシップ報告会のための業界分けについて説明する。					
2	インターンシップ報告会に向けた業界研究					
3	インターンシップ報告会の準備					
4	インターンシップ報告と業界研究会①					
5	インターンシップ報告と業界研究会②					
6	自己分析と履歴書のたたき台の作成					
7	履歴書を実際に作成してみる。					
8	マイナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する。					
9	リクナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する					
10	面接講座（模擬面接体験）					
11	学内キャリアガイダンスへの参加					
12	学内キャリアガイダンスに関連した課題に取り組む					
13	1年間の振り返りと行動計画					
14	合同企業説明会の歩き方					
15	1年間の振り返りと就職活動の行動計画を立てる					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークの達成度 ②講義・演習（グループワーク含む）に対して積極的に参加している。		発表	40	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっている。 ②定められた期間内に提出している。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
発表準備を進めること。業界・企業・職種研究を進めること。[90分]				発表について各グループごとにコメントします。		
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真面目に、かつ積極的に取り組んでください。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>①学内の情報環境を知り、Windows PCとChromebookの基本操作を習得する。  ②電子メールの送受信ができるようになる。  ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。  ④Word（googleドキュメント）の基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。  ⑤Excel（googleスプレッドシート）の基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。</p>				
教授方法	演習形式						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学内の情報環境を知る。Windows8の基礎操作を習得する。Chromebookの操作に慣れる。さまざまな文字の入力方法と添付ファイル付きでの電子メールの送受信の正しい知識を身につける。						
2	googleドキュメントで文章を作成し、Class roomに提出する。googleドライブの共有範囲（stdアカウント同士のみ可能である）を説明する。						
3	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。						
4	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。						
5	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったらしの作成方法を習得する。						
6	振り返り Word文章の作成と googleドキュメントの違いを再確認する。						
7	googleスプレッドシートの使い方に関する基本を学ぶ。 Excelとの違いを理解する。						
8	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。						
9	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。						
10	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。						
11	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。						
12	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。						
13	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。 Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。						
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。						
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト/課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)/ 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)	
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。  ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしようこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。  また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>			
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年 『2021年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2021年 ISBN 978-4-908434-65-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	全回、対面授業で実施予定		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	井上 克洋						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。演習「A」ではコンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めるために、代表的なアプリケーションである文書作成ソフト・表計算ソフトの操作方法を修得する。			このコースの履修後に学生は・・・ ①Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。 ②Excelの基本操作を習得し、目的に応じた関数を使用してデータを加工したり、適切なグラフ作成をしたりするスキルが身につく。 ③Chromebookの基本操作が身につく。 ④学びの中で互いに助け支えあう姿勢を大切にできるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：Google Classroom 設定クラス参加手続。習熟度に関する簡単なアンケートの実施。Word①：学術・ビジネス文書作成のための基本操作を身につける。						
2	Word②：Wordによる表の作成の仕方を身につける。						
3	Word③：図形、ワードアート、オンライン画像などの図形描画機能の使い方を身につける。Chromebook「ドキュメント」の使用方法について理解する。						
4	Excel①：基本操作を身につけ、書式を設定して見やすく編集できるようになる。Chromebook「スプレッドシート」の使用方法について理解する。						
5	Excel②：「厳選」関数を使いこなすⅠー合計・平均、構成比、最大値・最小値、順位付け、四捨五入・切り上げ・切り捨ての機能を使いこなせるようになる。						
6	Excel③：「厳選」関数を使いこなすⅡーVLOOKUP関数、IF関数、AND関数、OR関数を使いこなせるようになる。						
7	Excel④：伝わるグラフを作るー基本的なグラフの他、折れ線グラフ、レーダーチャート、積み上げ縦棒、複合グラフ（ABC分析）を作成できるようになる。						
8	Excel⑤：データベースを活用するⅠー並べ替え、オートフィルター、トップテン等の機能を用いてデータベースを目的に応じて活用できるようになる。小テスト準備演習						
9	小テスト①：Excel						
10	Excel⑥：データベースを活用するⅡー並べ替え、オートフィルター、トップテン等の機能を用いてデータベースを目的に応じて活用できるようになる；視点を変えて集計するⅠーピボットテーブルの使用						
11	Excel⑦：視点を変えて集計するⅡーピボットテーブルを用いて目的に応じて視点を変えた集計を行えるようになる。						
12	Excel⑧：効率化を図るⅠー表示形式の変更、数式のエラー回避、消費税の計算等ができるようになる。小テスト準備演習						
13	小テスト②：Excel						
14	Excel⑨：効率化を図るⅡー表示形式の変更、数式のエラー回避、消費税の計算等ができるようになる。Word & Excel 活用術：Excelで作成した表やグラフをWord文書に取り込めるようになる。学期末総合課題準備演習						
15	学期末総合課題						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
意欲・態度	30	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせているか；課題に積極的に取り組み、提出物を提出できているかを評価する。		小テスト①	15	Excel 関数を効果的に利用できているかを小テストへの取り組みの成果で評価する。	
小テスト②	15	Excel 関数を効果的に利用できているかを小テストへの取り組みの成果で評価する。		総合課題	40	Word と Excel の学修を通じて得たスキルを用いて総合的に取り組む課題の成果によって評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
コンピュータ操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題に繰り返し取り組むこと。[60分]				授業における例題演習中に机間巡視し、個別にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	演習時はサポートしあい、分からない時は挙手をして助けを求めてほしい。			教科書・テキスト	noa出版『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応』（ワークアカデミー、2013年）。〈ISBN：なし〉		
指定図書／参考書等	指定図書：なし／参考図書：なし			その他・特記事項	指定された日にはノートパソコンを持参する。PCルームは飲食厳禁。授業中の私語や内職、スマホ操作といった基本的マナー違反が繰り返される場合は厳しく減点。指定された日にはChromebookを持参。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。			①googleスプレッドシートの基本操作を習得する。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。					
2	googleスプレッドシート基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
3	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
4	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。					
5	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。					
6	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。					
7	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。					
8	PowerPoint描画：図形描画を使い、簡単な絵を掛けるようになる。前半の振り返りとして到達確認試験を行う。					
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
12	スライドショーを利用した作品の制作①画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。					
13	スライドショーを利用した作品の制作②：オリジナルのテーマを設定し、資料の読み込みと追加資料の検索及びテーマの確定を行う。					
14	スライドショーを利用した作品の制作③：マルチメディア作品を作る。					
15	スライドショーを利用した作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
達成度試験	10	授業中に学習した技術を用いて、指示に従いスライドの作成が自分だけでできる。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
最終課題	25	テーマに沿った作品であるか。画像・動画ファイルの切替えのタイミングに適切か。		演習問題	30	授業中に複数回、演習問題を課す。設問に沿って作業がなされているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①練習問題について、教員の指示なしでも完成できるようにする。 ②練習問題について、教員の指示なしでも完成できるようにする。 ③スライドのプレゼンテーションがスムーズに行えるように練習する。 ④スライドショーを利用した作品が、教員の指導なしに作成できる。 ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の手がかりが課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のための練習を行う。 これら①～⑤について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。				原則、課題を提出したよく週に返却。また、課題提出回の授業で使用することもある。		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応（第2版）』noa出版 2017年	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	全回、対面授業の予定	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	井上 克洋						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション能力が欠かせない。本コースにおいては、代表的なプレゼンテーションソフトであるMicrosoft PowerPointの基本操作を習得するとともに、より効果的なプレゼンテーション資料作成のための編集加工の基本操作を習得する。また情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養う。			このコースの履修後に学生は・・・ ①情報倫理に関する基本的な知識が身につく。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③Chromebookの基本操作が身につく。 ④効果的なプレゼンテーションについて理解するとともに、そのような資料を作成し発表できるようになる。 ⑤どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑥他者の発表のスキルから学び、それを正当に評価できる力がつき、自分の向上に役立てることができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明；Google Classroom クラスへの参加手続；Chromebookについて（「ドキュメント」による文書作成とGoogle Classroomによる提出；添付ファイル付きGmailの送受信；Google Drive の共有範囲説明）；「SNS利用に関する注意説明」						
2	情報倫理に関する基本的知識、電子メールなどによる文書作成の基本を身につける。情報倫理クイズ。						
3	[ステップ1]プレゼンテーションの基本理解：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。パワーポイントについて知り、「スライド」の使用方法についても理解する。						
4	[ステップ2：見やすいスライドを作る] PowerPointの基本操作1) スライドのテーマ；2) スライドの挿入；3) ワードアートの挿入・編集―簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する；4) オンライン画像の挿入						
5	5) : スライドレイアウトの変更；6) 表やグラフの貼り付け；7) 表の作成；8) 図形の挿入・編集―簡単な自己紹介用資料を実際に作成し始めてみる						
6	練習1；練習2、自己紹介スライド作成。						
7	[ステップ3：魅力的に仕上げる] 1) 背景に画像を使用；2) テーマと箇条書きの変更；3) 図形の挿入；4) テンプレートとして保存、プレゼン準備。						
8	5) オリジナルテンプレートの利用；6) 表やグラフの貼り付け；7) 図形の挿入・編集；8) SmartArtグラフィックの挿入・編集、プレゼン準備。						
9	9) ヘッダーとフッター；10) 画面切り替え効果の設定；11) アニメーションの設定；プレゼン準備。						
10	練習3；練習4、プレゼン準備。						
11	[ステップ4：発表に向けてしっかり準備！] 1) スライドショーの実行；2) ノートの入力；3) スライドの印刷；4) リハーサル、プレゼンテーションの発表順を決定。						
12	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を見出す。						
13	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を見出す。						
14	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を見出す。						
15	PowerPointプレゼンの実施と相互評価④：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を見出す。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
意欲・態度	20	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせる；毎時間の課題に積極的に取り組んでいる。		クイズ	10	情報倫理の基礎を理解しクイズに解答している。	
プレゼンテーション	40	1) 伝えたい内容が明確2) スライドがわかりやすく、習得したスキルを効果的に利用している3) はっきりと大きな声で、聴き手を見て発表する4) 時間内で発表できる。		提出物	30	プレゼン資料；フィードバックシートの提出とその内容によって評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
パソコン操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[60分]			授業の例題演習の間、机間巡視をし、その都度フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	情報倫理に関わるニュースにも関心を持ってほしい。		教科書・テキスト	noa出版『実践ドリルで学ぶ Office活用術2013対応』（ワークアカデミー、2013年）〈ISBN：なし〉；noa出版『2021年度版 情報倫理ハンドブック』（ワークアカデミー、2021年）〈ISBN：なし〉			
指定図書／参考書等	指定図書：なし／参考図書：山中伸弥・伊藤穰一『プレゼン力～未来を変える伝える技術～』（講談社、2016年）。〈ISBN：978-4062195638〉		その他・特記事項	指定された日にはノートパソコンを持参する。PCルームは飲食厳禁。授業中の私語や内職、スマホ操作といった基本的マナー違反が繰り返される場合は厳しく減点。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

子ども教育学科  
(1～3年次)



授業科目名	EK100U 基礎ゼミⅠ		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	川真田 早苗・松本 理沙・向出 圭吾・高村 真希・武田 恵美 (代表教員 川真田 早苗)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1年次の基礎ゼミでは、大学での基本的な学びの姿勢、知的探究の方法の修得を目指す。具体的には、基礎ゼミⅠにおいて、テキストを参考にしながら、ノートテイキング、レポート作成、文献の調べ方や文章の要約といったスタディスキルズを学び、大学での授業内容理解に必要な力を身につける。</p> <p>大学では「自ら学ぶ」という自主的、主体的姿勢が求められるので、ゼミでの学習を通して、大学生としての学びを主体的に進めていく積極的な姿勢を体感し修得していく。またゼミ内でのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を磨くことも目指す。</p>			<p>①大学での学び方について理解している。</p> <p>②図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を習得する。</p> <p>③ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。</p> <p>④レポートの書き方を理解している。</p>			
教授方法	各ゼミごとの演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	(前半合同) ゼミの進め方や履修登録の確認を行う。(後半) ゼミごとに自己紹介を行い、係りを決める。					全員
2	(合同) 図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。(テキスト第5章に該当)					全員
3	ゼミごとに図書館で借りた絵本の紹介文を書く。					各担当教員
4	(合同) スタディ・スキルズとは？：自己の目標設定、大学での学びについて考える。(テキスト第1章に該当)					全員
5	ノートテイキングのスキル：ノートテイキングの方法について学び、理解する。(テキスト第2章に該当)					各担当教員
6	(合同) レポートと感想文の違い、対比思考を活用し論理的な文章を書く方法を知る。(テキスト第8章に該当)					全員
7	レポートの構成を理解する。(テキスト第8章に該当)					各担当教員
8	(合同) テキストを読み、要約する方法を理解する。(テキスト第3章に該当)					全員
9	テキストを読み、要約する。(テキスト第4章に該当)					各担当教員
10	(合同) 情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、理解する。(テキスト第6.7章に該当)					全員
11	教員が提示した文章を読み要約する。					各担当教員
12	第11回で読んだ文章をもとに、自分の考えをレポートにまとめ、発表する。					各担当教員
13	第11回で作成したレポートを修正する。					各担当教員
14	(合同) 後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。					全員
15	教員が提示した文章を要約し、自分の考えをレポートにまとめる。提出期限はClassroomで一週間後とする。					各担当教員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加：50点、概ね参加：30点 無関心・意欲的でない：10点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		レポート	50	基礎ゼミⅠで指導した基本スキルを用いてレポートを作成しているかどうかを評価する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
<p>①大学での自主的・主体的学びを修得するため、各教員から提示される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネット等を利用し、情報収集とスタディ・スキルズに則ったまとめ方を目指す。 [60分]</p> <p>②授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、ゼミに臨むこと。 [20分]</p> <p>③各教員から紹介された文献等に関して、図書館で検索閲覧し、自分で内容を確認すること。 [30分]</p>				<p><b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b></p> <p>①質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。</p> <p>②毎回授業の初めに、前時の授業における振り返りを行い、質問や意見に対するコメントを行う。</p>		
受講生に望むこと	<p>少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ自分の意見も述べるように努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。</p>			教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版 2019年 ISBN：978-4-87424-789-1	
指定図書／参考書等	担当教員の指示に従うこと。／担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については、担当教員の指示に従うこと。 代替授業の場合はClassroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EK110U 基礎ゼミⅡ		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	川真田 早苗・中野 聡・虫明 淑子・幸 聖二郎・松本 理沙（代表教員 川真田 早苗）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
基礎ゼミⅡでは、基礎ゼミⅠで会得した主体的、対話的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学習し、論理的に考える力やディスカッションの力を高め、レポートの型を活用した表現能力の向上を図る。具体的には、各ゼミ内で決めた自分の研究テーマに沿って各自が発表し合い、ディスカッションを行う中で、互いの学びを共有すると共に、より多面的な見方・考え方を身につける。また、自己の研究目的を明確化し、将来設計との関連性を意識しつつ、プロゼミの学びへと繋げていく。			①ゼミ運営に積極的に協力し、話し合いによって深い学びを創り上げていこうとしている。 ②研究のための文献や資料を自分なりに収集することができるようになる。 ③自分の「問い」を立てることができるようになる。 ④レポートの書き方を理解し、研究内容を表現することができるようになる。				
教授方法	各ゼミごとの演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半（合同）：成績等に関する指導、履修の確認 後半（各ゼミ）：ゼミ代表・宗教委員の選出、自己紹介など					全員	
2	研究とは何かについて理解する。					全員	
3	論理的な文章を接続語を使って書く。					全員	
4	帰納的展開と演繹的展開を使って論理的な文章を書く。					全員	
5	パラグラフライティングを理解する。					全員	
6	「問い」の種類と立て方を理解する。					全員	
7	「問い」を立てる。					各担当教員	
8	レポートを作成する。					各担当教員	
9	レポートを作成する。					各担当教員	
10	レポートを作成する。					各担当教員	
11	レポートを作成する。					各担当教員	
12	ゼミ内におけるレポート発表（1）：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
13	ゼミ内におけるレポート発表（2）：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
14	ゼミ内におけるレポート発表（3）：一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
15	前半（合同）：2年次コース履修に関する説明（各コース代表教員） 後半（合同）：2年次の履修登録について及び活動の振り返り、最終レポート提出についての説明					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言 50 点 概ね参加 30 点 無関心・意欲がない 10 点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	レポート	50	①内容はオリジナルなものか、 ②参考文献の選定や引用は適切か。 ③時間内に収まる構成だったか。 ④他者に伝わるような話し方、内容だったか。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①各自レポート作成のための「問い」を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには日頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。〔各30分〕 ②レポート作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。〔120分〕 ③学内の環境（ILCやLLCなど）を有効に活用し、レポート作成ができるように準備する。〔60分〕			その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考にして自分の学びを深めていくように指導する。				
受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。		教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN：978-4-87424-789-1 （※基礎ゼミⅠから引き続き使用）			
指定図書／参考書等	担当教員の指示に従うこと。／担当教員の指示に従うこと。		その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する回の授業内容は、日程によって前後する場合がある。 代替授業の場合はClassroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	EK200U プロゼミA		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・齊藤 英俊・谷 昌代（代表教員 福江 厚啓）					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
プロゼミは、3年次より始まる専門ゼミの前段階として位置づけられている。基礎ゼミで培ったレポート作成やディスカッション能力等の技能を高め、より専門性を志向した展開を行っていく。			①ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。 ②専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文献を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。			
教授方法	各ゼミによる演習					
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済の者または「基礎ゼミ」履修中の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ゼミごとに授業概要、授業計画、成績評価方法、事前事後学習などの説明や自己紹介を行い、各ゼミの運営に関する説明と成績指導を行う。					各担当教員
2	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
3	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
4	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
5	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
6	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
7	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
8	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
9	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
10	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
11	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅰ：各ゼミ内で学生が発表を行う。					各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅱ：各ゼミ内で学生が発表を行う。					各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅲ：各ゼミ内で学生が発表を行う。					各担当教員
15	前半：2年次後期の履修登録等についての説明（合同） 後半：各ゼミのまとめ					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない5点を基準とする。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聴き手が理解しやすい発表となっているか。	
レポート	40	要点をおさえて、概要と意見を分けた文になっているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など [90分] ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。 [60分]			テーマ設定やレポート作成についての質問には適宜対応する。			
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢を持って参加すること。		教科書・テキスト	ゼミ担当教員の指示に従う。		
指定図書／参考書等	ゼミ担当教員の指示に従う。／ゼミ担当教員の指示に従う。		その他・特記事項	不明な点はゼミ担当教員に問い合わせること。 代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EK210U プロゼミB		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・虫明 淑子・高村 真希（代表教員 福江 厚啓）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持って自分の興味関心のある分野を深めていくなかで、専門ゼミでのテーマを絞りこめるよう専門性を追求していく。			①ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 ②専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。				
教授方法	各ゼミごとによる演習						
履修条件	「プロゼミA」を履修した者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：実習にかかわる成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	ゼミ内における発表Ⅰ					各担当教員	
13	ゼミ内における発表Ⅱ					各担当教員	
14	ゼミ内における発表Ⅲ					各担当教員	
15	前半：3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究についての説明（合同） 後半：各ゼミのまとめ					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	30	①研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ②ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べるができる。	レポート	40	①文章構成が適切か。 ②事実と自分の考えを区別して書いているか。 ③意見の根拠が明示されているか。 ④分かりやすい文章であるか。		
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 ②時間内で聞き手に分かりやすく発表している。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。[60分] ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。[60分]			テーマ設定やレポート作成等についての疑問は・質問の申し出にはいつでも対応する。				
受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。		教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。			
指定図書／参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。／各ゼミごとに教員の指示に従うこと。		その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。 代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EK300U 専門ゼミ I			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	川真田 早苗・伊藤 雄二・田邊 圭子・中島 賢介・中野 聡・宮浦 国江・虫明 淑子・村井 万寿夫・齊藤 英俊・永山 亮一・福江 厚啓・幸 聖二郎・谷 昌代・松本 理沙・向出 圭吾・高村 真希・武田 恵美 (代表教員 川真田 早苗)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献購読、ディスカッションを中心に理解に努める。その後、ゼミ担当教員のもとに、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート（8000字程度：該年度の1月下旬締切）の完成を目指す。				①ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ②各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。 ③ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④グループディスカッションを通して、教員や他のゼミ学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、プロゼミA・Bを履修し、単位を修得していること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
第1回	前半)ゼミ運営についてのオリエンテーションを行う。 (後半)各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方等ゼミプランの説明を行う。						各担当教員
第2回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第3回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第4回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第5回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第6回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第7回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第8回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第9回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第10回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第11回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第12回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第13回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第14回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第15回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第16回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第17回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第18回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第19回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第20回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第21回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第22回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第23回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第24回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第25回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第26回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第27回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
第28回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
第29回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
第30回	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②文献等の調査を積極的に行っているか。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしているか。	レポート	50	①指定された文字数、書式等が守られているか。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切か。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。 [60分] 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。			ゼミごとに随時行う。		
受講生に望むこと	①2年次後期に配布する「専門ゼミⅠ・Ⅱの登録と卒業研究について」の資料を熟読すること。 ②研究テーマに主体的に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。	
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。		その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせるようにしてください。 代替授業の場合はClassroomを用いて課題等を提示・提出することを基本とします。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	EK120U 地域社会と子ども		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・中野 聡・幸 聖二郎・高村 真希 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修の科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身につけるために、いつもは地域の子どものかわり（小学校参観、認定こども園を含む幼稚園参観・保育所参観又は中学高校参観）を体験することが、状況により、それぞれの発達段階に応じた子ども理解の講義を中心とした内容になる可能性もある。学生は課題意識をもってレポートに取り組むことを希望する。そして作成したレポートを発表かつ聞くことによって、他者の気づきから自己の学びを深める。			①講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。 ②参観した内容を客観的に記録し、そこから見えてくるものを順序立てて記述することができる。 ③それぞれの発達段階に応じた子ども理解の講義を通して、自分なりの考えをまとめ、レポートを作成することができる。 ④ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ⑤それぞれの発達段階の全体発表を聞いて、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。				
教授方法	講義、代替授業、ディスカッション、発表						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、学外体験活動時の諸注意、参観マナー等について理解する。					幸・中野 向出・高村	
2	児童期の子ども理解：児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、模擬授業のビデオ視聴を通して、小学校教諭と児童との関わり方を考える。事前レポートを作成する。					幸・中野 向出・高村	
3	学外活動体験① 小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。					幸・中野 向出・高村	
4	学外活動体験② 小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。					幸・中野 向出・高村	
5	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校や児童期の特徴、気づきについて話し合う。					幸・中野 向出・高村	
6	(代替授業) 小学校の講義、参観、ディスカッションを通して課題レポートとして作成する。					幸・中野 向出・高村	
7	幼児期の子ども理解：幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。事後レポートを作成する。					幸・中野 向出・高村	
8	学外活動体験② 認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。					幸・中野 向出・高村	
9	学外活動体験② 認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。事後レポートを作成する。					幸・中野 向出・高村	
10	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の幼稚園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。					幸・中野 向出・高村	
11	(代替授業) 幼稚園の講義、参観、ディスカッションを通して課題レポートとして作成する。					幸・中野 向出・高村	
12	乳児期の子ども理解：0歳から小学校入学までの子どもと保育所の果たす役割について理解する。又は、中学・高校の子ども理解：中学・高校の生徒理解と英語教育の現状について理解する。どちらも事前レポートを作成する。					全員	
13	学外活動体験③ 認定こども園を含む保育所参観又は中学高校参観：各自のねらいに沿って指定の保育所又は中学・高校（英語）の参観を行う。事後レポートを作成する。					全員	
14	学外活動体験③ 認定こども園を含む保育所参観又は中学高校参観：各自のねらいに沿って指定の保育所又は中学・高校（英語）の参観を行う。事後レポートを作成する。					全員	
15	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の保育所又は中学・高校の特徴、気づきについて話し合う。保育所又は中学・高校の講義、参観、ディスカッションを通して課題レポートとして作成する。					全員	
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	45	①講義において、積極的、意欲的に授業に参加し、ねらいをもって参観に臨んでいるか。 ②ディスカッションに積極的、意欲的に参加しているか。		事前事後を含む課題レポート	45	①各課題レポート：15点×3 ②指定の様式で作成しているか。 ③自分の気づき、考えを記述しているか。	
最終試験レポート	10	全体発表を聞いて、他者の気づきから自己の学びを深めて記述しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各講義終了後、それぞれ指定された期日までに事前及び事後レポートを作成する。[60分×3] ②課題レポートの見直し改善を行い、学びを深める。[60分×3]				①事後レポートを基にグループ内で振り返る。 ②課題レポートの見直し改善を行う。 ③試験として全体発表を聞いて、最終レポートを課す。			
受講生に望むこと	対面授業において、積極的、意欲的に授業に参加する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省 東洋館出版社 2018年 ISBN:9784491034607 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499			その他・特記事項	代替授業では、期日までに指定BOXに課題を提出すること。		
実務経験を活かした授業の概要							
伊藤：中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で起きた問題をテーマにしてグループディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。中野：小中学校の経験を生かして、今日的課題を発見し対処方法について考え、自分の言葉で語るように指導している。幸：小学校教諭としての経験をもとに、小学校参観を前に、小学生の発達段階について、具体的な事例を挙げて、説明したり、入門期の国語科の模擬授業を行った。向出：幼稚園現場とのパイプ役となり、幼稚園現場での参観を行い、遊びや生活についてのグループディスカッションを行っている。高村：保育所とはどのような施設であり、保育者は何を大切にされているのか、また、その場で乳幼児がどのように生活しているのかについて事前事後の検討会をしている。							

授業科目名	EK130U 教育学概論		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は教育学について基礎的な事柄を理解するため、教育の理念、歴史、思想をテーマとする。そして、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか西洋、中国、日本の教育史を概観し、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて講義を進めていく。</p>			<p>①教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子供・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。 ②学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解するとともに、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ③家庭や子供に関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子供観の類型を知る。）					
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）					
3	教育を成り立たせる要素①：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）					
4	教育を成り立たせる要素②：社会と人間（教育の場）（子供の発達に伴う教育の場としての家庭（学校（地域とそれらの関係について理解する。）					
5	教育を成り立たせる要素③：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）					
6	教育の歴史①：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）					
7	教育の歴史②：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。）					
8	教育の歴史③：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）					
9	教育の歴史④：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。）					
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。）					
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。）					
12	教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子供の成長と教育について考える。）					
13	教育の思想①：市民の育成と平和の創造（世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。）					
14	教育の思想②：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。）					
15	学習のまとめ：期末レポートのテーマ、作成の留意点をもとに作成する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	20	教育学の歴史について「西洋」「中国」「日本」から選択し、自分の考えを交えて書いている。 ※第15回授業時に作成するレポートを評価します。	課題解決	40	・講義内容を正しく理解している。 ・教育学について自分の考えを持っている。 ※代替授業（7回分）の課題解決ぶりを評価します。	
ミニッツコメント	25	対面授業時のミニッツコメントを評価します。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。 ※対面授業（8回分）の授業態度を評価します。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[40分] ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。[10分] ③教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、インターネット検索して調べる。[40分以上]			①課題内容を確認（添削）し、最終回の授業時に返却する。 ②期末レポートを採点する。			
受講生に望むこと	・どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨んでください。		教科書・テキスト	『教育学概論 第2版（教師教育テキストシリーズ）』、三輪定宣著、学文社、2019年出版、ISBN978-4-7620-2878-6		
指定図書／参考書等	『保育所保育指針』、厚生労働省、2017年告示、『幼稚園教育要領』、文部科学省、2017年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年告示		その他・特記事項	代替授業の課題はClassroomに投稿して提出してください。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。</li> <li>・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解したりディスカッションしたりしている。</li> </ul>						

授業科目名	EK140U 教職論		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・虫明 淑子 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種 (英語)・高一種 (英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教諭、小学校教諭及び中学校教諭免許取得に関わる教職に関する科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを果たすための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意識と自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本授業では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。各回における学びを、大学における授業・保育参観 (他科目でのものや実習につながる現場体験) と重ね合わせ、教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携の在り方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐこと等について考える。			①幼・小・中の校種を超えて教職の意義と専門性について理解する。 ②教員の職務と服務について理解する。 ③教師をめぐる現状と課題について知る。 ④教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。				
教授方法	講義 ワーク						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	これからの時代を生きる子どもにとって求められる教育のあり方について考える。					虫明	
2	「教育は、義務ではなく権利である」という視点から学校教育について考える。					虫明	
3	子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。					虫明	
4	現代の教育に求められる「資質・能力」とはなにかについて理解する。					虫明	
5	幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか、その理由について考える。					虫明	
6	私が出会った先生 (これまでの人生で、出会ってきた「先生」を振り返り、その出会いから、何を学んだかについて考える。)					幸	
7	これまでの人生における学び (これまでの幼・小・中・高時代の「先生」との出会いや体験を通しての「学び」を振り返り、プログラムデザイン曼陀羅図をもとに、グループで分かち合う。)					幸	
8	教科書『教師の資質』第3章「学校空間で追いつめられる子どもたち」を読んだの気づき、発見学びを200字程度で述べる。					幸	
9	私の目指す教師像 (子どもが求める教師像、保護者が求める教師像等を踏まえ、「私が目指す教師像」を明確なものとしていく。)					幸	
10	教科書『教師の資質』の第4章「担任教師に求められる学級経営力」を読んだの気づき、発見、学びを200字程度で述べる。					幸	
11	求められる教師像 (各県が求める教師像「児童生徒に対する教育的愛情を有する人」「責任感と使命感を有する人」「豊かな教養と専門的知識を有する人」「広く豊かな体験を持ち、指導力・実践力を有する人」「向上心を持ち、明るさ、積極性に富む人」石川県等の具体的な教師像について考える。)					幸	
12	教科書『教師の資質』の第5章「教師としての使命」を読んだの気づき、発見、学びを200字程度で述べる。					幸	
13	教職に対する情熱と子どもに対する責任感 (大村はま『教えるということ』から見えてくる「情熱」と「責任」について考える。)					幸	
14	教科書『教師の資質』の第6章「新たな時代に求められる教師の資質」を読んだの気づき、発見、学びを200字程度で述べる。					幸	
15	「教育基本法」にみられる「人格の完成」(教育の目的である「人格の完成」とはどういうことか、いかにして「人格の完成」を目指せばよいのか、教師として、どのようにして子どもたちに「人格の完成」を意識を向けさせるのか、その方法について考えることができる。)					幸	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
受講態度・授業参加状況	20	「対面授業」において、積極的に授業に臨んでいる。「代替授業」の課題について、意欲的に取り組み、期限内に提出している。		「代替授業」における課題 (内容)	40	授業内容に応じたミニレポートを書くことができている。	
課題小論文	40	①指示された書式・字数に従ってまとめている。 ②自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。 (詳細は授業内で説明)					
<b>授業外における学習 (事前・事後学習等)</b>				<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>			
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。[30分～60分程度] ②園行事や学校公開週間など、保育者・教師の姿を見ることのできる機会を逃さない。[適宜]				当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次の授業に反映させる。			
受講生に望むこと	* 自身が取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境について興味をもつこと。 * 夏休みや春休みの現場体験 (幼稚園・放課後等児童クラブ 他) を経験していることが望ましい。			教科書・テキスト	『「天才」は学校で育たない』ポプラ新書 汐見稔幸 2017年 ISBN:978-4591155844 『教師の資質』朝日新書 諸富祥彦 2014年 I S B N 978-4-02-273518-8		
指定図書/参考書等	なし/『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN:978-4-491-03189-7 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 きょうせい 2008年 ISBN:978-4-324-90002-4 『教職の意義と職務』森 秀夫著 学芸図書株式会社 2012年 ISBN: 978-4-761-60339-7 『教師になるということ』池田 修著 学陽書房 2013年 ISBN: 978-4-313-65236-1			その他・特記事項	各回の授業回を幼児教育期を中心に虫明、義務教育期を中心に幸が担当して講義し、適宜グループ討議する。授業外課題として現場訪問や子どもとの関わりが課せられることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
幸：小学校教諭としての経験をもとに、「求められる教師像」や「教職に対する情熱と子どもに対する責任感」「教師の資質」等について、小学校現場での具体的な事例を挙げながら説明し、ディスカッションを行っている。 虫明：教職者とはどうあるべきかについて、幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者、園や地域における子育て支援者、発達障害のある子ども及び保護者への支援者等の経験によって得られた実践知をもとに解説する。							

授業科目名	EK142U 保育者論		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	虫明 淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
子どもを取り巻く環境や生活状況の変化に伴い、園や保育者に求められる役割は多様化しているが、いかに時代が変わろうとも不変の保育者像がある。しかしながら、昨今の多忙を極める保育現場では、そのような理想像を追求する姿勢は見失われがちになっている。これからの社会を創り出していく子どもが自ら人生を切り拓いていく力を育成するための重責を担う保育者の役割としては、これまでに受け継がれた理想の保育者像に学ぶことは重要であり、そこから新たな問題に主体的に解決していくためのヒントを見出してほしい。本講義は、保育者という仕事に関連する基本事項を中心に学んでいくが、それらを通して、保育者の専門性の向上という使命を自分の問題として考えられるようになることを目的として進める。			①保育専門職としての社会的定義や制度について理解する。 ②保育者の職務内容と現状の課題について理解する。 ③不変の保育者像と新たに求められる役割について理解する。 ④保育者の専門性とは何かについて理解する。 ⑤保育者としての使命、研鑽について考えられるようになる。				
教授方法	講義・代替授業						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業の概要説明と学び続ける保育者とはなにかについて考える。						
2	教育・福祉の専門職としての社会的定義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。						
3	乳幼児の教育・保育の機能と保育者の役割について理解する。						
4	歴史上の保育者とその保育実践から学ぶ。						
5	幼稚園の生活とその職務内容：3・4・5歳児保育における1日の生活の流れと保育者の役割について理解する。						
6	保育所の生活とその職務内容：0・1・2歳児における1日の生活の流れと保育者の役割について理解する。						
7	幼保連携型認定こども園の生活とその職務内容について理解する。						
8	幼保連携型認定こども園の生活と職務内容から今後の保育者に求められる専門性とは何かについて考える。						
9	クラス担任としての役割と学級経営の基本について理解する。						
10	リーダーシップと組織としての学校運営について考える。						
11	保育者の専門性とは何かについて考える。（その1）						
12	保育者の専門性とは何かについて考える。（その2）						
13	保育専門職としてのキャリアステージについて理解する。						
14	保育者の専門性と幼児教育の質の向上について考える。						
15	まとめ：授業内試験						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	25	出欠席、リアクションペーパー、授業態度等	課題	35	講義内容の理解度・取り組み方		
授業内試験	40	講義内容の理解度					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前事後の予習復習[30分]			質問や疑問等には随時対応し、次回以降の授業に反映する。				
受講生に望むこと	保育者としてふさわしい態度で受講してください。		教科書・テキスト	『乳幼児 教育・保育シリーズ 保育者論—子どもの未来を拓く保育者の役割—』北野幸子・山下文一・橋沼芳江 光生館 2019 ISBN: 978-432701927 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499			
指定図書／参考書等	なし／授業内で適宜紹介する		その他・特記事項	受講者の興味・関心に沿って内容を変更する場合があります。偶数週は代替授業を行います。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
幼稚園教諭としてカリキュラム・マネジメント者及び保育指導助言者としての経験、特に、初任者研修担当者として、複数の新任保育者を継続支援してきた経験によって得られた知見を提示する。							



授業科目名	EK151U 特別支援教育論		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	谷 昌代・村井 万寿夫・田中 早苗 (代表教員 谷 昌代)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)・准学校心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>教職を目指す学生は、大学生活を通して保育、教育の現場で多様な子どもたちと実践的に関わる。本科目では講義、グループディスカッションを含むワークによって自身の育ちの過程での体験・ボランティア等で体験したエピソード、ビデオ映像を含む事例に対して「なぜ？」と考えることを積み重ね、「見えにくい障害」や「障害ではない特別の支援のニーズ」について知ることで、「異なる者」を受け入れる寛容性を育みつつ、子どもの姿から学ぼうとする志向性が個々の支援の方法を見出させるものであることを知る。保育者・教師が陥りがちな障害に対する誤解と不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性について知り、個々の場面での対応を導く「その人理解」には、乳幼児期から成人までの長いスパンでの俯瞰的な視座と園・学校といった集団生活の場と合わせて家族等での姿までを顧み総合的視座が重要であることを理解する。</p>			<p>①通常学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。②発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今目的状況を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。④合理的配慮の概念について理解し、自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考案することができる。⑤特別な支援を必要とする児者と共に生活する親や家族、更に保育者、教師が陥りやすい心情や状況について知り、家族支援やピアサポートについて理解している。⑥特別支援教育の制度の実態を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えて理解をつなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。⑦障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。</p>				
教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	発達障害という見えにくい障害に起因する生き辛さについて感覚過敏の事例から考える。					谷	
2	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校と家庭との連携の意味を考える。					谷	
3	発達障害をもつ子どもと教師のコミュニケーション事例の分析から個別支援計画について考える。					谷	
4	学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間接続について考える。					谷	
5	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。					村井	
6	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。					村井	
7	注意欠陥多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。					田中	
8	「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか？大人にとって「都合がいい」ことを目標としていないだろうか？					田中	
9	自閉症スペクトラム障害①：コミュニケーションの障害とは何か？語用論について理解する。					田中	
10	自閉症スペクトラム障害②：興味の偏りと発達凸凹がもたらす困難について考える。					田中	
11	学習障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。					田中	
12	二次障害：過剰適応からのウツと不登校問題をを中心に考える。					田中	
13	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。					田中	
14	障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。					田中	
15	インクルーシブ教育は、障害を持つ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人たちが享受する教育理念であることを理解する。					谷	
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況・態度	30	・対面授業への出席十代替授業課題提出状況 ・講義及びグループワークに積極的に取り組んでいるか。		授業内ワーク・研究ノート	20	①求められた課題に対して、資料を活用し調べられていること。②求められた課題に対して自分なりの考えを記していること。	
継続課題	20	授業内で課題を出題する。学習の進め方、評価基準等詳細は授業において説明する。		最終課題	30	①授業を通して学んだことを総合的に理解していること。②適切な資料によって調べられていること。背景や理由を考え、自分なりの理解につなげていること。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>・授業において、ミニレポートや授業内ワークを配布していく。配布物は各自でまとめ『研究ノート』として綴りファイルしておくこと。 ①障害、発達、言葉、コミュニケーションに関する用語、基本概念について調べる。 ②支援に関わる法律や制度について調べる。 ③配布資料から障害をめぐる諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。 [30～60分程度]</p>				ミニレポートと授業内ワークに記された関心・質問に次回以降の授業内容で対応する。			
受講生に望むこと	<p>・継続課題・最終課題への取り組みは、適切な参考資料に基づいて作成し、丁寧に仕上げる。 ・障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意してください。</p>			教科書・テキスト	適宜 配布資料		
指定図書/参考書等	なし/参考図書、文献等は授業内で適宜紹介			その他・特記事項	<p>・欠席時には、次回授業までに授業内ワーク等の配布物を必ず取りに来て、各自で学習を進めておくこと。『研究ノート』として抜けている箇所が無いようにすること。 ・代替授業の課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。</p>		
実務経験を活かした授業の概要							
<p>谷：保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、援助について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。 村井：特別支援学校や特別支援学級の教員と交流し、特別な支援を必要とする児童生徒の視覚教材や情報機器の活用について研究している。</p>							

授業科目名	EK220U 発達心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士・認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。			
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。					
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。					
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。					
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。					
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。					
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。					
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。					
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。					
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。					
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。					
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。					
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。					
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。					
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。					
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
最終試験	50	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]				①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②最終試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。		
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133	
指定図書／参考書等	なし／『保育の心理学』本郷一夫・飯島典子編 建帛社 2019年 ISBN:978-4767950914、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。						

授業科目名	EK230U 教育心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・中一種(英語)・高一種(英語)・准学校心理士・認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
教育心理学における主要な領域(発達、学習、評価、集団・適応)について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション:教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。						
2	発達と教育「発達における教育の役割」:ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。						
3	学習①「学習理論①」:学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
4	学習②「学習理論②」:学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
5	学習③「学習と教授理論」:どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。						
6	学習④「動機づけ」:やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。						
7	学習⑤「記憶」:学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。						
8	学習⑥「学習指導と個人差」:すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。						
9	評価①「パーソナリティ」:パーソナリティ(性格)とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。						
10	評価②「知能」:知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い(低い)」とはどのようなことか考える。						
11	評価③「教育評価」:教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。						
12	集団・適応①「学級集団」:学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。						
13	集団・適応②「不登校・いじめ」:不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。						
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」:発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。						
15	集団・適応④「学校カウンセリング」:学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。	
最終試験	50	教育心理学の主要な内容(発達、学習、評価、集団・適応)に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]				①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②最終試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。			教科書・テキスト	『スタンダード教育心理学』 服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN:978-4781913254		
指定図書/参考書等	なし/『教育心理学Ⅰ』大村彰彦編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学Ⅱ』下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744、『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN: 978-4623048861、『教育・学校心理学』水野浩久・串崎実志編 ミネルヴァ書房 2019年 ISBN:978-4623080078、『キーワードで読み解く特別支援教育』障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育 橋本剛一・三浦巧也・渡邊貴裕・尾高邦生・堂山亜希・熊谷亮・田口禎子・大伴潔編 福村出版 2020年 ISBN:978-4571121401			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例(いじめや不登校など)をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。							

授業科目名	EK240U 初歩文献講読		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目では子どもを中心に置く。子どもの行動を観察することは易しい、行動として見て取ることができるからである。しかし、頭の中で何を考えているか、つまり、思考を把握することは難しい。さらに、思考を伸ばすことはもっと難しい。そこで、『子どものものの考え方』の文献を購読し、子どものものの考え方を発達に従って理解する。そして、子どもへのかかわり方について自分なりの考えを持つ。さらに、各学生の考えをパソコンを使って共有しながら授業を進めていく。</p>			<p>①子どもの考え方に興味・関心を持っている。 ②文献を購読して「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」の観点から三色ボールペンで書き込むことができる。 ③毎回の授業の割当て箇所(節)を読んで感想を持つことができる。 ④子どもの考え方について「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」の観点から議論に参加することができる。</p>				
教授方法	演習・講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	はじめに:子どもの思考を知ることはなぜ大切かについて知る／文献購読する意識を高め、今後の意欲をClassroomに投稿する。						
2	思考とはどういうことか①:思考の意味について知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
3	思考とはどういうことか②:思考の種類について知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
4	思考とはどういうことか③:思考のはかり方について知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
5	子どもの思考はどのように発達するか①:発達するとはどういうことかについて知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
6	子どもの思考はどのように発達するか②:思考の発達のおしめちについて知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
7	子どもの思考はどのように発達するか③:論理的思考の生まれるまでについて知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
8	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか①:「いくつ」「何番目」という思考について知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
9	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか②:「どれほど」「どれだけ」という思考について知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
10	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか③:「どんな大きさ」「どんな形」という思考について知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
11	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか④:「いつ」「何歳」という思考について知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
12	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか⑤:「たまたま」「おそらく」という思考について知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
13	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか⑥:「なぜ」「どうして」という思考について知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
14	子どもの科学的思考をどう育てるか①:科学的思考の指導について知る／読後にClassroom(ドキュメント共有)で議論する。						
15	子どもの科学的思考をどう育てるか②:社会的思考の指導について知る／読後のレポートを書く。■課題の解決と提出						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
レポート	35	代替授業での読後レポートを書いて提出している。(7回分)	議論への参加	40	対面授業での全体議論(Classroomドキュメント共有)に進んで参加している。(8回分)		
文献の読み方	25	無料配付する三色ボールペンを用いて、感想を3つに分けて書いている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>①各回の授業の範囲(節)を事前に読み、該当ページ(行)にメモをする。メモの際、三色ボールペンを用いて、感想を3つ(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」)に分けて記す。[60分] ②分けて記した中から「感想」のものにしたい箇所にメモ書きする。[30分]</p>			<p>①代替授業による購読箇所(節)のレポートに対して、対面授業時に評価コメントを返す。 ②対面授業での議論への参加はClassroomで行うので、毎回、必ず自分のノートパソコンを持参すること。【必修】</p>				
受講生に望むこと	子どもの考え方が少しずつ分かってくると、子どもとかわかることがもっと楽しくなります。子どものことをもっと知りたいと思う気持ちを大事にして受講してください。		教科書・テキスト	『子どものものの考え方』、波多野完治・滝沢武久著、岩波新書490、1963年出版、ISBN4-00-412121-3 ※絶版になっているため授業担当者が用意し頒布する。			
指定図書/参考書等	なし／『子どもの認識と感情』、波多野完治著、岩波新書939、1975年出版、ISBN:4004121221		その他・特記事項	代替授業では、自分でテキストを読み、感想をドキュメントに書いてClassroomに投稿する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
「子どものものの考え方」について、現在の小学校で使っている教科書を学生に示しながら、科学的思考の発達の段階について考えさせている。							

授業科目名	EK160U 日本国憲法		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	土屋 仁美					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習します。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につけることを目的とします。			①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。			
教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）					
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）とその関係性について理解する。）					
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）					
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の種類、享有主体、適用範囲について理解する。）					
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）					
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）					
7	すぐそばにある差別：法の下での平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下での平等について理解する。）					
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考える。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）					
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）					
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）					
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）					
12	表現の自由がなくなったら？：表現の自由の重要性について考える。（第11回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）					
13	規制緩和の表と裏：職業選択の自由について学びます。（経済的自由に対する規制目的と審査基準について理解する。）					
14	どうする？ 子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）					
15	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	25	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。		小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8、12回)。
期末テスト	70	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。[20分] 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。[30分]				小テストの答え合わせは次の講義時に配布します。		
受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。			教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿—憲法の世界へ』、第6版、棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著、有斐閣、2019年、ISBN 978-4-641-28147-9	
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	状況の変化及び受講生の学修状況により、講義内容及び成績評価方法を変更する場合があります。 代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EK270U 異文化間コミュニケーション論		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	コミュニティ文化学科教員					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
異文化コミュニケーションには他者理解が必要である。自己の視点に依存することなく、他者の視点や考えを理解することで、ものの見方と捉え方の多様性を知ることができる。他者の考え方を理解することは、自己の視野を広げることにつながる。この授業では、自己の「あたりまえ」に囚われることなく、異文化を持つ他者の視点を取り込むことで文化に対する考え方を再考することを目的とする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する。</li> <li>・ことばのさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。</li> <li>・文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。</li> </ul>			
教授方法	ディスカッション、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、ICTを用いた双方向型授業					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：異文化コミュニケーションをいかに学ぶか					
2	ことばによるコミュニケーション①：言語と文化の関係について基礎知識を身につける					
3	ことばによるコミュニケーション②：ことばの含み、コミュニケーション・スタイルについて理解を深める					
4	ことばによるコミュニケーション③：ポライトネスについての理解を深める					
5	ことばのないメッセージ①：ノンバーバル・コミュニケーションについての理解を深める					
6	ことばのないメッセージ②：身体動作、ジェスチャー、アイコンタクトについての理解を深める					
7	ことばのないメッセージ③：アサーティブ・コミュニケーションについての理解を深める					
8	常識と固定観念①：美德、価値観に関する知識を習得する					
9	常識と固定観念②：ステレオタイプ、クリティカル・シンキングについての理解を深める					
10	常識と固定観念③：差別について考えるための知識を身につける					
11	異文化受容①：カルチャーショック、異文化受容における5つの段階についての知識を得る					
12	異文化受容②：メタ認知、自己開示についての理解を深める					
13	異文化受容③：国際化、グローバル化についてディスカッションを行うことで異文化理解についての理解を深める					
14	発表（プレゼンテーション）と総評 ①					
15	発表（プレゼンテーション）と総評 ②					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、メット等は授業で指示する。	参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表（プレゼン）	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。	コメントシート	10	事前事後の学習および授業のコメントを提出してもらう。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事後に体験レポートなどを課す。[30～40分]			提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を期待する。		教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『異文化理解入門』原沢伊都夫（著） 研究社 2013年（ISBN：978-4327377342）</li> <li>・『異文化トレーニング』八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子（著） 三修社 2009年（ISBN：978-4-384-01243-9）</li> </ul>		その他・特記事項	・代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EK280U 児童文学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。</p>			<p>①明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。 ②児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。 ③児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる。</p>				
教授方法	講義およびブックトーク						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、児童文学の定義について理解する。 ※Classroomにて動画配信						
2	「子ども観」をキーワードに、ヨーロッパにおける児童文学と日本の児童文学の歴史を概観する。						
3	「神話・伝説・民話」をキーワードに、伝承文芸の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。 ※Classroomにて動画配信						
4	「偉人だけが偉いのか」を主題として、歴史物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
5	「行って帰る」構図を中心に、冒険物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。 ※Classroomにて動画配信						
6	「小さい子を対象にした作品は短いほうがよいのか」という主張を中心に、幼年童話の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
7	「少年少女にとっての家族・学校」をキーワードに、少年少女小説の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。 ※Classroomにて動画配信						
8	「動物は観るものなのか、飼うものなのか、食べるものなのか」を主題として、動物物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
9	「戦争児童文学はなぜ反戦児童文学ではないのか」を主題として、戦争児童文学の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。 ※Classroomにて動画配信						
10	「絵本の発祥は西洋か、日本か」を主題として、絵本の歴史を理解し、代表的な作品を読み解く。						
11	「このファンタジーと向こうのファンタジー」を主題として、ファンタジーの特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。 ※Classroomにて動画配信						
12	「わらべうた、唱歌、童謡はどう違うのか」を主題として、童謡の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
13	「『君たちはどう生きるか』が漫画化された、アニメ化された」を主題として、漫画及びアニメーションの特徴を理解し、原作、漫画、アニメ作品を比較検討する。※Classroomにて動画配信						
14	「大人に利用される児童文学」を主題として、児童文学や教科書が社会的問題に利用された事例や危険性について理解する。						
15	全体のまとめ、課題作成のためのアドバイス ※Classroomにて動画配信						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
受講態度	20	授業内容理解に努め、各回のコメントペーパーや課題に取り組んでいる。		ブックトーク	30	各自で設定したテーマに従って児童文学作品を複数冊紹介する。	
最終課題	50	ブックトークで紹介した作品について、それぞれが持つ特徴や魅力についてレポートにまとめる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
奇数回に配信された動画を視聴し課題を作成する。〔90分〕 担当回までにブックトークの準備を行う。〔60分〕				課題やコメントペーパーについて、事後にコメントし、レポート作成へのアドバイスを行う。			
受講生に望むこと	子どものために書かれた作品は幅広く奥深い。作品は通読するだけでなく、自分なりに課題意識をもって読むこと。			教科書・テキスト	『アプローチ児童文学』関口安義編 翰林書房 2019年 ISBN : 978-4877372576		
指定図書／参考書等	なし／『児童文学の教科書』川端有子 玉川大学出版部 2013年 ISBN : 978-4472404634 『児童文学論』リリアン・H・スミス 岩波現代文庫 2016年 ISBN : 978-4006022822			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EK290U 郷土の文学を楽しむ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、朗読会への参加、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。			①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。			
教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、朗読会、研究発表会					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。					
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。 ※Classroomにて配信する。					
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勸進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。					
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。 ※Classroomにて配信する。					
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。 ※Classroomにて配信する。					
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。 ※Classroomにて配信する。					
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。 ※Classroomにて配信する。					
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
12	フィールドワーク：各自が設定したテーマに沿った文学館・博物館・文学碑を巡り調査を行う。					
13	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。					
14	北陸学院と文学：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。※Classroomにて配信					
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	講義内容、感想や考察などをコメントペーパーにまとめる。		朗読会	30	自作の詩の創作と朗読を行う。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。[30分] 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行い調査レポートを作成する。[180分]			毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーや課題の内容を紹介しコメントする。			
受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。他学科生の履修も歓迎する。フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。		教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア 石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編 能登印刷出版 2001年 ISBN：978-4890103898		その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」( <a href="https://www.aozora.gr.jp">https://www.aozora.gr.jp</a> )でも読むことができる。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	ES201U 英語学概論		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、ことばの変化、音、語彙・基本的な文構造についての基礎を学ぶ。			・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。 ・英語という言語の発音・発音とスペリングの関係・形態論・変化などについて基礎知識を身につける。			
教授方法	講義					
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る					
2	ことばの起源と語族について概観する					
3	人間のことばの特質と言語研究の概要を英語を中心に学ぶ					
4	さまざまな言語研究の方法を知り、分析的観点で英語を捉える					
5	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する					
6	英語の語彙の多様性について理解する					
7	英語の歴史と標準英語の成立について知る					
8	ことばの変化について知る					
9	英語のバリエーション、第二言語としての英語、外国語としての英語について、現在の英語をめぐる状況とともに知る					
10	ことばと音声の関係を理解する					
11	音の組み合わせとアクセントの仕組みや法則性を理解する					
12	単語ができる仕組みを理解する					
13	形態論と形態素、語形成の概念を知り、理解を深める					
14	英語の文の基本的な構造を理解する					
15	全体のまとめ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	40	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。		定期試験	60	講義内容の理解度
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。 [50分] ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。 [40分]				返却時に行う		
受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ（聞く・話す・読む・書く）、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。			教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書／参考書等	開講時に指示する			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ES301U 英語学		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の選択科目である。(子ども教育学科Cコースの学生にとっては必修科目である。) 「英語学概論」で学んだことを基礎に、ことばのもつさまざまな側面のうち、英語の文の構造、意味の捉え方、意味拡張、ことばと認知/社会/文化/コミュニケーションとの関係について言語使用の観点から学ぶ。			・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な、さまざまな側面からの英語学的知見を身につける。 ・英語という言語の統語論・意味論・語用論・社会と言語の関係・文化と言語の関係を理解する。 ・講義の中で学んだことを踏まえて、日本の英語教育と今日の英語について概観し、今後の方向性や課題について考えることができる。			
教授方法	講義					
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③「英語学概論」を履修済みが望ましい					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	英語の文の構造を理解する					
2	ことばの意味とはどのようなことかを理解する					
3	語と語の関係について学ぶ					
4	意味拡張とはどのようなことかを理解す④					
5	ことばの意味に見られる主観性について理解する					
6	ことばの意味とコンテキストについて考える					
7	まとまりのある文章とはどのようなものか理解する					
8	文章中の情報構造を理解する					
9	ことばのやりとりにおけるハールがあることを理解し、使ってみる					
10	協調の原理と関連性理論について理解する					
11	コミュニケーションの民俗誌を概観する					
12	ことばと文化の関係を英語を例に考える					
13	ことばと社会の関係について、具体例を挙げながら考える					
14	ことばと国家の関係について、具体例を挙げながら考える					
15	日本の英語教育と今日の英語について理解し、課題意識をもつ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。		定期試験	70	講義内容の理解度
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。 [50分] ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。 [40分]				返却時に行う		
受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。			教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書/参考書等	開講時に指示する			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ES210U 英語音声学 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・日本語とは異なる英語のリズム、音体系について理解する。 ・英語の子音を中心に、調音点・調音法に留意しながら正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション: 「音声学」ではどのようなことを学ぶのかを知る					
2	英語のリズムと日本語のリズムを比較しながら理解する					
3	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する					
4	調音点にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する					
5	調音法にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する					
6	破裂音(1) 破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
7	破裂音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
8	摩擦音(1) 摩擦音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
9	摩擦音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
10	破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
11	鼻音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
12	側音の仕組みを知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
13	接近音(1) 接近音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
14	接近音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
15	まとめ 英語の子音体系を調音との関係から振り返りまとめ、英語らしい発音で英文を読む					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	30	単元の理解度	音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか	
定期試験	50	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく。[40分] ・付属音声教材を聞いて何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする。[50分]			返却時に行う			
受講生に望むこと	・常日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。		教科書・テキスト	①『Basic English Pronunciation for Japanese』 染谷正一 2000年 三修社 ISBN: 978-4-384-33308-4 ②他に必要な教材は適宜配布する		
指定図書参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson 著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ES310U 英語音声学Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。英語音声学Ⅰに引き続き、音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> <li>英語音声学Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。</li> <li>英語の母音を中心に、正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。</li> <li>語強勢やイントネーションなど英語のプロゾディについて基礎知識を身につける。</li> <li>「英語音声学Ⅰ」「英語音声学Ⅱ」で学んだことを踏まえて、平易な英文を英語らしい発音で読むことができる。</li> </ul>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい、④「英語音声学」を履修していること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「英語音声学Ⅰ」で学んだ子音、接近音の中で特に注意すべき発音を確認する					
2	英語の母音体系について概観する					
3	前母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
4	後母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
5	中母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
6	二重母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
7	語強勢と句強勢について学び、ストレス・パタンに注意して発音する					
8	シラブルとは何かを学び、英語のシラブル構造を具体例の発音とともに理解する					
9	機能語と内容語の区別を知り、文強勢にどのような影響するかを発音練習を通じて理解する					
10	強形と弱形について学び、リズムに注意した発音練習を通じて理解する					
11	連結とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
12	脱落とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
13	同化とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
14	イントネーションの仕組みと意味を学び、練習を通して理解を深める					
15	まとめ プロゾディの重要性を確認し、英語らしい発音に留意して英文を読み、自己の発音についての課題を把握する					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	20	単元の理解度	音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか	
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく。[40分]</li> <li>付属音声教材を聞いて何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする。[50分]</li> </ul>			返却時に行う			
受講生に望むこと	・常日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。		教科書・テキスト	①『Basic English Pronunciation for Japanese』 染谷正一 2000年 三修社 ISBN: 978-4-384-33308-4 ②他に必要な教材は適宜配布する		
指定図書参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ES220U 言語教育のための英文法 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきかを学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。</p>			<p>①英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。(具体的にはCEFR B1~B2(実用英語技能検定2級~1級)程度の力を習得する。)</p> <p>②中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。</p>			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。現在形にはどのような種類があり、単純現在形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を用いることができるようになる。					
2	単純現在形と現在進行形の文構造の違いを理解し、「動作動詞」と「状態動詞」の区別ができるようになること。また、その区別を意識しながら、適切な場面や文脈で現在進行形の文を用いることができるようになる。					
3	単純現在形と現在進行形の意味の違いを理解し、aspect(相)の概念を把握できるようになる。また、英語には「進行相」と「完了相」があることを説明する。					
4	単純現在形と現在進行形で用いられる動詞の違いを理解し、それぞれの場面に応じて単純現在形と現在進行形のいずれかを、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
5	過去形にはどのような種類があり、単純過去形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形の文を用いることができるようになる。規則動詞と不規則動詞を振り返り、単純過去形の疑問文や否定文を適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
6	動作動詞や状態動詞の概念を振り返り、単純過去形と過去進行形の違いを理解し、過去進行形を適切な場面や文脈で用いることができるようになること。					
7	現在形における現在完了形の位置づけを理解し、時間的な意味の特徴を確認しながら、適切な場面や文脈で用いることができるようになること。ここでも aspect(相)の概念を振り返り、英語特有の表現方法を知る。					
8	現在完了形と過去形との違いを理解する。特に現在完了形は過去形ではないことを再確認し、「現在と何らかの関係」があることを理解する。just, already, yet などとともに、適切な場面や文脈で現在完了形を用いることができるようになる。					
9	現在完了形と過去形との違いを教科書の図を用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。また、「過去の時を指定する語句」と現在完了形が共起しないことを理解し、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
10	現在完了形と現在完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で現在完了進行形を用いることができるようになる。					
11	現在完了進行形と単純現在完了形との違いを教科書のイラストを用いて、動作の完了や継続を意識しながら意味を理解できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、know, like, believe などの例外を理解する。					
12	現在完了形とHow long~?の共起関係を理解し、過去形とWhen~?の共起関係との違いを理解する。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
13	過去形と過去完了形の違いを理解し、特に後者の「基準点」の概念を把握できるようになる。また、時間的な意味の違いを時間軸の中で理解できるようになる。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
14	過去完了形と過去完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で過去完了進行形を用いることができるようになる。					
15	全体のまとめを行い、教師という教える立場で文法の功罪をディスカッションし、後期「言語教育のための英文法II」へのモチベーションを高める。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分]</p> <p>②予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[60分]</p>				<p>①小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。</p> <p>②小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。</p>		
受講生に望むこと	<p>①教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。</p> <p>②最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。</p>			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』第4版 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2021 ISBN:978-4889969467	
指定図書/参考書等	なし/『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 978-4304051692、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2019 ISBN-13: 978-4304051784			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき(特に文法)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心掛けている。						

授業科目名	ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきかを学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。</p>			<p>①英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。（具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～1級)程度の力を習得する。） ②中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。</p>			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。英語で未来を表す表現にはどのような種類があり、現在進行形と単純現在形では、どのような未来を表すかを説明し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を未来を表す表現として用いることができるようになる。					
2	現在進行形とbe going to を用いた未来表現の違いを理解し、is going to と was going to の違いを考える。その際、「確実に予想できる未来」の概念を把握できるようになる。また、その概念を意識しながら、適切な場面や文脈で be going to を用いることができるようになる。					
3	法助動詞will (1)：動詞によって表される状態や出来事に対する話し手・書き手の態度を示す働きがあることを理解し、will 以外にどのような法助動詞があるかを考える。また、will には提案、承諾、要請、約束、依頼などの状況で用いられることを理解し、状況を判断しながら、will を用いることができるようになる。					
4	法助動詞will (2)：法助動詞として未来を予測する働きがあることを理解する。will と I expect, I'm sure, I think, I guess, I wonder などの共起関係では、文全体に「丁寧さ」が加味されることを意識しながらwill を用いることができるようになる。					
5	will と be going to：この二つの未来表現の違いは話し手が何かを決心する時点の違いにあることを説明する。その説明を基に例文を黙読しながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill や be going to の違いが確認できるようになる。					
6	will be `ing と will have done：この二つの未来表現の違いは未来の時点における動作の始まりや完結を表すことにあることを説明する。その説明を基に例文を見ながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill be `ing やwill have done の意味や場面の違いが確認できるようになる。					
7	時や条件を表す副詞節内の時制：時を表すwhen節内ではwill を用いないことを説明し、その理由を考えてみる。また、時を表す副詞節には、他にどのような例があるかを考えてみる。同様に条件節内でも同じことが起こることを確認する。以上のことを踏まえ、when, as soos, as, if などを英文に用いることができるようになる。					
8	法助動詞can：can の過去形could はその意味が必ずしも過去形にならないことを説明し、be able to や manage to との関係を理解する。また、could と「知覚や思考に関する動詞」共起関係及びcouldn't を用いた否定文の用法を理解し、それぞれを英文に用いることができるようになる。					
9	could do と could have done：ここではまず初めに、過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明する。後者の意味から、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを説明する。また、could do の過去はcould have done の形になることを理解する。					
10	必然性や推量を表すmust：must には過去形がないことを確認し、必然性や推量の意味を表す場合の過去は、must have done の形をとることを説明する。また、可能性の意味を表すcan't とcouldn't の違いを考えながら、それぞれを英文に用いることができるようになる。					
11	法助動詞may：may の過去形might の意味が過去形にならないことを説明する。ここでも 過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明し、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。					
12	may と might：推量の意味を表すmay の過去は may have done, また might の過去はmight have done になることを説明する。また、may と might には大きな意味的な違いがないことを理解する。					
13	shall と should：shall と should の関係、should と ought to の違いを説明する。その説明から、must, will, ought to, should, can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。					
14	仮定法過去：過去形の二つの用法を振り返り、「時間的な過去」と「心理的な過去」の概念を把握できるようになる。また、仮定法過去では、現実には起こりえないことを想像するということを説明し、実際に仮定法過去の英文を用いることができるようになる。					
15	仮定法過去完了：仮定法過去を復習し、ここでは事実とは異なる「過去の出来事」に焦点を当てることを説明する。仮定法過去完了を用いた文構造や意味について、教科書の例文を通して確認し、実際に用いることができるようになる。					
<b>成績評価方法及び基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	40	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	40	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[60分]				①小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 ②小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。		
受講生に望むこと	①教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。 ②最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法（中級編）』第4版 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2021 ISBN:978-4889969467	
指定図書／参考書等	なし／『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 978-4304051692、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2019 ISBN-13: 978-4304051784			その他・特記事項	①前期「言語教育のための英文法Ⅰ」よりも進度が早くなるので計画的に予習を心がけること。 ②代替授業をする場合はClassroomを用いて課題を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生自身の文法力をメタ認知させるよう心掛けている。						

授業科目名	ES231U 英語文学 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	木梨 由利					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
英米において英語で書かれた文学作品を、文学史の中で、あるいは個別に捉えることで、英語による表現への理解を深めると共に、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。			1) 文学を論じる時に使用されている様々な英語表現について理解している。時代によって言語の用い方や意味が変化してきたことも併せて理解する。 2) 文化や歴史など、多様な文学作品が生まれた背景を広い視野を持って理解している。 3) イギリスおよびアメリカで、英語を用いて書かれた代表的な文学作品について理解している。			
教授方法	基本的には講義科目となりますが、時に受講者に質問をしたり、作品への解釈を求めるなど、受講者の発言を促しつつ進めます。					
履修条件	中学または高等学校の英語教諭免許の取得を希望する者、または、英語や英文学の学習に関して同程度の意欲を持つ者に限る。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業に関するガイダンス。 イギリスという国のなりたちと、古英語の文学が現れる頃までについて理解する。					
2	古英語・中英語の文学の時代（11世紀頃～14世紀末）からルネサンス期の半ばまでの代表的などを通して、中英語が近代英語に変化していく過程をも理解する。					
3	シェイクスピアの時代（16世紀～17世紀初頭）を中心に それ以前の演劇の発生過程や、シェイクスピアの同時代人の詩や演劇についても理解する。					
4	ジェイムズ王の時代からドライデンの時代へ（17世紀初期～後期） ミルトンなど、清教徒革命や王政復古など動乱の時代に生きた作家たちの人生にも着目したい。					
5	ポープの時代からジョンソンの時代へ（18世紀） 理性や秩序が重んじられた時代であるが、次第にロマン主義の萌芽も見いだされるようになることにも注目する。					
6	小説の始まりと発展（18世紀中期～19世紀初期）小説というジャンルの創始者であるリチャードソンたち4人の作家と女性作家の登場について理解する。					
7	ロマン主義時代（18世紀末～19世紀中期）と、19世紀後期の詩と散文。 ワーズワースの詩などを実際に読む。					
8	ヴィクトリア時代(1837-1901)の小説。「小説の世紀」とも呼ばれる19世紀に活躍した、ディケンズ、ブロンテ姉妹、G. エリオット、ハーディなどの作品について理解する。					
9	20世紀初頭の文学 コンラッド、ジョイス、ウルフなどに焦点を当てる。その後の作家については、流れとして若干触れる。					
10	アメリカ植民地時代の文学（17～18世紀） エドワーズやフランクリンなどを中心に、ピューリタニズムやヤンキーイズムなど、アメリカ文学の特性を理解する。					
11	独立から南北戦争の時代(18世紀後期～19世紀後期)まで アメリカ独自の文学が育ち始める時代の、主として散文を、その背景との関係において理解する。アーヴィング、クーバー、エマソンなど。					
12	アメリカ文学の開花期（19世紀中期）ともいうべき時期における詩や小説。 ポー、ホーソン、ホイットマンなどについて、代表的な作品の一端に触れつつ、理解する。					
13	リアリズムの時代（19世紀後期～20世紀初頭）について。 トウエインやジェイムズなどの文学について理解する。					
14	リアリズムの時代において、自然主義の作家とされるクレイン、ドライサーなどの作品について学習する。					
15	第一次世界大戦以後の文学（1920年代と30年代）について。 フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナーなどの文学の一端を知る。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
学期末試験の結果	50	授業の内容を正確に理解しているか、また、理解したことを自分の言葉で表現できているか。		小テスト（毎週または隔週で実施）	30	前回の授業で出てきた人名や作品名、文学用語などを、指示された言語で、正確に書けるか。
授業中での貢献度	20	授業中に発言などを求められた時、それに的確に応え、他の受講者にも利することができるか否か。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①授業では、テキストにある情報を取捨選択し、時には情報の追加もするので、テキストや配布資料に事前に目を通すことが必須である。[2時間以上] ②また、小テストでは、前回の授業で話したことから出題するので、テストの準備も含め、学習したことを整理しておくことが必要である。[1時間以上]				小テストやその他の課題は次回の対面の授業時に返却します。期末試験については、次学期の適当な機会を探します。		
受講生に望むこと	限られた時間の中で、それぞれの作品について深く語ることは不可能であるので、自分で作品を実際に読んでみるなど、主体的、積極的に勉強に取り組んでいただきたい。そうすれば、理解度も楽しみも増すはずです。			教科書・テキスト	『イギリス文学史』 川崎寿彦著 成美堂 1991年 ISBN13:978-4791934034 『アメリカ文学史』 西田実著 成美堂 1991年 ISBN13: 978-4791934003 随時プリントを配布します。	
指定図書／参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』 上田和夫・渡辺利雄編著 研究社 2005年 ISBN -13: 978-47674900663 『英語文学事典』 木下卓・高田賢一 他 編著 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN-13 :978-4623041299 その他については授業で紹介します。			その他・特記事項	代替授業は、Classroomを用いて同時双方向型の授業を行うか、もしくは課題を提示します。パソコン環境の確保をお願いします。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						

授業科目名	ES331U 英語文学Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	木梨 由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
主として子どもや青少年を中心とする英文学作品を精読し、英文を正確に理解できることが最初の一步となる。その上で、テーマや技法、作者の意図などについて、ディスカッションを通じて理解を深めていく。評論や文学辞典なども活用し、単なる思い付きではない、根拠のある議論を進めることができるようにする。同時に、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めていく。このようなプロセスを通じて、英語の総合的な力を養うとともに、人間や人間の心理に対する理解を深め、自分の「読み」を表現する力も養成する。			英語文学Ⅰで学んだ知識・理解を土台として、本講義では英語で書かれた文学作品の講読とディスカッションを通じて、英語による表現への理解を深め、運用能力の向上を図り、同時に、文学の鑑賞眼を養う。英検でいえば、2級から準1級程度の難度の英語が苦勞せずに読め、また、自分の「読み方」を、英語で紹介できるようになる。また、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。				
教授方法	作品を読んで、表現や内容について教師や他の受講生と意見を交換したり、時には受講生に教師の役をやってもらう演習方式です。						
履修条件	中学校または高等学校の教諭の資格を取得できるための学力や意欲を備えていること。また、英語文学Ⅰを取得済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業についてのガイダンス。導入として、ジャーナリズムの英語などと比較して、文学の英語とはどういうものか考える。						
2	事前にスキヤン（辞書などを用いず、ざっと読むこと）をしてもらっておいたイギリスの作品（A）の、登場人物や物語の設定などについてクラスで話し合うことによって理解を深める。						
3	作品（A）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。						
4	作品（A）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。						
5	作品（A）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。						
6	アメリカの短篇小説（B）の講読と鑑賞。作品をおおまかに読んでおいて、その枠組みを読み取り、クラスで議論する。						
7	作品（B）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。						
8	作品（B）の後半を理解したことをクラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。						
9	作品（B）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。						
10	作品（C）のおおまかに読んでおいて、読み取ったことをクラスで議論する。						
11	作品（C）を事前に精読しておいて、前半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。						
12	作品（C）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。						
13	作品（C）について、作品の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。						
14	三作品の内容や特徴を改めて比較考察した上で、もっとも気になる作品とその理由などをそれぞれクラスで発表する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合（%）	評価基準	評価項目	割合（%）	評価基準		
定期試験	50	語彙や文法が正しく理解ができているか。また、作品の理解の仕方に説得力があるか。	提出物や発言の内容	30	課題に積極的に、真剣に向き、自分の意図を的確に伝えられているか。		
小テスト	20	英語の表現について正しい理解がなされているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
作品を自分で講読したり、作者について調べ、レポートにまとめたり、クラスで発表をしてもらうことになります。辞書を丹念に引くことが必須で、最低2時間の予習は必要。②作品中の表現を自分で使えるものにし、ディスカッションの後に問題点を整理するために、毎回1時間程度の復習も必要と考えていただきたい。			小テストやレポートなどについては次回の授業でコメントを添えて返却します。その他、疑問や議論に対してその都度、解答やコメントを示します。期末試験については、返却が無理な場合は、解答や問題点をオンラインで示します。				
受講生に望むこと	必ずしも日常的でない英語表現に出会っても、辞書を引くことを厭わないこと。インターネットの記事などに安易に頼らず、然るべき文学事典や批評書を使うこと。理詰めだけでなく、フィクションを楽しめる柔軟な考え方を持てることが望ましい。		教科書・テキスト	プリントを配布します。最初はPenelope Livelyの”Next Term, We'll Mash You”を読みます。			
指定図書／参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』上田和夫・渡辺利雄編著 研究社 2005年 ISBN-13: 978-47674900663 『英語文学事典』木下卓・高田賢一 他 編著 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN-13: 978-4623041299 その他については授業で紹介する。		その他・特記事項	辞書は必ず持参してください。演習形式であるし、作品の長さ、難易度の違いによって、必ずしも計画通りには行かないことも予想できません。二作日以降で取り上げる作品、進度などについては、受講者と相談をしながら柔軟に進めていきます。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							



授業科目名	ES241U 英語圏の児童文学		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	木梨 由利					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史を学ぶ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の実人生とのかかわりの中で理解を深める。</p>			<p>児童文学の歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのみならず、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。</p>			
教授方法	児童文学の大まかな歴史はスライドを用いた講義形式となるが、作品を実際についている受講者があれば、読後感等を発表してくれるのは歓迎したい。また、歴史を知るだけでなく、実際に作品の一部を英語、または日本語の翻訳で読む。また、各目、作品を1作読み、その作品を他の受講者に紹介するという形で、プレゼンテーションをしてもらう。講義の理解度をはかるための小テストも随時実施する。					
履修条件	原文講読も含むので、一定レベルの英語力を有することが要件となる。また、英語文学 I を履修済みであることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業に関するガイダンス 児童観の変遷による「児童文学」の誕生について。					
2	19世紀半ば頃までのイギリスの児童文学（『ロビンソン・クルーソー』『シェイクスピア物語』『クリスマス・キャロル』など）について理解し、また、一部を読む。					
3	19世紀後半のイギリスの児童文学（『不思議の国のアリス』『宝島』『ノンセンスの本』など）について理解し、また、一部を読む。					
4	20世紀前半のイギリスの児童文学（『砂の妖精』『風にのってきたメアリー・ポピンズ』『クマのプーさん』など）について理解し、また、一部を読む。					
5	20世紀半ば頃のイギリスの児童文学（『ホビットの冒険』『ライオンと魔女』『グリーン・ノウの子どもたち』など）について理解し、また、一部を講読する。					
6	20世紀後半のイギリスの児童文学（『トムは真夜中の庭で』『黄金の羅針盤』『ハリーポッターと賢者の石』など）について理解し、また、一部を読む。					
7	19世紀半ばまでのアメリカの児童文学（『モヒカン族の最後』『スケッチ・ブック』『アンクル・トムの小屋』など）について理解し、また、一部を読む。					
8	19世紀後半のアメリカの児童文学（『若草物語』『トム・ソーヤーの冒険』『小公子』など）について理解し、また、一部を読む。					
9	20世紀前半のアメリカの児童文学（『オズの魔法使い』『大草原の小さな家』『小鹿物語』など）について理解し、また、一部を読む。					
10	20世紀後半のアメリカの児童文学（『クローディアの秘密』『影との戦い』『テラビシアにかけた橋』など）について理解し、作品の一部を読む。					
11	カナダの文学（『私が知っている野生動物』『赤毛のアン』『パパの最後の贈り物』など）について理解し、また、一部を読む。					
12	ニュージーランド・オーストラリアの文学（『青ざぎ牧場』『燃えるアッシュ・ロード』『目覚めれば魔女』など）について理解し、また一部を読む。					
13	受講者によるプレゼンテーション及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第1回）					
14	受講者によるプレゼンテーション及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第2回）					
15	英語圏以外の文学にも若干触れて、児童文学とは何かを、改めて考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	30	発表と、そのために作成したハンドアウトに説得力があるか。		提出物	30	作品をいかによく理解し、かつ、そのことを自分の言葉できちんと表現できているか。
小テスト	20	知識が正確に定着しているか。		授業への参加状況	20	授業に積極に取り組む姿勢が見られるか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
講義を十分に理解するためには、配布するプリントを事前に読んでおくことが必要です。[2時間以上] また、講義で触れられたことを整理する時間 [最低1時間] や、プレゼンテーションのために作品そのものを読んでいただくので、そのための時間も必要です。				小テストやワークシートは次回の授業で返却します。プレゼンテーションについてのコメントは当日または、翌週します。		
受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、そのメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めば、英語での表現力も身につきます。			教科書・テキスト	プリントを使用します。	
指定図書／参考書等	なし/『たのしく読める英米児童文学』 本多英明・桂宥子・小峰和子編著 ミネルヴァ書房、2000年 ISBN-13:978-4623031566 「作品を読んで考える児童文学講座」シリーズ（全4巻） 中野節子・水井雅子・吉井紀子著 JULA出版局、2009-12年 第1巻のISBN-13: 978-4882842231 その他はクラスで指示。			その他・特記事項	授業時には辞書を持参のこと。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						

授業科目名	ES250U コミュニティブ・インク・リッシュA		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
世界の若者のインタビューを基にした教材を用いて、毎回1つのテーマを取り上げ、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。また、絵やプレゼン・ソフトを活用し物語や説明文をわかりやすく導入・展開する技能を身に付ける。			①様々なトピックについてリスニング、スピーキングを中心とした活動を通じて内容理解・得た情報・表現を用いて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようになる。 ②聞き手を意識した話し方を身に付け、英語で自問自答したり、即興で説明したり、質問したりできるようになる。			
教授方法	リスニングコンプリヘンション・プレゼンテーション・ストーリーテリング					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方・小テストの進め方 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成の意味を理解し、自らのモチベーションを高める今後の学習計画を展望できる					
2	アメリカの大学生の「休暇」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方）					
3	ニュージーランドの大学生の「子供の時の経験」を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法）					
4	ブラジルの大学生の「余暇」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答）					
5	スコットランドの大学生の「食べ物や飲み物」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答、及び即興による話の続け方）					
6	オーストラリアの大学生の「旅行」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答、即興による話の続け方、及び質疑応答）					
7	北アイルランドの大学生の「教育」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、及び即興による話の続け方）					
8	イタリアの大学生の「ファッション」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答、及び即興による話の続け方）					
9	日本の大学生の「海外生活」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインタラクション）					
10	ウェールズの大学生の「職業観」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインタラクション・質疑応答）					
11	アメリカの大学生の「健康」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインタラクション・質疑応答）					
12	中国の大学生の「社会変化」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history について）					
13	イギリスの大学生の「学生生活」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history と hobby について）					
14	アメリカの大学生の「芸術」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history と hobby と personality について）					
15	サウジアラビアの大学生の「ショッピング」に関する考え方を英語で聞き、理解したことにに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history と hobby と personality と future dream 及び質疑応答 について）					
<b>成績評価方法及び基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
ストーリーテリング	40	学習したトピックについて4技能を統合的に身に付けているか。		小テスト	40	各回のトピックスについて4技能を統合的に身に付けているか。
プレゼンテーション	20	4技能を統合的に活用してプレゼンテーションができるか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各回の授業の復習 [30分] 次時の小テストの準備 [60分]				随時行う		
受講生に望むこと	①積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 ②また、そのための練習方法を身に付けること。			教科書・テキスト	『World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills』 Miles Craven著 成美堂 2006 ISBN 978-4-7919-4587-0	
指定図書／参考書等	なし/『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2			その他・特記事項	①この授業では、人前で英語を話すことに慣れ、即興性を生かしたコミュニケーション力を養成する。 ②代替授業をする場合はClassroomを用いて課題を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に発表活動）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、プレゼン用ソフトを用いた、発表活動を取り入れている。						

授業科目名	ES340U コミュニカティブ・イングリッシュB		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「コミュニケーション・イングリッシュA」に続いて、中学校及び高等学校教諭一種免許状（英語）取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。</p>			<p>・様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解できる。          ・得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できる。          ・得た情報・表現だけでなく、新たな情報を加えて、自分の主張に説得力を持たせて発信できる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	①基本的には中学/高校英語教員、小学校教員取得を目指す者、②すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者③「コミュニケーション・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)が望ましい					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション・アイスブレイキング					
2	Unit 1: 大学生の住生活をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
3	Unit 2: 学生の勉強場所をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
4	Unit 3: 高校の制服をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
5	Unit 4: 成人式をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
6	Unit 5: コンビニエンスストアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
7	Unit 6: 元日をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
8	Unit 7: ポイントカードをテーマに4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
9	Unit 8: スマートフォンのタイプやマナーをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
10	Units 9-10: 旅行・海外研修をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
11	Units 11-12: 観光・異文化をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
12	Units 13-14: 季節行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
13	Units 15-16: 海外の慣習・お祭りをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
14	最新科学技術をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度	30	授業の中でテーマについての発言など貢献ができていくか	英文エッセイ	20	学んだテーマについて正しい英語で論理的に組み立てたエッセイが書けているか	
プレゼンテーション	10	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語プレゼンテーションができていくか	テスト	40	授業で学んだ様々なテーマについて内容や表現を理解し、自分のことばとして使えるか	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回授業で扱う課題の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。[45分] ②毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、次回授業開始時に提出する。[45分] ③スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。[60分]			毎回課題の英文エッセイについては、次回に添削して返却。スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。			
受講生に望むこと	毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていく。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分して話す内容を用意しておくこと。		教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著 『Two Sides of Every Discussion 2』2020年 成美堂 ISBN: 9784791972104 その他ディスカッションを深めるために必要な資料は適宜配布する		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ES260U 英語科教育法 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとって必修科目である。英語教育の目的と目標を明確にし、英語教師として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。これは今日小学校教諭にも求められる知識である。また、これまで学習してきた「英語」について、教える立場から捉える第一歩であり、広く外国語を学ぶことの意義や日本の英語教育、英語教師の役割等について考える。(子ども教育学科Cコース、Bコース必修科目)</p>			<p>①英語教育の目的、特に今日のグローバル化時代における英語教育の目的を理解する。  ②コミュニケーション能力の育成とはどのようなことかを理解する。  ③日本の外国語教育の歴史を学習指導要領の変遷を含めて振り返るとともに、学習指導要領のめざすものについて理解する。  ④英語教師に求められる資質・知識・技能について理解する。  ⑤主な英語教授法について実演も行いながら理解する。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、発表					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者、小学校教諭一種免許状取得を目指す者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 教育実習で必要とされる知識・技能・態度について知る					
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)					
3	国際化時代の英語の役割(目的について考える)					
4	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育、DVD等メディア教材、電子黒板、インターネットを活用した指導					
5	コミュニケーション能力の育成について					
6	日本の英語教育をふりかえる(1) 外国語との接触から1980年代まで					
7	日本の英語教育をふりかえる(2) グローバル化とコミュニケーションの時代の英語教育					
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる					
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの					
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える					
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等					
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法					
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法					
14	教授法・ICTを含む指導技術の変遷(LLからCALL、NBLTまで)と今後の展望をもとに今日求められている英語教師論について考える					
15	まとめ 今日求められている英語教育について					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況・ディスカッション	20	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいるか	課題	30	講義内容に関連した課題を指示に従って仕上げているか	
期末テスト	50	「英語教育法I」で学んだことが正しく理解し、自分のことばで表現できているか				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる。[50分] ②課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。[40分] ③中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。[30分]			課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。			
受講生に望むこと	中学/高校英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。 英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。		教科書・テキスト	・高梨庸雄・高橋正夫著. 2012. 『新・英語教育学概論[改訂版]』. 東京: 金星堂. ISBN: 978-4764739475 ・『中学校学習指導要領科解説 外国語編』. 2018. 文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051692		
指定図書/参考書等	なし/中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する。・『高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説英語編』2019. 文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051784		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ES265U 英語科教育法Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
英語科教育法Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマにより、15～20分程度の模擬授業を実践しながら指導法や指導技術を習得する。			①英語科教育法Ⅰで学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。 ②聞き手や学習者を意識した、理解しやすい英語の話し方や導入方法を身に付け、実践できる。 ③英語授業の指導手順を理解し、それぞれの段階でどのような指導法・指導技術があるかを考えられるようになる。			
教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション					
履修条件	中学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Ⅰを踏まえ、各自に不足している英語教師としての資質をディスカッションを通して、客観的に把握することができる。					
2	一斉授業型の一般的な英語授業の指導手順を理解し、中学校と高等学校の違いを理解する。また、それぞれのタイプの指導の留意点を理解する。指導手順としての、warm-upの具体例を挙げ、留意点を述べるができる。また、模擬授業に取り入れることができる。					
3	英語授業における「復習」の目的と具体例を理解する。また、特に「聞くこと・話すこと」の領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べるができる。また、模擬授業に取り入れることができる。					
4	英語授業における「復習」の「読むこと」の領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べるができる。また、模擬授業に取り入れることができる。					
5	英語授業における「復習」の「書くこと」の領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べるができる。また、模擬授業に「書くこと」を取り入れるにはどのような配慮が必要かを考えてみる。					
6	一般的に、授業における「新教材の導入」には帰納法と演繹法の二種類があることを説明し、英語授業への具体的な応用例を説明する。日本の英語教育では、前者を優先してきたことを説明し、現在は後者も見直されている経緯に触れる。英語授業の帰納法と演繹法の具体例を挙げるができる。					
7	英語授業における「新教材の導入」には二種類あることを説明し、H.E. Palmer とC.C.Fries の導入法を紹介する。それぞれの目的や留意点を比較しながら、述べるができる。					
8	英語の授業における「文法・文構造の導入」について、模擬授業（1）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師の話し英語のaccuracy が大切なことを理解する。					
9	英語の授業における「文法・文構造の導入」について、模擬授業（2）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師と生徒のインタラクション が大切なことを理解する。					
10	英語の授業における「題材の導入」について、模擬授業（1）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では生徒の話し英語のfluency が大切なことを理解できる。					
11	英語の授業における「題材の導入」について、模擬授業（2）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師と生徒のインタラクション が大切なことを理解する。					
12	英語授業の指導手順をskill-getting とskill-using の観点から再検討してみる。また、英語の口頭練習としてのバタン・ブラクティスの功罪を理解し、近年の外国語教育の有力な考え方を理解する。					
13	英語のテキスト用いた発展練習についてその具体例を説明し、それぞれの留意点を話し合う。また、発展練習としてのコミュニケーション活動には「タスク性」が必要であることを理解する。					
14	英語の授業におけるデジタル機器を用いた「文法・文構造の導入」及び「題材の導入」について考える。アナログ式の授業との違いや留意点を話し合い、学校現場への応用を考える。					
15	英語授業の指導手順を整理し、生徒の発達段階や学習レベルに応じて、どのような指導手順や指導法を用いるかを中学校と高等学校別に考え・整理し発表できる。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	各単元の予習を前提に小テストを行うので、基本的な内容を理解しているか。		試験	50	各単元の基礎及び4技能の活動例を理解しているか。
授業参加状況	20	グループワークや模擬授業後のディスカッションに積極的に参加しているか。他の学生の模擬授業の際に学んだ知識を自分の模擬授業に活用しているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
中学校・高校の授業を積極的に参観すること。〔60分〕 （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定） 石川県英語教育協議会（IPELEC）各月開催予定				返却時に行う		
受講生に望むこと	①実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。 ②講習会や研究に参加して、積極的に意見を発すること。			教科書・テキスト	『新・英語教育学概論〔改訂版〕』高梨庸雄他著 金星堂 2011 ISBN 978-4-7647-3947-5、	
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 ISBN:未定、『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 978-4-304-05169-2『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN-13: 978-4-304-05168-5			その他・特記事項	代替授業をする場合はClassroomを用いて課題を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。						

授業科目名	ES350U 英語科教育法Ⅲ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目である。「英語科教育法Ⅰ」及び「英語科教育法Ⅱ」で学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な指導力や実践力を身につけるために教材研究と模擬授業、相互評価、省察を行う。</p> <p>また、英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、日本の英語教育の歴史を概観する。</p>			<p>① 中学・高等学校の英語教科書を用いて、ICTを活用しながら、復習や新教材の導入の指導計画を板書計画とともに作成できること。</p> <p>② 他者の模擬授業等を観察し、その良さや改善点を客観的に述べるができること。</p> <p>③ 英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、教育実習への新たな意欲を高めること。</p>			
教授方法	講義・発表・模擬授業・ディスカッション・省察					
履修条件	中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）取得を目指す者。英語科教育法Ⅰ及び英語科教育法Ⅱを履修済みであることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Ⅰ及び英語科教育法Ⅱで学んだことを振り返り、教育実習に向けて本授業で学ぶことを概観する。Harold E. Palmer の English Through Actions についての発表方法を理解する。					
2	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(1)：著者の外国語教育の考え方を理解し、壮大な教授計画の一部に触れる。また、当時の外国語教育の考え方や傾向を理解し、現在のものと比較することができる。					
3	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(2)：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、英語教師が陥りやすい失敗例から今後目指すべき英語教師像をイメージ化することができる。					
4	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(3)：著者の「運用言語」に関する考え方を理解し、運用言語を習慣化するため四段階を学ぶ。また、各段階を実際の授業の場面に当てはめ、その連続性と緻密さを実感できる。					
5	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(4)：著者の外国語教育の考え方を理解し、壮大な教授計画の一部に触れる。また、当時の日本の英語教育事情を理解し現在のものと比較できるようになる。					
6	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(5)：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、著者の言う、「一箱のマッチ」で30分話すとはどういうことなのかを予測する。					
7	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(6)：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、英語教師が陥りやすい失敗例とギリシャ神話の例え話をイメージ化することができる。					
8	English Through Actions 第5段落までを翻訳して提出する。英文を意識して話の筋が通るように工夫しながら翻訳する。					
9	English Through Actions 第6～10段落までを翻訳して提出する。英文を意識して話の筋が通るように工夫しながら翻訳する。					
10	中学・高等学校用の教科書を用いた50分間の模擬授業の準備と説明：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べるができる。					
11	中学校1～3年生用の教材を用いた50分間の模擬授業(1-1)：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べるができる。					
12	中学校1～3年生用の教材を用いた50分間の模擬授業(1-2)：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べるができる。					
13	高校1～3年生用の教材を用いた50分間の模擬授業(2-1)：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べるができる。					
14	高校1～3年生用の教材を用いた50分間の模擬授業(2-2)：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べるができる。					
15	全体のまとめ：授業の到達目標①～③を達成できたかどうか自己評価してみる。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	40	課題の完成度		模擬授業	40	実際の授業をイメージしながら模擬授業を計画・運営できるか。
授業参加状況	20	グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>中学校・高等学校の英語授業を積極的に参観すること。〔60分〕</p> <p>(例) 金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定）</p> <p>金沢大学附属高等学校教育研究発表会（11月開催予定）</p> <p>石川県英語教育協議会（IPELEC）（隔月、詳細は授業で説明する）</p>				模擬授業の感想などは次時にまとめて振り返る。		
受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること。			教科書・テキスト	『新・英語教育学概論[改訂版]』高梨庸雄・高橋正夫著 金星堂 2011年 ISBN:978-4764739475	
指定図書／参考書等	なし／『English Through Actions』 H. E. Palmer著 開拓社 1925年 ISBN:758900876 C3082 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018年 ISBN:978-4304051692 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月）平成30年告示』文部科学省 開隆堂 2019年 ISBN:978-4304051784			その他・特記事項	代替授業の場合はClassroomを用いて課題等を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。</li> <li>・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。</li> </ul>						

授業科目名	ES355U 英語科教育法Ⅳ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は中学校及び高等学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目であり、英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、またプレ実習や教育実習の経験を基に、さらなる指導技術の向上を目指す。また英語で書かれた英語教育関係の文献も扱う。</p>			<p>①英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や知識、及び、中学校で教育実習またはプレ実習を経験した者は、その際に課題に感じたことを振り返り、英語の指導力を習得する。 ②他者の授業を参観・視聴することにより授業を観る目を養い、ディスカッションを通して指導技術を習得する。</p>				
教授方法	講義、演習、模擬授業、ディスカッション						
履修条件	中学校/高校教員免許（英語）を取得希望の者。英検2級を取得していて、英検準1級以上を取得しようとする者が望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業のねらいとクラスルールを知る						
2	プレ実習や教育実習で自分の課題と感じたことを発表し合い、どのような解決策があるかをディスカッションし、結果を共有し合う						
3	英語教育者論 英語教師養成の現状を知り、国の政策としての英語教育を展望する						
4	文法・語彙・音声の指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える						
5	異文化理解とコミュニケーションの指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える						
6	4技能を伸ばす活動及び評価と測定について学び、自分ならばどのように用いるかを考える						
7	授業運営 さまざまな学習形態やALTとのチームティーチングのあり方を学び、自分ならばどのように用いるかを考える						
8	模擬授業 中学1年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する						
9	模擬授業 中学2年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する						
10	模擬授業 中学3年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する						
11	模擬授業 高校1年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する						
12	模擬授業 高校2年生、3年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する						
13	過去5回の模擬授業を基に相互評価し、特に苦手な活動を明確にし、次時のミニ模擬授業につなげる						
14	ミニ模擬授業 特に苦手と感じた活動を取り上げ、その活動を実践する						
15	まとめ プレ実習や教育実習後の授業を通して、自分の教師としての資質や課題を客観的にとらえ、今後どのような努力をしていくべきかを考える						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
学習指導案	30	実践的な指導案であるか、板書計画はあるか		模擬授業	30	授業の準備・練習を十分にしているか	
ディスカッション	20	自分の指導技術ばかりでなく、授業全体を観る視点を養えているか		小テスト	20	英語の文献等を読む力がついているか	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>中学校・高等学校の授業を積極的に参観すること〔60分〕  (例) 金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定）  金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）</p>				返却時に行う			
受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領解説 外国語編. 2018. 文部科学省. ISBN:9784304051692</li> <li>・高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説 英語編. 2019. 文部科学省. ISBN:978-4304051784</li> </ul>		
指定図書/参考書等	なし/中学校英語検定教科書(NEW HORIZON English Course 1~3 東京書籍 2016 ISBN 9784487122912など)、高校(英語コミュニケーション)検定教科書			その他・特記事項	特になし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	マシュー ボッシュ・エリック モーニン (代表教員 マシュー ボッシュ)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this course: 1. We will learn everyday English communication through memorizing short dialogues. 2. We will practice English communication through role plays.			The goals of this course are as follows: 1. Memorize a series of adaptable everyday conversations and other short passages in English. 2. Gain confidence in everyday communication in English through role plays.			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	none					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction & table manners					
2	"Could you pass the salt, please?"					
3	Conversation at a restaurant					
4	"I think the food here is excellent."					
5	"Would you like a cup of coffee?"					
6	A refill of coffee					
7	"Excuse me! Waiter!"					
8	Talking about weekend plans					
9	"I'm going out of town."					
10	Giving a dinner invitation					
11	"How about dinner tonight?"					
12	Car talk					
13	"Do you have a car?"					
14	Chatting in the breakroom					
15	"Are you a new employee?"					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly assignments	60	Dialogue assignments (memorization & role play)	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)			Feedback will be given as needed following assignments.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書/参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	代替授業日はClassroom を用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	EL110U プラクティカル・イングリッシュ		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	マッシュー ボッシュ・ヴィンセント・レイカー (代表教員 マッシュー ボッシュ)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this course: 1. We will learn practical English communication through practicing short dialogues. 2. We will practice English communication through role plays.			The goals of this course are as follows: 1. Memorize adaptable practical English conversations and other short passages in English. 2. Gain confidence in everyday communication in English through role plays.			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	none					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction & shoe shopping					
2	"I'd like to try on a pair of shoes, please."					
3	Exchanging an item at the store					
4	"Can I exchange this sweater, please?"					
5	At the repair shop					
6	"Could you repair these boots?"					
7	The ice cream shop					
8	"I'd like some strawberry ice cream, please."					
9	Giving directions					
10	"Is there a post office near here?"					
11	Going places					
12	"How do you come to work?"					
13	Giving a gift					
14	"This is a present for you."					
15	Christmas special					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly assignments	60	Dialogue assignments (memorization & role play)		Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)				Feedback will be given as needed following pair work assignments.		
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English			教科書・テキスト	none	
指定図書/参考書等	This will be made known in class			その他・特記事項	代替授業日はClassroom を用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EL120U キッズ・イングリッシュA		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	木村 ゆかり・キャサリン シュリーヴズ (代表教員 木村 ゆかり)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニケーションが円滑に取れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に幼稚園や小学校の子どもたちに英語を使う場面を想定し、それに対応できる基本的語彙 (numbers, colors, body parts, things around us, the alphabet等々) を英語らしい発音で使える。</li> <li>・実際に英語で歌やゲームなどができる。</li> <li>・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。</li> </ul>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション & Favorite picture bookレポート						
2	U1 The School Year Begins (新学期・園の人々・園舎)						
3	U2 Arrival (登園・家族)						
4	U3 Playtime in the Classroom (室内あそび・欠席の連絡)						
5	U4 In the Sandbox (外あそび・遊具)						
6	U5 In the Playground (園庭・けんか)						
7	U1-5 小テスト & 絵本レポート 1						
8	U6 Lunchtime (昼食・献立表)						
9	U7 Changing Clothes and Story Time (着替え・おはなし)						
10	U8 Nap Time (トイレ・お昼寝)						
11	U9 Blowing Bubbles (生き物・身体の名称)						
12	U10 A Sick Child (感情表現・緊急連絡)						
13	U6-10 小テスト & 絵本レポート 2						
14	Review of U1-10						
15	絵本レポート 3						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加状況など	30	①教員が指示する練習問題に取り組んでいる。 ②授業に積極的に参加している。	小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。		
課題	20	英語絵本のレポートなど、授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。		
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]			課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	①ペアワーク、グループワークなど積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。		教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年 三修社 ISBN: 978-4384333992			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL125U キッズ・イングリッシュB		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「キッズイングリッシュA」に引き続き、幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニケーションなかたちで英会話力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。</p>			<p>・「キッズイングリッシュA」で学んだ子どもたちの基本的語彙 (numbers, colors, body parts, things around us, animals, family, the alphabet 等々) をさらに増やし、英語らしい発音で使える。  ・実際に英語で歌やゲームなどができる。  ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。</p>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	U11 Preparation for the Sports Day (行事の案内状・電話連絡)						
2	U12 The Sports Day (運動会・動作)						
3	U13 Going for a Walk (散歩(1)・地図)						
4	U14 Discovering Autumn (散歩(2)・交通)						
5	U15 Drawing & Letter Writing (お絵かき・お手紙書き)						
6	U16 Lunchtime (雪の日・工作)						
7	U11-15 小テスト						
8	U17 Leaving for Home (降園・お知らせ)						
9	映画鑑賞(外国の子育て事情について学ぶ) & 絵本レポート 1						
10	U18 School Diary (連絡帳・乳児室)						
11	U19 Bean-Throwing Day (家庭調査書・園行事(1))						
12	U20 With Thanks for a Wonderful School Year (園だより・園行事(2))						
13	映画鑑賞(外国の子育て事情について学ぶ)						
14	絵本レポート 2						
15	Review of U11-20						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加状況など	30	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。	小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。		
課題	20	英語絵本のレポート、英文の連絡帳やお便りの作成、英語絵本読み聞かせ発表など、授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]			課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	①ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。		教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年 三修社 ISBN: 978-4384333992 (キッズ・イングリッシュAと同じ)			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL130U シンパル・イングリッシュA		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	中野 聡					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目では、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、平易な英語を使いながら英文法(ことばの仕組)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。</p>			<p>①自分のこと、身近な話題について、平易な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 ②自分のこと、身近な話題について、平易な英語を用いて書いて発信することができる。 ③平易な英語を運用するのに必要な英文法の基礎を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション:クラスルール・教員紹介・学生自己紹介・授業の進め方等					
2	Unit 1: はじめまして Warm-up、 pair work、 Reading、 文型					
3	Unit 1: はじめまして Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
4	Unit 2: レシピを見よう Warm-up、 pair work、 Reading、 自動詞と他動詞					
5	Unit 2: レシピを見よう Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
6	Unit 3: いつも何しているの? Warm-up、 pair work、 Reading、 現在形と頻度					
7	Unit 3: いつも何しているの? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
8	Unit 4: 何を持って行きますか? Warm-up、 pair work、 Reading、 名詞と代名詞					
9	Unit 4: 何を持って行きますか? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
10	Unit 5: あなたの理想の部屋は? Warm-up、 pair work、 Reading、 前置詞					
11	Unit 5: あなたの理想の部屋は? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
12	Unit 6: 目指そう! 健康生活 Warm-up、 pair work、 Reading、 助動詞					
13	Unit 6: 目指そう! 健康生活 Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
14	Unit 7: 旅に出よう Warm-up、 pair work、 Reading、 不定詞と動名詞					
15	Unit 7: 旅に出よう Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
課題取組状況	30	教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。	発表・表現	40	教員が指示する課題を英語で発表する。	
最終レポート課題	30	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>① 授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題(Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ② 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>			小テスト返却時など、随時行う			
受講生に望むこと	<p>①オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。</p>		教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂. ISBN: 9784791933839		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・代替授業日は、Classroom を用いて課題を出す。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
中野: 小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。						

授業科目名	EL135U シンプル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	中野 聡						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、「シンプル・イングリッシュA」に引き続き、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、英語を使いながら英文法(ことばの仕組み)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。</p>			<p>①身近な話題について、明快な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 ②自分のこと、身近な話題について、適切な英語を用いて書いて発信することができる。 ③英語でコミュニケーションを図るのに必要な英文法の基礎を身につける。</p>				
教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション クラスルール・授業の進め方・課題等の確認 Unit 8: パーティを開こう! Warm-up、 pair work、 Reading、 現在分詞						
2	Unit 8: パーティを開こう! Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
3	Unit 9: 割れた窓? Warm-up、 pair work、 Reading、 過去分詞						
4	Unit 9: 割れた窓? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
5	Unit 10: スポーツをしよう Warm-up、 pair work、 Reading、 現在完了形						
6	Unit 10: スポーツをしよう Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
7	Unit 11: フリマでお買い物 Warm-up、 pair work、 Reading、 形容詞と比較						
8	Unit 11: フリマでお買い物 Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
9	Unit 12: レポートの提出 Warm-up、 pair work、 Reading、 関係代名詞						
10	Unit 12: レポートの提出 Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
11	Unit 13: どこに住んでいるの? Warm-up、 pair work、 Reading、 「それは」と訳さないIt						
12	Unit 13: どこに住んでいるの? Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
13	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ Warm-up、 pair work、 Reading、 仮定法						
14	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ Listening、 Assignment確認、 Wriging & Speaking、 小テスト						
15	Unit 15: Review Test、 これまで学んだトピックから一つを選びスピーチ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業取組状況	20	①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。		小テスト・Review Test	20	各Unitで学んだことを身につけているか。	
定期試験	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。		スピーチ	10	選んだトピックについて聞き手に分かりやすい英語でスピーチできているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
① 授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題(Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ② 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				小テスト返却時など、随時行う			
受講生に望むこと	①オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂. ISBN: 9784791933839 シンプル・イングリッシュAと同じ		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	・代替授業日は、Classroom を用いて課題を出す。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
中野：小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。							

授業科目名	EL200U スピーチ&ドラマ		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	アンソニー ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、人前で英語を話せるようになるためのスキルを学ぶ。テキストのToday's Menu, Warm-Up, Presentation Skills, Language focus, Practice Activitiesのタスクをしながら、各Unitの終わりのProjectで少しずつ人前での発表に備えていき、第8回、第14・15回にはクラスの前でのパワーポイントを使用した発表を行う。このように実際に使いながら確かな英語力を育てていく。			<ul style="list-style-type: none"> <li>人前で自分の考えや調べたことを英語でもはっきりと伝えようとする。</li> <li>相手に伝えるための英語表現だけでなく、視線、ジェスチャーなどノンバーバルな要素にも気を配ることができる。</li> <li>課題のスピーチやミニドラマなどを個人で、またクラスメートと協力して準備し、発表をする。</li> </ul>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	クラス・イントロダクション(概要、授業の進め方、クラスルール、自己紹介など)						
2	Unit 1: Getting Started さまざまな活動の後、自己紹介をする						
3	Unit 2: Voice 活動を通して、聞き手に伝わりやすい声の出し方を学ぶ						
4	Unit 3: Gestures 活動を通して、ジェスチャーの効果的な使い方を学ぶ						
5	Unit 4: Q & A Skills 人前で話した後の質疑応答について学ぶ						
6	Unit 5: Visualsと並行して、有名なスピーチなどを視聴し、感想を述べ合う						
7	Unit 6: Rehearsalこれまで学んだことを振り返りながら、スピーチの練習をする						
8	Unit 7: On Stage スピーチと相互評価						
9	Extra Skill Unit 1: Group Brainstorming ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容について						
10	Extra Skill Unit 2: Group Outline, Phrases ミニドラマ発表に向けてグループ活動 流れ、表現など						
11	Extra Skill Unit 3: Group Script ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容の確定						
12	Extra Skill Unit 4: Group Practice ミニドラマ発表に向けてグループ活動 練習						
13	Extra Skill Unit 5: Group Rehearsal ミニドラマ発表に向けてグループ活動 リハーサル						
14	Group Mini-Drama グループ・ミニドラマ発表						
15	Group Mini-Drama グループ・ミニドラマ発表予備日、振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業取組状況	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業に予習して臨んでいるか</li> <li>授業のさまざまな活動に積極的に取り組んでいるか</li> </ul>	スピーチ	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチに向けての準備、練習に自主的に取り組んだか</li> <li>スピーチの内容・発表・相互評価</li> </ul>		
グループ・ミニドラマ	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで協力してミニドラマを準備、練習、発表したか</li> <li>ミニドラマの内容・発表・相互評価</li> </ul>					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> <li>次回授業に向けて予習、発言準備など[40分]</li> <li>スピーチに向けての準備、原稿、発音練習など[60分]</li> <li>グループでのミニドラマに向けての準備、原稿、練習など[70分]</li> </ul>			随時				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回、次回のための課題が出るので準備して授業の臨む。</li> <li>恥ずかしがらずに、元気に取り組み、大きな声ではっきりと英語を話そう。</li> </ul>		教科書・テキスト	Tomoko Sugihashi, Mark Christianson & Kota Ohata. Effective Presentation Skills for Beginners. 2015年. 朝日出版社. ISBN: 9784255155661 他に必要な教材は適宜配布			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	スピーチ、ミニドラマの形態や内容については教員の指示に従うこと。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL205U エクステンシア・リーディング*		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目では、テキストのリーディング・パッセージを直読直解しながら速読・多読の仕方をも身につけていく。英語コミュニケーション力をつけるために平易な英語で書かれた文章や物語を多く読むことが推奨されている。各自がEasystarts(基本200語を知っていれば読める)からLevel 6(3000語)までの多読用図書から、自分の関心・英語力に応じて選んだ本を読み、感想などを添えて読解記録をつける。その中の1冊を選び、その本を英語で紹介する。(子ども教育学科Bコース・Cコース必修科目)</p>			<p>①意味を類推しながら直読直解(頭の中で日本語に訳すことなく、読んだ部分ごとに理解していく)を心がけるようになる。  ②多読図書から自分の関心や英語力に合わせて読む本を適切に選択できる。  ③読んだ本について、タイトル・レベル・ページ数・評価・感想を記録し、目標の累計ページ数を達成する。  ④読んだ本の中でもっとも気に入った本について英語で紹介することができる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：教科書、速読、多読について、本の選択の仕方、読書記録のつけ方、到達目標などについて説明する。 Unit 1 The Dog Walker: pre-reading活動から内容を予測して読む練習をする。(Listeningを行う)						
2	Unit 2 An Interview with a Paramedic pre-reading活動から内容を予測して読む練習をする。(Listeningを行う)						
3	Unit 3 The Video Game Tester: not all Fun and Games: pre-reading活動から内容を予測して読む練習をする。(Listeningを行う)						
4	Unit 4 The Trainee Chef: pre-reading活動から内容を予測して読む練習をする。(Listeningを行う) Unit 1~Unit 4 のまとめ						
5	Unit 5 Working on an Oil Platform: Unit 6 The Hippopotamus: Dangerous on Land and in the Water 2つのユニットを直読直解で読み内容を理解する。(速読練習) 多読記録確認①						
6	Unit 7 Amazing Travelers: Animal Migration: Unit 8 The Animals of the Camargue 2つのユニットを直読直解で読み内容を理解する。(速読練習)						
7	Unit 9 Just a Piece of Seaweed? The Leafy Sea Dragon: Unit 10 Racing Across Snow and Ice: 2つのユニットを直読直解で読み内容を理解する。(速読練習) Unit 5~Unit 8のまとめ						
8	Unit 11 Learning a Musical Instrument Unit 12 How to Make a Glass Orchestra 2つのユニットを直読直解で読み内容を理解する。(速読練習)						
9	Unit 13 Rock School Unit 14 An Ancient Musical Instrument: 2つのユニットを直読直解で内容を理解する。(速読練習) Unit 9~12のまとめ						
10	Unit 15 Music Therapy: Making People Feel Better: Unit 16 On Vacation in Guatemala 2つのユニットを直読直解で理解する。(速読練習)						
11	Unit 17 The Maldives: a Country in Danger: ユニットの直読著解で内容を理解する。(速読練習) 多読記録確認② & 発表 (Book 1紹介)、Unit 13~16まとめ						
12	Unit 18 The Maori: ユニットの英文内容を絵で描くように読む練習をする。(英文の内容から背景知識を想う)						
13	Unit 19 Russia: the Largest Country: ユニットの英文内容を絵で描くように読む練習をする。(英文の内容から背景知識を想う)						
14	Unit 20 Monaco: a Tiny Country: ユニットの英文内容を絵で描くように読む練習をする。(英文の内容から背景知識を想う)						
15	総まとめ：課題発表(多読記録報告および読書感想をまとめる)、Unit 17~20まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業取組状況及び小テスト	50	①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に取り組む。②学習内容確認小テストを行う。		多読図書及び読書記録	40	①各自選択した多読図書を読み進める。②一冊ごとに読書記録を適切につける。③目標累計語数を達成しているか。	
発表	10	推薦する本についての内容を聞き手に伝わるように英語で紹介する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業内容の予習(30分) ②多読図書を選び読んだ後、読書記録をつける(40分) ③推薦する本を紹介する発表準備を行う。 本の内容紹介、感想をまとめて発表原稿を作成する(60分)				発表を行った後口頭で講評する。またクラスの講評をまとめて後日配布する。			
受講生に望むこと	①適切なレベルの本を選択し、辞書なしで読むことを心がける。(意味の確認は、パラグラフの区切りまで読んだ後まとめて確認する) ②図書館などの多読図書は、丁寧に扱い、貸出・返却のルールを守ることを。			教科書・テキスト	『Break Away 1 最新速読演習-基礎編』Gillion Flaherty, James Bean, Shinichi Harada著、成美堂、2017年 ISBN978-4-7919-6021-7 多読図書：図書館、English Center所蔵		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	英字新聞記事の抜粋を多読素材に取り上げることがある。 代替授業はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL210U トラベル・イングリッシュA		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間 千重子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、近年ますます身近になってきた海外旅行へのアプローチとして聞き取りを中心に英語運用能力の習得を目指す。この授業の目的は、実際の場を想定し聞くこと以外に話すことを通して旅行する際に役に立つと思われる一連の場面を設定した実用英語表現を学習をする。(1)旅行英語にふれる。(2)ケーススタディ(旅行および業務の実際)について学習する。</p>			<p>①実際海外旅行をする際に想定される旅行英語及び英語表現を習得する。 ②聞き取りを強化し、日本語と英語二か国語が瞬時にinputとoutputなるよう体験していく。</p>			
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス: 教科書、授業の内容、進め方、成績評価について説明、興味がある国々や都市をとりあげながら、旅と英語の関わりについて考察する。(異文化と英語の必要性を理解する)					
2	Unit 1 In-Flight Announcements: 航空機機内アナウンスを聞き取る。機内で用いる用語を学ぶ。(機内で実際に使用される語いを覚える)					
3	Unit 2 At Immigration and Customs: 入国審査と税関で係とのやりとりを聞き取る。(入国時の動作をシュミレーションし受け答えができるよう練習する)					
4	Unit 3 Getting to a Hotel: 空港より宿泊ホテルへの行き方や移動手段についての表現を学ぶ。(交通アクセスを尋ねる表現を練習する)					
5	Unit 4 Checking into a Hotel: 宿泊ホテルでのチェックインおよび部屋のタイプなど聞き取る。(ホテルの案内を読む練習をする)					
6	Unit 5 Checking in without a Reservation: 事前予約なしのホテルで宿泊の交渉をするやりとりを聞き取る。(シンプル英語で表現する方法を学ぶ)					
7	Unit 6 At a Restaurant: レストランの予約およびメニューのオーダーについて聞き取る。(料理法、食材などの語いを学ぶ)					
8	Unit 7 Taking the Subway: 公共交通機関を利用して目的地へ行く方法を聞き取る。(英語版地下鉄マップを読む練習をする)					
9	Unit 8 At a Fast-Food Restaurant: ファストフード店で注文する会話を聞き取る。(ハンバーガーショップでのやりとりを練習する)					
10	Unit 9 Hotel Services: ホテルでハウスキーピングを利用する表現を聞き取る。(コンシェルジュを利用する際の表現を練習する)					
11	Unit 10 Booking a Tour: 観光地(現地)でツアーに申し込む表現を聞き取る。(英文パンフレットを読む練習をする)					
12	Unit 11 Health Care: 薬局や病院でのやりとりの会話表現を聞き取る。(医療に関連した語いを学ぶ)					
13	Unit 12 Shopping: 靴屋やデパートで好みのものお勧めのものを尋ねる表現を聞き取る。(買い物に関連した語いを学ぶ)					
14	Unit 13 Making Complaints: ホテルの部屋のことやレストランでのサービスについての会話を聞き取る。(クレームを言う英語表現を学ぶ)					
15	Unit 14 Dealing with Problems & Unit 15 At the Airport: トラブルに遭遇、海外の空港でチェックインする場面での表現を聞き取る。(海外の空港で遭遇するトラブルやチェックインの手続きに関する語いを学ぶ)					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。		小テスト	20	学習内容確認小テストを行う。
課題	20	場面を想定してスキットを作成する。		発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①テキストの授業単元の学習内容に目を通しておく。指定された項目の単語を事前に調べておく(20分)。②英語科目の他メディア媒体を利用し世界情勢、観光情報など知識を得ること(20分)。③学習内容の英語表現の見直しをする。(10分)			①小テストは実施後回収、採点した上でコメントし返却する。 ②課題は、授業内で口頭にてコメントする。 ③発表は、実施後内容について意見交換したことをまとめ配布する。			
受講生に望むこと	旅に関する知識や情報を得るために、国内外のことに関心をもつようにする。		教科書・テキスト	『Travel English at Your Fingertips』島田拓司・Bill Benfield著 成美堂 2020年 ISBN 978-4-7919-7185-5		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級～2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題(英語)への手がかりとする。ボランティア通訳の入門編とする。代替授業はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	EL220U トラベル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、国内外の観光地について地理・交通・名物料理・旅行全般に関する観光英語の基礎を習得する。毎時1つのテーマ（国、都市）を扱い、英語での聞き取り、読み取りを行う。国内外の旅行で遭遇する事柄や英語の表現を学ぶとともに、日本の観光地や世界の国々の文化事情、旅行業務の実際について考察する。</p>			<p>①観光英語の語彙や基礎知識を習得する。 ②聞き取りや英文の理解力を強化し、英語での応答力を習得する。 ③興味がある国や都市の観光地についてリサーチを行い旅の醍醐味を体感する。</p>				
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレー・プレゼンテーションを取り入れる。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス:教科書について、授業の内容、進め方、成績評価について説明、日本および海外の国々について話し合いながら、旅と英語の関わりについて考察する。(英語を通して日本のこと、海外の国のことに興味をもつ)						
2	Unit 1 Japan Hokkaido 英日、日英、語彙チェック、パンフレット内容を確認する。(key wordを聞き取る練習を行う)						
3	Unit 2 Japan Kyoto e-mailの内容を敏速に読み取る。(寺・神社など日本文化事象に関する英語表現を学ぶ)						
4	Unit 3 Japan Ufuin e-mailで返事を出す英文表現を学ぶ。小テスト①(返事のメールを英語で書く練習をする)						
5	Unit 4 Japan Okinawa レストランの案内を読み内容を把握する。ロールプレイを実施する。まとめテスト①(郷土料理を英語で紹介する練習をする)						
6	Unit 5 Singapore ホームページの空港ガイド、チャンギ国際空港の英語案内を読む。( 出入国カードを英語で記入する練習をする)						
7	Unit 6 Bali, Indonesia ツアーパンフレットを読み、エコツーリズムについて学ぶ。小テスト②(旅行会社の英語パンフレットの内容を理解する)						
8	Unit 7 Sydney, Australia シドニー湾クルーズの広告内容を読み取る。(南半球の地ならではの表現を知ると共にウォーターズボートの英語語彙を学ぶ)						
9	Unit 8 Hawaii, the USA "Aloha State" ハワイの紹介文を聞き取る。(火山などの自然に関する英単語を学ぶ)						
10	Unit 9 London, the UK ロンドンの公共交通機関、簡単な紹介をデイクテーション形式で聞き取る。小テスト③(ロンドンの乗り物など関連する英単語を学ぶ。簡単なレジユメの書き方を学ぶ)						
11	Unit 10 France e-mail(クレーム文)の内容を読み取る。ツアー参加者からのクレームの内容は何か明確に把握する。(英文内容を詳細に読み取ることを学ぶ)						
12	Unit 11 Museums in Europe 7か所の博物館・美術館を英文で迎える。(有名な展示物の作品や作者を英語で紹介する)						
13	Unit 12 New York, the USA Broadwayのミュージカルレビューを読む練習をする。プレゼンテーションを実施する。小テスト④(大きな数の数字を言える書ける練習をする)						
14	Unit 13 Boston, the USA スポーツに関する問い合わせのメール表現を学ぶ。(丁寧なお願い表現を使えるようにメール文を作成する練習をする)						
15	Unit 14 Canada & Unit 15 Rio de Janeiro, Brazil ハンドブックとガイドブックを読み取る。(受動態表現を用いた婉曲的表現を学ぶ) 小テスト⑤						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢。		小テスト	20	学習内容確認小テストを行う。	
レポート	20	興味あることについてリサーチする。		発表	30	英語で発信する運用力が付いているか評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①テキストの授業単元の学習内容に目を通しておく。指定された項目の単語を事前に調べておく(20分)。②英語科目の他メディア媒体を利用し世界情勢、観光情報など知識を得ること(20分)。③学習内容の英語表現の見直しをする(20分)。			①小テストは実施後回収、採点した上でコメントし返却する。 ②課題は、授業内で口頭にてコメントする。 ③発表は、実施後内容について意見交換したことをまとめて配布する。				
受講生に望むこと	旅に関する知識や情報を得るために、国内外のことに関心をもつようにする。		教科書・テキスト	『English for Tourism 101 一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～』津田晶子他著 南雲堂 2014年 ISBN978-4-523-17760-9			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級～2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題(英語)への手がかりとする。ボランティア通訳の入門編とする。代替授業はClassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL225U プレゼンテーション		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、今後アカデミック、ビジネスの両分野で必要とされるプレゼンテーションの基本を学ぶ。①プレゼンテーションの定義、構造、必要なスキル ②情報伝達型のプレゼンテーション③ 説得型・提案型のプレゼンテーションを学ぶ。学んだことを生かしながら実際にプレゼンテーションを行い、相互評価することで客観的視点も養う。</p>			<p>①効果的なプレゼンテーションとその基本構造が理解できる。 ②テーマや目的によって効果的なパターンを選ぶことができる。 ③自分の考えや調べた内容を英語で効果的に聴衆に伝えられるようになる。 ④プレゼンテーションと共にスピーキング、ライティングの力を高めることができる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：教科書・授業概要・ねらい・進め方、成績評価についての説明。 Unit 1 Presentation Structure プレゼンテーションの構造を学ぶ。(プレゼンテーションとは何か?を考える)						
2	Unit 2 Presentation Skills: 話の展開を明確にするポイントを学ぶ。(Body Languageについて考える)						
3	Unit 3 Preparing for Your Presentation: 情報収集と情報倫理について知る。(参考文献リストのスタイルについて紹介する)						
4	Unit 4 How to Arrange a Presentation Setting: 視覚情報の提示の仕方について確認する。(プレゼンテーションのタイプと備品について考える)						
5	Unit 5 Type 1-Listing 列挙型プレゼンテーション ( テーマに該当する事柄を順序よく説明する) プレゼンテーション①						
6	Unit 6 Type-2 Classification 分類型プレゼンテーション ( 共通点を整理し分かりやすく提示する)						
7	Unit 7 Type-3 Process プロセス型プレゼンテーション (手順にそって説明する)						
8	Unit 8 Type-4 Investigation 調査型プレゼンテーション ( 調査研究の成果を分かりやすく伝える)						
9	Unit 9 Giving Your Presentation 報告型プレゼンテーションの実践 (Unit 5-Unit 8 まとめ) プレゼンテーション②						
10	Unit 10 Type-5 Persuasion 説得型プレゼンテーション ( 企画案や提案を分かりやすく伝える)						
11	Unit 11 Type-6 Problem and Solution 問題解決型プレゼンテーション ( 問題に対する解決策を論理的に説明する) 振り返りとまとめ						
12	Unit 12 Type-7 Cause and Effect 原因・結果型プレゼンテーション ( 物事の因果関係を説明する)						
13	Unit 13 Type-8 Comparison and Contrast 比較対照型プレゼンテーション ( 類似する物事の共通点と相違点や利点欠点を述べる) プレゼンテーション③						
14	Unit 14 Giving Your Proposal Presentation 説得型・提案型プレゼンテーションの実践 ( Unit 10-Unit 13 まとめ)						
15	Unit 14 Giving Your Proposal Presentation 説得型・提案型プレゼンテーションの実践 振り返りと総まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業取組状況	40	毎回の授業に予習'準備)して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。		報告型プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの構成など学んだことを生かし準備・内容を整え分かりやすいプレゼンテーションを行う。	
説得提案型プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの基本を習得した上で準備・内容を整え聴取に効果的に説得提案するプレゼンテーションを行う。		相互評価	10	聞き手として他の人の発表を項目に従って評価を行う。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
①授業範囲の復習と予習(30分) ②プレゼンテーション課題のリサーチ、資料収集、英文原稿作成、ビジュアルエイド作成(90分)				プレゼンテーション後に口頭でコメントし、クラスの発表コメント(相互評価)を後日配布する。			
受講生に望むこと	この授業を通してプレゼンテーションの基本を学び、発表にいたる過程を一つずつ積み重ねていき、自信をもって発表できる力をつけること。教科書の項目にはWeb動画、CD音声を無料でストリーミング再生することが可能であるため積極的に利用するよう心掛けること。			教科書・テキスト	『Winning Presentations 8 Types of Successful Presentations』Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN:978-4-7919-3424-9		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	代替授業はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EL310U 4-ヒール・イングリッシュA		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	マシユール ボッシュ					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>In this course:</p> <p>1. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach where various aspects of movies will be discussed in English.</p> <p>2. We will learn short dialogues from movies.</p>			<p>The goals of the course are as follows:</p> <p>1. Gain ability to communicate about movies of various genres as well as topics relating to aspects of the story.</p> <p>2. Acquire a wide range of English vocabulary and phrases directly from films.</p> <p>3. Learn methods of studying English from films.</p>			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	A desire to learn English					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to Movie 1: Introduction of genre and presentation of setting and story.					
2	Movie 1: presentation of setting and story (continued)					
3	Movie 1: scenes and script. Practice with dialogue.					
4	Movie 1: summary					
5	Introduction to Movie 2: Introduction of movie genre and presentation of setting and story					
6	Movie 2: setting and story (continued)					
7	Movie 2: scenes and script. Practice with dialogue.					
8	Movie 2: summary					
9	Introduction to Movie 3: Introduction of genre and presentation of setting and story.					
10	Movie 3: setting and story (continued)					
11	Movie 3: scenes and script. Practice with dialogue.					
12	Movie 3: summary					
13	Movie 4: Introduction of genre and presentation of setting and story.					
14	Movie 4: scenes and script. Practice with dialogue.					
15	Movie 4: summary					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly Assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing.	Effort and Attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)			Feedback will be given as needed following pair work.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書／参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	none		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EL320U 4-ヒール・イングリッシュB		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシユー ボッシユ					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
In this course: 1. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach where various aspects of movies will be discussed in English. 2. We will learn short dialogues from movies. 3. We will build on what was learned in Movie English A.			The goals of the course are as follows: 1. Building on what was learned in Movie English A, gain ability to communicate about movies of various genres as well as topics relating to aspects of the story. 2. Acquire a wide range of English vocabulary and phrases directly from films. 3. Learn methods of studying English from films.			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	A desire to learn English					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to Movie 5: presentation of setting and story (guess the genre activity).					
2	Movie 5: presentation of setting and story (continued)					
3	Movie 5: scenes and script					
4	Movie 5: summary					
5	Introduction to Movie 6: setting and story (guess the genre activity). Applying previously learned vocabulary and sentence structures.					
6	Movie 6: setting and story (continued)					
7	Movie 6: scenes and scripts					
8	Movie 6: summary					
9	Introduction to Movie 7: setting and story (guess the genre activity). Applying previously learned vocabulary and sentence structures.					
10	Movie 7: setting and story (continued)					
11	Movie 7: scenes and script					
12	Movie 7: summary					
13	Movie 8: setting and story (guess the genre activity). Applying previously learned vocabulary and sentence structures.					
14	Movie 8: scenes and script					
15	Movie 8: summary					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing	Effort and attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)			Feedback will be given as needed following pair work.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書／参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	This course builds on EL310U Movie English A		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EL230U ビジネス・イングリッシュA		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間 千重子					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目では、英語での電話応対、ビジネスレター・e-mail文、受付等ビジネスの場で用いられる表現や語いを習得する。情報社会における発信力を養っていくために、英語で伝えることを意識した発話力をつけていく。TOEIC対策も実施する。</p>			<p>①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し、基礎的な対応力を習得する。 ③英語でスピーチやプレゼンテーションに慣れる発話力をつける。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：教科書・授業概要、ねらい・進め方、成績評価について説明。(ビジネス英語は多岐にわたることを理解する)					
2	Chapter 1 Telephone 1: 電話の受け方、取次や不在処理について学ぶ。(大きな桁の数字を聞き取る)					
3	Chapter 2 Business Email: Eメール文の定型表現、定型フォーマットを学ぶ。(英語でe-mailを書く)					
4	Chapter 3 Telephone 2: 電話応対での正確な聞き取りを練習する。(聞き取りの際に必要なスペルアウトして伝える)					
5	Chapter 4 Business Letter: ビジネスレター文の定型表現、定型フォーマットを学ぶ。(英文レター文書を書く)					
6	Chapter 5 At the Reception Desk: 受付での応対に関する表現を学ぶ。(リスニング練習をする)					
7	Chapter 1～Chapter 5 小テスト(教科書の内容を再確認する) 発表①: 場面を設定してロールプレイを行う。					
8	Chapter 6 Corporate Websites: 企業の顔であるウェブサイトを読む練習をする。(TOEIC問題を練習する)					
9	Chapter 7 Company Profile: 会社概要に関する英語表現を学ぶ。(品詞とアクセントについて確認する)					
10	Chapter 8 Product Advertisements: 広告文(キャッチコピー)の英語を読んでもみる。(比較表現を練習する)					
11	Chapter 9 Your Job: 自分の仕事について簡潔に英語で説明する。(英語入り名刺を作成する)					
12	Chapter 10 Product Specification: 製品の仕様書について学ぶ。(頭字語や単位の表し方を確認する)					
13	Chapter 6～Chapter 10 小テスト(教科書の内容を再確認する) 発表②: 場面を設定して発表を行う。					
14	Chapter 11 Business Plan: 企業の組織名、事業計画・戦略に関する語いを学ぶ。(TOEIC問題を練習する)					
15	Chapter 12 Operating Instructions: 操作マニュアルを読んで理解する。 Chapter 11～Chapter 12 小テスト(教科書の内容を再確認する・前期のまとめ)					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	40	毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に取り組む姿勢。		小テスト	30	授業内容の理解度を確認する。
発表	30	英語で対応することができる運用力を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①各単元Warm upを予習する。授業内容を理解するために教科書のユニットに目を通しておく(20分)。 ②聞き取りの力をつけるためにリスニングを強化する(20分)。(教科書音声ファイルのダウンロード可能) ③発表の企画案をたて準備する(20分)。</p>			<p>①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収、採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめて配布する。</p>			
受講生に望むこと	<p>①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会が多い。積極的にクラス内外で情報を得るように心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べていけるよう学習する。 ③自分の目標を設定し検定にチャレンジする。</p>		教科書・テキスト	『Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子他著 金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、ビジネス英語検定試験などへの手がかりとする。 代替授業はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EL240U ビジネス・イングリッシュB		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間 千重子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目では、Read and Explore, Research &amp; Presentationの大きく2つのパートからなるビジネス英語に関する事柄（英字新聞、論文、会議）等を学び、英語力をさらに強化していく。TOEIC対策も実施する。</p>			<p>①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し、基礎的な対応力を習得する。 ③英語でのスピーチやプレゼンテーションに慣れる発話力をつける。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：教科書・授業概要・ねらい・進め方・成績評価について説明。（ビジネス英語は多岐にわたることを理解する）					
2	Chapter 13 Talking about the News: 時事的な話題をとりあげる。（意見を述べる際同意や反対を表す話し方を学ぶ）					
3	Chapter 14 Science News: 英字新聞の記事の構成を知り語法や表現を読み取る。（英字新聞の記事を読む）					
4	Chapter 15 Tourist Information: クライアントを観光地へ案内する場面を練習する。（案内したい観光地を調べる）					
5	Chapter 16 Safety Signs: よく見かける安全標識についての英語表現を学ぶ。（標識の英語を知る）					
6	Chapter 17 Dinner Talk: レストランでのメニューの選択・食事に関する語いを学ぶ。（和食を紹介する）					
7	Chapter 13～Chapter 17 小テスト（教科書の内容を再確認する） 発表①：場面を想定してロールプレイを行う。					
8	Chapter 18 Abstracts: 研究論文の抄録を書く手順について学ぶ。（TOEIC問題を練習する）					
9	Chapter 19 Preparation for Meetings: 会議を円滑に進める基本的な英語表現を学ぶ。（リスニング練習をする）					
10	Chapter 20 Data and Graphs: データーとグラフに関する基本語いを学ぶ。（グラフの解説文を読む練習をする）					
11	Chapter 21 Presentation 1: プレゼンテーションで役立つ表現を学ぶ。（リスニング練習をする）					
12	Chapter 22 Presentation 2: プレゼンテーションで用いるスライドおよびスライドの説明を練習する。（特許出願のスライド例を参照する）					
13	Chapter 18～Chapter 22 小テスト（教科書の内容を再確認する） 発表② 場面を想定して発表を行う。					
14	Chapter 23 Various Requests: 依頼に対応する英語表現を学ぶ。（シャドウイングの練習をする。TOEIC問題を練習する）					
15	Chapter 24 Patent Description: 特許明細書の英語表現を学ぶ。 Chapter 23～Chapter 24 小テスト（教科書の内容を再確認する）・後期のまとめ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	40	毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に取り組む姿勢。		小テスト	30	授業内容の理解度を確認する。
発表	30	英語で対応することができる運用力を評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①各単元Warm upを予習する。授業内容を理解するために教科書のユニットに目を通しておく(20分)。 ②聞き取りの力をつけるためにリスニングとリーディングを強化する（20分）。（教科書の音声ファイルのダウンロード可能） ③発表の企画案をたて準備する(20分)。</p>				<p>①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめて配布する。</p>		
受講生に望むこと	<p>①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会が多い。積極的にクラス内外で情報を得るように心がける。 ②日英いずれの言語でも積極的に自分の考えを述べていけるよう学習する。 ③自分の目標を設定し検定にチャレンジする。</p>			教科書・テキスト	『Getting Global! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著、金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5	
指定図書／参考書等	なし/なし			その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、ビジネス英語検定試験などへの手がかりとする。 代替授業はClassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EL350U インテンシブ・リーディング		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	中野 聡						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
ある程度の長さのある英文を、トップダウン読み、ボトムアップ読みの両方向から正確に読み取る力を高めることを目的とする。 そのために、教科書にある英文を読むことを通して、英文の読み取り方法を理解する。そして、より多くの英文を読むことで、英文読みとりの方法をより多く自分のものとして身に付けていく。できるだけ、素早く内容理解できる力も身に付けることも目指す。			①未知語類推の方法を身に付ける。 ②つなぎ言葉、語句等の繰り返し、並行構文などを手掛かりに文の展開を理解し、未知のパラグラフを予想しながら読み進めることができる。 ③新聞記事などの題材では、見出し語・リードの部分から、内容が類推できるようなスキーマを活性化させることができる。 ④事実と意見の部分が見られる英文の場合、事実と意見の部分を区別して、理解することができる。				
教授方法	講義・演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Unit1 Check Your Level 現在のリーディング力を診断する Unit2 Experience Pre-Reading Activities 英文の内容を予測する						
2	Unit3 Identifying the Main Idea 〈1〉 メインアイデアを理解する 〈1〉						
3	Unit4 Identifying the Main Idea 〈2〉 メインアイデアを理解する 〈2〉						
4	Unit5 Identifying the Main Idea 〈3〉 メインアイデアを理解する 〈3〉						
5	Unit6 Understanding Supporting Details 詳細情報を理解する						
6	Unit7 Using Signal Words to Predict Ideas 〈1〉 シグナルワードを理解する 〈1〉						
7	Unit8 Using Signal Words to Predict Ideas 〈2〉 シグナルワードを理解する 〈2〉						
8	Unit9 Using Reference Words to Follow Ideas 〈1〉 指示語を理解する 〈1〉						
9	Unit10 Using Reference Words to Follow Ideas 〈2〉 指示語を理解する 〈2〉						
10	Unit11 Paragraph Organization 〈1〉 Comparison and Contrast パラグラフ構造 〈1〉 「比較」と「対照」を学ぶ						
11	Unit12 Paragraph Organization 〈2〉 Cause and Effect パラグラフ構造 〈2〉 「原因」と「結果」を学ぶ						
12	Unit13 Paragraph Organization 〈3〉 Time Order and Process パラグラフ構造 〈3〉 「時間順序」を学ぶ						
13	Unit14 Paragraph Organization 〈4〉 Problem Solution パラグラフ構造 〈4〉 「問題解決」を学ぶ						
14	Unit17 Reading Numbers: Tables and Graphs 表やグラフの数値を読み取る						
15	Unit18 Summarizing ideas 要約する Unit20 Assess Your Achievement 現在の英語力を再診断する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	意欲的に参加・発言 30点 概ね参加 15点 無関心・意欲がない 5点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		ポートフォリオ	30	授業で学んだ英文と授業以外で興味ある分野の英文を読み、身に付けたい関連語彙や英語表現について記録する。	
小テスト	40	前時の学習内容に関する復習の小テストを行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①予習として、教科書を読み、わからない単語については、調べておく。また、毎回英字新聞の論説を読み解くので、事前にわからない単語については調べ内容把握しておく。〔50分〕 ②復習として、授業で読んだ教科書や論説をもう一度読み、身に付けたい単語や表現についてポートフォリオにまとめる。〔20分〕 ③興味ある分野の英文を読み、身に付けたい、単語や表現についてポートフォリオにまとめる。〔30分〕			小テスト結果、理解が難しかった部分については解説をする。ポートフォリオにまとめた身に付けたい表現については、確認し良いものについて紹介し、より良くするためのアドバイスをします。				
受講生に望むこと	授業で読める文章量は限られているので、意識して自分の興味ある分野の英文にたくさん触れる習慣を身に付けると、授業の学んだ文章の読み方が身に付くと心得てほしい。		教科書・テキスト	『Reader's Ark Basic Setting Out on a Voyage』（初版）卯城裕司他著 金星堂 2019年 ISBN：978-4-7647-3884-3			
指定図書／参考書等	・参考資料は、授業を進めながら紹介する。 ・英和辞典（紙、電子どちらでも）を毎回持参する。		その他・特記事項	・自分が身に付けたい単語や文をポートフォリオとしてファイリングしていくためにルーズリーフノートを用意する。詳しくは、最初の授業で説明する。 ・代替授業では、課題送付等をCanvasroomで実施する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
中学校での経験を生かして、精読を中心としながらも程度分量を継続的に読んでいくこと、読み取った文の中で自分のものとした表現についてポートフォリオにしていく指導をしている。							

授業科目名	EL360U エッセイ・ライティング		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	中野 聡						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>わかりやすく伝えるためには、正確な英文を書くこと、文と文とのつながりを意識してパラグラフを作ること、いくつかのパラグラフから構成される文章が、構造の組み立てを意識したものであることが大切である。4技能を使った練習とよい英文を読むことにより文章の組み立て方を学ぶ。また、教科書を通して、様々なテーマについて自分自身の考えを明確にして英語の文章を書く力を高める。英語の基本的なパラグラフ構成を学び、論理的な英文を書けるようになる。</p>			<p>①教科書テキストや論説を読んで、よい文章の構造の組み立てについて理解する。  ②4技能を使った練習を通して正しい英文、つながりのあるパラグラフを書くことができる。  ③あるテーマについて、自分の考えを構造の組み立てを意識して複数のパラグラフで、わかりやすく書くことができる。  ④与えられたテーマでパラグラフを書き、他者からの批評や、自発的な見直しによって、より良いものに仕上げるができる。</p>				
教授方法	講義・演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Chapter 1 What Is a Paragraph? パラグラフとは何か						
2	Chapter 2 Narration 出来事を語る						
3	Chapter 3 Process 手続き・手順を説明する						
4	Chapter 4 Description of Feelings 感情を描写する						
5	Chapter 5 Description of People 人を描写する						
6	Chapter 6 Description of Places & Locations 場所を描写する						
7	Chapter 7 Definition 人物や物事を定義する						
8	Chapter 8 Comparison & Contrast 比較と対照						
9	Chapter 9 Cause & Effect 原因と結果						
10	Chapter 10 Problems & Solutions 問題と解決策						
11	Chapter 11 Your Opinion- Agree 賛成意見を述べる						
12	Chapter 12 Your Opinion- Disagree 反対意見を述べる						
13	Chapter 13 Data Analysis データ分析						
14	Chapter 14 Email Writing 英文Eメール・英文レター						
15	Writingについてまとめ 良いパラグラフ構造の組み立てとは？						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	20	意欲的に参加・発言 20点 概ね参加 15点 無関心・意欲がない 5点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		ポートフォリオ	20	授業で学んだ英文と授業以外で興味ある分野の英文を読み、身に付けたい関連語彙や英語表現について記録する。	
小テスト	30	前時の学習内容に関する復習の小テストを行う。		作文	30	指示したテーマについてエッセイを書く。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①予習として、教科書を読み、問題を解いておく。また、毎回英字新聞の論説を読み解くので、事前にはわからない単語については調べておく。〔60分〕  ②復習として、授業で読んだ教科書や論説をもう一度読み、身に付けたい単語や表現についてポートフォリオにまとめる。〔20分〕  ③復習として、与えられたテーマについて英語で作文する。〔40分〕</p>				<p>小テスト結果、理解が難しい部分については解説をする。ポートフォリオにまとめた身に付けたい表現については、確認し良いものについて紹介し、より良くするためのアドバイスをする。エッセイについて、難しかったところは具体的に基について解説する。</p>			
受講生に望むこと	日本語の文章と同じように、英語で文章を書くのにも時間がかかるが、毎回書くことで力が付く。一方、よい英文をたくさん読んで、自分の作文に取り入れたい文例を自分の手元に蓄積したい。			教科書・テキスト	『Smart Writing -Active Approach to Paragraph Writing』（初版）仲谷都他著 成美堂 2020年 ISBN：978-4-7919-6032-3		
指定図書／参考書等	参考資料は、授業を進めながら紹介する。英和辞典、和英辞典（紙、電子どちらでも）を毎回持参する。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が身に付けたい、自分の作文に取り入れたい単語や文例をファイリングしていくためにルーズリーフノートを準備する。</li> <li>代替授業では、課題送付等をCalsroomで実施する。</li> </ul>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
<p>中学校での経験を生かして、パラグラフも意識した構成ができるように指導する。また、学生自身が自分の作品を読み返す、あるいはクラスメイトと読み合う機会を設けることで、自ら間違いやすいところを意識して、改善できるように指導していく。</p>							



授業科目名	EL370U バイブル・イングリッシュ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシユー ボッシュ					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>In this course:</p> <p>1. We will build vocabulary by studying a number of different Bible passages.</p> <p>2. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach.</p>			<p>The goals of this course are as follows:</p> <p>1. Learn new English vocabulary by reading the Bible.</p> <p>2. Improve in the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through class activities.</p> <p>3. Gain confidence in the use of English.</p>			
教授方法	Individual assignments					
履修条件	none					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to course					
2	Overview of Bible part 1 and select passage					
3	Overview of Bible part 2 and select passage					
4	Books of the Bible part 1 and select passage					
5	Books of the Bible part 2 and select passage					
6	Select Bible passage study					
7	Select Bible passage study					
8	Parables part 1 and select passage study					
9	Parables part 2 and select passage study					
10	Review and select Bible passage study					
11	Review and select Bible passage study					
12	Select Bible passage study					
13	Select Bible passage study					
14	Review of course part 1					
15	Review of course part 2					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly Assignments	60	Weekly reading assignments for English Bible study		Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)				Feedback will be given as needed following assignments.		
受講生に望むこと	An interest in the Bible			教科書・テキスト	none	
指定図書／参考書等	This will be made known in class.			その他・特記事項	none	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EE210U 理科		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	川真田 早苗					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領における理科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面を例示し、どのような観察・実験を行うのか、どのように評価するのかについても考えていく。</p>			<p>1) 小学校学習指導要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2) 理科の各領域、各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3) 理科の学習評価の考え方を理解する。 4) 理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	理科を学ぶ意義、本授業の到達目標・評価方法について理解する。					
2	理科の目標及び内容構成について理解する。					
3	A物質・エネルギー (1) 「粒子の保存性」について理解する。					
4	A物質・エネルギー (2) 「粒子の存在」について理解する。					
5	A物質・エネルギー (3) 「粒子の結合」について理解する。					
6	A物質・エネルギー (4) 「粒子のもつエネルギー」について理解する。					
7	A物質・エネルギー (5) 「エネルギーの保存と変換」について理解する。					
8	A物質・エネルギー (6) 「エネルギーの捉え方」について理解する。					
9	A物質・エネルギー (7) 「エネルギーの保存と変換」について理解する。					
10	B生命・地球 (1) 「生物の連続性」について理解する。					
11	B生命・地球 (2) 「生物の外部の構造と機能」について理解する。					
12	B生命・地球 (3) 「生物の内部の構造と機能」について理解する。					
13	B生命・地球 (4) 「地球の内部と地表面の様子」について理解する。					
14	B生命・地球 (5) 「地球の大気と水の循環」について理解する。					
15	B生命・地球 (6) 「地球と天体の運動」について理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢を評価する。
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分) レポート作成のため、授業内容を復習する。(30分)			レポートの評価及び解説を行う。			
受講生に望むこと	資質・能力の育成を目指す理科授業を実現するために、理科の目標及び内容の系統性等を理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638	
指定図書／参考書等	授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	代替授業の場合はClassroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。						

授業科目名	EE200U 社会		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成するとは、具体的にどのようなことかについて、知識と理解を深める。</p>			<p>①小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。 ②子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通して、理解している。 ③社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。</p>			
教授方法	講義・演習、グループ協議					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。					
3	社会系教科の成立と歴史的変遷について理解する。					
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。					
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。					
6	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年①「地域の生産や販売に携わっている人々」から					
7	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年②「古くから続くくらし（道具・年中行事・先人）」から					
8	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年①「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から					
9	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年②「地域の人々の安全を守るための諸活動」から					
10	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年①「我が国の国土の様子と国民生活」から					
11	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年②「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から					
12	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年①「我が国の歴史上の主な事象」から					
13	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年②「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から					
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。					
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学学習の創造」について話し合う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
レポート1 (中間)	30	講義1～5までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。		レポート2 (最終)	30	講義全体を通して、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。 【60分】				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、978-4536590099	
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	・代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。						

授業科目名	EE215U 家庭		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	金丸 洋子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
『小学校学習指導要領解説家庭編』をもとに、小学校家庭科の果たすべき役割や指導内容について学習する。指導内容に関する基礎的・基本的な知識の理解や技能を習得することを目的とする。家庭科は実践的態度を育てることも教科のねらいであり特徴である。本授業を通して、日常生活における自立や家庭・社会の一員としての自分自身の生活を振り返り、現状や課題について考える。			①教科の目標や各領域の基礎的・基本的知識を理解する。 ②調理や布を使った製作の基礎的スキルを習得する。 ③子どもの家庭生活についての現状と課題について理解する。 ④よりよい家庭生活や社会生活への課題に気づき、実践的な態度に結び付けることができる。			
教授方法	講義 演習 実習 ビデオ視聴					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の進め方等の説明後、「家庭科」と「生きる」との関係や教科「家庭科」の変遷から、「家庭科」の目的や社会変化との関係について考えます。(教科「家庭科」の意義と課題について理解する。)					
2	子どもたちの家庭生活全国調査結果と「家庭科」改定の趣旨を関連付けて考えます。(子どもたちが家庭生活に望んでいることや問題点等と関係付けて「小学校家庭科」の目標及び内容の改善趣旨を理解する。)					
3	2歳児放置事件を通して、結婚・家庭・家庭生活について考えます。(事件の背景や実生活における問題点等を踏まえて、どうあるべきか考えることができる。)					
4	「家庭科」の目標及び指導内容・視点について説明します。(目標及び構成、生活の営みに係る見方考え方について理解する。)					
5	A領域:「家族・家庭生活」を構成している4項目及び指導内容と取扱いについて説明します。(4項目及び指導内容と取扱いについて理解する。自分自身の家庭・家族とのかかわりについて考えることができる。)					
6	実習 団樂のおやつ作り (団樂の大切さや手作りの楽しさを体験的に理解する。教える立場としての基礎的調理知識や技能を身に付ける必要性を理解する。)					
7	B領域:食生活の内容「食事の役割」について説明します。(課題をもって日常の食事の大切さを理解し、食事の役割や仕方に関する知識を身に付ける。)					
8	食生活の内容「栄養を考えた食事」について説明します。(調和のとれた食事について理解し、1食分の献立を栄養のバランス、調理方法を考え作成できる。)					
9	実習 食生活の内容「調理の基礎」について実習を通して体験的に学びます。(米飯と味噌汁の知識や調理の仕方を理解し適切にできる。調理の基礎的知識や技能を習得する。調理実習指導の配慮事項について体験的に理解する。)					
10	衣生活の内容「衣服の着用と手入れ」「布を用いた製作」の計画について説明します。(日常着の快適な着方、手入れの仕方に関する知識及び技能を身に付ける。製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画が立案できる。)					
11	実習「布を用いた製作」手縫いやミシンの使い方及び縫い方の知識や技能、用具の安全な取り扱いについて体験的に学びます。(目的に応じた縫い方及び用具の安全な取り扱いについて理解し適切にできる。)					
12	実習「布を用いた製作」製作目標や計画にのっとりリバーシブルトートバックを製作をします。(既習を活用し製作することができる。製作手順や方法、製作時間等を比較し合い評価できる。)					
13	実習「布を用いた製作」課題や評価の視点をもって製作し作品を仕上げます。(教えるための基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。互いに仕上がった作品を観察したり比較し合い布製品を評価できる。製作過程を振り返り反省評価できる。)					
14	・住生活の内容「快適な住まい方」快適な住まい方の基礎的知識・方法を考えます。(エネルギー問題や生活環境に課題意識をもつことができる。) ・「衣食住の生活を伝統的な生活の視点で振り返ります。(生活文化の大切さに気づくことができる。)					
15	C領域:「身近な消費生活と環境」各自これからの家庭や社会生活の課題を考えプレゼンテーションします。(男女共同参画社会における「家庭科」の在り方や自分自身の家庭生活について考えることができる。)					
<b>成績評価方法及び基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習や製作物	50	・積極的、主体的に実習に参加し工夫がみられるか。 ・製作計画や提出期限を遵守しているか。 ・基礎的・基本的な技能が習得できているか。		プレゼンテーション	20	家庭生活や社会生活からの問題意識を基に、テーマを説得力、説得力のある内容か。実践的な態度が養われているか。
小課題	30	講義授業後、ミニレポートは自分の考えを書くことができるか。ミニテストは理解しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習 次時の課題について予習したり、準備や試行して授業に臨んでください。【30分】 事後学習 事後レポートや理解度評価テストを提出してください。製作計画に基づき課外で仕上げてください。【30分】			事後レポートにはコメントをつけて返却します。製作物を評価し返却します。手直し再提出を求める場合があります。			
受講生に望むこと	「家庭科」は日々の生活の科目であり、「生活の基本」の教科と言えます。しかし、現代社会では、家庭や「衣・食・住」の生活に、課題が多い。社会の変遷との関係や家庭科の基礎・基本を学ぶ中で「考える・できる・教える」力をつけてほしいと願っています。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省 東洋館 2018年 ISBN 978-4-491-03466-9 『家庭科の基本』流田直監修 学研教育みらい 2020年 ISBN-9784058011102		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	実習費徴収 製作物材料費は個人負担		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EE306U 国語科指導法（書写を含む）		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「国語」で学んだことを基礎にして、国語科教育の特質や現状、指導のための基礎的知識や技術を学ぶ。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域及び書写の指導事項や発達段階に応じた指導を行うための実践力を、講義やグループ討議、模擬授業などを通して学ぶ。</p>			<p>①国語科教育の実践的指導にあたっての基礎的知識を理解している。          ②発達段階や系統性を踏まえて国語科学習指導計画を立案できる。          ③模擬授業を通して国語科の実践的な指導技術を習得している。          ④子ども・指導者両者の立場から授業を評価できる。</p>			
教授方法	講義 演習 授業参観 グループ討論					
履修条件	「国語」を履修した者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「小学校時代、心に残った国語の授業」というテーマで、「A4」1枚のレポートを仕上げる。					
2	「話すこと・聞くこと」に関する指導法研究					
3	「大学2年次の国語の授業で、わたしが学んだこと」というテーマで、「A4」1枚のレポートを仕上げる。					
4	「読むこと」に関する指導法研究					
5	「書くこと」に関する指導法研究					
6	『学校では教えてくれない日本語の授業』（齋藤孝）の第1章「なぜ学校の国語の授業では日本語力が身につかないのか」を読んだの気付き、発見、学びを200字程度で述べる。					
7	『学校では教えてくれない日本語の授業』（齋藤孝）の第2章「素読にはすごい効果があった!」を読んだの気付き、発見、学びを200字程度で述べる。					
8	『学校では教えてくれない日本語の授業』（齋藤孝）の第3章「日本語の読む力と話す力に磨きをかける」を読んだの気付き、発見、学びを200字程度で述べる。					
9	「私が目指したい国語の授業」というテーマで、「A4」1枚のレポートを仕上げる。					
10	模擬授業の実施と協議①					
11	模擬授業の実施と協議②					
12	模擬授業の実施と協議③					
13	模擬授業の実施と協議④					
14	模擬授業の実施と協議⑤					
15	まとめ：教育実習に向けて(板書の文字・書き順等)					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案	40	十分な教材研究がなされている。単元の目標達成や本時の目標達成を明確にした学習指導案がつけられている。		模擬授業の実施	40	十分な事前準備がなされている。ねらい達成のための授業展開ができている。授業者・児童双方の立場を理解した行動や関わりがなされている。客観的な高め合う相互評価をしている。
課題	20	授業力における自分の課題を理解している。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①事前学習 教材研究や模擬授業の指導案を作成する。[90分] ②事後学習 授業で学んだことや各自の課題についてレポートを作成する。[30分]				・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。		
受講生に望むこと	「国語」で学んだ国語科の目標と内容を想起してほしい。模擬授業で授業力をつけるためにも、事前事後学習や教材研究にしっかり取り組んでもらいたい。子どもの立場に立って授業案を考え、指導を試みる事が大切である。自分の課題や目標をみつけて授業力向上に励んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省 東洋館 2018年 INBN：9784491034621	
指定図書／参考書等	なし/『言語活動の充実に関する指導事例集』～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省 教育出版 2011年 ISBN978-4-316-300290-0 小学校国語学習指導書1年～6年 光村図書出版株式会社 ISBN978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
小学校教諭としての経験をもとに、国語科の授業において小学校現場で具体的にどのように指導しているかについて、実際に模擬授業を行い、明確な視点をもって検討会を行っている。						

授業科目名	EE311U 算数科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	川真田 早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。			1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	「算数」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。 算数教育の意義、目標、内容について理解する。						
2	新時代の算数教育(1) 主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育について理解する。						
3	日本の算数教育の歴史について理解する。						
4	授業の構成、指導案立案、評価の仕方について理解する。						
5	「A 数と計算」の指導について理解する。						
6	「B 図形」の指導について理解する。						
7	「C 測定」「C 変化と関係」の指導について理解する。						
8	「D データの活用」の指導について理解する。						
9	個人で模擬授業を計画し指導案を修正する。						
10	グループによる模擬授業を実施し、協議する。						
11	個人で模擬授業を計画し指導案を修正する。						
12	グループによる模擬授業を実施し、協議する。						
13	個人で模擬授業を計画し指導案を修正する。						
14	グループによる模擬授業を実施し、協議する。						
15	算数教育における今日的課題について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。	
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分) 授業で示す課題に取り組み、次の授業の開始時に提出する。(60分)				レポートは、評価し授業においてフィードバックする。			
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに算数科の学習を計画・実践するとき、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105		
指定図書／参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	代替授業の場合はClassroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。							

授業科目名	EE316U 理科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	川真田 早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
理科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。			1) 理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2) 理科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 理科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。				
教授方法	講義と演習						
履修条件	「理科」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。						
2	理科の目標の構造、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。						
3	理科で何をどのように学ばせるのかについて、4つの領域から考える。						
4	資質・能力を育成する授業づくりについて理解する。						
5	授業の方法、授業の進め方、問題解決の授業、ICT機器の活用、学習評価・評定について理解する。						
6	実験と観察、基本的な実験器具の使い方、試薬の扱い方、理科室の整備と管理について理解する。						
7	学習指導要領と学習指導案の関連について理解する。						
8	問題解決の活動を具体化する学習指導案の作成方法について理解する。						
9	学習指導案作成の方法を理解する。						
10	中学年模擬授業のための指導案を作成する。						
11	中学年模擬授業を実践し、評価する。						
12	高学年模擬授業のための指導案を作成する。						
13	高学年模擬授業を実践し、評価する。						
14	理科教育における今日的課題について理解する。						
15	中学年（高学年）模擬授業を実践し、評価する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。	
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分) 授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(30分)				レポートは、評価し授業で活用する。			
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに理科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「知識とスキルがアップする小学校教員と教育学部生のための理科授業の理論と実践」講談社 2021 ISBN 9784065229446		
指定図書／参考書等	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638			その他・特記事項	代替授業の場合はClassroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。							

授業科目名	EE301U 社会科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達の段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	基礎となる「社会」を履修済であることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。						
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。						
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。						
5	社会科授業の様々な方法論について理解する。						
6	3, 4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	5, 6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
8	社会科授業3, 4 学年の指導計画の作成を理解する。						
9	社会科授業5, 6 学年の指導計画の作成を理解する。（社会科学学習指導案①の提出）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（3, 4学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（4学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（5学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価⑤（6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学学習指導案②（修正版）の提出						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。〔60分〕 金沢市近郊の小学校あるいは母校等において、学習支援に積極的に参加する。〔60分以上〕			学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。				
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、978-4536590099		
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	・代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。							



授業科目名	EE321U 生活科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。 1、2年生の発達の段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。			①生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。				
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	基礎となる「生活」を履修済であることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。						
3	教材研究、指導計画立案について理解する。						
4	授業展開、評価について理解する。						
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。						
6	生活科の目標と内容を理解する。						
7	生活科学習指導計画の作成について理解する。						
8	指導計画の作成、質問教室（生活科学習指導案①の提出）						
9	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（1学年）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（1学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（1学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（2学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価⑤（2学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価⑥（2学年）						
15	模擬授業全体を通じての全体振り返り、まとめ。生活科学習指導案②（修正版）の提出						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。	模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。		
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
三小・牛山周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。[20分] 単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。[60分] 金沢市近郊の小学校、あるいは母校等の学習支援に積極的に参加する。[60分以上]			学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。				
受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645			
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。		その他・特記事項	・代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。							

授業科目名	EE326U 図画工作指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	鷲山 靖					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
1. カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作」に接続する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2. 授業のねらい ①図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 ②図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。 3. 授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。			①図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 ②図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 ③図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。			
教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。					
履修条件	「図画工作」を履修した者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識①：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。					
2	基礎知識②：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。					
3	基礎知識③：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。					
4	基礎知識④：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討しを理解する。					
5	基礎知識⑤：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。					
6	基礎知識⑥：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、図画工作科教科書を検討し理解する。					
7	基礎知識⑦：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。					
8	授業構想・演習①：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。					
9	授業構想・演習②：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。					
10	授業構想・演習③：図画工作科における指導言とその要点を理解する。					
11	授業構想・演習④：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。					
12	授業構想・演習⑤：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。					
13	授業構想・演習⑥：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。					
14	授業構想・演習⑦：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。					
15	授業構想・演習⑧：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	①疑問点やよく理解できないことを質問している。 ②講義内容とともに自分の考えをノートしている。 ③ミニツペーパーや小課題に取り組み、提出している。		定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。[10分] ②教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。[30分]			課題（演習）の成果は、担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。			
受講生に望むこと	①スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 ②考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧めます。		教科書・テキスト	①『図画工作1・2上～5・6下』（令和2年度）日本文教出版 ②『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』日本文教出版 2018年 ISBN9784536590112 ③『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作』東洋館出版社 2020年		
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EE331U 音楽科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	武田 恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領「音楽」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」とある。第1学年から第6学年まで、それぞれの発達段階に応じた音楽科の学習指導を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>①小学校音楽科の目標、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的な知識及び技能を身に付ける。 ②音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>				
教授方法	リモート及び対面授業による、講義と演習						
履修条件	「音楽」を履修している者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。小学校音楽科における教科の本質について理解する。 教材研究Ⅰ：共通教材（低学年）について学ぶ。						
2	教科の目標と各学年の目標と内容を理解する。 教材研究Ⅱ：共通教材（低学年）の歌唱・伴奏練習。						
3	音楽科の指導内容について理解する。 教材研究Ⅲ：共通教材（中学年）について学ぶ。						
4	音楽科の評価について理解する。 教材研究Ⅳ：共通教材（中学年）の歌唱・伴奏練習。						
5	音楽科の学習指導計画、学習指導案の作成について理解する。 教材研究Ⅴ：共通教材（高学年）について学ぶ。						
6	A表現（1）歌唱の指導法と教材について学ぶ。 教材研究Ⅵ：共通教材（高学年）の歌唱・伴奏練習。						
7	A表現（2）器楽の指導法と教材について学ぶ。 A表現（3）音楽づくりの指導法と教材について学ぶ。						
8	B鑑賞の指導法と教材について学ぶ。 学習指導案の作成。学習指導案の提出①						
9	学習指導案の作成及び修正。						
10	学生による模擬授業Ⅰ：実施と評価・反省						
11	学生による模擬授業Ⅲ：実施と評価・反省						
12	学生による模擬授業Ⅲ：実施と評価・反省						
13	学生による模擬授業Ⅳ：実施と評価・反省						
14	学生による模擬授業Ⅴ：実施と評価・反省						
15	学生による模擬授業Ⅵ：実施と評価・反省 全体の振り返りとまとめ、学習指導案の提出②						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
コミュニケーションシート	20	提出状況と内容。（①毎授業のポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）		模擬授業	20	模擬授業の内容。	
学習指導計画案①、②	40	①模擬授業実施のための学習指導計画案作成において十分に教材研究をし、創意工夫して作成されているか。 ②模擬授業や担当教員による助言を踏まえて、修正版学習指導計画案が作成されているか。		課題の取り組み	20	課題に対しての取り組みと内容。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題を出しますので、積極的に取り組んで下さい。[30分] ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ③学習指導計画案作成において、基本的な要件を漏れなく記載することができるように多くの学習指導計画に当たって下さい。[30分]				毎授業で課すコミュニケーションシートは、コメント等を付記し返却します。			
受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②歌うこと、ピアノを演奏することを継続的に学習して下さい。 ③授業の妨げになるような行為は慎んで下さい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 音楽編』東洋館出版社、2018年、ISBN978-4-49103-465-2／『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社、2019年、ISBN978-4-87788-823-7／プリント		
指定図書／参考書等	なし／『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』初等科音楽教育研究会編、音楽之友社、2020年、ISBN978-4-276-82102-6			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EE336U 家庭科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	荒井 紀子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。</p>			<p>①家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。 ②児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。 ③児童の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。</p>			
教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う					
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）					
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）					
3	家庭科の歴史と男女共修（1947年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）					
4	家庭科の目標・内容とSDGsとの関連（学習指導要領の目標、内容や資質・能力、深い学びについて理解するとともに、SDGsと家庭科との関連について検討する）					
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）					
6	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（1）（三国清三氏の食の授業の動画をもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）					
7	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（2）（子供の自発性や生活自立力を育む家庭科のカリキュラムの構造について理解し、その理論を用いて、前回の三国清三氏の食の授業を分析する）					
8	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（3）（消費者学習の動画をみて、子どもの探究を促すジグソー型の授業の構造を理解し、その効果について検討する）					
9	授業を読む（1）（テキストに掲載されたSDGsに関わる家族や食の授業実践を読み、その長所と改善点について検討する）					
10	授業を読む（2）（テキストに掲載されたSDGsに関わる消費や住居などの授業を読み検討すると共に、各自の授業案を作成する）					
11	模擬授業（1）授業計画を立てる（各自の授業案をもとに、グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）					
12	模擬授業（2）細案を完成させ、模擬授業の準備を行う（細案に関わる資料や教材、教具を作成する）					
13	模擬授業（3）授業の実施（前半）（グループごとに実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）					
14	模擬授業（4）授業の実施（後半）					
15	まとめ 模擬授業の省察と、講義全体を各自で振り返る最終レポートの作成					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
個人作成の授業案と実践	20	授業構想がしっかりとてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。	課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。	
最終レポート	50	本講義で学んだことを理解しているか。それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
8回の授業が終わった時点で、授業計画に必要な教材研究の一環として、食生活と衣生活に関わる実践的な問題解決の課題を出す。〔3時間程度〕			講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。			
受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」と、関心のあるところに目を通しておいて下さい。		教科書・テキスト	『SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン』教育図書刊、2020年 ISBN：9784877304355		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EE341U 体育科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践の指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫することについても学ぶ。			小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身に付ける。				
教授方法	リモート及び対面授業による講義、教材研究、模擬授業、グループディスカッション						
履修条件	「体育」を履修中もしくは履修済みであることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学校教育における体育の意義について理解する。						
2	小学校学習指導要領における運動領域と保健領域の関連について理解する。						
3	体育の授業づくりと指導法について理解する。						
4	「体づくり運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。〔タブレット（スマートフォン）やデジタルカメラなどのICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫する指導計画を含む〕						
5	「体づくり運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
6	「器械運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。（ICT 機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を確認するなど、自己の課題を見付ける指導計画を含む）						
7	「器械運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
8	「陸上運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。（走ったり跳んだりする運動の様子をICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付ける指導計画を含む。）						
9	「陸上運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
10	「水泳」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導法について理解する。（ICT 機器を活用して、課題や解決のための動きのポイントを仲間と確認し、自己の課題に応じた練習の仕方を選ぶことの指導計画を含む）						
11	「ボール運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。（自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉絵図、ICT 機器を用いて他者に伝える指導計画を含む）						
12	「ボール運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
13	「表現運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する（タブレットやデジタルカメラなどのICT 機器を活用して自己の表現の様子を確認し、次の課題を確認するなど、自己の課題を見付ける指導計画を含む）と共に、「表現運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
14	「保健」の内容と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成し、授業づくりと指導法について理解する。						
15	「運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業と指導」について考えを深め、まとめる。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢		模擬授業の発表内容	20	①模擬授業に向けた丁寧な準備がされているか。 ②運動に関する正しい指導が行われたか。 ③運動が得意な児童だけでなく苦手な児童への配慮がなされたか	
指導案の内容	30	①十分な教材研究がなされているか。 ②異なる能力の児童の姿を想定しているか。 ③安全への配慮が考えられているか		レポート・試験	20	「体育」について自分の考えを論理的に述べることができるか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報に接し、様々な角度から考える〔60分〕 ②授業中に配布した資料を読む〔30分〕 ③指導案及びレポートの作成〔60分〕 小学校低学年体育、文部科学省 - You Tube 小学校中学年体育、文部科学省 - You Tube 小学校高学年体育、文部科学省 - You Tube				指導案はコメントを付記して返却する。 レポート・試験は授業の理解度の確認に用い、必要な場合は個人指導を行う。			
受講生に望むこと	「運動が得意だから体育が教えられる」、「運動が苦手だから体育は教えられない」と考えないでください。体育は単に運動技術を高めるためだけでなく、能力差のある子供達と一緒に運動することを通して学びあう科目です。体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要です。自分自身のこれまでの経験は大切ですが、それが全てとは考えないでください。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』、文部科学省、2017年、ISBN:9784491034676 『すべての子どもが必ずできる 体育の基本』、高橋健夫他著、学研教育みらい、2010年、ISBN:978-4-05-404531-6 その他授業中に適宜資料を配布する		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	模擬授業の時間は運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。 リモート授業に対応できるように各自準備しておくこと。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EE346U 英語科指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「英語」での学びを基盤に、児童の発達段階に合わせた小学校英語(外国語活動及び外国語科)指導に必要な基礎的知識を学ぶ。具体的には、小学校外国語教育の背景や諸外国の状況に加え、英語指導に関わる理論(言語習得、教授法、到達目標と指導計画、授業の構成、評価のあり方)などを学ぶ一方、模擬授業を通じて具体的な指導技術(指導案作成、題材やコミュニケーション活動設定、教材研究、パフォーマンス評価、英語での語りかけ、ALTとの協働等)を身につける。常に中学校・高校への連続性を意識しながら小学校外国語教育指導について学ぶことが肝要である。</p>			<p>①小学校外国語活動・外国語(英語)教育の変遷、目標、内容について中学校・高等学校外国語教育との関連も踏まえて理解する。 ②子どもの第二言語習得の特徴を理解した上で、小学校外国語指導における音声によるインプットと具体的場面設定の重要性、十分な音声言語での経験から文字言語へというプロセスの重要性について理解する。インプットに当たっては情報機器及び教材を効果的に用いてリスニング、リーディングを行うことについても理解する。 ③英語によるコミュニケーション場面の中で、児童の理解を容易にし発話を促すような、基本的指導技術や英語での語りかけを実践的に身につける。 ④学習到達目標に基づく指導計画の在り方を理解した上で、外国語活動・外国語教材を用いた模擬授業を通じて、学習指導案の作成、教材研究、ICT等の効果的利用、評価のしかたを身につけ、改善につなげる方法及びティームティーチング指導についても理解する。</p>				
教授方法	講義・演習・およびディスカッション						
履修条件	①小学校教諭一種免許状取得希望者あること。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション、「英語科指導法」の概要・授業計画を理解し、達成目標を設定する						
2	外国語教育の教科化の経緯と目的、理念、役割、考慮すべき点について学ぶ クラスルームイングリッシュ(1)						
3	第二言語習得の特徴を理解し、音声によるインプットのあり方、コミュニケーション場面での意味ある言語使用の重要性を学ぶ クラスルームイングリッシュ(2)						
4	小・中・高の外国語教育における小学校の役割を踏まえた指導目標を学び、指導計画の立て方や多様性を考慮した具体例を学ぶ クラスルームイングリッシュ(3)						
5	小中高の連続性を踏まえて英語指導者の役割、資質、研修、ALTとのティーム・ティーチング、ICT活用について学ぶ。 クラスルームイングリッシュ(4)						
6	教材の趣旨、構成、内容、年間計画について理解した上で、Let's Try! 1, 2の言語材料を確認して4技能の指導について学ぶ クラスルームイングリッシュ(5)						
7	New Horizon Elementary English Course 5, 6の言語材料を確認して4技能の指導、特に文字言語の導入について学ぶ クラスルームイングリッシュ(6)						
8	児童の発達段階に適する指導法(CLT, CBI, CLIL, TPRの実演を含む)、指導技術(発問グループワーク等)を実践的に学ぶ。 クラスルームイングリッシュ(7)						
9	コミュニケーション活動を促進するマルチメディア教材等の効果的教材、教具の活用法について実践的に学び、評価のあり方を知る クラスルームイングリッシュ(8)						
10	授業過程と学習指導案の基本を学び、状況に応じた授業過程のバリエーションや学習指導案の具体例を理解する クラスルームイングリッシュ(9)						
11	模擬授業 Let's Try! 1を用いて指導案作成、準備、実施をし、異なる文化や英語の音やリズムへの関心等の観点から検討する						
12	模擬授業 Let's Try! 2を用いて指導案作成、準備、実施をし、その後、音声インプットのあり方を中心に検討し、改善案につなげる						
13	模擬授業 小学校5年生用テキストを用いて指導案作成、準備、実施をし、その後、音声から文字へのプロセスを中心に検討する						
14	模擬授業 小学校6年生用テキストを用いて指導案作成、準備、実施をし、その後、場面設定や教材提示の仕方等の適切性を検討する						
15	授業の総まとめ 全体を振り返り、小学校外国語教育指導者としての到達目標を見直すとともに今後の学修計画をたてる						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
討議・発表の取組状況	20	小学校外国語活動、教科としての英語について関連資料にあたるなど積極的に理解に努め、討議に貢献しているか。		小テスト	10	①語彙や文型が定着しているか。 ②使用する場面や機能を理解ができていないか。 ③4技能で使用できるか。	
指導案・実施・振り返り	30	①授業目的に合った指導案が作成できているか。 ②適切な指導技術で実施できているか ③検討を経て、実践を客観的に振り返り改善案を考えられるか		試験	40	小学校外国語活動、教科としての英語についての基本を修得しているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>①学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。[30分] ②小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。[45分] ③メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。[30分] ④英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。[20分] ⑤小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。[45分]</p>				返却時に行う			
受講生に望むこと	<p>①2020年度から小学校外国語活動(3,4年生)、外国語科(5,6年生)が始まったことをふまえて、積極的に取り組むこと。 ②「小学校英語は楽しければ良い」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 ③英語を取り巻く環境は急激に変化しているため新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 ④英語科目(アクティブイングリッシュを含む)を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。</p>			教科書・テキスト	<p>①『新編小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 ②『Let's Try! 1』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258703 『Let's Try! 2』文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4487258710) 『Let's Try! 1 指導編』文部科学省 2018年 (ISBN978-4-487-259700) 『Let's Try! 2 指導編』文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4-487-259717) ③『NEW HORIZON Elementary English Course 5』東京書籍 2019年 ISBN:978-4487105854 ④『NEW HORIZON Elementary English Course 6』東京書籍 2019年 ISBN:978-4487105858 ⑤『Picture Dictionary NEW HORIZON』東京書籍 2019年 ISBN978-4487105861 ⑥適宜配布されるプリント</p>		
指定図書/参考書等	なし/『小学校英語内容論入門』樋口忠彦(代表)他編、2019年、研究社、ISBN: 978-4327410995			その他・特記事項	詳細なクラスルールは1時間目ハンドアウトを用いて説明をする。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EE228U 道徳教育指導論 (小中)		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において道徳の時間が「特別の教科 道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子どもたち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか、またどのように行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤ではいくつかの実際の道徳授業をもとに自分なりの道徳授業について考える。			①道徳教育とは何か、その今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育がどのように行われているか様々な観点から考えることができる。 ⑤多様な道徳授業について具体例をもとに自分なりに考えることができる。				
教授方法	講義						
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション(授業の概要と評価方法について知る。) / 道徳教育とは何か(道徳教育の本質について考える。)						
2	道徳教育の意義(日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性について資料をもとに考える。) ミニレポート①						
3	道徳性の発達(道徳性はどのように発達するかについての理論を知る。)						
4	道徳教育の歴史①(明治時代の道徳教育について資料をもとに考える。) ミニレポート②						
5	道徳教育の歴史②(大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育について資料をもとに考える。)						
6	道徳教育の歴史③(昭和時代戦後の道徳教育について資料をもとに考える。) ミニレポート③						
7	特別の教科 道徳①(学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。)						
8	特別の教科 道徳②(子どもを主体とした道徳教育について知る。) ミニレポート④						
9	特別の教科 道徳の指導過程(道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。)						
10	特別の教科 道徳の指導方法(道徳指導におけるさまざまな方法に資料をもとに知る。) ミニレポート⑤						
11	道徳の授業の実際(小学校の道徳の授業でどのように考え議論する道徳が行われているか知る。)						
12	幼・小・中連携による道徳教育(異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。) ミニレポート⑥						
13	外国の道徳教育(アメリカ、ドイツ、韓国から1つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する)						
14	多様な道徳授業の探究①(対話を促す道徳授業について資料をもとに考える。) ミニレポート⑦						
15	多様な道徳授業の探究②(デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
ミニレポート	35	・道徳教育について自分の考えを持っている。(7回分)		期末試験	50	・道徳教育についての知識や自分なりの考えを持っている。	
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] ②対面授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニッツコメント”にコメントする。[30分] ③代替授業では毎回、ミニレポートを課すので、授業内容に基づき自己の考えを書く。[30分以上]				①ミニレポートについての質問に応じる。 ②Classroomで質問できるようにする。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。			
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してください。			教科書・テキスト	『自ら学ぶ道徳教育』[第2版]、押谷由夫編著、保育出版社、2016年第2版発行、ISBN978-4-938795-96-2		
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』、文部科学省、2017年告示 ※小学校、中学校いずれかで可/なし			その他・特記事項	・偶数回の授業は基本的に代替授業になります。ミニレポート課題はClassroomに投稿して提出してください。		
実務経験を活かした授業の概要							
実際の小学校や中学校の授業の様子を動画で取材し、それを学生に視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。							

授業科目名	EE238U 教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	川真田 早苗・村井 万寿夫 (代表教員 川真田 早苗)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
社会的背景と明確な法的根拠に基づいた「教育課程」について理解を深めるために、学習指導要領の誕生から改訂の変遷、カリキュラム・マネジメントを踏まえた新しい学習指導要領の目指すところ、教育課程の編成の方法に関して留意すべき事項等について学んでいく。特に、小中高の違いにも注意して、特別活動の意義・領域、展開の方法について学ぶ。			1) 初等・中等教育における教育課程の意義、学習指導要領の内容、役割、改訂の変遷等について理解する。 2) 教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3) カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。 4) 特別活動の意義・領域、展開の方法について理解する。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法、教育課程とは					川真田	
2	教育課程の法的根拠、学習指導要領の位置づけ、教育課程の類型論					川真田	
3	学習指導要領の歴史的変遷① 1947年、1951年、1958年、1968年					川真田	
4	学習指導要領の歴史的変遷② 1977年、1989年、1998年、2008年					川真田	
5	新しい学習指導要領(2017年)、新しい学習評価のあり方					川真田	
6	外国語活動・外国語(小)、特別の教科道徳(小中)、公共(高)					川真田	
7	カリキュラム・マネジメント、チーム学校について					川真田	
8	インクルーシブ教育について(特別支援教育のあり方)					川真田	
9	教育課程における特別活動の位置づけと学習指導要領に見る変遷					村井	
10	特別活動の今日的意義(特別活動とは何か)と目的論(自己実現等)					村井	
11	小中高等学校における特別活動の領域(各活動)と内容及びその方法					村井	
12	学級活動(小中)、ホームルーム活動(高)の内容と展開・評価の方法					村井	
13	児童会行事(小)、生徒会行事(中高)、クラブ活動(小)の内容と展開・評価の方法					村井	
14	学校行事の各内容における小中高等学校のねらいと展開・評価の方法					村井	
15	特色ある学校づくりと特別活動～私の学級・ホームづくり～					村井	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	50	「教育課程」について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
次の授業で取り上げる内容についてテキストを読んで予習する。(60分)				レポートは、採点及び解説を行い返却する。			
受講生に望むこと	具体的な授業についての指導法ではなく、教育課程という大きな括りで、初等・中等教育について、俯瞰して見つめなおす機会としてほしい。			教科書・テキスト	なし(授業中に適宜資料を配布する)		
指定図書/参考書等	小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年7月 文部科学省) 中学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説特別活動編(平成30年発行予定 文部科学省)			その他・特記事項	代替授業の課題の出し方と提出の方法は以下を基本にします。Classroomで出すので、解決後Classroomに投稿してください。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
川真田: 小学校での研修主任の経験をもとに、教育課程編成の意義や方法及び江戸後期からこれまでの日本の教育及び学習指導要領の変遷について説明し、平成29年学習指導要領のねらいを実現するためにはどのような教育課程を編成するかについてディスカッションを行っている。 村井: 実際の小学校、中学校、高等学校の特別活動について情報収集し、学生に提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。							



授業科目名	EE243U 生徒・進路指導論 (小中高)		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	幸 聖二郎・村井 万寿夫 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種 (英語)・高一種 (英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
前半の授業では、生徒指導の基本的な捉え方や考え方について学ぶ。小・中接続連携を意識して、教師と児童・生徒という二つの視点から理解するために、自己の成長過程を振り返って課題レポートをまとめ、問題点を把握する。後半の授業では、進路指導とキャリア教育について考え方や必要性について理解する。また、小中高校を通じて行われている進路指導やキャリア教育の現状や課題について理解し、自己の児童生徒の時代の進路指導とキャリア教育をふり返りその後の生き方について考える。			①「生きる力」に代表される生徒指導の意義や目的を理解している。 ②生徒指導における生徒理解の方法や関わる際の留意点について理解している。 ③生徒指導は、全ての児童生徒が対象であることを理解している。 ④教師としての視点、児童生徒の立場の二つに立って、自己の問題として考えることができる。 ⑤キャリア教育の定義や必要性について理解している。 ⑥児童生徒にとって職業観の形成が必要なことを理解している。 ⑦小中高校のキャリア教育と進路指導の関係について考えることができる。			
教授方法	講義					
履修条件	幼児・児童教育コースか初等・中等教育コースに所属していること。受講までにプレ実習 (学習支援員) などで学校現場を体験していることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	生徒指導の基本 (治療的生徒指導・予防的生徒指導・開発的生徒指導について知り、生徒指導とは何にかについて考える。)					幸
2	生徒指導の三機能 (自己有用感・自己効力感・自尊感情について知り、児童・生徒理解の方法やほめることと叱ることについて考える。)					幸
3	生徒指導と教師の姿 (教師のリーダーシップ・教師の自己開示・教師のソーシャルスキルについて考える。)					幸
4	生徒指導体制 (生徒指導の校内組織・チームとしての学校について知る。)					幸
5	子どもに自立を促す生徒指導の手法 (コーチング・構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルについて知る。)					幸
6	いじめ問題とその対応 (いじめの定義・社会に影響を与えたいじめ事件について知り、いじめの事後対応・いじめ防止策について考える。)					幸
7	不登校問題とその対応 (不登校に陥りやすい時期やきっかけ・不登校の子どもへの支援・不登校のケース会議について知る。)					幸
8	生徒指導と学級経営 (よい学級とはどういう学級かについて考える。)					幸
9	生徒指導と授業 (学習環境・授業時間の保障について知り、魅力的な授業について考える。)					幸
10	キャリア教育① (キャリア教育の定義や必要性について知り、キャリア発達について考える。)*レポート作成と提出					村井
11	キャリア教育② (小中学校の各教科で行われているキャリア教育を知り、職場体験活動を想起する。)					村井
12	進路指導とキャリア教育① (職業観の形成と中途退学について知り、ノート問題について考える。)*ミニレポート作成と提出					村井
13	進路指導とキャリア教育② (小中高校のキャリア教育と進路指導の関係について考える。)					村井
14	キャリア教育の全体像 (発達段階に沿って育む基礎的・汎用的能力について知る。)*ミニレポート作成と提出					村井
15	進路指導とキャリア教育のまとめ (自己の中高時代の進路指導の経験とその後の生き方について考える。)					村井
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準
授業参加態度	10	「対面授業」において、積極的に授業に臨んでいる。「代替授業」の「課題」に対して、意欲的に取り組み、期限内に提出している。		ミニレポート	30	課題内容に応じたミニレポートを書くことができている。
期末レポート	60	課題に対する自分の考えを分かりやすく書いている。(30点×2回)				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
①教育問題に関する新聞報道などを注意して読んでおく。[20分] ②授業で紹介した本をできるだけ読んでみる。[20分] ③生徒指導から連想する事柄、自分が受けてきた生徒指導に関する小論文を作成する。(詳細は授業で説明する。)[30分] ④児童生徒が就きたい職業について調べる。[30分] ⑤「小学校キャリア教育の手引き」を読む。[30分]				・質問は、対面授業のほかClassroom等で受け付ける。 ・対面授業時には代替授業の課題の取り組み方についてコメントをする。 ・生徒指導に関する授業と進路指導に関する授業の期末にレポートを課す。		
受講生に望むこと	①学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小学生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童とかかわっているかを観察するなど、学校現場を体験していること。 ②授業で学ぶ内容を意識しながら、学習支援員として参加することが望ましい。			教科書・テキスト	『三訂版 入門生徒指導』 片山紀子著 学事出版 2018年3月 ISBN 978-4-7619-2400-3	
指定図書/参考書等	参考図書「小学校キャリア教育の手引き」改訂版、文部科学省2011年 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm</a>			その他・特記事項	代替授業の課題はClassroomに投稿して提出してください。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
幸：小学校教諭としての経験をもとに、積極的な生徒指導とはどういうことか、実際の小学校現場での事例を挙げながら、説明し、構成的グループエンカウンター等の実践を行っている。 村井：中学校における不登校について中学校教員や保護者と連携しながら社会的自立のための支援を行っている。						

授業科目名	EC200U 国語		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	中島 賢介・幸 聖二郎・金丸 洋子 (代表教員 中島 賢介)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。</p>			<p>①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。          ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。          ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。          ④小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。</p>			
教授方法	対面授業（講義、言語活動）、代替授業（課題）					
履修条件	小学校教諭及び幼稚園教諭の教職課程登録者に限る					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	(対面) 授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。					全員
2	(代替) 学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。					全員
3	(対面) 「話すこと・聞くこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
4	(代替) 「話すこと・聞くこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
5	(対面) 「話すこと・聞くこと」領域について (3) 言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。					全員
6	(代替) 「書くこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
7	(対面) 「書くこと」領域について (3) 言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。					全員
8	(代替) 「書くこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
9	(対面) 「読むこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
10	(代替) 「読むこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
11	(対面) 「読むこと」領域について (3) 言語活動例について、図書館の持つ機能などを深く理解する。					全員
12	(代替) 伝統的な言語文化について (1) 映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。					全員
13	(対面) 伝統的な言語文化について (2) 狂言を題材に、体験的な理解を深める。					全員
14	(代替) 伝統的な言語文化について (3) 俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。					全員
15	(対面) 伝統的な言語文化について (4) 創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで披露し互いに批評する機会を持つ。					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。		代替授業課題	30	事前にこれから学ぶ事項を整理している。事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。
言語運用能力・表現力	20	授業内容をもとに言語を運用し、体験的理解につながっている。言語感覚が鋭く豊かな表現をしている。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>代替授業課題として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポートにまとめる。[90分]          上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動を伴う準備が主となる。[30分]          小学校国語教科書に紹介されている本の中から10冊を選びブックリストを作る。[120分]</p>				<p>代替授業課題については、提出前に評価のポイントをコメントする。          代替授業課題に関する質問には随時回答する。</p>		
受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってこそ、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、学習した内容を小学校や幼稚園でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館出版社 2018 ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018 ISBN978-4577814475	
指定図書／参考書等	なし／『小学校新学習指導要領ポイント総整理 国語』吉田裕久、水戸部修治編 東洋館出版社 2017 ISBN978-4491033976			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>中島：小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。          幸：小学校教諭としての経験をもとに、国語の指導内容について、実際に小学校現場でどのように取り扱い、子どもたちの理解につなげていくかについて議論し高めている。</p>						

授業科目名	EC205U 算数		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	川真田 早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように評価するののかについても考えていく。</p>			<p>1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。  2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。  3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。  4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
第1回	算数を学ぶ意義を考えるとともに、本授業の到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。						
第2回	算数の目標及び内容構成について理解する。						
第3回	数と計算領域（1）数の概念と表記、自然数などについて理解する。						
第4回	数と計算領域（2）数の把握、数の表記について理解する。						
第5回	数と計算領域（3）たし算、ひき算、かけ算、わり算について理解する。						
第6回	数と計算領域（4）小数、分数について理解する。						
第7回	図形領域（1）基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係について理解する。						
第8回	図形領域（2）面積・体積とその公式について理解する。						
第9回	測定領域（1）量の概念について理解する。						
第10回	測定領域（2）量の測定について理解する。						
第11回	変化と関係領域（1）異種の量の割合について理解する。						
第12回	変化と関係領域（2）関数の考えについて理解する。						
第13回	データの活用領域（1）統計と確率について理解する。						
第14回	文章題、問題解決について理解する。						
第15回	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	70	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分)  レポート作成のため、授業内容を復習する。(30分)</p>				<p>レポートの評価及び解説を行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>小学校の算数科の学習を想起しながら、実際に問題を解いてみたり、考え方を考えたりして、算数を好きになってもらいたい。</p>			教科書・テキスト	<p>「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105</p>		
指定図書／参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	<p>代替授業の場合はClassroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。</p>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
<p>小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。</p>							

授業科目名	EC210U 生活		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。			①幼児～初期学童期の子どもにとって、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解している。 ②生活科の特性・目標・内容等について理解している。 ③体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解している。			
教授方法	講義・演習、グループ協議					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。					
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。					
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」①：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。					
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」②：繰り返し活動することの意義を考えよう。					
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」③：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。					
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」④：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。					
8	生活科の実践から①：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例					
9	生活科の実践から②：学校生活に関する実践例					
10	生活科の実践から③：地域生活に関する実践例					
11	生活科の実践から④：飼育・栽培・いのちに関する実践例					
12	生活科の実践から⑤：自分の成長に関する実践例					
13	体験編「自分物語を創ろう」①：自分自身を見つめ、物語を作ろう。					
14	体験編「自分物語を創ろう」②：互いの物語から学ぼう。					
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。	自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、自分らしい表現を選択して簡潔に表すことができる。	
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①家族から自分の幼少期の話を聞くなどして、これまでの人生を振り返る。 [60分] ②子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍等で学ぶ。 [20分] ③多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。 [20分] ④三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。 [20分]			対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中の相互評価も加味する。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切に学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645		
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。		その他・特記事項	・代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求められることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ協議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。						

授業科目名	EC215U 図画工作		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	鷲山 靖					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
1. カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作科教育法」に接続する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2. 授業のねらい ①造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 ②造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。 3. 授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。			①基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 ②基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 ③自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 ④造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 ⑤図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。			
教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。えがいて遊ぶ活動_えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。					
2	つくって遊ぶ活動_つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。					
3	絵に表す活動A_油絵の基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。					
4	絵に表す活動B_絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。					
5	絵に表す活動C_発想の能力を育成する紙版フロータージュの基礎的技法を習得する。					
6	絵に表す活動D-1_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。					
7	絵に表す活動D-2_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。					
8	絵・工作に表す活動A-1_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。					
9	絵・工作に表す活動A-2_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。					
10	立体・工作に表す活動A-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
11	立体・工作に表す活動A-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
12	立体・工作に表す活動A-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
13	立体・工作に表す活動B-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル1作品制作					
14	立体・工作に表す活動B-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル2作品制作					
15	立体・工作に表す活動B-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル3作品制作。作品の機能試験を実施する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	30	①指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。 ②美術室の清掃・整備に取り組んでいる。 ③授業に集中している。		作品の制作状況	30	①課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 ②課題作品は作品条件を満たしている。
作品の機能	40	制作作品を事前に通知・説明する機能(性能)レベルによって試験を行い評価する。レベル1(10%)、レベル2(19%)、レベル3(11%)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。[10分] ②指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。[30分]				①作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 ②期末試験時間の前半に作品の合否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。		
受講生に望むこと	①身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみましょう。 ②身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しみましょう。			教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罪」ミドリ	
指定図書/参考書等	なし/授業時に随時紹介する			その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合があります。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC220U 音楽		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田 恵美					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識や技術を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュを学ぶ。音楽の教科書より様々な楽曲を取り上げ、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材について理解を深める。また、様々な表現形態について学ぶことで、豊かな感性を育む。			①小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解する。 ②音楽科の指導内容について理解する。 ③正しい発声法を理解し、歌うことができるようになる。 ④打楽器・鍵盤楽器・ソプラノリコーダー・和楽器の演奏法、取り扱いについて理解し、演奏できるようになる。			
教授方法	リモート及び対面授業による、講義と演習					
履修条件	「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「器楽Ⅰ」を履修していることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。 音楽理論Ⅰ：譜表と音名・音部記号について学ぶ。					
2	音楽理論Ⅱ：音符と休符について学ぶ。（音楽理論Ⅰの確認） 歌唱Ⅰ：独唱・斉唱・輪唱について学ぶ。独唱・斉唱曲の読譜と歌唱。					
3	音楽理論Ⅲ：拍子とリズムについて学ぶ。 歌唱Ⅱ：独唱・斉唱・輪唱曲の歌唱、伴奏及び弾き歌い練習。					
4	音楽理論Ⅳ：変化記号・奏法に関する記号について学ぶ。（音楽理論Ⅱ、Ⅲの確認） 歌唱Ⅲ：重唱・合唱について学ぶ。重唱・合唱曲の読譜。指揮法について学ぶ。					
5	音楽理論Ⅴ：強弱記号・速度記号等について学ぶ。 歌唱Ⅳ：重唱・合唱曲のパート練習及び伴奏練習。指揮練習。					
6	音楽理論Ⅵ：音程について学ぶ。（音楽理論Ⅴの確認） 歌唱Ⅴ：重唱曲・合唱曲の歌唱、伴奏、指揮練習。					
7	音楽理論Ⅶ：長音階・調号について学ぶ。（音楽理論Ⅳ、ⅤⅥの確認） 歌唱Ⅵ：パートナーソングについて学ぶ。重唱曲の発表。					
8	音楽理論Ⅷ：短音階について学ぶ。歌唱Ⅶ：パートナーソング・合唱曲のパート練習及び伴奏、指揮練習。 器楽Ⅰ：打楽器の扱い及び奏法について学ぶ。					
9	音楽理論Ⅸ：三和音について学ぶ。コードネームについて学ぶ①（音楽理論Ⅶ、Ⅷの確認） 歌唱Ⅷ：パートナーソング・合唱曲の発表。器楽Ⅱ：リコーダーの運指及び奏法について学ぶ。					
10	音楽理論Ⅹ：歌唱教材のコード伴奏による弾き歌い練習① 鑑賞Ⅰ：鑑賞教材研究① 器楽Ⅲ：リコーダー曲の読譜及び練習。打楽器・鍵盤楽器を用いた合奏曲の読譜及びパート練習。					
11	音楽理論Ⅺ：コードネームについて学ぶ② 鑑賞Ⅱ：鑑賞教材を曲想、楽器の音色や響きを感じて聴く。 器楽Ⅳ：リコーダー曲の発表。打楽器・鍵盤楽器を用いた合奏曲の合奏練習。（音楽理論Ⅸ、Ⅹの確認）					
12	音楽理論Ⅻ：歌唱教材のコード伴奏による弾き歌い練習② 器楽Ⅴ：打楽器・鍵盤楽器を用いた合奏曲の読譜、パート練習及び指揮練習。 鑑賞Ⅰ：鑑賞教材研究②					
13	歌唱Ⅸ：様々な歌唱曲のまとめ。器楽Ⅵ：打楽器・鍵盤楽器を用いた合奏曲の発表。 創作Ⅰ：声・音・リズム等を使った創作遊び①（音楽理論Ⅺ、Ⅻの確認）					
14	音楽理論ⅫⅢ：音楽理論Ⅰ～Ⅹの復習。器楽Ⅶ：打楽器・鍵盤楽器を用いた合奏曲のまとめ。 創作Ⅱ：声・音・リズム等を使った創作遊び②					
15	和楽器について学ぶ。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）		コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）
小テスト	30	各回の講義・演習内容について理解しているか。小テストの内容、形態等の詳細は授業内に提示する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題を出しますので、積極的に取り組んで下さい。[30分] ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ③次回授業のための課題について準備をして下さい。[30分]				毎授業で課すコミュニケーションシートは、コメント等を付記し返却します。		
受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。 ③授業の妨げになるような行為は慎んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編、東京書籍、2017年、ISBN978-4-487-71121-5／『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社、2019年、ISBN978-4-87788-823-7／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／プリント	
指定図書／参考書等	なし／『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』初等科音楽教育研究会編、音楽之友社、2020年、ISBN978-4-276-82102-6			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EC225U 体育		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子（代表教員 永山 亮一）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
学習指導要領の目標には「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」とある。この授業では、将来保育者及び教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。幼稚園あるいは小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。			学習指導要領（体育編）の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。				
教授方法	リモート及び対面授業によるスポーツ実技。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス					永山	
2	体づくり運動① 「走・跳の運動遊び①」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山	
3	体づくり運動② 「走・跳の運動遊び②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
4	体づくり運動③ 「器械・器具を使つての運動遊び①」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
5	体づくり運動④ 「器械・器具を使つての運動遊び② ～器械運動①」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山	
6	体づくり運動⑤ 「器械・器具を使つての運動遊び③ ～器械運動②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
7	体づくり運動⑥ 「ゲーム① ボールをあつかう①」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
8	体づくり運動⑦ 「ゲーム② ボールをあつかう②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
9	体づくり運動⑧ 「ゲーム③ ボールをあつかう③」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
10	体づくり運動⑨ 「ボール運動①」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
11	体づくり運動⑩ 「ボール運動②」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
12	体づくり運動⑪ 「ボール運動③」を実践し、指導法などを学習する。					永山	
13	水泳① 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（水泳実習における留意事項など理論を中心に。）					田邊・永山	
14	水泳② 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（各種泳法など実技を中心に。）					田邊・永山	
15	まとめ これまで学習してきた内容を整理する。					田邊・永山	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか ・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取ろうとする姿勢があるか		ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されているか ・指定した課題に対して的確に調べられているか	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。〔30分〕 ②各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。〔30分〕 ③各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。〔30分〕			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。				
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目です。学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加して下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02375-5 『学習指導要領の解説と展開 体育編』安彦忠彦監修 教育出版 2008年 ISBN 978-4-316-80217-6			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EC228U 英語		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤 雄二・中野 聡 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力を、CEFRを参考に各自が目標を立てながら、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景知識の具体例を小・中学校で使用されている教科書から学びます。</p>			<p>①英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。          ②第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。          ③児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。          ④異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。</p>			
教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション					
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）のうち、いずれかの免許を取得予定の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を説明する。特に、対面授業と代替授業の関連性を説明する。小学校における英語教育の歴史を概観した後、その意義をディスカッションを通して考える。また、CEFRとは何かを理解する。					
2	Unit 1:幼稚園や小学校における英語の挨拶に関する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。英語圏における幼児や児童に関する文化的イメージを考えてみる。					
3	小テスト（Unit 1）：幼稚園や小学校における英語の挨拶に関する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動：英語授業における自己紹介の具体的方法を知り、完成し（プレゼンテーションソフトを用いて）実際に発表できる。					
4	Unit 2:校内や学校周辺の（道）案内に関する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。道案内に便利な位置関係を伝える英語表現を身につける。					
5	小テスト（Unit 2）：校内や学校周辺の（道）案内に関する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動：校内や学校周辺の（道）案内を英語でわかりやすく話すことができる。					
6	Unit 3:体調や持ち物を確認する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。また、数字の発音や聞き取りができるようになる。また、英語圏の児童が登校する際の持ち物（鞆など）の英語名を考えてみる。					
7	小テスト（Unit 3）：体調や持ち物を確認する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動：マザーグースよりチャンツや歌にふさわしい詩を選び、具体的な指導方法を考える。また、模擬授業として発表する。					
8	Unit 4:工作道具や好き嫌いの英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。英語を用いた誉め方をClassroom English として考えてみる。					
9	小テスト（Unit 4）：工作道具や好き嫌いを尋ねる英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動：昔話を用いて、絵本などを読み聞かせる場面を意識しながら、児童と英語でコミュニケーション活動する具体的方法を知り、経験する。					
10	Unit 5:集団活動や場所を表す英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。英語圏の幼児や児童の興味あるもの（昆虫など）や教室内にあるものを英語で言えるようになる。					
11	小テスト（Unit 5）：集団活動や場所を表す英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動：教室や部屋などの、どの位置に何があるかを英語で説明できるようになる。					
12	Unit 6:遊具の名前や相手に命令する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。公園などの遊具の英語名について知る。					
13	小テスト（Unit 6）：遊具の名前や相手に命令する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動:Classroom English としての命令表現を授業中に用いることができる。					
14	Unit 7:自分の好き嫌いを伝えたり、食材に関する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など）をCDを視聴しながら身につける。英語の果物名を知る。					
15	小テスト（Unit 7）：自分の好き嫌いを伝えたり、食材に関する英語表現（語彙・文法・発音・文構造など） 発展活動：振り返りとして本授業の到達目標①～④について振り返る。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	英語の語彙、文構造、文法、発音、正書法などを身に付けているか。		パフォーマンステスト	40	英語の歌指導、ストーリーテリング、プレゼン等聞き手を意識しながら発表できているか。
ディスカッション・課題提出	20	他者のパフォーマンスに対する評価が適切にできるか。課題の完成度。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>毎回の小テストの準備を十分にすること。[30分]          英語で話すこと等のパフォーマンスの発表には練習が欠かせません。何とかできればよいのではなく自信をもってできるまで練習すること。[60分]</p>				<p>①小テストについては、次時に返却する際にコメントする。          ②パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。</p>		
受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということを体感してください。			教科書・テキスト	『Happy English for Childcare』土屋麻衣子著 金星堂 2015 ISBN:978-4764740082	
指定図書／参考書等	なし／『小学校英語内容論入門』樋口彦彦他編著 研究社 2019 ISBN: 978-43274100995			その他・特記事項	代替授業の場合はClassroomを用いて課題等を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>伊藤：小学校における英語教育の経験を学生に話し、中学・高校との違いを気付かせ、学生自身の小学校で英語を教えるための資質向上に役立っている。          中野：小中学校での経験を生かして授業場面の具体を紹介して幼・保・小学校における外国語活動・英語科の授業をするために必要な教科に関する専門事項としての「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身に付けるための指導をしている。</p>						



授業科目名	EC230U 教育社会学		開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものである。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。          ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。          ③戦後日本の「教育」とはどういったものなのかという問いに対して、社会学的な視点から、文章によって解答することができる。          ④現代日本の「教育」とはどういったものなのかという問いに対して、社会学的な視点から、文章によって解答することができる。          ⑤教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。          ⑥現代社会学との関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について、具体例を交えながら、文章によって説明することができる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。					
2	近代教育制度の成立①：近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。					
3	近代教育制度の成立②：西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。					
4	近代教育制度の成立③：戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。					
5	社会における教育の意義①：社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。					
6	社会における教育の意義②：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。					
7	社会における教育の意義③：グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。					
8	小括：これまでの学習内容を振り返り、「教育」を「社会学的に考える」ことの意義を再確認する。					
9	日本における教育環境の変遷①：戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。					
10	日本における教育環境の変遷②：教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。					
11	日本における教育環境の変遷③：少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。					
12	日本における教育環境の変遷④：今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。					
13	日本における教育環境の変遷⑤：今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。					
14	学級経営における多機関連携①：「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。					
15	学級経営における多機関連携②：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に課題として取り扱われることの多い「子どもの貧困」・「不登校」・「いじめ」等の具体例をについて学ぶ。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	30	代替課題への取り組みを中心に、学習内容を、どの程度理解しているかというよりも、誤った理解をしていないかどうかを、評価の基準とする。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			・コメントフォームやワークシートを活用し、そこでの質問は全体で共有する。			
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にする姿勢を身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）	
指定図書／参考書等	<参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井明・中村高康・多賀太 ミネルヴァ書房 2012年<ISBN:978-4623062935> 『教育の社会学【新版】』 荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井明 有斐閣 2010年<ISBN:978-4641124004>			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・社会学科目「教育社会学」と合同開講となるため、代替授業実施時は、Google Classroom等を通じた、対面授業動画のリアルタイム配信、および当該動画についてのオンデマンド視聴形式を採る予定であるが、具体的な進め方については初回授業で詳しく説明する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EC238U 教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学校においては知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきており、評価の方法も多様になっている。この授業観を具体化するためには教育の方法と技術について検討しなければならない。子どもが自ら考え判断し表現する授業とはどういったものなのか、幼稚園においては幼児の主体的な活動や幼児期にふさわしい生活とはどういったものなのか、理論や具体的な事例をもとに学んでいく。さらに、子どもの興味・関心を高めるための情報機器活用を検討するとともに、情報機器を活用する授業(教科、総合的な学習の時間、5領域からの保育活動)を自ら構想し、そのための教材を自作することを目指す。</p>			<p>①教育方法の歴史的概観をもとにその基礎を整理するとともに実践について理解している。 ②子供・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的要件を理解している。 ③総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割を理解している。 ④情報機器を活用した教科・総合的な学習の時間・5領域から学習・保育計画を立てることができる。 ⑤アプリケーションソフトを用いて学習・保育教材を作成することができる。</p>				
教授方法	講義・演習						
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)のいずれか取得希望する者に限る。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育方法の歴史的概観①(ソクラテスやコメニウスなど7人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。)						
2	現代における教育方法(デューイ、ブルーナーなど6人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。)◎対面(PC1教室):火木クラス共通						
3	教育方法の基本原則(系統学習と問題解決学習を比較し、基本的原理について考察する。)						
4	授業理論(直接的な教育手段と間接的な教育手段について理解し、総合的な学習の時間はどれに当てはまるか考える。)						
5	授業とは何か(ガイスラーの理論をもとに授業の「相互往還作用」について理解し、自分の考えを持つ。)						
6	授業と評価(見える学力と見えない学力について理解するとともに、総合的な学習の時間はどちらの学力か考える。)						
7	授業と視聴覚機器(視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。)						
8	視聴覚機器の教育活用の方法(学校や幼稚園でのコンピュータ等の情報機器を活用した教育の方法を調べる。)						
9	放送教育の授業への適用(放送教育の役割を問え、NHKのWebサイトで総合的な学習の時間などの教材を閲覧する。)						
10	教材・教具・教科書・教材研究(教材・教具とは何か、また、教科書(含む絵本)とは何かについて考え、教材研究について理解する。)						
11	情報機器を活用した授業(デジタルコンテンツと学習・保育での活用例を知り、自作教材を構想する。)						
12	教材の構想と作成(学習・保育で情報機器を活用するための計画を立て、そのためのフラッシュ型教材を構想して作成にとりかかる。)						
13	教材の作成(学習・保育計画に基づき構想したフラッシュ型教材を作成・完成させ、提出する。)						
14	教育方法と施設・設備(教育方法の多様化と学校や園の施設・設備などの変化について知る。)						
15	学習のまとめ(これまで学んだ内容から自分なりに焦点化して、期末レポートにまとめる。)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末レポート	30	授業内容のどれかに焦点を当て教育方法について自分なりの考えを交え書いている。	教材作成	18	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。		
課題解決	36	各回の代替授業の課題を解決し、ミニッツコメントを書いている。(6回分)	授業態度	16	積極的に対面授業に臨んでいる。(8回分)		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>①各回の授業は基本的にテキストの章によって進めるので、本時の授業の範囲や次回の授業の範囲を読む。[30分] ②各回の授業の課題用紙(ドキュメント)にミニッツコメントの欄を設けるので、それにコメントする。[30分] ③幼稚園や小中高高等学校の教育方法に関しインターネット検索して調べる。[30分以上]</p>			<p>①各回の課題解決の内容及びミニッツコメントを講評する。 ②自作したフラッシュ型教材を「要件」の観点から添削する。 ③期末レポートに書いてある内容を添削する。</p>				
受講生に望むこと	・幼稚園や小中高高等学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してください。		教科書・テキスト	『教育方法論 改訂版』, 谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編著, 一藝社, 2015年出版, ISBN9784863590984			
指定図書/参考書等	『幼稚園教育要領』文部科学省2008年告示, 『小学校学習指導要領』文部科学省2015年告示/『教育の情報化ビジョン』文部科学省2011年公表		その他・特記事項	・対面授業は第15回を除きPC1教室で行います。 ・代替授業の課題はClassroomに投稿して提出してください。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
実際の幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材(写真、動画、資料収集)し、それを学生に提示して各職種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。							

授業科目名	EC090U 器楽入門		開講学科	子ども教育	必修・選択	自由	
担当教員名	武田 恵美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・教育現場において、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」身に付けておきたい多くの事柄がある。この科目は、旋律楽器（ピアノ）入門のための科目である。授業は、グループレッスンで行う。ピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、練習曲や子どものうたを通して演奏法について学ぶ。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができるようになる。 ②両手で弾くことができるようになる。 ③発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができるようになる。</p>				
教授方法	リモート及び対面授業による、講義、演習及び実技指導						
履修条件	ピアノ初級者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。ピアノを弾く姿勢、座り方、手のかたち等を習得する。鍵盤と楽譜の関係図を見て理解する。						
2	音楽理論Ⅰ：大譜表について理解する。音符と休符について理解する。リズムのトレーニングⅠ：リズム奏① 指のトレーニングⅠ：指番号について学ぶ。ポジション移動のないエチュード①						
3	音楽理論Ⅱ：大譜表・音符と休符の確認問題に取り組む。拍子について理解する。リズムのトレーニングⅡ：リズム奏② 指のトレーニングⅡ：ポジション移動のないエチュード②						
4	音楽理論Ⅲ：拍子とリズムについて理解する。リズムのトレーニングⅢ：「歩く」リズム 指のトレーニングⅢ：ポジション移動のないエチュード③						
5	音楽理論Ⅳ：拍子とリズムの確認問題に取り組む。リズムのトレーニングⅣ：「走る」リズム 指のトレーニングⅣ：ポジション移動のないエチュード④						
6	音楽理論Ⅴ：奏法に関する記号について理解する。リズムのトレーニングⅤ：「スキップ・ギャロップ」リズム 指のトレーニングⅤ：ポジション移動を伴うエチュード①						
7	音楽理論Ⅵ：速度記号、強弱記号について理解する。リズムのトレーニングⅥ：「スウィング」リズム 指のトレーニングⅥ：ポジション移動を伴うエチュード②						
8	音楽理論Ⅶ：奏法に関する記号、速度記号、強弱記号の確認問題に取り組む。リズムのトレーニングⅦ：「歩く・走る・スキップ・ギャロップ・スウィング」リズム 指のトレーニングⅦ：ポジション移動を伴うエチュード③						
9	ピアノ曲Ⅰ：STEP1-1 子どものうたⅠ：ハ長調の子どものうたの伴奏 指のトレーニングⅧ：ポジション移動を伴うエチュード④						
10	ピアノ曲Ⅱ：STEP1-1 子どものうたⅡ：ハ長調の子どものうたの伴奏 指のトレーニングⅨ：伴奏形①						
11	ピアノ曲Ⅲ：STEP1-1 子どものうたⅢ：ハ長調の子どものうたの弾き歌い 指のトレーニングⅩ：伴奏形②						
12	ピアノ曲Ⅳ：STEP1-1、1-2 子どものうたⅣ：ハ長調の子どものうたの弾き歌い 指のトレーニングⅪ：伴奏形③						
13	ピアノ曲Ⅴ：STEP1-1、1-2 子どものうたⅤ：ハ長調の子どものうたの弾き歌い 指のトレーニングⅫ：伴奏形④						
14	発表：STEP1-1、ハ長調の子どものうたの弾き歌い						
15	発表：STEP1-2 まとめ：振り返りと今後の課題について						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	70	受講態度、課題に対する取り組みと内容。		発表	30	発表への取り組みと内容。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習をしてください。[90分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				課題は、次回に個人指導します。			
受講生に望むこと	①毎日継続して練習をしてください。 ②毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1 / 『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9 / 『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5 / 教科書タイトル未定、6月出版予定（授業内にて指示） / プリント		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EC110U 器楽 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	武田 恵美・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 武田 恵美)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中で、旋律楽器(ピアノ)を中心に演奏の基礎知識や技術を習得する。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンではピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、テキストとプリントを用いて学ぶ。個人レッスンではピアノ演奏に関して個々の技能の向上を目指すことをねらいとし、各自に応じたピアノ曲、リズム曲の演奏、子どものうたの弾き歌いを学ぶ。様々な音楽に触れ、演奏のための豊かな表現力を養う。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができるようになる。 ②様々な音楽に触れて、演奏のための豊かな表現力を習得する。 ③コードネームを見て伴奏づけができるようになる。 ④発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができるようになる。</p>				
教授方法	リモート及び対面授業による、講義、演習及び実技指導						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について理解する。音楽に関する調査を行う。譜表・音符と休符・音名・拍子について理解する。					武田	
2	強弱・速度・奏法に関する音楽用語と記号について理解する。各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたを読譜する。					武田	
3	グループレッスン：コードネームⅠ（コードについて理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、リズム曲Ⅰ、子どものうたⅠ					各担当教員	
4	グループレッスン：コードネームⅡ（C・Gを用いた楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、リズム曲Ⅱ、子どものうたⅡ					各担当教員	
5	グループレッスン：コードネームⅢ（C・G・Fを用いた楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、リズム曲Ⅲ、子どものうたⅢ					各担当教員	
6	グループレッスン：コードネームⅣ（C・G・Fを用いた楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、リズム曲Ⅳ、子どものうたⅣ					各担当教員	
7	グループレッスン：コードネームⅤ（C・F・G・G7を用いた楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、リズム曲Ⅴ、子どものうたⅤ					各担当教員	
8	発表Ⅰ					全員	
9	グループレッスン：コードネームⅥ（C・F・G・G7を用いた楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、リズム曲Ⅵ、子どものうたⅥ					各担当教員	
10	グループレッスン：コードネームⅦ（へ長調の楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、リズム曲Ⅶ、子どものうたⅦ					各担当教員	
11	グループレッスン：コードネームⅧ（ト長調の楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、リズム曲Ⅷ、子どものうたⅧ					各担当教員	
12	グループレッスン：コードネームⅨ（二長調の楽曲の伴奏法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、リズム曲Ⅸ、子どものうたⅨ					各担当教員	
13	グループレッスン：リズム曲の演奏方法について考える。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、リズム曲Ⅹ、子どものうたⅩ					各担当教員	
14	発表Ⅱ					全員	
15	グループレッスン：コードネームによる簡易伴奏の演習。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅺ、リズム曲Ⅺ、子どものうたⅪ					各担当教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）		発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。	
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①グループレッスンでは、毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習をしてください。[30分] ②個人レッスンでは、各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習をしてください。[60分] ③個人レッスンの履修曲数は、各自に応じたピアノ曲（3曲）、リズム曲（5曲）、子どものうたの弾き歌い（7曲）をベースとします。計画的にレッスンを受けられるように準備をしてください。</p>			課題は、次回に個人指導します。				
受講生に望むこと	<p>①毎回出される課題に積極的に取り組んでください。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をCDなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べてください。 ③授業の妨げになるような行為は慎んでください。</p>		教科書・テキスト	『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1 / 『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9 / 『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5 / 教科書タイトル名未定、6月出版予定（授業内にて指示） / プリント			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EC245U 器楽Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	武田 恵美・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子・福田 真紀（代表教員 武田 恵美）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「器楽Ⅰ」で身に付けた個々の技能をさらに高める授業である。保育現場や初等教育で用いられている教材等の実践を、ピアノやキーボードで行う。保育現場や小学校の授業で必要とされる弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは豊かな感性と表現力を養うことをねらいとした課題を通して学ぶ。個人レッスンでは、各コースで必要と考えられる楽曲を中心に学ぶ。</p>			<p>①ピアノ演奏のための基礎知識を習得し、豊かな演奏表現ができるようになる。  ②様々な音楽に触れて、演奏のための豊かな表現力を習得する。  ③コードネームを見て伴奏づけをすることができるようになる。  ④小学校音楽科の歌唱教材や子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようになる。  ⑤発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができるようになる。</p>				
教授方法	リモート及び対面授業による、講義、演習及び実技指導						
履修条件	「器楽Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。読譜について楽譜を通して理解する。					武田	
2	曲想・奏法に関する用語・記号について楽譜を通して理解する。各自に応じたピアノ曲・リズム曲。子どものうたを読譜する。					武田	
3	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅰハ長調入門（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、リズム曲Ⅰ、子どものうたⅠ					各担当教員	
4	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅱハ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、リズム曲Ⅱ、子どものうたⅡ					各担当教員	
5	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅲト長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、リズム曲Ⅲ、子どものうたⅢ					各担当教員	
6	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅳヘ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、リズム曲Ⅳ、子どものうたⅣ					各担当教員	
7	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法Ⅴニ長調（コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。） 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、リズム曲Ⅴ、子どものうたⅤ					各担当教員	
8	発表Ⅰ					全員	
9	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅰ…4分の4拍子 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、リズム曲Ⅵ、子どものうたⅥ					各担当教員	
10	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅱ…4分の2拍子 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、リズム曲Ⅶ、子どものうたⅦ					各担当教員	
11	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法Ⅲ…4分の3拍子 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、リズム曲Ⅷ、子どものうたⅧ					各担当教員	
12	グループレッスン：リズム楽器・旋律楽器とその種類について理解する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、リズム曲Ⅸ、子どものうたⅨ					各担当教員	
13	グループレッスン：リズム楽器と旋律楽器を用いた合奏の練習。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、リズム曲Ⅹ、子どものうたⅩ					各担当教員	
14	発表Ⅱ					全員	
15	グループレッスン：リズム楽器と旋律楽器を用いた合奏の発表。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅺ、リズム曲Ⅺ、子どものうたⅪ					各担当教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）		発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。	
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①グループレッスンでは、毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習をしてください。[30分]  ②個人レッスンでは、各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習をしてください。[60分]  ③個人レッスンの履修曲数は、各自に応じたピアノ曲（2曲）、リズム曲（4曲）、子どものうたの弾き歌い（6曲）をベースとします。計画的にレッスンを受けられるように準備をしてください。</p>			課題は、次回に個人指導します。				
受講生に望むこと	<p>①毎回出される課題に積極的に取り組んでください。  ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をCDなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べてください。  ③授業の助けになるような行為は慎んでください。</p>		教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編、東京書籍、2017年、ISBN978-4-487-71121-5／『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集、2019年／『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社、2019年、ISBN978-4-87788-823-7／プリント			
指定図書／参考書等	なし／『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップ』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EC251U 教育課程論		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	虫明 淑子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教育課程を2つの側面から考えてみると、1つは、教育の目的や目標を達成するために、それぞれの園で「いつ、何を、どのように」学んでいくのかを示す組織における「学びの地図」的役割である。もう一方は、2017年改訂『幼稚園教育要領』に導入された「カリキュラム・マネジメント」に包含される、教育課程を単なる計画として終わらせるのではなく、日々の保育にある幼児の姿や発達過程、園や地域の実態と丁寧絡め合わせて計画に即した保育を行い、その実践を評価し、組織の保育をよりよいものにしていくPDCAサイクルとしての側面、後者の側面は、今後の幼児教育における重要な視点となるだろう。本講義は、保育の質の向上を図るための教育課程のあり方について段階的に学んでいく。</p>			<p>①教育課程は幼児教育の基本の実現や園の教育目標を実現するために作成するものであるが、常に、目の前の子どもの姿の見取りと密接に関連していることについて理解する。 ②長期指導計画、短期指導計画の考え方や作成手順について理解する。 ③日々の記録による振り返りや組織的に評価することの重要性を理解する。 ④カリキュラム・マネジメントの重要性について理解する。</p>			
教授方法	講義・代替授業					
履修条件	教育実習指導Ⅰ（幼）を履修中であることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学校教育における教育課程：カリキュラムとは何かについて考える。					
2	保育の基本と計画の考え方や教育課程の意義について理解する。					
3	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力について理解する。					
4	幼稚園における教育課程の役割と編成について理解する。					
5	保育所の全体的計画と幼保連携型認定こども園における教育及び保育、子育て支援等に関する全体的計画について理解する。					
6	長期の指導計画と短期の指導計画の実際について理解する。（その1）					
7	長期の指導計画と短期の指導計画の実際について理解する。（その2）					
8	幼児理解に基づいた評価の実施と指導の過程を記録によって振り返ることの重要性について理解する。					
9	教育の成立と家庭・学校・地域社会の役割について理解する。					
10	カリキュラム・マネジメントの意義と実際について学ぶ。					
11	幼稚園創設以降の保育における計画の変遷について理解する。					
12	幼児教育と小学校教育との円滑な接続について理解する。					
13	幼稚園教育要領の改訂の変遷とその背景について理解する。					
14	授業内試験：授業のまとめ					
15	教育課程とは何か、カリキュラム・マネジメントの意義について考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	25	出欠・授業態度等		課題	35	課題に対する取り組み方・理解度
授業内試験	40	授業内容の理解度				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業前の予習 [30分] 前回までの授業内容の復習 [15分]</p>			<p>授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。</p>			
受講生に望むこと	<p>教育課程は最初、難しいと感じられると思いますが、理解が進めば、教育課程のない保育はあり得ないと考えられるようになるはず。分からない箇所は質問する等、積極的に取り組んでください。</p>		教科書・テキスト	<p>神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香『乳幼児教育・保育シリーズ 教育課程論』光生館 2018年 ISBN:4332701836 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省チャイルド本社 2021年 ISBN:9784805402993</p>		
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475/適宜紹介する。		その他・特記事項	受講者の理解度に沿って、授業内容や進度を変更しながら行う予定です。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者として複数園のカリキュラム・マネジメントを行って得られた知見、また、子育て支援、発達障害のある子どもや保護者支援による様々な経験に基づく事例を提示する。						



授業科目名	EC261U 保育内容・環境指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	向出 圭吾					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育の基本的な考え方、5領域について概要を把握し、子どもの育ちに必要な身近な環境とのかかわりを考えることで領域「環境」のねらい及び内容を理解する。それぞれの内容の事例検討をもとに、身近な場面の具体例をあげ、実際に試したり工夫したりすることで、保育の中での遊びの意義を考える。			①幼児教育の基本的な考え方、5領域を理解している。 ②子どもの育ちに身近な環境がどう影響しているかについて考察できる洞察力を習得している。 ③それぞれの内容の具体例を示すことができる。 ④実際に試したり工夫したりすることで、気づいたことを自分にフィードバックさせる力が身につけている。 ⑤生きる力を基礎としての領域「環境」について自分なりの考えをもつことができるようになる。			
教授方法	講義、演習、代替授業					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育の基本①：幼稚園教育の基本的な考え方、環境を通しての教育について学ぶ。					
2	幼稚園教育の基本②：5領域の概要について把握し、ねらいと内容の意味を考える。					
3	子どもの育ちと領域「環境」：幼児期の発達の観点から、子どもと環境とのかかわりについて学び、ねらい及び内容を理解する。					
4	子どもにとって身近な環境とは①：子どもがかかわる身近な環境について話し合い、それが育ちにどのような影響を与えているか考える。					
5	子どもにとって身近な環境とは②：事例（ビデオを含む）を通して、身近な環境と子どもの育ちの因果関係を、様々な観点から考察する。					
6	子どもにとって身近な環境とは③：事例（ビデオを含む）を通して、身近な物や道具に興味をもってかかわり、考えたり、試したり工夫して遊ぶ意味を考える。					
7	文字・標識・数量・図形への関心：身近な遊びを通して文字・標識・数量・図形への興味と認識について考える。					
8	身近な自然にかかわる実践①：各学生自身が幼児期に過ごした身近な自然、通学路を改めて散策し、どのような場所であったかを調べる。					
9	身近な自然にかかわる実践②：身近な自然、通学路の環境マップを作成する。					
10	身近な自然にかかわる実践③：各自作成した環境マップから、領域「環境」に関わる場所をピックアップし、それぞれの内容と照らし合わせて、幼児の育ちにどう関係しているのかを考える。					
11	子どもと環境の関わりを捉える視点：子どもの育ちと環境との関わりを捉えるポイントを整理し、領域「環境」のねらい及び内容と指導上の留意点について理解を深める。					
12	自然に親しみ、植物や生き物に触れる。：事例（ビデオを含む）を通して、命あるものとのかかわりにおける子どもの育ちを考える。					
13	身近な物にかかわる実践①：各自、幼児期に作ったことがある手作り玩具を製作してみる。					
14	身近な物にかかわる実践②：身近な素材を使った手作り教材を製作することで、その性質や仕組みに興味関心をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶことの意味を考える。					
15	「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」：これまでの実践や事例の考察を踏まえて、生きる力の基礎としての領域「環境」について自分なりの考えをまとめる。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	各回のテーマに対して様々な観点から積極的に取り組んでいるか。		課題への取り組み	80	代替授業や対面授業内に提示する課題に対して期限を守り提出し、内容が適切であるか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
・代替授業として課題を提示するので、各自学習を経て課題に取り組むこと。[60分] ・実践の授業では、必要な素材を準備し、教材作りをする。[90分] ・対面授業後に提示される課題について、授業を振り返りながら取り組むこと。[30分]			①代替授業に関しての課題は、対面授業の際に振り返りを行い、学びを自分にフィードバックさせる力を身につける。			
受講生に望むこと	自分がこれまでもっていた幼児期の遊びに対する概念を一度リセットして、一つの遊びの事象にも様々な見方、考え方があることを意識しながら授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『新訂・事例で学ぶ保育内容「環境」無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林、2018年 ISBN:978-4-89347-238-8 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業の場合は、主にメール添付にて課題の提示提出を行います。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、現場での遊びや生活のビデオを活用し、グループディスカッションを行う。自然とのかかわり、自然物を取り入れた遊びなど、実際の現場での実践を取り入れている。						



授業科目名	EC321U 環境		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「保育内容・環境指導法」での学びと実習での体験を踏まえて、「領域・環境」の内容を深く考察する演習科目である。北陸学院第一幼稚園の保育現場を活用しながら、幼児が身近な環境にかかわることで何を見つけ、考え、それを取り入れようとしているのかを観察エピソード記録やつぶやきをもとにディスカッションを通して考える。また園庭の環境を利用して、手作り玩具の開発を行い、遊びの動線を体験的に捉える。また、地域や文化の視点を取り入れた園外活動にも目を向けて保育の構想を考える。</p>			<p>①実習でのエピソードを出し合い、「領域・環境」の視点からエピソードの内容を分析することができる。          ②北陸学院第一幼稚園での幼児の遊びから「領域・環境」の意味する内容を理解する。          ③北陸学院第一幼稚園の園庭の環境を利用して、オリジナル手作り玩具の開発を行うことで実際に遊びの動線等を読み取る力を身につける。          ④園外保育の意味を考えることができる。</p>				
教授方法	演習、代替授業、ディスカッション						
履修条件	「保育内容・環境指導法」の単位を修得済みであること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：本科目の目的と授業内容の解説。第一幼稚園の環境構成を知る。						
2	第一幼稚園での遊びの観察（1）：保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを「領域・環境」の視点で拾い出す。						
3	第一幼稚園での遊びの観察（2）：拾い出した幼児の遊びのエピソードやつぶやきをもとにディスカッションを行い、読みとる力を身につける						
4	第一幼稚園での遊びの観察（3）：ディスカッションを踏まえてさらに保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出す。						
5	第一幼稚園での遊びの観察（4）：拾い出した幼児の遊びのエピソードやつぶやきをもとに再びディスカッションを行い、読みとる力を身につける。						
6	第一幼稚園での環境づくり（1）：園庭の環境に焦点をあてて子どもの遊びの動線を分析する。						
7	第一幼稚園での環境づくり（2）：分析した遊びの動線をもとに、オリジナル手作り玩具の製作に取り組む。						
8	第一幼稚園での環境づくり（3）：分析した遊びの動線をもとに、オリジナル手作り玩具の製作に取り組む。						
9	第一幼稚園での環境づくり（4）：分析した遊びの動線をもとに、オリジナル手作り玩具の製作に取り組む。						
10	第一幼稚園での環境づくり（5）：分析した遊びの動線をもとに、オリジナル手作り玩具の製作に幼児とともに取り組む。						
11	第一幼稚園での環境づくり（6）：分析した遊びの動線をもとに、オリジナル手作り玩具の製作に幼児とともに取り組む。						
12	第一幼稚園での環境づくり（7）：オリジナル手作り玩具の安全性、効率性を考え、見直し改善を行う。						
13	第一幼稚園での環境づくり（8）：園庭の環境づくりの実践について考察し、自己課題を見つける。						
14	園外保育について考える。						
15	幼児にとっての「領域・環境」について、これまでの学びを振り返り「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（幼小接続）と絡めながら考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	40	・実践とディスカッションに積極的に参加する。	課題	40	・遊びのエピソードやつぶやきを記録することができる。 ・幼児の内面を読み取ることができる。		
最終レポート	20	・この授業を通して内容を理解し、遊びを読みとる力や作り出す力について、自分の学びをまとめることができるかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①実習を含む身近な資料からのエピソードの収集[30分] ②エピソードの読み取りの見直し[30分] ③遊びの準備[随時] ④学びの振り返り[90分]			毎回のディスカッション内及び授業の開始時に前時の振り返りを行う。				
受講生に望むこと	授業ごとに完結ではなく、前時の授業との繋がりをもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499		その他・特記事項	活動内容によって、別日に行われることもあるので注意すること。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
園外保育のあり方や現場での実践を、実際に第一幼稚園に出向いて、現場で行っている。							

授業科目名	EC266U 保育内容・健康指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	田邊 圭子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の健康な心身の発達、基本的な生活習慣、安全に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。指導法においては情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することについても学ぶ。			幼稚園教育要領 領域「健康」のねらいと内容について理解する。幼児の健康に関する知識を習得し理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。			
教授方法	リモート及び対面授業による講義、模擬授業、グループディスカッション、個人によるワーク、外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ）					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。					
2	子どもの身体の特徴と生理的機能の特徴について理解する。					
3	子どもの発達の概要とその援助について理解する。					
4	子どもの運動発達・体力とその援助について理解する。					
5	子どもの遊びとその援助について理解する。					
6	石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義					
7	基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
8	実際の子ども達の映像から子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的な生活習慣に関する指導案を作成する。					
9	基本的な生活習慣に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の基本的な生活習慣の指導について考える。					
10	幼児の特性と事故について理解する。					
11	安全管理と安全教育について理解するとともに、幼稚園生活における危険な場面等についてのデジタル教材から、保育における安全管理と安全教育について考える。					
12	具体的な子どもの姿を想定し、教材やデジタル教材を用いた安全教育に関する指導案を作成する。					
13	安全教育に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の安全教育について考える。					
14	保育現場における安全管理の実践について理解する。					
15	子どもの健康と幼小連携について理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	10	基本的な内容を理解しているか。	レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて考えを述べているか。	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	30	①健康に関する基本的理解がされているか。 ②模擬授業に向けた丁寧な準備がされていたか。 ③正しい知識が子どもたちに伝えられているか。 ④具体的な子どもの姿を想定しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①教科書を読み授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し理解を深める[60分]			小テスト及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を行う。			
受講生に望むこと	子ども達が様々な活動に自ら積極的に取り組み、楽しむためには健康であることが重要です。子ども達の健康に関する基本的な知識を学び、理解するとともに、「自分が子どもの前に立ったらどうするか」を常に考えながら受講してください。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814489 演習 保育内容健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点、井狩芳子著、萌文書林、2018年、ISBN: 9784893472755		
指定図書／参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリントを配布する。		その他・特記事項	外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義）の実施回を変更する場合があります。実施日は事前に連絡する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EC326U 健康活動		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康指導法」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。			①乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。 ②保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。			
教授方法	リモート及び対面授業による講義、模擬授業、グループディスカッション、個人によるワーク					
履修条件	「保育内容・健康指導法」の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食事に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
2	睡眠に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
3	排せつに関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
4	清潔に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
5	衣服の着脱に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
6	基本的な生活習慣に関する模擬保育を行う。（模擬保育にはデジタルビデオ等を使用する）					
7	模擬保育で使用したデジタルビデオの映像を用い、模擬保育における気づきとディスカッションを通して基本的な生活習慣に関する保育者の支援、家庭との連携について考える。					
8	子どもの遊びと健康について理解する。					
9	子どもの運動遊びと健康について理解する。					
10	子どもの運動遊びと環境について理解する。					
11	子どもの運動遊びと保育者の役割・支援について理解する。					
12	子どもの運動遊びと安全について理解する。					
13	実際の子ども達の映像から、子どもの運動遊びの実際と指導について理解するとともに、具体的に想定した運動遊びに関する指導案を作成する。					
14	子どもの運動遊びに関する模擬保育（模擬保育にはデジタルビデオ等を使用する）。振り返りと評価を踏まえた学びあいから、子供の運動遊びについて考える。また、保育者の役割や家庭との連携についても考える。					
15	子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに、現代社会における今日の課題を理解し、保育者の役割と家庭との連携や支援について考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	30	①内容を理解しているか ②子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか③子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか		レポート・課題	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
小テスト	10	授業内容の理解度		授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]				小テスト及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を行う。		
受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことです。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたいです。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただければ、授業内容の理解が深まると思います。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814499 『演習保育内容「健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点」』、井狩芳子著、明文書林、2018年、ISBN978-4-89347-275-5	
指定図書／参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EC271U 保育内容・言葉指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる	
担当教員名	高村 真希・中島 賢介（代表教員 高村 真希）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの言葉の育ちに関心を持つ。</li> <li>2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解している。</li> <li>3. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。</li> <li>4. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解している。</li> </ol>				
教授方法	講義と演習（ペアワーク・ディスカッション・視聴覚教材の実演）						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要等の説明（シラバス） 言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉 0歳児の事例から考える。言葉が与える影響：言葉の持つ力について考える。					高村	
2	言語機能と領域「言葉」のねらいについて理解する。					中島	
3	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が出始めたら 1歳児の事例から考える。					高村	
4	幼児期（乳児期を含む）における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。（第1, 3回の0, 1歳児の姿を振り返りながら学ぶ）					中島	
5	言葉の獲得と保育者の関わり：2, 3歳児の事例から考える。					高村	
6	領域「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。					中島	
7	言葉の獲得と保育者の関わり：4, 5歳児・小学校の事例から考える。 ※課題①についてアナウンスを行う					高村	
8	児童文化財の種類とはたらきについて理解する：課題1（教科書を読み、調べてまとめる）					高村	
9	文化財に関する実践的理解と指導案の立案の仕方について学ぶ					高村	
10	絵本の読み聞かせの指導案を立案する①：発達段階だけでなく、選んだ絵本の魅力からねらいや環境設定を考える					高村	
11	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉の内にある子どもの思いを考える。現代的課題から小学校への接続を考える。指導計画立案に関する疑問点を出し合い、共に考える。					高村	
12	絵本の読み聞かせの指導案を立案する②：子どもの姿を予想し、言葉の表現を育む援助や配慮を考える					高村	
13	視聴覚教材（絵本）を使用した模擬保育を行う。（課題②）					高村	
14	模擬保育の反省・評価等を踏まえて学び合う：課題②をもとにして					中島・高村	
15	試験 「言葉」の総合的理解（今までの振り返り）					中島・高村	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業の参加態度	30	授業への取り組み態度		指導案の立案と実演・事後レポート	40	指導案の内容と提出状況・実演の様子・事後レポートの内容	
試験（第15回）	15	授業内容を理解できているか。		課題レポート（第2, 4, 6回）	15	複数の文献を読んだ上で、自分なりに考察されているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎回、授業後に復習を行う [30分]</li> <li>② 子どもの言葉に関する複数の文献を読む [60分×3]</li> <li>③ 「絵本の読み聞かせ」の実践から振り返りを行い、レポートにまとめる [60分]</li> </ol>				提出されたレポートや課題を授業内で反映する。必要に応じて他の学生と課題を見せ合い、他者から学ぶ。			
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講すること。また、本授業は演習科目であるため、積極的な態度を望む。			教科書・テキスト	『新訂 事例から学ぶ保育内容 領域 言葉』武蔵監修 萌文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482		
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。			その他・特記事項	代替課題はclassroomにて配信する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
高村：保育士としての経験をもとに、乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例（動画）を基に具体的に指導を行っている。また、実際に視聴覚教材を使用した実践を行い、学生自身が子どもになり感じる機会を設けている。							

授業科目名	EC331U 言葉		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考慮しながら、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊びの実際を通して言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。また、子どもの言葉の発達について保育者の援助・保育教材の実演や環境構成等の視点から学んでいく。			1.言葉の現代的課題を理解し、今日必要とされる保育者の役割と援助を知る。 2.子どもの言葉を育む保育教材について理解し、保育への活用方法を考えることができる。 3.教材実演を通して子どもの言葉を引き出す表現・技術を身につける。				
教授方法	講義と演習 (グループワーク・視聴覚教材の実演・ディスカッション)						
履修条件	「保育内容・言葉指導法」を履修済みであることが望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明 子どもの言葉に関する現代的課題について理解する。(保育内容・言葉指導法の復習) ※視聴覚教材の作成と課題1についてアナウンスを行う					中島・高村	
2	視聴覚教材が子どもに与える効果について理解する。(絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート・エプロンシアター) 課題1					高村	
3	幼児の思考能力の拡大と物語の成立過程について理解する。 発達段階に応じた教材選びのポイントを理解する (0歳児～5歳児までの年齢ごとの教材選択)					高村	
4	発達段階に応じた視聴覚教材とは、どのような題材・素材・色合い等であるかを考えながら作成①する ※ここから視聴覚教材の作成になっているが、第1回以降から作成にとりかかっていること。					高村	
5	指導案作成の際のポイントについて理解する。 自身が作成している視聴覚教材の指導案を立案する① 言葉を育む環境構成や援助・配慮等を多角的に捉える					高村	
6	発達段階に応じた教材選びについて (視聴覚教材の作成②と指導案立案②) 子どもの言葉を引き出す保育者の表現技術について多角的に捉える					高村	
7	遊びを通して育つ言葉と保育者の関わり：子どもを伸ばす言葉がけについて考える。					高村	
8	自身の言葉に関するエピソード (実体験) を基に、今日的課題 (言葉の育ちに関わる諸課題) を考える。 ※調べてまとめる：課題2					高村	
9	保育教材の実演を終えて：視聴覚教材の実演方法と反省・評価について理解する。					高村	
10	発達段階に応じた教材選びについて (視聴覚教材の作成③) ※9～11月までに行った教材作成時間としてカウントする。					高村	
11	他者との語り合いを通して：会話とはどういった行為であるかを理解する。(課題②をもとにして)					高村	
12	子どもが感情を表現するための保育者の役割：保育実習 I での出来事を通して考える。					高村	
13	自身の言葉に関するエピソード (実体験) を挙げ、自身の経験を語る。(身近な人の語りからの学び)					中島・高村	
14	感じたことを文字と記号や絵で表す：文字を使うことの喜びと保育者の関わりについて考える。					高村	
15	振り返りとまとめ：感情や気持ちを表現することと保育者の関わりについて考える。(保育実習 I での経験を踏まえて考える) ※第13回と連続して行う					中島・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準		
授業参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、自分なりの考えを持っているか。	指導案立案と実演	30	立案した指導案を基に模擬保育を行う。子どもの姿に理解しようとし、子どもの目線に合わせた保育活動の工夫が見られるか。		
課題	25	課題の内容、提出状況から評価する。	教材作成	15	作成した教材の出来具合を評価する。		
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
①子どもの言葉に関する文献を読む [60分] ②「言葉」が育つことに関する遊びの場面の指導案を立案する [60分] ③視聴覚教材の作成 [180分]			・提出されたレポート課題や応答シートを授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。				
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での一人一人の言葉という表現を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレール館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼稚園型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレール館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレール館 2018年 ISBN: 9784577814482 『保育者のための言語表現の技術 子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践 第2版』古橋和夫編著 朝文書林 2016年 ISBN: 978-4893474493 『新訂 事例から学ぶ保育内容 領域 言葉』武藤隆監修 朝文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5			
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。		その他・特記事項	代替課題はclassroomにて配信する。			
実務経験を活かした授業の概要							
高村：保育士としての経験をもとに、乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例 (動画) を基に具体的に指導を行っている。また、実際に視聴覚教材を使用している実践を行い、学生自身が子どもになり感じる機会を設けている。							

授業科目名	EC276U 保育内容・人間関係指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	谷 昌代					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「領域 人間関係」は非認知能力として注目される内容が多く含まれ、幼稚園教育要領の「幼児期に育ってほしい姿」にも具体的な姿が多く示される領域である。本科目では、模擬保育でのロールプレイを通じて「領域・人間関係」に関わる子どもの心の動きを疑似体験し、「領域 人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、保育者の協働を体験する。振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気づき、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚を掴む。更に振り返りで深めた体験から子ども一人一人の姿を予想する力、指導を構想する力を養う。</p>			<p>①幼児の興味、考え方、行動、言葉を丁寧に見て、その意味を考え、指導計画につなげようとする。  ②模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。  ③模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。  ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。  ⑤乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達のポイントを理解している。  ⑥乳幼児をめぐる今日の環境が潜む危険性について理解している。</p>			
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「領域 人間関係」の概説。教材準備と指導計画を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。[模擬保育担当グループの決定]					
2	子どもになって遊ぶ①：自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」					
3	子どもになって遊ぶ②：2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶと状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える。キーワード：「友達」「自己発揮」					
4	模擬保育①：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。					
5	模擬保育②：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。					
6	模擬保育③：「伝える・気づく」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。					
7	模擬保育④：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。					
8	模擬保育⑤：「よいことや悪いことがあることに気付く」遊び。異なる視点について考える。					
9	模擬保育⑥：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。					
10	模擬保育⑦：「ルールをつくる」遊び。道徳性・規範意識について考える。					
11	模擬保育⑧：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。					
12	社会生活における人々との多彩な出会いが地域の幅広い人々に対する「親しみ」をもつようになる活動を指導計画として立案する。乳幼児と地域とのつながりについて考える。					
13	異年齢との関わりが深まる活動を指導計画として立案する。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。					
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。					
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度・模擬保育	40	出席状況・模擬保育への取り組み・討議(20%) 模擬保育記録における理解度(20%)	前半課題	20	課題(代替課題含む)提出状況・内容	
エピソード収集	20	エピソードの内容・エピソードの記述記載方法・収集した資料の整理の仕方	最終課題	20	・遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開 ・「領域 人間関係」キーワードと関連する基礎的概念の理解 ・エピソードからの読み取り	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること・模擬保育の実践後の記録・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[60分程度]。</li> <li>・エピソードの収集[適宜]</li> </ul>			提出されたレポートの内容を次回(以降)の授業での講義に反映させる。			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもになって遊ぶスタイルで授業に参加すること。</li> <li>・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。</li> <li>・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。</li> </ul>		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482		
指定図書/参考書等	なし/適宜、紹介する。		その他・特記事項	・代替授業の課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
幼稚園教諭・保育教諭の経験をもとに、模擬保育の振り返りの中で、子どもの姿の事例として紹介する。						

授業科目名	EC336U 人間関係		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域 人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。</p> <p>①保育実践例（エピソード・クラス便り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。②遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気づき、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。③遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学ぶ。④『森の幼稚園・こども園』や地域の子育て支援の場に参加し子どもの姿から子どもの思いを捉える。保護者の思いに触れ、支援の在り方を考える。</p>			<p>①保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。</p> <p>②遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。</p> <p>③「領域 人間関係」にかかわるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。</p> <p>④子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、他機関との連携の持ち方を知る。</p>				
教授方法	保育資料を用いた事例検討・子育て支援等フィールドにて参加体験、事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験・講義						
履修条件	「保育内容・人間関係指導法」を履修していることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代の人間関係に関わる諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係にかかわるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。						
2	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「愛着形成」を中心に考える。						
3	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。						
4	幼児期前期の人との関わりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める。						
5	乳幼児のモノ・ヒト・環境との出会い、関わり方を捉える。[子育て支援参加体験（可能であれば）]						
6	コミュニケーションについて考える。						
7	ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。ノンバーバルでオモチャを使って遊んでみる。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。[体験]						
8	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。						
9	幼児期後期の人との関わりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。						
10	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子どもの「関係性」を読み取る。						
11	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える。[森の自然体験活動等、参加体験（可能であれば）]						
12	発達障害児の理解：彼らの物の見え方、感じ方、他者との関わり方について理解し、「安心して過ごす」ことについて考える。また、保護者・兄弟支援について園として、保育者としてできることを考える。						
13	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（1）（生活・自由遊びを中心に）						
14	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（2）（設定による活動を中心に）						
15	領域「人間関係」：地域社会・小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	・授業内で行われる演習に対して真剣に準備し取り組んでいるか。 ・毎回の討議時間に積極的に参加しているか。 ・体験等の参加態度		提出課題	50	・提出状況（期限までに提出しているか） ・与えられたテーマに沿って学習が進められ、内容が丁寧にまとめられているか。	
最終課題	20	・与えられたテーマに沿って、丁寧にまとめられているか。 ・学習した内容を理解してまとめられているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①実習を含む資料や自身の体験から、人間関係にかかわるエピソードを収集しておくこと。[30分] ②『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の「人間関係」項目について読み、用語の確認をしておくこと。[30分]				・授業内の討議の中でコメントする。			
受講生に望むこと	・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。			教科書・テキスト	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 I S B N 978-4-577-81245-7 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2008年 I S B N 978-4-577-81242-6 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 I S B N 978-4-577-81373-7		
指定図書／参考書等	なし／なし（必要資料等、印刷して配布する）			その他・特記事項	・個人情報を含む資料を用いるため、充分取り扱い、行動に注意すること。（学外での参加体験等含む） ・一部学外体験の可能性があり、日程調整のため学習内容の順序変動があることを理解いただきたい。 ・代替授業の課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録を中心に捉え話し合う。							

授業科目名	EC281U 保育内容・表現指導法		開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	田邊 圭子・向出 圭吾・武田 恵美 (代表教員 田邊 圭子)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。身体表現、音楽表現、造形表現に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。指導法においては情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することについても学ぶ。			幼稚園教育要領 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼児の表現に関する知識を習得し理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。			
教授方法	リモート及び対面授業による講義と演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	身体表現について、領域「表現」との関連から理解する。					田邊
2	イメージと動きについて理解する。					田邊
3	身体表現と音について理解する。					田邊
4	身体表現に関する指導案及び模擬保育から、保育現場における身体表現活動について考える。(ビデオ等情報機器及びデジタル教材の活用を含む)					田邊
5	身体表現に関する振り返りと評価を踏まえた学び合い。					田邊
6	音楽表現とは何か、領域「表現」との関連から理解する。子どもの発達と音楽的表現活動について理解し、活動の共有体験を通して得られることについて考える。					武田
7	表現あそびにおける、環境づくりや保育者の関わり方について理解する。劇遊びと音楽について考える。					武田
8	指導案の作成について理解する。子どもの活動に合わせた即興演奏、物語の内容に合わせた演奏について学ぶ。作品作りと発表。					武田
9	音楽表現に関する模擬保育及び振り返りと評価を踏まえた学び合い。					武田
10	子どもの想像力をふくらませる教材を知る。模擬保育の指導案の作成及び振り返り。					武田
11	造形表現について。領域「表現」との関連から理解する。					向出
12	造形表現の理解について (1) 小麦粉粘土を使用した造形活動を行う。(造形活動においてはデジタルカメラ等の情報機器の活用を含む)					向出
13	造形表現の理解について (2) 布を使用した造形活動を行う。(造形活動においては、ビデオ等の情報機器の活用を含む)					向出
14	造形表現の理解について (3) 仕掛け絵本を考える造形活動を行う。(造形活動においては、デジタルカメラ等の情報機器の活用を含む)					向出
15	造形表現に関する振り返りと評価を踏まえた学びについて深める。					向出
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容
レポート	20	・授業及び作品創作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・毎授業におけるコミュニケーションシートへの取り組み(武田) ・課題や作品に対しての自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
①毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる[60分] ②次回授業のための課題について準備する[60分]				・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(田邊・向出) ・毎授業で課すコミュニケーションシートは、コメントを付記し返却する。(武田)		
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が各5コマ担当するオムニバス科目です。また、演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814499 『子どもの音楽表現』、石井玲子、保育出版、2018年、ISBN978-4-938795-78-8	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
向出: 幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、粘土、布、しかけ絵本等の教材を用いてなど、実際の現場での実践を取り入れて表現を考える。						



授業科目名	EC341U 表現		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子・向出 圭吾・武田 恵美 (代表教員 田邊 圭子)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>子どもの表現の多様性と、子どもの表現を総合的に捉える視点を学ぶ。講義に加え、具体的な実践事例を通して創造的な子どもの表現活動を体験し、豊かな感性や表現する力を養う。「保育内容・表現指導法」の学びを踏まえ、子どもの表現を支え育む創造性豊かな保育者としての役割と支援に関する学びを深めていく。</p>			<p>①子どもの身体表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。          ②子どもの音楽表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。          ③子どもの造形表現を総合的な保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。          ④子どもの表現を保育活動の中で総合的に捉える方法について実践を通して習得している。          ⑤表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。</p>			
教授方法	リモート及び対面授業による講義と演習					
履修条件	『保育内容・表現指導法』の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：今後の授業の流れ、受講方法など。 身体表現授業オリエンテーション：領域「表現」における身体表現について、歴史的経緯を踏まえ理解することを通し、保育における身体表現について考える。					田邊
2	身体表現における動きのリズムについて理解する。					田邊
3	身体表現における動きと空間の関係について理解する。					田邊
4	身体表現作品創りを通して、身体の動きと表現の関係について考える。					田邊
5	身体表現に関する学びの振り返りから、保育現場における身体表現活動について考える。(ビデオ等情報機器及びデジタル教材の活用を含む)					田邊
6	音楽表現とは何か、領域「表現」との関係から理解を深める。子どもの声域について理解する。身の回りの「音」について考える。					武田
7	子どものうた・楽器あそびにおける、表現力について考える。 伴奏法Ⅰ：基礎的な音楽理論、コード伴奏について理解を深める。					武田
8	「表現」を生む保育環境について考える。 伴奏法Ⅱ：「ピアノで表現する」ということについて考える。子どものうたの初見方法を理解する。					武田
9	クリエイティブ音楽ムーブメントについて考える。 伴奏法Ⅲ：子どものうたの伴奏発表。					武田
10	保育における手作り楽器の意義について考える。					武田
11	保育における造形表現の意味を考え、遊びと造形表現について理解する。					向出
12	子どもの造形表現の理解 (1) :子どもの造形活動の発達とその特徴について考える。					向出
13	子どもの造形表現の理解 (2) :子どもの造形作品を取り上げ、子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割についても考える。(ビデオ等の情報機器の活用及びデジタル教材の活用を含む)					向出
14	子どもの造形表現の理解 (3) :子どもの絵を描く活動の特徴を理解する。(劇遊びの様子をビデオカメラなどの情報機器の活用を含む)					向出
15	造形表現の学びの振り返りから、保育現場における造形表現を育てる環境について考える。					向出
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容
レポート割合	20	・作品制作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・毎授業におけるコミュニケーションシートへの取り組み(武田) ・課題や作品に対しての自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出)				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べてくる。[30分] ②次回授業のための課題について準備する。[30分]			・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(田邊、向出) ・毎授業で課すコミュニケーションシートは、コメントを付記し返却する。(武田)			
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が5コマずつ担当するオムニバス科目です。演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814499 『子どもの音楽表現』、石井玲子、保育出版、2018年、ISBN978-4-938795-78-8	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、身近な素材を使った切り絵等の教材を用いるなど、実際の現場での実践を取り入れて表現について考える。						

授業科目名	EC350U 子どもの理解と援助		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育士養成課程において心理学に関連する科目の講義を通して子どもの発達や学びを理解していき、発達心理学や教育心理学の知識を得ることで、子どもの行動の意味を理解し、子どもの発達に沿った援助ができるようになることを目指している。一方で、実際に保育者として一人ひとりの子どもとどう関わるのか、また保育施設における子ども同士の関係を踏まえた関わり方について学んでいく必要がある。本科目では、子どもの発達に関する知識を学ぶだけでなく、常に保育の現場をイメージし、現場で活かすために必要なことを学んでいく。グループワーク等演習を通して様々な事例を検討し、臨機応変に対応すること、自分の対応について振り返り見直すこと、また多様な視点から子どもの理解に努めていくことを体験し、子ども理解から出発する保育実践へと繋げていきたい。</p>				<p>① 保育実践において、子ども一人一人に応じた心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。  ② 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。  ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。  ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</p>			
教授方法	講義・ディスカッション・グループワーク						
履修条件	保育士資格取得希望者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育における子どもを理解することの意義について保育実践例から考える。 ・子どもが発達すること ・保育における子どもの学び						
2	保育における養護と教育について考える。 ・幼児教育施設における保育の目指すもの ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ・養護から教育へ						
3	子どもに対する共感的理解について学ぶ。 ・子どもとの関わりにおいて目指すもの ・共感的理解を基に保育者の関わりを考える。						
4	子どもの生活と遊び ・子どもにとって生活とは ・子どもにとって遊びとは ・保育における生活・遊びとはどのようなことか考える。						
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 ・子どもの発達と保育者という人的環境の関係性 ・子どもの発達に寄り添う保育者の適切な関わりについて						
6	・子どもの集団における関わりについて考える。 ・子どもの育ちにつながる関わり、集団づくりについて						
7	・保育における葛藤、つまづき、いざこざについて ・保育事例を通して、葛藤、つまづき、いざこざ場面における支援について考える。						
8	保育環境について ・子どもの理解を踏まえた環境の構成、再構成について考える。						
9	・環境の変化や移行とは ・環境の変化や移行から適応まで ・環境の変化や移行していくための保育者の援助について考える。						
10	子どもを理解する方法について ・保育における観察、記録、省察、評価 の意味と活用 ・子どもを理解し続けることは						
11	職員間の対話について ・職場における人間関係 ・円滑なコミュニケーションの構成要素						
12	保護者との連携について ・保護者との情報共有 ・保護者同士の連携						
13	発達の課題に応じた援助と関わりについて ・発達障害とは ・乳児期の発達と保育 ・幼児期前期・後期 の発達と保育						
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助 ・発達障害の子どもの理解 ・障害以外の特別な配慮を要する子どもの理解（インクルーシブな保育を目指して）						
15	発達の連続性と就学への支援について ・発達の連続性 ・保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園から小学校への連携を考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況・態度	40	・ 対面授業への出席+代替授業課題提出状況 ・ 講義及びグループワークに積極的に取り組んでいるか。		提出課題（ミニレポート）	30	・ 求められた課題に対して、資料を活用して調べられていること。 ・ 求められた課題に対して自分なりの考えをまとめていること。	
最終課題	30	・ 授業を通して学んだことを総合的に理解していること。 ・ 適切な資料によって調べられていること。背景や理由を考え、自分なりの理解に繋げていること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>・ 自分の保育所や幼稚園時代の連絡帳、記録を準備し、人との関わりについてのエピソードなど振り返っておく。  ・ 日常の中で（公園・レストラン・公共施設など）子どもたちが遊ぶ姿、関わる姿を気に留めて観察する。  ・ 幼稚園教育実習、保育実習等で体験した自身と子どもとの関わりに関する記録（実習ファイル）の見直しをする。 [60分～90分]</p>				前回授業についての質問や課題についての振り返り、補足、助言を行う。			
受講生に望むこと	<p>・ 保育者を目指す学生として、受講態度、グループワークにおける参加態度等は保育者の協働性、同僚性にも繋がるものであるということ意識して参加してほしい。  ・ 保育現場や子どもの姿をイメージしながら参加してほしい。</p>		教科書・テキスト	<p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475  『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482  『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499</p>			
指定図書/参考書等	なし/なし（必要な資料は随時印刷して配布、または紹介する。）		その他・特記事項	<p>・ 授業内で紹介する事例等において個人情報扱うことになるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意してください。  ・ 代替授業の課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。</p>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
実習対象年齢による発達、環境の違いなど、学生自身が幼稚園と比較し捉え、関わり方や教材作りに活きるようグループワークを中心に行う。							

授業科目名	EN150U 保育原理		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	虫明 淑子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
3法令改訂（定）以降、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園のすべての園において質の高い保育を行うことが求められるようになった。ところで、保育の「質」とは何だろうか。本講義は、保育の「質」を追求するための最初のステップである。まず、保育とは何かについて考えるところからスタートし、保育内容、保育の方法、保育計画、子ども理解、子ども主体の保育等の保育における基本的な考え方についての理解を進める。また、子育て支援、特別支援教育、保育の歴史、法律・制度等の様々な視点を加えて保育を総合的に捉えることによって、よりよい保育のあり方について考えられるようにしていく。			①様々な視点から保育を捉えることから、保育における基本的な考え方について理解する。 ②今の保育における現状やその課題を把握し、よりよい保育のあり方について自分なりに考えられるようになる。				
教授方法	講義・代替授業						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「保育」とは何か						
2	「子ども理解」についての本質的意味を知り、それらが保育の根幹となることについて認識する。						
3	保育の誕生とその変遷について理解する。						
4	保育の内容：5領域までの変遷と3法令に提示された「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考える。						
5	保育の方法：望ましい保育の方法について理解する。						
6	保育の方法と評価と保育の「質」の向上について考える。						
7	健康・安全と保育：子どもの命を守ることへの重責を担う役割について考える。						
8	保育と子育て支援：子育て支援とは何か、子育て支援が必要とされる背景、保育の場で行われる子育て支援について理解する。						
9	保育の歴史に学ぶ：海外の保育思想と日本における遊びを中心とする保育の成立とその展開について考える。						
10	保育者の専門性と資質向上：保育の専門性の特質と省察的実践者としてのあり方について考える。						
11	学校や地域との連携のあり方について考える。						
12	多様な子どもへの理解と保育：特別な配慮を要する子ども、外国籍や貧困家庭の子どもの理解等について理解する。						
13	保育に関する法律と制度について理解する。						
14	授業内試験：これまでの振り返り						
15	これからの保育の課題と展望：保育のよりよいあり方や改善策について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	25	出欠・授業態度・主体性等		課題	35	提出状況・理解度・取り組み方	
授業内試験	40	授業内容の理解度					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業前の予習 [30分程度] 授業後の復習 [15分程度]			授業内試験に出題した内容は次回授業で解説を加える。				
受講生に望むこと	分からない部分は積極的に質問してください。		教科書・テキスト	汐見裕幸・無藤隆・大豆生田啓友『アクティベート保育学①保育原理』ミネルヴァ書房、2019年 ISBN:9784623084333 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館、2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499			
指定図書／参考書等	なし／授業内で適宜紹介する		その他・特記事項	受講者の理解度に合わせ、内容を変更して行う場合があります。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
幼稚園教諭としての保育経験、カリキュラム・マネジメント者及び保育指導助言者としての経験、園や地域における子育て支援活動や発達障害のある子ども及び保護者に対する支援活動の経験、医療施設におけるLD児の学習支援者としての経験等によって得られた様々な事例を提示する。							

授業科目名	EN251U 子ども家庭福祉論 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
子ども家庭福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する目標：家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。			①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解している。 ②子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。				
教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。						
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子ども家庭福祉の理念と概念：子ども家庭福祉の学び方、児童という対象の特徴、「児童の最善の利益」と「子ども家庭福祉」ほか						
2	子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向：子ども家庭福祉の歴史的展開、支援対象の多様化、社会的支援 ほか						
3	子どもの人権擁護：子どもの人権擁護の歴史、児童の権利に関する条約、子どもの人権擁護と現代社会における課題 ほか						
4	子ども家庭福祉の制度と実施体制：子ども家庭福祉の法制度、法制定・改正の流れ、子ども家庭福祉における実施体制と専門職 ほか						
5	子ども家庭福祉の施設と専門職：児童福祉施設の種類、子ども家庭福祉の専門職、措置制度から契約制度への移り変わり ほか						
6	少子化と地域子育て支援：少子高齢社会の到来、子ども・子育て支援制度の概要、子育て支援の拡充に向けて ほか						
7	母子保健と子どもの健全育成：母子保健の意義、児童健全育成の意義、母子保健サービスの動向 ほか						
8	多様な保育ニーズへの対応：多様な保育ニーズに対応するためのしくみ、教育・保育施設、障害児支援の現状 ほか						
9	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止：子ども虐待の定義と概要、子ども虐待防止、子ども虐待・DV防止のために ほか						
10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応：子育て世帯の貧困、子どもの貧困対策、包括的な社会を生み出す要としての保育所 ほか						
11	社会的養護：社会的養護とは、これからの社会的養護、新生児期から社会的養護を必要とする赤ちゃんのために ほか						
12	障害のある子どもへの対応：障害児の福祉、障害児支援の背景、障害児支援のチームアプローチモデル ほか						
13	少年非行等への対応：少年非行の状況、非行相談と施設入所との関係、感化院の誕生 ほか						
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進：次世代育成支援としての子ども家庭福祉、子ども・子育て支援制度の課題、認定こども園と「幼保連携」という考え方 ほか						
15	地域における連携・協働とネットワーク：「連携・協働」はなぜ必要か、保育の実践場面における「連携・協働」、子ども虐待防止にかかわる法制度の動向から読み解く「連携・協働」の重要性 ほか						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。	リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている 自らの課題が設定されている。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
子どもや家庭に関する新聞記事及びニュース報道などを事前に読み込み、その要因・課題について自らの意見をまとめる。〔40分〕 講義・演習などの学びから、子ども家庭福祉に関する社会資源について、自らの居住する地域の具体的な機関・施設などの実践内容・機能などについて調べる。〔40分〕			期末試験を講義最終回に実施予定である。				
受講生に望むこと	子ども家庭福祉の基本となる内容が教授され、保育のみならず教育においても根幹をなす科目であるから、確実に専門用語などについては内容の理解に努めること。		教科書・テキスト	『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉① 子ども家庭福祉』 倉西哲也・伊藤嘉余子監修 ミネルヴァ書房 2017年 ISBN：978-4-623-07926-1			
指定図書／参考書等	なし／『子ども家庭福祉 新・基本保育シリーズ③』 公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 2019年 ISBN：978-4-8058-5783-4		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN301U 子ども家庭福祉論Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本 理沙					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>近年、ヤングケアラーが社会問題として取り上げられている。ヤングケアラーとは、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」と定義される。ある日本の調査によると、高校生の約20人に1人がヤングケアラーに該当するとされている。本講義では、ヤングケアラー支援の現状と課題について、特に事例検討を通して理解を深めていく。</p>			<p>①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者による支援のあり方について理解する。</p>			
教授方法	配付資料を用いる。演習の要素を取り入れた講義となる。					
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	日本及び世界におけるヤングケアラー支援の現状と課題					
2	要保護児童対策地域協議会におけるヤングケアラーの位置づけ					
3	ヤングケアラーに関する事例検討①難病の親をケアする子ども					
4	ヤングケアラーに関する事例検討②統合失調症の親をケアする子ども					
5	ヤングケアラーに関する事例検討③うつをケアする子ども					
6	ヤングケアラーに関する事例検討④アルコール依存症の親をケアする子ども					
7	ヤングケアラーに関する事例検討⑤若年性認知症の親をケアする子ども					
8	ヤングケアラーに関する事例検討⑥聞こえない親をケアする聞こえる子ども					
9	ヤングケアラーに関する事例検討⑦認知症の祖父母の介護を行う孫					
10	ヤングケアラーに関する事例検討⑧障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（1）					
11	ヤングケアラーに関する事例検討⑨障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（2）					
12	ヤングケアラーに関する事例検討⑩障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（3）					
13	当事者による支援のあり方について考える①セルフヘルプ・グループ、ピアサポート					
14	当事者による支援のあり方について考える②当事者研究					
15	ヤングケアラー支援の実践・啓発のあり方について考える					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
最終レポート	70	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。		リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
ヤングケアラーに関するメディア報道があれば都度確認し、報道内容について自分の意見をまとめる【30分】			最終レポート及びリアクションペーパーに対して、可能な限りコメントする。			
受講生に望むこと	ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。当事者による支援のあり方について理解する。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、配付資料により講義・演習を行う。	
指定図書／参考書等	なし／『ヤングケアラー わたしの語り—子どもや若者が経験した家族のケア・介護』澁谷智子編 生活書院 ISBN:978-4-86500-118-1、『ヤングケアラー—介護を担う子ども・若者の現実』澁谷智子 中公新書 ISBN:978-4-12-102488-6			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
公益財団法人京都市ユースサービス協会主催「家族のケアを担う子ども・若者をテーマにした事例検討会」や、一般社団法人日本ケアラー連盟「ヤングケアラープロジェクト」、セルフヘルプ・グループ、サポート・グループ、啓発事業等の各運営に携わってきた経験を元に、講義を展開する。						

授業科目名	EN155U 社会福祉		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	岡田 文貴					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育所に限らず、児童養護施設や児童相談所、あるいは障害児施設などの児童福祉施設など、保育士の勤務先は多様に存在します。また児童福祉制度は、社会福祉制度の1つとして位置づけられています。保育士は、障害福祉領域や公的扶助の領域との連携が必要となる可能性もあります。幅広い知識は、保育士としての仕事を質的に向上させます。この科目では、保育者に必要な社会福祉の基礎知識を学習します。</p>			<p>①保育の知識が、保育所以外の児童福祉分野の仕事に役立てることができることを理解します。 ②子育ての悩みや深刻な事情などで、児童に対し必要な保護及び援助が確保されていない場合、社会福祉制度を活動することが有効であることを理解します。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	社会福祉の理念と歴史の変遷：社会福祉とは何か、そしてそれがどのような理念で実践され、人々の生活や生命への介入を果たしているかを学びます。					
2	子ども家庭支援と社会福祉：家庭を支援していくことの重要性について学び、実際の仕事を通して子ども家庭支援について考えます。					
3	社会福祉の制度と法体系：日本の社会福祉法制度の体系を整理し、制度・法律の種類について基礎知識を身につけ、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉制度・法律のポイントを理解します。					
4	社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等：福祉事務所や児童相談所などの相談機関、社会福祉の財政、社会福祉施設など、行政機関がどのような制度を整備しているのかを理解します。					
5	社会福祉の専門職：社会福祉の資格の定義や役割・機能等を、根拠となる法律から理解します。そして、地域における多職種および地域住民との連携・協働の動向について理解します。					
6	社会保障制度及び関連制度の概要：誰を「対象」とし、どのような「分野」があり、いかなる「方法」で私たちの暮らしを守っているのか。そして「子育て世帯」がなぜ貧困に陥ってしまうのか、その背景を考えます。					
7	相談援助の理論：保育士が子どもの家族とかかわる際に用いる相談援助の理論について、①その成り立ち ②理論の発展過程 ③現場実践での留意点、そして人の行動や取り巻く環境の多様性について理解します。					
8	相談援助の意義と機能：専門的な意味での「相談援助」とは何か、その意義と機能から理解を深めます。					
9	相談援助の対象と家庭：①子ども、保護者、地域といった対象に応じた関わり。②相談援助の課程について段階を追って解説。③援助者としての態度、そして援助者として意識していきたい視点について理解します。					
10	相談援助の方法と技術：①相談援助の視点、②人と環境との接点、環境や社会資源へのはたらきかけ、③保育現場において保育者が相談援助の方法と技術を用いた支援を行うことの強みなどについて考えます。					
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ：利用者保護にかかわる制度に関して、その背景や法的根拠等を学ぶとともに、実際のしくみについて学びます。					
12	少子高齢化社会における子育て支援：少子化の現状を確認したうえで、これまでの少子化対策の展開と少子化対策における保育所の役割について学びます。					
13	共生社会の実現と障害者施策：①障害のとらえ方と障害者の現状、②共生社会の実現に向けた障害者施策、③「インクルージョン」とそのなかで保育士に期待される役割について学びます。					
14	在宅福祉・地域福祉の推進：①地域福祉という考え方やその実践方法を学ぶ、②子ども、保護者や地域住民、隣接諸領域の専門職に対する保育士の関わり方を理解します。					
15	諸外国の社会福祉の動向：福祉国家としての先進諸国がどのような現状にあるのかを学びます。そのために、福祉国家とは何かについても理解します。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	課題として配布するワークシートの中より出題します。試験は持ち込み不可。		レポート	30	授業の中でフィードバックします。その際、評価のポイントを示します。
出席点	30	欠席はマイナス6点。遅刻マイナス2点。授業態度で出席点を減点する場合があります。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>●2回目以降の授業に関しては、前もってワークシート及び資料を渡します。渡した資料には図表が縮小し貼り付けられています。出典は示してありますので、厚生労働省や石川県等のホームページで確認してください。 ●1回の授業で1つの講を終了する予定です。テキストとワークシートに取り組み、資料を読み、自己学習に取り組んでください。</p>				<p>①レポートは5回実施します。1回のレポートを6点で評価します。課題として配布し、翌週に回収します。 ②レポートの評価は評価のポイントを示し、よく書けたレポートを用いて解説します。</p>		
受講生に望むこと	<p>①授業の前にテキストを読み、ワークシートに取り組み、前もって渡す資料を読んでください。 ②理解できない社会福祉の専門用語に関しては、社会福祉用語辞典等で理解するように努めてください。</p>			教科書・テキスト	『新基本保育シリーズ④ 社会福祉』松原康雄 坪 洋一 金子 充 編集 中央法規 2019年 ISBN：978-4-8058-5784-7	
指定図書／参考書等	授業や資料の中で提示します。			その他・特記事項	授業中は、他者と会話などせず、静かに座っててください。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
社会福祉事業における勤務経験を活かし、社会福祉従事者に必要な価値観・態度・知識・情報・技術などについて説明し、これらの知識は保育分野でも有効であることを伝えている。						

授業科目名	EN306U 家庭支援の心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
生涯発達に関する知識を習得し、人の発達を捉える視点を身につける。また、発達初期の経験の重要性、発達の各時期における家族・家庭の意義や機能について理解を深め、子育て家庭の社会的状況やその課題、子どもの精神保健の現状とその課題について学ぶ。			①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。 ②子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ③家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもを包括的に捉える視点を習得する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。				
教授方法	講義を中心にワークやディスカッションなどを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	生涯発達①：生涯発達とは何かについて理解する。						
2	生涯発達②：乳児期から学童期前期の発達について理解する。						
3	生涯発達③：学童後期から青年期の発達の特徴について理解する。						
4	生涯発達④：成人期・老年期における発達の特徴を理解する。						
5	子育て①：子育てを取り巻く社会的状況を理解する。						
6	子育て②：子育ての経験と親としての育ちについて理解する。						
7	家族・家庭①：家族・家庭の意義とその機能について、家族システムや家族の発達から理解する。						
8	家族・家庭②：家族の問題について家族システムから理解し、支援の方法を考える。						
9	家族・家庭③：多様な家庭形態について把握し、援助の方法を考える。						
10	家族・家庭④：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える①：貧困家庭、虐待について。						
11	家族・家庭⑤：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える②：家族に精神障害や疾病を抱える家庭、外国にルーツを持つ家庭について。						
12	家族・家庭⑥：発達支援の必要な子どものいる家庭について理解し、支援について考える。						
13	子どもの精神保健①：子どもの心と健康について考える。						
14	子どもの精神保健②：子どもの心の健康への支援について考える。						
15	子どもの精神保健③：災害と子どもの心の健康について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		課題レポート	30	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価する。	
最終レポート	40	『家庭支援の心理学』の基礎知識が獲得されている。『家庭支援の心理学』のテーマについて論理的考察がされている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、家族心理学など家庭支援の心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]			①各回の授業レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。				
受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。		教科書・テキスト	『子ども家庭支援の心理学』青木久代編 みらい 2019年 ISBN:978-4860154820			
指定図書／参考書等	なし/『子ども家庭支援の心理学』本郷一夫・神谷哲司編 建帛社 2019年 ISBN:978-4767950921、『子どもとかわる人のための心理学』沼山博・三浦主博編 萌文書林 2020年 ISBN:978-4893473691、『家族心理学 第2版』中金洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子編 有斐閣 2019年 ISBN:978-4641184466、『いま家庭援助が求められるとき』中金洋子 垣内出版 2001年ISBN:978-4773401431、『対人援助職のための家族理解入門』団土郎 中央法規出版 2013年 ISBN:978-4805838600、『家族の心はいま』柏木恵子・平木典子 東京大学出版会 2009年 ISBN:978-4130111249		その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。							

授業科目名	EN255U 社会的養護		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	側垣 二也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現代は、家庭基盤が脆弱化し児童虐待問題が象徴するように多様で複雑な児童と家族の問題が生じている。そのため社会全体の養育支援体制の構築、児童養護施設や里親のような代替養育支援が欠かせないものとなっている。そのような子どもと家庭を援助し支援する社会の枠組みを社会的養護と呼ぶ。</p> <p>そこで本講義では、保育所だけでなく児童養護施設等の生活型施設において職種として必要とされる保育士に求められる知識と資質を得るために、社会的養護の歴史と意義、子どもの権利と子ども理解、今日の児童と家庭の現状と問題、要養護ニーズ、そして保育士の倫理などについて学び理解する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会における社会的養護の意義と歴史</li> <li>2 子どもの権利の理解とその支援のあり方</li> <li>3 現代社会の子どもと家庭で起きる問題</li> <li>4 社会的養護の制度と体系</li> <li>5 施設養護と家庭養護の役割と目的と実際</li> <li>6 社会的養護(制度)の課題と展望 ……以上を学ぶ</li> </ol>				
教授方法	パワーポイントなど視聴覚教材を用い、講義内容がわかりやすく伝わるように工夫をする。課題レポートの提出を求め、主体的な学びとなるように進め、学生の疑問に適切に応える。						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代における社会的養護の意義 1 一なぜ保育士は学ぶのか						
2	現代における社会的養護の意義 2 一理念と概念						
3	社会的養護の歴史 一そのはじまりと発展そして先駆者						
4	子どもの人権と社会的養護 一子どもの権利保障と支援の視点						
5	社会的養護の基本原則と保育士の倫理						
6	社会的養護の実施体系 1 一 制度と法体系						
7	社会的養護の実施体系 2 一 社会的、公的仕組み						
8	社会的養護の実施体系 3 一 要養護の現状と対象となる子どもと家庭						
9	社会的養護の実施体系 4 一 家庭養護と施設養護の役割						
10	社会的養護の実施体系 5 一 専門職						
11	社会的養護の内容 一 子ども個別理解と支援方法						
12	社会的養護支援の実際 1 一 ビデオ視聴「家族の再生」視聴						
13	社会的養護支援の実際 2 一 施設養護の支援のあり方						
14	社会的養護支援の実際 3 一 家庭養護の支援						
15	社会的養護の課題とビジョン						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業姿勢	60	出席回数。熱心に臨み、講義に対する質問、発言の確性。		レポート提出	40	提出期限が守れたか。課題の考察が適切であるか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
社会的養護は社会の子どもと家庭の出来事と密接に関連している。したがって、マスコミなどの情報に関心を示し、現代社会の子どもと家庭の問題は何か、そのニーズはどこにあるかに関心をもち、情報収集を行う。現代の子どもと家庭の問題を課題にしたレポート提出も授業の過程で求める。			ビデオ視聴の視聴レポート、その他課題レポート提出を求める。その課題についてまた学生からの質問等を解説し回答する。				
受講生に望むこと	社会的養護は社会の子どもと家庭の出来事と密接に関連している。したがって、マスコミなどの情報に関心を示し、現代社会の子どもと家庭の問題は何か、その支援ニーズはどこにあるかに関心をもち、情報収集を行いましょ。そのことが授業内容の理解につながります。努力しましょう。		教科書・テキスト	「最新保育士養成講座第5巻『社会的養護と障害児保育』」全国社会福祉協議会・最新保育士養成講座総括編 委員会編 2019 ISBN:978-4-7935-4			
指定図書／参考書等	参考図書 「社会的養護シリーズ2『施設養護とその内容』」庄司順一・鈴木力・宮嶋清 福村出版 2011 ISBN:978-4-571-42511-0		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
児童養護施設における自身の勤務経験を踏まえつつ、現代社会にある児童と家庭の問題、課題について講義を行っている。							



授業科目名	EN260U 社会的養護内容		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての「児童養護施設」、「乳児院」、「児童自立支援施設」、「児童心理治療施設」、「母子生活支援施設」における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、家族病理や社会病理の視点から、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点からその家族再統合（家庭復帰や家族関係の再構築）の方途などについて考察する。			①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 ②施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 ③個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、治療的支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 ⑤社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。				
教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。						
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」及び「社会的養護」を履修済であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子どもの権利擁護：子どもの権利擁護の基本、子どもの権利擁護の質の向上を図るために ほか						
2	社会的養護における子どもの理解：子どもの理解を深めていくためには、子どもの理解の仕方と子どもの背景 ほか						
3	社会的養護の内容①日常生活支援：日常生活支援とは、日常生活の特徴 ほか						
4	社会的養護の内容②心理的支援：心理的支援とは、社会的養護における養育者支援の基本 ほか						
5	社会的養護の内容③自立支援：社会的養護の子どもの退所後の進路の状況、自立支援に必要な視点 ほか						
6	施設養護の生活特性および実際①乳児院等：施設養護の生活特性と対象者、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設における今後の課題 ほか						
7	施設養護の生活特性および実際②障害児施設等：児童心理治療施設、新たな視点 ほか						
8	家庭養護の生活特性および実際：家庭養護とは、養子縁組 ほか						
9	アセスメントと個別支援計画の作成：アセスメントと個別支援計画、自立についての理解を深める ほか						
10	記録および自己評価：記録の意義と役割、利用者の個人情報の保護・守秘義務と記録 ほか						
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践：社会的養護における保育の専門性、実践力をつける学びの方法 ほか						
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践：相談援助（ソーシャルワーク）の定義、相手の立場や感情に寄り添うこと ほか						
13	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）：「ソーシャルワーク」における支援、エコマップの概要 ほか						
14	社会的養護における家庭支援：「家庭を支援する」とはどういうことか ほか						
15	今後の社会的養護の課題と展望：社会的養護の大転換の背景、社会的養護の展望ほか						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
最終レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述、理解している。	リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」で学んだ内容を整理しておくこと。[30分] ②授業における演習内容からの学びについて、具体的な展開を考察する。[40分]			最終レポートの講評、評価視点などについて、フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。		教科書・テキスト	『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉⑥ 社会的養護内容』倉石哲也・伊藤嘉余子監修 ミネルヴァ書房 2017年 ISBN：978-4-623-07955-1			
指定図書／参考書等	なし／『社会的養護Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑧』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 2019年 ISBN：978-4-8058-5798-4		その他・特記事項	演習科目であり、積極的な発言など演習への前向きな姿勢が望まれる。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN266U 子どもの保健		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	津田 朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することは、保育専門職の重要な役割である。子どもの保健では、子どもの発達の特徴や現代社会における課題をふまえ、乳幼児期に多く見られる健康問題や子どもを取り巻く環境について考え、その健全な発達が保障されるよう、健康問題の予防・早期発見や子ども・家族への支援方法、他職種との連携・協働など、保育専門職としての適切な対応について学ぶ。			①子どもの身体発育や生理機能の特徴を理解している。 ②子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 ③子どもの精神保健とその課題等について理解している。 ④子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。 ⑤保育現場における事故防止、安全対策・危機管理と、組織的対応について理解している。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの健康オリエンテーション、近年の子どもを取り巻く環境の変化をふまえ、子どもの発達保障における課題について考える						
2	発達の原則と特徴 アタッチメントとこころの発達						
3	身体の発育 運動機能の発達と評価						
4	生理機能の発達と保健 (1) 脳、呼吸・循環・体温調節、生体リズムなど						
5	生理機能の発達と保健 (2) 摂食・消化機能、排せつ、水分代謝、免疫など						
6	子どもの栄養と食習慣の確立 (授乳・離乳)、歯と口の健康 (むし歯)						
7	感染症とその予防、予防接種						
8	アレルギーのある子どもとその対応						
9	その他の子どもの病気 (先天性疾患含む)						
10	子どもの病気と健康状態の観察 (アセスメント)、体調不良時の対応						
11	小児救急、事故予防						
12	発育・発達の把握と健診 (発達診断とアセスメント)、保護者との情報共有と親支援 (GW) 事故予防 (災害も含む)						
13	子ども虐待とその予防：虐待の現状、虐待が子どもに与える影響、虐待予防と子育て支援						
14	障害のある子どもへの理解と対応						
15	まとめ：子どもの健やかな育ちを保障するために (多様な支援の展開と関連機関との連携・協働)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
課題	30	期間内に3回実施。講義内容の理解を確認する。		課題レポート	70	基本的知識の理解のもとに、さらに自主的に資料を調べ、自分の考えを述べられる。	
<b>授業外における学習 (事前・事後学習等)</b>			<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>				
講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと [30分]。			課題は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。				
受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと		教科書・テキスト	「子どもの保健 第1版」 遠藤郁夫編 株式会社学建書院 2019年 (ISBN: 978-4-7624-0889-2)			
指定図書/参考書等	『子どもって・・・ね』 木村留美子著 エイデル研究所 ISBN4-87168-393-1/なし		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN311U 子どもの健康		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	北川 節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育所や児童福祉施設など子どもの生活を支援する場では、安全な環境の確保と保健的な対応が重要となります。そのため子どもの身近にいる保育士は、健康・安全について確かな知識と技術をもつ必要があります。ここでは「子どもの保健」を基に、保育所や児童福祉施設における健康・安全の活動や管理について具体的に学びます。</p>			<p>①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。  ②保育における衛生管理・事故防止、安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。  ③子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。  ④保育における感染症対策について具体的に理解する。  ⑤子どもの健康や安全の管理にかかわる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価について理解する。</p>				
教授方法	講義 演習						
履修条件	「子どもの保健」が履修済み、または履修中であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業ガイダンス 保育における健康と安全の位置づけを理解する。保育施設における保健的環境、個別対応・集団対応の調和、健康管理の概要を学ぶ。					北川	
2	乳幼児の身体計測・バイタルサインの測定を体験する。保育施設における安全管理と生活習慣の確立の重要性を学ぶ。					北川	
3	保育施設における衛生管理の方法を具体的に学ぶ。					北川	
4	保育施設における事故の防止方法を学ぶ。重大事故の事例を分析し、事故発生時の要因を考える。					北川	
5	災害発生時の保育施設での対応を検討し、災害の備えについて理解する。保育施設における危機管理の重要性を学ぶ。					北川	
6	保育施設における体調不良児の対応を学ぶ。乳幼児への救急対応の基本を学ぶ。					北川	
7	乳幼児に起こりやすい病気やけがなどに対する応急処置の方法を具体的に学ぶ。					北川	
8	乳幼児の一次救命処置、異物除去の方法を体験し習得する。					日赤指導員	
9	保育施設における感染症対策の基本と園児への指導、職員対策、感染症発症時・り患後の対応を学ぶ。					北川	
10	手洗いが正しく行われているかを確認する。保育施設におけるおう吐時の対応について具体的に学ぶ。					北川	
11	園児への保健的対応を発達段階別に考える。保育施設における個別の配慮が必要な子に対する保健的対応を学ぶ。					北川	
12	保育施設における与薬の方法、エビペンの使い方を具体的に学ぶ。					北川	
13	保育施設における健康・安全を守るための職員間の連携・協働と地域・家庭との連携について学ぶ。保健安全計画を考え、計画の必要性と保育計画との連動性を理解する。					北川	
14	保育施設における事故発生時の対応を具体的に学ぶ。事例をもとに事故発生時の対応を検討する。					北川	
15	事故発生時の対応をロールプレイし、危機管理の重要性を理解する。					北川	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
課題レポート	60	課題について考察がなされているか。わかりやすく書かれているか。		代替授業レポート	40	代替授業の成果物である資料に、正確に書き込みがなされているか。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①対面授業では、1週間前にgoogle classroomにレジュメ（資料）を添付します。事前に読んで授業に参加してください。（30分） ②代替授業では書き込み等の指示があります。レポートとしてまとめ、Google classroomから指定の期日までに提出してください。（60分） ③課題レポートはGoogle classroomから指定の期日までに提出してください。（60分）			①代替授業の資料やレポートはコメントをつけて適切な時期に返却します。				
受講生に望むこと	①演習・実習は積極的に参加しましょう。 ②対面授業では、授業中にgoogle classroomの資料を閲覧することができます。閲覧できるようなアイテムを持ってきてください。			教科書・テキスト	「子どもの健康と安全」学建書院 2019年9月 ISBN978-4-7624-0890-8 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482		
指定図書／参考書等	なし／「保育所における感染症対策ガイドライン」2018年改訂版などの参考資料はgoogle classroomに添付します。			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN315U 子どもの食と栄養		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 弘美・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 田中 弘美)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子どもの食生活は、生涯にわたる心身の健康と生活の基礎となる。保育所は通う子どもが一日の大半を過ごす場である。毎日の食事や食育活動を通して、子どもの健やかな成長を助け、食への興味関心を高めるために重要な役割を担っている。本授業では、保育所等における食生活支援に必要な食に関する基礎知識、食育、食物アレルギー対応について講義と実習を通して学ぶ。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康と食生活のかかわりから望ましい食生活の意義を理解している。特に小児期の食事が生涯にわたる健康につながることを理解している。</li> <li>2.栄養に関する基本的知識を得ている。</li> <li>3.乳幼児期の食事について、望ましい形態や量、取り扱い上の留意点を理解している。</li> <li>4.食物アレルギーへの対応の要点を理解している。</li> <li>5.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。</li> <li>6.保育所における食育の意義及び計画・評価の方法を理解している。</li> </ol>				
教授方法	講義、実習						
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子どもの健康と食生活の意義①：食生活と健康のかかわりや子どもの心身の発育・発達と栄養について学習する。(子どもの食生活が成長や健康に大きく関わることを理解する。)					田中	
2	子どもの健康と食生活の意義②：子どもの食生活の現状と課題について学習する。(子どもの食生活について問題意識を持てるようになる。)					田中	
3	実習①調乳：調乳の操作(無菌操作法)の要点を学習する。(調乳の操作及び冷凍母乳の扱い方を理解する。)					俵	
4	実習②離乳食の進め方：離乳初期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。(離乳初期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。)					俵	
5	栄養に関する基礎知識①：栄養の概念と栄養素の消化・吸収のしくみについて学習する。(食事と栄養素の関係を理解している。食べたものが体の中にどのように取り込まれ、どのようにはたらくのかを理解する。)					三田	
6	栄養に関する基礎知識②：栄養素とそのはたらきについて学習する。(食品に含まれる主な栄養素とそのはたらきを理解する。)					三田	
7	実習③離乳食の進め方：離乳中期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。(離乳中期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。)					俵	
8	実習④離乳食の進め方：離乳後期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。(離乳後期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。)					俵	
9	栄養に関する基礎知識③：栄養に関する様々な制度のうち、献立作成に関わる制度や基準について学習する。(栄養管理は『日本人の食事摂取基準』に準ずることをはじめ調理法や衛生管理など、献立作成には様々な工夫が必要であることを理解する。)					田中	
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養：家庭、児童福祉施設それぞれの食事と栄養について学習し、配慮や支援の方法を理解する。(それぞれの食事と栄養について理解する。配慮や支援の方法にどのようなものがあるか理解する。)					田中	
11	実習⑤幼児期の食事：幼児期の咀嚼や食べ方の機能の発達について学習し、食事の形態や食環境への配慮について考える。(幼児期に適した食事の形態や食環境などの配慮と支援方法を理解する。)					俵	
12	実習⑥幼児期の食事：幼児期の食事や間食などの適量、組み合わせ、与え方を学習する。(幼児期の正しい食生活のあり方を理解する。)					俵	
13	食育の基本と内容①：食育の意義、保育所における食育の位置づけについて学習する。(食育の意義を理解する。保育所の食育に関する指針や目標を理解する。)					三田	
14	食育の基本と内容②：食育の計画や評価、環境づくり、保護者支援・地域支援について学習する。(食育の計画と評価の方法を理解する。子どものみならず保護者や地域に向けた食育の必要性について理解する。)					三田	
15	実習⑦食物アレルギーへの対応：食物アレルギーの子どもに対し安全に食事を提供するために必要な食品の選択や提供方法について理解する。(食物アレルギーの子どもに対し、安全に食事を提供するための要点を理解する。)					俵	
<b>成績評価方法及び基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
レポート(講義)	40	指定の書式を用い、期日までに提出する。要点を理解しているかを評価する。	レポート(実習)	50	指定の書式を用い、調理のポイント、盛り付け図、振り返り、感想を記載する。期日までに提出する。		
授業参加状況	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守って積極的に参加している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
(講義)シラバスに準じて教科書に目を通し予習して授業に臨んで下さい。[20分] 課題レポートは復習をしながら取り組んでください。[20分] (実習)実習レポートは、実習で配布されたプリントやその他の資料も参考にしながら、じっくり取り組んで下さい。[60分]			レポートは確認の上返却します。返却されたレポートは保管しておいて下さい。				
受講生に望むこと	①授業を通して子どもの食事と健康だけでなく、自分自身や周りの人の食事と健康について興味関心を高めていって下さい。 ②調理実習はグループの仲間と協力しながら積極的に取り組んで下さい。 ③私語やスマートフォンの使用、実習室使用上のルールを守らないなどの受講態度が、注意喚起によって改められず授業に重大な悪影響を与えていると認められた場合、退出などの措置をとることがあります。		教科書・テキスト	子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本 太田百合子、堤ちはる編著 羊土社 2020年 ISBN 978-4-7581-0911-6			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	別途調理実習費が必要となります。開講までに教材室を通して納めて下さい。 代替授業日はGoogle Classroomから課題を配信またはGoogle Meetによるオンライン授業を行います。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN320U 家庭支援論		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感をいかに家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である「育てにくさや障害のある子ども」、「乳幼児虐待対応」、「ひとり親家庭」、「ステップファミリー」、「異文化家族」などへの具体的な支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。</p>			<p>①家庭の意義とその機能について理解している。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 ③子育て家庭の支援体制について理解している。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。 ⑤保育ソーシャルワークの基礎を理解している。</p>				
教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション						
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子ども家庭支援の意義と必要性：子ども家庭支援の意義、少子化社会対策と子育て支援、子育て支援の意義を高めるポイント ほか						
2	子ども家庭支援の目的と機能：児童福祉法改正と子ども家庭支援の制度化、子ども家庭支援の機能、保育士等がめざす「子ども家庭支援」とは ほか						
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進：子育て支援・次世代育成支援の背景、子ども・子育て関連3法の成立過程、地方版子ども・子育て会議 ほか						
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源：社会資源とは何か、事例を通じた社会資源との連携の理解、社会資源活用の現状・課題・展望 ほか						
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義：保育所保育指針が謳う「子育て支援」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における子育ての支援 ほか						
6	子どもの育ちの喜びの共有：学生のレポートから考える、子どもの育ちの喜びを共有するためのツール、ある園長の想い ほか						
7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援：地域の子育て家庭を取り巻く環境、保育所を利用している保護者に対する支援、近年の子ども家庭支援の動向 ほか						
8	保育士に求められる基本的態度：保育士と保護者との信頼関係とは、受容的かわり、保護者と保育士との間に生まれる力動的な相互作用 ほか						
9	家庭の状況に応じた支援：家庭の状況に応じた支援とは、家庭の状況に応じた支援を行ううえで保育者に求められる姿勢、継続的な支援が必要な場合 ほか						
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力：子ども家庭支援と地域の資源の活用、社会資源の活用と実際、地域に必要とされる保育者のあり方と専門性の向上 ほか						
11	子ども家庭支援の内容と対象：さまざまな子ども家庭支援の対象（子ども・保護者・地域）、子ども家庭支援の形態、相談援助技術を活用した子ども家庭支援 ほか						
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援：保育所等が行う子ども家庭支援への期待、家庭がかかえる生活課題と保育所等の役割、事例を通じた子ども家庭支援の理解 ほか						
13	地域の子育て家庭への支援：地域の子育て家庭への支援者の姿勢、事例を通じた理解 ほか						
14	要保護児童およびその家庭に対する支援：要保護児童の全体像、要保護児童とその家庭に対する支援の枠組み、親子関係再構築支援 ほか						
15	子育て支援に関する課題と展望：子育て支援ニーズの多様化、連携機関の多様化、子育て支援プログラムの導入による支援 ほか						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
最終レポート	50	課題内容を正しく理解し、自らの考え方を理論的に表現できている。家族支援における基本的事項が記載され、今後のあり方などについて言及されている。		リアクションペーパー	50	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①保育所・認定こども園における保護者支援を中心に学ぶ科目である。実習園及び地域の保育所・認定こども園で行われている、具体的な子育て支援サービスについて事前に調べる。【50分】 ②子ども・子育て支援法に規定されている「地域子ども・子育て支援事業」を調べ、その内容を講義内容と照合する。【30分】			最終レポートの講評、評価視点などについてフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	自らが保育や教育現場において、家族支援を行うことを想定し、講義を受けていただきたい。		教科書・テキスト	『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉⑩ 家庭支援論』 倉石哲也・伊藤嘉余子監修 ミネルヴァ書房 2017年 ISBN：978-4-623-07959-9			
指定図書／参考書等	なし／『子ども家庭支援論 新・基本保育シリーズ⑤』 公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 2019年 ISBN：978-4-8058-5785-4		その他・特記事項	実習その他、フィールドワークにおいて、家庭支援と思われる内容についてまとめることが求められる。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN275U 乳児保育 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児保育の意義や目的、役割を理解し、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。低年齢児の発育、発達を踏まえた援助や関わりについて学ぶ。			①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解している。 ②保育所・乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解している。 ③3歳未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について考えることができる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解している。				
教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）						
履修条件	保育士資格取得希望者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	・オリエンテーション ・赤ちゃんの不思議：赤ちゃんの親になるということ ・乳児保育の意義・目的・役割：乳児保育の基本的な考え方について理解する。						
2	乳児保育の現状と課題：子育て家庭に対する支援、支援をめぐる社会的状況の課題点について学び、多様な保育、支援の場を知る。						
3	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり(1) ゼロ歳児とは(生後6ヶ月未満児)：身体・運動的発達の特徴・生活リズム(睡眠・食事・排泄)・遊びをとらえる。「三つの視点」から述べられる「ねらい」より、この時期に育てたいことを考える。「特定の他者」の重要性を考える。						
4	保育所等で行う乳児保育における養護と教育について学び、個々の子どもに応じた援助や受容・応答的な関わりについて学ぶ。						
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり(2) ゼロ歳児(生後6ヶ月以上)から1歳3ヶ月未満児：発達と保育内容を考える。言葉の発達に注目して、やりとりの中で育つ言葉・この時期の大人の役割とは。						
6	3歳未満児の保育に関わる配慮事項(1) 「健康」面について乳児保育の視点から配慮と援助について理解する。 「安全」面について乳児保育の視点から配慮と援助について理解する。						
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容(1) 1歳児とは(1歳3ヶ月から2歳未満児)：生活リズム(睡眠・食事・排泄・着脱)をとらえる。自我の育ち「イヤ」「ジブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して。						
8	3歳未満児保育に関わる配慮事項(2) 乳児保育における「子ども主体」のとらえ方。3歳以上児の保育に移行する時期の保育について保育環境、保育者の関わりについて考える。						
9	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容(2) 2歳児とは：生活リズム(食事・生活習慣の確立に向けて)をとらえる。意欲の発達に注目して。言葉の発達「考えることの始まり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲良し」について理解する。						
10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容(3) 戸外遊び、自然遊びの事例から発達を捉え、環境について考える。 安全、衛生面の考慮と見守りについて。						
11	乳児保育における計画・記録・評価の例を学び、意義を理解する。						
12	遊びを通して発達する力：身体発達に合わせた視点・社会的発達に関する視点・精神的発達に関する視点から、発達と遊びによる学びのつながりについて考える。						
13	乳児保育における保育士等の関わりについて：子どもの行為の意味を理解する。適切な関わりを考える。担当制、職員間の連携について調べ、理解する。						
14	3歳未満児向けの発達を踏まえた教材・玩具の研究						
15	まとめ 乳幼児を持つ保護者との連携 保護者支援・子育て支援 地域の関連機関との連携、協働について						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	30	授業に対して積極的に参加し、グループワークに協働的に取り組む姿勢。	課題(ミニレポート)	20	課題提出状況と内容		
継続課題	20	乳児保育について適切な資料を活用して調べ、丁寧にまとめられていること。(課題詳細は授業内にて説明する。)	最終課題	30	乳児保育についての理解を問う課題(授業内で学んだことや自分で学習したことを含め総合的に理解し、まとめられていること。)		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
・自分の出生に関する資料(母子手帳・保育所等の成長記録等)を見たり、乳幼児期について尋ねたりして自身の成長過程を知る。[60分] ・自分の保育所や幼稚園時代の連絡帳、記録を準備する。 ・乳児を対象とした歌遊び・ふれあい遊びについて考え、学んでおく。[120分]			前回授業についての質問や課題について振り返り、補足、助言を行う。				
受講生に望むこと	・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。 ・授業で学ぶ乳児の姿に心を動かし、イメージしながら受講してほしい。		教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館(2018年) ISBN978-4-577-81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN978-4-577-81449-9			
指定図書/参考書等	なし/なし(必要な資料は随時印刷して配布、または紹介する)		その他・特記事項	・保育士資格取得に関わる内容である。「子どもの保健」「保育者論」等の授業と関連づけながら学びを深めていきたい。 ・代替授業の課題をClassroomに投稿し、提出を求められることがある。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割を実際に保育現場で起こってきた歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。、乳児の発達や生活の捉え方をビデオや保育事例を通して伝えている。							

授業科目名	EN325U 乳児保育Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	高村 真希						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
乳児（3歳未満児）は、一人では生きられず、身近な大人に支え見守ってもらったことを通して、生活習慣を獲得していく。そのため、保育者は3歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの方針的な考え方と具体的な支援の仕方を理解する必要がある。ここでは、乳児保育Ⅰの知識を基に、乳児（3歳未満児）の「基本的な生活習慣の獲得と支援」や「子どもの生活や遊びを支える環境」を学ぶ。また、個々（集団）に適した援助を行うための指導計画の作成と評価について学ぶ。			1.3歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの方針的な考え方について理解する。 2.3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3.乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4.乳児保育における計画の作成（個別・集団等）や評価について、具体的に理解する。				
教授方法	講義・演習						
履修条件	乳児保育Ⅰを履修済みであること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業ガイダンス 保育における「乳児保育」の重要性（意義・目的）について理解する。（乳児保育Ⅰの復習）						
2	子どもの主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。： ①積極的・意欲的だけでなく、拒否する権利を受け止めた関わりと環境について考える。						
3	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と自立支援について理解する：生活リズムをつかみ援助すること、排泄の自立支援について理解する。						
4	発達段階や個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて理解する。 1対1の個別的ニーズとくっつき支える保育の意味を考える。						
5	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と自立支援について理解する：食事の自立支援を理解する。						
6	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と自立支援について理解する：抱き方とおむつ交換の方法を習得する。「実習」						
7	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と自立支援について理解する：清潔・衣服・靴の自立支援を理解する。						
8	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と自立支援について理解する：調乳と授乳の方法を習得する。「実習」 （第7回の学びをもとに食事介助の体験）						
9	子どもの心身の健康と安全、情緒の安定を図るための配慮： 子どもの健康・安全に関する事故や事件からその要因と防止策を考える。						
10	3歳未満児の基本的な生活習慣の獲得と自立支援について理解する：沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「実習」						
11	子どもの主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。： ②子ども同士の関わりとその環境について考える。						
12	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ICTを活用してのドキュメンテーションの作成を行う。						
13	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ドキュメンテーションを基に計画を見直しや評価を行う。						
14	環境の変化や移行に対する配慮：人的・物的・空間的環境から考える。						
15	動画（実際の乳児の保育の場面）を視聴し、子どもの体験と学びの援助を考える。（まとめ）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度 （代替への取り組み）	30	①講義・実習への取り組み姿勢 ②代替授業への取り組み姿勢	演習レポート	40	第3.5.6.7.8.10の演習についての支援方法や注意点が理解されているか。丁寧にわかりやすく記載されているか。		
試験	30	基本的な知識を理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①毎回、授業後に復習を行う【30分】 ②ドキュメンテーションの作成を行う【90分】 ③乳児保育に関する資料を読む			・提出されたレポート課題を授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。				
受講生に望むこと	授業内容を考え、服装や容姿を整えて参加する。		教科書・テキスト	『見る・考える・創り出す乳児保育1・2—養成校と保育室をつなぐ理論と実践』 萌文書林 2019年2月 ISBN978-4-8934-7321-9			
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。		その他・特記事項	代替授業等については、Classroomで案内する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
保育現場での経験や保育現場から提供いただいた動画を基に、子どもの生活と遊びを支える環境について、具体的な実践事例を提示で紹介する。							

授業科目名	EN280U 障がい児保育		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	徳田 茂						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>障害の有無に関わりなくすべての人々が共生する、インクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育がとても重要である。この授業では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深められるようにしたい。さらに、障害児の家族への援助、インクルーシブ保育の実践についても理解を深められるようにしたい。</p>			<p>①障害者権利条約や改正障害者基本法、障害者差別解消法などをベースとして、新しい障害概念を理解する。          ②障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのよりよい関わり方について理解する。          ③障害のある子の育ちの援助の実践について理解する。          ④障害のある子の家族の心理とその援助について理解する。          ⑤障害のある子とない子が共に育ち合う、インクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。</p>				
教授方法	講義とテーマごとの学生の発表、グループ討論と発表						
履修条件	保育士資格取得希望者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：調べて発表するテーマの分担をする。障害とは何か (1) 自分と障害児の関わりについて振り返る。						
2	障害とは何か (2)：ICIDHとICH						
3	障害とは何か (3)：さまざまな障害について学ぶ。						
4	その子自身を理解することの大切さ：障害児をひとくくりにせず、一人ひとりの子どもについて理解することの大切さを学び、一人の子をよく理解するための方法を学ぶ。						
5	障害児保育とコミュニケーション (1)：子どもの育ちの援助には、よりよいコミュニケーションが不可欠である。障害児との関わりにおいては非言語的コミュニケーションがとりわけ重要である。そのことを念頭にコミュニケーションについて学ぶ。						
6	障害児保育とコミュニケーション (2)：さまざまな障害のある子のコミュニケーションの特徴を理解する。						
7	障害児保育と遊び (1) 遊びと通しての育ちの援助について学ぶ。						
8	障害児保育と遊び (2)：様々な障害のある子の遊びと育ちについて学ぶ。						
9	見通しをもって実践する：子どもの育ちの援助における見通し・仮説―実践―検証の重要性と、その実際について学ぶ。						
10	生活習慣獲得の援助：障害児が生活習慣を獲得していくために必要な援助の実際について学ぶ。						
11	親の思いを聴き、共に生きる (1)：実際の例にふれながら障害児の親の心理について理解を深める。						
12	親の思いを聴き、共に生きる (2)：障害児の親への援助について学ぶ。						
13	インクルーシブ保育を目指して (1)：インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について学ぶ。						
14	インクルーシブ保育を目指して (2)：インクルーシブ保育の実際にと課題について学ぶ。						
15	よりよい保育者となるために：障害のある子を含め、さまざまな子どもの育ちを援助する保育者として、ぜひ身につけていきたい資質などについて学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準		
期間中の小レポート	20	与えられたテーマについて、的確な調べがなされているかをみる。	試験	80	授業全体の中から提出するテーマについて、その理解の度合いやまとめ方により評価する。		
<b>授業外における学習 (事前・事後学習等)</b>			<b>課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック</b>				
・それぞれ与えられたテーマについて調べる。 [120分]			・各時間ごとに疑問・質問を提出してもらい、次の時間の冒頭にそれぞれの質問に答える。				
受講生に望むこと	近年、障害概念が大きく変わっています。新しい障害概念をよく理解して下さい。そのうえで、障害児を一人の大切な子どもとして受け止めるための基本的な人間観や保育観を身につけ、さらにその育ちの援助の実際について、できる限り深く学んで下さい。障害のある子とない子が共に育ち合うことを目指すインクルーシブ保育についても理解を深めて下さい。さらに、自分を見つめる姿勢を養って下さい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	指定図書：『共に生き、共に育つ』徳田茂 (ミネルヴァ書房) 2019年 ISBN : 978-4-623-08775-4 『知行とともに』徳田茂 (川島書店) 1994年 ISBN : 7610-0542-4 / 参考書：『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴他 (ミネルヴァ書房) 2014年 ISBN : 978-4-623-07057-2		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
障害のある子どもの育ちの援助についてより理解を深められるよう、障害児福祉施設における自身の勤務経験をもとに、事例を取り入れ、講義を行っている。							



授業科目名	EN160U 音楽表現 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	武田 恵美・福田 真紀 (代表教員 武田 恵美)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
子どもたちが発達段階に応じて音や音楽に親しみ関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活やあそびと密接に関わる歌やリズムあそびを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。様々な楽器に触れて演奏する他に鑑賞を通して豊かな感性を養う。			①楽譜を見て歌うことができるようになる。 ②範唱ができるようになる。 ③「表現する」ということについて理解する。 ④乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 ⑤音楽と身体表現について実践を通して理解する。 ⑥課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができるようになる。				
教授方法	リモート及び対面授業による、講義と演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。子どものうたⅠ：生活・あそびの子どもうたを知る。読譜トレーニングⅠ：楽譜の読み方について、基礎的な知識を習得する。					武田	
2	「音楽表現」とは何か理解を深める。音楽コミュニケーションⅠ：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。子どものうたⅡ：季節・行事・自然の子どもうたを知る。読譜トレーニングⅡ：楽譜の読み方について、子どものうたを用いて学ぶ。					武田	
3	「三法令」の流れについて学ぶ。子どものうたⅢ：動物・植物等の子どもうたを知る。読譜トレーニングⅢ：音符と休符について学び、リズムトレーニングを行う。					武田	
4	「幼児教育において育みたい資質・能力」について理解する。読譜トレーニングⅣ：ト音譜表とヘ音譜表の読み方について学ぶ。音楽コミュニケーションⅡ：「一緒に動くこと・歌うこと」について実践を通して考える。					武田	
5	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：生活・あそびの子どもうたを通して、歌唱表現について考える。					福田	
6	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：季節・行事・自然の子どもうたを通して、歌唱表現について考える。					福田	
7	歌うことを中心とした音楽活動Ⅲ：動物・植物等の子どもうたを通して、歌唱表現について考える。課題発表。					福田	
8	「幼稚園教育要領」の変遷から領域（表現）について考える。子どものうたⅣ：かえるの合唱・フレールジャックの歌唱・ピアノ伴奏練習。読譜トレーニングⅤ：子どものうたを用いた実践を通して、楽譜の読み方を習得する。					武田	
9	音楽と身体表現Ⅰ：移動する動き・移動しない動きについて実践を通して考える。子どものうたⅤ：かえるの合唱・フレールジャックの弾き歌い。楽器を用いた表現活動Ⅰ：パンブードラムとリズム楽器を用いた合奏の実践を通して、子どもの音楽的表現活動（ひく活動）について学ぶ。					武田	
10	領域「表現」の「ねらい」、「内容」「内容の取扱い」（音楽に関する項目）について考える。子どものうたⅥ：かえるの合唱・フレールジャックの弾き歌い。楽器を用いた表現活動Ⅱ：パンブードラム・リズム楽器・ピアノの特徴と奏法についてまとめる。					武田	
11	音楽と身体表現Ⅱ：動きの音楽的表現方法について考える。子どものうたⅦ：かえるの合唱の弾き歌い発表。楽器を用いた表現活動Ⅲ：パンブードラムとリズム楽器を用いた合奏の発表。					武田	
12	子どもの音楽的表現活動（うたう・きく・うごく・つくる活動）について学ぶ。子どものうたⅧ：かえるの歌の弾き歌い発表の振り返り。フレールジャックの弾き歌い。楽器を用いた表現活動Ⅳ：パンブードラムとリズム楽器を用いた合奏の振り返り。					武田	
13	音楽と身体表現Ⅲ：音楽から生まれる身体の動きについて考える。実践における即興的な効果音について学ぶ。楽器を用いた表現活動Ⅴ：リズム楽器を用いた合奏の練習。子どものうたⅨ：フレールジャック弾き歌いの発表。					武田	
14	音楽と身体表現Ⅳ：実践における即興的な伴奏法について学ぶ。楽器を用いた表現活動Ⅵ：リズム楽器を用いた合奏のパート練習。子どものうたⅨ：フレールジャックの弾き歌い発表の振り返り。					武田	
15	音と動きのあるあそびについて知る。楽器を用いた表現活動Ⅵ：リズム楽器を用いた合奏の発表。音楽と身体表現Ⅴ：子どもの動きに合わせた即興伴奏の実践。					武田	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）		小テスト	40	各回の講義・演習内容について理解しているか。小テストの内容、形態等の詳細は授業内に提示する。	
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[60分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]			①毎授業で課すコミュニケーションシートは、コメント等を付記し返却します。 ②授業内で行う小テストは、採点し次週返却します。				
受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。 ③授業の妨げになるような行為は慎んで下さい。			教科書・テキスト	『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-067-2/ 『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1/タイトル未定、6月出版予定（授業内で指示）/プリント		
指定図書参考書等	なし/『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN165U 音楽表現Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	武田 恵美・福田 真紀（代表教員 武田 恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「音楽表現Ⅰ」で学んだ内容をより深めるために、日本の幼児音楽教育の歴史と変遷について理解し、歌唱や楽器を用いた様々な表現技能を身に付ける。特に、体験したことを表現したいという子どもたちの思いを取り上げ、保育活動において音楽表現を発表やあそびに生かせるよう、音を通じた様々な表現方法を学ぶ。</p>			<p>①楽譜を見て歌うことができるようになる。          ②範唱ができるようになる。          ③歌うことや楽器演奏のための様々な表現技術を習得する。          ④歌唱表現活動や楽器を用いた表現活動の方法を理解する。          ⑤課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができるようになる。</p>				
教授方法	リモート及び対面授業による、講義と演習						
履修条件	「音楽表現Ⅰ」の単位を修得済の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について理解する。「音楽表現Ⅰ」の振り返り。					武田	
2	日本の幼児音楽教育の歴史と変遷について理解する。子どもの発達と音楽表現Ⅰ：様々なあそびと子どもの育ちについて理解する。					武田	
3	子どもにとっての「あそび」、あそびのおもしろさについて考える。リズムⅠ：リズムあそびの実践。楽器を用いた表現活動Ⅰ：無音程打楽器の奏法について学ぶ。					武田	
4	生活や遊びの中での歌唱表現、わらべうたあそびについて考える。リズムⅡ：ピアノを用いたリズム①「歩く」「走る」の演奏方法を学ぶ。あそびうたⅠ：わらべうたの実践。					武田	
5	手あそび・指あそびの必要性について考える。リズムⅢ：手拍子・足拍子によるリズム活動の実践。あそびうたⅡ：手あそび・指あそびの実践。わらべうたの発表。楽器を用いた表現活動Ⅱ：有音程打楽器の奏法について学ぶ。					武田	
6	保育者に必要とされる歌唱表現力について考える。子どものうたの「ねらい」に即した分類について考える。リズムⅣ：ピアノを用いたリズム②「ジャンプ」「スキップ・ギャロップ」の演奏方法を学ぶ。あそびうたⅢ：手あそび・うたあそびの実践。					武田	
7	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：生活・あそびの子どもうたを通して、歌唱表現についての理解を深める。					福田	
8	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：季節・行事・自然の子どもうたを通して、歌唱表現についての理解を深める。					福田	
9	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：動物・植物等の子どもうたを通して、歌唱表現についての理解を深める。					福田	
10	子どもうたの「ねらい」について考える。保育の場におけるピアノの役割について考える。リズムⅤ：ピアノを用いたリズム③「スウィング」「静かな曲」の演奏方法を学ぶ。あそびうたⅣ：全身を使って表現するあそびうたの実践①					武田	
11	歌唱表現活動の進め方、教材選択における留意点について考える。リズムⅥ：ボディーパーカッションの実践。あそびうたⅤ：全身を使って表現するあそびうたの実践②。楽器を用いた表現活動Ⅲ：子どもの楽器を使った合奏。					武田	
12	アンサンブルの指導について考える。リズムⅦ：ピアノを用いたリズム④「舞曲」「動物」の演奏方法を学ぶ。あそびうたⅥ：絵かきうたの実践。					武田	
13	歌唱表現活動の実践Ⅰ：発表と振り返り。					武田	
14	アンサンブルの指導、指揮法について考える。リズムⅧ：ピアノを用いたリズム⑤「表現」の演奏方法を学ぶ。あそびうたⅦ：様々なあそびうたの実践。					武田	
15	歌唱表現活動の実践Ⅱ：発表と振り返り。まとめ					武田	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）		小テスト	40	各回の講義・演習内容について理解しているか。小テストの内容、形態等の詳細は授業内に提示する。	
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[60分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				①毎授業で課すコミュニケーションシートは、コメント等を付記し返却します。 ②授業内で行う小テストは、採点し次週返却します。			
受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。 ③授業の妨げになるような行為は慎んで下さい。			教科書・テキスト	『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-067-2／『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1／タイトル未定、6月出版予定（授業内で指示）／プリント		
指定図書／参考書等	なし／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN290U 身体表現		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>子どもの発達と運動機能や身体表現に関する内容を理解したうえで、運動遊びや身体表現活動の実践に必要な基礎的技能を身につける。また、体を動かす経験を通して健康・安全について理解し、子ども達と共に楽しく明るい健康な生活を営むための内容と方法について学ぶ。</p>			<p>①自ら積極的に身体を動かすことができるようになる。 ②子どものための身体運動または身体表現を理解する。 ③からだの動きや表現を創り出すことができるようになる。</p>			
教授方法	リモート及び対面授業による演習					
履修条件	保育士資格取得希望者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明。「身体表現」について考える。					
2	体操：ラジオ体操第1を通して、動きとリズムについて学ぶとともに、身体の様々な部位を大きく動かせるようにする。					
3	身体表現1：様々な人の様子を表現することを通して、身体表現の可能性を理解する 子どものための体操1：子どものための体操について理解する。					
4	身体表現2：自然物を表現することを通して、身体表現の可能性を理解する 子どものための体操2：絵本に描かれた体操を通して、言葉と体操の関係を理解する					
5	身体表現3：静物を表現することを通して、身体表現の可能性を理解する 子どものための体操3：子どものための体操を通して、音楽と体操の関係を理解する					
6	子どものための体操4：子どものための体操絵本を創作する					
7	子どものための体操5：子どものための体操絵本の発表と鑑賞を通して、自由なイメージから動きを創ることについて考える					
8	子どものための体操6：子どものための体操を創作する					
9	子どものための体操7：子どものために創った体操の発表と鑑賞を通して、子どものための体操について考える。					
10	指導法：1～9回の授業で経験した内容を通して、指導者に必要な身体の動きについて考えるとともに、指導法と留意点について考える					
11	ボールを用いた運動遊び：ボールを用いた運動遊びを経験し、ボール遊びの特性を理解する。					
12	縄跳びを用いた運動遊び：縄跳びを用いた運動遊びを経験し、縄跳び遊びの特性を理解する。					
13	身近な材料を用いた運動遊び：新聞紙等身近な材料を用いた遊びを経験し、素材の特性を生かした運動づくりを理解する。					
14	マット、跳び箱、平均台を用いた運動遊び：マット、跳び箱、平均台を用いた運動遊びを経験し、マット、跳び箱と平均台遊びの特性を理解する。					
15	運動遊びにおける安全管理：様々な運動を、安全に楽しむための留意点と安全管理について理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	授業への取り組み姿勢、課題の提出		実技試験	30	①課題を理解しているか ②課題に対して一生懸命取り組んでいるか ③課題に対する個人の技能・完成度
レポート	20	授業内容と経験を踏まえるとともに、子どもの姿を想像しながら自分の考えを述べているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>子どもの運動に関する情報に興味を持つ ①ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する [60分] ②子ども達の明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か考えてみる [60分]</p>				レポートは理解度の把握に利用し、授業の中で振り返りと確認を行う。		
受講生に望むこと	子ども達が明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分はいかにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講していただきたい。			教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する	
指定図書／参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。 リモート授業に対応できるように各自準備しておくこと。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EN285U 児童文化		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。			①わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。 ②子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。 ③わらべ唄の音楽的特徴を理解している。 ④昔話の特徴を理解している。 ⑤子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。 ⑥ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。 ⑦ストーリーテリングを実際に経験している。 (他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。)				
教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。(体験が難しい場合は、DVDを視聴する) 伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。						
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。						
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたってやることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。						
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。						
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。						
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力(リズム感・聴感)を意識した課題を考える。						
7	わらべ唄を課題に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課題案を立てることが大切だと認識する。						
8	昔話とは何か(昔話の分類)：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。						
9	昔話とは何か(昔話の語り口 1)：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴(一次元性、孤立性、平面性)について例をあげて解説する。						
10	昔話とは何か(昔話の語り口 2)：引き続き、昔話の語りの特徴(固定性、極端性、抽象的様式)について例をあげて解説する。						
11	昔話とは何か(昔話の残酷性)：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。						
12	昔話とは何か(昔話に込められたメッセージ)：昔話には民衆の間観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話に込められる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。						
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。フェルトを使った動物の人形を製作する。						
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。						
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を体験したり消化したりできることを知る。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。		授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内での質問に対する発言も考慮する。	
レポート	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってもらいます。[1ヶ月以上、各自覚えらるるまで]各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してもらいます。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業にのぞんで下さい。[90分以上]				①発表の際にコメントします。 ②評価やコメント等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応します。			
受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれます。動きやすい服装で参加してください。			教科書・テキスト	『CD付き すぐ覚えらるる わらべ唄のあそび』 木村はるみ著 成美堂出版 2012年 ISBN: 978-4-415-30564-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	EN295U 絵本論		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	山下 のぞみ					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。			①絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 ②絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 ③月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 ④子どもの興味と絵本の関わりを知る。 ⑤現在の絵本の多様性を知る。			
教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。					
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。					
3	赤ちゃん絵本からストーリー性のある絵本へ：言葉体験と物語展開について考える。					
4	ストーリー性のある絵本：子どもの心の解放、物語の結末などの視点から、読み継がれてきた絵本を考察する。					
5	昔話絵本：エウゲーニー・M・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウン、赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。					
6	科学絵本：「かがくのとも」シリーズを検討する。					
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。					
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。					
9	写真絵本：『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエベはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。					
10	絵本論から学ぶ① モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。					
11	絵本論から学ぶ② 松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のカラス」を例に考察する。グループで昔ばなし絵本について発表する。					
12	絵本の絵を読むとは：林明子の作品を取り上げ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。					
13	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する					
14	読み手として絵本から学ぶこと：子どもに絵本を読むことで、絵本が教えてくれることについて考える。					
15	読者の広がり絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。そのような絵本を取り上げ、考察する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちに読んであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出してもらいます。		グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を4～5冊選び、傳承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表してもらいます。グループごとにレポートも提出してもらいます。
授業参加態度	20	授業の中で読み聞かせをしてもらいます。授業への取り組み、他の学生の読み聞かせを聞く姿勢や評価してもらった感想も提出してもらいます。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成してもらいます。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] ②授業中に取り上げた絵本のリストを作成してもらいます。[授業終了までに絵本論などを読んで作成する]				①発表の際にコメントします。 ②絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却します。		
受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読んでみるようにして下さい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	代替授業日はClassroomもしくは、Meetを使用します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ED100U 心理学概論A		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。</p>			<p>1. 心理学の成り立ちについて学び、歴史の中で心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。</p>				
教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。						
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。						
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。						
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。						
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。						
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。						
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。						
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。						
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。						
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。						
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。						
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。						
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。						
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。						
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
レポート試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
<p>毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。〔30分程度〕</p>			<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>				
受講生に望むこと	<p>初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから、授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるため、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。</p>		教科書・テキスト	<p>『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣、2015年、ISBN-13：978-4641150225/同時に、教員が作成した資料も配布する。</p>			
指定図書／参考書等	<p>なし／『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣、2018年、ISBN-13：978-4641053861</p>		その他・特記事項	<p>授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。また、代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。</p>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED105U 心理学概論B		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。「心理学」というと、カウンセリングや心理療法を思い浮かべる学生が多いと思われる。しかし、実際にはその他にもさまざまな分野がある。本講義では、学習、感情、動機づけ、感覚、認知、生理といった分野を中心にとりあげる予定である。本講義を通じて人の心の仕組みや働きについて興味を持ち、理解を深める。</p>			<p>①心理学という学問のなりたちや性質を理解している。 ②感覚・知覚、学習、認知といった基本的な心の仕組みやはたらきを理解している。 ③講義で学んだことを自分自身の経験や日常生活の問題に当てはめて考えることができる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：心理学とはどのような学問かを知る					
2	学習心理学1：条件づけの基礎と応用について学ぶ					
3	学習心理学2：観察学習、社会的学習について学ぶ					
4	学習心理学3：学習理論の現場での応用を学ぶ					
5	動機づけ：動機づけ理論の基礎を学ぶ					
6	感情：感情の種類、感情の理論の基礎を学ぶ					
7	知覚心理学1：知覚・感覚の特徴と働きを学ぶ					
8	知覚心理学2：視覚の特徴と働きを学ぶ					
9	知覚心理学3：聴覚の特徴と働きを学ぶ					
10	認知心理学1：記憶の理論の基礎を学ぶ					
11	認知心理学2：問題解決と意思決定の基礎を学ぶ					
12	認知心理学3：判断や言語の仕組みと働きを学ぶ					
13	生理心理学1：記憶と脳の関わりについて学ぶ					
14	生理心理学2：言語と脳の関わりについて学ぶ					
15	総括：これまでのまとめとふりかえり					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。	講義への参加度	30	講義中の態度および振り返りの内容により評価を行う。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
<p>①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>			提出された課題に対しては、代表的な意見を取り上げて講評する。			
受講生に望むこと	みなさんの抱く「心理学」のイメージとは異なるトピックも多く出てくるかもしれません。この講義をきっかけに、心理学の各領域をさらに深く学んだり、みなさんの身の回りの出来事、普段の対人関係、そして自分自身のことについてより深く考えたりできるようになればと思います。		教科書・テキスト	金城辰夫（監修）藤岡新治・山上精次（共編）2016 図説 現代心理学入門[四訂版] 培風館 ISBN:978-4563052447		
指定図書／参考書等	なし／講義中に適宜紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて資料、課題を提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ED110U 臨床心理学概論		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。			1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。				
教授方法	講義、演習						
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または教員を目指す者に限る。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
3	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
4	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
5	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
7	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
8	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
9	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
10	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
11	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
12	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。						
13	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
14	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
15	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。			
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	・対面授業が完全に実施不可になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の割合で評価する。・部分的に代替課題を実施する場合、講義参加態度30%とリアクションペーパー30%が代替課題として評価される。・代替授業はgoogle classroomを通じて課題提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	ED221U 心理学統計法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理統計を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は人の行動、心のはたらきだけではなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は学問領域だけでなくビジネスなどの現場においても統計学の知識、分析手法の技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。			①統計に関する基礎的な知識、心理学で用いられる統計手法を理解して適切に使用できる。 ②統計に関する基礎的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 ③データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションとデータの集計：度数分布表の作成、図による表現について解説する						
2	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する						
3	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する						
4	相関と相関係数：2つの変数が関連している度合いを表現する						
5	クロス集計表と連関係数：クロス集計表のつくりかた、2つの変数が関連している度合いを示すもう一つの指標を学ぶ						
6	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ						
7	さまざまな分布1：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ						
8	さまざまな分布2：標本分布について学ぶ						
9	中間テスト						
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ						
11	統計的検定1：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ						
12	統計的検定2：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ						
13	統計的検定3：1つの平均値の検定を例に統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ						
14	カイ二乗検定1：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける						
15	小テスト						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	60	講義の内容の理解度により評価を行う。		中間テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。	
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]				授業中に行う演習課題は終了後に答え合わせとコメントをおこなう。			
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。			教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9		
指定図書／参考書等	なし／関連する参考書は授業内で随時紹介する。			その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED231U 心理学実験Ⅰ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・加藤 仁 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員
2	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法の解説。					松下
3	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					加藤
4	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
6	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
7	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					加藤
8	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
9	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
10	「SD法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
11	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					加藤
12	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
13	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					加藤
14	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
15	実験を含む、心理学の研究法について振り返る					松下
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[90分] ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[90分] ③添削されたレポートによって復習する。[30分]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b> 提出された実験レポートを添削した上で返却する。		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。他の講義や自習により統計学について十分修得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-77-950237-8	
指定図書／参考書等	なし/『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-78-851012-8 その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。			その他・特記事項	代替授業はGoogle classroomを通じて課題などを提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ED251U 心理学実験Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子・齊藤 英俊・加藤 仁 (代表教員 勝谷 紀子)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。</p>			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい(単位未修得可)。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。					全教員
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					加藤
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。					勝谷
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					齊藤
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで、実験操作の考え方について理解する。					加藤
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。					勝谷
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齊藤
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					加藤
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>			<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>			
<p>①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。 [45分] ②各実験種目のレポートを作成する。 [120分] ③各種目で適用された分析方法を復習する。 [30分] ④返却されたレポートを見直し、修正する。 [30分]</p>			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。			
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。		教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8		
指定図書/参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。		その他・特記事項	代替授業の方法についてはオリエンテーションで説明するので必ず出席して下さい。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ED226U 心理学研究法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理学は「心」という目で見たり手にとったりすることができないものが研究の対象である。心に対して研究という視点からアプローチをするためには、科学的な方法をいかに適切に行うかという点が重要である。心理学の研究を行うためには、科学的な方法を行うためのさまざまな知識を身につけることが欠かせない。本講義では、心理学の代表的な研究方法のうち実験法と観察法を習得することを目指す。			① 心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的研究及び質的研究の基本的な知識を身につけることができる。 ② データを用いた実証的な思考方法を身につけ、適切に考えることができる。 ③ 研究における倫理についての知識を身につけることができる。				
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える						
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ						
3	実験と観察：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する						
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ						
5	実験法（２）：原因をどう作り出すか、独立変数の操作について学ぶ						
6	実験法（３）：結果をどう取り出すか、従属変数の測定について学ぶ						
7	実験法（４）：原因を見誤らないように剰余変数をどう統制するかを学ぶ						
8	中間テスト						
9	実験法（５）：質問紙を使った実験、フィールド実験など様々な実験法について学ぶ						
10	観察法（１）：観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ						
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ						
12	心理学に特有の問題：研究を実施するにあたり配慮すべき問題（観察反応、倫理的問題）について学ぶ						
13	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ						
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る						
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末レポート	40	レポートの内容は自分で立てた研究計画である。その内容が講義で学んだ内容をどれだけ活かしているかを評価基準とする	小テスト	40	講義前半で学んだ内容の理解度		
講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義で学んだ内容をテキスト、資料、ノート等を使用して復習する。 [45分] ②次回に万部内容をテキストなどを使用して予習を行う。 [30分] ③心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、実際にはどのように研究が行われているかを学ぶ。 [30分]			講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	自分が興味のある事柄について研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要があります。研究のためには何をやる必要があるか、何をしないといけないかを考えながら講義に臨むこと。		教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』 高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7			
指定図書／参考書等	なし／参考書は授業中に適宜紹介する。		その他・特記事項	心理統計学および心理学実験実習Ⅰを履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。 代替授業日はclassroomを用いて資料、課題を提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED246U 心理的アセスメント		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。				
教授方法	講義、演習						
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理研究法に習熟した者に限る						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理						
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	心理アセスメントと統計解析						
4	心理測定の信頼性と妥当性						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
6	心理アセスメントと倫理						
7	質問紙検査、性格検査、TEGの理論と実施						
8	質問紙検査、性格検査、TEGの解釈と所見作成						
9	投影法、バウムテストの理論と実施						
10	投影法、バウムテストの解釈と所見作成						
11	知能検査、WAISⅢ、動作性検査1回目						
12	知能検査、WAISⅢ、言語性検査1回目						
13	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAISⅢ、言語性検査2回目						
15	知能検査、WAIS-Ⅲ（結果の解釈と所見作成）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと	課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること		
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]			期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。				
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。		教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-13:9784779503870			
指定図書／参考書等	なし／『心理テスト—理論と実践の架け橋—』 ホーガン、T. P.（著）繁樹算男・権名久美子・石垣琢磨（共訳）培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041		その他・特記事項	・心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。・対面授業が完全に実施不可になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の割合で評価する。・代替授業はGoogle classroomを通じて課題提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の4領域における実践経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う							

授業科目名	ED256U 人格心理学 (感情・人格心理学A)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格 (=性格、パーソナリティ) があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な視点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格の形成過程について説明できる。 ④人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。				
教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。						
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。						
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。						
5	特性論① その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。						
6	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。						
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。						
8	相互作用論：人・状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。						
9	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。						
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。						
11	人格の発達①：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。						
12	人格の発達②：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。						
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。						
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。						
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
各回の授業レポート	40	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		20	課題レポート	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価基準とする。	
最終レポート	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察がされている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。[30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。[40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみることに。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみることに。				①授業レポートについては、対面授業時に振り返りの時間をもちます。 ②課題レポートや最終レポートについては、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書／参考書等	なし/『改訂版』人格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために』詫摩徳俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 ISBN: 978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED306U 社会・集団・家族心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる。社会心理学は、人間の社会的行動を状況との関わりの中で理解しようとする学問である。本科目では、社会心理学の中でも対人関係、家族を含めた集団、文化に関連するトピックを中心に上げる。それぞれのトピックの学習を通じて、人間がいかに社会的な存在であるのかを理解することをめざしていく。</p>			<p>① 対人関係、集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解できる。  ② 人の態度及び行動との関わりを理解できる。  ③ 家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。  ④ 日常生活での社会問題に対して、社会心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か：社会心理学の考え方、研究アプローチとは何かを学ぶ						
2	自己：自分についてどのように評価するか、自分の気持ち・欲求をどうコントロールするかを学ぶ						
3	対人行動：なぜ人を助けるのか、なぜ人を傷つけるのか、援助行動や攻撃行動のしくみを学ぶ						
4	対人関係：親密な関係はどのようにつくられるのかを学ぶ						
5	対人認知：対人認知のプロセスやその影響について学ぶ						
6	偏見とステレオタイプ：集団に対してどうとらえるのか、偏見や差別をもつ心を学ぶ						
7	感情とコミュニケーション：感情がどのように生まれてコミュニケーションに影響するのかを学ぶ						
8	態度変容と説得：人はどのように説得をされて態度を変えるのかを学ぶ						
9	中間テスト						
10	個人と集団：集団から個人が受ける影響や集団での意思決定についてを学ぶ						
11	マインド・コントロール：マインド・コントロールと洗脳、マインド・コントロールによる影響について学ぶ						
12	健康と幸福：ストレス、ストレスマネジメント、幸福感、健康とパーソナリティの関係について学ぶ						
13	文化と心：文化と心はどのように関係しあっているのかを学ぶ						
14	インターネット：インターネットを利用することによる影響、インターネットのよりよい活用方法を学ぶ						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	30	講義内容の理解度		講義への参加度	10	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度	
発表	30	発表内容の完成度		中間テスト	30	講義内容の理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。[45分]  ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>			講義内におこなう課題については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	本科目の対象となるのは比較的なじみやすいトピックである。講義内容を深く理解するには、自分自身の経験や日常生活での様々な問題に主体的に適用していく姿勢が求められる。		教科書・テキスト	『人間関係の社会心理学』松田幸弘（編著）晃洋書房 2018年 ISBN 9784771030619			
指定図書／参考書等	なし／『よくわかる社会心理学』山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて資料、課題を提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED311U 産業・組織心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学の中の応用的な領域である産業心理学、組織心理学に関するトピックをとりあげる。インターンシップ、就職活動、キャリア形成、職場の対人関係、転職、ストレスマネジメントなど産業心理学や組織心理学に関連するさまざまな問題に対して理解を深める。</p>			<p>①産業心理学、組織心理学に関する基礎知識を身につけることができる。 ②職場における問題、キャリア形成に関する問題を心理学の立場から理解できる。 ③組織における人の行動を心理学的に理解できる。</p>				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション・組織、集団とは：組織、集団、集合など基本的な概念について学ぶ						
2	リーダーシップ：良いリーダーとはどんなリーダーだろうか？リーダーシップ理論、リーダーとフォロアーの関係について学ぶ						
3	集団心理：集団になると一人の時とはどのように行動が異なるのだろうか？						
4	モチベーションとリーダーシップ：組織の中ではどのようにやる気が作られるだろうか？						
5	モチベーションの形成：職場におけるモチベーションをいかにつくるかを学ぶ						
6	説得の心理：説得をうまくおこなうにはどうすればよいだろうか？						
7	消費者の心理：消費者はどのようにして行動を決めたり、変えたりするのだろうか？						
8	小テスト1と前半の内容の振り返り						
9	印象形成：人の印象はどのようにつくられるか						
10	援助行動と攻撃行動：人をたすける心、傷つける心について考える						
11	キャリア形成：自分の適性を考える、キャリア形成、キャリア教育などを学ぶ						
12	ストレスと心の不調：ストレスが発生するまでのしくみとさまざまな心の疾患について知る						
13	ストレスとストレスマネジメント：職場、職業に関するストレスとストレス対処の仕方を学ぶ						
14	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表を行い、相互評価する						
15	小テスト2と後半の内容の振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	40	講義内容の理解度		発表	40	発表内容の完成度	
講義へ参加度	20	講義内での取り組みや課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>			授業内の課題については、次回の冒頭にフィードバックと解説を行う。				
受講生に望むこと	本科目の内容は職場での心理、組織における人間の行動、キャリア形成など実的な内容となっている。職場で起こる一般的な問題だけではなく、学生自身のキャリアについても考える機会としてほしい。		教科書・テキスト	『入門！産業社会心理学』 杉山 崇（編著）北樹出版 2015年 ISBN: 978-4779304552			
指定図書／参考書等	なし／『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7		その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	ED316U 知覚・認知心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義は、心理学の中でも知覚心理学および認知心理学という分野に焦点を当てて、基本的な内容について学ぶことをねらいとしている。知覚心理学および認知心理学は、わたしたちが自分や環境に関する情報をどのように知覚し処理しているのかを探る心理学の一分野である。心理学概論Aや心理学概論Bにくらべると発展的な内容も含めて授業を進める予定である。知覚心理学および認知心理学が日常生活でのさまざまな問題と関わりを持っていることを学ぶ。			①知覚心理学、認知心理学がどのような学問領域であるのかを理解している。 ②感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解している。 ③記憶、思考、問題解決、意思決定といった認知心理学における重要な概念やその障害について理解している。 ④日常生活で直面する問題に対して、知覚心理学や認知心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	知覚・認知心理学とは：知覚心理学および認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指した学問分野であるかを学ぶ						
2	知覚のはたらき：感覚と知覚の特徴とはたらきについて基本的な事項を学ぶ						
3	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ						
4	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完、周波数分析などについて学ぶ						
5	知覚における障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ						
6	記憶：人の記憶の特徴と種類について、短期記憶と長期記憶の働きなどを学ぶ						
7	日常認知：目撃証言や偽りの記憶など日常生活における認知の問題を学ぶ						
8	小テスト1						
9	概念：概念とは何か、概念が形成されるまでのプロセスを学ぶ						
10	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ						
11	言語：会話のなりたちや、会話の理解、文章の読み書きに関わるプロセスなどを学ぶ						
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ						
13	潜在認知：気がつかないうちに行動や認知が変わるなど潜在認知のはたらきを学ぶ						
14	小テスト2						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
小テスト	40	講義内容の理解度	講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度		
発表	40	発表内容の完成度					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。【45分】 ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。【30分】			講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	知覚心理学および認知心理学は私たちの心の仕組みのコアな部分を対象とする研究領域である。普段の生活ではあまり意識しない部分のトピックが多いといえる。認知心理学で扱っているトピックが普段の生活での体験とどのように繋がりを持っているのかを考えながら授業に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	『基礎から学ぶ認知心理学—人間の認識の不思議』服部 雅史・小島治幸・北神慎司（著）有斐閣 2015年 ISBN 978-4641150270			
指定図書／参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED321U 感情心理学 (感情・人格心理学B)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子・齊藤 英俊 (代表教員 勝谷 紀子)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。			①感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。 ②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。 ③幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。				
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	感情とは何か 感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					勝谷	
2	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					勝谷	
3	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					勝谷	
4	他者との関わりにおける感情の理解：対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					勝谷	
5	ポジティブな感情① 幸福感とその関連要因についての研究を紹介する。					勝谷	
6	ポジティブな感情② ポジティブ感情の機能に関する理論と研究を紹介する。					勝谷	
7	ポジティブな感情③ ユーモア、感謝などその他のポジティブ感情の研究を紹介する。					勝谷	
8	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					勝谷	
9	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤	
10	精神疾患に関連する感情① 不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
11	精神疾患に関連する感情② 抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
12	精神疾患に関連する感情③ 恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
13	感情の病理への心理的アプローチ① 精神分析的な心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤	
14	感情の病理への心理的アプローチ② 認知行動療法・第3世代の認知行動療法、ストレスマネジメントの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤	
15	感情の病理への心理的アプローチ③ フォーカシング、エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加態度	30	講義への参加態度と振り返りの内容から評価を行う。	
<b>授業外における学習 (事前・事後学習等)</b>							
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。 [45分] ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品 (小説、映画、漫画など) にあてはめて具体的に理解する。 [30分]				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック 各回での振り返り・リアクションシートの内容について、対面授業時などを通してフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみ視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED326U 心理学的支援法		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。</p>			<p>様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライアントやクライアントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。</p>				
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。						
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。						
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。						
4	精神分析の心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移／逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。						
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。						
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。						
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。						
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。						
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。						
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。						
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。						
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。						
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。						
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。						
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。		振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。			教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13：978-4422113265			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。また、代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED327U 学校心理学（教育・学校心理学）		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	上農 肇						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
教育現場における諸問題についてその実情を学び、問題状況の解決を援助する「心理教育的援助サービス」の実践を支える学校心理学の理論と方法について解説する。教育現場における種々の心理社会的課題とその支援の実際について例を挙げて解説する。			①教育現場において生じる問題とその背景を説明できる。 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。				
教授方法	講義を中心とするが、エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。						
履修条件	認定心理士を目指す者が望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（教育・学校心理学を概観し、実際の教育現場での様々な課題について知る）						
2	教育現場での心理教育的援助サービスの実践とそのための援助者（ヘルパー）を理解する。						
3	子どもをめぐる課題①（不登校）の実情とその支援について理解する。						
4	子どもをめぐる課題②（いじめ）の実情とその支援について理解する。						
5	子どもをめぐる課題③（発達障害）の実情とその支援について理解する。						
6	子どもをめぐる課題④（ネット・ゲーム依存）の実情とその支援について理解する。						
7	子どもをめぐる課題⑤（精神疾患・非行・その他）の実情とその支援について理解する。						
8	教師・学校をめぐる課題（教師のバーンアウト・危機介入・その他）の実情とその支援について理解する。						
9	家庭・地域をめぐる課題（児童虐待・貧困・その他）の実情とその支援について理解する。						
10	心理教育的援助サービスの方法①（アセスメント）について理解する。						
11	心理教育的援助サービスの方法②（カウンセリング）について理解する。						
12	心理教育的援助サービスの方法③（コンサルテーション・コーディネーション）について理解する。						
13	学校心理学を支える心理学的基盤（発達心理学、教育心理学、臨床心理学等）について理解する。						
14	学校心理学を支える学校教育の基盤（学校組織と教育制度、教育関連法規等）について理解する。						
15	まとめ（教育現場での諸問題について概観し、専門的ヘルパーとして教育現場にかかわる場合の義務と役割について考える）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。		
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの取り組み方を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]			提出されたレポートは、評価を行い返却する。				
受講生に望むこと	認定心理士に関連する科目である。資格を目指す者に照準を合わせるため、講義内容を理解するための相応の受講態度を求める。		教科書・テキスト	『学校心理学ハンドブック [第2版] チーム学校の充実をめざして』 日本学校心理学会編 教育出版 2016 ISBN978-4-316-80312-8			
指定図書／参考書等	なし/『生徒指導提要』 文部科学省 教育図書 2010 ISBN978-4-87730-274-0		その他・特記事項	代替授業を行う場合には、Google classroomから課題を配信、またはGoogle Meetによるオンライン授業を行う。対面授業日に課題を配布する場合もある。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED336U 障害者・障害児心理学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児／者に対する理解を深める。また、障害児／者が社会の中でよりよく生きることが支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。			1. 身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児／者への理解を深める。 2. 障害児／者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。				
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション／障害とは？：国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。						
2	障害と心理学：障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。						
3	身体障害：視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。						
4	知的障害：知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。						
5	精神障害：不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病的障害など主要な精神障害について理解する。						
6	行動・情緒障害：発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。						
7	発達障害（1）：自閉症スペクトラム障害：発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。						
8	発達障害（2）注意欠如・多動性障害、局限性学習障害：注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。						
9	障害児の支援（1）：応用行動分析：応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。						
10	障害児の支援（2）：ペアレントトレーニング：応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。						
11	障害受容のプロセス／障害の理解：障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。						
12	保健・医療における課題と支援：認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。						
13	福祉・教育における課題と支援：障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。						
14	保護者や家族の理解と支援：障害児／者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。						
15	コミュニティ支援／障害児・者支援のこれから：障害児／者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。〔30分程度〕			振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。		教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。			
指定図書／参考書等	なし／『障害者心理学』太田信夫（監修）北大路書房、2017年、ISBN-13：978-4762829840		その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。また、代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ED331U 心理演習		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。			1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。				
教授方法	演習、講義。						
履修条件	心理学教員が合議の上、履修を認めた者に限る						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤	
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					齊藤・松下	
3	多職種連携および地域連携					松下・齊藤	
4	心理面接の開始（初回面接、受面接）と終了（終結、中断など）					松下・齊藤	
5	精神分析的な心理療法における心理面接					齊藤・松下	
6	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					齊藤・松下	
7	クライエント中心療法の心理面接					齊藤・松下	
8	基本的な傾聴スキル					齊藤・松下	
9	フォーカシング指向心理療法の心理面接					齊藤・松下	
10	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					齊藤・松下	
11	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤	
12	行動療法の心理面接					松下・齊藤	
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤	
14	心理面接の効果と課題					松下・齊藤	
15	その他の心理療法（風景構成法）の心理面接					松下・齊藤	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
小レポート・代替課題	30	講義において小レポートと代替課題を課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。	講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。		
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]			小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。				
受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。		教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。</li> <li>対面授業が完全に実施不可能になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の評価基準にする。</li> <li>代替授業はgoogle classroomを通じて課題提示する。</li> </ul>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接における面接技法を説明している。 松下：心理実践の経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う							

授業科目名	ED351U 教育史		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修	
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>教育の歴史を通して過去の様々な思想や出来事について知るとともに、現代の教育にどのように反映されているか考える。このことは未来の教育について考えることにもつながる。本科目はこのような視点で、先に西洋における教育史について学ぶ。次に日本における教育史について学ぶ。これによって、日本の教育はヨーロッパやアメリカの影響を受けながら現代に至っていることが分かる。</p>			<p>①古代ギリシャから現代までの西洋の教育史について理解している。 ②江戸期から大正期までの日本の教育史について理解している。 ③現代の日本の教育の現状をもとに未来の教育について自分なりに考えることができる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）／古代ギリシャ・ルネサンス期の教育者（ソクラテスやコメニウスの教育思想について知る。）						
2	近代国家の形成と教育学（ロックの紳士教育論やルソーの消極教育について知る。）						
3	近代教育学の確立（ペスタロッチのメトード、ヘルバルトの四段階教授、フレーベルの恩物について知る。）						
4	社会と教育／労働と教育（デュルケームの「社会科学教育」を中心に考える。／ケルシェンシュタイナーの労作学校、クルプスカヤの総合技術教育について考える）						
5	新教育運動の成立と展開①（エレン・ケイの児童の世紀、デューイの経験主義教育論について考える。）						
6	新教育運動の成立と展開②（モンテッソーリの感覚教育について考える。）精神科学的教育学の潮流（ボルノウの実存哲学について考える。）						
7	現代における教育の思想（ブルーナーの動機付け、イリイチの脱学校論などについて知る。）						
8	日本の社会の成り立ちと人間形成（日本における近世社会の成り立ちと多様化する教育機関について知る。）						
9	日本の近世の教育思想と教育家（貝原益軒のメディア活用、広瀬淡窓のの能力主義、吉田松陰の情熱と感化の教育思想について知る。）						
10	明治期の教育思想（明治期の福沢諭吉の教育思想について知るとともに「学問のすゝめ」の意義について考える。）						
11	国民教育制度と国家主義路線（明治期の国民教育制度や教育における国家主義について考える。）						
12	大正新教育の思想と実践①（及川平治の教授法改革、木下竹次の学習原理の探究について知る。）						
13	大正新教育の思想と実践②（沢柳政太郎の実際的教育学、小原国芳の全人教育論について知る。）						
14	現代の教育（無着成恭の山びこ学校、中曽根康弘の臨時教育審議会答申内容から現代の教育について考える。）						
15	学習のまとめ（西洋教育史に登場した人物、日本教育史に登場した人物を各複数選んでその関係を含めて説明するとともに自分の考えを入れて期末レポートを作成する。）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業態度	24	積極的に授業に臨んでいる。（8回分）		代替授業課題	36	代替授業の課題に対し、自分の考えを書いている。（6回分）	
学習成果物	20	西洋教育史の人物年表、日本教育史の人物年表を丁寧に整理して書いてある。		期末レポート	20	レポートの要件に基づいて作成してある。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。 [30分] ②対面授業では人物年表の台紙を配付するので、授業後、足りないところを自分でフォローアップしておく。 [30分] ③代替授業ではテキストを読んで整理するとともにミニッツ感想を書く。 [90分]</p>				<p>①代替授業の課題について対面授業時に講評する。 ②期末レポート作成方法について第14回授業時に説明する。 ③第14回授業時にそれまでの授業の取り組みについて評価する。</p>			
受講生に望むこと	過去の教育史が現在の教育につながっていることを意識して受講してください。			教科書・テキスト	『教育の歴史と思想』石村華代・軽部勝一郎編著、2013年、ミネルヴァ書房、2,500円＋税、ISBN978-4-623-06584-4		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	代替授業回ではClassroomで課題を出すのでドキュメントでミニレポートを書いて投稿する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
西洋教育史に見られる教育方法の不変なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。							

授業科目名	ED371U 教育学文献講読A1		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
認知科学の視点から人の「学び」について書かれた文献を読む。私たちが知識を身につけたり、学びを深めていくプロセスの中ではどのようなことが起きているのだろうか。文献を通して、私たちにとって身近な「学び」とはどういったものかについて考察を深めていきたい。			①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②学びのプロセスについて理解している。 ③人の学びについて、自分なりの意見を持てるようになる。			
教授方法	参加者によるレジュメ作成および発表、ディスカッションを中心に進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	第1章「記憶と知識」の前半					
2	第1章「記憶と知識」の後半					
3	第2章「知識のシステムを創る」の前半					
4	第2章「知識のシステムを創る」の後半					
5	第3章「乗り越えなければいけない壁」の前半					
6	第3章「乗り越えなければいけない壁」の後半					
7	第4章「学びを極める」の前半					
8	第4章「学びを極める」の後半					
9	第5章「熟達による脳の変化」の前半					
10	第5章「熟達による脳の変化」の後半					
11	第6章「「生きた知識」を生む知識観」の前半					
12	第6章「「生きた知識」を生む知識観」の後半					
13	第7章「超一流の達人になる」の前半					
14	第7章「超一流の達人になる」の後半					
15	終章「探究人を育てる」					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加姿勢	30	ディスカッションでの発言等を評価する。	担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。	
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、人の学びについて自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①事前に各回でとりあげる該当する箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]			最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行います。			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。		教科書・テキスト	『学びとは何か』今井むつみ 岩波書店 2016年 ISBN:978-4004315964		
指定図書／参考書等	なし/『新・人が学ぶということ』今井むつみ・野島久雄・岡田浩之 北樹出版 2012年 ISBN:978-4779303210		その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。 代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	ED381U 教育学文献講読B1		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
児童精神医学の視点から子どもの「こころ」について書かれた文献を読む。子どもと関わる上で知っておきたいことや発達障害などを通して子どもが育つ上でのむずかしさ、また、子どもを育てる側のむずかしさや社会に出ていくことのむずかしさといった大きく4つの内容の検討を通して、子どもの育ちや子どもを育てる側の思いについて考察してみたい。			①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②子どもの育ちについて理解している。 ③子どもの発達や子どもを育てる側の思いについて、自分なりの意見を持てるようになる。			
教授方法	参加者によるレジュメ作成および発表、ディスカッションを中心に進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	第1章「<こころ>をどうとらえるか」					
2	第4章「精神発達」をどう捉えるか」					
3	第5章「ピアジェの発達理論」					
4	第6章「フロイトの発達理論」					
4	第7章「精神発達の道筋」					
5	第8章「『共有』の発達としての精神発達」					
6	第9章「発達障害とは何か」					
7	第10章「発達障害における体験世界」					
8	第11章「関係発達のおくれにどう支援するか」					
9	第12章「部分的な発達のおくれ」					
10	第13章「子育てをめぐる課題」					
11	第14章「子育て困難の第一グループ」					
12	第15章「子育て困難の第二グループ」					
13	第16章「児童期～思春期をめぐる課題」					
15	第17章「その他の精神医学的な問題」					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加態度	30	ディスカッションでの発言等を評価する。	担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。	
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、子どもの育ちや育てる側の思いについて自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①事前に各回でとりあげる該当する箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]			最終レポートについては、希望者に内容に関するコメントを配布します。			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。		教科書・テキスト	『子どものための精神医学』 滝川一廣 医学書院 2017年 ISBN: 978-4260030373		
指定図書／参考書等	なし/授業の中で適宜紹介する。		その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。 代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ED393U 教育実践研究A		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修	
担当教員名	幸 聖二郎・中野 聡・福江 厚啓・金丸 洋子・戸田 教一（代表教員 幸 聖二郎）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校の学級担任教師には学級の子どもたちをまとめ、学級成員が一丸となって目標に向けて取り組んでいくように導いていく力量、すなわち学級経営力を必要とする。学級が一つにまとまることにより学級生活が豊かになるとともに教科等の学習指導に好影響を及ぼす。そこで、どのように学級経営を行ったらよいか、小学校の教師経験をもつ教員がそれぞれの視点から授業を展開する。担任が変われば学級経営が変わると言われるように、担任によって学級経営は異なると言える。そのため、各回の授業は各教員と学級経営について考えることができる貴重な場となる。</p>			<p>①学級経営とはなにかについて知る。  ②学級担任はどのようなことを願っているか、自己の小学校時代の経験をもとにしながら考えることができる。  ③学級経営が担任によって異なることを各教員の学級経営方針から理解している。  ④学級経営上の危機管理について事例をもとに考えることができる。  ⑤各回の授業内容をもとに、自分なりの『学級づくり』の案を作成することができる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	小学校一種免許状を取得予定で小学校教員を志望する者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）／学級経営とは（学級経営の大切さを知る。）					幸	
2	学級の組織づくり（児童一人一人が生かされる組織について考える。）					戸田	
3	学級経営の基礎（「学び合う授業」と「学級づくり」について考える。）					金丸	
4	思いを出せる学級（子どもが安心して思いを出せる学級づくりについて考える。）					福江	
5	話を聞ける学級（子どもが互いに聞き合いのできる学級づくりについて考える。）					福江	
6	深く考える学級（子どもが物事を深く考える学級づくりについて考える。）					福江	
7	学級経営の危機管理1（子どもたちが言うことをきかないとき：通常のクラスでの子どもの課題について考える。）					中野	
8	学級経営の危機管理2（クラスでイジメが発生したとき：特別な場合の子どもの課題について考える。）					中野	
9	学級経営の危機管理3（モンスターペアレントに出会ったとき：保護者対応での課題について考える。）					中野	
10	私の学級経営（子どもとの出会いとふれあいについて考える。）					幸	
11	担任教師に求められる「学級経営力」（ルールとリレーションの大切さについて考える。）					幸	
12	認め合う学級（認め合い励まし合う学級づくりについて考える。）					幸	
13	高め合う学級（磨き合い高め合う学級づくりについて考える。）					幸	
14	笑顔あふれる学級（笑顔あふれる学級づくりについて考える。）					幸	
15	学習のまとめ（学習の振り返りと「私の『学級づくり』アイデア」についてレポートを作成する。）					幸	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	100	講義内容を理解し自分なりの考えを持っている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
学校ボランティア等で小学校に行った際、配属学級の学級経営について観察、記録するようにする。			各教員から適宜レポートを課す。				
受講生に望むこと	各回の授業を受けながら「自分だったら」と考えることができるようにしてください。		教科書・テキスト	なし（各回適宜資料を配付する。）			
指定図書／参考書等	なし／『子どもの力を引き出す学級担任 クラスをきちんとまとめるコツ！』寶迫芳人著、2012年出版、ナツメ社、ISBN 978-4-8163-5184-6 『教師の資質』諸富祥彦著、2013年出版 朝日新書 ISBN 978-4-02-273518-8		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
<p>幸：小学校教諭としての経験をもとに、小学校現場で日常的に行われている教育活動について、具体的事例について取り上げ検討・協議し、理解を深めている。  中野：小中学校での経験を生かして模擬授業指導案の作成と実践を通して、教師として必要な資質・能力、学び続ける姿勢を身に付けるための指導をしている。  福江：小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。</p>							

授業科目名	ET201U 教育実習指導Ⅰ(幼)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明 淑子・向出 圭吾 (代表教員 虫明 淑子)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
教育実習Ⅰ(幼)にかかわる事前・事後の実習指導である。教育実習Ⅰ(幼)と次年度の教育実習Ⅱ(幼)を行う実習の流れの意味を理解しつつ、現場で学ぶ力を養う。			①幼稚園教育及び幼稚園実習の実際、意義について理解する。 ②園の教育理念・方針を把握し、実習生としての心構えを身に付ける。 ③子どもの姿に即して見取ることの重要性とよりよい記録の書き方について学ぶ。 ④実習を行う場合の手順と計画の仕方について理解する。 ⑤実習園と必要な連絡協議をすることができる。 ⑥記録を省察することによる実践の改善の重要性を学ぶことから、自身の課題を明確にする。			
教授方法	講義・代替授業・発表					
履修条件	保育原理・教育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育実習ノートを作成する。					全員
2	教育及び幼稚園実習の目的、実習生としての心構えとともに幼稚園の教師を目指す者として求められる姿勢について学ぶ。					全員
3	実際の幼稚園の生活や安全上の配慮等の基本的な重要事項について学ぶ。					全員
4	幼稚園実習の実際について具体的に理解する。					全員
5	事前訪問の見通しや実践課題の設定等、実習に向けて必要となる事項について理解する。					全員
6	事前訪問や実習に向けての準備をする。					全員
7	幼児の姿をどのようにとらえるか一日常の保育における目の前の幼児の姿の見取り方、教師のねらい等について理解する。					全員
8	実習日誌の書き方等、様々な記録の取り方について理解する。					全員
9	指導実習(部分実習)を行う観点から具体的なイメージをもって指導計画を考える。					全員
10	指導案作成と実際の保育とを結び付けて考える。					全員
11	実践を自身で省察し、翌日の保育の改善に努める保育者の姿勢と重要性について理解する。					全員
12	実習園と大学への提出物の内容と期限等を確認し、自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導について理解する。					全員
13	直前指導により幼稚園実習に関する最終確認をする。					全員
14	教育実習Ⅰ(幼)の振り返り：実習ファイルの提出、自己評価と今後の課題の明確化					全員
15	実習報告と教育実習Ⅱ(幼)への展望と改善					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	40	授業内容にある幼稚園教師に求められる姿勢にふさわしい態度で主体的に参加しているかどうか。	レポート・ノートの作成	40	授業内容の重要点を理解する、疑問点は即時に調べて解決する、自身で工夫して学ぶ等に努めながら、適切且つ丁寧にとまとめられているか。	
事後課題	20	自己を省察し、自身の改善につなげられているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
質問や疑問点、不明点等について事前に調べる〔30分〕 復習する〔30分〕			必要に応じて個別に面談の時間を設ける。			
受講生に望むこと	幼稚園教師としてふさわしい姿勢で受講すること。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省 チャイルド本社 2021年 ISBN: 9784805402993		
指定図書/参考書等	なし/適宜、紹介する。		その他・特記事項	授業計画については日程及び内容を変更して行う場合がある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
虫明：幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、1日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、教師として望ましい姿勢についても適宜伝える。 向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、幼稚園での子どもの生活や遊びを、実際の遊びの模擬保育を通して行っている。						

授業科目名	ET301U 教育実習指導Ⅱ(幼)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾・虫明 淑子 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「教育実習Ⅱ(幼)」にかかわる事前・事後の実習指導で、「教育実習Ⅰ(幼)」の単位を修得した学生のみ本科目を履修する。本科目では、まず第一幼稚園及び扇が丘幼稚園での保育観察をもとに、子どもの内面を読み取る力を養うことに重点を置く。次に環境図を利用した記録の取り方、第3者にわかる記録の書き方を指導するとともに、環境図を利用した遊びの指導計画の作成を通して“ねらい”(予想される幼児の学びの内容)を明確にもつ意味を考える。また一日実習の指導計画について考える。実習後は自己評価と実習報告会を通じて自らの現場での姿を振り返り、保育者としての自己課題を明らかにする。</p>			<p>①保育観察を通して、子どもの内面を読み取ることができる。  ②環境図を利用した要領を得た記録を書くことができる。  ③環境図を利用した遊びの指導計画を作成することができる。  ④幼稚園教育要領が示す保育内容を理解し“ねらい”を設定することができる。  ⑤作成した指導計画を模擬実践することができる。  ⑥子どもの内面の読み取り方や遊びの実践について、わかりやすく伝えるための工夫をすることができる。</p>				
教授方法	実践・少人数によるグループワーク・グループ協議						
履修条件	「教育実習指導Ⅰ(幼)」、「教育実習Ⅰ(幼)」の単位を修得済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	今期の教育実習指導Ⅱ(幼)の流れについて説明する。					虫明・向出	
2	子どもの内面を読み取り方、それを記述する方法について考える。					虫明・向出	
3	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から(1):拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、エピソードのポイントや記述方法について協議する。					虫明・向出	
4	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から(2):再び拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、エピソードのポイントや記述方法について協議を深め理解する。					虫明・向出	
5	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から(3):拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、子どもの内面の読み取り方について協議する。					虫明・向出	
6	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から(4):再び拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、子どもの内面の読み取り方について協議を深め理解する。					虫明・向出	
7	遊びの指導計画の作成(1):各自、事前訪問をもとに考えてきた遊びのプランについて、その“ねらい”の意味を考える。					虫明・向出	
8	遊びの指導計画の作成(2):“ねらい”を明確にし、環境図を利用した遊びの指導計画の作成し、教材製作に取り組む。					虫明・向出	
9	遊びの指導計画の作成(3):教材製作を行いながら、遊びの指導計画の見直し、改善を行う。					虫明・向出	
10	遊びの指導計画の作成(4):製作した教材を使い、模擬実践を行う。その後、さらに見直し、改善を行う。					虫明・向出	
11	一日実習の指導計画作成:各自作成してきた一日実習の指導計画についてグループワークを行い、補完し合う。					虫明・向出	
12	子どもの内面の読み取り、記録のポイント、記述の仕方、指導計画の作成等について改めて確認する。					虫明・向出	
13	直前指導を行うことで、実習に臨む姿勢を改めて自覚し、事後レポートや実習評価についても理解する。					虫明・向出	
14	幼稚園教育実習Ⅱの振り返りを行い、実習報告会に向けて発表の形式、テーマを設定する。					虫明・向出	
15	実習報告会:実習を通しての自分たちの学びを、ポイントを絞りわかりやすく伝えるような工夫をして報告を行う。					虫明・向出	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	20	保育観察やグループワーク・協議に積極的に参加しているか。		課題1	30	保育観察での幼児のエピソードやつぶやきを記録し読み取ることができるか。	
課題2	30	環境図を利用した遊びの指導計画を見通しを持った子どもの姿やねらいを明確にして作成できているか。		事後課題	20	実習後の振り返りで得た自己課題をもとに、子どもの内面の読み取り方や遊びの実践について、わかりやすく伝えるための工夫をすることができるか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①第一幼稚園や扇が丘幼稚園での保育観察の実践[各60分] ②教材研究をふまえた教材製作[90分] ③教材や指導計画の見直し、改善[60分] ④遊びのプラン、遊びの指導計画、一日実習指導計画の作成[各90分] ⑤実習園訪問[60分] ⑥報告会の準備[60分]				適宜授業内でコメントする。			
受講生に望むこと	①保育できるスタイルで授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499		
指定図書/参考書等	なし/適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
<p>向出:幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、遊びの指導計画の立案に重点を置き、実践・見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりとできるように、現場でのやり方を取り入れている。  虫明:幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態・環境・指導の重点、1日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、保育者としての姿勢についても適宜伝える。</p>							



授業科目名	ET306U 教育実習Ⅱ(幼)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾・虫明 淑子 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教員免許取得のために教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則において定められている教育実習で、本学ではⅠとⅡに分けて行い、「教育実習Ⅰ(幼)」(10日間)と「教育実習Ⅱ(幼)」(10日間)は原則として北陸3県の同一幼稚園で行う。しかし今年度は新型コロナウイルスの影響で、今期の幼稚園教育実習Ⅱは来年2月以降に現場で10日間のみ実習を行い残り5日間は学内演習とする。実習Ⅰやプレ実習等で得た実習園の保育に対する理解の上に、子どもの内面の読み取りを重視しながら、遊びの指導計画を作成し実践に用いる自分らしい教材を用意する。必要な素材等の準備とあわせて、子どもと応答的に関わる自身の姿のイメージを持って毎日の実践に臨む。実践を通じて必要な保育技能を向上させるとともに、実践を通じて幼稚園教育への関心を深め、現場における保育者としての研究課題を見出す。			①実習園の保育について理解を深めて実習を準備する。 ②実習前に用意した指導計画・教材を、実習中に観察、実践、協議によって見直し、改善することができる。 ③実習園の教師の一員として、教職員の動きから状況を読み取り、適宜、教職員に確認、報告して行動する。 ④個々の子どもに対し、内面を読み取り自分なりの理解に基づいて意図的に関わる。 ⑤毎日の実習記録では環境図を利用し、ポイントを絞って記述することができる。 ⑥一日実習の指導計画を協議の経て時間を掛けて作成し、実習の集大成の実践とすることができる。				
教授方法	実習を通じて、実習園の保育と教師から学ぶ。また本学教員による巡回指導や、実習期間に設ける実習指導での討議を受けての自己省察を通じて学ぶ。						
履修条件	「教育実習指導Ⅰ(幼)」、「教育実習Ⅰ(幼)」の単位を修得済みであること。「教育実習指導Ⅱ(幼)」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
	実習園の教育方針を理解し、保育における子どもの内面を読み取り、意図的に関わることで学びを深める。						
	子どもの姿に応じて、指導計画を見直し、教材を改善する。または新たに指導計画を立案、教材の製作をする。						
	子どもの姿、子ども同士の関わり、教師との関わり等をポイントを絞って記録し、実習協議をすることで考察を深める。						
	実習園の教師の姿に学び、自らの保育技能の向上を図る。						
	一日実習を通して、これまでの自分の保育への姿勢を振り返り、保育者としての自己課題を明確にする。						
	幼稚園現場での生活を通して、社会人としての自分、保育者としての自分について洞察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
実習園による評価	70	評価項目として実習園が評定したものを科目としての基準で数値化する。	実習ファイル	30	①子どもの内面に基づく読み取りが記録されているか。 ②一日実習の指導計画立案から実践、振り返りに至る過程が、適切に学びの実践になっているか。 ③内容に欠落がなく、適切に綴られているか。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの内面の読み取りに基づいた記録の作成 [90分]</li> <li>実践のために随時実習計画を見直すこと [60分]</li> <li>指導計画の補充と教材のつくりなおし [60分]</li> <li>事後レポートの作成 [90分]</li> </ul>			幼稚園教育実習指導Ⅱの事後指導を通じて行う。				
受講生に望むこと	①体調管理に責任をもつこと。②必要な連絡と報告を実習園、担当教諭、大学の実習担当者、場合によっては大学事務所に対して、速やかに、かつ適切に行うこと。③実習で知れた情報の取り扱いに注意すること。④記録と指導計画の参考のために『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。⑤実習時間外の課題は、翌日の実習に支障がないよう時間管理を工夫すること。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・3日間以内の欠席については実習園と相談して振替日を設ける。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ET211U 教育実習指導(小)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・村井 万寿夫・幸 聖二郎 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。</p>			<p>①実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。          ②小学校について理解を深める。          ③実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。          ④観察実習・参加実習・授業実習について理解し、学習指導案を立案できる。          ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。          ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。          ⑦実習報告会を計画・運営・実施することができる。</p>				
教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク						
履修条件	小学校学習支援ボランティアへ参加済であること。各教科教育法が履修済(または履修中)であることが望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について、学習支援ボランティアの経験を踏まえて理解する。					全員	
2	実習までの流れをもとに文部科学省・教育委員会・学校の役割とその関係について理解する。					全員	
3	小学校における外国語活動と英語教育のあり方について理解を深める。					全員	
4	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。					全員	
5	幼・保・小の連携の必要性について理解する。					全員	
6	小学校における特別支援教育について理解する。					全員	
7	小学校現場の一日の流れを理解する。					全員	
8	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。					全員	
9	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。					全員	
10	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を事例を通して理解する。					全員	
11	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)					全員	
12	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)					全員	
13	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。					全員	
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。(グループ討議)手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。					全員	
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。	レポート/リフレクションカード等	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。		
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>			<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校での公開授業に参加する。</li> <li>実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。</li> <li>日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。</li> </ul>			各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。				
受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的に学習支援ボランティアに参加すること。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 ※小学校教育実習II指定図書/参考書等と兼ねる。			
指定図書/参考書等	講義内で適宜紹介する。		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施回については、調整の上変更することがある。</li> <li>第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。</li> <li>代替授業の課題はClassroomに投稿し、提出を求めていることがある。</li> </ul>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
<small>         付録：実習の授業や観察の「一日」を題材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。          ※「小学校教諭としての経験をもとに、教育実習目に向けて、小学校現場の日常を振り返り、教育実習生として何が出来るか、何を学ぶのかについてディスカッションを行っている。          単位：小学校教諭としての経験をもとに、小学校における実践(自由小規模、特別支援等)を紹介し、グループ討議等に利用。          ・授業記録の取り方や研究協議の持ち方など、現場における授業研究で困難となる技術も伝授している。          川原田：小学校教諭として経験をもち、授業の発展的側面における教員の実践について具体的に伝授している。          ・小学校での教育実習生受け入れ教員としての経験をもとに、教育実習生としての心構え・実習での態度及び教員・児童・保護者に対する対応について具体的に伝授している。         </small>							

授業科目名	ET216U 教育実習 I (小)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・村井 万寿夫・幸 聖二郎 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校等において実施するものとする。          学校現場におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深めることとする。</p>			<p>①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。          ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。          ③日々の記録を適切に記録することができる。          ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。</p>			
教授方法	実習 参観 研究授業 教材研究 個別指導					
履修条件	教育実習指導(小)を履修していること					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。					
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。					
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。					
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。					
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。					
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。(本時における目標を明確に、板書計画も準備する)					
	研究授業を実施する。					
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。					
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。					
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。					
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。					
	他学年(特別支援学級等)の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。					
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。					
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。					
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
コミュニケーション能力	30	子どもたちと教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか。	研究授業	40	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされたか。子どもの把握と指導が適切であったか。	
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。			実習での反省や改善のための指導は、実習指導Ⅱにおける事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。			
受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。小学校教師を目指す熱意を十分に高め、例えば実習生であっても、子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 ※小学校教育実習指導Ⅱ・教科書と兼		その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	ET361U 教育実習指導(中高)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業は、中学・高等学校教育実習のための事前及び事後指導である。1年次における中学・高等学校の英語授業参観や3・4年次におけるプレ実習(中学・高等学校免許取得を第1志望としている者のみ)の経験、及び英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や指導技術を統合し、現場で生かす実践力を身につける。また、現場での経験を省察し、さらなる教師としての資質を向上させる。</p>			<p>①教育実習の第1日目から最終日までをシミュレーションしながらイメージ化することができるようになる。  ②一時間の英語の授業を運営するための準備と工夫が手際よくできるようになる。  ③4技能別の指導技術を駆使しながら、英語を用いて英語を教えることができるようになる。  ④自分の授業のみならず、他者のものを観て、客観的に評価しながら授業を向上させることができるようになる。  ⑤教師としての、自分の資質を客観的に考察し、さらに一段上の資質を造り出す努力ができるようになる。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、模擬授業					
履修条件	中学・高等学校(英語)の教育実習Ⅰを履修する者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・心構え。本授業の到達目標を理解し、教育実習への心構えを新たにし、その責任と現在の自分がなすべき準備を理解する。自分が教壇に立つことをイメージすることができる。					
2	教育実習の意義と目的。4週間の教育実習期間をシミュレーションしながら、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだことを統合し、教育実習の目的と意義をディスカッションを通して共有する。					
3	教育実習における「観察1」。生徒の登校から下校までの行動を観察することにより、学校全体の生徒指導や学級経営の一端を知ることができることを理解する。					
4	教育実習における「観察2」。学校全体の行事や活動に目を向けることにより、学校が生徒に何を求めているかを知ることができることを理解する。					
5	教育実習における「観察3」。学級担任の学級経営や生徒指導が教科指導等に与える影響を知る。また、中学・高等学校における校務分掌の種類やそれぞれの役割を理解する。					
6	教育実習における観察と参加と実践。学校全体の教育活動で教育実習生が観察・参加・実践できる活動を説明し、実際に自分が関わることが可能な活動を具体的に考えてみる。					
7	生徒指導上の問題解決のために、生徒を個別に理解したり、共感的に理解したり、発達的に理解したりする指導方法を学ぶ。また、各自の指導法からお互いに相補的な学びができるように指導する。					
8	研究授業。研究授業の意義と目的を考えると同時に、授業研究や授業分析の方法を知る。また、英語の学習指導案を作成し、学習指導案と実際の授業とのギャップを考え、それをどのように補填するかを考える。					
9	教育現場が教育実習生に求められる資質を考え、ディスカッションを通して、教師としての自らの課題を理解する。特に英語の教師として、必要な資質をコア・カリキュラム(文部科学省)を通して考えてみる。					
10	英語科の教育実習生に求められる英語力を考え、ディスカッションを通して、英語教師としての自らの課題を知る。特に、英語学、文学、第2言語習得論等の必要性を理解する。					
11	模擬授業。学級活動や学年集会を意識しながら、いじめに対する指導の実際を模擬体験する。生徒指導上の問題(服装・盗難等)解決を意識しながら、生徒への具体的指導を模擬体験する。ディスカッションにより、各自の意識改革をする。					
12	教育実習直前指導(1)。実習日誌の意義や書き方について指導する。また、学生の不安や心配を払拭するため、現時点での疑問点などを意見交換する。					
13	教育実習直前指導(2)。実習校に提出する各種書類の記入や整理。また、守秘義務等の確認と緊急時の際のリスクマネジメントについても意見交換する。					
14	まとめ。本授業を通して学んだことを基に、中学・高等学校教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。また、英語教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。					
15	中学・高等学校教育実習の報告会。中学・高等学校における教育実習の振り返り、及び来年度、教育実習予定者へのアドバイスと諸注意を行う。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
ディスカッション	30	ディスカッションに積極的に参加し意見交換ができたか		模擬授業とディスカッション	20	模擬授業の準備と与えられた課題への考え方
毎回の課題	50	授業内のポイントを把握しているか				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
市内の中学校のホームページを見て学校現場の様子をシミュレーションしてみる。[30分]				返却時に行う。		
受講生に望むこと	教育実習では、生徒の前でどういう話をし、どういう反応を求めるのか真摯に考えてほしい。文部科学省のホームページでもよいので中学校や高等学校の学習指導要領を一読してほしい。			教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業で資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	代替授業の場合はClassroom から課題等を配信する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。</li> <li>・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。</li> </ul>						

授業科目名	ET366U 教育実習 I (中高)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種 (英語)・高一種 (英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
教育実習指導(中高) で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。			①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。			
教授方法	9月に4週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	教育実習指導 (中高) を履修していること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。					
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身につけたかを記録する。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。					
	中学・高等学校において指導する教科(英語)の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。					
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみる。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。					
<b>成績評価方法及び基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目		教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。				教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。		
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。			教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ET220U 保育実習指導Ⅰ（施設）		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙・齊藤 英俊（代表教員 松本 理沙）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な「保育実習Ⅰ（施設）」による実習を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障がい者や子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅲ（選択）に臨む。</p>			<p>①保育実習（施設）の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設（施設）における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>				
教授方法	講義・演習、ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、事前訪問、実習報告会等						
履修条件	「社会福祉」・「保育原理」を修得済であること。幼児教育・保育コース以外の学生は履修できない。「子ども家庭福祉論Ⅰ」、「社会的養護」、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修中であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育実習の意義 授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。						
2	個人票を作成する。施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。						
3	実習施設（社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設）の種別と概要について理解する。						
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。						
5	入所・利用している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係（対家族、対職員、対利用者）について理解する。						
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、資料等からの学びの後グループ内でディスカッションを行う。						
7	配属予定の施設（種別）について調べた資料に基づいてグループディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。						
8	これまで受講してきた授業（子ども家庭福祉論Ⅰ、社会福祉、社会的養護など）の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。						
9	実習ファイルおよび作成書類（事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など）を配付し、記入上の説明を行う。						
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の留意事項を学ぶ。						
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。						
12	実習先施設の養育支援方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。						
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとで行う資料等の学びの後、要点などを確認する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。						
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。						
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
施設理解	40	①施設の基本的機能を理解している。②施設保育士の職務や保育を理解している。③実習報告会の内容が充実している。		課題提出	40	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習計画を作成することができる。④実習記録の記載方法を正しく理解している	
講義への取り組み姿勢	20	演習科目であり、無断欠席、遅刻、受講姿勢などに問題がある場合は減点対象となる。					
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
<p>①事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポート作成する。【50分】 ②実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。【50分】 ③実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを十分に体験しておく。【50分】 ④実習園に限定せず、社会的養護関係施設における学習支援、障害者支援施設・就労支援施設などのボランティアに参加する。【50分】 ⑤実習報告会に向け、実習体験からの省察を行う【240分】</p>				事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	<p>①施設保育士は社会的養護関係施設や障害者支援施設・就労支援施設の入所者・利用者の人権に直接かかわる業務であることを十分に認識して授業に臨む。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。 ②「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護内容」の授業と関連付けて理解するための復習を行う。</p>			教科書・テキスト	『保育実習 新・基本保育シリーズ②』公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 2020年 ISBN978-4-8058-5800-4		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	①委託費など実習費用約50,000円（保育実習Ⅰ・Ⅱ）が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。 ②無断欠席・遅刻・早退が多い・課題未提出等がある場合、実習を認めない。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ET225U 保育実習 I (施設)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本 理沙・齊藤 英俊 (代表教員 松本 理沙)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約10日間）の実習を行う。利用者として生活及び作業などをとむことにより、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で取り組まれている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。</p>			<p>①実習施設について理解している。  ②養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。  ③子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。  ④支援計画を理解している。  ⑤生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。  ⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解している。  ⑦施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。  ⑧「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。  ⑨保育士としての職業倫理を理解している。  ⑩安全および疾病予防への配慮について理解している。</p>			
教授方法	配属施設において、宿泊もしくは通勤による「10日間以上」及び「90時間以上」の実習を行う。					
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。「保育実習指導 I (施設)」を履修中であること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	90時間（約10日間）の実習において、下記の内容を行う。					
2	施設での一日の流れを理解する。					
3	施設の役割と機能について理解する。					
4	子ども・利用者を観察し、記録する。					
5	子ども・利用者の個々の状態に応じた適切な支援やかかわり方について考察し実践する。					
6	実習計画に基づき活動し、支援を行う。					
7	子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。					
8	子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。					
9	子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。					
10	支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。					
11	実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。					
12	施設保育士の業務内容を体験的に理解する。					
13	職間の役割分担や他職種職員との連携について体験的に理解する。					
14	施設の年間計画や行事について理解する。					
15	施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する		巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	30	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。 [30分]  ②実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。 [50分]</p>				施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。		
受講生に望むこと	事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。			教科書・テキスト	『保育実習 新・基本保育シリーズ⑩』 公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 ISBN978-4-8058-5800-4	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。その他・事前訪問及び実習にかかる交通費については原則自己負担となる。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ET230U 保育実習指導Ⅰ（保育所）		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代・高村 真希（代表教員 谷 昌代）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（保育所実習2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本姿勢、年齢・発達段階に応じた子ども理解・実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後実習では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに臨む。</p>			<p>①保育実習の意義と目的を理解している。  ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。  ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。  ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。  ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>				
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表						
履修条件	幼児教育・保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修中、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：受講マナー・保育実習の意義（1）保育所実習の意義と目的・保育実習の概要・保育士の責務について理解する。					全員	
2	保育実習の意義（2）：授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。					全員	
3	実習の内容（1）：年齢別の発達・保育所の一日の流れを理解する。幼稚園と保育所の違いを理解する。					全員	
4	実習の内容（2）：年齢別保育と異年齢保育・統合保育、インクルーシブ保育を理解する。					全員	
5	保育実習生として（1）：保育園園長の講話「保育所の機能・保育士に必要な資質・実習性に望むこと」を聴き、準備に活用する。（日程・テーマは変更する可能性がある）					全員	
6	保育実習生として（2）：保育所保育指針について、保育所における子どもの人権と最善の利益について考える。また、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構えを学ぶ。〔グループワーク〕					全員	
7	実習における記録（1）：実習日誌の使い分け・記入上の注意・観察・記録・評価についての確認。実際に記録を作成し、“個と集団”の観点から幼稚園実習との違い・共通点を考える。					全員	
8	実習における記録（2）：エピソード記録・記述の特徴と違いについて。実際に2種類の記録を作成する。					全員	
9	実習先保育所について（1）：実習先保育所の保育方針・概要を理解する。					全員	
10	実習先保育所について（2）：実習担当クラスの乳幼児の発達・年齢に対応した関わりを考える。					全員	
11	教材製作（1）：担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材・手作り教材を準備する。					全員	
12	教材製作（2）：担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材・手作り教材を準備し、実演・実践してみる。					全員	
13	指導計画の立案と記録：実習先の保育形態・年齢に合わせた指導計画を作成する。また、個別な関わりを中心とした部分実習の指導計画を作成し、実演・実践してみる。〔グループワーク〕					全員	
14	保育所実習Ⅰ事前指導：指導計画の修正・実演。〔グループワーク〕					全員	
15	保育所実習Ⅰ事後学習：保育実習を通しての自己の学びを振り返る。実習報告会に参加し学びについて発表する。（自己評価・履修カルテ記入）〔グループワーク〕					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度（実習報告会内容含む）	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解しようとしている。		課題提出	50	①課題を期日までに提出している。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④指導計画を作成することができる。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①ホームページ等を活用して、各園の保育方針やねらいについて読み取り、概要をまとめ、レポートを提出する。〔120分〕 ②実習日誌のモデル案に従って日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。〔60分〕 ③実習で求められる教材を実演できるように、作製・練習しておく。（手遊び・絵本・視聴覚教材（手作り教材）・手簡に合った歌やゲーム・活動・製作など）〔90分〕 ④身近に見かける乳幼児や親子の姿を気に留めて観察し、記録する。〔60分〕				個別指導及び授業内での振り返りを行う。			
受講生に望むこと	①「幼稚園教育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅱ」も同時に履修することが望ましい。②保育士が子どもの成長・安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。③事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。④「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて理解するように努めること。			教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499 ・必要に応じてプリントを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／なし（必要に応じて授業内で紹介することもある）			その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
高村：保育所実習Ⅰへ向けて、乳幼児の発達や保育所の日常を振り返り、保育所とはどのような施設であるのか、保育者に求められる力をグループで討議している。また、一人一人を丁寧に見つめる視点について、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。 谷：実習対象年齢による発達、環境の違いなど、学生自身が幼稚園と比較し捉え、関わり方や教材作りに生きるようグループワークを中心に行う。							



授業科目名	ET320U 保育実習指導Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代・高村 真希 (代表教員 谷 昌代)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。</p>			<p>①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ②保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。 ③保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。 ⑥実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。</p>				
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表						
履修条件	「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習指導Ⅰ(保育所)」の単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育実習Ⅰ(学内演習)における自己課題を整理し、実習Ⅱに向けて準備を行う。					全員	
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。					全員	
3	子どもの保育と保護者支援について①:多様な保護者支援のあり方を知る。保護者支援についてレポートを作成する。					全員	
4	子どもの保育と保護者支援について②:実習園での状況とレポート作成の視点を話し合う。保護者の求める支援と現実に行っている支援について考え、今後の保護者支援における課題を考える。[グループワーク]					全員	
5	保育実習日誌について①:時系列・エピソード記録・エピソード記述の視点、書き方を理解して作成し、提出する。子どもに寄り添い感じ取る、子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることについて考える。					全員	
6	保育実習日誌について②:保育所保育指針を参考にし、発達の観点をとらえ、ねらいを明らかにして指導計画を作成する。添削後の日誌を修正する。					全員	
7	実習先保育所の事前訪問:プレ実習の日程を確認する。子どもの姿を観察し、教材や各計画の準備に入る。					全員	
8	保育所事前訪問記録作成・実習課題の準備を行う。子どもに寄り添い深く読み取ることについて考える。					全員	
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聴き、学びのレポートを作成する。					全員	
10	保育実習Ⅰの指導計画を振り返り、保育実習Ⅱの部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。指導計画案を作成し、提出する。今までの実習を振り返り、自己課題(苦手だった活動・保育技術等)を見直し、実践してくるよう計画に入れる。					全員	
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じた関わりあい・関わりについて考える。[グループワーク]					全員	
12	実習事後学習:実習終了アンケートの作成・実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。[グループワーク]					全員	
13	実習事後学習:保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善について考える。報告会の準備をする。[グループワーク]					全員	
14	実習報告会に参加し、他の学生と学びを共有する。レポートを作成する。					全員	
15	保育士としての自己課題を明確にする。(実習評価の伝達と履修カルテの記入)					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	50	①実習の目的を理解している。②主体的に討議に参加している。③表現技術を身につけ実践しようとしている。④保育士の職務や専門性について理解している。⑤実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し教材や指導計画を工夫して作成している。③実習日誌の書き方を理解し、目的に応じて書き分けることができる。④保育の現場に適した指導計画を作成することができる。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①保育実習Ⅰ(学内演習)で課題となった保育技術を磨くよう、家庭において練習や復習を行う。[240分] ②実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。[240分] ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。[早めにとりかかり準備する] ④指導計画案を作成する。[240分] ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。[240分]			指導計画の実演紹介等、に対する助言指導。				
受講生に望むこと	①「保育実習Ⅰ」(学内演習)で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をする。 ③「保育内容・健康Ⅱ」「保育内容・人間関係Ⅱ」「保育内容・環境Ⅱ」「保育内容・言葉Ⅱ」「保育内容・表現Ⅱ」「児童家庭福祉論Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養育内容」の授業に関連づけて、理解するよう努めること。 ④子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりをしていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。		教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499 ・授業でプリントを配布するので、各自A4判のファイルに保管すること。			
指定図書/参考書等	なし/なし(授業内で紹介することもある)		その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が未提出の場合は、実習を認めない。			
実務経験を活かした授業の概要							
谷:自分たちの実習ファイルを振り返り、エピソードからの学びを語り合う。最終実習では子どもの姿を読み取る、感じ取ることに重点をおき、エピソード記述の捉え方、意味を知り、保育現場の記録の在り方を学ぶ 高村:保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場の現代的課題を再整理し、指導案を立てる中で実践からの学びをグループで討議し、意識を高めている。また、一人一人の発達を踏まえた関わり、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。							





授業科目名	ET330U 保育実習指導Ⅲ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙・齊藤 英俊（代表教員 松本 理沙）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「保育実習Ⅰ（施設）」を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの性格、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。</li> <li>2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解している。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。</li> </ol>				
教授方法	演習形式により、児童福祉施設や障害者支援施設の実際について、教員よりの講義、ワークシート作成、各機関におけるフィールドワーク、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。						
履修条件	「保育実習指導Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得済みであること。原則、児童福祉施設・障害者支援施設への就職を指向する学生であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。						
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。						
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。						
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。						
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する支援法及び援助技術の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。						
6	保育士が実践するソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。						
7	実習予定施設における体験学習を行い、実習前に施設機能、利用者の状況、実習生として学ぶべき要点を考察する。						
8	実習に臨むに際しての学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関するニーズ、機能を明確にする。						
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分け。						
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。						
11	事前訪問で学んだことの報告を行なう。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。						
12	保育士・支援員の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどのように学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。						
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴いて内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。						
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探究する。						
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
講義参加姿勢	50	①実習の目的を明確に理解している。 ②主体的に討議に参加している。 ③保育士の職務や保育を理解しようとしている。 ④実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。 ②課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。 ③実習記録の書き方を理解している。 ④指導計画を適切に作成することができる。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①原則、「保育実習Ⅰ（施設）」での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は社会的養護関係施設、障害者支援施設・就労支援施設など多岐にわたるため、各自の実習施設の目的・機能についてまとめる。〔240分〕 ②施設実習は「生活を通しての治療」という性格が強く、実習生の日常生活や姿勢・態度など、自らの姿が実習そのものに大きく影響することを考察する。〔60分〕 ③実習報告会に向けて、各施設が有する課題及び問題解決の方法を考察する。〔120分〕			事後指導において、実習内容などの講評を行う。				
受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、保育実習Ⅰ（施設）での内容が経験知として積み上がらない場合がある。保育実習Ⅲ（施設）はより専門性が求められるハードな実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通じて収集する努力が求められる。		教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に資料配付を行う。			
指定図書／参考書等	なし／『保育実習 新・基本保育シリーズ②』 公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 ISBN978-4-8058-5800-4		その他・特記事項	①委託費など実習費用約15,000円が必要となる。詳細は初回講義時に説明する。 ②無断欠席・遅刻や課題未提出がある場合、実習を認めない。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ET335U 保育実習Ⅲ (施設)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙・齊藤 英俊 (代表教員 松本 理沙)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
実習期間として設定した12月上旬から中旬に、約10日間(90時間)の「施設実習」を行う。実習施設は大学より実習を依頼した原則北陸三県における児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設にて実習する。			児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。				
教授方法	児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設にて実習を行うとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。						
履修条件	「保育実習指導Ⅰ(施設)」、「保育実習Ⅰ(施設)」の単位を修得済みであること、及び「保育実習指導Ⅲ」を履修中であること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	90時間(約10日間)の実習において、下記の内容を行う。						
2	施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握し、職員の役割、業務内容と専門性を理解する。						
3	実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。						
4	実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。						
5	生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。						
6	入所児童及び家族と職員のコミュニケーションについて理解する。						
7	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。						
8	自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。						
9	養護(養育)実践におけるPDCAサイクルの具体的な展開を理解する。						
10	行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。						
11	実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。						
12	実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。						
13	実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。						
14	実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。						
15	実習を通じて学んだことより、児童福祉施設等のありかた、将来像を考察する。実習報告会に参加・発表する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
実習先の評価	40	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する。		巡回担当教員評価	30	巡回時の担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。	
提出物	30	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。[30分] ②実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。[50分]				事後指導において、実習内容などの講評を行う。			
受講生に望むこと	「保育実習Ⅲ」では、施設の持つ「専門機能」を理解し、社会的役割、使命という視点から考察することが求められる。また、職員の「専門性」である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について咀嚼されたい。施設機能は未分化の部分(日常性が表出している、その背景にある専門性が見えにくい)が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、配付資料などを用いる。		
指定図書/参考書等	なし/『保育実習 新・基本保育シリーズ②』 公益財団法人児童育成協会監修 中央法規 ISBN978-4-8058-5800-4			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。その他・事前訪問及び実習にかかる交通費については原則自己負担となる。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

子ども教育学科  
(4年次)



授業科目名	EK305U 専門ゼミⅡ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤 雄二・川真田 早苗・田邊 圭子・中島 賢介・宮浦 国江・虫明 淑子・村井 万寿夫・齋藤 英俊・永山 亮一・福江 厚啓・幸 聖二郎・谷 昌代・松本 理沙・向出 圭吾・高村 真希 (代表教員 伊藤 雄二)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>専門ゼミの最終段階として専門ゼミⅠに引き続き、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には口頭発表の方法(効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等)を身につけ、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果を専門ゼミⅡレポート(16000字程度:該当年度1月下旬締切)としてまとめるとともに、卒業後の課題の探求姿勢を身につける。</p>				<p>①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②専門ゼミⅡレポート(または作品と副レポート)の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③研究内容をまとめ、効果的に発表することができる。</p>			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	専門ゼミⅡの運営についてのオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
21	ゼミ内中間発表を行う。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	ゼミ内で、専門ゼミⅡ発表会のリハーサルを行う。				各担当教員
30	専門ゼミⅡレポート発表会を行う。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	レポート作成	70	計画的にレポートを作成し、作成要領に従って期限内に提出している。
レポート発表	20	専門ゼミⅡレポート発表会において、レポート内容を効果的に発表している。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する。 [90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止め、納得のいくゼミレポートを作成してください。		教科書・テキスト	各ゼミでの指定による。	
指定図書／参考書等	なし／各ゼミでの指定による。		その他・特記事項	①専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合には、卒業研究の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とします。 ②代替授業の場合はClassroomを用いて課題等を提示・提出することを基本とします。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	EK360U 卒業研究			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤 雄二・川真田 早苗・田邊 圭子・中島 賢介・宮浦 国江・虫明 淑子・村井 万寿夫・齋藤 英俊・永山 亮一・福江 厚啓・幸 聖二郎・谷 昌代・松本 理沙・向出 圭吾・高村 真希 (代表教員 伊藤 雄二)						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
4年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・体系的にまとめ、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。指導方法としては、担当教員の専門分野に分かれ、個別指導のもとに展開し、卒業研究または卒業作品（作品と副研究）としてまとめる。				①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②卒業研究や卒業作品（作品と副研究）の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③学習内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表することができる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる						
履修条件	「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得済みの者。3年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	卒業研究の運営についてオリエンテーションを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
22	ゼミ内中間発表を行う。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	ゼミ内で、卒業研究発表会のリハーサルを行う。				全員
30	卒業研究発表会で発表を行う。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	卒業研究の作成	70	計画的に卒業研究を作成し、作成要領に従って期限内に提出している。
卒業研究の発表	20	卒業研究発表会において、卒業研究の内容を効果的に発表している。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で、調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する [90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止め、納得のいく卒業研究を作成してください。		教科書・テキスト	ゼミの指定による	
指定図書／参考書等	なし／ゼミの指定による		その他・特記事項	①卒業研究の規定文字数は24000字以上(図表等を含む)とする。作品を提出する場合は、研究論文に作品を添えて提出する。卒業研究の提出は当該年度の期限までに大学事務室教務課とする。この場合の副研究論文は16000字以上とする。専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合は、卒業研究の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とする。 ②代替授業の場合はClassroomを用いて課題等を提示・提出することを基本とする。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					



授業科目名	EK350U 礼拝と教育		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修	
担当教員名	楠本 史郎・中島 賢介 (代表教員 楠本 史郎)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>キリスト教世界では旧・新約聖書の人間観に基づき、子どもは神に創造され、愛される尊い人格として重んじられる。その人格を養い育むために、キリスト教保育・教育は重要な役割を担ってきた。その努力と経験、知見の上に、近代の保育・教育理論は立てられている。本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち戻り、子ども的人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、礼拝および聖話、聖劇ページェント、音楽・賛美歌、自然環境など、各領域で体験・実践する。キリスト教保育の特徴である賛美歌を理解して歌い、祈りを作成し祈る。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。</li> <li>・保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。</li> <li>・キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、同時に子どもの集団形成の視点を知る。</li> <li>・礼拝のお話を作り、子どもに語り、子どもとともに祈ること、幼児賛美歌・こども賛美歌を理解して歌い、伴奏すること、聖劇を作り演じること、神の創造の業である自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解する。</li> <li>・子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の課題を知る。</li> <li>・幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ。</li> </ul>				
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、聖話および聖劇の制作・発表、自然体験などによる。						
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目の履修済が望ましい(単位未修得も可)。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス 授業予定、祈りと賛美歌伴奏についての説明など。近代教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学び、理解する。オーベルラン、ペスタロッツ、フレーベルの保育・教育思想におけるキリスト教の基盤を理解する。					楠本・中島	
2	現代教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学び、理解する。モンテッソーリ、倉橋惣三、フランシナE.ポーター、南信子の保育思想におけるキリスト教の基盤を理解する。					楠本・中島	
3	キリスト教保育・教育の基盤である聖書の人間観および、それに基づくキリスト教的発達観を理解する。創世記第1章・第2章、マルコ10章など。なぜ、この一人が大切なのかを聖書から学び、「自己肯定感」について考える。					楠本・中島	
4	キリスト教保育の実際について、現場の保育者の話を通して保育実践から、キリスト教と保育の関係を理解する。「キリスト教保育の喜び」を主題にシンポジウムを行い、交流し、保育の喜びと課題を分かち合う。					楠本・中島・キリスト教園園長・教諭	
5	前回の保育現場からの報告をもとに、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育の要点を振り返り、重要な点を確認し、理解する。子ども同士の衝突やトラブル、保護者への対応などの基本について、課題を整理する。					楠本・中島	
6	キリスト教初等教育の実際について、北陸学院小学校教諭から、「キリスト教小学校教育の喜び」という主題で話を通して保育実践から、キリスト教と初等教育の関係を理解する。交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。保育と小学校教育の相違と継続について考え、課題を整理する。					楠本・中島・北陸学院小学校教諭	
7	前回の保育現場からの報告をもとに、キリスト教保育と小学校教育の連携について理解する。小学校入学までに育っていることが望ましい子どもの姿とは何か。幼児から青年期までの発達段階全体を踏まえて、幼児教育の役割を確認し、小学校との連携の実際を学ぶ。					楠本・中島	
8	キリスト教保育における礼拝。聖書のお話(聖話)を作る。指定された聖書の物語の読み方、理解の仕方、礼拝におけるお話の作り方、話し方などを理解する。平和、性、安全・健康、国際理解などなどの主題を意識しながら。各自でお話を作ってみる。					楠本・中島	
9	キリスト教保育における礼拝。聖書のお話を実際に語ってみて、保育における礼拝の意味と重要性、またその課題を理解する。良かった点と課題を評価し、分かち合う。その上で修正を加え、お話し集を作成する。					楠本・中島	
10	幼稚園の降誕劇を視聴し、聖劇作成の要点を理解する。聖書の物語の読み方、理解の仕方、台本の作り方、演じ方などを理解する。グループごと、選んだ聖書の物語を題材に、聖劇台本を作り始める。					楠本・中島	
11	前回の学びをもとに、グループごとに話し合い、聖劇の台本を作成し、提出する。その台本に基づき、劇に必要な衣装、背景、道具などを作成し、役割を分担して練習する。劇を演じることにより、聖書の物語をより深く理解し、子どもと共に劇を作り上げる意味を理解する。					楠本・中島	
12	グループによる聖劇の発表を行う。良かった点と課題を話し合い、分かち合う。その上で修正を加え、劇台本集を作成する。					楠本・中島	
13	キリスト教保育にとって、自然は神が創造し、人間に与えられた重要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。					楠本・中島	
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。					楠本・中島	
15	キリスト教保育・教育について的小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめ。					楠本・中島	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表、お祈りや賛美歌伴奏の積極性	提出物	30	祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄		
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度	小テスト	25	キリスト教保育・教育についての理解度		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。[15分] ②提出物(聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど)を作成し、提出する。[60分] ③音楽練習、祈りの作成など、授業に臨む準備をする[30分]			毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。				
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること(賛美歌伴奏、お祈り、グループ活動など) ②旧・新約聖書、賛美歌集を持参すること ③遅刻や欠席をせず、グループによる、お話しや劇の作成作業に進んで参加すること。		教科書・テキスト	『新共同訳聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局			
指定図書/参考書等	参考書/『キリスト教保育』2007年 聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年 キリスト教保育連盟、『キリスト教保育』誌 キリスト教保育連盟、各種絵本など		その他・特記事項	①通常授業時間以外に、野外実践を2コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること。 ②代替授業日は、Classroomを用いてテキストと課題を提示します。			
実務経験を活かした授業の概要							
楠本: 教師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進める。 中島: 小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教教育の経験を授業内で紹介し、講義する。							

授業科目名	ES240U 欧米の児童文学		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨 由利					
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史を学ぶ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の実人生とのかかわりの中で理解を深める。</p>			<p>児童文学の歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのみならず、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。</p>			
教授方法	児童文学の大まかな歴史はスライドを用いた講義形式となるが、作品を実際についている受講者があれば、読後感等を発表してくれるのは歓迎したい。また、歴史を知るだけでなく、実際に作品の一部を英語、または日本語の翻訳で読む。また、各目、作品を1作読み、その作品を他の受講者に紹介するという形で、プレゼンテーションをしてもらう。講義の理解度をはかるための小テストも随時実施する。					
履修条件	原文講読も含むので、一定レベルの英語力を有することが要件となる。また、英語文学 I を履修済みであることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業に関するガイダンス 児童観の変遷による「児童文学」の誕生について					
2	19世紀半ば頃までのイギリスの児童文学（『ロビンソン・クルーソー』『シェイクスピア物語』『クリスマス・キャロル』など）について理解し、また、一部を読む。					
3	19世紀後半のイギリスの児童文学（『不思議の国のアリス』『宝島』『ノンセンスの本』など）について理解し、また、一部を読む。					
4	20世紀前半のイギリスの児童文学（『砂の妖精』『風にのってきたメアリー・ポピンズ』『クマのプーさん』など）について理解し、また、一部を読む。					
5	20世紀半ば頃のイギリスの児童文学（『ホビットの冒険』『ライオンと魔女』『グリーン・ノウの子どもたち』など）について理解し、また、一部を講読する。					
6	20世紀後半のイギリスの児童文学（『トムは真夜中の庭で』『黄金の羅針盤』『ハリーポッターと賢者の石』など）について理解し、また、一部を読む。					
7	19世紀半ばまでのアメリカの児童文学（『モヒカン族の最後』『スケッチ・ブック』『アンクル・トムの小屋』など）について理解し、また、一部を読む。					
8	19世紀後半のアメリカの児童文学（『若草物語』『トム・ソーヤーの冒険』『小公子』など）について理解し、また、一部を読む。					
9	20世紀前半のアメリカの児童文学（『オズの魔法使い』『大草原の小さな家』『小鹿物語』など）について理解し、また、一部を読む。					
10	20世紀後半のアメリカの児童文学（『クローディアの秘密』『影との戦い』『テラビシアにかけた橋』など）について理解し、作品の一部を読む。					
11	カナダの文学（『私が知っている野生動物』『赤毛のアン』『パパの最後の贈り物』など）について理解し、また、一部を読む。					
12	ニュージーランド・オーストラリアの文学（『青ざぎ牧場』『燃えるアッシュ・ロード』『目覚めれば魔女』など）について理解し、また一部を読む。					
13	受講者によるプレゼンテーション及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第1回）					
14	受講者によるプレゼンテーション及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第2回）					
15	英語圏以外の文学にも若干触れて、児童文学とは何かを、改めて考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	30	発表と、そのために作成したハンドアウトに説得力があるか。		提出物	30	作品をいかによく理解し、かつ、そのことを自分の言葉できちんと表現できているか。
小テスト	20	知識が正確に定着しているか。		授業への参加状況	20	授業に積極に取り組む姿勢が見られるか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
講義を十分に理解するためには、配布するプリントを事前に読んでおくことが必要です。[2時間以上] また、講義で触れたことを整理する時間[最低1時間] や、プレゼンテーションのために作品そのものを読んでいただくので、そのための時間も必要です。				小テストやワークシートは次回の授業で返却します。プレゼンテーションについてのコメントは当日または、翌週します。		
受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、そのメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めば、英語での表現力も身につきます。			教科書・テキスト	プリントを配布します。	
指定図書／参考書等	なし/『たのしく読める英米児童文学』 本多英明・桂宥子・小峰和子編著 ミネルヴァ書房、2000年 ISBN-13:978-4623031566 「作品を読んで考える児童文学講座」シリーズ（全4巻） 中野節子・水井雅子・吉井紀子著 JULA出版局、2009-12年 第1巻のISBN-13: 978-4882842231 その他はクラスで指示。			その他・特記事項	授業時には辞書を持参のこと。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						

授業科目名	EE350U 小学校英語科教育法Ⅲ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二（代表教員 宮浦 国江）					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は小学校教諭一種免許状の「または科目」である。本授業では小学校英語科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだことを発展させ、実際の授業場を想定して指導案を作り、教材を使って模擬授業を行いながら実践的指導力をさらに高める。英語母語話者と共にティームティーチングを準備から行い、ALTとの協同作業による授業実習を行う。			①子ども英語教育に関する知識を習得する。 ②学んだ教授法を実践と関連付けて考えることができる。 ③第一言語習得と第二言語習得の違いが分かる。 ④子ども英語指導に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導する態度を持つ。 ⑤あらゆる場面で見られる子どもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 ⑥クラスルームイングリッシュを適切に用いて英語母語話者とコミュニケーションを図ることができる。			
教授方法	講義・演習・ディスカッション					
履修条件	①小学校教諭一種免許状取得希望者で「小学校教育実習Ⅰ・Ⅱ」と「小学校英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済みであることが望ましい。②英語力がSTEP英検2級相当以上ある者が望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	①オリエンテーション、小学校英語教育実習（5月中1週間）について説明を受け理解する。 ②小学校英語科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだことを振り返り、重要な点を再確認する。					宮浦・伊藤
2	授業づくり一事前準備から振り返りまで小学校英語教育実習の教材および指導案作成について学ぶ					宮浦・伊藤
3	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに向けて模擬授業1回目					宮浦・伊藤
4	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに向けて模擬授業2回目					宮浦・伊藤
5	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに向けて模擬授業3回目					宮浦・伊藤
6	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチングに向けて最終確認と授業準備					宮浦・伊藤
7	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第1日（割り当てられた学年の指導）					宮浦・伊藤
8	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第1日（割り当てられた学年以外のクラスの授業参観・支援）					宮浦・伊藤
9	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第2日（割り当てられた学年の指導）					宮浦・伊藤
10	北陸学院小学校におけるALTとのティームティーチング第2日（割り当てられた学年以外のクラスの授業参観・支援）					宮浦・伊藤
11	小学校英語教育実習での学びについての振り返り					宮浦・伊藤
12	言語材料と4技能の指導、評価のあり方、進め方					宮浦・伊藤
13	ALTとのティームティーチングの好ましいあり方を考える					宮浦・伊藤
14	外国語活動の成果、課題と今後の展望について学ぶ					宮浦・伊藤
15	まとめ：これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする					宮浦・伊藤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加貢献状況	25	①予習として教科書を読み、ポイントをまとめたか。②課題意識を持って意欲的に授業に参加し、質問や発言をしたか。③授業実践に向けて自律的に準備を行ったか。		授業実践	50	①ねらいに沿った指導案と授業運営をしたか。 ②ティームティーチングの準備をきちんと行ったか。 ③児童を観察しながら授業を進めたか。 ④日本人教師としての役割を果たし、母語話者の特性も活かしたか。
自己省察・ディスカッション	25	小学校英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだこと、実践を振り返り、これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①予復習をしっかりと行うこと〔50分〕。 ②クラスルームイングリッシュ・英会話を頻繁に使用し英語運用力の向上を図ること〔40分〕。 ③担当する小学校の授業を参観し児童理解を深め、授業運営を把握しておくこと。 ④模擬授業の際は十分な時間をかけて準備し、リハーサルをして臨むこと。 ⑤ALTとの打ち合わせは効率よく行うこと。				随時行う		
受講生に望むこと	①意欲的に取り組むこと。 ②英語にひるまず英語力を高めるチャンスととらえること。 ③英語力を高めるため、英語力測定を定期的に行うこと。		教科書・テキスト	①『新編小学校英語教育入門』 樋口忠彦(代表)編著 研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 ※2020年度小学校英語科教育法Ⅰ・Ⅱと同じ教科書を使用 ②小学校英語科教育法Ⅰ・Ⅱで配布した資料 ③適宜配布するハンドアウト		
指定図書／参考書等	なし／子ども英語関連書籍		その他・特記事項	5月の小学校英語教育実習（日程は講義内で指示する）合計4時間分は自分の担当以外の授業も全て参加する。この間はアルバイト等自己都合の用事を入れず、実習に集中すること。詳細は1時間目にハンドアウトを用いて説明をする。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
伊藤：教員の経験をもとに次の授業を行っている。 ・小学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議、発表させる。ロールプレイを導入している。 ・小学校での経験を短期間の教育実習の指導案作成指導に生かしている。						

授業科目名	EE362U 教育相談 (小・中)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種 (英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義、心理的なかかわり方を学ぶ。講義を通じて、自分で調べ、考え、未経験の問題に対処する方略を見出す力を養う。			1) 教育現場で遭遇する問題を理解すること。 2) 基本的な相談技術を理解すること。 3) 多職種連携・協働を理解すること。 4) 科学研究の知識を修得すること。 5) 科学研究の技術を修得すること。			
教授方法	演習、講義、プレゼンテーション。					
履修条件	教職課程登録者に限る。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える					
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める					
3	自閉症スペクトラム障害と限局性学習障害：理解を深める					
4	自閉症スペクトラム障害と限局性学習障害：教壇に立ち分りやすく伝える					
5	注意欠如多動性障害と非行：理解を深める					
6	注意欠如多動性障害と非行：教壇に立ち分りやすく伝える					
7	いじめと不登校：理解を深める					
8	いじめと不登校：教壇に立ち分りやすく伝える					
9	虐待と自殺：理解を深める					
10	虐待と自殺：教壇に立ち分りやすく伝える					
11	統合失調症と抑うつ障害：理解を深める					
12	統合失調症と抑うつ障害：教壇に立ち分りやすく伝える					
13	カウンセリング的態度と連携・協働：理解を深める					
14	カウンセリング的態度と連携・協働：教壇に立ち分りやすく伝える					
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	プレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調し積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習し、人に教えることができるまで理解すること。[120分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]			期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	教員として修得することが推奨される科学研究の知識と技術を身につけることを目指す。毎回相当量の予習と講義における他者との協働が不可欠である。一方的に講義を聴くスタイルとは性質が大きく異なることを理解して受講すること。		教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学』、増田梨花 (編著)、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。 ・代替授業はgoogle classroomを通じて課題提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
スクールカウンセラーの実践経験を生かし、障害、疾患、多職種連携、協働、コンサルテーション、心理療法といった心理的対応について教授している。						

授業科目名	EC300U 選択音楽		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田 恵美					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「音楽」及び「音楽表現Ⅰ,Ⅱ」で身に付けた知識や技術をさらに高める授業である。歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュに加え、編曲・作曲・指揮法についても学ぶ。また、保育現場や小学校の授業で必要とされる歌唱教材の弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技術を身に付けることを目的とする。</p>			<p>①小学校音楽科の指導内容について理解する。          ②音楽表現を保育活動に取り入れる方法を理解し、実践できるようになる。          ③子どものうたや歌唱教材の弾き歌いができるようになる。          ④様々な演奏形態のアンサンブル指導ができるようになる。</p>			
教授方法	リモート及び対面授業による、講義と演習					
履修条件	「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「器楽Ⅰ」「音楽」「音楽科教育法」または「保育内容・表現指導法」を履修していることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。					
2	楽典Ⅰ：譜表と音名・音符と休符についての理解を深める。視唱・視奏Ⅰ：ハ長調の楽曲の視唱・視奏。アンサンブルⅠ：楽器の取扱い、奏法を实践で学ぶ。					
3	視唱・視奏Ⅱ：ハ長調の楽曲の読譜、歌唱、伴奏及び弾き歌い練習。アンサンブルⅡ：楽器の取扱い、奏法についてまとめる。楽曲分析Ⅰ：歌唱曲の楽曲分析を行う。					
4	楽典Ⅱ：拍子とリズムについての理解を深める。視唱・視奏Ⅲ：ト長調・ニ長調の楽曲の視唱・視奏。アンサンブルⅢ：合唱について学ぶ。発表Ⅰ：ハ長調の楽曲の発表。					
5	楽典Ⅲ：音程についての理解を深める。アンサンブルⅣ：合奏について学ぶ。発表Ⅱ：ト長調・ニ長調の楽曲の発表。					
6	楽典Ⅳ：曲想・奏法等に関する用語・記号について理解を深める。アンサンブルⅤ：打楽器合奏曲の読譜、パート練習。楽曲分析Ⅱ：合奏曲の楽曲分析を行う。					
7	楽典Ⅴ：音階・調号についての理解を深める。視唱・視奏Ⅴ：ハ長調・変ロ長調の楽曲の視唱・視奏。アンサンブルⅥ：打楽器合奏曲のパート練習、合奏。					
8	視唱・視奏Ⅵ：ハ長調、変ロ長調の楽曲の読譜、歌唱等の練習。アンサンブルⅦ：打楽器合奏曲のパート練習。楽曲分析Ⅲ：器楽曲の楽曲分析を行う。					
9	楽典Ⅵ：三和音についての理解を深める。アンサンブルⅧ：ミュージックベル・トーンチャイムについて学ぶ。発表Ⅲ：ハ長調・変ロ長調の楽曲の発表。打楽器合奏曲の発表。					
10	視唱・視奏Ⅶ：斉唱・合唱曲の読譜、歌唱、伴奏練習。楽曲分析Ⅳ：合唱曲の楽曲分析を行う。アンサンブルⅨ：ミュージックベル・トーンチャイム楽曲の読譜、パート練習。					
11	楽典Ⅶ：コードネームについての理解を深める。視唱・視奏Ⅷ：斉唱・合唱曲の歌唱練習及び指導法について考える。アンサンブルⅩ：ミュージックベル・トーンチャイム楽曲の練習。発表Ⅳ：斉唱曲の伴奏の発表。					
12	視唱・視奏Ⅸ：様々なリズム曲の視奏。演奏表現Ⅰ：自然の音を、様々な楽器や道具を使って表現する。楽曲分析Ⅴ：子どものうたの楽曲分析を行う。					
13	楽典Ⅷ：編曲・作曲について学ぶ。演奏表現Ⅱ：拍の流れやフレーズを生かした伴奏表現について考える。アンサンブルⅪ：アンサンブルの指導法について理解を深める。発表Ⅴ：ミュージックベル・トーンチャイム楽曲の発表。					
14	楽典Ⅸ：子どもの歌を編曲・作曲する。演奏表現Ⅲ：ピアノ伴奏における表現方法について学ぶ。指揮法：2拍子、3拍子、4拍子の指揮図形の確認。					
15	演奏表現Ⅳ：劇遊びにおける音の効果について考える。絵本の一場面音楽をつける。発表Ⅵ：編曲・作曲した子どもの歌の発表。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）		発表	40	発表への取り組みと内容。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[60分]				課題は、次回に個人指導します。		
受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編、東京書籍、2014年、ISBN978-4-487-71121-5／『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・山下薫子編著、教育芸術社、2017年、ISBN978-4-87788-491-8／プリント	
指定図書／参考書等	なし／『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-067-2／『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『保育者、教員をめざす人のための初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5			その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	EC310U 教育実践研究B		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	虫明 淑子					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業は、幼児教育におけるプロセスの「質」に着目し、国内外の優れた保育実践事例を検討することや、実際に保育現場で実践（意図的計画・実践のための記録と省察的検討）を行うこと等を通して「保育をみる目」を養い、保育実践の専門性の芽が確立されることを目的として行う。保育現場で行う園内研修内容に近い形で行うことを想定しているため、受講者には現場保育者同様の姿勢を求めていく。将来的に、幼児教育実践者の一員として本授業での学びを自らで発展させ、地域の保育の質向上を図ることに寄与してほしい。</p>			<p>①幼児教育における今日的課題を自分の問題として受け止め、改善に向けての実践力を主体的、探求的に学ぶこと、また、それらの過程を面白いと感じられるようになる。 ②保育実践を記録し、反省的に省察し、質を向上するPDCAサイクルのあり方について理解する。 ③保育者としての専門性（特に、保育者として求められる姿勢）を習得する。</p>			
教授方法	講義・代替授業・演習					
履修条件	幼稚園教育実習を履修し、幼児教育者（特に、幼稚園教諭）を志していることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	これまでの学びを振り返る：幼児教育に関してこれまでにどのようなことを学んできたか、今後どの部分を特に学び直したいか、具体的に考える。					
2	オリエンテーション：学校教育における幼児教育実践者としての専門性を理解する。					
3	幼児教育の根源的課題を資料から、教育実践課題に対する自分の考えをまとめる。					
4	幼児教育における様々な「質」とはなにか、さらに、プロセスの「質」について深化させて考える。					
5	良質と認めることのできる幼児教育実践から、幼児教育の基礎・基本を再確認する。					
6	教育実践研究に対する自らの考えを新たににする。					
7	良質と認められる実践事例とその特徴について検討する。					
8	なぜ記録が必要なのか：幼児教育の質を向上するために必要となる様々な記録とそのあり方とそれらの役割について考える。					
9	倉橋以降の幼児教育がこれまでに伝承してきた実践の「よさ」を再考する。					
10	教育課程や指導計画等の教師のねらいや願いに即する子どもの発達にふさわしい保育実践を計画する。					
11	海外における先進的幼児教育実践事例を検討する。					
12	保育実践を実際に行うための遊びを中心とした環境をどのように構成するか、環境を通して行う教育のよりよいあり方について子どもの姿を観察し計画する。					
13	よりよい記録のあり方：計画に基づく実践を実際に行い、自分で省察して書く。					
14	反省的省察と実践から得られた手がかりを対話的に考察し、よい実践とは何かを具現化するとともに、環境の再構成を図る。					
15	幼児教育における今日的課題に対する改善のあり方について明確にし、自分の問いとして考え、実践に活用できるようになる。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業態度、事前準備の内容等		課題	30	授業内容の理解度
記録の書き方	30	計画・実践及び評価の観点や省察内容等				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業に関連する事柄について事前に調べて必要なものを準備する〔1時間程度〕 事後に配布した資料や授業ノートの内容を復習する〔30分〕 指導案作成や実践記録を書く〔2時間程度〕</p>			<p>疑問や質問等については随時対応し、授業内容に反映する。</p>			
受講生に望むこと	保育現場研修に近い内容を想定しているので、授業準備にかかる時間がある程度必要であることを理解し、受講してください。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレール館 2018年 ISBN：9784577814475		
指定図書／参考書等	授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	奇数回は代替授業となっていますが、受講者の人数、興味・関心、保育現場の状況等に応じ、内容や日程を変更して行う場合があります。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者として複数園において保育実践や園におけるカリキュラム・マネジメントを行ってきた経験によって得られた知見を提示する。その他、園や地域における子育て支援活動や発達障害のある子ども及び保護者への支援活動による実務経験の他、実践研究を論文化した経験や園の保育の質向上を図るマネジメント実践者の経験も活用する。						

授業科目名	ET380U 教職実践演習 (幼・保)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・谷 昌代・高村 真希 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目で、4年間の学びの集大成として位置付けられています。これまでの学修で保育者としての力(保育の専門性)がどの程度身に付いたかを演習によって確かめます。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていきます。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていきます。このように、保育者として最低限必要な力(資質・能力等)について継続的、かつ、実践的に取り組んでいくようにします。</p>			<p>①幼稚園教諭・保育士資格の取得に関わる学びを履修カルテを通して振り返ることができる。          ②今までの実習体験や本授業での諸ワークを踏まえて、自分の保育者としての力を明確にすることができる。          ③保育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるかを知り、どのように高めていくかを考えることができる。          ④保育者の今日的役割とその対応として求められているものは何かを多様な視点から考えることができる。          ⑤自分が身に付けるべき力についてボランティア活動や園への訪問などを通して実践的に取り組むことができる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	幼稚園教員免許状・保育士資格取得に必要な実習を含む全科目(本学科を除く)の単位を修得し、幼稚園教員免許状・保育士資格取得見込みであること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要と目的及び評価方法などについて知る。履修カルテをもとに自己の学びを振り返る。					全員
2	カリキュラムマップの作成(1)：履修カルテをもとに振り返ったことをカリキュラムマップで構造的に表す。					全員
3	カリキュラムマップの作成(2)：カリキュラムマップを用いたグループ別討議を経て、他者からの気づきや自己課題を明確にする。					全員
4	レポートの作成：完成したカリキュラムマップをもとに自己課題と達成状況についてレポート作成のためのルーブリックを参照しつつレポートを作成する。(レポート)					全員
5	保育現場への参加①：幼稚園又は保育所(園)、認定こども園の保育活動の参観、あるいは園が主催する行事や活動に参加し、保育者の今日的役割とその対応について求められていることについて考える。(指導計画作成)					全員
6	保育現場への参加②：幼稚園又は保育所(園)、認定こども園の保育活動の参観、あるいは園が主催する行事や活動に参加し、保育者の今日的役割とその対応について求められていることについて考える。					全員
7	保育現場への参加③：幼稚園又は保育所(園)、認定こども園の保育活動の参観、あるいは園が主催する行事や活動に参加し、保育者の今日的役割とその対応について求められていることについて考える。(実践レポート作成)					全員
8	保育現場における今日的課題：前時の参観、参加をもとに、保育現場における今日的課題について各自で整理し、ミニレポートを作成する。(ミニレポート①)					全員
9	深めたい今日的課題：グループ別に深めたい今日的課題を明確にし、深める方法について考える。					全員
10	今日的課題探究①：グループ別に深めたい今日的課題について各自調べてまとめ、ミニレポートを作成する。(ミニレポート①)					全員
11	今日的課題探究②：前時に各自で調べてまとめたことをもとにグループ内で討論する。					全員
12	今日的課題探究③：グループ内で討論したことをもとにミニレポートを作成する。(ミニレポート②)					全員
13	今日的課題探究④：混合グループにして、前時のミニレポートの内容を紹介し合う。					全員
14	今日的課題探究⑤：混合グループによって得られたことを整理してまとめ、ミニレポートを作成する。(ミニレポート③)					全員
15	まとめとレポート作成：これまでの授業を振り返って「私のめざす保育者像」のテーマでレポートを作成する。(最終レポート)					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
履修カルテカリキュラムマップ最終レポート	30	・履修カルテ 5点 ・カリキュラムマップ 10点 ・最終レポート 15点 どの課題も構造的に自己の学びを表現しているか。	指導計画実践レポート	30	課題に即して書いているか。(2回分)	
ミニレポート	30	課題に即して書いているか。(3回分)	授業態度	10	積極的に授業に臨んでいるか。	
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>			<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>			
①各年次の履修カルテの必要事項の記入し、自己の課題を見出す。[45分] ②「実習ファイル」の記入内容を確認し、必要に応じて参照できるよう準備する。[30分] ③カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。[60分] ④学外学習(保育現場訪問)には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題を整理する。[30分]			各担当の教員が講義中に指示する「カリキュラムマップ」「指導計画」「実践レポート」「ミニレポート」「最終レポート」に取り組み、期限までに担当教員に提出してください。			
受講生に望むこと	保育者を目指して教員免許状及び保育士資格取得に取り組んできたのですから、最後まで意欲的、主体的に授業に臨んでください。		教科書・テキスト	なし(資料があれば適宜配布します)		
指定図書参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレール館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレール館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレール館 2018年 ISBN: 9784577814482		その他・特記事項	「実習ファイル」「履修カルテ」「学生要覧2018」を携行して授業に臨んでください。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、図書館での絵本の実践や幼保グループによる現場での今日的課題等のディスカッションを行い、現場に向く準備をする。 谷：総合的に教育について学ぶ演習のため、各施設における特徴や子どもについての課題等、学生自身が学びを深めるにあたり、現場の実践として事例をもとに考える機会もある。 高村：保育士としての経験をもとに、保育現場で求められている力や現代的課題を追求し、グループによるディスカッションを行っている。また、4年間の学びの中でうまれた保育観を深める機会を設けている。						

授業科目名	ET385U 教職実践演習(幼・小・中)		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫・伊藤 雄二・虫明 淑子・福江 厚啓 (代表教員 村井 万寿夫)					
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1年次から学修してきた「子ども教育」についての総括的な科目が本科目です。特に、教育実習を終えることにより、幼稚園・小学校・中学校の教職課程の全課程(本科目を除く)を履修したことになります。そのため、これまで(3年半)の学修で教育者としての力(教師力)がどの程度身に付いたかを演習によって確かめます。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていきます。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていきます。このように、教育者として必要な力について継続的、かつ、実践的に取り組んでいくようにします。</p>			<p>①幼稚園・小学校・中学校の教職課程における学びを履修カルテによって振り返ることができる。          ②教育実習を振り返りながら、自己のどのような力が発揮できたか明確にすることができる。          ③教育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるか知る。          ④必要な力(子ども理解力、環境構成力、対人関係能力、学習指導力、自己啓発力など)をどのように高めていくかについて考えることができる。          ⑤自己が身に付けるべき力についてボランティア活動や学校訪問などを通して実践的に取り組んでいくことができる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	教員免許状取得に必要な教育実習を含む全科目(本科目を除く)の単位を修得し、教員免許状取得見込みであること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: 授業の概要・目的・評価方法を知る/履修カルテによる学びの振り返りとカリキュラムマップ作成の見直しを持つ。					全員
2	カリキュラムマップの作成: 履修カルテをもとに振り返ったことをカリキュラムマップで構造的に表す。					全員
3	教育実習の振り返り: 教育実習ノートをもとに実習中に発揮できた力を洗い出し、グループ別(名簿順)に討論する。					全員
4	自己発見と自己啓発: 教育者を目指す上で求められる力にはどんなものがあるか知り、その力をどのように高めていくか考える。					全員
5	カリキュラムマップの完成と発表: 作成中のカリキュラムマップに自己の課題を補足して完成させ、グループ内(名簿順)でお互いに発表する。					全員
6	レポートの作成: カリキュラムマップをもとに自己課題と達成状況についてのレポート作成のためのルーブリックを参照しつつレポートを作成する。(レポートA)					全員
7	教育現場への参加: 幼稚園、小学校、中学校の教育活動の参観、あるいは園・学校が主催する行事や活動に参加する。 ※ボランティア活動や学習サポーター活動に代替することも可。					全員
8	園・学校における今日の課題: 幼稚園、小学校、中学校における今日的課題について各自で整理する。(小レポート①)					全員
9	深めたい今日の課題: グループ(校種別)に別れて前時に作成したレポート内容を紹介しながら、今後、討論を深めていきたいことを明確にする。					全員
10	今日的課題の探究①: グループ(校種別)で深めていくことになった今日的課題について各自で調べてまとめる。(小レポート②)					全員
11	今日的課題の探究②: 前時に各自で調べたことをもとに校種別グループで討論する。					全員
12	今日的課題の探究③: 校種別で討論したことをもとにレポートを作成する。(小レポート③)					全員
13	今日的課題の探究④: 校種混合による新たなグループをつくり、小レポート内容を紹介し合う。					全員
14	今日的課題の探究⑤: 校種混合によるグループによって得られたことを整理してまとめる。(小レポート④)					全員
15	学習の振り返りとまとめ: 学習を振り返って「私の教育者像」のテーマでレポートを作成する。(レポートB)					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
カリキュラムマップ	15	構造的に自己の学びを表現している。		レポートAB	30	課題に即して書いている。(AB2回分)
小レポート	40	課題に沿って書いている。(①②③④4回分)		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>①各年次の「履修カルテ」に必要な事項を記入し、自己の課題を見出す。[30分]          ②「実習ファイル」(幼・小・中)の記入内容を確認し、「できたこと」「できなかったこと」を明確にする。[30分]          ③カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。[60分]          ④学外学習(幼・小・中訪問など)には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題整理する。[60分]</p>				<p>各担当の教員が講義中に指示する「カリキュラムマップ」「レポートAB」「小レポート①②③④」に取り組み、期限までに担当教員に提出してください。添削して返却します。※「カリキュラムマップ」と「レポート」は栄光祭の際、子ども教育学科ブースで展示する予定です。</p>		
受講生に望むこと	教育者を目指して教員免許状取得に頑張ってきたのですから、最後まで意欲的、主体的に授業に臨んでください。			教科書・テキスト	なし(資料は適宜配付します。)	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「実習ファイル」(幼・小・中)、「履修カルテ」、『学生要覧2018』を携行して臨んでください。</li> <li>偶数回の授業は基本的に代替授業になります。レポート課題はClassroomに投稿して提出してください。</li> </ul>	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>村井: 実際の小学校の教師に、「小学校教師に求められること」の観点から聞き取りし、それをもとに学生の指導に役立てている。          伊藤: 小中高における指導経験を語り、学生が深めたいと思う今日的課題に対するアドバイスを行い、足りない学習を見えるよう支援している。          虫明: 幼稚園のカリキュラム・マネジメント者としての実践経験から、なぜ幼児教育が小学校以降の学習の基盤となるか等について具体的事例を挙げ、説明している。          福江: 幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをおこなっている。</p>						



授業科目名	EC345U 幼児理解		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・齊藤 英俊・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>幼児一人ひとりとは異なった発達の姿を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。そこで保育者は、幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。本授業では、これから教育・保育の場に向かうための、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指すとともに幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学ぶ。代替授業の課題については、担当教員からのメール添付で提示するので、指定日までにその都度指示された方法で提出する。</p>			<p>①幼児理解の視点を理解している。          ②子どもの姿の事例（ビデオを含む）から客観的に読み取ったり、実際に子どもと関わることで、幼児の動線や心が動くポイントをつ捉えることができる。          ③幼児理解の方法（アセスメント）を捉えることができる。          ④幼児の保育・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を身に付ける。          ⑤保育を評価することを理解している。</p>			
教授方法	講義・演習・代替授業					
履修条件	教育実践研究Bを履修していることが望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼児理解の視点について理解する。環境を通して行う教育、発達や学びの連続性の確保、保育を評価するとはどういうことかを捉え、その意義について考える。					向出
2	生活・遊びの実践を通しての幼児理解①：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面を個々に読み取る。					向出
3	生活・遊びの実践を通しての幼児理解②：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面をいくつかのパターンを考えて読み取り分析してみる。					向出
4	生活・遊びの実践を通しての幼児理解③：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面を読み取るとともに、遊びの動線や心が動くポイントについて考える。					向出
5	自身の保育実践のエピソードより考察する。エピソードから読み取れる子どもたちの姿は『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』にどのように繋がるのか考える。					谷
6	保育、教育等の実践場面のエピソードを基に考える。子どもたちとの関わりから保育者、教育者、支援者として、自身に育ってほしい、資質・能力について考える。					谷
7	幼児理解の方法①：これまでの自分の実習記録のエピソードから生活・遊びのエピソードを取り上げ、改めて見直すことで、子どもの内面や心が動くポイント、子どもの動線について分析することで幼児理解を深め合う。					向出
8	幼児理解の方法②：これまでの自分の実習記録のエピソードから個と集団のエピソードを取り上げ、改めて見直し、子どもの内面や心が動くポイント、子どもの動線について分析することで幼児理解を深め合う。					向出
9	観察法・評定法・面接法・事例研究法など研究法について、事例などを通して実際的に学ぶ。					齊藤
10	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。					齊藤
11	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。					齊藤
12	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について学ぶ。					齊藤・谷
13	子どもたちを取り巻く環境の諸問題を理解し、子育てにおける保護者の相談事を知る。親子支援の在り方と今日的課題について学ぶ。					谷
14	子ども主体の保育実践に向けて、安全・危機管理・衛生管理を徹底して守られた環境の中で、子どもたちは本当に主体的に自己発揮できるのだろうか。保育者の思いと子どもの思いにズレがあることに気付く。子どもたちの成長を手探りに子どもを総合的に理解する。					谷
15	幼児理解の方法③：実際に子どもたちと関わる実践事例（ビデオを含む）を通して、集団としての子どもの内面を読み取り分析してみる。指導要録や保育の評価及び保幼小の連携について理解する。					向出
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への積極的な参加、意欲的な取り組みができていくか。		課題レポート	70	代替授業や対面授業内に提示される課題レポートの内容が適切か。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
<p>①テキスト等を事前に読んで、課題レポートの作成の参考にする。[50分]          ②実習ファイル等でこれまでのエピソードを検証し、改めて自分なりの読み取りを見直ししておく。[60分]          ③幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学びの振り返りを行う。[50分]</p>			<p>提出された課題レポートのやり取りを通して、内容についてその都度振り返りを行い、自分の学びとしていく。</p>			
受講生に望むこと	現場で働くという自覚と意欲をもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『幼児理解に基づいた評価』文部科学省 チャイルド本社 2019年 ISBN: 4305402830 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499		
指定図書／参考書等	なし／『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN: 9784623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編 みらい 2008年 ISBN: 978-4860151430		その他・特記事項	代替授業では、主にメール添付にて課題の提示提出を行う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
<p>向出：これまでの実習を踏まえて、遊びの実践や他学年への指導を踏まえて幼児を理解する力をつける。          谷：子どもを様々な側面から理解することを事例を通して学ぶ。実際の子どもとの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。          齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。</p>						

授業科目名	EN330U 保育カウンセリング		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	松本 理沙						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>近年社会情勢の変化と共に、人の生き方が大きく変化し、保育家庭のあり方や抱える問題も多様になってきている。保育者には、そうした保育相談の多様性に対応できる支援技術が求められている。そこで当授業では、「社会福祉」「相談援助技術」での学びを踏まえ、子どもの健やかな育ちを目指した保育相談支援の理論と技術を学ぶ。</p>			<p>①保育相談支援の意義と原則について理解している。          ②保護者支援の基本を理解している。          ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解している。          ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解している。</p>				
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	「相談援助技術」の単位を修得済みであること。「保育実習Ⅰ(保育所)」、「保育実習Ⅰ(施設)」、「幼稚園教育実習Ⅱ」を履修中または履修済みであること。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保育カウンセリングの基本的な考え方						
2	保育現場で使えるカウンセリング技法①ペーシング（雰囲気合わせ）、うなずき・あいづち、伝え返し（リフレクション）						
3	保育現場で使えるカウンセリング技法②ミラーリング（動作合わせ）、わたしメッセージ、リフレーミング（見方を変えれば短所が長所になる）						
4	保育現場で使えるカウンセリング技法③勇気づけ、がんばり見つけ（エンカウンター）、モデリング（お手本）						
5	保育現場で使えるカウンセリング技法④ピアサポート、アサーション、ソリューション・フォーカスト・アプローチ						
6	子どもにかかわる保育カウンセリング①かんしゃくがとまらない子、友だちと遊べない子、ケンカが絶えない子						
7	子どもにかかわる保育カウンセリング②保育者になつかない子、関心をもったり集中したりできない子、嘘をつく子						
8	子どもにかかわる保育カウンセリング③暴力をふるう子、よい食習慣がない子、まばたき・指しゃぶりが多い子						
9	子どもにかかわる保育カウンセリング④性に関心のある子、発達に課題のある子、家族が問題を抱えている子						
10	保護者にかかわる保育カウンセリング①保護者との信頼関係、かかわり方のポイント、関係づくりのポイント						
11	保護者にかかわる保育カウンセリング②親と子の関係性を支援する一子育て支援、発達障がいの子を抱える保護者へのかかわり、精神疾患を抱える保護者へのかかわり						
12	保護者にかかわる保育カウンセリング③地域のネットワークにつなぐ、保育者と保護者で行う新しい取り組み						
13	同僚の保育者と支え合うための保育カウンセリング①カウンセリングは保育者の定着率アップとメンタルヘルスに役立つ、保育者同士のチームワークを育む						
14	同僚の保育者と支え合うための保育カウンセリング②管理者が保育者に行うカウンセリング、保育者のための専門家によるコンサルテーション						
15	同僚の保育者と支え合うための保育カウンセリング③保育者の定着化のために、保育者のメンタルヘルスのために						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加姿勢	30	演習科目ではあるが、レポートも併用する。授業に積極的に取り組む姿勢を評価する。	期末レポート	30	事例をよく読み込み、授業のポイントを踏まえてまとめてあるレポートを評価する。授業に触れず持論を展開するレポートは評価が低くなる。		
レポート	40	毎回の授業内容が理解できているか。又、演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分]          ②授業で学んだカウンセリングの技法を実際に使ってみる(授業後、日常生活の中で実践する)。</p>			<p>【代替授業】のレポートについて、可能な限り個別にコメントし、【対面授業】の内容に反映させる等を行う。</p>				
受講生に望むこと	「相談援助技術」に引き続き、演習形式の講義ではあるが、【代替授業】の場合教科書や参考文献の検索などを通じて、レポート作成を行う。「相談援助技術」学んだコミュニケーション技術を、この授業では保育場面に特化して、さらに深化させる。		教科書・テキスト	『スキルアップ 保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック』諸富祥彦・大竹直子編 誠信書房 2020年 ISBN: 978-4-414-41664-0			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントは最終レポート作成に必要なので、各自で整理しておくこと。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ET365U 中学校教育実習 I		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江（代表教員 伊藤 雄二）					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>中学校教育実習指導で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または各自の出身中学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、指導技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。</p>			<p>①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持てるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。</p>			
教授方法	9月に2週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	中学校教育実習指導を履修していること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、下記の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。					
	生徒を指導する上で必要な専門的技術や能力を身につける。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。					
	中学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。					
	英語授業に関して：なるべく多くの英語を用いて授業を運営してみること。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目		教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。				教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。		
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。			教科書・テキスト	「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」 文部科学省 開隆堂 2018 ISBN:9784304051692	
指定図書／参考書等	なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ET370U 中学校教育実習Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江（代表教員 伊藤 雄二）					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>中学校教育実習指導で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または各自の出身中学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。</p>			<p>①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。</p>			
教授方法	9月に2週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	中学校教育実習指導を履修していること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、下記の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。					
	生徒を指導する上で必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身につけたかを記録する。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。					
	中学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。					
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみる。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。					
<b>成績評価方法及び基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目		教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。				教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。		
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。			教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN:9784304051692	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ET320U 保育実習指導Ⅱ		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代・高村 真希 (代表教員 谷 昌代)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。</p>			<p>①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。          ②保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。          ③保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。          ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。          ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。          ⑥実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。</p>				
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表						
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みの者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	・オリエンテーション ・保育実習Ⅰ（学内演習）における自己課題を整理し、実習Ⅱに向けて準備を行う。					全員	
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。					全員	
3	子どもの保育と保護者支援について①：多様な保護者支援のあり方を知る。保護者支援についてレポートを作成する。					全員	
4	子どもの保育と保護者支援について②：実習園での状況とレポート作成の視点を話し合う。保護者の求める支援と現実に行っている支援について考え、今後の保護者支援における課題を考える。〔グループワーク〕					全員	
5	保育実習日誌について①：時系列・エピソード記録・エピソード記述の視点、書き方を理解して作成し、提出する。子どもに寄り添い感じ取る、子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることについて考える。					全員	
6	保育実習日誌について②：保育所保育指針を参考にし、発達の観点をとらえ、ねらいを明らかにして指導計画を作成する。添削後の日誌を修正する。					全員	
7	実習先保育所の事前訪問：プレ実習の日程を確認する。子どもの姿を観察し、教材や各計画の準備に入る。					全員	
8	保育所事前訪問記録作成・実習課題の準備を行う。子どもに寄り添い深く読み取ることについて考える。					全員	
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聴き、学びのレポートを作成する。					全員	
10	保育実習Ⅰの指導計画を振り返り、保育実習Ⅱの部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。指導計画案を作成し、提出する。今までの実習を振り返り、自己課題（苦手だった活動・保育技術等）を見直し、実践してくるよう計画に入れる。					全員	
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じた関わりあい・関わりについて考える。〔グループワーク〕					全員	
12	実習事後学習：実習終了アンケートの作成・実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。〔グループワーク〕					全員	
13	実習事後学習：保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善について考える。報告会の準備をする。〔グループワーク〕					全員	
14	実習報告会に参加し、他の学生と学びを共有する。レポートを作成する。					全員	
15	保育士としての自己課題を明確にする。（実習評価の伝達と履修カルテの記入）					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	50	①実習の目的を理解している。②主体的に討議に参加している。③表現技術を身につけ実践しようとしている。④保育士の職務や専門性について理解している。⑤実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し教材や指導計画を工夫して作成している。③実習日誌の書き方を理解し、目的に応じて書き分けることができる。④保育の現場に適した指導計画を作成することができる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①保育実習Ⅰ（学内演習）で課題となった保育技術を磨くよう、家庭において練習や復習を行う。〔240分〕 ②実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。〔240分〕 ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。〔早めにとりかかり準備する〕 ④指導計画案を作成する。〔240分〕 ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。〔240分〕			指導計画の実演紹介等、に対する助言指導。				
受講生に望むこと	①「保育実習Ⅰ」（学内演習）で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をする。と ③「保育内容・健康Ⅱ」「保育内容・人間関係Ⅱ」「保育内容・環境Ⅱ」「保育内容・言葉Ⅱ」「保育内容・表現Ⅱ」「児童家庭福祉Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養育内容」の授業に関連づけて、理解するよう努めること。 ④子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりをしていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。		教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 ・授業でプリントを配布するので、各自A4判のファイルに保管すること。			
指定図書／参考書等	なし／なし（授業内で紹介することもある）		その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が未提出の場合は、実習を認めない。			
実務経験を活かした授業の概要							
谷：自分たちの実習ファイルを振り返り、エピソードからの学びを語り合う。最終実習では子どもの姿を読み取る、感じ取ることに重点をおき、エピソード記述の捉え方、意味を知り、保育現場の記録の在り方を学ぶ 高村：保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場の現代的課題を再整理し、指導案を立てる中で実践からの学びをグループで討議し、意識を高めている。また、一人一人の発達を踏まえた関わり、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。							



授業科目名	ET340U 介護等体験		開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
高齢者施設や児童施設などの社会福祉施設において5日間、特別支援学校において2日間の介護等体験活動を行う。体験に入る前に事前指導を行い、体験後は事後指導を行う。このように、事前指導+7日間の介護体験+事後指導のセットによる授業が本科目の概要である。事前指導には、介護等体験に係る書類等の説明と作成を含む。なお、書類は大学が一括して石川県社会福祉協議会や石川県教育委員会に提出する。			①教職をめざす学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解することができる。 ②ノーマライゼーションの理念について理解することができる。 ③高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考えながら体験することができる。 ④体験によって何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書くことができる。			
教授方法	講義（事前・事後）、体験（5日間+2日間）					
履修条件	3年次生までに必要な教員免許状取得のための科目を履修していること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業概要をもとに学びの見通しを持つとともに介護等体験の意義と手続きについて理解する。					
2	人間の障がいの理解：ノーマライゼーションの理念について理解するとともに介護等体験で出会う障がいについて知る。					
3	社会福祉についての理解：社会福祉の理念（基本的な人権と社会福祉）や内容（児童福祉、高齢者福祉、障がい福祉）について理解する。					
4	特別支援教育についての理解：特別支援教育の基本的な考え方（インクルーシブ教育）や教育内容（教育課程など）について理解する。					
5	体験活動の実際①：福祉施設における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。					
6	福祉施設での介護等体験①：施設利用者の1日の生活に寄り添う。【体験1日目】					
7	福祉施設での介護等体験②：施設利用者が必要で、自己ができる介護、援助、補助などを見つける。【体験2日目】					
8	福祉施設での介護等体験③：自己ができる介護、援助、補助などを行う。【体験3日目】					
9	福祉施設での介護等体験④：自己ができる介護、援助、補助などを繰り返したり、新たに見つける意識をもって臨む。【体験4日目】					
10	福祉施設での介護等体験⑤：自己の経験や学びをもとに感謝の気持ちを持って施設利用者とは会話するようにする。【体験5日目】					
11	福祉施設での介護等体験の振り返り：5日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートA）					
12	体験活動の実際②：特別支援学校における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。					
13	特別支援学校での体験①：児童生徒の1日の学校生活に寄り添い、自分がどんな支援・援助ができるか考えながら接する。【体験1日目】					
14	特別支援学校での体験②：1日目の体験で気付いたり考えたりしたことをもとに、2日目はどのように関わっていくか考えて接する。【体験2日目】					
15	特別支援学校での介護等体験の振り返り：2日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートB）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
介護等体験レポートA	50	福祉施設における5日間の体験によって、どのような学びがあったのかを中心にまとめている。	介護等体験レポートB	20	特別支援学校における2日間の体験によって、どのような学びがあったのかを中心にまとめている。	
小レポート	15	福祉施設や特別支援学校における体験についての講義内容をもとに、自己の気付きや発見などを書いている。	授業態度	15	積極的に授業に参加している。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①第1回目の授業後に課す「ノーマライゼーションとは何か」について自己で調べて第2回目に授業に臨む。（事前学習） ②第3回目の授業後に課す「インクルーシブ教育とは何か」について自己で調べて第4回の授業に臨む。（事前学習） ③7日間の体験中、その日の体験が終わったら毎回、『介護等体験日誌』を書く。（事後学習） ④体験終了後1週間以内に『介護等体験日誌』を授業担当者に提出する。（事後学習）			①授業（講義・演習）の中で課した小レポートを添削して返却する。 ②福祉施設や特別支援学校での体験中に記録する「介護等体験日誌」にコメントして返却する。			
受講生に望むこと	①教職をめざす学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解した上で実際の体験に臨むことができるようにしてください。 ②高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考え、機会があるときには積極的に交流できるようにしてください。 ③ノーマライゼーションの考え方を理解し、今後の生き方の中でそれを大切にしていくという意識を持つってください。		教科書・テキスト	『介護等体験安心ハンドブック』、庄司和史著、学事出版、2018年版、1650円 ISBN978-4-7619-2477-5		
指定図書／参考書等	『介護等体験ハンドブック』、現代教師養成研究会編、大修館書店、2014年版、1320円、『介護等体験ガイドブック フィリア』、全国特別支援学校校長会編著、2014年版、ジ アース教育新社／なし		その他・特記事項	代替授業の課題はClassroomに投稿して提出してください。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行っている。						





社会学科  
(1年次)



授業科目名	SK100U 基礎ゼミ I		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	竹中 祐二・小林 正史・田中 純一・矢澤 励太・松下 健・加藤 仁 (代表教員 竹中 祐二)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノートテイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。</p>			<p>①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。</p>			
教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。					
履修条件	社会科学1年生または社会科学の学生で再履修となった者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	期首オリエンテーション・第1章 スタディ・スキルズとは					全員
2	第5章 大学図書館における情報収集					全員
3	図書館オリエンテーション					全員
4	第2章 ノート・テイキング					各担当教員
5	フレッシュマン・セミナーにおける学科別協議の準備					全員
6	第3章 リーディングの基本スキル・第4章 より深いリーディングのために					各担当教員
7	第3章 リーディングの基本スキル・第4章 より深いリーディングのために					各担当教員
8	第3章 リーディングの基本スキル・第4章 より深いリーディングのために					各担当教員
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。					各担当教員
10	第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル・第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために					各担当教員
11	第8章 アカデミック・ライティングの基本スキル・第9章 効果的なアカデミック・ライティングのために					各担当教員
12	第11章 プレゼンテーションの基本スキル・第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために					各担当教員
13	第11章 プレゼンテーションの基本スキル・第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために					各担当教員
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。					各担当教員
15	期末オリエンテーション					全員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定した書式・字数・枚数になっている。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっている。		レジュメ作成とレポート発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメ(含ノート・テイキング練習課題) ②第9回に提出する進捗状況レポート ③聞き手が理解しやすい発表
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしている。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べている。 ③課題にまじめに取り組んでいる。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>①基礎ゼミIで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「社会学」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。 …上記①～③を踏まえつつ、 ・レポートのためにリサーチを重ね、執筆に取り組むこと。[60分] ・学んだことはその日のうちに復習すること。[30分]</p>				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	基礎ゼミIは大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっているとと言っても過言ではない。大学およびそれ以降の社会に必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN: 978-4-87424-789-1	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかわるので注意すること(なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること)。代替授業の方法についてはゼミ担当教員がゼミ単位で具体的に指示を行うが、その他不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SK105U 基礎ゼミⅡ		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希實・小林 正史・田引 俊和・矢澤 励太・井上 克洋・松下 健 (代表教員 俵 希實)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成(前期からの継続と発展)、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた(11月の「北陸学院セミナーⅡ」でのグループ討論を念頭)に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。			①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイデアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要を理解する。成績指導を受け、履修登録確認を行う。					全教員	
2	テキスト第6章 インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する。					全教員	
3	レポート課題の選定					各担当教員	
4	テキスト第7章 情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。					各担当教員	
5	レポートの構想発表					各担当教員	
6	テキスト第8章 アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
7	グループ・ディスカッション：オータムセミナーのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。					各担当教員	
8	オータムセミナーグループ討議のふりかえり					全教員	
9	テキスト第9章 効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。					各担当教員	
10	テキスト第11章 プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表					各担当教員	
11	レポート中間発表					各担当教員	
12	テキスト第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備					各担当教員	
13	レポート内容の発表準備 各ゼミ必要に応じてレポート最終発表					各担当教員	
14	レポート最終発表					各担当教員	
15	履修指導 アンケート調査 プロゼミ説明会					全教員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。		授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。	
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。②聞き手が理解しやすい発表となっているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①各回の授業で指定された課題(テキスト、サブテキスト、参考図書)の指定部分をまとめ、レジュメを作成するなど)を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つとらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。				ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応します。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じます。			
受講生に望むこと	「基礎ゼミⅡ」は、「基礎ゼミⅠ」とともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN: 978-4-87424-789-1		
指定図書/参考書等	指定図書 なし/参考図書 『大学生のためのリサーチリテラシー入門』山田剛史・林創 ミネルヴァ書店 2011年 ISBN: 978-4-623-06045-0			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SK110U 社会学リ-講義			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太・勝谷 紀子・楠本 史郎・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・俵 希實・真砂 良則・若山 将実・井上 克洋・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平・加藤 仁（代表教員 矢澤 励太）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会学科の専任教員が順番に、毎回自分の専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって学生は、社会学、および関連領域の中から興味ある分野や自分が研究したいテーマを見つけ、2年次のプロゼミ選択の際の判断材料とする。</p>				<p>①社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。 ②講義で扱う各分野の内容を理解する。 ③各回の講義で学んだことを整理し、レポートにまとめることができる。</p>			
教授方法	社会学科専任教員によるオムニバス講義。						
履修条件	特になし。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション：社会学科での学びの目的、および本授業の目的と進め方を理解する。課題レポート評価基準「ループリック」の説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。						矢澤
2	自然災害からの復旧・復興過程における社会的課題について「人間の復興」の視点から考える。						田中
3	カウンセリングや心理検査など、心理学の研究知見を対人援助に応用する臨床心理学について学ぶ。						松下
4	障害者の心理学：偏見や差別、障害受容など障害者をめぐる問題について心理学の立場から考える。						勝谷
5	「パーソナリティ」の心理学：ダークトライアドと呼ばれる3つのパーソナリティについて、事例を通じて理解を深めるとともに、人間関係・自分自身の付き合いについても考える。						加藤
6	「社会病理学」の成り立ちを振り返り、「社会病理」とは何かという問いに向き合うことを通じ、「社会学」の世界への理解を深め、また、私達が生きる「社会」それ自体の在り方への理解を深める。						竹中
7	「多文化共生」をテーマとし、社会学的思考、社会調査結果を用いて、社会のあり方について考える。						俵
8	文化間比較という人類学の方法に基づいて、日本の伝統的食文化の諸特徴を意味を検討する。						小林
9	情報学とは何かを考えるため「情報とは何か」という根本的な問いを取り上げる。情報に関わる歴史的な議論を踏まえ、情報メディア論への基本的な理解を目的とする。						若杉
10	国政や地元石川県の政治の時事問題を1つ取り上げ、その政治の時事問題がなぜ生じたのかを、政治学的なアプローチによって検討していく。						若山
11	宗教と社会の関係を見る方法論の概略を、K. MarxとM. Weberを比較して学ぶ。宗教的確信と使命感が行政を動かす力となった例を見る。宗教と社会の連関を知る。						楠本
12	キリスト教が抽象的・思弁的な営みではなく、日常生活や社会と深く結びついた営みであることを慣用表現や日本に定着している行事等の具体例を通じて発見する。						矢澤
13	障害概念の基礎的理解、心の不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について学ぶ。						田引
14	超高齢社会を迎え、介護問題をはじめ高齢者をめぐる福祉ニーズは拡大化、多様化してきている。このような動向を踏まえ、高齢者福祉の意義やあり方について考える。						真砂
15	・イギリスの工業化が、イギリス社会を物心両面においてどのように変えていったのかを検討し、近代の意味について考える。 ・石川県の現状を踏まえながら、男女共同参画社会について考える（石川県男女共同参画課によるワークショップ）。						井上・矢澤
<b>成績評価方法及び基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	90	①各回の授業担当者ごとに出される課題レポートの提出（全14回分のレポート提出） ②レポート内容（評価基準は、第1回講義のレポート課題評価基準「ループリック」および下記「授業外における学習」欄を参照）			受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
<p>①講義で学んだことを整理・復習する。 [30分以上] ②講義中に紹介された図書や資料については講義後各自で読む、調べる。 [30分以上] ③講義によっては事前に関連する資料を配布するので熟読すること。 ④こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる（福祉分野） ⑤以下の評価基準に留意しレポートを作成すること。分量、文体の統一、漢字とかなの使い分け方針の一貫性、誤字・脱字、文頭と文末の対応、一文の長さ、段落の一字下げの有無等。</p>				提出されたレポートについては、別途、総評をする。			
受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生の皆さんには積極的な授業への参加態度（教員の問いかけに答えるなど）を望みます。			教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／各回の担当者の指示に従うこと。			その他・特記事項	①対面授業週に2回分の講義、代替課題週に同2回分のレポートに取り組む。 ②週間かけて2回分の授業が進捗する。 ③各回の担当者による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。 ④レポートは、Google Classroomを通じて、対面授業週週の金曜日13:00までに提出。なお、個別に指示があった場合は、それに従う。 ④指定された日にはChromebookを持参。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
楠本：教師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。 真砂：高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。							

授業科目名	SK115U 社会学概論A		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。			①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。					
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」について理解する。					
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の4類型について理解する。					
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。					
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。					
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。					
8	相互作用論②：予言の自己成就について理解する。					
9	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。					
10	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。					
11	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。					
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。					
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。					
14	【社会問題を理解する】 発表①：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて社会学の観点から分析し、発表する。					
15	発表②：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて社会学の観点から分析し、発表する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業内容について理解しているか。		提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③定められた分量になっているか。
発表	10	講義内容との関連で、的確な発表ができていないか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
発表の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]				発表に対してコメントする。 提出された課題について、対面授業中にコメントする、もしくは代替授業において書面でコメントを提示する。		
受講生に望むこと	意欲的態度を持って授業に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	代替授業回は課題を提示する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SK120U 社会学概論B		開講学科	社会	必修・選択	選択必修	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は社会学の基幹科目である。社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立した人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。</p>			<p>①社会学の基本的な理論・概念を、具体的な事例に当てはめて、文章化して説明することができる。          ②現代社会を様々な切り口から理解し、特に自ら問題関心を持つ領域や現象について、これまで何が議論の対象になってきたか、そして今日の社会でなにがどのように問題になっているのか、文章化して説明することができる。          ③自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。</p>				
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学とはどのような学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。						
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。						
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。						
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。						
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。						
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。						
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについても理解する。						
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。						
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。						
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。						
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。						
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。						
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会的観点から理解する。						
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。						
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。	
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な具体的事例に応用して説明できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習し、文章化する練習をする。[45分]          ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。</p>			
受講生に望むこと	<p>・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。          ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<p>&lt;参考書&gt;          『社会学がわかる事典 ― 読みこなし使いこなし活用自在』          森下伸也 日本実業出版社 2000年&lt;ISBN:978-4534031730&gt;          『社会学入門』          盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編 ミネルヴァ書房 2017年&lt;ISBN:978-4623079117&gt;          『社会学用語図鑑』          田中正人（編著）・香月孝史 プレジデント社 2019年&lt;ISBN:978-4833423113&gt;</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。          ・アクティブラーニングとしてグループディスカッションの実施を予定しているが、個別あるいは全体の状況に応じて、別の課題に代える場合がある。          ・コミュニティ文化科学科目「現代社会の基礎知識」と合同開講である。</p>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SK125U 社会調査論		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士・社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを事例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。</p>			<p>①社会学の基礎的な知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。  ②社会調査の意義、目的、種類、歴史について説明できるようになる。  ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の、気をつけるべきポイントを理解する。  ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。						
3	社会調査の定義と目的、歴史について知り、意義を構築する。						
4	調査倫理、統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得する。						
5	社会調査（質的調査）の種類と実際例を学ぶ。						
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。						
7	社会学の理論と、リサーチクエスチョン、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。						
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。						
9	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。						
10	コンピュータ支援型調査について理解する。						
11	調査票の構成について理解する。						
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について、具体例に基づいて理解する。						
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるといふことの意味を理解する。						
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。						
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。		期末試験	70	各回の講義内容について理解しているか。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配布資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。			教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2021年 ISBN 978-4-589-04141-8		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠しています。 代替授業回は課題を提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	SK130U 社会調査法		開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。          構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。          実際に、リサーチ・クエスチョンを立てたり、質問文を作成したり、エディティングを行ったりすることで理解を深める。</p>			<p>①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。          ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。          ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					
2	社会調査のデザイン（1）：問いを立てる。仮説を構成する。					
3	社会調査のデザイン（2）：誰を対象にするのかを考える。					
4	実査の方法：量的調査における方法の選択について学ぶ。					
5	調査票の作成（1）：調査票の構成と質問の作成手順について学ぶ。					
6	調査票の作成（2）：質問文の形式、質問の作成および配置に関する留意点について学ぶ。					
7	サンプリング：ランダムサンプリングがなぜ必要なのか、標本抽出枠とカバレッジ誤差、実行可能性や利便性への配慮、層化抽出、非標本誤差について理解する。					
8	調査の実施：郵送法実査と個別面接法実査の具体的な手順と注意点について理解する。					
9	データの電子ファイル化（1）：データ構造化の流れについて理解する。					
10	データの電子ファイル化（2）：エディティングとコーディングについて学ぶ。					
11	データの電子ファイル化（3）：データ入力とデータクリーニングについて学ぶ。					
12	データの基礎的集計（1）：変数の種類、質的変数の要約、量的変数の要約（代表値）について学ぶ。					
13	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）について学ぶ。					
14	変数間の関連：相関係数とクロス表の作成について学ぶ。					
15	調査報告とデータの適正管理：「報告・公表」と「データの管理」について理解する。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	70	授業内容を理解しているか。	提出物	30	①適切な回答を記述しているか。 ②指定された期日に提出しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。事後学習として対面もしくは代替授業で配布されたレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]			提出されたワークシートについて対面授業で、もしくは代替授業において書面で解説する。			
受講生に望むこと	粘り強く学習してください。授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。		教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2021年 ISBN 978-4-589-04141-8		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのB科目に準拠していません。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SK135U 統計データの読み方		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	若山 将実・小林 正史・加藤 仁 (代表教員 若山 将実)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会の様々な現象を理解する上で、官庁統計・資料に代表される統計データや調査資料を利用する機会は近年ますます多くなってきています。この授業の目的は、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになるための基本的知識を学習することにあります。具体的には、(1) 単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、(2) 様々なグラフの読み方やその作成方法、(3) 相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、(4) 質的データの読み方と分析のための利用法について学習します。</p>			<p>①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。</p>			
教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、可能な限りExcelやSPSSなどの統計ソフトを利用した実習を行います。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考えます。(統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。)					各担当教員
2	分析とは何か：統計データを「分析する」意味について考えます。(理論・仮説に基づく分析の意味を理解する。)					各担当教員
3	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明します。(統計データの特徴について理解する。)					各担当教員
4	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行います。(度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようにする。)					各担当教員
5	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようにする。)					各担当教員
6	記述統計Ⅱ：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行います。(記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようにする。)					各担当教員
7	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明します。(クロス集計表から2つのデータの関係を捉えることができるようになる。)					各担当教員
8	クロス集計Ⅱ：世論調査データを使用したクロス集計表を作成する実習を行います。(クロス集計表を作成することで、世論調査における2つの回答の関係を推測できるようにする。)					各担当教員
9	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明します。(相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。)					各担当教員
10	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明します。(二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。)					各担当教員
11	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、統計ソフトを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行います。(散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようにする。)					各担当教員
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究方法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介します。(質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。)					各担当教員
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考えます。(インタビュー調査の意義を理解する。)					各担当教員
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考えます。(ドキュメントを分析することの意義を理解する。)					各担当教員
15	全体のまとめ					各担当教員
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小課題(毎回)	40	毎回の授業内容を理解できているか。		到達度テスト	30	授業内容を十分に理解できているか確認するために、授業の後半回で実施する。
期末レポート	30	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>①授業で使用するレジュメ(資料)は、Google Classroom等を通じて配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小課題として出すので、期日までに提出してください。[50分]</p>				<p>①毎回の小課題およびそれに付属するアクションシートは、場合によっては採点およびコメントを付けるなどして適切な時期に返却します。 ②レポートは、可能であれば次学期冒頭にコメントを付して返却することを検討します。</p>		
受講生に望むこと	<p>①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。</p>			教科書・テキスト	特に使いません。レジュメ(自作テキスト)を通じて配布します。	
指定図書/参考書等	<p>なし/『社会調査の基礎-社会調査士A・B・C・D科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著 弘文堂 2010年 ISBN-13: 978-435551338、『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』谷岡一郎 ちくまプリマー新書 2007年 ISBN-13: 978-4480687593、『入門・社会調査法 2ステップで基礎から学ぶ』第3版 轟 亮・杉野勇(編) 法律文化社 2017年 ISBN-13: 978-4589034892。</p>			その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠しています。また、毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。なお、代替授業日はClassroomから課題を配信します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	S0100U データ処理基礎		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっていきます。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等をグループで学んでいきます。			①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。				
教授方法	講義と演習によって進められます。						
履修条件	社会科学の学生（基本的に1、2年生）のみ履修可						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）						
2	データとは何か①：データの定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）						
3	データとは何か②：実際のデータを自分で作成したり、探してみることでデータの定義や基本構造について学びます。						
4	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）						
5	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差について学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）						
6	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとはどういうことか。実証分析の枠組みについて説明します。						
7	実証分析の基礎②：因果関係の解明を目的とする理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）						
8	実証分析の基礎③：社会現象を事例としていくつか取り上げ、それがなぜ生じたのか、各自で仮説を立てて考えてみることで、理論や仮説について学びます。						
9	クロス集計表分析①：二つの変数の関係を分析するクロス集計表分析について学びます。（クロス集計表分析の基礎を理解・習得する）						
10	クロス集計表分析②：Excelを使ったクロス集計表分析の方法について学びます。						
11	相関分析①：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）						
12	相関分析②：Excelを使った相関分析の方法について学びます。						
13	レポート課題の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者は、実証的な方法論に基づいて個人でこの課題に取り組んでいきます。						
14	個人学習：提示されたレポート課題に個人で取り組みます。						
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	50	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができるか。		各回の課題	50	毎回の内容を理解できているかをみる。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①授業で使用する資料は、Google Classroomから提供するので事前に必ず目を通しておいください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する課題をGoogle Classroomから出すので、期日までに提出してください。[50分]			①毎回課題については、適切な時期にGoogle Classroomから返却します。 ②期末レポートについては、可能な限り次学期初めに内容に関するコメントを配布することを検討します。				
受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語や携帯電話の使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。		教科書・テキスト	特に用いません。授業資料（自作テキスト）を配布しません。			
指定図書／参考書等	なし／『社会調査のウソ：リサーチリテラシーのすすめ』 谷岡一郎著 2000年 文春新書 ISBN: 4-16-660110-5。『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』 谷岡一郎著 2007年 ちくまプリマー新書 ISBN: 978-4-480-68759-3。『原因を推論する：政治分析方法論のすすめ』 久米郁男著 2013年 有斐閣 ISBN: 978-4-641-14907-6。		その他・特記事項	授業資料、代替授業における課題提示、そして授業の感想や疑問を記入するリアクションシートなどは、Google Classroomから提供します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0105U 文化人類学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	小林 正史						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
米を核とした日本の伝統的食文化（和食）の形成過程について、調理民族誌の文化間比較と考古学資料の分析を組み合わせて説明する。その過程で、単系的進化論（複雑な技術ほど優れており、シンプルな技術ほどクオリティが低い）の問題点を克服し、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解する。			①日本の伝統的食文化の特徴を理解する。 ②日本の伝統的食文化（和食）が成立した背景を理解する。 ③日本文化の諸特徴が形作られた過程を理解することにより、各文化の特徴は地域の環境と深く関連していることを理解する。				
教授方法	講義、屋外での調理実験						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要、和食の成立過程のあらすじ						
2	中国の食文化： 中国と比べた際の和食の特徴を理解する。						
3	韓国の食文化： 韓国と比べた際の和食の特徴を理解する。						
4	東南アジアの食文化（オカズ調理と食べ方の関連）： 東南アジア民族誌と比べた際の和食の食べ方の特徴を理解する。						
5	東南アジアのオカズ調理： 東南アジア民族誌と比べた際の和食のオカズ調理の特徴を理解する。						
6	日本と南アジアのカレー比較： 南アジアと比べた際の和食の特徴を理解する。						
7	炊飯民族誌の比較： 炊飯方法、オカズ調理方法、飲食方法が相互に関連していることを理解する。						
8	中間テスト： 文化間比較からみた和食の特徴についての理解度を確認する。						
9	和食の成立の歴史： 東南アジア民族誌と共通性が強い初期稲作民の食文化から、和食が成立する中世までの流れを理解する。						
10	弥生時代の調理方法と食べ方： 炊飯とオカズ調理が明瞭に分化していたことを理解する。						
11	古墳時代における湯取り法炊飯の茹で時間短縮化： 湯取り法炊飯の中で茹で時間短縮化が進行することから、米品種の粘り気度が徐々に高まったことを理解する。						
12	炊くから蒸すへの主食調理の転換、オカズ調理の転換： 古墳時代中期において主食のウルチ米の調理方法が転換したことを理解する。						
13	米蒸し調理の民族誌： 古代の約500年間に於いてウルチ米をあえて蒸した理由を理解する						
14	中世における和食の特徴の成立とその変容						
15	和食の成立過程のまとめ 期末テストの説明						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	10	積極的に授業およびグループワークに参加している。		提出課題	30	授業中のワークや課題リーディングの提出物が適切に作成されているか。	
テスト	60	中間テストと期末テストにおける内容の理解度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題リーディングなどを授業外で行うこと [平均45分]				テスト後、講義内に振り返りを行う。			
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	なし		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0110U 現代社会と福祉 I		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、現代社会における生活問題と福祉制度の意義や理念、福祉の原理をめぐる理論と哲学等について学ぶ。さらに、福祉制度の発展過程や福祉政策の課題等について学ぶ。			①現代社会に求められるソーシャルワーカーについて理解できる。 ②生活問題と社会福祉について理解できる。 ③現代社会における福祉制度と福祉政策について理解できる。 ④福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる。 ⑤福祉制度の発展過程について理解できる。 ⑥福祉政策の課題について理解できる。 ⑦福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。				
教授方法	講義およびワークシートによる課題。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会に求められるソーシャルワーカーについて理解する。						
2	生活問題と社会福祉：現代社会と生活、貧困について理解する。						
3	生活問題と社会福祉：社会的排除と差別、介護について理解する。						
4	現代社会における福祉制度と福祉政策について理解する。						
5	福祉の原理をめぐる理論と哲学：社会福祉の目的と自立生活のとらえ方について理解する。						
6	福祉の原理をめぐる理論と哲学：「社会の制度」としての救済制度と社会福祉思想について理解する。						
7	福祉制度の発展過程：欧米における福祉制度の発展について理解する。						
8	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（前近代社会と福祉）について理解する。						
9	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（近代社会と福祉）について理解する。						
10	福祉制度の発展過程：わが国における福祉制度の発展（現代社会と福祉）について理解する。						
11	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（「福祉の生産」モデルと社会福祉政策等）について理解する。						
12	福祉政策の課題：福祉国家の国際比較（日本モデルの特徴等）、社会福祉政策の新しい動向について理解する。						
13	福祉政策におけるニーズと資源：社会生活ニーズについて理解する。						
14	福祉政策におけるニーズと資源：サービス・ニーズについて理解する。						
15	全体のまとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
テスト	70	・授業内容についてどれだけ理解しているか。		提出物	30	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心を持ち、新聞・ニュース等に触れる。			毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。		教科書・テキスト	『現代社会と福祉 第2版』 大橋謙策・白澤政和 編 ミネルヴァ書房 2014年 ISBN:978-4-623-06964-4			
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。							

授業科目名	S0115U 現代社会と福祉II		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
現代社会において、人々の生活問題は拡大化し、多様化している。この生活問題を解決・緩和し、さらには予防していくのが社会福祉である。授業では、社会福祉政策の策定過程、社会福祉制度、福祉サービスの供給やサービス利用について学ぶ。また、福祉政策と関連政策（医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策等）の関係や海外の社会福祉等について学ぶ。			①社会福祉政策の策定過程について理解できる。 ②社会福祉制度について理解できる。 ③福祉サービスの供給について理解できる。 ④サービス利用について理解できる。 ⑤福祉政策と関連政策について理解できる。 ⑥海外の社会福祉について理解できる。 ⑦これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて理解できる。				
教授方法	講義およびワークシートによる課題。						
履修条件	現代社会と福祉Iの単位の修得済が望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会福祉政策の策定過程：政策決定過程について理解する。						
2	社会福祉政策の策定過程：政策評価について理解する。						
3	社会福祉制度：社会福祉の法律と社会福祉基礎構造について理解する。						
4	社会福祉制度：社会福祉関係法制の展開について理解する。						
5	社会福祉制度：地域での総合的支援、福祉サービスの供給とソーシャルワーク、社会福祉制度の活用について理解する。						
6	福祉サービスの供給：社会福祉組織における運営と経営の理念、行政組織における社会福祉の運営と経営について理解する。						
7	福祉サービスの供給：民間組織における社会福祉の運営と経営について理解する。						
8	福祉サービスの供給：福祉供給システムの多元化と財政について理解する。						
9	サービス利用：福祉サービスの利用主体、利用過程について理解する。						
10	サービス利用：福祉サービスの利用支援について理解する。						
11	福祉政策と関連政策：医療政策とソーシャルワークについて理解する。						
12	福祉政策と関連政策：教育政策とソーシャルワークについて理解する。						
13	福祉政策と関連政策：住宅政策とソーシャルワークについて理解する。						
14	福祉政策と関連政策：労働政策・権利擁護政策とソーシャルワークについて理解する。						
15	海外の社会福祉について理解する。これからの社会福祉理論とソーシャルワークについて理解する。まとめ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
テスト	70	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	30	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心を持ち、新聞・ニュース等に触れる。			毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。		教科書・テキスト	『現代社会と福祉 第2版』大橋謙策・白澤政和 編 ミネルヴァ書房 2014年 ISBN:978-4-623-06964-4			
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。							

授業科目名	S0120U 心理学概論A		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。</p>			<p>1. 心理学の成り立ちについて学び、歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。</p>				
教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。						
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。						
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。						
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。						
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。						
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。						
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。						
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。						
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。						
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。						
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。						
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。						
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。						
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。						
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。		振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。〔30分程度〕</p>			<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>				
受講生に望むこと	<p>初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから、授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるため、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。</p>		教科書・テキスト	<p>『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣、2015年、ISBN-13：978-4641150225/同時に、教員が作成した資料も配布する。</p>			
指定図書／参考書等	<p>なし／『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣、2018年、ISBN-13：978-4641053861</p>		その他・特記事項	<p>授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。また、代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。</p>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0125U 心理学概論B		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。「心理学」というと、カウンセリングや心理療法を思い浮かべる学生が多いと思われる。しかし、実際にはその他にもさまざまな分野がある。本講義では、学習、感情、動機づけ、感覚、認知、生理といった分野を中心にとりあげる予定である。本講義を通じて人の心の仕組みや働きについて興味を持ち、理解を深める。</p>			<p>①心理学という学問のなりたちや性質を理解している。          ②感覚・知覚、学習、認知といった基本的な心の仕組みやはたらきを理解している。          ③講義で学んだことを自分自身の経験や日常生活の問題に当てはめて考えることができる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。					
履修条件	特にありません					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：心理学とはどのような学問かを知る					
2	学習心理学1：条件づけの基礎と応用について学ぶ					
3	学習心理学2：観察学習、社会的学習について学ぶ					
4	学習心理学3：学習理論の現場での応用を学ぶ					
5	動機づけ：動機づけ理論の基礎を学ぶ					
6	感情：感情の種類、感情の理論の基礎を学ぶ					
7	知覚心理学1：知覚・感覚の特徴と働きを学ぶ					
8	知覚心理学2：視覚の特徴と働きを学ぶ					
9	知覚心理学3：聴覚の特徴と働きを学ぶ					
10	認知心理学1：記憶の理論の基礎を学ぶ					
11	認知心理学2：問題解決と意思決定の基礎を学ぶ					
12	認知心理学3：判断や言語の仕組みと働きを学ぶ					
13	生理心理学1：記憶と脳の関わりについて学ぶ					
14	生理心理学2：言語と脳の関わりについて学ぶ					
15	総括：これまでのまとめとふりかえり					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。	講義への参加度	30	講義中の態度および振り返りの内容により評価を行う。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]			提出された課題に対しては、代表的な意見を取り上げて講評する。			
受講生に望むこと	みなさんの抱く「心理学」のイメージとは異なるトピックも多く出てくるかもしれません。この講義をきっかけに、心理学の各領域をさらに深く学んだり、みなさんの身の回りの出来事、普段の対人関係、そして自分自身のことについてより深く考えたりできるようになればと思います。		教科書・テキスト	金城辰夫（監修）藤岡新治・山上精次（共編）2016 図説 現代心理学入門[四訂版] 培風館 ISBN:978-4563052447		
指定図書／参考書等	なし／講義中に適宜紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	SL105U 経営学入門		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	学部生のみ履修可						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションー生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみようー						
2	会社の一生：会社の誕生から成長、衰退、倒産までを考える						
3	会社はだれのものか：「株式会社」の仕組みについて学ぶ						
4	会社の仕組み：会社はどのような組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ						
5	会社で働くこと：労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する						
6	会社を動かす（経営戦略1）：会社のミッション（経営理念）や経営戦略の3つのレベルについて学ぶ						
7	会社を動かす（経営戦略2）：経営戦略のうち「競争戦略」について理解する						
8	【事例】（DVD）コンビニを作った素人たち						
9	ものが売れる仕組み：身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ						
10	【事例】（DVD）ヤマト宅急便の歴史						
11	経済社会の動きと企業経営：日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
12	企業の社会的責任（CSR）と企業倫理：企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える						
13	新しい企業と経営のあり方：NPOや近年注目されている社会的企業について学ぶ						
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方：企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ						
15	まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。		小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)	
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。[30分] ②毎回授業後には、配布資料の内容をもう一度復習しておくこと。[60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社や商店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書／参考書等	なし／『はじめの一步 経営学(第2版)』守屋貴司・近藤宏一編著 ミネルヴァ書房 2012年 ISBN978-4-623-06331-4			その他・特記事項	対面授業と代替授業(Google Classroom)を併用する。コミュニティ文化学科科目「経営学入門」と合同開講である。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
営業、人材開発やマーケティングなどの会社員時代の経験を紹介している。							

授業科目名	SL115U 児童福祉論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、歴史の変遷を踏まえた本質的な理解を大切にしながら、児童福祉の制度や実践に関する幅広い知識を学習する。また、児童福祉から子ども家庭福祉への展開、子どもの権利擁護、少子高齢社会における社会環境・家族構造の大きな変化といった現代的課題についても掘り下げて考えていく。			①児童福祉という領域が設定されることの意義や目的について適切に理解し、文章で説明することができる。 ②児童福祉の歴史についてポイントを正しく理解し、文章で説明することができる。 ③児童福祉に関する諸制度の目的と現状について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。 ④児童福祉に関わる様々な組織・機関・主体について理解し、名称を正しく説明することができる。 ⑤児童福祉に関わる現代的な諸問題について、統計等の根拠や政策を基に、現状を文章で説明することができる。 ⑥児童福祉に関する知識を土台として、社会福祉における各領域に応用可能な知識・理念を、文章で説明することができる。 ⑦児童福祉に関する知識を土台として、社会のあり方・社会における連帯のあり方について、自らの考えを文章で説明することができる。				
教授方法	講義(一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。)						
履修条件	学部生のみ						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション:「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への展開を意識しながら、児童福祉の意義について考え、本科目の意義や目標を整理する。						
2	児童福祉の歴史①:総論的な社会福祉史を踏まえつつ、児童福祉の理念を捉え、その歴史を概観する。						
3	児童福祉の歴史②:児童福祉の主体/客体に注目しながら、我が国における児童福祉の歴史を理解する。						
4	児童福祉の制度①:基本法である児童福祉法を中心に、児童福祉に関わる法制度、ならびに児童福祉に関わる機関・専門職について学ぶ。						
5	児童福祉の制度②:権利擁護をキーワードとしながら、子どもの権利条約について学ぶ。						
6	小括:ここまでの学習内容を範囲とする小テストを実施する。						
7	生育段階に応じた児童福祉①:家庭への支援の意義を意識しながら、母子保健を中心に学ぶ。						
8	生育段階に応じた児童福祉②:子ども・子育て支援新制度や幼保一体化等の動向を押さえつつ、保育制度について学ぶ。						
9	生育段階に応じた児童福祉③:少子化や子育て環境の変化を踏まえつつ、児童の健全育成について学ぶ。						
10	困難を抱えた児童・家庭への支援①:今日の社会情勢を踏まえつつ、ひとり親家庭への支援について学ぶ。						
11	困難を抱えた児童・家庭への支援②:理念や社会的反応の変化を踏まえ、障害・難病のある子どもと家庭への支援について学ぶ。						
12	困難を抱えた児童・家庭への支援③:社会/心理の両側面を意識しながら、非行や情緒障害、発達障害について連続的に学ぶ。						
13	児童福祉と養護①:児童虐待の定義、実際、対策について学ぶ。						
14	児童福祉と養護②:社会的養護サービスについて、社会的意義と制度・実践について学ぶ。						
15	総括:本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれの立場からの「児童福祉」への関わりについて考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。		試験①	20	第1回～第5回の学習内容について、用語や概念、歴史等についての基本的な理解度を確認する筆記試験を行う。	
試験②	60	主に第7回～第15回の学習内容について、学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[45分] ②各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[45分] ③各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]				・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。			
受講生に望むこと	・福祉の支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。			教科書・テキスト	なし(レジュメを配付する)		
指定図書/参考書等	<参考書> 『児童・家庭福祉』 財団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規出版 2021年<ISBN:978-4805882467> ※同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 ※資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書に合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で(なるべくアポイントをとった上で)担当教員へ質問することは歓迎する。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	SL120U 障害者福祉論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. こころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。</p> <p>2. 社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習で必要となる基礎知識の獲得、および社会福祉士国家試験に関する知識を身につける。</p> <p>3. 障害のある人たちの諸問題は社会全体の問題としてとらえ、専門職を目指すもの以外にも理解できる内容を展開する。</p>			<p>1. 障害の概念と特性を踏まえ、障害のある人たちとその家族の生活と、これを取り巻く社会環境について理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. 障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解し、説明できるようにする。</p> <p>3. 障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. 障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解し、説明できるようにする。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	障害の概念と特性：障害者の定義と特性						
2	障害のある人たちの生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題：障害のある人たちの生活実態、障害のある人たちと家族						
3	障害のある人たちの生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題：障害のある人たちを取り巻く社会環境と課題						
4	障害の概念と特性：国際機能生活分類（ICF）と障害の社会モデル						
5	障害者福祉の理念：障害観の変遷、障害者福祉の理念						
6	障害者福祉の歴史：障害者処遇の変遷、障害者福祉制度と発展過程						
7	障害者福祉の歴史：障害者福祉制度と当事者運動、障害者権利条約と障害者基本法						
8	障害のある人たちに対する法制度：法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法						
9	障害のある人たちに対する法制度：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律						
10	障害のある人たちに対する法制度：児童福祉法、発達障害者支援法						
11	障害のある人たちに対する法制度：障害者総合支援法・児童福祉法						
12	障害のある人たちに対する法制度：障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律						
13	障害のある人たちに対する法制度：高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法律、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達に関する法律						
14	障害のある人たちと家族等に対する支援の実際：障害領域におけるソーシャルワーカーの役割、障害のある人たちと家族等に対する支援の実際（他職種連携を含む）						
15	障害のある人たちと家族等の支援における関係機関と専門職の役割：障害のある人たちと家族等の支援における関係機関の役割、関連する専門職の役割						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート評価基準（初回に説明）		授業参加状況	50	受講態度、提出物等（代替授業の課題、授業内の小レポート含む）	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>1. 障害のある人たちの社会生活を意識する。</p> <p>2. 社会における障害者福祉サービスの意味を理解する。</p> <p>3. 国民福祉の動向、障害者白書等で最新の情報を確認する。</p> <p>4. 社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料を繰り返し学習する。</p> <p>5. 社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。</p> <p>[1～5の全体で60分以上]</p>			<p>小テスト等は内容を解説する。課題やテスト内容、評価に関する疑問・質問等には随時対応する。</p>				
受講生に望むこと	こころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題としても関心を持ってください。		教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、最新社会福祉士養成講座8『障害者福祉』中央法規出版、2021. ISBN:978-4-8058-8238-2 ※旧テキスト（2020年度以前）は使えません。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	必要に応じて講義内で資料を配布します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SP100U 臨床心理学概論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。			1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。				
教授方法	講義、演習						
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または教員を目指す者に限る。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。						
2	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。						
3	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。						
4	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。						
5	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
6	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
7	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。						
8	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
9	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。						
10	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。						
11	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。						
12	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻繁に利用される様々な心理療法について理解する。						
13	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。						
14	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。						
15	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]			期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。				
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学び、考える』新曜社 ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	・対面授業が完全に実施不可になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の割合で評価する。・部分的に代替課題を実施する場合、講義参加態度30%とリアクションペーパー30%が代替課題として評価される。・代替授業はgoogle classroomを通じて課題提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB100U 生涯学習概論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
生涯学習及び社会教育施設の本質と意義の理解を図り、学ぶことの楽しさを理解することから始めます。自分自身の学びを振り返りながら、今後の生涯学習社会の在り方について理解を深めます。			①生涯学習ならびに社会教育を通して「学ぶ」意味について理解する。 ②社会教育施設および社会教育指導者の役割について理解を図る。 ③社会教育施設の見学を通して現在の生涯学習の在り方について理解を図る。 ④今後の生涯学習社会の在り方について考察する。				
教授方法	基本的に講義形式となりますが、ディスカッションやグループワークも併用し、積極的な参加を求めます。校外学習があります。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明した後、「生涯学習」とは何かについて考えます。						
2	学習について：自分自身のこれまでの学びを振り返りながら、「学習」についての理解を深めます。						
3	芸術文化と生涯学習Ⅰ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。						
4	芸術文化と生涯学習Ⅱ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。						
5	学習の内容Ⅰ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。						
6	学習の内容Ⅱ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。						
7	生涯学習社会Ⅰ：生涯学習社会はどうあるべきか考えます。						
8	生涯学習社会Ⅱ：生涯学習社会はどうあるべきか考えます。						
9	生涯学習施設を知るⅠ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。						
10	生涯学習施設を知るⅡ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。						
11	生涯学習施設を知るⅢ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。						
12	生涯学習施設を知るⅣ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。						
13	生涯学習プログラムについてⅠ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、理解します。						
14	生涯学習プログラムについてⅡ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、理解します。						
15	生涯学習についての総括：生涯学習について学んだことを総括し、最終レポートにまとめます。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業への積極的な参加	50%	出席だけでなく、ディスカッションやグループワークなどでの積極的な発言を評価します。	小レポート	20%	授業内で数回実施する課題について、理解できているかどうか評価します。		
最終レポート	30%	最終授業で総括としてレポート提出を求めます。自分自身の課題として生涯学習をとらえることができているか評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいてください。[30分] ② 家族のなかから一人選び、その人の「学習」経験についてインタビューしておくこと。[60分]			授業内でフィードバックを行います。				
受講生に望むこと	集中講義のため1日の欠席が4回の欠席扱いとなります。体調管理にも留意してください。		教科書・テキスト	特に用いません。			
指定図書／参考書等	リンダ・グラットン『ライフ・シフト』東洋経済新報社、2016、ISBN13：978-4492533871		その他・特記事項	特になし。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。							

授業科目名	ST100U 公認心理師の職責		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊（代表教員 松下 健）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
公認心理師の役割、責任、業務内容を学ぶ。心理学だけでなく倫理、医療、教育、福祉、司法、資格に関連する法律など、公認心理師に関わる広範な内容を学習する。			1) 公認心理師の役割を説明できること。 2) 公認心理師の法的義務及び倫理を説明できること。 3) 心理に関する支援を要する者等の安全の確保を説明できること。 4) 情報の適切な取扱いを説明できること。 5) 各分野における公認心理師の具体的な業務を説明できること。 6) 自己課題発見・解決能力を説明できること。 7) 生涯学習への準備を説明できること。 8) 多職種連携及び地域連携を説明できること。				
教授方法	講義、演習。						
履修条件	公認心理師を目指す者に限る。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	公認心理師の職責：導入					齊藤・松下	
2	クライアント／患者らの安全の確保のために					齊藤・松下	
3	公認心理師の役割					松下・齊藤	
4	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務					松下・齊藤	
5	公認心理師の法的義務・倫理					齊藤・松下	
6	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務					松下・齊藤	
7	情報の適切な取り扱いについて					松下・齊藤	
8	生涯学習への準備					齊藤・松下	
9	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務					松下・齊藤	
10	多職種連携・地域連携					齊藤・松下	
11	福祉分野における公認心理師の具体的な業務					松下・齊藤	
12	公認心理師の今後の展開					齊藤・松下	
13	教育分野における公認心理師の具体的な業務					松下・齊藤	
14	支援者としての自己課題発見・解決能力					齊藤・松下	
15	公認心理師の職責のまとめ					齊藤・松下	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小レポート・代替課題	30	講義中に提示する小レポートや代替課題の完成度をみる		講義参加態度	30	課題、発表、質問などの参加態度をみる	
期末試験	40	講義内容の理解度をみる					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
与えられたテーマについて予習すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]			小レポートは返却時にフィードバックする。期末試験については、次学期始めに適宜フィードバックする。				
受講生に望むこと	公認心理師の関連科目である。そのため、資格取得を目指す学生の真摯で積極的な学習が望まれる。		教科書・テキスト	『公認心理師の職責』 野島一彦・繁樹算男（編）遠見書房 2018年（ISBN:978-4-86616-051-1）			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	対面授業が完全に実施不可能になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の評価基準にする。代替授業はgoogle classroomを通じて課題提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

社会学科  
(2年次)





授業科目名	SK200U プロゼミA		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	松下 健・小林 正史・俵 希實・真砂 良則・矢澤 励太・若山 将実 (代表教員 松下 健)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学ぶ。			①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 ③自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 ④他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容についてレポートにまとめることができる。				
教授方法	ゼミごとによる演習						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。					各担当教員	
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員	
14	プロゼミAの活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）					各担当教員	
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。		レジュメ作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
ゼミへの参加態度と意欲	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組む学ぼうとする姿勢があるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。 ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。[週平均90分以上] 日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。			各担当教員から説明する。				
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望みます。		教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。			
指定図書／参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。		その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SK205U プロゼミB		開講学科	社会	必修・選択	必修	
担当教員名	勝谷 紀子・田中 純一・田引 俊和・井上 克洋・竹中 祐二・若杉 亮平・加藤 仁（代表教員 勝谷 紀子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味・関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。			①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。				
教授方法	各ゼミごとの演習						
履修条件	「プロゼミA」を履修した者（単位未修得可）						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半：成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介・各ゼミ運営についての説明、履修・成績指導					全員	
2	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
3	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
4	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
5	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
6	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
7	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
8	オータムセミナーについての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表					全員	
9	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
10	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
11	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
12	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
13	各ゼミ担当教員の指導に従う。					各担当教員	
14	4年生卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会に参加し、簡単なレポートにまとめる。 （※特記事項参照）					全員	
15	3年前期履修説明・指導、専門ゼミⅠについての説明、その他諸連絡（合同）					全員	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合（%）	評価基準		評価項目	割合（%）	評価基準	
ゼミへの参加姿勢	30	①議論への積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。		レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。	
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押しさえ、概要と意見を分けた文章になっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をすること。 …上記①・②を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配付するので必ず目を通しておくこと。[30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること。[30分]			各担当教員の指導に従う。				
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示・指導に従って学びを深めるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。		教科書・テキスト	各担当教員に指導に従う。			
指定図書／参考書等	各担当教員の指導に従う。		その他・特記事項	代替授業の方法についてはオリエンテーションで説明するので必ず出席すること。卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程については別途知らせるので、必ず参加すること。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SK210U 質的研究法		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会調査法における質的なアプローチを学ぶ、質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとに調査案を考えたり、実査を行ったりしながら、実践的な知識とノウハウを習得する。</p>			<p>①質的研究法の基本的な考え方を理解する。  ②質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。  ③質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	イントロダクション：自分の日常生活を再発見することから質的調査のイメージをつかむ。						
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史はどのように展開されてきたのか。調査を実際に進める中で生みだされてきた考え方について学習する。						
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の難しさと魅力を理解する。						
5	仮説と理論：仮説とは何か、理論とは何か、基本的なことを理解する。						
6	リサーチ・クエスチョンを考える：リサーチ・クエスチョンの導き方を学ぶとともに、実際に考えてみることで理解を深める。						
7	観察法①：事例をもとに観察法の進め方を理解する。						
8	観察法②：観察法を用いた調査案を考える。						
9	参与観察法①：事例をもとに参与観察法の進め方を理解する。						
10	参与観察法②：参与観察法を用いた調査案を考える。						
11	インタビュー法①：事例1をもとにインタビュー法の進め方を理解する。						
12	インタビュー法②：インタビュー法を用いた調査案を考える。						
13	文化資料分析法①：事例をもとに文化資料分析法の進め方を理解する。						
14	文化資料分析法②：実際に文化資料分析法を用いた調査を行い、その結果を発表する。						
15	調査倫理：社会的行為としての社会調査であることを理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末試験	50	授業内容について理解しているか。	発表	10	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②論理的な構成となっているか。 ③聴衆にとってわかりやすい発表となっているか。		
提出物	40	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③指定された字数になっているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
調査課題を出すので、個人で計画し、それに従って調査を実施、その結果をまとめ、パワーポイントでの発表の準備を行うこと。事前学習として、テキストの該当箇所を読んでおくこと。事後学習として、授業中に配布したレジュメの内容を確認し、復習すること。【60分】			発表に対してコメントする。				
受講生に望むこと	授業で得た知識やスキルを他の授業や授業以外でも活用するようにしてください。		教科書・テキスト	工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編『質的調査の方法―都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社、2016年 ISBN 978-4-589-03805-0			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのF科目に準拠しています。代替授業回は課題を提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0201U 心理学統計法		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理統計を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は人の行動、心のはたらきだけではなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は学問領域だけでなくビジネスなどの現場においても統計学の知識、分析手法の技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。			①統計に関する基礎的な知識、心理学で用いられる統計手法を理解して適切に使用できる。 ②統計に関する基礎的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 ③データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションとデータの集計：度数分布表の作成、図による表現について解説する						
2	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する						
3	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する						
4	相関と相関係数：2つの変数が関連している度合いを表現する						
5	クロス集計表と連関係数：クロス集計表のつくりかた、2つの変数が関連している度合いを示すもう一つの指標を学ぶ						
6	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ						
7	さまざまな分布1：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ						
8	さまざまな分布2：標本分布について学ぶ						
9	中間テスト						
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ						
11	統計的検定1：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ						
12	統計的検定2：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ						
13	統計的検定3：1つの平均値の検定を例に統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ						
14	カイ二乗検定1：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける						
15	小テスト						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	60	講義の内容の理解度により評価を行う。		中間テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。	
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]			授業中に行う演習課題は終了後に答え合わせとコメントをおこなう。				
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。		教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』 山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9			
指定図書／参考書等	なし／関連する参考書は授業内で随時紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0205U 社会学理論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>多くの人は社会のことを「当たり前」と思っており、その中で生きています。けれども、よく考えてみると、「当たり前」と思っていることの中にも、不思議なことはいっぱいあります。実はわたしたちが生活している社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見ると、社会の出来事がスグリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。</p>			<p>①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学理論の基礎的な概念を理解する。  ②デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典的理論を理解する。  ③ハーバーマース、ルーマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。  ④これらをつづいて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使えるようになる。  ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。  ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生活している社会（モダンティ）を理解する。</p>				
教授方法	講義形式で行いますが、講義中に意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。						
履修条件	社会学概論Aないし社会学概論Bを履修済みであることが望ましい（社会学の基礎知識がないと、理解がやや難しいかもしれません）。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会とは何か；社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか、社会という言葉を知らない人はいないでしょうか、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。						
2	近代社会と社会学；社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか、社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。						
3	社会学の古典 (1) E. デュルケムの社会学；社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが、そのうちの一人デュルケムは、社会は個人の外に実在し、個人を拘束するようなものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。						
4	社会学の古典 (2) M. ヴェーバーの社会学；ヴェーバーはデュルケムと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケムと対比的ながら、ヴェーバーの理論について紹介します。						
5	社会学の古典 (3) G. ジンメルの社会学；G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します。						
6	社会的行為とはなにか；社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。						
7	地位と役割；私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。						
8	社会システムと社会構造；社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。						
9	機能主義の社会学；機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおりに、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。						
10	意味学派的理論；機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロロジーといった理論について紹介します。						
11	J. ハーバーマースのコミュニケーション的行為理論；ハーバーマースは相互行為の中でもとくにコミュニケーション的行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。						
12	N. ルーマンの社会システム理論；パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。						
13	P. ブルデューの実践の理論；ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の傾向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。						
14	A. ギデンズの構造化理論；ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことに意味について考えます。						
15	再び、社会学の理論とは；14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが重要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
学期末レポート	40	<p>論述式のレポートです。  ①基礎的な知識を習得していることが明確であること。  ②矛盾がなく、論理的であること。  ③自分なりの視点で構成されていること。</p>		小レポート	60	<p>毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。</p>	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
<p>①自分で考えてみるのが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。 [20分]  ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。 [60分]  ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。 [100分]</p>			<p>リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントする。</p>				
受講生に望むこと	<p>①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを聴くことなく回答してください。  ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要などありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。  ③著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらふなどの処置をすることがあります。</p>		教科書・テキスト	『テキスト社会学』星野潔・杉浦郁子著 2007年 ISBN-13:978-4762016721			
指定図書参考書等	なし/『社会学ベーシックス 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 ISBN-13: 978-4-7907-1349-4		その他・特記事項	<p>・理論というとなりに思ってしまうかもしれませんが、講義内容はなるべくわかりやすく、噛み砕いてお話しするようにいたします。  ・代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。</p>			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0210U 家族社会学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族に関する様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半は受講生による発表、後半は講義を行う。			①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型について学ぶ。						
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能について学ぶ。						
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化について理解する。						
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える。						
6	結婚の動向（1）：恋愛結婚、婚姻率、離婚率、初婚年齢、未婚率についてのデータを読む。						
7	結婚の動向（2）：結婚への志向、収入と結婚についてのデータを読む。						
8	少子化：戦後の合計特殊出生率の推移から少子化の変遷を捉える。						
9	近代化と子どもの数の減少（1）：産業構造の変化と子どもの価値について理解する。						
10	近代化と子どもの数の減少（2）：「子ども」の概念の誕生と子どもの価値について理解する。						
11	母の誕生：「母親」という役割について考える。						
12	核家族化：人口学的特殊性から考える。						
13	高齢化社会と家族（1）：実態と見通しについて理解する。						
14	高齢化社会と家族（2）：家制度の崩壊による家族の変容について考える。						
15	多様化する家族：個人単位の社会への変容について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合（%）	評価基準		評価項目	割合（%）	評価基準	
発表	10	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。		提出物	30	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。	
期末試験	60	授業内容について理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
個人発表を課すので、テーマを決め、それについて調べ、発表準備を行うこと。配布資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]				各発表に対してコメントする。			
受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。授業中の討議では、積極的に発言するように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	代替授業回は課題を提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0215U 都市社会学		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵 希實					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化—都市化—を説明する。この講義では、都市化がコミュニティに及ぼす影響に関する研究を中心に取上げ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説的に理解するとともに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。			①都市社会学の基本的な概念を説明することができる。 ②「都市化とコミュニティ」について説明することができる。 ③自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができる。 ④より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができる。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。					
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。					
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。					
5	都市の空間構造：E. W. バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR. E. パークの人間生態学について理解する。					
6	同心円地帯論への批判：E. W. バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす「要因」についての考察を深める。					
7	生活様式としてのアーバニズム：L. ワースのアーバニズム論について理解する。					
8	アーバニズム論への批判：L. ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。					
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。					
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB. ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。					
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。					
12	日本における下位文化理論の検証：C・S・フィッシャーの都市下位文化理論を用いた複数の社会調査の結果を比較する。					
13	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。					
14	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国籍居住者研究について理解する。					
15	コミュニティ論再考：現代社会に対応した新しいコミュニティとはどのようなコミュニティかを考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	40	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された字数になっているか。		期末レポート	60	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べるできるよう、目ざらぬ都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、講義内容についてポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	集団や行為など、「社会学概論A」での基礎的知識を理解し、社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。	
指定図書／参考書等	講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	S0220U 環境社会学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義は、日常生活の身近な環境問題を事例に、被害・加害構造論、社会的ジレンマ論などの分析視角から、問題発生のメカニズム、被害の特性、問題解決に向けたアクターの諸機能、法制度等について学ぶ。			①環境問題がもたらす派生的被害について説明できる ②環境社会学の基本的な分析アプローチについて理解する				
教授方法	講義・テーマに基づくディスカッション、講義形式：対面授業及びGoogle Classroomによるオンライン授業						
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	環境社会学の分析アプローチ（1） 被害論、加害・原因論について学ぶ						
3	環境社会学の分析アプローチ（2） 解決論について学ぶ						
4	環境保護の歴史的変遷（1） 欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について学ぶ						
5	環境保護の歴史的変遷（2） 欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について学ぶ						
6	環境保護の歴史的変遷（3） 日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について学ぶ						
7	環境保護の歴史的変遷（4） 日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について学ぶ						
8	海は誰のものか（1） 入浜権について学ぶ						
9	海は誰のものか（2） 公共信託理論から自然と人間との関係性について学ぶ						
10	野生生物との共存 獣害問題を事例に、里山保全と野生生物との関係について考える						
11	アメニティとは何か アメニティ概念について学ぶ						
12	社会的ジレンマ ごみ・リサイクルの取り組みを事例に、社会的ジレンマのメカニズムについて学ぶ						
13	交通政策とまちづくり 我が国の交通政策と欧米の交通政策とを比較し問題点を明らかにするとともに、住民参加のまちづくりの意義について学ぶ						
14	歴史的環境とは何か 歴史的環境概念を通し、持続可能な地域社会について考える						
15	まとめ：全体の振り返りと総括						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
講義参加態度	10	講義への積極的参加		レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	
小テスト	15	講義の理解度		期末試験	50	講義内容を理解し、要求されたレベルの論考がなされている	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①適宜資料を配布するので事前に目を通し内容を理解する [30分以上] ②適宜小テストを実施するので、事前に復習し内容を理解する [30分以上]				小テストは講義内に適宜実施し、授業時間内に解説する			
受講生に望むこと	時事問題や環境問題に関心を持ち、ニュースや新聞をチェックする			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし/なし 参考資料等は講義内に適宜紹介する			その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は、時間制通りに実施する ・受講登録後Google Classroomの招待メールを送るので、第1回講義までに各自で設定を完了すること ・期末試験については、状況次第で期末レポート課題に変更する可能性がある		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							



授業科目名	SC200U 宗教と社会		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	楠本 史郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、聖書が科学技術や法制度の発展に与えた影響を歴史的に追う。その上で、聖書翻訳の歴史が職業観に及ぼした積極的影響と、「らい」観に与えた否定的影響を考察する。さらに宗教的理念が社会を変えたケースとして、米国におけるM. L. Kingによる人種差別撤廃の戦いを取り上げ、検討する。</p>			<p>・宗教がたんに、個人に安心立命を与えるだけでなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解し、複数の社会科学方法論の特徴と方向性を比較し、複数の視野を持つことができる。          ・そのなかでもとくにキリスト教社会においては、聖書解釈という形で宗教が社会に影響を及ぼすことを、聖書箇所からその実際の影響までを辿り、把握することができる。          ・その場合、宗教が社会に対して、積極的もしくは否定的な効果をもたらすことを、歴史的・客観的に把握し、宗教理解の重要性と社会との関係を予測することができる。</p>				
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、および講義内容から示された主題について考え、振り返り、その内容をミニレポートにまとめ、自身の考えを含め毎回提出する形で進める。						
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の履修済が望ましい（単位未修得も可）。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	序論 大塚久雄『社会科学の方法』から、K. MarxとM. Weberそれぞれの方法論を学び、本講義の方法論を確定する。社会科学が社会現象をどのような方法で取り扱うのか、上部構造と下部構造とに着目して理解する。						
2	宗教と法 1) 旧約律法の意味、2) 新約における律法と福音との関係を知り、3) 福音から律法へと展開する過程を追う。社会制度・法への宗教の影響の基本的枠組みを確認する。旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを理解する。						
3	宗教と科学技術 宗教は非科学的か、聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学的に概観し、科学技術成立に対する宗教の影響と役割を確認する。一神論が自然科学的思考を生んだ歴史的経緯を理解し、宗教と科学技術との基本的な関係を把握する。						
4	聖書翻訳と職業観① 古代から中世までの聖書解釈と職業観の変遷を辿る。中世までの職業観の歴史的変遷、およびそのなかで聖書の職業観に対する理解がどう変化したかを理解する。						
5	聖書翻訳と職業観② 宗教改革による職業観の転換 (1) としてM. Lutherの改革の画期性と限界を知る。ルターの聖書翻訳が当時の社会、とくに職業観に与えた影響を確認し、自らの職業観を問う。						
6	聖書翻訳と職業観③ 宗教改革による職業観の転換 (2) としてJ. Calvinによる改革の社会的影響を学ぶ。ピューリタニズムの職業観を理解し、現代の職業観と比較する。						
7	聖書翻訳と職業観④ 18世紀以後の、ピューリタン職業思想の世俗化の経緯を追う。宗教改革期と近代産業革命期以後の職業観の相違と継続性を理解し、労働の意味を問う。						
8	聖書翻訳と職業観⑤ 明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命Missionについて考える。近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える。						
9	聖書翻訳と「らい」① 「らい」史の概要を理解し、その差別の問題性を知る。ハンセン病について、また「らい」史の概略およびその差別の問題性を理解する。						
10	聖書翻訳と「らい」② 旧約におけるツアラアトがハンセン病を意味したのか。これを「らい病」と翻訳したことが妥当であったのかを検討する。旧約のツアラアトがハンセン病を意味しないことを理解し、かつての聖書翻訳の問題性を確認する。						
11	聖書翻訳と「らい」③ 新約におけるレブラがハンセン病であったのかを検討し、その翻訳の妥当性を検討する。新約におけるレブラがハンセン病ではないことを確認し、なぜ「らい」と訳されるに至ったかを理解する。						
12	聖書翻訳と「らい」④ 聖書翻訳におけるツアラアトとレブラの翻訳史を追い、それらが「らい病」と訳された経緯を確認する。聖書翻訳の重大性を「らい」の例により理解する。						
13	人種差別と宗教① 聖書解釈による人種差別合理化の歴史を確認し、M. L. Kingが登場した歴史的意味を学ぶ。米国社会における人種差別問題が聖書解釈によって根拠づけられてきた経緯を理解する。						
14	人種差別と宗教② マタイによる福音書5章のイエスの「愛敵の教え」をM. L. Kingがどう解釈し、それに基づき、どう戦ったかを追う。M. L. Kingの差別撤廃運動が聖書解釈のとらえ直しから始まり、さらに公民権運動へと発展し、米国社会に大きな影響を与えたことを理解する。						
15	総論とまとめ M. L. Kingの戦いについてまとめ、本講義の総括をする。さらに日本社会の課題について考える。小テスト、聖書の翻訳や解釈が社会を変える可能性を持つことを理解し、現代日本における職業観のあり方、および偏見や差別との戦いについて、聖書の中心的使信は何を語っているか、聴き取る。						
<b>成績評価方法及び基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度・理解度	40	毎回の講義およびまとめの内容をミニレポートにまとめ、提出。①授業内容を理解している ②それを自分の言葉で掴み、表現している ③疑問や質問など、問題意識を持っている。		リーディングレポート	40	M. L. King『自由への大いなる歩み』を9回にわたり各章ごとに要約し、レポートする。①各章の概要が要約されている ②それに対する自分の考えを整理して述べている。	
小テスト	20	宗教と社会の関係を見る基本理論が説明できる。宗教、つまり聖書の翻訳が社会に影響を与えたケースを取り上げ、概説し、その問題と課題解決について考えを表現できる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①講義のなかで紹介した参考図書を手にとって内容を見る。[15分] ②前回授業のレジュメを確認し、振り返りを行った上で、シラバスを読んで次の授業に臨む。[30分] ③M. L. King『自由への大いなる歩み』を読み、各章ごとに概要をまとめる。[480分]			毎回の授業で、前回のミニレポートについて、またリーディングレポートについて、必要なコメントをする。				
受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること。 ②旧・新約聖書を持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。		教科書・テキスト		『聖書協会共同訳・旧新約聖書』または『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回の授業に持参すること		
指定図書／参考書等	参考書／『自由への大いなる歩み』M. L. King 岩波新書 1959年 ISBN4-00-415003-5、『科学者とキリスト教』渡辺正雄 講談社ブルーバックス 1967年 ISBN978-4-06-132686-6、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M. Weber 岩波文庫 1955年 ISBN-00-007091-6-C0336、『社会科学の方法』大塚久雄 岩波新書 1966年 ISBN4-00-411062-9		その他・特記事項		①毎回の授業ミニレポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとなる。 ②リーディングレポートは必ず指定された期限内に提出すること。 ③小テストを必ず受験すること。 ④代替授業日は、Classroomを用いてテキストと課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進める。							

授業科目名	SC215U 多文化共生論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>外国籍居住者の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国籍居住者の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でもどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。</p>			<p>①多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。 ②日本における外国籍居住者の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 ③多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。						
2	グローバルイゼーションと多文化共生：「グローバルイゼーション」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する。						
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。						
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。						
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。						
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。						
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。						
8	外国籍居住者たちの文化とホスト社会：母国語が英語圏の居住者とそれ以外の居住者、それぞれについて考える。						
9	外国籍居住者の家族関係と家族問題①：外国籍居住者の家族関係と家族問題をアイデンティティの観点から考える。						
10	外国籍居住者の家族関係と家族問題②：外国籍居住者の家族関係と家族問題を子どもの視点から考える。						
11	外国籍児童生徒への学校教育の実態と課題：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を考える。						
12	多文化共生と言語：外国籍児童生徒の学習環境を知り、外国籍児童生徒が日本語で教育を受ける意義について考える。						
13	外国籍児童生徒の不就学・不登校：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。						
14	文化の多様性および異文化交流の意義：文化的背景の異なる人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。						
15	まとめ：共生が進むか、ナショナリズムの反転か、改めて多文化共生社会を考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
提出物	40	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された字数になっているか。		期末レポート	60	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
<p>普段から日本における外国籍居住者についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として対面もしくは代替授業で配布されたレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]</p>				<p><b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b></p> <p>提出された課題について、対面授業中にコメントする、もしくは代替授業において書面でコメントを提示する。</p>			
受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけてください。			教科書・テキスト	レジュメを配布する。		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	子ども教育学科 中学校教諭一種免許状（英語） 関連科目		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SC310U 犯罪社会学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。この授業では、社会との関わりに重点を置いて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解すると共に、犯罪・非行の取り扱い方／取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。</p>			<p>①犯罪・非行の量的・質的変遷がどのようになっているか、またどういった社会背景によってもたらされたのかを、文章で説明することができる。  ②犯罪・非行の処遇について、制度の目的や量的・質的な現状を、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。  ③逸脱行動論の観点から、社会的に犯罪・非行の発生ならびに予防のメカニズムを理解し、具体例に応用して文章で説明することができる。  ④定義を含む、犯罪・非行に対する社会的反応について、どういった意義や問題があるのか、また時代に沿ってどのように変化したのかを、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。</p>				
教授方法	講義・グループディスカッション・受講生によるプレゼンテーション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：犯罪学・社会学というそれぞれの大領域の中での位置付けを考える作業を通して、犯罪社会学の意義・目的について理解する。						
2	犯罪・非行に関する基礎知識①：犯罪・非行に関わる法・政策・制度・機関等についての基礎知識を学習する。						
3	犯罪・非行に関する基礎知識②：犯罪・非行にまつわる統計を通して、当該現象に接近・観察することの難しさについて学習する。						
4	犯罪者処遇①：成人を対象とし、犯罪者処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
5	犯罪者処遇②：少年を対象とし、成人との比較を通して、非行少年処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。						
6	逸脱行動論①：初期の犯罪学理論と合わせて、アノミー論や社会解体論等の、主としてマクロ領域における逸脱行動論について学習する。						
7	逸脱行動論②：分化的接触理論や非行サブカルチャー論等の、主としてメゾ領域における逸脱行動論について学習する。						
8	逸脱行動論③：コントロール理論等の、主としてミクロ領域における逸脱行動論について、またそれとの関連から環境犯罪学について学習する。						
9	犯罪・非行への社会的反応①：各種逸脱行動論への理解を踏まえて、また犯罪・非行に接近・観察することの難しさとも合わせて、ラベリング論や逸脱の相互作用性について学習する。						
10	犯罪・非行への社会的反応②：犯罪報道と世論の関係について、また被害者の視点から社会における犯罪・非行を再理解することについて学習する。						
11	小括：この授業が目指す社会的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。／次週以降のグループ報告における分担を話し合う。						
12	プレゼンテーションに向けたリサーチ①：それぞれの分担に応じて、テーマに対する切り口を検討し、プレゼンテーションに必要なデータを収集し、報告形式に合わせた資料を作成する。						
13	プレゼンテーションに向けたリサーチ②：それぞれの分担に応じて、テーマに対する切り口を検討し、プレゼンテーションに必要なデータを収集し、報告形式に合わせた資料を作成する。						
14	受講生によるプレゼンテーション①：模擬授業の形でリサーチ結果を報告する。						
15	受講生によるプレゼンテーション②：模擬授業の形でリサーチ結果を報告する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。		プレゼンテーション実施	20	受講生同士の投票によって、担当回におけるプレゼンテーションとレジュメ等の正確さや分かり易さを評価する。	
プレゼンテーション準備	15	実施されたプレゼンテーションを通して、教員の視点から、そこに至るまでの作業成果を総合的に評価する。		試験	50	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①各回の授業で学習した犯罪社会学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分]  ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>			<p>・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。</p>				
受講生に望むこと	<p>・社会現象への関わり方や理解の仕方は多様であるが、犯罪・非行へのそれらはとりわけセンシティブでデリケートなものとなる。そのことを踏まえてなお、積極的に社会における包摂のあり方について、日頃から関心を持って、考えていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<p>&lt;参考書&gt;  『よくわかる犯罪社会学入門（改訂版）』  矢島正見・山本功・丸藤康著 学陽書房 2009年&lt;ISBN:978-4313340183&gt;  『ピチナー×犯罪学』  守山正・小林寿一著 成文堂 2016年&lt;ISBN:978-4792351830&gt;  『犯罪・非行の社会学-常識をとなえなおす視座[補訂版]』  岡邊健著 有斐閣 2020年&lt;ISBN:978-4641184534&gt;</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	SC315U 社会病理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業では、病理や問題とされる諸現象の発生要因や対応等について、社会との関わりから考えていく。また、逆に、病理現象が発生する社会のあり様それ自体を、私達の生活する現代社会とは一体どのようなものかについて、考えていく。			①正常／異常、一般／特殊といった比較対象の設定という、社会病理学的社会観について、自分の言葉で文章化して説明することができる。 ②社会病理現象の相対性について、具体例を交えて、文章化して説明することができる。 ③現代の社会病理現象における具体的な動向について理解し、経時的な変化や今日的な特徴を押さえて、分かり易く文章化して説明することができる。 ④社会病理学に固有の概念や理論について、分かり易く文章化して説明することができる。 ⑤社会病理現象を理解するのに有用な社会学の基本的概念や理論について、具体例を交えて、文章化して説明することができる。 ⑥社会病理現象への介入・実践のあり方について、自分なりの考えや態度を明確にし、分かり易く文章化して説明することができる。				
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学の成り立ちへの理解や、関連領域との比較を通して、社会病理学という研究領域、およびこの授業の意義・目的について理解する。						
2	社会病理学の歴史①：社会有機体説やマルクス主義をはじめとする、初期の社会病理学的視点について学習する。						
3	社会病理学の歴史②：デュルケムの業績を中心に、社会病理学的視点について学習する。						
4	社会病理学の歴史③：シカゴ学派の業績やミルズによる社会病理学批判について学習する。						
5	社会病理学の基本的視座①：社会病理学的視点の相対性について学習する。						
6	社会病理学の基本的視座②：主に機能主義について学習する。						
7	社会病理学の基本的視座③：社会病理現象への対応について、逸脱統制の観点から学習する。						
8	社会病理学の基本的視座④：社会病理現象への対応について、実践・介入・臨床の観点から学習する。						
9	社会病理学の基本的視座⑤：社会構築主義について学習する。						
10	小括：この授業が目指す社会的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。／映像資料の視聴と共にグループディスカッションを行い、社会病理学的視点を共有する。						
11	社会病理学各論①：貧困をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
12	社会病理学各論②：親密圏で発生する暴力（虐待・DV等）をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
13	社会病理学各論③：いじめ問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
14	社会病理学各論④：不登校およびひきこもり問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。						
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「社会病理学」について学ぶ意義を考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	グループディスカッション	20	グループディスカッション時の、運営上の貢献およびテーマに沿った発言などの積極的な参加態度を評価する。		
試験	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各回の授業で学習した社会病理学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			①各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採用し、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方的な学習となる。そのため、この授業で獲得した内容を活用して、日常的な学習の中で、あるいはその他の科目の中で、自らの意見や態度をアウトプットする習慣を身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<参考書> 『新版 非行と社会病理学理論』高原正典 三学出版 2011年<ISBN:978-4921134518> 『社会病理学的想像力―「社会問題の社会学」論考』矢島正男 季文社 2011年<ISBN:978-4762021374> 『社会病理学の足跡と再構成』朝田佳尚・田中智仁編 季文社 2019年<ISBN:978-4762029363>			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・アクティブラーニングとしてグループディスカッションの実施を予定しているが、個別あるいは全体の状況に応じて、別の課題に代える場合がある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL315U 政治学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若山 将実						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。また、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようにすることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。			①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。				
教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心にしています。						
履修条件	社会科学の学生のみ履修可。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）						
2	民主主義とは何か：民主主義について、選挙との関連から考察します。特に、シュンペーターの民主主義理論から現代日本の民主主義の実際について考えます。（民主主義の理論と実際を理解する。）						
3	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか、この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）						
4	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）						
5	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）						
6	政党：現代民主主義に欠かすことのできない政党について考察します。そして選挙制度が政党の数や行動に与える影響について考察します。（日本の政党政治の特徴や問題点について理解する。）						
7	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）						
8	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、安倍首相の政権運営が前任時とどのように違うのかについてなど。）						
9	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）						
10	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）						
11	利益誘導政治：民主主義国家で見られる利益誘導政治について、その特徴、要因、そして影響について検討します。（道路、橋、新幹線、そして原子力発電所などの建設に政治がどのように関わっているかを理解する。）						
12	マスメディア：民主主義国家において、政治家と有権者を繋ぐ媒体としてメディアの果たす役割について政治学の理論から事例を交えつつ検討します。（メディアが政治にどのような影響を与えるのかを理解する。）						
13	政治腐敗：民主主義国家において政治が腐敗すると、社会にどのような影響があるのでしょうか。日本における近年の政治腐敗とされる事例について検討することで考えます。（政治腐敗はなぜ起きるのかを理解する。）						
14	2021年衆議院議員総選挙の分析：第13回までの授業内容をふまえながら、2021年10月までに実施される衆院選挙結果の分析を行い、有権者の選択がもたらされた要因について考えます。						
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、2020年以降のコロナ禍を受けて、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）						
<b>成績評価方法及び基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験（または、レポート・オンライン試験）	50	試験（レポート）形式は論述形式を予定している。政治学の理論や実際についての程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。		毎回の課題・リアクションシート	50	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらったことを検討しています。[60分]			毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。				
受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。		教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回直接、またはGoogle Classroomを通じて配布します。			
指定図書／参考書等	なし。『政治行動論：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著 有斐閣 2015年 ISBN-13:978-464115-294 『政治学 (New Liberal Arts Selection)』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真淵 勝共著 有斐閣 2011年 ISBN-13: 978-4641053779 『政治学』スティーブン・P・リード著 ミネルヴァ書房 2006年 ISBN-13:978-4629044986 『はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに』北山俊哉・真淵勝・久米郁男共著 有斐閣 第3版 2009年 ISBN-13: 978-4641123687		その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。なお、代替授業日はClassroomから課題を配信します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL320U 地域社会政策論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では、自然災害によって被災した地域住民生活の復旧・復興過程で生じる法制上、政策上の課題を事例に、人間の復興の視点からの政策論的アプローチについて考える。			①被害の不等性について理解する ②被災者支援に係る法律、条令等について、その内容を理解する ③「人間の復興」の考え方について理解する				
教授方法	講義、テーマに基づくディスカッション 講義形式：対面及びGoogle Classroomを使用したオンライン講義						
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	わが国の社会変動の特質と課題 超少子・高齢社会の特徴、諸課題について学ぶ						
3	超少子高齢社会の社会政策（1） 人口政策、財政政策について学ぶ						
4	超少子高齢社会の社会政策（2） 社会保障政策、セーフティネットについて学ぶ						
5	過疎地の自然災害と諸課題 能登半島地震を事例に、住宅再建、生活復興の課題について学ぶ						
6	災害と避難行動（1） 災害発生時の避難行動特性について学ぶ						
7	災害と避難行動（2） 超少子高齢社会の自助及び互助・共助について学ぶ						
8	自主防災組織とは 自主防災組織の機能、役割、課題について学ぶ						
9	被災者支援を巡る課題（1） 災害時要支援者が抱える課題について学ぶ						
10	被災者支援を巡る課題（2） 災害時要支援者支援の具体的方策と災害法制について学ぶ						
11	防災計画と住民自治 国、地方自治体、市町村の防災計画について学ぶ						
12	地区防災計画 地区防災計画の概要について学ぶ						
13	災害ケースマネジメント 災害ケースマネジメントの考え方、個別避難支援について学ぶ						
14	住み続ける権利 日本国憲法、国際人権宣言の規定を踏まえつつ、「誰もが住み続けられる地域」について学ぶ						
15	まとめ：全体の振り返りと総括						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート①	15	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルでの論考ができています		
小レポート②	25	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルでの論考ができています	期末試験	50	講義内容の理解度		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①適宜資料を配布するので、講義前に目を通し内容を理解する【30分以上】 ②小テスト等を適宜実施するので、復習をし内容を理解する【30分以上】 ③講義で紹介した書籍等については関心をもって目を通す【30分以上】			小テストは適宜実施し、講義中に解説する				
受講生に望むこと	災害に関連した書籍に積極的に目を通すこと		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は、時間制通りに実施する ・受講登録後Google Classroomの招待メールを送るので、講義までに設定を完了すること ・期末試験については、状況次第で期末レポート課題に変更する場合があります			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL200U 社会貢献論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では災害ボランティアを中心に、行為的主体としてのボランティアの特質、ボランティアの社会的役割・機能、課題等について考える。			①災害ボランティア活動の歴史を通して、ボランティアという行為の意味について、自分のことばで説明できる ②ボランティア活動が提起する社会的課題について自分のことばで説明できる ③受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、積極的に参加する				
教授方法	講義・講義内プレゼンテーション、講義形式：対面授業及びGoogle Classroomによるオンライン授業						
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	自発性とは ボランティアの特質としての自発性概念について学ぶ						
3	利他性とは ボランティアの特質としての利他性概念について学ぶ						
4	共同性と公共性 ボランティアの特質としての共同性概念と公共性概念について学ぶ						
5	非営利性とは ボランティアの特質としての非営利性概念について学ぶ						
6	先駆性・継続性・責任性 ボランティアの特質としての先駆性概念、継続性概念、責任性概念について学ぶ						
7	臨床性とは ボランティアの特質としての臨床性概念について学ぶ						
8	自助・共助・公助とは 防災～復旧・復興過程における自助、共助、公助の役割について学ぶ						
9	善きサマリア人法とは 同法の特徴と日本における課題について学ぶ						
10	自然災害とボランティア（1） 災害フェーズごとのボランティアの役割について学ぶ						
11	自然災害とボランティア（2） 災害フェーズごとのボランティアの役割について学ぶ						
12	避難所運営を疑似体験する（1） 避難所で発生する様々な課題への対処方法について学ぶ						
13	避難所運営を疑似体験する（2） 避難所で発生する様々な課題への対処方法について学ぶ						
14	災害時要支援者支援 災害時における高齢者・障がい者支援について学ぶ						
15	まとめ・総括						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
講義参加態度	10	講義及びグループワークへの積極的参加	レポート①	15	講義の理解度		
レポート②	30	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができています	期末試験	45	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされていること		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①事前配布資料は、次回講義までに目を通し内容を理解する。[30分以上] ②講義中に紹介した資料や書籍については目を通す。[30分以上]			・小テストを適宜実施し、講義時間内に解説する ・レポート②については、各自が取り組んだボランティア活動を主題とする				
受講生に望むこと	週末等を利用し関心のある分野での社会貢献活動に積極的に取り組む		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は時間制通り実施する ・受講登録後、Google Classroomの招待状を送るので、講義までに設定を完了する ・第12回～13回は、週末または補講期間中に連続実施する（具体的日程については、第1回講義時に受講者と相談し決定）			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL235U 環境と開発		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では、国内外で発生する開発問題、環境問題について問題発生の要因を探るだけでなく、問題の背後にある経済社会システムの限界について批判的に検討する。			①エンパワメント、内発的発展、人間開発概念など、講義で取り上げる重要概念について説明できる ②「豊かさ」について自分のことばで説明できる ③「開発」について自分のことばで説明できる				
教授方法	講義・講義内プレゼンテーション、講義形式：対面授業及びGoogle Classroomによるオンライン授業						
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	貧困とは DAC指標などから貧困概念について学ぶ						
3	剥奪としての貧困 アマルティア・センによる人間の潜在能力概念を中心に潜在能力の剥奪について学ぶ						
4	豊かさとは 消費社会における豊かさ、絶対的貧困、相対的貧困について学ぶ						
5	グローバル化と不平等 グローバルサウスの現状を理解し、不平等の構造について学ぶ						
6	近代化と開発（1） 従属理論について学ぶ						
7	近代化と開発（2） 世界システム理論について学ぶ						
8	相対的剥奪とは 各種指標を用いて、格差及び貧困が生み出される社会経済構造について学ぶ						
9	GNHとは GNH (Gross National Happiness) 概念を通して、豊かな暮らしについて考える						
10	持続可能な社会とは Sustainable Development概念の歴史的展開、MDS's概念、SDG's概念について学ぶ						
11	世界の水問題 水を巡る国際情勢と日本との関係性について学ぶ						
12	公正な貿易とは フェアトレードの考え方、課題について学ぶ						
13	内発的発展論（1） 内発的発展論の主要理論について学ぶ						
14	内発的発展論（2） 地域コミュニティにおける実践事例から、内発的発展論の今日的な意義について学ぶ						
15	まとめ：全体の振り返りと総括						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート①	15	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている		
小レポート②	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	講義で学んだことの理解度		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し内容を理解する [30分以上] ②適宜小テストを実施するので内容を復習する [30分以上] ③講義で紹介した書籍等について、目を通し内容を理解する [30分以上]			小テストを適宜実施し、講義時間内に回答・解説する				
受講生に望むこと	環境問題、開発問題に関連した新聞記事やニュースに関心をもって見る		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は時間割通り実施する ・受講登録後、Google Classroomの招待メールを送るので、第1回講義までに各自で設定を完了すること ・期末試験については、状況次第で期末レポート課題に変更する可能性がある			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	SL110U 地域福祉論		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義では、地域福祉や福祉コミュニティの理論的理解に加え、地域福祉を担う社会福祉法人、社会福祉協議会、町内会・自治会組織などの機能・役割について学ぶ。			①地域福祉の定義について理解できる ②地域福祉政策の動向について理解できる ③福祉コミュニティの機能について理解できる ④地域包括ケアシステムについて理解できる			
教授方法	講義、テーマに基づくディスカッション、講義形式：対面授業及びGoogle Classroomによるオンライン授業					
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：講義概要及び講義の進め方についての概説。					
2	地域福祉の基本的考え方 地域福祉理論の発展、地域福祉の理念について学ぶ					
3	地域福祉の理論（1） 地域福祉の定義、地域福祉政策の動向と地域福祉理念について学ぶ					
4	コミュニティの分類と歴史 コミュニティの定義、コミュニティの分析モデルについて学ぶ					
5	福祉コミュニティとは何か コミュニティの機能、福祉コミュニティ形成の理念や考え方について学ぶ					
6	地域福祉における民間の役割 社会福祉法人、社会福祉協議会、NPO・ボランティア等の役割について学ぶ					
7	市民による多様な活動のかたち 町内会・自治会、民生委員・児童委員、保護司の役割について学ぶ					
8	福祉法制 福祉六法についてその概要を学ぶ					
9	小地域福祉活動とは 小地域福祉活動の考え方、住民参加の意義について学ぶ					
10	ソーシャルサポートネットワーク ソーシャルサポートネットワーク概念、構造について学ぶ					
11	地域包括ケアシステムの構築方法 地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの機能について学ぶ					
12	災害と地域福祉 災害発生後の生活課題について学ぶ					
13	災害時要支援者とは 避難所、仮設住宅における対人支援について学ぶ					
14	福祉避難所とは 指定避難所と福祉避難所の違い、福祉避難所の現状と課題について学ぶ					
15	まとめ 全体の振り返りと総括					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義の理解度	
レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	講義で学んだことの理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し内容を理解する [30分以上] ②適宜小テストを実施するので、内容を復習し理解を深める [30分以上]			小テストを適宜実施し、講義時間内に回答・解説する			
受講生に望むこと	国家試験受験を目指す学生に照準を合わせて講義を展開するので、高い目的意識をもって講義に臨んで欲しい		教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／「新・社会福祉士養成講座9 地域福祉の理論と方法第3版」社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規、2015 ISBN-13: 978-4805851050		その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は、時間割通り実施する ・受講登録後、Google Classroomの招待メールを送るので、第1回講義までに各自で設定を完了させること ・期末試験については、状況次第で期末レポート課題に変更する可能性がある		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SL205U 高齢者福祉論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>若い高齢者の問題は、とかく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。授業では、超高齢社会を迎えたわが国において、すべての人が何らかのかたちで関わらざるを得なくなってきた高齢者や老いの問題について、理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。</p>			<p>①高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。  ②高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。  ③介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。  ④高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。  ⑤介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。</p>				
教授方法	講義およびワークシートによる課題。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について理解する。						
2	高齢者を取り巻く社会情勢・福祉・介護需要について理解する。						
3	高齢者の特性や生活実態について理解する。						
4	高齢者保健福祉制度の発展過程について理解する。						
5	介護保険制度：介護保険制度創設の背景、介護保険制度の目的と理念について理解する。						
6	介護保険制度：介護保険制度の仕組みの概要について理解する。						
7	介護保険制度：介護保険制度の動向について理解する。						
8	介護保険制度：介護保険制度等サービス（居宅・介護予防・地域支援サービス）の体系について理解する。						
9	介護保険制度：介護保険制度等サービス（施設サービス）の体系について理解する。						
10	高齢者を支援する組織と役割、専門職の役割と実際について理解する。						
11	高齢者支援の関係法規（老人福祉法、高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律等）について理解する。						
12	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度、保健医療福祉に関する施策の概要）について理解する。						
13	介護の概念と対象、介護予防、介護過程について理解する。						
14	認知症ケア、終末期ケアについて理解する。						
15	介護と住環境について理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
テスト	70	・授業内容についてどれだけ理解しているか。		提出物	30	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
<p>①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上]  ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上]  ③日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。</p>			<p>毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。</p>				
受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。			教科書・テキスト	『新・エッセンシャル老人福祉論 第3版』 石田一紀編 みらい 2015年 ISBN978-4-86015-339-7		
指定図書／参考書等	なし／『令和2年版厚生労働白書』厚生労働省編 2020年 ISBN978-4-86579-241-6 『令和2年版 高齢社会白書』内閣府編 2020年 ISBN978-4-86579-232-4			その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。							

授業科目名	SL240U 社会保障論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	河野 すみ子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
私たちの生活と社会保障の関係を説明し、社会保障の理念、歴史、体系、財源などについて解説する。ついで、わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について説明する。			1. 社会保障の理念、歴史、体系、財源、諸外国の動向などについて学び、社会保障の基本的な内容について理解する。 2. わが国の医療保険、年金保険、介護保険、労働者災害補償保険、雇用保険の基本的な内容について理解する。 3. 社会保険と民間保険とのちがいについて理解する。				
教授方法	講義形式。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と社会保障を学ぶ						
2	社会保障の歴史を知る						
3	社会保障制度の体系について理解する						
4	社会保障の財源と費用について学ぶ						
5	医療保険制度の沿革と体系について理解する						
6	医療保険制度の概要を学ぶ						
7	医療保険制度の現状と課題						
8	年金保険制度の沿革と体系について理解する						
9	年金保険制度の概要を学ぶ						
10	年金保険制度の現状と課題						
11	介護保険制度創設の経緯と概要について理解する						
12	介護保険制度の現状と課題						
13	労働者災害補償保険制度の概要を学ぶ						
14	雇用保険制度の概要を学ぶ						
15	民間保険の概要について学び、社会保険との違いを理解する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
レポート	60	ポイントを押さえたレポートを書くことができている	毎回のミニッツペーパー	30	授業を聞いて、質問、疑問、感想などを記載する。		
授業の参加状況	10	授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
新聞・ニュースなどに目を配り、社会保障に関するニュースに触れること。[30分] テキストを読んで予習して授業に臨むこと。[30分] 授業中に紹介する参考書なども読むことにより、理解を深めること。[30分]			授業で出された質問・疑問について次回の授業で答えます。				
受講生に望むこと	現在の社会保障をめぐる動向について関心を持ち、考えてほしい。		教科書・テキスト	社会保障 第6版(新・社会福祉士養成講座12)、社会福祉士養成講座編集委員会、中央法規出版 ISBN: 978-4805858066			
指定図書/参考書等	なし/医療・福祉問題研究会 編 『医療・福祉と人権—地域からの発信』編者: 蒔昭三・井上英夫・河野すみ子・佐賀一道・信耕久美子・横山壽一、旬報社、2018年、ISBN: 978-4-8451-1563-1		その他・特記事項	テキストは必ず準備すること。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL215U 障害者スポーツ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 障害のある人たちのスポーツについて、活動状況の実態と特徴を理解し、障害のある人たちの生涯スポーツに貢献できる基礎知識を身につける。</p> <p>2. 具体的には、それぞれの障害の概念や生活の状況を学ぶとともに、社会的背景や関連諸制度を理解し、本人のみならず家族や支援スタッフなど周囲までを含めてスポーツに対する目的や意義について考える。</p> <p>3. 加えて、人的、経済的、あるいは設備・環境といった障害のある人たちのスポーツに必要なマネジメントの視点を学習する。</p>			<p>1. 初級障がい者スポーツ指導員に求められる基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2. 障害の基本的内容を理解し、スポーツの導入・支援に必要な基本的知識、技術を身につける。</p> <p>3. スポーツの実施、支援における健康や安全管理に関する基礎知識を理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. 広くスポーツの喜びや楽しさを学ぶとともに、健康を維持、増進する手段としてのスポーツを理解する。</p> <p>5. 障害のある人たちにとってのスポーツの意義や社会的な位置づけを考え、説明できるようにする。地域の障害者スポーツ振興に関する取り組みを理解する。</p>				
教授方法	講義（一部演習）						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	障害者スポーツの意義と理念、スポーツ界・社会における意義						
2	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、障害者スポーツ指導員の役割、ボランティアの基本姿勢、留意点						
3	全国障害者スポーツ大会の概要、歴史、開催の意義・目的、大会で実施される競技						
4	障害者スポーツ推進の取り組み、地域の障害者スポーツ普及・振興の取り組み						
5	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加①						
6	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加②						
7	障害に応じたスポーツ指導上の留意点と工夫、実施①						
8	障害に応じたスポーツ指導上の留意点と工夫、実施②						
9	障害者スポーツに関する諸施策、障害者福祉施策とその変遷、障害のある人たちの生活と実態						
10	スポーツを実施する際の安全管理、基礎的な対処法						
11	障害の理解とスポーツ（身体障害①）						
12	障害の理解とスポーツ（身体障害②）						
13	障害の理解とスポーツ（知的障害・発達障害）						
14	障害の理解とスポーツ（精神障害）						
15	コミュニケーションスキルの基礎、障害特性に応じたコミュニケーション方法、全体まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート評価基準に基づく（初回に説明）		授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（代替授業の課題、授業内の小レポート含む）	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 障害者スポーツやスポーツボランティアの社会的意義を考える。</p> <p>2. 実際の障害者スポーツ体験、または関係者の体験談等をまとめる。</p> <p>3. 東京パラリンピック（東京2020）に関する社会の動向に関心を持ちまとめる。 [1～3の全体で30分以上]</p>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b> 小テスト・小レポート等は内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。			
受講生に望むこと	<p>1. 障害のある人たちのスポーツ活動だけでなく、社会生活にも関心を持ってください。</p> <p>2. 自分自身の健康、生涯スポーツなどにも関心を持ってください。</p>			教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配付する。		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	必要な資料を講義内で配付します。代替授業日については、対面授業の中、またはClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL100U 図書館概論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。			①図書館の意義・役割について理解する ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する ④図書館関係機関、図書館関係団体について理解する ⑤今日の図書館の課題と今後の展望について主体的に考えることができる				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	現代社会と図書館 (1) 図書館とは何か						
2	現代社会と図書館 (2) 図書館の種類と図書館の役割						
3	現代社会と図書館 (3) 司書の役割とは何か						
4	図書館の理念 (1) 図書館の自由						
5	図書館の理念 (2) 図書館員の倫理綱領						
6	図書館関係法規について						
7	公共図書館の制度と機能 (1) 図書館法						
8	公共図書館の制度と機能 (2) 公共図書館の機能						
9	公共図書館の制度と機能 (3) 管理運営						
10	学校図書館の制度と機能						
11	大学図書館の制度と機能						
12	専門図書館の制度と機能						
13	国立国会図書館の制度と機能						
14	外国の図書館について						
15	図書館関係団体について						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末テスト	50	筆記試験(持ち込み不可)を実施する。図書館に関する基礎的な知識が身につけている必要がある。	レポート課題	20	各回授業内容に合わせた小レポートの課題などを行う。授業内容に応じた記述がなされているか評価する。		
授業への参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。				
受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目である。ただし、図書館に興味がある学生の履修も歓迎する。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。		教科書・テキスト	『図書館概論 五訂版』塩見昇編著。日本図書館協会、2018。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3;1) ISBN:978-4-8204-1813-9			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL220U 情報技術論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。			図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識を習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報と情報技術 授業の進め方、情報とは何かを考える						
2	情報の表現方法と蓄積媒体						
3	情報技術と情報メディア その種類と歴史						
4	図書館と記録技術 視聴覚メディアと電子メディア						
5	情報処理技術とコンピュータ						
6	コンピュータの歴史						
7	現代のコンピュータ						
8	コンピュータとソフトウェア						
9	携帯情報端末						
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍						
11	データベースとは						
12	コンピュータネットワークとは						
13	インターネットの仕組み						
14	インターネットと検索エンジン						
15	図書館と情報技術 まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末テスト	40	筆記試験(持ち込み不可)を実施する。情報技術に関する基礎的な知識が身につけている必要がある。	レポート課題	30	授業内容に合わせた小レポートを出題する。適切に授業内容を理解しまとめているか評価する。		
授業参加度	30	授業への参加度、発言などの積極性を評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。 基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。 配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。				
受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目であるが、情報技術一般について興味がある学生の履修も歓迎する。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をすること。		教科書・テキスト	なし(授業内で資料配布)			
指定図書/参考書等	なし/『図書館情報技術論』杉本重雄 [ほか] 編 樹村房 2014 ISBN: 978-4883672035		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SP201U 心理学実験Ⅰ		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・加藤 仁 (代表教員 松下 健)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員
2	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法の解説。					松下
3	ミュラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					加藤
4	「ミュラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
6	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
7	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					加藤
8	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
9	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
10	「SD法」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
11	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					加藤
12	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
13	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					加藤
14	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
15	実験を含む、心理学の研究法について振り返る					松下
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[90分] ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[90分] ③添削されたレポートによって復習する。[30分]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
				提出された実験レポートを添削した上で返却する。		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。他の講義や自習により統計学について十分修得しておくこと。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-77-950237-8	
指定図書／参考書等	なし/『実践心理データ解析—問題の発想・データ処理・論文の作成—改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-78-851012-8 その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。			その他・特記事項	代替授業はGoogle classroomを通じて課題などを提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SP206U 心理学実験Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子・齊藤 英俊・加藤 仁 (代表教員 勝谷 紀子)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。</p>			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい(単位未修得可)。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。					全教員
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					加藤
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。					勝谷
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					齊藤
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで、実験操作の考え方について理解する。					加藤
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。					勝谷
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齊藤
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齊藤
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					加藤
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>			<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>			
<p>①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。 [45分] ②各実験種目のレポートを作成する。 [120分] ③各種目で適用された分析方法を復習する。 [30分] ④返却されたレポートを見直し、修正する。 [30分]</p>			各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。			
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。		教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均(編) ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8		
指定図書/参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。		その他・特記事項	代替授業の方法についてはオリエンテーションで説明するので必ず出席して下さい。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	SP211U 心理学研究法		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学は「心」という目で見たり手にとったりすることができないものが研究の対象である。心に対して研究という視点からアプローチをするためには、科学的な方法をいかに適切に行うかという点が重要である。心理学の研究を行うためには、科学的な方法を行うためのさまざまな知識を身につけることが欠かせない。本講義では、心理学の代表的な研究方法のうち実験法と観察法を習得することを目指す。			① 心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的研究及び質的研究の基本的な知識を身につけることができる。 ② データを用いた実証的な思考方法を身につけ、適切に考えることができる。 ③ 研究における倫理についての知識を身につけることができる。			
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える					
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ					
3	実験と観察：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する					
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ					
5	実験法（２）：原因をどう作り出すか、独立変数の操作について学ぶ					
6	実験法（３）：結果をどう取り出すか、従属変数の測定について学ぶ					
7	実験法（４）：原因を見誤らないように剰余変数をどう統制するかを学ぶ					
8	中間テスト					
9	実験法（５）：質問紙を使った実験、フィールド実験など様々な実験法について学ぶ					
10	観察法（１）：観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ					
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ					
12	心理学に特有の問題：研究を実施するにあたり配慮すべき問題（観察反応、倫理的問題）について学ぶ					
13	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ					
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る					
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	40	レポートの内容は自分で立てた研究計画である。その内容が講義で学んだ内容をどれだけ活かしているかを評価基準とする	小テスト	40	講義前半で学んだ内容の理解度	
講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①講義で学んだ内容をテキスト、資料、ノート等を使用して復習する。 [45分] ②次回に万部内容をテキストなどを使用して予習を行う。 [30分] ③心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、実際にはどのように研究が行われているかを学ぶ。 [30分]			講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	自分が興味のある事柄について研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要があります。研究のためには何をやる必要があるか、何をすべきかをいかに考えながら講義に臨むこと。		教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7		
指定図書／参考書等	なし／参考書は授業中に適宜紹介する。		その他・特記事項	心理統計学および心理学実験実習Ⅰを履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。 代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SP216U 心理的アセスメント		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。			
教授方法	講義、演習					
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理研究法に習熟した者に限る					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理					
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点					
3	心理アセスメントと統計解析					
4	心理測定の信頼性と妥当性					
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）					
6	心理アセスメントと倫理					
7	質問紙検査、性格検査、TEGの理論と実施					
8	質問紙検査、性格検査、TEGの解釈と所見作成					
9	投影法、バウムテストの理論と実施					
10	投影法、バウムテストの解釈と所見作成					
11	知能検査、WAISⅢ、動作性検査1回目					
12	知能検査、WAISⅢ、言語性検査1回目					
13	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査2回目）					
14	知能検査、WAISⅢ、言語性検査2回目					
15	知能検査、WAIS-Ⅲ（結果の解釈と所見作成）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと		課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]			期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。			
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。		教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-13:9784779503870		
指定図書／参考書等	なし／『心理テスト—理論と実践の架け橋—』 ホーガン、T. P.（著）繁樹算男・権名久美子・石垣琢磨（共訳）培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041		その他・特記事項	・心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。・対面授業が完全に実施不可になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の割合で評価する。・代替授業はGoogle classroomを通じて課題提示する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の4領域における実践経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う						

授業科目名	SP225U 発達心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。				
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。						
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。						
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。						
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。						
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。						
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。						
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。						
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。						
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。						
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。						
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。						
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。						
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。						
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。						
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。	
最終試験	50	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]				①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②最終試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133		
指定図書／参考書等	なし／『保育の心理学』本郷一夫・飯島典子編 建帛社 2019年 ISBN:978-4767950914、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつなぐ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつなぐ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。							

授業科目名	SP230U 教育心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。				
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。						
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。						
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。						
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。						
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。						
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。						
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。						
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。						
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。						
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。						
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。						
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。						
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。						
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、論理的に考察されていることを評価基準とする。	
最終試験	50	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]				①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②最終試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。			教科書・テキスト	『スタンダード教育心理学』服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN:978-4781913254		
指定図書／参考書等	なし/『教育心理学Ⅰ』大村彰彦編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学Ⅱ』下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744、『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN:978-4623048861、『教育・学校心理学』水野浩久・串崎真志編 ミネルヴァ書房 2019年 ISBN:978-4623088078、『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』橋本創一・三浦巧也・渡邊貴裕・尾高邦生・堂山亞希・熊谷亮・田口禎子・大伴潔編 福村出版 2020年 ISBN:978-4571121401			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。							

授業科目名	SP236U 人格心理学 (感情・人格心理学A)		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格 (=性格、パーソナリティ) があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な視点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格の形成過程について説明できる。 ④人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。			
教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：人格 (性格、パーソナリティ) とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。					
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。					
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。					
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。					
5	特性論① その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。					
6	特性論② Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。					
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。					
8	相互作用論：人・状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。					
9	物語論：物語論 (ナラティブ) の視点から人格について考える。					
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論 (質問紙法、投影法、観察法、面接法) を理解し、研究方法について学ぶ。					
11	人格の発達①：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。					
12	人格の発達②：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。					
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。					
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしているかについて考える。					
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準
各回の授業レポート	40	講義内容に対する意見を記述すること (講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		課題レポート	20	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価基準とする。
最終レポート	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察がされている。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。 [30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。 [40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみることに。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみることに。				①授業レポートについては、対面授業時に振り返りの時間をもちます。 ②課題レポートや最終レポートについては、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応します。		
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/『改訂版』人格心理学への招待：自分を他者を理解するために』詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 ISBN: 978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SW200U 相談援助の基盤と専門職		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
講義を通して、相談援助の概念、範囲、形成過程、理念について学び、相談援助にかかる専門職としての役割、意義を理解する。また、相談援助専門職としての専門性と倫理を学ぶとともに、総合的かつ包括的な相談援助の全体像と理論を理解する。 社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験受験を意識した内容を展開する。			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士の役割と意義について理解し、説明できるようにする。</li> <li>2. 相談援助の概念、形成過程、理念について理解し、説明できるようにする。</li> <li>3. 相談援助にかかる専門職の専門性と専門職倫理について理解し、説明できるようにする。</li> <li>4. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論について理解する。</li> <li>5. 社会福祉士国家資格に必要な基礎的内容の理解、習得を目指す。</li> </ol>			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	社会福祉士の役割と意義、現代の社会福祉士に求められる専門性、精神保健福祉士の役割と意義					
2	相談援助の定義と構成要素、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの構成要素					
3	相談援助の形成過程(1) ソーシャルワークの源流、ソーシャルワークの基礎確立期					
4	相談援助の形成過程(2) ソーシャルワークの発展期、ソーシャルワークの展開期					
5	ソーシャルワークの統合とジェネラリスト・ソーシャルワーク、統合化とジェネラリストアプローチの成立					
6	相談援助の理念(1) ソーシャルワーカーと価値、ソーシャルワーク実践と価値					
7	相談援助の理念(2) ソーシャルワーク実践と権利擁護、権利擁護が必要とされる背景、概念、態様					
8	相談援助の理念(3) クライアントの尊厳と自己決定、エンパワメントとストレングス視点					
9	ノーマライゼーションと社会的包摂、地域生活支援という視座、ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョン					
10	専門職倫理と倫理的ジレンマ、専門職倫理の概念、倫理綱領の意義と内容、ソーシャルワーク実践におけるジレンマ					
11	総合的かつ包括的な相談援助の全体像、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座					
12	地域を基盤としたソーシャルワークの八つの機能、個と地域の一体的支援					
13	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(1) ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点					
14	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論(2) ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質					
15	相談援助にかかる専門職の概念と範囲、総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等(代替授業の課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む)		授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会のなかで起こっている福祉に関する問題について関心をもつ。</li> <li>2. 相談援助の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。</li> <li>3. 社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察を行ないまとめる。 [1~3の全体で30分以上]</li> </ol>				<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b> 確認テスト等は、毎回、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。		
受講生に望むこと	社会のなかで発生しているさまざまな社会福祉の問題に関心を持ち、なぜそのような事象が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業は、社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した内容です。			教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座6『相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規、2015。 ISBN:978-4-8058-5102-9	
指定図書/参考書等	なし/なし 必要な資料を講義内で配布する。			その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。 代替授業日については、対面授業の中、またはClassroomを用いて課題を提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SW205U 相談援助の理論と方法 I		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
相談援助専門職にとって必要な知識・技術のシステム理論における全体像を理解する。相談援助の構造、機能、展開過程を理解し、相談援助専門職に求められる基本的な理論と方法の習得を目指して授業を進める。関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助に係る基本的な知識と技術を理解し、説明できるようにする。</li> <li>2. 相談援助専門職の役割と意義、機能を理解し、説明できるようにする。</li> <li>3. 相談援助における援助関係、相互作用を理解し、説明できるようにする。</li> <li>4. 相談援助の展開過程を理解し、説明できるようにする。</li> <li>5. 社会福祉士資格、相談援助実習に必要な基礎的内容を理解、習得する。</li> </ol>				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」の単位修得済の者、または同時履修の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	相談援助の基本的理解、ソーシャルワークの定義と枠組み、ソーシャルワークの構成要素						
2	ソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織						
3	相談援助の構造、ソーシャルワークにおけるニーズ、ソーシャルワークの機能						
4	人と環境の相互作用、実践における人と環境、システム理論からの視点						
5	相談援助における援助関係（1） 援助関係の意義、援助関係の形成プロセスに影響する要因						
6	相談援助における援助関係（2） 援助構造と援助関係、援助関係の質と自己覚知						
7	相談援助における援助関係（3） 援助関係とマイクロからマクロの実践領域						
8	相談援助の展開過程（1） 相談援助の展開過程の流れ、ケース発見						
9	相談援助の展開過程（2） 受理面接（インテーク）、問題把握からニーズ確定まで						
10	相談援助の展開過程（3） ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで						
11	相談援助の展開過程（4） 事前評価（アセスメント）から支援標的・目標設定まで						
12	相談援助の展開過程（5） 支援標的・目標設定から支援の計画（プランニング）、支援の実施まで						
13	相談援助の展開過程（6） 経過観察（モニタリング）、再アセスメントと支援の強化						
14	相談援助の展開過程（7） 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア、予防的対応とサービス開発						
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能としての総合支援						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（代替授業の課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）		授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。</li> <li>2. 社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。</li> <li>3. 社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。[1～3で30分以上]</li> </ol>			確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。				
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。</li> <li>2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</li> </ol>		教科書・テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法 I 第3版』中央法規、2015。ISBN:978-4-8058-5103-6			
指定図書／参考書等	なし／なし 必要な資料を講義内で配布する。		その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。代替授業日については、対面授業の中、またはClassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SW210U 相談援助の理論と方法Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>相談援助の展開過程において必要な知識、技術について、その意義、目的、留意点、および効果測定、評価方法を理解する。また、相談援助専門職に必要な面接技術、記録の技術を学ぶ。加えて、相談援助のあり方として個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとして捉え、いかに対応していくかを学ぶ。</p> <p>関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助における具体的な援助技術に関して理解するとともに、説明できるようにする。</li> <li>2. 相談援助における展開過程を理解し、個々のプロセスについて説明できるようにする。</li> <li>3. 相談援助にかかる基本的な面接技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。</li> <li>4. 相談援助にかかる基本的な記録の技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。</li> </ol>			
教授方法	講義					
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ」の単位修得済の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助のためのアウトリーチの技術、アウトリーチの意義と目的、アウトリーチの方法と留意点					
2	相談援助のための契約の技術、契約の意義と目的、契約の方法と留意点					
3	相談援助のためのアセスメントの技術、特性、援助的關係、面接					
4	統合的アセスメント、エコマップ、ジェノグラム、アセスメントの際の留意点					
5	アセスメントで得た情報の使い方、情報統合化に必要な知識、想像力、統合力、分析力					
6	相談援助のための介入の技術、介入の意義と目的、介入の方法と留意点					
7	相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント					
8	相談援助のための効果測定、評価、サービス開発					
9	相談援助のための面接の技術（1） 相談援助における面接の目的、面接の展開					
10	相談援助のための面接の技術（2） 面接において用いる技術とコミュニケーション、相談援助における面接の形態					
11	相談援助のための記録の技術（1） 記録の意義と活用目的、記録の種類と活用					
12	相談援助のための記録の技術（2） 記録の方法とソーシャルワーク記録のIT化					
13	相談援助のための記録の技術（3） 記録の技術の実際例と今後の課題					
14	相談援助のための交渉の技術、交渉の目的と意義、交渉の方法と留意点					
15	相談援助専門職としての役割、意義、援助過程、技術に関する総合的理解					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（代替授業の課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）		授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上]</li> <li>2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。</li> <li>3. 福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</li> </ol>			<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。</p>			
受講生に望むこと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。</li> <li>2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</li> <li>3. 現代社会において社会福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。テレビや新聞、インターネットなどで日頃から関連するニュースには関心を持つようになして下さい。</li> </ol>		教科書・テキスト	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編、新・社会福祉士養成講座7『相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規出版、2015。ISBN:978-4-8058-5103-6</p> <p>※前期科目「相談援助の理論と方法Ⅰ」と同じもの</p>		
指定図書／参考書等	なし／なし 必要な資料を講義内で配布する。		その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						



授業科目名	SW220U 相談援助演習 I		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態により、実践的に習得する。			①ケースワーク及びグループワークについて、理論や技術を演習し、基礎能力を習得する。 ②演習を通じて、利用者・家族とのコミュニケーションの実際が理解できる。 ③記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、会議の実際が理解できる。				
教授方法	個人及びグループでの演習と講義。ワークシートによる課題。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する。利用者との関係形成の重要性について理解する。						
2	関係形成のための自己理解、自己覚知について理解する。						
3	価値観と他者理解について理解する。						
4	関係形成のための原則について学ぶ：バイスティックの7原則の理解						
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的コミュニケーションの理解						
6	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得						
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解						
8	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用						
9	ケースワーク：ソーシャルワークの過程、インテークについて理解する。						
10	ケースワーク：アセスメントの概要を理解する。ジェノグラム、エコマップの活用法を理解する。						
11	ケースワーク：アセスメントからプランニングまでの流れについて理解する。						
12	ケースワーク：モニタリング、事後評価、終結とアフターケアについて理解する。						
13	グループワーク：グループ全体と個について理解する。						
14	グループワーク：メンバー間の相互作用の促進について理解する。						
15	記録の意義、方法について理解する。講義の振り返りとまとめ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
テスト	60	授業内容についてどれだけ理解しているか。	講義参加態度等	40	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味の持ったことに関して、自分で調べて理解を深める。			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・この授業は社会福祉士を目指す専門的な内容となっているので、この点を理解した上で受講して欲しい。 ・相談援助の知識と技術に係る他の科目（相談援助の理論と方法等）と関連づけて学ぶ。		教科書・テキスト	なし。ワークシート等を毎回配布する。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。							

授業科目名	SW225U 相談援助演習Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
社会福祉の専門援助技術のひとつであるケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により、相談援助に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めて習得する。			①ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解することができる。 ②介護保険制度と障害者総合支援法による制度としてのケアマネジメントの位置づけや子ども家庭福祉などの領域におけるケアマネジメントを理解することができる。 ③ケアマネジメントの展開過程であるアセスメント、プランニング、モニタリング等について、基本的な技法を習得することができる。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義。ワークシートによる課題。					
履修条件	相談援助演習Ⅰの単位を修得済の者。高齢者福祉論の単位の修得済が望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ケアマネジメントの基本的理念、意義について理解する。					
2	ケアマネジメントの目的、機能等について理解する。					
3	ケアマネジメントのプロセス、社会資源等について理解する。					
4	ケアマネジメントの制度と施策について理解する。					
5	ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。					
6	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のアセスメントについて理解する。					
7	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のプランニングについて理解する。					
8	介護保険制度におけるケアマネジメント：居宅サービス計画のモニタリングと評価について理解する。					
9	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のアセスメントについて理解する。					
10	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のプランニングについて理解する。					
11	介護保険制度におけるケアマネジメント：施設サービス計画のモニタリングと評価について理解する。					
12	介護保険制度におけるケアマネジメント：介護予防サービス計画の概要について理解する。					
13	障害者領域におけるケアマネジメントについて理解する。					
14	子ども家庭福祉領域におけるケアマネジメントについて理解する。					
15	生活困窮者等に対するケアマネジメントについて理解する。まとめ。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
テスト	60	授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加状況等	40	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
①授業の前にあらかじめ指示されたテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ③テキストの事例を読み込み、ケアマネジメントへの理解を深める。			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	演習形式の授業であるため、毎回、遅刻せずに参加し、積極的に取り組むこと。		教科書・テキスト	『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編 みらい 2007年 ISBN:978-4-86015-109-6		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。						

授業科目名	SW350U 相談援助実習指導 I		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
相談援助実習と相談援助実習指導の意義について学ぶ。実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に学び実践的な技術等を体得する。			①相談援助実習と相談援助実習指導の意義について理解できる。 ②実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。			
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブックを用いた演習、DVDの視聴、ワークシートによる課題。					
履修条件	相談援助演習 I の単位を修得済の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導並びに集団指導の意義					
2	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(事前リサーチ:分野)					
3	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(事前リサーチ:施設)					
4	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(概況表)					
5	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解					
6	現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)					
7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解					
8	実習目的と実習課題について(個人票)					
9	実習目的と実習課題について(実習計画)					
10	実習先における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)					
11	実習生に求められる姿勢					
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解(実習記録の目的・内容)					
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解(記述方法)					
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成					
15	巡回指導					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・ワークシート等の提出物の内容等
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
職能団体である社会福祉士の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。						



授業科目名	SB200U 図書館サービス概論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを旨とする。			①図書館サービスの意義・構造について理解する ②資料提供サービスの基本について理解する ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する ④図書館ネットワークについて理解する ⑤障害者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館サービスの意義 (1) 図書館の構成要素とサービスの役割						
2	図書館サービスの意義 (2) 図書館サービスの類型化						
3	図書館サービスとマネジメント (1) 計画の立案と評価						
4	図書館サービスとマネジメント (2) 図書館の「新・望ましい基準」						
5	来館者へのサービス						
6	利用空間の整備						
7	貸出サービスの構造						
8	資料提供の展開 (1) リクエストサービス						
9	資料提供の展開 (2) 資料収集の方針						
10	情報提供サービス						
11	利用対象に応じたサービス (1) 障害者サービス、高齢者サービス						
12	利用対象に応じたサービス (2) 児童サービス						
13	利用対象に応じたサービス (3) 多文化サービス						
14	情報提供と著作権						
15	これからの図書館サービスのあり方について (まとめ)						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
小テスト	20	授業内で小テストを実施する。	授業内課題	20	授業内での作業・コメントなどの成果を評価する。		
レポート	40	①授業で指定した内容をまとめ、②同一内容を扱う別の文献を探し、内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ、④期限までに指定書式にて提出する。	授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。		
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的(できれば週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。				
受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのかよく考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。		教科書・テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著. 日本図書館協会, 2010. (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 ;3) ISBN:978-4-8204-0917-5			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB205U 情報サービス論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。			①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける				
教授方法	講義、スライドを使用した形式で実施						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する						
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか						
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか						
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方						
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは						
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価						
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動						
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解						
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには						
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能						
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力						
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容						
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方						
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方						
15	情報サービスを行う意義：まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末テスト	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。	授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。		
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。				
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。		教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著、日本図書館協会、2012。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB210U 情報資源組織論		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	司書			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用などについて理解することを目的とする。			①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する ③主題分析・分類法・索引法について理解する ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。			
教授方法	講義					
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	資料組織化の意義について					
2	書誌コントロール (1) 書誌とは何か					
3	書誌コントロール (2) 全国書誌・OPACとは					
4	書誌情報の作成・流通・管理					
5	記述目録法の基礎—概要と記述の範囲					
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号					
7	記述目録法作成の実際 (1) タイトルと責任表示、版表示に関する事項					
8	記述目録法作成の実際 (2) 出版頒布・形態に関する事項					
9	記述目録法作成の実際 (3) シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項					
10	記述目録法作成の実際 (4) 標目と排列					
11	主題分析と分類法・索引法					
12	分類法の実際 (1) 分類総論					
13	分類法の実際 (2) 日本十進分類法					
14	分類法の実際 (3) その他の分類法					
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準	
期末テスト	60	筆記試験 (持ち込み不可) を実施する。目録の基礎知識及び基本的な技術を習得している必要がある。	授業内課題	20	目録の知識を確認するため記述式などの形式で課題を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。		教科書・テキスト	『情報資源組織論 3訂版』柴田正美著、日本図書館協会、2020。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 9) ISBN: 978-4-8204-1915-0		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ST200U 学習・言語心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
人間が経験に基づきどのように変化するかを、主に行動の変化と言語の習得を中心に学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてディスカッションの機会を設ける。			(1) 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2) 言語の習得における機序について概説できる。				
教授方法	講義形式						
履修条件	認定心理士あるいは公認心理師を目指す者が望ましい						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：学習心理学および言語心理学について概説する。また、授業の進め方や成績評価基準などを説明する。						
2	学習・行動領域の心理学（パヴロフの条件反射，ソーンダイクの試行錯誤学習・効果の法則，ワトソンの恐怖条件づけ，トールマンの認知地図）						
3	行動の測定と実験デザイン（行動の定義，反応型と行動の機能，様々な観察法）						
4	生得性行動（生得性と学習性，刺激と反応の随伴性，刻印づけ，馴化の法則）						
5	レスポデント条件づけ（無条件・条件刺激，無条件・条件反応，中性刺激）						
6	オペラント条件づけ（強化・弱体化，強化子・弱体化子，正の強化子・負の強化子，条件強化子）						
7	強化随伴性（確立操作，遮断化，飽和化，強化スケジュール）						
8	刺激性制御（弁別刺激，同時弁別，継時弁別，条件性弁別刺激）						
9	言語に関する理論と研究（言語の4領域（音韻・語彙・文法・語用論），スキナーの言語学習理論・模倣言語行動，生成文法理論，普遍文法）						
10	言語に関する理論と研究（認知言語学，社会語用論的アプローチ，非言語的・前言語的コミュニケーション，ナラティブ，ディスコース，言語と推論，言語と文化）						
11	語彙の獲得過程（クーイング，喃語，初語，一語発話，二語発話，概念カテゴリー，理解語，産出語（表出語彙））						
12	語彙の獲得過程（語彙カテゴリー，指示対象と語のマッピング，相互排他性，社会的手がかり，語彙の爆発的増加，認知的制約）						
13	文法能力の発達（構文の発達，埋め込み文，語順，文法形態素の獲得（助詞，助動詞））						
14	言語の生物学的基礎と障害（言語における脳機能，失語症（ブローカ失語，ウェルニック失語，超皮質性運動失語，超皮質性感覚失語，伝導失語），読字障害（ディスレクシア））						
15	全体のまとめ：学習心理学および言語心理学のまとめを行い，それぞれの心理学の社会での展開について説明する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末レポート	70	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し，提出すること。	受講態度	10	発表，質問，グループディスカッションなどの参加態度をみる		
小レポート	20	小レポートの完成度を評価する					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
シラバスを確認し，毎回扱う内容を予習すること。[60分] 学習した内容が定着するよう復習すること。[90分]			小レポート等の提出物については，次回講義時にフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	心理学特有の抽象的な概念を扱うことが多い科目である。シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。学習に自発的，積極的に取り組むこと。		教科書・テキスト	毎回，教員が作成した資料を配布する。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	ST205U 神経・生理心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	西山 志満子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>神経・生理心理学の知識をもつことは、脳に障害がある方の状態理解につながる。脳機能障害の患者さんに対する治療・ケアは、医師、看護師、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、精神保健福祉士など職種でのチーム医療が基本となり、心理士はチームの一員として、神経心理学のアセスメントを行い、ご本人も含め有益なフィードバックを行うことなどが求められる。本講義では、臨床の場で必要とされる脳神経系の構造と機能、神経心理学のアセスメントを中心に解説する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳神経系の構造及び機能について概説できる</li> <li>2. 記憶、感情などの生理学的反応の機序について概説できる</li> <li>3. 高次脳機能障害および必要な支援について概説できる</li> </ol>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	神経心理学の歴史的流れ、神経心理学における考え方の特徴、関連する医療者と心理士の役割を理解する。						
2	脳の解剖学的基礎知識、脳の構造と機能、神経機能の階層構造および局在、大脳連合野、脳画像所見を理解する。						
3	脳血管障害（虚血性疾患、出血性疾患）、病気による症状（疾患独自の症状、頭蓋内圧亢進症状、局所神経症状）について理解する。						
4	神経心理学のアセスメントの特徴、神経心理学の検査、心理状態や二次症状に対するアセスメント、フィードバックの方法について理解する。						
5	高次脳機能障害者への支援、就労支援・復学支援、神経心理学のリハビリテーション、高次脳機能障害をもつ患者の家族支援について理解する。						
6	臨床神経心理学における福祉、産業、教育、司法領域を含むチーム医療の重要性、連携のとり方と留意点、チーム医療における心理士の役割を理解する。						
7	脳機能の基盤に関する科学的知識の増進を目的とした神経心理学的研究、研究実施にあたっての倫理的配慮、研究手法、神経心理学的研究による貢献について理解する。						
8	注意機能の特性、注意・ワーキングメモリ・実行機能・展望記憶の重複性および連結性、注意検査、注意障害のリハビリテーションについて理解する。						
9	記憶障害（健忘症）の時間的区分、原因、関連する脳部位、併存症状、記憶障害の評価に用いる検査やリハビリテーションに有効な方法を理解する。						
10	遂行機能障害の4要素、関連する脳部位、評価に用いられる検査、介入法や支援方法を理解する。						
11	失語症の症状、原因、関連する脳部位、併存症状、評価に用いられる検査、リハビリテーションに有効な方法、介入・支援方法を理解する。						
12	失行・失認・脳梁離断症状の概要、メカニズム、評価のポイント、介入・支援方法を理解する。						
13	社会的行動障害の種類と基盤にある機能障害、対応方法、前頭葉機能障害による行動障害、認知障害、情動障害、外傷性脳損傷による精神症状について理解する。						
14	高齢期における心理・社会的問題、認知症の原因となる疾患と症状、特徴的な認知機能障害と検査法、認知症に伴う行動・心理症状、神経心理学的理解に基づく介入方法を理解する。						
15	発達障害者支援法に示された代表的な障害と改正の意図を理解する。当事者の困惑と家族の思いを知り、環境調整の仕方を考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末試験	70	講義内容から試験問題を作成し、理解度を評価する。		講義の受講態度	30	私語などを慎み、熱心に聴講しているかを評価する。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
事前にテキストに目を通し、予習しておくこと。[30分程度]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
				期末試験の解答用紙は、採点后に返却します。			
受講生に望むこと	シラバスの内容をよく確認したうえで受講すること。公認心理師を取得し、医療や保健分野で働くことをイメージしながら学習すること。			教科書・テキスト	公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学 緑川晶（他）編 医歯薬出版 2018年 ISBN：978-4263265611		
指定図書／参考書等	なし／高次脳機能障害 石合純夫 新興医学出版社 2001年 ISBN：978-4880022550			その他・特記事項	受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ST210U 人体の構造と機能及び疾病		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	大和 太郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
すべての人は医療と関わります。医療に携わる職をめざす方に限らず、医学や医療に関する知識を身につけておくことは大切なことです。できるだけ平易に解説し、今後の医療や介護の問題点についても考えていきたいと思います。			以下の項目について理解を深めます。 1) 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害 2) がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病 3) 人の成長・発達や老い				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション						
2	解剖 (皮膚 からだの構造 骨格系 筋系)						
3	解剖 (循環器系)						
4	解剖 (呼吸器系)						
5	解剖 (消化器系 1)						
6	解剖 (消化器系 2)						
7	解剖 (泌尿器系 生殖器系)						
8	解剖 (内分泌系 神経系 感覚器系)						
9	緩和ケアと終末期医療について						
10	薬の基礎知識						
11	検査概論、医療用語						
12	リハビリテーションについて						
13	感染症						
14	栄養						
15	試験対策						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準		
定期試験	70	答案の成績を客観的に評価する。原則として6割以上で単位を与える。	授業の参加態度	30	授業参加態度を評価する。		
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
指定教科書を中心とした授業を行います。事前に読み進めておいてください [30分] 指定教科書に記載のない講義も行いますので、事後の復習も必要です [30分]			途中実施する小テストやレポートなどについては、後日評価しフィードバックします。				
受講生に望むこと	ほとんどすべての人は、人生のいずれかの段階で医療と関わります。また、すべての人に訪れる死についても考える機会をもち、病や老いに苦しむ患者さんやご家族の気持ちを理解し、慈しむ気持ちも育んでいただきたいと思っています。		教科書・テキスト	『医学一般』 一般社団法人 医療教育協会 2018年 ISBN: なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	コミュニティ文化学科科目「医学一般」と合同開講である。代替授業日はClassroomを用いて課題を提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
医学や医療の知識を身につけてもらうため、体の構造や機能、人の成長・発達や老い、患者や家族の気持ち等について、これまでの実務経験 (総合病院勤務医時代の経験や、クリニック開院後の外来診療および訪問診療での経験) を元に講義を行っている。							

**社会学科**  
**(3 ~ 4 年次)**



授業科目名	SK300U 専門ゼミ I		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	加藤 仁・勝谷 紀子・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・俵 希實・真砂 良則・矢澤 励太・若山 将実・竹中 祐二・松下 健・若杉 亮平 (代表教員 加藤 仁)					
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>担当する教員の専門分野のなかから自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッションをおおして、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追究するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。</p>			<p>①専門分野に関する文献を読んで理解する。  ②専門分野に関するディスカッションを通して自分が取り組みたい研究テーマを見つける。  ③専門分野に関するディスカッションを通して自分の研究テーマの追求に適した理論や方法を探す。  ④ゼミレポートを作成する。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	50	①課題にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	50	①指定された書式にしたがっているか。 ②適切な内容となっているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める [週平均90分以上]。 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。			各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		
受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組むこと。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	代替授業については各ゼミの担当教員からゼミ内で説明がある。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	SK305U 専門ゼミⅡ		開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	竹中 祐二・勝谷 紀子・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・俣 希實・真砂 良則・矢澤 励太・若山 将実・松下 健・若杉 亮平・加藤 仁 (代表教員 竹中 祐二)					
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「専門ゼミⅠ」で学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で報告する。</p>			<p>①各自の問題関心を深めて研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②設定した研究テーマについて、レポートを作成することができるようになる。 ③レポートの内容について、プレゼンテーションを通して効果的な報告を行うことができるようになる。 ④専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。					各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備。					各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告。				全教員
30	全体のふりかえり。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	①授業にまじめに取り組んでいるか(報告会を含む)。 ②積極的にディスカッションに参加しているか(報告会を含む)。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	20	①レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
レポートの作成および報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。[120分以上]			卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。		
受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	
指定図書/参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。		その他・特記事項	代替授業の方法についてはゼミ担当教員がゼミ単位で具体的に指示を行うが、その他不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					



授業科目名	SK310U 卒業研究		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二・勝谷 紀子・小林 正史・田中 純一・田引 俊和・俣 希實・真砂 良則・矢澤 励太・若山 将実・松下 健・若杉 亮平・加藤 仁（代表教員 竹中 祐二）					
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で研究成果を報告する。</p>			<p>①現代社会が抱える様々な問題に対するの関心を高め、研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。  ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。  ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。  ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。					全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
16	後期オリエンテーション：ゼミごとに今後の方針を確認する。					各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備					各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告				全教員
30	卒業研究の総括				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	①研究にまじめに取り組んでいるか(報告会を含む)。 ②積極的にディスカッションに参加しているか(報告会を含む)。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業論文の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
卒業論文の作成および卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備は、ほぼ授業外で行う。[120分以上]			卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。		
受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。		教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。	
指定図書/参考書等	担当教員の指示にしたがう。		その他・特記事項	代替授業の方法についてはゼミ担当教員がゼミ単位で具体的に指示を行うが、その他不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。履修条件についての詳細は、『学生要覧』の「卒業研究履修条件」を参照のこと。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	S0300U 応用心理社会統計法		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は統計解析を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学の知識や技術を身につけることは、心理学、社会学、医学などの学問領域だけでなく、ビジネスの現場においても必要となってきた。統計解析を用いて大量のデータをどのように処理していくのかを知ることによってデータを適切に読み解くことができる。本講義では、多変量解析の基本的な考え方を学び、特に回帰分析と因子分析を中心にその知識と技法を習得することを旨とする。</p>			<p>①多変量解析の概要を理解し、データの特徴に応じて適切な分析方法を選ぶことができる。 ②回帰分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。 ③因子分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。</p>				
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。						
履修条件	心理学統計法の履修済が望ましい（単位未修得可）						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	多変量解析とは：多変量データとは何か、データの種類による分類を学ぶ						
2	代表値：代表値の計算を通じて記号に慣れ、共変動、相関係数についても学ぶ						
3	多変量解析を俯瞰する：多変量解析の概要を知り、それぞれの解析の位置づけについて学ぶ						
4	回帰分析を理解する1：回帰分析の基本モデルと推定法を学ぶ						
5	回帰分析を理解する2：回帰係数の算出など回帰分析の実際と重回帰分析への拡張について学ぶ						
6	因子分析を理解する1：因子分析の基本モデルと推定法を学ぶ						
7	因子分析を理解する2：因子分析の詳細な設定と実際の流れを学ぶ						
8	中間テスト						
9	統計的分析の実際（1）：統計ソフトを使って基礎的分析の実際を学ぶ						
10	統計的分析の実際（2）：統計ソフトを使ってt検定や分散分析の実際を学ぶ						
11	多変量解析の実際（1）：統計ソフトを使って単回帰分析の実際を学ぶ						
12	多変量解析の実際（2）：統計ソフトを使って重回帰分析の実際を学ぶ						
13	多変量解析の実際（3）統計ソフトを使って因子分析の基本的な流れを学ぶ						
14	多変量解析の実際（4）統計ソフトを使って因子分析の実際（因子軸の回転、因子の解釈）を学ぶ						
15	その他の多変量解析・これまでのまとめ・小テスト：多次元尺度構成法、クラスター分析の特徴を学ぶ、各分析手法を適用する際の注意点など						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	60	講義の内容の理解度により評価を行う。		中間テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。	
講義への参加度	10	授業への取り組み姿勢や課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業で取り組んだ問題を復習し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>			<p>中間テストは終了後に解説を行う。授業内に行う課題は答え合わせを行って解説する。</p>				
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。		教科書・テキスト	『言葉と数式で理解する多変量解析入門』 小杉考司 北大路書房 2019年 ISBN 9784762830471			
指定図書／参考書等	『Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける』小宮あすか・布人雅人 講談社 2018年 ISBN 9784061548121 / 参考書は授業中に適宜紹介する		その他・特記事項	本講義は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に準拠しています。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	S0305U 社会調査実習		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	俵 希實・若山 将実 (代表教員 俵 希實)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査の全過程を体験的に学び、社会調査士資格に相応の、社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル・チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを旨とする。</p>			<p>①社会調査の全過程を知る。 ②社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。</p>				
教授方法	実習						
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明					全員	
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明					全員	
3	テーマ別調査研究班の編成と役割分担の決定					全員	
4	調査枠組（対象者、調査方法など）の決定					全員	
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表					全員	
6	調査テーマに関する先行研究論文の発表					全員	
7	調査テーマに関する先行研究論文の発表					全員	
8	調査テーマに関する先行研究論文の発表					全員	
9	調査テーマに関する仮説の構成					全員	
10	調査テーマに関する仮説の構成					全員	
11	調査テーマに関する仮説の構成					全員	
12	調査テーマに関する仮説の構成					全員	
13	質問文の作成					全員	
14	質問文の作成					全員	
15	質問文の作成					全員	
16	調査票の作成					全員	
17	調査票の作成					全員	
18	調査票の作成とプリテスト					全員	
19	サンプリング					全員	
20	対象者リストの作成					全員	
21	調査票の配布準備					全員	
22	エディティング・コーディング					全員	
23	エディティング・コーディング					全員	
24	データクリーニング					全員	
25	分析についての説明：相関分析 クロス表 カイ二乗検定など					全員	
26	単純集計表作成					全員	
27	調査データの分析：各自の分析					全員	
28	調査データの分析：各自の分析					全員	

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	調査データの分析:各自の分析				全員
30	報告書の作成				全員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②自分の役割を遂行しているか。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された書式・分量にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。 ④図表が適切に作成されているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
仮説の構成、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]			仮説の構成や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。		
受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。		教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第3版）轟亮・杉野勇 編 法律文化社 2017年 ISBN：978-4-589-03817-3	
指定図書／参考書等	授業中に紹介する。		その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのG科目に準拠しています。 代替授業回は課題を提示する。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	SC300U 石川の伝統文化と産業		開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林 正史					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
金沢近郊の農村での聞き取り調査に基づいて、日本の伝統的食文化の特徴を明らかにする。それに基づいて、現代における和食の変容過程を検討し、現代における和食の意味を考える。			①日本の伝統的食文化（和食）の特徴を理解する。 ②薪による調理といった伝統文化（手作り技術）の優れた面を理解する。 ③人類学における聞き取り調査とそのデータ解析の方法を実践的に習得する。			
教授方法	①キャンパス近郊での伝統的食文化聞き取りの先行研究を学ぶ。②それをもとにして、金沢近郊の農村での聞き取り調査とその分析・報告を行う。					
履修条件	特になし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要：地元の伝統的食文化を題材として、手作り技術の優れた面を理解する。					
2	日本の伝統的食文化（和食）の特徴：稲作文化圏の他文化と比べた際の和食の独自性を理解する。					
3	伝統的屋敷構造の工夫：日本の伝統的民家の作りにみられる工夫を理解する。					
4	薪燃料の入手と使用：農村の伝統的生活における薪燃料の入手と使い方の工夫を理解する。					
5	火処構造の基本特徴とバリエーション：日本の伝統的民家におけるカマドとイロリの作りの工夫を理解する。					
6	食材の入手：日本の伝統的農村における自給的な食材入手の工夫を理解する。					
7	伝統的調理方法：日本の農村における伝統的調理方法の特徴と工夫を理解する。					
8	聞き取り調査の準備：聞き取り項目を選択する					
9	聞き取り調査：近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う					
10	聞き取り調査：近隣の農村を訪問し、聞き取り調査を行う					
11	聞き取りデータの整理：グループ単位で聞き取りデータのまとめ方を実践的に習得する。					
12	聞き取りデータの分析と比較：聞き取りデータの分析方法を実践的に習得する。					
13	レポート発表の準備：パワーポイントを用いた発表の仕方を実践的に習得する。					
14	レポート発表					
15	発表の振り返り					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
参加態度	10	積極的に授業、調査、グループワークに参加している		課題提出、小テスト	40	授業中のワークや小テストにおける理解度
レポート発表	25	発表の仕方と提出されたレポートにみられる理解度、論理的説明、および独自性		提出レポート	25	調査内容について各学生が内容を的確に理解し、レポートにまとめることができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
調査のまとめと発表準備は授業外で行うこと [平均45分]。課題リーディングなどを授業外で行うこと [平均45分]				レポート発表の後、振り返りを行う。		
受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	授業中に指示する。			その他・特記事項	聞き取り調査は授業外の時間に行う（振替あり） 代替授業を行う場合はGoogle Classroomで実施する。詳細は別途、連絡する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SC305U 教育社会学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものである。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。          ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。          ③戦後日本の「教育」とはどういったものなのかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。          ④現代日本の「教育」とはどういったものなのかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。          ⑤教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。          ⑥現代社会論との関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について、具体例を交えながら、文章によって説明することができる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。						
2	近代教育制度の成立①：近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。						
3	近代教育制度の成立②：西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。						
4	近代教育制度の成立③：戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。						
5	社会における教育の意義①：社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。						
6	社会における教育の意義②：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。						
7	社会における教育の意義③：グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。						
8	小括：これまでの学習内容を振り返り、「教育」を「社会学的に考える」ことの意義を再確認する。						
9	日本における教育環境の変遷①：戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。						
10	日本における教育環境の変遷②：教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。						
11	日本における教育環境の変遷③：少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。						
12	日本における教育環境の変遷④：今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。						
13	日本における教育環境の変遷⑤：今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。						
14	学級経営における多機関連携①：「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。						
15	学級経営における多機関連携②：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に課題として取り扱われることの多い「子どもの貧困」・「不登校」・「いじめ」等の具体例をについて学ぶ。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加度	30	代替課題への取り組みを中心に、学習内容を、どの程度理解しているかというよりも、誤った理解をしていないかどうかを、評価の基準とする。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]			・コメントフォームやワークシートを活用し、そこでの質問は全体で共有する。				
受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にする姿勢を身に付けていただきたい。			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書／参考書等	<参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井明・中村高康・多賀太 ミネルヴァ書房 2012年<ISBN:978-4623062935> 『教育の社会学【新版】』 荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井明 有斐閣 2010年<ISBN:978-4641124004>			その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・子ども教育学科科目「教育社会学」と合同開講となるため、代替授業実施時は、Google Classroom等を通じて、対面授業動画のリアルタイム配信、および当該動画についてのオンデマンド視聴形式を採る予定であるが、具体的な進め方については初回授業で詳しく説明する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SC320U メディア文化論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	辰巳 平一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
メディアの使命は正確な情報の媒介にある。授業の対象は新聞・テレビなどのマスメディアとソーシャルメディアで、それらの現状と課題を紹介する。特に近年激化した災害やスポーツ報道に加え、未だ社会に最も訴求力のあるテレビにも改めて注目する。			①メディアの個性を理解し、情報の受容体として、批判力と偏りのない判断力を身につける。②一つの事案に対してその背景や影響力の及ぶ範囲を推考し、ときに自ら調査する力を要請する。③総じてリテラシー能力の向上を図ることを目指すが、「話す」「書く」など基本的なところにも力を注ぐ				
教授方法	基本的には講義(対面)と課題に対するレポート(代替授業)。対面授業では受講生との質疑応答を重視し、多く取り入れる						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：授業内容や進め方、身に付けてほしい能力、評価方法を話す						
2	メディアとは：メディアの特徴などを記したレジュメをみてメディア感を書いて貰う						
3	取材：取材対象から情報を聞き出し、記事にまとめるワークショップを実施する						
4	ネットニュース比較：代表的なネットニュースを紹介、学生はその長所・短所を比較しながら論じて貰う						
5	動員とフェイク：ネットメディアの持つ多面性を分析、検討する						
6	テレビジャーナリズム：指定したテレビ報道番組を視聴、報道的見地から制作手法や論理の展開を自ら批評する						
7	NHKニュース：最も信頼度が高いNHKニュースのVTRをみて、どこが信頼される要因なのかなどを分析する						
8	メディアスクラム：『松本サリン事件』をテーマに、報道被害の何たるか、構造的な問題はないかなどをレポート						
9	災害現場取材体験：2007年の能登半島地震の取材体験を語る。活字や映像では伝えきれない取材現場を語る						
10	大災害とメディア：東日本大震災をメディア面から考える。特に発生からの時系列や対報道対象しの変化に注目						
11	スポーツ番組の手法：展開される競技を如何に興味深く引き付けていくかVTRを見ながらその手法を探る						
12	スポーツの物語性：スポーツに潜む物語性について、レジュメをもとに考えて貰う						
13	政治とメディア：この2者の関係は長い歴史がある。その緊迫の両者を紐解く						
14	メディアの実相：視聴率や押し紙、アルゴリズムなどメディアの一面を紹介し、受講生に所感を求める						
15	メディア文化論のまとめ：授業の最終回として総括を行い、就職対策にも言及する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
受講態度	30	①授業への集中と積極的な関与②応答の的確性		レポート	30	①期限内の提出②表現の的確性・論理性③独自性	
期末試験	40	①筆記試験②論理展開③授業内容の反映④正確な表記					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①ほぼ毎回、授業の冒頭に1週間の出来事で注目ニュースとその報道にコメントを求めるので、常にメディアに注目し自分なりの見解を持つこと。[120分] ②同じニュースのメディア間で報じられ方の違いに注目する。[60分]			①授業の終業近くに受講の感想を書いてもらい、翌週コメントを返却 ②レポートには評価とアドバイスを付記する。③試験にも同様の措置をとる				
受講生に望むこと	①時事問題や社会現象に興味を持ち、常にメディアに触れる ②メディアの報じるニュースを鵜呑みにせず、他メディアと比較し検証する習慣を身に付けて欲しい。③幅広いニュースに接し、奥の深い常識を我がものとして欲しい		教科書・テキスト	講師作成のレジュメを配布し教材とする			
指定図書/参考書等	なし/参考書：『メディアの苦悩』長澤秀行 光文社新書2014年 ISBN 978-4-334-03798-7、『どうする情報源』藤田博司 リベルタ出版2010年 ISBN 978-4-903724-20-1		その他・特記事項	奇数回は対面授業、偶数回は代替授業を行う。その際はClassroomで課題を配信する			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
放送局における勤務経験をもとに、勤務時代の経験、取材体験を紹介、さらにテレビ局で研修を行っている。							



授業科目名	SL300U 地域行政入門		開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山 将実					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業の目的は、日本の地方政治・行政について理論と実際の見地から考察することにあります。この授業の前半では、地方自治を担う首長、議会、そして地方公務員が果たす役割、地方自治体の組織編成、そして地方行政における政策過程について学んでいきます。また、この授業の後半では学生が主体的に個人で地方自治体が実際に直面している政策課題に取り組む機会を設ける予定です。			①民主主義国家における行政部門が果たす役割を理解する。 ②日本の中央・地方などのマルチレベルの行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようにする。 ③日本の地方政治・行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようにする。 ④日本の地方自治体組織の実態を理解し、それがどのような要因によって規定されているのかを理解できるようにする。 ⑤地方自治体における政策過程の理論と実際を理解し、それに依拠した形で日本の政策過程の実際を理解できるようにする。			
教授方法	この授業の前半は講義形式が中心となりますが、後半はフィールドワークを含む学生による能動的な学習が中心となります。					
履修条件	社会科学の学生のみ可。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明；授業の進め方や成績評価の方法とともに、地域の行政を担う地方自治体について、基礎的な行政主体である市町村と広域的な行政主体である都道府県が日本の国の中に存在する意味を考えます。（地域行政を学ぶ意味を理解する。）					
2	中央地方関係；戦後日本の中央・地方関係において、地方自治体へ権限が委譲されてきた過程を振り返るとともに、地方分権が進められてきた要因について考察します。（戦後日本の地方分権の流れを理解する。）					
3	地方自治体における首長；地域の行政を担う主役である地方自治体の首長に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政における首長の影響力を理解する。）					
4	地方議会；主に地域の行政をチェックする役割を持つ地方議会や地方議員に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政において地方議会が果たす役割を理解する。）					
5	地方公務員；地域の行政の実務を担う地方公務員について、その多様性、採用や昇進のシステム、そして実際の仕事内容について実例を交えながら説明します。（地方行政における地方公務員が果たす役割を理解する。）					
6	地方自治体の組織編成；日本の地方自治体組織の実態について、それがどのような要因によって規定されているのかを説明します。（地域の実情に応じて地方自治体の組織が編成されていることを理解する。）					
7	地方選挙、直接請求、そして住民投票；地域の行政に対しては住民が積極的に参加・関与することが求められています。この回では地方選挙、直接請求、そして住民投票を通じて住民の意思が地域の行政にどのように反映されているかを考えます。（地域行政に住民が積極的に参加・関与する意義を理解する。）					
8	政策過程の理論と実際；地域行政において政策が発案され、実施に至る過程について実例を交えながら説明します。（地域行政における政策過程を理解する。）					
9	政策リサーチの方法①；地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ・クエスチョンのたてかたについて学びます。（因果関係を解明することの意味を理解する。）					
10	政策リサーチの方法②；地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説について説明し、そして仮説のたてかたについて学びます。（仮説をたてる意味を理解する。）					
11	政策リサーチの方法③；地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では政策課題に関する資料・データを収集する方法を学びます。（資料・データの収集方法を理解する。）					
12	政策リサーチの方法④；地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説を検証する方法を学びます。（因果関係特定のために、条件をコントロールする方法を理解する。）					
13	政策リサーチの方法⑤；地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果をまとめ、伝える方法を学びます。（リサーチ結果をわかりやすく伝える方法を理解する。）					
14	政策リサーチの方法⑥；地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果を政策化する方法を学びます。（特定した因果関係に基づく政策提言・評価の方法を理解する。）					
15	政策リサーチの方法⑦；まとめ					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	地方行政の理論をふまえたうえで、地方自治体が実際に直面している課題に対する学生自身の政策提案を論理的に書くことができていないレポートを評価する。		各回の課題	50	Google Classroomを通じて提示する毎回の授業の理解度を確認する課題への取り組み姿勢を評価する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
①この授業の後半は個人で能動的に取り組む課題（政策リサーチ）が中心となるので、授業外で継続して課題に取り組むことが求められる。[90分以上]				①毎回の課題は、必要に応じてコメントを付けて返却します。 ②期末レポートは、採点およびコメントを付けて次学期冒頭に返却することを検討します。		
受講生に望むこと	①将来、地方公務員への道を考えている学生の受講を望みます。 ②授業外でフィールドワークに出る可能性があるため、そうした負担を負う覚悟のある学生のみ受講することを望みます。また、単なる大学の授業の一環としてではなく、地域で暮らす社会人の一人として自覚のある態度で授業に取り組んでほしい。 ③教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。			教科書・テキスト	自作のレジュメやスライドを毎回配布します。なお、代替授業の際はGoogle Classroomを通じて配布する予定です。	
指定図書／参考書等	なし／『地方自治論：2つの自律性のはざままで』北村亘・青木栄一・平野淳一著 有斐閣 2017年 ISBN-13:978-4-641-15048-5、『テキストブック地方自治 第2版』村松岐夫編著 東洋経済新報社 2010年 ISBN-13:978-4492211830、『新版 現代地方自治論』橋本行史編著 ミネルヴァ書房 2017年 ISBN-13:978-4623079902、『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤修一郎著 東京大学出版会 2011年 ISBN-13:978-4-13-032215-7。			その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。なお、代替授業日はClassroomから課題を配信します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SL340U 経済学Ⅲ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	井上 克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、資本主義社会が最初に誕生したイギリスを中心に、16世紀から現代に至るまで人々の生活が具体的にどのように発展していったのか、そしてその背後にある社会の力関係や仕組みの変化を経済の歴史を通して学んでいく。内容的には西洋経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明していくため、これまでに経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく予定である。時々意見交換も行う。			資本主義社会がどのような条件の下で誕生し、それがどのように世界に広がっていったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、南北問題や地域格差などの現代の社会経済問題を分析把握できるようになる。				
教授方法	講義形式						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	大航海時代とアジア：大航海時代を通して世界が経済的に繋がったことを理解する。						
2	第1講の内容に関して与えられた課題レポート						
3	江戸と世界：江戸期の日本経済の仕組みと世界（主に中国）との関係を理解する。						
4	第3講の内容に関して与えられた課題レポート						
5	産業革命Ⅰ：イギリスの工業化の背景を理解する。						
6	第5講の内容に関して与えられた課題レポート						
7	産業革命Ⅱ：イギリスの工業化の過程とその影響を理解する						
8	第7講の内容に関して与えられた課題レポート						
9	アジアの近代化：西欧の工業化がアジアに与えた衝撃とその波及効果を理解する。						
10	第9講の内容に関して与えられた課題レポート						
11	帝国主義と植民地：工業化と戦争及び植民地支配の関係について理解する。						
12	第11講の内容に関して与えられた課題レポート						
13	世界恐慌：なぜ世界恐慌が発生したのか、またそれが世界に及ぼした影響を理解する。						
14	第13講の内容に関して与えられた課題レポート						
15	戦後の世界経済：第二次大戦後から現在に至るまでの流れを理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
レポート	80	与えられた課題にどれだけこたえられているか。	受講態度	20	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に意見交換を行ったか。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。			課題提出後の講義において、総評と個別のコメントを行う。				
受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。		教科書・テキスト	『グローバル経済史入門』、杉山伸也、岩波新書、2014年、ISBN 978-4004315124			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業日は Classroom を用いて課題を提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
バブル期以降の政府の外交及び通商政策に対して、業界団体や企業がどのように実務的対応を行ってきたのか具体例をあげて講義する。							

授業科目名	SL345U 経済学IV		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	井上 克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、明治以降の日本が西欧諸国をモデルに工業化を達成し経済大国といわれるまでに至った過程を理解し、加えて日本人の価値観、背後にある国際情勢、社会の力関係や仕組みの変化を経済の歴史を通して学んでいく。内容的には日本経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明していくため、これまでに経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく予定である。			日本における工業化がどのような時代的背景や条件の下で誕生していったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、財政や移民・グローバル化などの現代日本の社会経済問題を分析把握できるようにする。				
教授方法	講義形式						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	江戸時代の経済と社会：江戸期の経済システムについて理解する。						
2	幕末と明治維新：幕末期の世界の動きと日本の対応について理解する。						
3	明治初期の産業と経済：在来産業と工業化の条件整備について理解する。						
4	日本の産業革命～紡績・鉱業・重工業：日本の産業革命について理解する（紡績・鉱業・重工業）。						
5	日本の産業革命～農業・植民地との関係：日本の産業革命について理解する（農業・植民地との関係）。						
6	会社制度：会社制度とその誕生、また日本における制度の普及について理解する。						
7	小テスト						
8	帝国主義と経済構造：19-20世紀の世界状況と経済システムについて理解する。						
9	昭和恐慌と高橋財政：世界恐慌と日本への影響、政府の経済政策について理解する。						
10	戦時経済体制とその破綻：戦時期の日本経済について理解する。						
11	戦後改革：戦後改革と経済政策について理解する。						
12	高度経済成長：戦後復興から所得倍増計画、高度経済成長への流れを理解する。						
13	バブル経済から構造改革へ：プラザ合意とバブル経済、そしてその崩壊について理解する。						
14	アベノミクスと現在：財政問題と小泉改革及びアベノミクスとの関係を理解し、残された経済的課題を考察する。						
15	まとめ：全14回の内容についてまとめ、明治以降の日本経済の大きな流れを理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	50	講義内容に関する小テストの点数		期末テスト	50	講義内容に関する学期末テストの点数	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。			小テスト後の講義において、総評と個別のコメントを行う。				
受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業日は Classroom を用いて課題を提示する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
高度経済成長、安定成長、バブル経済、失われた10年といった時々の政府の経済政策に対して、業界団体、企業、経営者などがどのように実務的対応を行ってきたのか具体例をあげて講義する。							

授業科目名	SL310U 法律学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	稲角 光恵						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
法学と政治学の基礎を概括した上で、国内社会と国際社会の構造とともに、それぞれの法体系を学ぶ。法律学共通の基本理念・原則、裁判制度をはじめとする法制度全体を知り理解する。また、現代社会においては国内社会と国際社会は密接に関連しており、現代社会の国内問題を考える上でも、国際法の知識は欠かせない。そこで、本講義では、現代社会構造と法体系に関する包括的な理解を進めるため、日本の法に加えて国際法を学ぶ。これらの知識を深めて、社会と法の役割について考えてみよう。			①法学および政治学全般にかかわる基礎知識の修得 ②国際法を理解する ③国内法と国際法の基礎知識を踏まえて、国内社会と国際社会がかかえる現代的問題を理解する ④上記の知識を基に法的問題について説明し議論することができる				
教授方法	講義を主体とする。						
履修条件	学部生のみ履修可。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	法と政治の基礎①：社会と法の役割 — 自分と社会と法との関係を考えてよう						
2	法と政治の基礎②：国家と法の歴史 — 人は平等でしょうか？						
3	法と政治の基礎③：法と正義 — 何が正しい？現代問題を考えよう						
4	日本の社会と法①：憲法 — 国家権力から守ってくれるもの						
5	日本の社会と法②：民法 — 契約、財産、家族の法						
6	日本の社会と法③：刑法 — これも犯罪だ。犯罪と刑罰						
7	日本の社会と法④：裁判制度 — 裁判はどのように進む？						
8	国際社会と法①：国際社会の構造 — 国家とは何？						
9	国際社会と法②：国家の権利義務 — 国は国を裁けない？						
10	国際社会と法③：国際連合 — 国連の目的は？						
11	国際社会と法④：戦争の禁止 — 戦争はどうすればなくなる？						
12	国際社会と法⑤：国際的な人権の保護 — 女性差別禁止や難民保護						
13	国際政治と法①（時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる）						
14	国際政治と法②（時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる）						
15	法律学まとめの論議						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	60	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。		授業での参加態度やレポート	40	授業内で行うディベートへの参加態度や小レポートで示される授業への取り組み姿勢を総合的に評価する。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①毎回の授業で次の予習として求められることを発表するので準備すること。（例：皆とのディスカッションに向けて自分の意見をまとめること。「死刑制度について賛成か反対か？」「核の使用についてどう思うか」など。）[20分] ②授業では時事問題の中でも法律や政治に関わる社会問題を取り上げることもあるので日頃から新聞・ニュース等をチェックし社会的問題に関心を持ち、自らの意見を形成することを行うこと。[20分] ③授業内で配布されたレジュメや資料を読み返し、授業の復習を行うこと。その際、解らない所や疑問点などがあった場合には、すぐ教員にメール又は次回授業の時に知らせること。[30分]			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b> 毎回授業終了後、授業内容が理解できたかアンケート（小レポート）を学生は提出する。教員は学生の理解度をアンケート（小レポート）で確認し、毎回の授業の冒頭で前回授業に関しての記述をもとにして理解の確認や学生からの疑問・質問に答える。また、授業内容やディベートや試験問題の解答等に対してメールでも学生からの質問に対応する。				
受講生に望むこと	新聞等で日頃から現代の社会問題に興味を持って学ぶ姿勢を持つこと。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）		
指定図書／参考書等	授業内で指定する。			その他・特記事項	代替授業日はGoogle Classroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL325U 社会貢献実習		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中 純一					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>この実習は、里山里海集落に滞在し住民と意見交換を行いつつ、地域課題を把握し、課題の改善・解決に向けて実践活動を行うことを目的とする。</p> <p>①実施時期：講義（平日・学内）＋宿泊を伴う実習（土・日、学外） ※具体的な実施日は受講者と相談して決定する。</p> <p>②実習先：県内の里山・里海（七尾市内または金沢市内を予定） ※感染症等の状況により、実習先及び実習内容が変更する場合がある。</p> <p>③定員：10名程度 ④費用：県内の場合：10,000円程度（交通費、宿泊費、飲食費、保険代等）</p>			<p>①地域の課題を整理し、解決策を提案する ②問いを探し、仲間と協議して提案する</p>			
教授方法	フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション					
履修条件	①Google Classroomが使用できる環境が整っていること。②履修希望者が多数の場合、社会貢献履修者を優先する。③受講前に面談を実施する（受講登録前に研究室にて面談を実施する）					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス 実習概要の説明、役割分担、スケジュールの確認					
2	現地概況の概説 対象地の社会動態、課題等について概説する					
3	現地活動（1） 地域住民と連携した活動実践					
4	現地活動（2） 地域住民と連携した活動実践					
5	現地活動（3） 地域住民と連携した活動実践					
6	現地活動（4） 地域住民と連携した活動実践					
7	現地活動（5） 地域住民と連携した活動実践					
8	現地活動（6） 地域住民と連携した活動実践					
9	現地活動（7） 地域住民と連携した活動実践					
10	現地活動（8） 地域住民と連携した活動実践					
11	現地活動（9） 地域住民と連携した活動実践					
12	地域課題分析（1） 住民等への聞き取りによる課題の分析					
13	地域課題分析（2） 住民等への聞き取りによる課題の分析					
14	プレゼンテーション準備 住民向けプレゼンテーションに向けた準備					
15	住民プレゼンテーション 課題解決に向けたプレゼンテーションの実施					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習参加態度	10	グループワークへの積極的参加		期末レポート	60	実習活動を通して得た情報などを活用し、要求されたレベルの考察ができています
プレゼンテーション	30	ポイントを押さえたわかりやすく、説得力のある内容及び説明になっている				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
①当該地域に関する情報収集を行う [30分以上] ②聞き取り調査に向け、質問項目を整理する [30分以上]				第15回：住民に対しプレゼンテーションを実施する。		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いを立て、住民や地域住民団体関係者に質問し、自ら情報を収集すること</li> <li>・宿泊を伴う実習のため、体力に自信がある人、集団生活に抵抗のない人が望ましい</li> <li>・特別な配慮が必要な場合、事前に相談すること。</li> </ul>			教科書・テキスト	なし	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	<p>①受講前面談を実施する。受講希望者は必ず事前に担当教員にEmailで連絡することEmail:tanaka.j@hokurikugakuin.ac.jp</p> <p>②フィールド実習が困難と判断した場合、オンライン等代替での実施に切り替える予定。</p>	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SL330U 地域環境マネジメント論		開講学科	社会	必修・選択	選択必修	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義ではSDG's(Sustainable Development Goals) 概念、目標等について理解しつつ、地域課題の解決・改善に向けた実践的な取り組みの事例等を参考に、持続可能な地域社会について受講者とともに考える。			①SDG's概念について説明できる ②SDG'sの17の目標と照らし合わせつつ、地域での具体的実践について検討し、説明することができる ③持続可能な社会について、自分のことばで説明できる				
教授方法	講義・講義内プレゼンテーション、講義式：対面授業及びGoogle Classroomを用いたオンライン授業						
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	リスクとしての環境問題 Uベック「リスク社会論」、リスク社会と個人の関係性について学ぶ						
3	人口減少社会と地域再生 人口減少社会の今日的動向を環境、社会、経済の視点から捉える						
4	SDG'sとは何か(1) 環境、社会、経済の統合概念としてのSDG'sのアウトラインについて理解する						
5	SDG'sとは何か(2) SDG's17の目標についてその内容を理解する						
6	科学の不定性と市民参加 コンセンサス会議を例に、リスク社会における市民参加、市民社会の意義について考える						
7	都市と農村の共生 関係人口の視点から、都市と農村の交流活動の可能性について考える						
8	持続可能な地域社会とは(1)：石川県内のSDG's実践事例について検討する						
9	持続可能な地域社会とは(2)：石川県内のSDG's実践事例について検討する						
10	持続可能な地域社会とは(3)：石川県内のSDG's実践事例について検討する						
11	持続可能な地域社会とは(4)：石川県内のSDG's実践事例について検討する						
12	持続可能な地域社会とは(5)：石川県内のSDG's実践事例について検討する						
13	環境を守る主体とは誰か SDG'sの具体的実践事例を検討し、持続可能な地域づくりと若者の参加の意義について考える						
14	住民参加と合意形成 参加の意義と機能、参加の主体、合意形成の課題について学ぶ						
15	まとめ・総括						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
講義参加態度	10	講義への積極的参加	レポート	40	講義で学んだことの理解度		
期末試験	50	講義で学んだ知識を適切に用いて問題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①適宜小テストを実施するので、学んだことを復習し理解を深める [30分以上] ②レジュメ、資料を配布するので、講義前に目を通し理解を深める [30分以上] ③レポート作成に向け問いを立て、関連する書籍・論文等に目を通し続ける [30分以上]			・小テストを講義時間内に適宜実施し、講義時間内に回答・解説する ・第8回～12回は週末等を利用し、学外で実施する(金沢市内予定。現地までの移動、交通費は自己負担) ・学外実習について、状況により中止となる場合がある(追って指示する)				
受講生に望むこと	SDG'sに関する書籍を読む SDG'sに関する国内・国際動向に関心を持つ		教科書・テキスト	レジュメ、資料を適宜配布する 適宜参考図書を紹介する			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は、時間制通り実施する ・受講登録後、Google Classroomの招待メールを送るので、講義までに設定を完了すること ・期末試験については、状況次第で期末レポート課題に変更する場合がある			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SL335U マーケティング論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS (Customer Satisfaction) =顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。</p>			<p>①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>				
教授方法	講義。						
履修条件	学部生のみ履修可。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	C S (顧客満足) とは何か・・・マーケティングとの関係について知る						
2	S T P (マーケティングの第一歩) と 4 P について学ぶ						
3	製品のマネジメント：マーケティングの 4 P のうち、製品 (Product) に関するマネジメントについて学ぶ						
4	価格のマネジメント：マーケティングの 4 P のうち、価格 (Price) に関するマネジメントを学ぶ						
5	広告のマネジメント：マーケティングの 4 P のうち、広告 (Promotion) に関するマネジメントを学ぶ						
6	流通のマネジメント：マーケティングの 4 P のうち、流通 (Place) に関するマネジメントを学ぶ						
7	サプライチェーンのマネジメント：在庫とサプライチェーンのマネジメントについて学ぶ						
8	営業のマネジメント：マーケティングにおける営業部門の活動について知る						
9	顧客関係のマネジメント：顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する						
10	ビジネスモデルのマネジメント：ビジネスモデルの開発とマーケティングとの関係について学ぶ						
11	顧客理解のマネジメント：マーケティングリサーチについて学ぶ						
12	ブランド構築のマネジメント：ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ						
13	動画視聴 USJの戦略とマーケティング						
14	社会責任のマネジメント：CSR、CSVについて学ぶ						
15	まとめと理解度確認						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合 (%)	評価基準	評価項目	割合 (%)	評価基準		
期末試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度を評価する。(2回予定)		
授業態度	10	授業態度を評価する。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること。[60分]			課題の結果は、次回の授業で紹介と解説を行う。				
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。		教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)			
指定図書/参考書等	なし/『1からのマーケティング (第4版)』石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 碩学舎 中央経済社 2019年 ISBN : 978-4-502-32771-1		その他・特記事項	対面授業と代替授業 (Google Classroom) を併用する。コミュニティ文化学科科目「マーケティング論」と合同開講である。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
会社でのマーケティング部署での経験・事例を紹介している。							

授業科目名	SP306U 社会・集団・家族心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる。社会心理学は、人間の社会的行動を状況との関わりの中で理解しようとする学問である。本科目では、社会心理学の中でも対人関係、家族を含めた集団、文化に関連するトピックを中心に上げる。それぞれのトピックの学習を通じて、人間がいかに社会的な存在であるのかを理解することをめざしていく。			① 対人関係、集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解できる。 ② 人の態度及び行動との関わりを理解できる。 ③ 家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。 ④ 日常生活での社会問題に対して、社会心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か：社会心理学の考え方、研究アプローチとは何かを学ぶ						
2	自己：自分についてどのように評価するか、自分の気持ち・欲求をどうコントロールするかを学ぶ						
3	対人行動：なぜ人を助けるのか、なぜ人を傷つけるのか、援助行動や攻撃行動のしくみを学ぶ						
4	対人関係：親密な関係はどのようにつくられるのかを学ぶ						
5	対人認知：対人認知のプロセスやその影響について学ぶ						
6	偏見とステレオタイプ：集団に対してどうとらえるのか、偏見や差別をもつ心を学ぶ						
7	感情とコミュニケーション：感情がどのように生まれてコミュニケーションに影響するのかを学ぶ						
8	態度変容と説得：人はどのように説得をされて態度を変えるのかを学ぶ						
9	中間テスト						
10	個人と集団：集団から個人が受ける影響や集団での意思決定についてを学ぶ						
11	マインド・コントロール：マインド・コントロールと洗脳、マインド・コントロールによる影響について学ぶ						
12	健康と幸福：ストレス、ストレスマネジメント、幸福感、健康とパーソナリティの関係について学ぶ						
13	文化と心：文化と心はどのように関係しあっているのかを学ぶ						
14	インターネット：インターネットを利用することによる影響、インターネットのよりよい活用方法を学ぶ						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	30	講義内容の理解度		講義への参加度	10	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度	
発表	30	発表内容の完成度		中間テスト	30	講義内容の理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。[45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]			講義内におこなう課題については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	本科目の対象となるのは比較的なじみやすいトピックである。講義内容を深く理解するには、自分自身の経験や日常生活での様々な問題に主体的に適用していく姿勢が求められる。		教科書・テキスト	『人間関係の社会心理学』松田幸弘（編著）晃洋書房 2018年 ISBN 9784771030619			
指定図書／参考書等	なし／『よくわかる社会心理学』山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	SP311U 産業・組織心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学の中の応用的な領域である産業心理学、組織心理学に関するトピックをとりあげる。インターンシップ、就職活動、キャリア形成、職場の対人関係、転職、ストレスマネジメントなど産業心理学や組織心理学に関連するさまざまな問題に対して理解を深める。</p>			<p>①産業心理学、組織心理学に関する基礎知識を身につけることができる。 ②職場における問題、キャリア形成に関する問題を心理学の立場から理解できる。 ③組織における人の行動を心理学的に理解できる。</p>				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	特になし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション・組織、集団とは：組織、集団、集合など基本的な概念について学ぶ						
2	リーダーシップ：良いリーダーとはどんなリーダーだろうか？リーダーシップ理論、リーダーとフォロアーの関係について学ぶ						
3	集団心理：集団になると一人の時とはどのように行動が異なるのだろうか？						
4	モチベーションとリーダーシップ：組織の中ではどのようにやる気が作られるだろうか？						
5	モチベーションの形成：職場におけるモチベーションをいかにつくるかを学ぶ						
6	説得の心理：説得をうまくおこなうにはどうすればよいだろうか？						
7	消費者の心理：消費者はどのようにして行動を決めたり、変えたりするのだろうか？						
8	小テスト1と前半の内容の振り返り						
9	印象形成：人の印象はどのようにつくられるか						
10	援助行動と攻撃行動：人をたすける心、傷つける心について考える						
11	キャリア形成：自分の適性を考える、キャリア形成、キャリア教育などを学ぶ						
12	ストレスと心の不調：ストレスが発生するまでのしくみとさまざまな心の疾患について知る						
13	ストレスとストレスマネジメント：職場、職業に関するストレスとストレス対処の仕方を学ぶ						
14	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表を行い、相互評価する						
15	小テスト2と後半の内容の振り返り						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	40	講義内容の理解度		発表	40	発表内容の完成度	
講義へ参加度	20	講義内での取り組みや課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>				授業内の課題については、次回の冒頭にフィードバックと解説を行う。			
受講生に望むこと	本科目の内容は職場での心理、組織における人間の行動、キャリア形成など実的な内容となっている。職場で起こる一般的な問題だけではなく、学生自身のキャリアについても考える機会としてほしい。			教科書・テキスト	『入門！産業社会心理学』 杉山 崇（編著）北樹出版 2015年 ISBN: 978-4779304552		
指定図書／参考書等	なし／『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7			その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SP316U 知覚・認知心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・司書・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義は、心理学の中でも知覚心理学および認知心理学という分野に焦点を当てて、基本的な内容について学ぶことをねらいとしている。知覚心理学および認知心理学は、わたしたちが自分や環境に関する情報をどのように知覚し処理しているのかを探る心理学の一分野である。心理学概論Aや心理学概論Bにくらべると発展的な内容も含めて授業を進める予定である。知覚心理学および認知心理学が日常生活でのさまざまな問題と関わりを持っていることを学ぶ。</p>			<p>①知覚心理学、認知心理学がどのような学問領域であるのかを理解している。  ②感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解している。  ③記憶、思考、問題解決、意思決定といった認知心理学における重要な概念やその障害について理解している。  ④日常生活で直面する問題に対して、知覚心理学や認知心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>				
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	知覚・認知心理学とは：知覚心理学および認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指した学問分野であるかを学ぶ						
2	知覚のはたらき：感覚と知覚の特徴とはたらきについて基本的な事項を学ぶ						
3	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ						
4	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完、周波数分析などについて学ぶ						
5	知覚における障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ						
6	記憶：人の記憶の特徴と種類について、短期記憶と長期記憶の働きなどを学ぶ						
7	日常認知：目撃証言や偽りの記憶など日常生活における認知の問題を学ぶ						
8	小テスト1						
9	概念：概念とは何か、概念が形成されるまでのプロセスを学ぶ						
10	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ						
11	言語：会話のなりたちや、会話の理解、文章の読み書きに関わるプロセスなどを学ぶ						
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ						
13	潜在認知：気がつかないうちに行動や認知が変わるなど潜在認知のはたらきを学ぶ						
14	小テスト2						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
小テスト	40	講義内容の理解度	講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度		
発表	40	発表内容の完成度					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
①教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。 [45分] ②事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]			講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	知覚心理学および認知心理学は私たちの心の仕組みのコアな部分を対象とする研究領域である。普段の生活ではあまり意識しない部分のトピックが多いといえる。認知心理学で扱っているトピックが普段の生活での体験とどのように繋がりをしているのかを考えながら授業に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	『基礎から学ぶ認知心理学—人間の認識の不思議』服部 雅史・小島治幸・北神慎司（著）有斐閣 2015年 ISBN 978-4641150270			
指定図書／参考書等	なし／『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	代替授業日はGoogle classroomを用いて資料や課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SP321U 感情心理学 (感情・人格心理学B)		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子・齊藤 英俊 (代表教員 勝谷 紀子)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。</p>			<p>①感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。          ②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。          ③幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。</p>				
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	感情とは何か 感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					勝谷	
2	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					勝谷	
3	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					勝谷	
4	他者との関わりにおける感情の理解：対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					勝谷	
5	ポジティブな感情① 幸福感とその関連要因についての研究を紹介する。					勝谷	
6	ポジティブな感情② ポジティブ感情の機能に関する理論と研究を紹介する。					勝谷	
7	ポジティブな感情③ ユーモア、感謝などその他のポジティブ感情の研究を紹介する。					勝谷	
8	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					勝谷	
9	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤	
10	精神疾患に関連する感情① 不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
11	精神疾患に関連する感情② 抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
12	精神疾患に関連する感情③ 恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤	
13	感情の病理への心理的アプローチ① 精神分析的な心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤	
14	感情の病理への心理的アプローチ② 認知行動療法・第3世代の認知行動療法、ストレスマネジメントの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤	
15	感情の病理への心理的アプローチ③ フォーカシング、エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤	
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加度	30	講義への参加態度と振り返りの内容から評価を行う。	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。 [45分] ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。 [30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 各回での振り返り・リアクションシートの内容について、対面授業時などを通してフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみ視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	代替授業日はclassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SP326U 障害者・障害児心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児／者に対する理解を深める。また、障害児／者が社会の中でよりよく生きることを支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。			1. 身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児／者への理解を深める。 2. 障害児／者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション／障害とは？：国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。					
2	障害と心理学：障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。					
3	身体障害：視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。					
4	知的障害：知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。					
5	精神障害：不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病的障害など主要な精神障害について理解する。					
6	行動・情緒障害：発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。					
7	発達障害（1）：自閉症スペクトラム障害：発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。					
8	発達障害（2）注意欠如・多動性障害、局限性学習障害：注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。					
9	障害児の支援（1）：応用行動分析：応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。					
10	障害児の支援（2）：ペアレントトレーニング：応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。					
11	障害受容のプロセス／障害の理解：障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。					
12	保健・医療における課題と支援：認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。					
13	福祉・教育における課題と支援：障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。					
14	保護者や家族の理解と支援：障害児／者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。					
15	コミュニティ支援／障害児・者支援のこれから：障害児／者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。		振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。〔30分程度〕			振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。		教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書／参考書等	なし／『障害者心理学』太田信夫（監修）北大路書房、2017年、ISBN-13：978-4762829840		その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。また、代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SP331U 心理学的支援法		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。</p>			<p>様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとられない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライアントやクライアントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う					
履修条件	なし					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。					
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。					
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。					
4	精神分析の心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移／逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。					
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。					
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。					
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。					
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。					
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。					
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。					
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。					
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。					
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。					
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。					
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。		振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>						
授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>		
実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。				振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。		
受講生に望むこと				教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。	
指定図書／参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13：978-4422113265			その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。また、代替授業はGoogle Classroomを通じて課題などを提示します。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SP332U 学校心理学（教育・学校心理学）		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	上農 肇					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
教育現場における諸問題についてその実情を学び、問題状況の解決を援助する「心理教育的援助サービス」の実践を支える学校心理学の理論と方法について解説する。教育現場における種々の心理社会的課題とその支援の実際について例を挙げて解説する。			①教育現場において生じる問題とその背景を説明できる。 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。			
教授方法	講義を中心とするが、エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。					
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指す者が望ましい。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション（教育・学校心理学を概観し、実際の教育現場での様々な課題について知る）					
2	教育現場での心理教育的援助サービスの実践とそのための援助者（ヘルパー）を理解する。					
3	子どもをめぐる課題①（不登校）の実情とその支援について理解する。					
4	子どもをめぐる課題②（いじめ）の実情とその支援について理解する。					
5	子どもをめぐる課題③（発達障害）の実情とその支援について理解する。					
6	子どもをめぐる課題④（ネット・ゲーム依存）の実情とその支援について理解する。					
7	子どもをめぐる課題⑤（精神疾患・非行・その他）の実情とその支援について理解する。					
8	教師・学校をめぐる課題（教師のバーンアウト・危機介入・その他）の実情とその支援について理解する。					
9	家庭・地域をめぐる課題（児童虐待・貧困・その他）の実情とその支援について理解する。					
10	心理教育的援助サービスの方法①（アセスメント）について理解する。					
11	心理教育的援助サービスの方法②（カウンセリング）について理解する。					
12	心理教育的援助サービスの方法③（コンサルテーション・コーディネーション）について理解する。					
13	学校心理学を支える心理学的基盤（発達心理学、教育心理学、臨床心理学等）について理解する。					
14	学校心理学を支える学校教育の基盤（学校組織と教育制度、教育関連法規等）について理解する。					
15	まとめ（教育現場での諸問題について概観し、専門的ヘルパーとして教育現場にかかわる場合の義務と役割について考える）					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。	
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの取り組み方を評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]			提出されたレポートは、評価を行い返却する。			
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。資格を目指す者に照準を合わせるため、講義内容を理解するための相応の受講態度を求める。		教科書・テキスト	『学校心理学ハンドブック [第2版] チーム学校の充実をめざして』 日本学校心理学会編 教育出版 2016 ISBN978-4-316-80312-8		
指定図書／参考書等	なし/『生徒指導提要』 文部科学省 教育図書 2010 ISBN978-4-87730-274-0		その他・特記事項	代替授業を行う場合には、Google classroomから課題を配信、またはGoogle Meetによるオンライン授業を行う。対面授業日に課題を配布する場合もある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
教育相談員やスクールカウンセラーとしての経験や担当した幼児期・児童期・青年期の事例を取り上げ、討議や演習を通して学生の学びを深めている。						

授業科目名	SP336U 心理演習		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健・齊藤 英俊（代表教員 松下 健）					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。			1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。			
教授方法	演習、講義。					
履修条件	心理学教員が合議の上、履修を認めた者に限る					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					齊藤・松下
3	多職種連携および地域連携					松下・齊藤
4	心理面接の開始（初回面接、受面接）と終了（終結、中断など）					松下・齊藤
5	精神分析的な心理療法における心理面接					齊藤・松下
6	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					齊藤・松下
7	クライエント中心療法の心理面接					齊藤・松下
8	基本的な傾聴スキル					齊藤・松下
9	フォーカシング指向心理療法の心理面接					齊藤・松下
10	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					齊藤・松下
11	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤
12	行動療法の心理面接					松下・齊藤
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤
14	心理面接の効果と課題					松下・齊藤
15	その他の心理療法（風景構成法）の心理面接					松下・齊藤
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小レポート・代替課題	30	講義において小レポートと代替課題を課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。	講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。	
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]			小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。			
受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。		教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。</li> <li>対面授業が完全に実施不可能になった場合、代替授業90%、期末レポート10%の評価基準にする。</li> <li>代替授業はgoogle classroomを通じて課題提示する。</li> </ul>		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接における面接技法を説明している。 松下：公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の4領域における実践経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う						

授業科目名	SW300U 相談援助の理論と方法Ⅲ		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会福祉士がソーシャルワーカーとして、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアントシステムとして捉え、どのような対象者であろうとも一つのソーシャルワーク過程で対応できるように、理論と方法を学ぶ。また、ケースマネジメントやネットワークング等についても、社会福祉士が実施する業務の必要性に対応して、理論と方法を学ぶ。相談援助実習および国家試験を意識した専門の内容を展開する。</p>			<p>①「社会福祉における相談援助とは何か」、その本質と相談援助の意義を理解する。  ②ケースマネジメント及びソーシャルワークの関係について理解する。  ③グループワークの意義、グループを活用した相談援助の展開について理解する。  ④連携や協働の考え方をケースマネジメントの中核的技術であるコーディネーションとして学ぶ。  ⑤社会資源の種類とその活用について学び、クライアントのニーズ充足との関係を理解する。  ⑥ソーシャルワーカーがクライアント個人に働きかける、環境に働きかける、個人と環境の調整を図ることを通じてクライアントを支援する方法について学ぶ。  ⑦ソーシャルワーカーの支援環境を整えるためのスーパービジョンやコンサルテーションについて学ぶ。  ⑧ケースカンファレンスや相談援助における個人情報保護について理解する。</p>			
教授方法	講義、ワークシートによる課題					
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱの単位を修得済みの者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助活動の概念と定義および対象をどうとらえるかについて理解する。					
2	システム理論による全体的、包括的な対象理解について学ぶ。システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、個人、家族をどうとらえるかについて理解する。					
3	システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、集団、地域をどうとらえるかについて理解する。新たなソーシャルワークの展開と社会福祉士認定制度について理解する。					
4	ケースマネジメントの目的、構成要素、過程について理解する。					
5	アセスメントについて理解する。また、パートナーシップやストレングスの視点の必要性を理解する。					
6	ケアプランの作成および実施について理解する。またケースマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。					
7	グループを活用した相談援助について理解する。					
8	自助グループを活用した相談援助について理解する。					
9	コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点等について理解する。					
10	ネットワークの意義と目的、方法について学習する。ネットワークの形成とシステム化について理解する。					
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発について理解する。					
12	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。					
13	ケースカンファレンスの意義・目的・運営と展開過程等について理解する。					
14	相談援助における個人情報の保護について理解する。					
15	相談援助における情報通信技術（ICT）の活用について理解する。まとめ。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	70	・授業内容についてどれだけ理解しているか。		提出物	30	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。			毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。			教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN:978-4-8058-5104-3	
指定図書/参考書等	なし/『相談援助の基盤と専門職 第3版』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN:978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN:978-4-8058-5103-6			その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
スーパービジョンやカンファレンス等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。						



授業科目名	SW305U 相談援助の理論と方法Ⅳ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>ソーシャルワークは、クライアントが抱える生活課題を解決し、社会的機能の改善・維持・向上を具体的目標に、利用者の「最善の利益」を確保する展開過程である。そのため、クライアントが抱えている生活課題を正確に把握・理解していくためにさまざまな実践モデル・アプローチについて学習し、現場実践の中で活用できるようにする。実践モデル・アプローチについては、その基盤となる理論・適用対象・課題、支援展開などを学習し、ソーシャルワーカーとしてより高いレベルの知識・技術・価値、そして実践力を身につける。また、相談援助に係る事例分析の方法や相談援助の実際等について理解する。</p> <p>相談援助実習および国家試験を意識した専門的内容を展開する。</p>			<p>①医療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。  ②ジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。  ③「実践モデル」と「アプローチ」をそれぞれ「課題認識への範型」と「課題解決への方法」として峻別する。  ④「心理社会的」「機能的」「問題解決」「課題中心」「危機介入」「行動変容」の6つのアプローチについて、起源と基盤理論、支援焦点、支援展開などを理解する。  ⑤「エンパワメント」「ナラティブ」「フェミニスト」「解決志向」の「新興アプローチ」について理解する。  ⑥アプローチをめぐる課題について理解する。  ⑦事例分析の方法等について理解する。</p>				
教授方法	講義及びワークシートによる課題。						
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得済みの者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ：実践モデルとその意味を理解する。						
2	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ：治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。						
3	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ：ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルについて理解する。						
4	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：心理社会的アプローチについて理解する。						
5	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：機能的アプローチについて理解する。						
6	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：問題解決アプローチについて理解する。						
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：課題中心アプローチについて理解する。						
8	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：危機介入アプローチについて理解する。						
9	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：行動変容アプローチについて理解する。						
10	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：事例考察によりアプローチの選択・活用を理解する。						
11	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：エンパワメントアプローチについて理解する。						
12	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：ナラティブアプローチについて理解する。						
13	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：実存主義アプローチとフェミニストアプローチについて理解する。						
14	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：解決志向アプローチ、事例考察によるアプローチの選択・活用、アプローチをめぐる課題について理解する。						
15	事例研究・事例分析の意義・目的・方法等について理解する。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）を理解する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
テスト	70	授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	30	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。			毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。		教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN978-4-8058-5104-3			
指定図書／参考書等	なし／『相談援助の基盤と専門職』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ』第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2015年 ISBN978-4-8058-5104-3		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
さまざまな実践モデルとアプローチ等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。							

授業科目名	SW310U 福祉行財政と福祉計画		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田中 純一						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
この講義では、福祉行政の実施体制及び福祉財政の動向、福祉計画の意義・目的、方法に関する基礎的事項を、分野横断的に理解する。			①福祉行財政のしくみについて具体的に説明することができる ②福祉行財政の内容について具体的に説明することができる ③福祉行財政の現状について具体的に説明することができる ④福祉行財政の課題について具体的に説明することができる				
教授方法	講義・テーマに基づくディスカッション、講義形式：対面授業及びGoogle Classroomによるオンライン授業						
履修条件	Google Classroomが使用できる環境が整っていること						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス						
2	福祉の法制度と福祉計画 福祉の法制度の歴史的展開及び福祉計画の概要について学ぶ						
3	福祉行政 福祉行政の実施体制、組織について学ぶ						
4	国の福祉財政 国の一般会計予算と社会保障関係費の動向について学ぶ						
5	地方の福祉財政 地方自治体の福祉財政と民生費の動向について学ぶ						
6	福祉行政の組織(1) 福祉行政における専門機関及び専門職の役割について学ぶ						
7	福祉行政の組織(2) 福祉行政における相談支援体制について学ぶ						
8	福祉計画の意義と目的 福祉計画の意義と目的、住民参加の意義について学ぶ						
9	福祉計画の基本的視点 福祉計画の概念、福祉行財政との関係性について学ぶ						
10	福祉計画の技法(1) 福祉計画におけるニーズ把握、評価について学ぶ						
11	福祉計画の技法(2) 福祉計画と住民参加について学ぶ						
12	福祉計画の策定過程 問題分析と合計形成の方法について学ぶ						
13	福祉計画の実際(1) 老人福祉計画、介護保険事業計画について学ぶ						
14	福祉計画の実際(2) 障害者計画、障害福祉計画、地域福祉計画について学ぶ						
15	まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義の理解度		
レポート	25	講義で学んだ知識等を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	要求されたレベルの論考がなされている		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①適宜資料を配るので、講義までに目を通し内容を理解する [30分以上] ②適宜小テストを実施するので、先に学んだことを復習する [30分以上] ③講義で紹介した書籍、論文等について目を通し知識を得る [30分以上]			社会福祉士国家試験過去問を中心とした小テストを講義時間内に適宜実施する。答え合わせ及び解説は授業内に実施する。				
受講生に望むこと	国家試験受験を目指す学生に照準を当て講義を展開する。高い目的意識で講義に臨んで欲しい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉行財政と福祉計画』第5版、中央法規出版、2017 ISBN-13 978-4805854303		その他・特記事項	・Google Classroomによる講義は時間割通り実施する。 ・受講登録後Google Classroomの招待メールを送るので、第1回講義までに各自で設定を完了すること。 ・期末試験については、状況次第で期末レポート課題に変更する場合がある。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SW315U 福祉サービスの組織と経営		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
福祉サービスを担う組織・団体の多様性を認識しつつ、福祉とは馴染まないと思われがちな経営的な側面について学ぶ。授業では、組織論、経営・マネジメント論の一般的な理解に努めつつ、福祉サービス提供者としての特殊性を踏まえた知識と理解の獲得に努める。			①福祉サービスに関わる主体を類型化し、そのポイントを的確に文章で説明することができる。 ②福祉サービスに多様な主体が関わることの意義について、ポイントを的確に文章で説明することができる。 ③福祉サービスが制度として提供されるべき社会的な背景について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。 ④福祉サービスが制度として提供されるべき根拠となる諸概念について、短い文章で説明することができる。 ⑤福祉サービスに限らない、およそ組織・集団を運営・経営する上でのポイントについて、用語や概念を短い文章で説明することができる。 ⑥福祉サービスを提供する組織・集団が固有に抱える理念・概念上のポイントについて、具体例を交えながら文章で説明することができる。 ⑦福祉サービスを提供する組織・集団を支える今日の諸制度について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	福祉サービスの基礎知識①：総論的な社会福祉史を踏まえつつ、サービスとしての福祉実践のあり方を理解する。						
2	福祉サービスの基礎知識②：福祉レジームや社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方を理解する。						
3	福祉サービスの基礎知識③：福祉レジームや社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方を理解する。						
4	福祉サービスの提供主体①：社会福祉法人を中心に、それとの比較を踏まえて、NPO法人、一般企業、ボランティア団体等の関わりについて学ぶ。						
5	福祉サービスの提供主体②：社会福祉法人を中心に、それとの比較を踏まえて、NPO法人、一般企業、ボランティア団体等の関わりについて学ぶ。						
6	福祉サービス経営の基礎理論①：経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要について学ぶ。						
7	福祉サービス経営の基礎理論②：経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要について学ぶ。						
8	福祉サービスの内部運営①：組織論を基盤にして福祉サービスにおける内部経営の概要について学ぶと共に、組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。						
9	福祉サービスの内部運営②：組織論を基盤にして福祉サービスにおける内部経営の概要について学ぶと共に、組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。						
10	福祉サービスの内部運営③：組織運営におけるリーダーシップについて学ぶと共に、スーパービジョン論に沿った、人材育成のあり方について学ぶ。						
11	福祉サービスの内部運営④：組織運営におけるリーダーシップについて学ぶと共に、スーパービジョン論に沿った、人材育成のあり方について学ぶ。						
12	福祉サービスの品質管理①：PDCAサイクルやISO認証制度等の、質保証における基本的な知識について学ぶ。						
13	福祉サービスの品質管理②：PDCAサイクルやISO認証制度等の、質保証における基本的な知識について学ぶ。						
14	福祉サービスの品質管理③：第三者評価や施設設置基準等の、社会福祉領域において安定した良質のサービス提供を果たすための仕組みについて学ぶと共に、当事者主体の流れを踏まえ、苦情解決制度や権利擁護について学ぶ。						
15	福祉サービスの品質管理④：第三者評価や施設設置基準等の、社会福祉領域において安定した良質のサービス提供を果たすための仕組みについて学ぶと共に、当事者主体の流れを踏まえ、苦情解決制度や権利擁護について学ぶ。						
<b>成績評価方法及び基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加度	30	代替課題への取り組みを基に、学習内容を、どの程度理解しているかというよりも、誤った理解をしていないかどうかを、評価の基準とする。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。	
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>			<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>				
①各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ②各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ③各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ④各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ⑤各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[30分]			・対面授業実施時には、コメントフォームやワークシートを活用し、そこでの質問は全体で共有する。				
受講生に望むこと	・福祉的支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。		教科書・テキスト	なし(レジュメを配付する)			
指定図書/参考書等	<参考書> 『福祉サービスの組織と経営(第5版)』 社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2017年<978-4805854310> ※同様のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である ※資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。		その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で(なるべくアポイントをとった上で)担当教員へ質問することは歓迎する。 ・代替課題は主としてGoogle Classroomを通じた資料配信によって実施する予定であるが、具体的な進め方については初回授業で詳しく説明する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SW320U 公的扶助論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	堂田 俊樹						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクールソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会保障・社会福祉制度の中で「最後のセーフティ・ネット」の役割を果たすのが生活保護（公的扶助）である。生活保護は様々な要因によって貧困状態に陥った人々を経済給付により保護し、相談援助により自立助長を図る。生活保護を理解するため、法制度や相談援助の実践方法を学ぶと同時に、貧困が生み出される社会的要因と実態、政治・経済・社会構造の中で生活保護がどのような位置を占めるのかを考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考える。</p>			<p>①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。  ②公的扶助制度の歴史を理解する。  ③貧困・低所得者の動向と社会的課題について理解する。  ④生活保護制度とその関連制度の仕組みについて理解する。  ⑤生活保護の実施と関係専門職の役割について理解する。  ⑥現在の低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する。  ⑦コミュニティソーシャルワークと生活保護ケースワークとの関連を理解する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション：授業の進め方、成績評価について。公的扶助論の概要、社会福祉士国家試験について理解する。						
2	公的扶助の意義と役割。公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論の渦中にある制度について理解する。						
3	公的扶助の歴史（主にイギリス）。公的扶助制度はどのように萌芽したのか、世界に影響を与えた流れ、貧困観を理解する。						
4	公的扶助の歴史。我が国の歴史を中心に理解する。現在のコミュニティソーシャルワークの観点から実践的な社会資源として捉えることを理解する。						
5	公的扶助のしくみ（社会保険との違い）。社会保障制度の基本である制度設計について、民間保険との関係性も含め理解する。						
6	生活保護制度の原理原則。生活保護法を中心に、国家試験対策と絡めて理解する。						
7	生活保護制度（保護の種類、範囲、方法）。生活保護法及び運用規定等を含め、国家試験対策と絡めて理解する。						
8	生活保護ケースワークの概要。実践のソーシャルワークでの事例を通して、理解する。						
9	生活保護基準（扶助費等）。生活保護受給額や具体的内容について理解する。						
10	低所得者対策（ホームレス自立支援の施策等）。低所得者対策は、生活保護制度だけでなく、ホームレス対策も含まれる。ソーシャルワーカーの実践活動も紹介する。						
11	生活保護の実施体制（福祉事務所の業務と組織）。生活保護ケースワーカーは地方自治体職員であり、組織体制も含めて理解する。						
12	低所得者に対するソーシャルワークの実践について理解する。						
13	生活保護における自立支援。生活保護と自立支援の関係を理解する。						
14	生活保護における自立支援。具体的な自立支援制度、職業的自立、社会的自立等を理解する。						
15	生活保護制度（不服申立と制度の運用）。講義のまとめとして、公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論の渦中にある制度について議論する。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	70	レポートを事後に提出。評価基準は、レポートの体裁を取っていること、自分の考察があること、字数を満たしていること、授業と関連ある内容であること。		課題への取組	30	講義では、各々に課題を与え、ディスカッションを行いながらすすめる。したがって、問題意識を持っているか、積極的に講義に参加しているかを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>ディスカッションやレポートにより評価することから特に最近の貧困の現況をよく理解し授業に臨むこと。図書館の参考文献やインターネット等を検索すること。  ①生活保護関連のニュースを検索すること。[30分]  ②子どもの貧困についてのニュースを検索。[30分]  ③日本における貧困や格差拡大について身の回りの状況を考えてみる[20分]</p>			授業開始時に前回の授業についてのフィードバックを行います。				
受講生に望むこと	①人と環境について、理性的に見る力を養って欲しい。生活保護制度を取り巻く世論の実態やナショナルミニマムについて深く考える機会と捉えてください。 ②ソーシャルワーカーとして、クライアントに関わる場合、公的扶助を理解していないとどの分野においても丁寧なソーシャルワークはできません。 ③社会の貧困について様々な媒体から情報を取捨選択する力を身に付けてほしい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書／参考書等	参考図書：新・社会福祉士養成講座（第5版）16巻『低所得者に対する支援と生活保護制度』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 ISBN：978-4805858103		その他・特記事項	①番号順に座席を指定する。 ②代替授業日はClassroomから課題を提示します			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SW325U 保健医療サービス		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	松多 岳史						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
保健医療サービスを構成する要素を理解し、医療法改正における保健医療サービスの今日的課題、保健医療サービスを支える社会福祉士、精神保健福祉士その他の職種等の機能と役割を理解する。併せて保健医療サービスを提供する医療保険制度と診療報酬制度の概要を学び、高齢者が増加する現在における医療保険制度と介護保険制度の概要についても理解する。			①保健医療サービスの変化と提供する施設と、そのシステム及び社会福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士）の役割について理解できる。 ②医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要について理解できる。 ③保健医療サービスを取り巻く法制度、仕組みについて理解できる。 ④保健医療サービスにおける各専門職、関係機関の連携と、社会資源との結びつきについて理解できる。				
教授方法	講義とグループによるディスカッション（単に講義を受けるだけでなく、アウトプットすることを意識する）。						
履修条件	なし						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	保健医療サービスの変化：保健医療サービスの構成要素、保健医療サービスの整備・拡充、住民及び患者視点の尊重						
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割						
3	医療法による医療施設の機能・類型、保健医療政策による医療施設の機能・類型						
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型						
5	在宅支援のシステム：医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性						
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助						
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の外観、基本的姿勢						
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際						
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療						
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要						
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、他職種チームとの連携						
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター等との連携						
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員						
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用						
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワーキングとその原則						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	50	保健医療サービスについてどの程度理解し、知識を深めているかの確認作業。テキストを確認しながら問いに答える。		課題レポート	20	地域包括ケアシステムの中でどのような介護サービスがあり、どのような連携が行われているのかをまとめる。	
授業の取り組み態度	30	授業の参加率およびグループディスカッションに取り組む姿勢					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業の事前にテキストを読み疑問に感じたことをまとめておくこと【15分】 授業の後には分からなかった点をまとめて質問すること【5分】			講義の前後に質疑応答の時間を設ける。講義開始時には前回の講義内容を復習して講義を始める。テーマに沿って、グループワークを行い全体フィードバックを図る。				
受講生に望むこと	何事にも疑問を持って、意欲的に取り組んで欲しい。分からない点は講義の中でもその前後でも質問してほしい。		教科書・テキスト	『保健医療サービス』第5版、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規、2017年、ISBN：978-4-8058-5432-7			
指定図書／参考書等	なし		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。							



授業科目名	SW335U 相談援助演習Ⅲ		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会福祉の援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した中で考察を深め、ソーシャルワークの専門技術、および視点について学ぶ。個別性・共通性の理解とともに、具体的な社会福祉援助技術の精度を高め、正しい利用者理解と援助に資するための感性を磨き、相談援助専門職として必要かつ適切な能力を習得する。</p> <p>社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回の演習を通して、相談援助の基礎的視点、技術を習得する。</li> <li>2. 各事例における個別性と価値倫理について理解する。</li> <li>3. ソーシャルワークの展開過程を事例を通して理解する。</li> <li>4. 総合的かつ包括的な相談援助体制と機能を理解する。</li> <li>5. 支援ネットワークについて理解する。</li> </ol>			
教授方法	講義・演習					
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れを把握し、相談援助の展開過程について理解する。					
2	専門職としての価値・倫理：援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。					
3	相談援助実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について学ぶ。					
4	ソーシャルワーク実践における援助者の基本姿勢、専門的援助関係、受容的態度について理解する。					
5	基礎的技能：受容、個別化、利用者主体、かかわり技法、観察技法など対人コミュニケーションについて理解する。					
6	基礎的技能：面接ロールプレイを通じて、面接の環境づくり、話しを促すスキル、要約・繰り返しのスキルを学ぶ。					
7	基礎的技能：記録技法と情報整理法について学ぶ。エコマップ、ジェノグラム、ケース記録について実践的に学ぶ。					
8	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（児童に関する事例）。					
9	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（高齢者に関する事例）。					
10	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（障害児者に関する事例）。					
11	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（家庭内に関する事例）。					
12	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会生活に関する事例）。					
13	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会的・ソーシャルインクルージョンに関する事例）。					
14	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（その他援助事例）。					
15	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（まとめと報告）。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、代替授業の課題、レポート・ワークシート・小テストの記載内容	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上]</li> <li>2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。</li> <li>3. 福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</li> </ol>			確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。			
受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。		教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。		
指定図書／参考書等	なし／なし 必要な資料を講義内で配布する。		その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。 代替授業日については、対面授業の中、またはClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	SW340U 相談援助演習IV		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校)ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>社会福祉の相談援助に関して、関連科目、および相談援助実習との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる知識、技術について実践的に習得することを旨とする。具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<p>1. ソーシャルワーカーとして必要な連携の基本的な知識、視点、態度を習得する。  2. 多職種連携の前提として、ソーシャルワーカーの視点、立場、役割の特徴を理解し、相談援助演習に用いることができるようにする。  3. 連携体制の構築、協働における対立や葛藤、それらへの対処法を学ぶとともに、相談援助演習に用いることができるようにする。  4. 社会資源の活用、地域生活支援の重要性と課題を理解し、活用できるようにする。</p>				
教授方法	講義・演習						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位修得済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ソーシャルワーク実践の展開：援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点について理解する。						
2	地域福祉推進のための援助技術：個別支援から地域支援へと支援範囲拡張、様々なニーズと社会資源について理解する。						
3	地域福祉推進のための援助技術：地域ニーズ把握のためのアセスメント、エンパワメントを志向したプランニングについて理解する。						
4	地域福祉推進のための援助技術：活動・プログラムの実施、多職種連携等を体験的に学ぶ。						
5	地域福祉推進のための援助技術：地域福祉の評価・計画・進捗管理、地域住民や社会福祉専門職の役割を理解する。						
6	地域福祉推進のための援助技術：ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発について理解する。						
7	地域福祉推進のための援助技術：地域での生活支援と地域の福祉力の醸成のための支援について理解する。						
8	地域福祉推進のためにソーシャルワーカー、機関等が果たすべき機能と役割について整理する。						
9	スーパービジョン：スーパービジョンの基本的な意義、機能について理解する。						
10	スーパービジョン：スーパービジョンと専門職としての継続的な成長の必要性について理解する。						
11	利用者を理解するためのニーズ把握、アセスメントについて理解を深める。						
12	人と環境の接点・相互作用、マイクロ、メゾ、マクロ、個人、家族、組織、地域、社会について理解を深める。						
13	社会福祉士の専門性と社会福祉援助、および他の専門職について理解を深める。						
14	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤：自己決定、エンパワメント、人間の尊厳、倫理について理解を深める。						
15	相談援助演習まとめ：相談援助にかかる専門職の意義と役割を考える。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加状況	50	演習への参加態度(発言の程度、頻度、内容など)、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、代替授業の課題、レポート・ワークシート・小テストの記載内容		
<b>授業外における学習(事前・事後学習等)</b>			<b>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</b>				
<p>1. 毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。  [30分以上]  2. 社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。  3. 福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>			<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。</p>				
受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。		教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。			
指定図書/参考書等	なし/なし 必要な資料を講義内で配布する。		その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							



授業科目名	SW345U 相談援助演習 V		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川 直樹					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>演習のねらいは、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得させるとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することにあります。この授業では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例等を活用した演習により、地域で展開されている援助技術の実践について学び、具体的実践能力の習得をめざします。</p>			<p>①地域で展開されている援助技術について、具体的なレベルで理解する。 ②各理論・概念、技術や価値について、実践に適用する方法を理解できるようになる。 ③実習での体験や学習、日々の実践について、一般化・理論化する方法を理解できるようになる。</p>			
教授方法	講義と個人、グループでの演習。					
履修条件	相談援助演習Ⅰ、相談援助演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助演習Ⅳを履修済の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	演習実施のための枠組み（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）：アウトリーチの概念とニーズ整理の方法について知る。					
2	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①）：アウトリーチ、ニーズ把握の実践について知る。					
3	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②）：アウトリーチの具体的実践について考える。					
4	演習実施のための枠組み（チームアプローチ）：チームアプローチの概念と実際について知る。					
5	相談援助事例（チームアプローチ）：チームアプローチを促進するコーディネーションの技術について考える。					
6	演習実施のための枠組み（ネットワーキング）：ネットワーキングの概念と実際について知る。					
7	相談援助事例（ネットワーキング①）：ソーシャルサポート・ネットワークの具体的実践について考える。					
8	相談援助事例（ネットワーキング②）：地域福祉を推進するための総合的なネットワーク形成について考える。					
9	演習実施のための枠組み（社会資源の活用・調整・開発）：社会資源の概要と活用・調整の方法について知る。					
10	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発①）：社会資源開発の具体的展開について考える。					
11	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発②）：ソーシャルアクションの具体的展開について考える。					
12	演習実施のための枠組み（サービスの評価）：サービスの評価の概念と実際について知る。					
13	相談援助事例（サービスの評価）：福祉サービスの評価制度の概要について知る。					
14	演習実施のための枠組み（地域福祉の計画）：コミュニティソーシャルワークの概念、地域福祉計画の概要について知る。					
15	相談援助事例（地域福祉の計画）：地域福祉の計画化、住民の主体化と住民参加について考える。					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	45	授業に対する取り組み姿勢を評価します。 ・講義、個人での演習時の学習態度 ・グループでの演習への参加態度	課題レポート	20	指定する書式にて期日までに提出し、自身の考察を加えてまとめていることを評価します。	
期末試験	35	講義、演習内容の理解を筆記試験で評価します。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>①事前学習として、各回の内容を他の科目のテキスト、またはその他のテキスト（例：「新・社会福祉士養成講座」社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版）等を参考にして確認しておく。[30分] ②事後学習として、テキスト（社会福祉士 相談援助演習）にある各回の内容に関連する他の演習課題にも各自取り組む。[60分]</p>			レポートは2週間を目安に評価とコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	他の科目で習得した内容や実習での体験、学習等と関連づけながら、積極的に各作業や討議に参加して下さい。		教科書・テキスト	『社会福祉士 相談援助演習 第2版』社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、中央法規出版、2015年、ISBN978-4-8058-5123-4		
指定図書／参考書等	授業中に適宜紹介します。		その他・特記事項	代替授業日はClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。						

授業科目名	SW350U 相談援助実習指導 I		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂 良則					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー			
授業の概要			授業の到達目標			
相談援助実習と相談援助実習指導の意義について学ぶ。実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に学び実践的な技術等を体得する。			①相談援助実習と相談援助実習指導の意義について理解できる。 ②実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。			
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブックを用いた演習、DVDの視聴、ワークシートによる課題。					
履修条件	相談援助演習 I の単位を修得済の者。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導並びに集団指導の意義					
2	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(事前リサーチ:分野)					
3	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(事前リサーチ:施設)					
4	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(概況表)					
5	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解					
6	現場体験学習及び見学実習(実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む)					
7	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解					
8	実習目的と実習課題について(個人票)					
9	実習目的と実習課題について(実習計画)					
10	実習先における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解(個人情報保護法の理解を含む)					
11	実習生に求められる姿勢					
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解(実習記録の目的・内容)					
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解(記述方法)					
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成					
15	巡回指導					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・ワークシート等の提出物の内容等
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。			
受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
職能団体である社会福祉士の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。						

授業科目名	SW355U 相談援助実習指導Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
相談援助実習Ⅰで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に学び実践的な技術等を体得する。			①相談援助実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱに向けた課題について改めて把握することができる。 ②実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。				
教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブックを用いた演習、DVDの視聴、ワークシートによる課題。						
履修条件	相談援助実習指導Ⅰ、相談援助実習Ⅰを履修済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理						
2	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成(テーマ設定・アウトライン)						
3	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成(資料・データ整理)						
4	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表(第1グループ)						
5	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表(第2グループ)						
6	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(事前リサーチ分野)						
7	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(事前リサーチ施設)						
8	実際に実習を行う実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解(概況表)						
9	実習目的と実習課題について(個人票)						
10	実習目的と実習課題について(実習計画)						
11	実習生に求められる姿勢						
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解(実習記録の目的・内容)						
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解(記述方法)						
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成						
15	巡回指導						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況		提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①相談援助実習Ⅰについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということに常に意識すること。 ・相談援助実習Ⅱでは、Ⅰに比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・代替授業の方法はワークシートを用いて課題を提出する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
職能団体である社会福祉士の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。							

授業科目名	SW360U 相談援助実習指導Ⅲ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール(学校) ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
相談援助実習Ⅱで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。			①相談援助実習Ⅱを振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。				
教授方法	テキストをもとにした講義の他、レポート作成、ワークシートによる課題。						
履修条件	相談援助実習指導Ⅱ、相談援助実習Ⅱを履修済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	実習の価値と事後学習の意義						
2	相談援助実習Ⅱにおける実習課題の達成状況の評価						
3	相談援助実習Ⅱにおける課題や疑問点の言語化と整理						
4	実習評価と自己評価(相談援助実習と評価)						
5	実習評価と自己評価(スーパービジョン)						
6	相談援助実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成(テーマ設定)						
7	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成(アウトライン)						
8	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成(資料・データ収集・整理)						
9	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成(レポート作成)						
10	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成(見直し、プレゼン準備)						
11	実習総括レポートの発表とディスカッション(第1グループ)						
12	実習総括レポートの発表とディスカッション(第2グループ)						
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言(第1グループ)						
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言(第2グループ)						
15	実習指導のまとめ、総括						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
①相談援助実習Ⅱについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持ったことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]			・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。				
受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。		教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・代替授業として、ワークシートを用いた課題をオンラインにより配信する。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。							



授業科目名	SW370U 相談援助実習Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	真砂 良則						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
1 6日間（128時間）にわたる相談援助実習Ⅱを通して、相談援助に係る専門的な知識と技術について具体的かつ实际的に学び、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に学ぶ。			①実習施設・機関の機能・役割や利用者のニーズ等について理解できる。 ②社会福祉士の業務内容について実際に理解できる。 ③ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。				
教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。						
履修条件	相談援助実習Ⅰの単位を修得済の者。相談援助実習指導Ⅱを履修した者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成					実習指導者、担当教員	
2	利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成					実習指導者、担当教員	
3	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成					実習指導者、担当教員	
4	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価					実習指導者、担当教員	
5	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際					実習指導者、担当教員	
6	社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解					実習指導者、担当教員	
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際					実習指導者、担当教員	
8	当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解					実習指導者、担当教員	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況		担当教員による評価	40	・実習記録の内容等	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>			
受講生に望むこと	・相談援助実習Ⅰの学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。			教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久 他編 弘文堂 2018年 ISBN978-4-335-61189-6		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	・状況によっては代替実習（オンライン等）となることがある。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SS300U 精神保健学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。</p> <p>2. 現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割について理解する。</p> <p>3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。</p> <p>4. 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。</p> <p>5. 社会福祉士国家試験受験、およびスクールソーシャルワーカー資格を意識した専門的な内容を展開する。</p>			<p>1. 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. 現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割について理解し、説明できるようにする。</p> <p>3. 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. 精神保健の視点からみた学校教育の課題を理解し、説明できるようにする。</p> <p>5. スクールソーシャルワーカー資格に必要な基礎知識を習得する。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（1） オリエンテーション、精神保健の概要						
2	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（2） 精神保健の歴史、精神保健の課題						
3	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（3） 社会構造の変化と新しい健康観、ライフサイクルと精神の健康						
4	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（4） ストレスと精神の健康、生活習慣と精神の健康、身体疾患に由来する障害						
5	精神の健康への関与と支援（1） 精神の健康に関する心的態度、精神保健に関する予防の概念と対象						
6	精神の健康への関与と支援（2） 精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および連携、専門職種						
7	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ（1） 現代日本の家族の特徴、結婚生活と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健						
8	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ（2） 病気療養と介護をめぐる精神保健、高齢者の精神保健、家庭内の問題を相談する機関						
9	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ（1） 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴、教職員の精神保健						
10	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ（2） 関与する専門職と関係法規、学校における専門職の役割						
11	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ（1） 現代日本の労働環境、うつ病と過労自殺、飲酒やギャンブルなど依存に関する問題						
12	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ（2） 心身症と生活習慣病、職場内の問題を解決するための機関および関係法規						
13	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ（1） 災害被災者、犯罪被害者、ニート・若年無業者、ホームレスおよび貧困問題と精神保健						
14	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ（2） 性別違和、多文化、緩和ケアと精神保健						
15	精神保健に関する諸活動、資源開発、ネットワークづくり、人材育成、諸外国の精神保健活動の現状および対策、WHOなどの国際機関の活動						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（代替授業の課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）		レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容	
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>							
<p>1. 毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上]</p> <p>2. 社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。</p> <p>3. 社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>				<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b> <p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。</p>			
受講生に望むこと	<p>1. 相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。</p> <p>2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</p> <p>3. 現代社会では精神保健のニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようしてください。</p>			教科書・テキスト	<p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援 第3版』中央法規、2012. ISBN:978-4-8058-5595-9</p>		
指定図書／参考書等	なし／なし 必要な資料を講義毎に配布する。			その他・特記事項	代替授業日については、対面授業の中、またはClassroomを用いて課題を提示します。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SS305U スクールソーシャルワーク論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>1. 講義を中心に、教育現場での子どもの現状について理解し、子どもを取り巻く環境との関係性のとらえ方について学ぶ。</p> <p>2. 必要に応じて、資料や事例検討、グループ協議等を用いて、スクールソーシャルワーカーの役割、およびスクールソーシャルワークの発展過程を理解する。</p>			<p>1. 今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程について理解し、説明できるようにする。</p> <p>3. 海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解し、説明できるようにする。</p> <p>4. スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデルについて理解し、説明できるようにする。</p> <p>5. スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解し、説明できるようにする。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済みの者。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	講義オリエンテーション スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の内容、位置づけ						
2	今日の学校教育現場が抱える課題とその実態、及びスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義						
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①（不登校、非行、学齢期の児童虐待）						
4	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②（特別支援教育、学習遅滞・学習障害、教育福祉）						
5	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢③（家族の抱える課題、外国児童の就学問題）						
6	スクール（学校）ソーシャルワークの価値・倫理						
7	スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程、アメリカや他諸外国及び日本のスクール（学校）ソーシャルワークの発展過程の概要						
8	海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、アメリカや他諸外国のスクールソーシャルワーカーの役割と活動						
9	スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデル（生態学的視点、ストレングスの視点、エンパワメントの視点）						
10	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実例（メゾ・レベル①）（学校内の支援ケース会議、校内協働、コンサルテーション）						
11	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実例（メゾ・レベル②）（学校と関係機関の協働支援、校外協働）						
12	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実例（メゾ・レベル③）（社会資源の開発）						
13	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル①）（スクールソーシャルワーカー活用事業）						
14	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル②）（教育委員会との協働、各地の教育委員会が実施するスクールソーシャルワークに関する事業）						
15	スーパービジョン、スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン（スーパービジョン体制、スーパービジョンの方法）、全体まとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（代替授業の課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）		レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>1. 毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上]</p> <p>2. 社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。</p> <p>3. 社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。</p>			<p>確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。</p>				
受講生に望むこと	<p>1. 学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。</p> <p>2. 疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。</p> <p>3. 現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようしてください。</p>		教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。			
指定図書／参考書等	なし／山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク 第2版』ミネルヴァ書房、2016。ISBN: 978-4-623-07834-9		その他・特記事項	代替授業日については、対面授業の中、またはClassroomを用いて課題を提示します。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							







授業科目名	SS320U スクールソーシャルワーク実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引 俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				
<b>授業の概要</b>				<b>授業の到達目標</b>			
1. 規定時間数のスクール（学校）ソーシャルワーク実習を通して、日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。 2. ソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。				1. スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 2. 教職員、他との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 3. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。			
教授方法	実習						
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」、「スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導」の単位修得済みの者、または同時履修の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成						実習指導者・担当教員
2	子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成						実習指導者・担当教員
3	子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成、子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めた支援（エンパワーメント含む）とその評価						実習指導者・担当教員
4	校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際						実習指導者・担当教員
5	校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際						実習指導者・担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解						実習指導者・担当教員
7	学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際						実習指導者・担当教員
8	市町村の子ども相談体制についての理解、学校がどのようにつながっているのか具体的なネットワークング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解						実習指導者・担当教員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
実習指導者による評価	60	実習態度、専門的知識・技術の習得の状況	担当教員による評価	40	実習記録の内容等		
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1. 実習前においては、事前学習、実習計画、実習プログラムを確認する。 2. 実習後は、実習計画・課題に対する振り返りや自己評価を行い、有意義な学びにつながるよう努める。				実習記録等については、指導者から適宜指導・助言を受ける。また、担当教員も巡回指導時に同様に適宜指導・助言を行う。			
受講生に望むこと	1. 子ども（家族含め）の権利を守る専門職として常に自覚しながら、謙虚で真摯な態度で実習に臨んでください。 2. 学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 3. 現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようにしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書／参考書等	なし／なし 必要な資料を授業内で配布する。			その他・特記事項	とくになし。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	SB300U 児童サービス論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	三田村 悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>多種多様な図書館サービスの中で児童サービスの重要性が深く認識されている。あらゆる子どもは人として尊ばれ社会の一員として尊重されなければならない、よい文化環境（図書館）が必要だからである。その図書館を運営するのは子どもを知り、本を知り、子どもと本を結ぶことに使命感を持つ図書館職員である。そのような児童図書館員を養成するための授業を講義および実践を取り入れて実施する。</p>			<p>①児童サービスに必要な資料（絵本、児童文学、レファレンス他）を知り、子どもを楽しく豊かな本の世界に導き、子どもが求める知識や情報を手に入れる方法を理解する。 ②子どもの発達段階および子どもを取り巻く環境を知り、最適な時に最適な本を提供することができることをめざす。 ③子どもと本をつなぐ手段を学び図書館および関連機関で実践できる基礎力を身につける。</p>				
教授方法	基本的に講義による授業および実践。レポート作成。						
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	児童サービスの意義・目的および歴史を説明する。（児童サービスの重要性・必要性を理解する。）						
2	子どもの発達および子どもを取り巻く社会・環境を説明する。（子どもを知ることができる。）						
3	児童資料の種類と特色①類型および絵本について学ぶ。（絵本を知り選書の力を付ける。）						
4	児童資料の種類と特色②児童文学について学ぶ。（子どもがよい物語を持つ意味について知る。）						
5	児童資料の種類と特色③ノンフィクション他の資料およびレファレンスについて学ぶ。（子どもが図書館で情報処理能力を高める重要性を理解する）						
6	児童資料の選択および整理について説明する。（子どもが利用しやすい児童室づくりが出来るようになる。）						
7	児童サービスの諸活動を説明する。（資料提供、フロアワーク、集会行事、展示など実際に行われるサービスを知り実践に役立つ力をつける。）						
8	児童サービスの運営について学ぶ。（運営計画および評価、市民との協働について理解し組織的にサービスを展開できる基礎力を養う。）						
9	子どもと本をつなぐ①読み聞かせ、ストーリーテリングを学び基礎力をつける。						
10	子どもと本をつなぐ②ブックトークを学び基礎力をつける。						
11	乳幼児サービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）						
12	ヤングアダルトサービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）						
13	特別支援の必要な子どもたちへのサービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を習得する。）						
14	学校図書館への支援と連携・協力および関係機関との連携について学ぶ。（子どもにとって本と出合う一番身近な学校図書館について理解し、どんな支援・連携・協力が不可欠を知る。）						
15	児童サービス担当者の役割を学ぶ。（これまでの講義のまとめとして子どもと本をむすぶ仕事の重要性を再認識し、キャリアアップする手立てを取得し今後に生かす。）						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢等		期末試験	40	筆記試験	
実践・レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な図書館を利用し児童室を配架・展示などに気をつけ見学する。利用案内、ブックリストなどを入手しおはなし会などのサービスを実際に見学する。（事前に開催日時を確認し図書館の了解を得ること）【30分】</li> <li>・指定図書、参考図書には目を通し、紹介されている本、講義中におすすめする本はできるだけ読むこと。【40分】</li> <li>・子どもと本を結ぶ技法（絵本の読み聞かせ、おはなし、わらべうた、ブックトークなど）をひとつでも習得し実践できるようにする。【30分】</li> </ul>			<p>課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。</p>				
受講生に望むこと	本と子どもを知るためにできるだけ本を読み、本の楽しさを味わうとともに、身近な子どもを観察する。子どもと本を結ぶための技法を身につけるために自己研鑽をしてほしい。		教科書・テキスト	『児童サービス論 新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ 6 堀川照代編著 日本図書館協会 2020年 ISBN 978-4-8204-1909-9			
指定図書／参考書等	なし／『子どもと本の世界に生きて』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 2018年 ISBN4-7721-9017-6『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年 ISBN978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中公新書 1980年 ISBN 978-4121005632『児童文学論』リリアン・H・スミス著 岩波現代文庫 2016年 ISBN 978-4-00-602280-2『新編子どもの図書館』『児童文学の脈』『エッセイ集』（石井桃子）リリアンⅢⅣⅤ）岩波現代文庫 2015年 ISBN Ⅲ978-4-00-602254-9Ⅳ978-4-00-602255-6Ⅴ978-4-00-602256-3		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。							

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村 悦子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	司書			
授業の概要			授業の到達目標			
図書館経営に関する法律や制度、図書館政策などについて学習し、図書館の意義や社会的役割を理解する。図書館の組織および施設、サービス計画を実例を参考に説明し、図書館経営に必要な知識を習得させる。			①図書館に関連する法律、条例等を学び図書館の法的根拠を把握し、図書館の意義と社会に果たす役割を理解する。 ②図書館の組織・職員について学び運営方法を習得しサービス計画を立てる力を養う。 ③図書館の管理運営形態について学び、これからの図書館の在り方を考察する。			
教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成					
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	図書館をめぐる法体系を学ぶ。(日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法を理解し図書館の法的位置づけを把握する。)					
2	図書館法について考える。①(図書館法第1条から9条までを学び図書館の目的・図書館奉仕などを理解する。)					
3	図書館法について考える。②(図書館法第10条から29条までを学び公立図書館の設置・職員・図書館協議会および無料の原則を習得する。)					
4	地方自治体の図書館関連条例などを知る。(地方自治法、条例・規則・内規・要項・マニュアルを学び図書館運営の法的根拠を理解する。)					
5	他館種の図書館に関する法律などを知る。(学校図書館・国立国会図書館・大学図書館などの法的根拠を理解し、他館種との連携、協力方法を考察する。)					
6	図書館サービス関連法規を知る。(子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、著作権、個人情報保護に関する法律などを学び図書館サービスの法的根拠を理解する。)					
7	国、地方自治体の図書館政策を学ぶ。(国の政策、各自自治体の政策の具体例を考察する。)					
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営を学ぶ。(公立図書館経営の理念と運営および危機管理について理解する。)					
9	図書館の組織・職員について学ぶ①(図書館の組織、館長の役割、図書館職員の在り方を理解し、求められる職員像を認識する。)					
10	図書館の組織・職員について学ぶ②(図書館協議会や図書館を支える団体、ボランティアについて考察し図書館運営への関わり方を理解する。)					
11	図書館の施設・設備について学ぶ。(図書館建築のあり方を理解し、建築計画書の実例に基づき図書館施設のあるべき姿を認識する。)					
12	図書館サービス計画と予算の確保について学ぶ。(サービス計画の実例を考察し実際に立案・策定できる能力を習得する。)					
13	図書館業務/サービスの調査と評価について知る。(評価の実例を考察し、効率的・効果的な図書館運営を学ぶ。)					
14	図書館の管理形態の多様化について知る。(業務委託、指定管理者制度、PFIの問題点について学び望ましい図書館の管理運営について考察する。)					
15	公立図書館の課題と今後の展望について考える。(複本購入批判、貸出猶予問題、予約・リクエストの在り方などの課題を検討し今後の図書館経営を考察する。)					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢・発言等		期末試験	40	筆記試験
レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等の利用・見学をし、できれば条例・サービス計画の説明を聞く機会を持つ。[40分]</li> <li>事前にテキストの章に目を通しておく。[30分]</li> <li>参考図書および講義中に紹介する図書に目を通し講義内容を深める。[30分]</li> </ul>				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。		
受講生に望むこと	図書館関係の雑誌や新聞の記事に関心を持ち最新の情報を得るように心掛ける。図書館情報学関係のウェブサイトにはアクセスして情報の閲覧、理解に努める。			教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第2版』ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5 手島孝典編著 学文社 2017年 ISBN 978-4-7620-2701-7	
指定図書/参考書等	なし/『生きるための図書館』竹内 愼著 岩波新書 2019年 ISBN 978-4-00-431783-8/『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2004年 ISBN4-14-080564-1/『つながる図書館』猪谷千香著 ちくま新書 2014年 ISBN 978-4-480-06756-2『新図書館法と現代の図書館』塩見昇他編著 日本図書館協会 2009年 ISBN 978-4820409151『図書館制度・経営論』糸賀雅児・粟袋秀樹編著 樹村房 2013 ISBN 978-4-88367-202-8			その他・特記事項	なし	
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を事例を挙げてより具体的に説明している。						

授業科目名	SB310U 情報サービス演習 I		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。情報サービス演習Iでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。			①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上 ③情報の評価能力（情報内容の判断）の習得と向上 ④情報発信能力（回答の作成・提供）の習得と向上				
教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。						
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報サービス論」を履修した者に限る。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容						
2	ネットワーク、 デジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識						
3	情報検索システムの基礎知識（データベース構成／論理演算 等）						
4	ウェブ情報源の検索（1）サーチエンジンの使い方とブル演算						
5	ウェブ情報源の検索（2）サーチエンジンによるウェブ情報の検索						
6	ウェブ情報源の検索（3）検索結果と情報源の評価						
7	図書情報の検索（1）目録と書誌						
8	図書情報の検索（2）主題とアクセスポイント						
9	図書情報の検索（3）各図書館OPAC、総合目録等						
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、ニュースサイト等						
11	雑誌記事の検索（1）雑誌記事データベース、索引類						
12	雑誌記事の検索（2）引用の活用						
13	雑誌記事の検索（3）主題検索						
14	総合演習（1）レファレンス質問を想定した実践演習 質問の分析と戦略立案						
15	総合演習（2）レファレンス質問を想定した実践演習 検索と回答作成						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。	小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。		
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。また、情報検索には幅広い知識が求められるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。			必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜Classroomなども利用する。				
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。		教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB315U 情報サービス演習Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。			①レファレンスサービスのプロセスを理解する ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する				
教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	レファレンスサービスの基礎・復習						
2	レファレンスブック評価の仕方						
3	情報源の評価 (1) 目録・書誌・索引						
4	情報源の評価 (2) 辞書・事典						
5	情報源の評価 (3) 便覧・年鑑類						
6	情報源の評価 (4) 地名・人名						
7	情報源の評価 (5) 各種の専門領域						
8	情報の探索 (1) ことばの情報						
9	情報の探索 (2) 事柄・事物・現象の情報						
10	情報の探索 (3) 人物・団体の情報						
11	情報の探索 (4) 地名・地理の情報						
12	情報の探索 (5) 歴史・時事の情報						
13	情報の探索 (6) 統計の情報						
14	情報の探索 (7) 書誌情報						
15	情報の探索 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていること。	演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に答えることができること。		
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際、ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。			課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。				
受講生に望むこと	課題が多く与えられるので、図書館情報資源を用いて課題作成に取り組むこと。授業では作成した課題を発表する機会があり、他の履修者や教員に分かりやすく説明することも求められる。		教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習 I		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。			①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。				
教授方法	演習、主にコンピュータを使用する						
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報資源組織論」を履修した者に限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。						
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。						
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。						
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(基礎的な資料)						
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)						
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)						
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。						
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。						
12	メタデータ記述方法を解説する						
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(Webサイトなど)						
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(データベースなど)						
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。		授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。	
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること。授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							



授業科目名	SB325U 情報資源組織演習Ⅱ		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。			①主題分析について、演習を通じて理解する ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める				
教授方法	演習						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。						
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。						
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）						
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）						
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。		
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。			コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。				
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。		教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版 簡易版』もりきよし原編, 日本図書館協会分類委員会改訂 日本図書館協会 2018年 ISBN:9784820418078			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質、生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。			①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、科学技術、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館情報資源とは						
2	印刷資料について (1) 印刷術の誕生と印刷の歴史						
3	印刷資料について (2) 様々な印刷資料						
4	非印刷資料について						
5	灰色文献について						
6	政府刊行物・地域資料について						
7	映像資料・音声資料について						
8	電子資料・ネットワーク情報源について						
9	電子コンテンツと電子出版について						
10	出版と流通について (1) 出版とはなにか・出版の意義						
11	出版と流通について (2) 出版流通の経路・出版制度						
12	資料の収集と選択について						
13	人文科学分野の情報資源とその特性						
14	社会科学分野の情報資源とその特性						
15	自然科学分野の情報資源とその特性						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末テスト	50	筆記試験(持ち込み不可)を行う。図書館で取り扱う各種の情報資源について理解できている必要がある。	レポート	30	レポート課題について、課題の要件を満たしており十分な内容があること。		
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。				
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。		教科書・テキスト	『図書館情報資源概論 新訂版』馬場俊明著、日本図書館協会、2018。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 8) ISBN:978-4-8204-1808-5			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB335U 図書・図書館史		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。			①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	メディアと図書館の歴史とは						
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア						
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史、印刷の発明						
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類、大量印刷の時代						
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史、近代のマスメディア						
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化、新しいメディアの出現						
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命						
8	図書館史（世界）2：中世の図書館、近世の図書館の歩み						
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立						
10	図書館史（世界）4：近代の図書館						
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館、近代図書館の誕生						
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館、戦争と図書館						
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義						
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策、住民と図書館の関係						
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	授業内課題	30	授業中・授業後に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。		
期末テスト	50	記述式の筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解ができている必要がある。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。			試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。				
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチである。歴史的な事柄にも注意を払うようにすること。		教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著、日本図書館協会、2013。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2			
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	代替授業実施時の課題はClassroomより出題を行う。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	SB340U 図書館実習		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	司書			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は司書資格の選択科目である。図書館に関する科目で得た知識・技術を基にして、事前・事後の指導を受けつつ図書館業務を経験し、図書館業務全般に対する理解を深めることを目的とする。			①図書館実習事前準備を通じて、実習先の図書館業務について理解を深める。 ②図書館実習を通じて図書館業務全般を経験することでその理解を深める。 ③図書館実習事後レポートをまとめることにより、その成果を確認する。			
教授方法	実習、学内での事前指導及び事後指導と図書館においての1週間の実習を行う					
履修条件	「北陸学院大学 図書館実習実施規程」における実習参加資格を有するものに限る。					
<b>授 業 計 画</b>						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	図書館実習の概要					
2	図書館実習事前準備レポートの作成指導					
3	図書館実習事前準備レポートの提出・評価					
4	図書館実習直前指導					
5	公共図書館実習（原則として7日間、ただし実習受入館で特に指定がある場合はその日程で実施する）					
6	公共図書館実習					
7	公共図書館実習					
8	公共図書館実習					
9	公共図書館実習					
10	公共図書館実習					
11	公共図書館実習					
12	公共図書館実習					
13	公共図書館実習					
14	公共図書館実習					
15	図書館実習事後レポートの提出					
<b>成績評価方法と基準</b>						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
図書館実習	70	図書館実習に参加し、受入館側の評価を考慮しつつ総合的に判断する。	図書館実習事前課題レポート	15	図書館実習受入館について、事前に調査を行いレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は図書館実習参加を認めない。	
図書館実習事後レポート	15	図書館実習後に、実習内容及び実習で学んだことについてレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は単位修得できない。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
司書課程における科目を必ず復習すること。あらかじめ利用者として実習先の公共図書館を訪れて利用すること。学外での実習であり、十分な準備を行った上で参加すること。			事前レポートは添削の上で評価を直接授業内で伝達する。事後レポート及び図書館側の評価は希望に応じて個別に伝達する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を希望する学生のみを対象とする。図書館実習は公共図書館という学外において、公共図書館職員に準じる立場でさまざまな規程に基づいて実習にあたることになる。法令・規程を遵守するとともに、実習受入館に迷惑が掛かることが無いように注意すること。また原則として実習中の遅刻・早退・欠席は認められない（事故・体調不良等を除く）。		教科書・テキスト	なし、授業時に随時配布します。		
指定図書／参考書等	なし／なし		その他・特記事項	復習のためには、これまでの司書科目の教科書を参照すること。実習中図書館への自家用車利用は認められない。実習内容は実習先図書館によって異なる。		
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>						
なし						

授業科目名	ST300U 福祉心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	大矢 正則					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
福祉心理学は、福祉問題に関する心理学的研究であり、比較的歴史の浅い心理学の応用分野である。この学問で一定の理解を得るためには、社会福祉に関する基本的な知識と、心理学に関する基本的な理解の両方が必要になる。授業では、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし、その分野の福祉的な諸問題に、心理学がどのように役立つのかを問いを交えながら、順を追って説明していく。			①福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について概説できる。 ③虐待についての基本的知識を修得している。			
教授方法	講義形式。					
履修条件	認定心理士あるいは公認心理師を目指す者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	福祉心理学を学ぶにあたって①(福祉の仕事とは、職業として福祉をとらえた場合の職場と仕事、援助要請・援助要請経路・被援助指向性)					
2	福祉心理学を学ぶにあたって②(共感とは？、バリデーション、ユマニチュード、支援者支援)					
3	保育と福祉心理学(保育士の働く現場、保育士を取り巻く社会情勢の変化、子どもの貧困と格差)					
4	児童福祉と福祉心理学①(児童福祉とは、社会的養護、障害児支援、子どもと家庭を取り巻く状況と児童福祉、子どもの権利条約、子どもの貧困問題、虐待問題、障害児と家族の支援、重症心身障害児の増加)					
5	児童福祉と福祉心理学②(児童心理司とは、児童相談所とは、児童相談所における心理職の役割、心理療法の紹介1-カール・ロジャース)					
6	児童福祉と福祉心理学③(心理療法担当職員とは、社会的養護に関わる児童福祉施設、社会的養護における心理職の役割、心理療法の紹介2-認知行動療法)					
7	児童福祉と福祉心理学④(心理指導担当職員とは、障害児支援に関わる児童福祉施設、障害児支援における心理職の役割、心理検査、児童福祉における心理職のこれから)					
8	精神障害と福祉心理学①(障害のとらえ方、医学モデルと生活モデル、法律からみた精神障害者、精神障害と現代社会、精神障害者の特性)					
9	精神障害と福祉心理学②(精神障害に対する差別偏見、精神障害者をめぐる制度の変遷、精神障害者の生活の状況、精神障害者の就労と経済状況、精神障害者との関わり、エンパワメント、ノーマライゼーション)					
10	精神障害と福祉心理学③(ソーシャルワークのグローバル定義、ウェルビーイングとは、専門職、公認心理師、ピアサポート、セルフヘルプグループ)					
11	就労支援と福祉心理学①(障害者雇用制度と障害者雇用の現状、就労支援のプロセス)					
12	就労支援と福祉心理学②(就労支援の技術と心理学的視点、就労アセスメントの技術と心理学的視点①)					
13	就労支援と福祉心理学③(就労アセスメントの技術と心理学的視点②、ジョブコーチ支援の技術と心理学的視点、職場定着支援の技術と心理学的視点、障害者雇用と心理学的視点)					
14	高齢者福祉と福祉心理学①(主な高齢者向け居住支援、主な高齢者向け居住支援の職種、高齢者向け居住支援の主な資格、少子高齢化と社会、少子高齢化がもたらす影響)					
15	高齢者福祉と福祉心理学②(高齢期の精神疾患と対応、老年期の認知症の実態、認知症高齢者とのコミュニケーション上の工夫と配慮、認知症高齢者の日常生活への援助の方法)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	60	授業内容を理解できているか。毎回実施する小テストの点数で評価する。		レポート	40	期日までに、指定した書式でレポートを提出することができたものについて内容で評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①授業で使用するレジュメ(スライド)は、GoogleClassroomを通して1週間前までに配布するので、必ず目を通し、何が理解できていて、何が理解できていないかを明確になるまで予習しておいてください。[60分] ②毎回講義後に復習すること。不明な点は図書館等で調べるなどすること。授業時も質問を受け付けます。[90分]			毎回行う小テストは、採点の上、返却する。			
受講生に望むこと	福祉心理学は新しい学問でありながら公認心理士試験では9%もの出題があります。この授業はそのための対策も兼ねながらも、それを超えて、皆さんと一緒に、ディスカッションしながら楽しい授業を目指します。協力を願います。			教科書・テキスト	特に用いません。	
指定図書/参考書等	なし/『福祉心理学』大田信夫(監修)・小畑文也(編集) 北大路書店 ISBN978-4-7628-3005-1、『福祉心理学』中島健一(編) 遠見書房 ISBN978-4-86616-067-2、『福祉心理学総説』佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行(編著) 田研出版 ISBN978-4-86089-030-8、『生活支援の障害福祉学』奥野英子・結城俊哉(編著) 明石書店 ISBN978-4-75032-6-306。			その他・特記事項	なし。	
実務経験を活かした授業の概要						
小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし、その分野の福祉的な諸問題に、心理学がどのように役立つのかをベア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。						

授業科目名	ST305U 司法・犯罪心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	宮城 徹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
司法・犯罪心理学に関する一般的な知識とこの分野で働く心理職が身につけておくべき基礎知識を学ぶ。 参加学生にテキスト内容の説明を求め、それに解説を加える。さらに理解を深めるためにディスカッションを行う。			(1) 犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基礎知識を習得し、概要を説明できる。 (2) 犯罪・非行分野における心理支援について、その特徴を学び、概要を説明できる。 (3) 離婚問題を中心とする夫婦と子どもの心理的問題を学び、それらについて理解を深める。				
教授方法	輪読形式を中心とし、グループワーク（学生間討議）も行う。						
履修条件	認定心理士や公認心理士等心理に関連する職を目指す者、教職を目指す者が望ましい。						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	この授業の目的とゴール：イントロダクション、犯罪心理学の歴史						
2	犯罪と心理：科学的犯罪捜査と犯罪・非行の予防における心理学						
3	いかに評価するか、判断するか：犯罪・非行の心理アセスメント						
4	いかに接近をはかるか： 犯罪・非行に対する心理面接とその技法						
5	法律的観点： 犯罪心理学に関する法律と制度						
6	非行をどうとらえるか： 非行少年への心理支援						
7	加害者へのアプローチ1： 犯罪加害者への心理アセスメント						
8	加害者へのアプローチ2： 矯正施設における加害者臨床						
9	類型化の意味： 犯罪類型の特徴と心理支援						
10	被害者へのアプローチ： 犯罪被害者への心理支援						
11	社会はどうあるのか： 社会内処遇と心理支援						
12	家事事件とは： 家事事件における法律と制度						
13	離婚を取り巻く問題1： 離婚と子どもの心理						
14	離婚を取り巻く問題2： 離婚後の家族関係と支援						
15	補足および全体のまとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
期末レポート	30	最終日講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。	受講態度	20	発言、質問、グループディスカッションなどの参加態度をみる。		
毎回授業後課題(宿題)	50	授業内容と自己学習に基づく基礎知識と自分なりの意見を展開して答えているかどうかをみる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスを確認し、毎回行う内容を予習しておくこと [毎回60分X8]</li> <li>・学習した内容のうち、自分が特に興味を持った項目について、文献探索、購読を行うこと。これが期末レポートの基礎になる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の課題に関しては、次回授業冒頭でフィードバックを行う。</li> <li>・期末レポート（メール提出）に関しては、コメントをつけてメール返信を行う。</li> </ul>				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中講義であり、1日でテキストの2章分を学習することになる。十分にテキストを読み込んで授業に参加すること。また、集中講義期間直前、期間中は極力アルバイトなどは入れず、予習、復習に打ち込めるようにしておくことが望まれる。</li> <li>・指定されたテキストはわかり易く書かれている。必ず予習をし、用語や概念を理解して受講すること。</li> <li>・授業では事前学習で得た知識をもとにして、討議に積極的に参加すること。</li> <li>・オンライン授業においては、必ずビデオカメラをオンにして参加すること（バーチャル背景は使用してよい）。</li> </ul>		教科書・テキスト	『公認心理士の基礎と実践19 司法・犯罪心理学』（野島一彦・繁枘算男監修、岡本吉生編）2019 遠見書房 ISBN: 978-4-86616-069-6			
指定図書/参考書等	なし/『犯罪心理学 ビギナーズガイド：世界の捜査、裁判、矯正の現場から』 R. プル、C. クック他著、仲真紀子監訳 2010 有斐閣 ISBN: 978-4-641-17369-9		その他・特記事項	本科目は集中講義のため、7月にClassroomを使用したオンライン授業及び課題配信を行い、8月に対面授業を実施する。対面授業では学外でフィールドワークを行う場合がある。			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
なし							

授業科目名	ST310U 精神疾患とその治療		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	吉井 光信						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業の目的は公認心理師をめざす学生さんに知っておいていただきたい必要不可欠な知識を学習することにあります。 具体的には ①代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援 ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 ③チーム医療における心理職の役割と必要とされるスキル ④児童・思春期、高齢期、女性に特有な心理的問題を学習します。			①精神医学的知識を身につけ、様々な職種と協働しながら支援等を主体的に実践できるスキルを習得する ②精神疾患が疑われる者について、必要に応じて医師への紹介等の対応スキルを習得する				
教授方法	講義形式の授業						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	精神疾患とは：精神医療の歴史、精神障害の概念、精神疾患の成因と分類について説明します。（精神疾患は脳の病であり、心理職は脳の病に伴う心の問題の専門家として精神疾患に関わることを理解する）						
2	精神症状のみかた：意識の異常、知覚の異常、思考の異常、感情の異常、意欲と意思の異常について説明します。（それぞれの症状に対応した精神疾患を理解する）						
3	精神疾患の診断：診断の概要、初診時面接の留意点や問診事項、心理的検査と身体的検査について説明します。（精神疾患の正しい診断には適切な問診が必要であることを理解する）						
4	精神疾患と薬物療法：抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、認知症治療薬について説明します。（それぞれの作用機序、効果と使い方、副作用の基本を理解する）						
5	心理療法・支援の基本：個人心理療法、家族療法・集団支援技法、コミュニティアプローチについて説明します。（治療構造、支持的心理療法、精神分析的な心理療法、認知行動療法、集団へのアプローチを理解する）						
6	リエゾン精神医学と心理支援：コンサルテーション活動、癌・循環器疾患・脳卒中に伴う精神症状について説明します。（リエゾン精神医学の重要性を理解する）						
7	多職種協働と医療連携：チーム医療、多職種連携、多職種協働、心理職に求められる役割について説明します。（チーム医療における役割と必要なスキルを理解する）						
8	統合失調症：成因、症状、診断、治療法（抗精神病薬による薬物療法と精神療法）、経過、本人・家族への支援について説明します。（統合失調症の診断と治療法、抗精神病薬の副作用を理解する）						
9	うつ病・双極性障害（躁うつ病）：成因、症状、診断、治療法（抗うつ薬〈うつ病〉と気分安定薬〈双極性障害〉による薬物療法と精神療法）、経過、本人・家族への支援について説明します。（うつ病と双極性障害の診断と治療法を理解する）						
10	強迫症・不安症群（不安障害）：成因、症状、診断、治療法（抗不安薬による薬物療法と精神療法）、経過、本人・家族への支援について説明します。（強迫症と不安症群の診断と治療法を理解する）						
11	適応障害：成因、症状、診断、治療法、経過、本人・家族への支援について説明します。（適応障害の成因、鑑別疾患、治療法を理解する）						
12	神経発達症群（発達障害）：成因、症状、診断、治療法、経過、本人・家族への支援について説明します。（発達障害の代表的疾患とその症状を理解する）						
13	児童・思春期における心理的問題：乳幼児期・児童期・思春期の発達課題、神経性無食欲症、パーソナリティ障害との関連について説明します。（児童・思春期の発達課題や精神疾患を理解する）						
14	女性の心理的問題：女性特有のうつ病、月経前不快気分障害、ライフサイクルからみた女性の心理について説明します。（女性ホルモンが関連した精神疾患を理解する）						
15	高齢期における心理的問題：高齢者の心理的側面、高齢者の不眠症、高齢者のうつ、認知症について説明します。（高齢者の精神疾患と心の問題を理解する）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	70	授業内容について、どれだけ本人が理解しているか		授業参加状況	30	受講態度	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
①初回授業においてガイダンスを行います ②授業はテキストに沿って行いますので、必ず授業に持参してください ③次回の授業内容をテキストで予習してください				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
①この授業でしっかり学び、公認心理師の資格を取得してください ②返却されたレポートは保管してください				教科書・テキスト 「公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療」 三村 将・幸田るみ子・成本 迅 編 医歯薬出版 2019年 (ISBN 978-4-263-26585-7)			
受講生に望むこと	なし		その他・特記事項		なし		
指定図書／参考書等	なし						
実務経験を活かした授業の概要							
精神医学的知識を身につけ、患者への対応スキルを習得してもらうため、代表的な精神疾患とその治療法について、これまでの実務経験（日米の大学・研究所での精神医学研究、精神科専門医・精神保健指定医としての治療、精神科病院長として医療連携の推進）を元に講義を行っている。							

授業科目名	ST315U 健康・医療心理学		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	柚木 颯						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業は公認心理師を目指すにあたり必要な科目である。その人が自分らしく日常生活を送ることを支援していく上で、心理職が携えておくべき情報を示すとともに、実際に心理職がどのような役割を果たしているのかという点について、主に医療現場の知見を紹介しながら授業を行う。</p>			<p>以下の項目内容に関する知識を習得し、自らの言葉で概要を説明できるようになることを目標とする。</p> <p>①ストレスと心身の疾病との関係  ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援  ③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援  ④災害時等に必要となる心理に関する支援</p>				
教授方法	基本的に講義形式を予定しているが、適宜ディスカッションやグループワークも取り入れる。						
履修条件	公認心理師を目指すものが望ましい						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：授業の進め方や成績評価基準の説明						
2	健康とは何か：健康の定義、疾病・治療・予防の関連を説明						
3	ストレスとは何か①：ストレスの定義、ストレスに関する学説の説明						
4	ストレスとは何か②：ストレス反応とコーピングおよびストレスマネジメントについて説明						
5	医療のしくみ：医療制度について説明						
6	現在の医療における課題：医療にまつわるトピックや時事問題について説明						
7	医療現場における心理職①：医療現場での心理職の役割について説明						
8	医療現場における心理職②：医療現場での心理職の役割について説明						
9	こどもの医療と心理職：小児医療と心理職の役割について説明						
10	高齢者の医療と心理職：高齢者医療と心理職の役割について説明						
11	医療と法律：医療現場に必要な法律について説明						
12	保健活動における心理的支援：地域保健の現場での心理的援助に関して説明						
13	災害時・緊急時の心理的支援①：災害現場での心理的援助に関して説明						
14	災害時・緊急時の心理的支援②：災害現場での心理的援助に関して説明						
15	全体のまとめ						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
定期試験	70	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパーまたは小テスト	30	各回の授業で配布する。授業内容をもとに自分自身の考えを述べるができるかどうか、心理職として必要な知識が身につけているかどうかを評価する。		
<b>授業外における学習（事前・事後学習等）</b>			<b>課題（試験やレポート等）に対するフィードバック</b>				
<p>授業前にシラバスを確認し、そのテーマが取り扱うであろう内容について事前に参考書等を用いて調べておく【60分】  授業後に、自分自身のこれまでの体験、あるいはニュースや新聞等で得た保健・医療に関する時事問題が、授業で習得した内容とどのように関わっているのかを自分なりに考察する【60分】</p>			<p>各回で提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対しコメントする。</p>				
受講生に望むこと	主に保健・医療現場の心理職には欠かせない知識や考え方を取り扱いますが、いずれも自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指してください。		教科書・テキスト	なし。授業ごとに資料を配布する。			
指定図書／参考書等	なし／『公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学』宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫 編、医歯薬出版、2018年出版、ISBN-13: 978-4263265772。		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
医療現場における心理職として必要な知識を身につけ、それをもとに自らが能動的に考え、行動する現場の実際について、自らの臨床心理士／公認心理師としての実務経験を交えながら講義を行う。							



授業科目名	ST320U 関係行政論		開講学科	社会	必修・選択	選択	
担当教員名	小笠原 知子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は公認心理師になるためのカリキュラム必修群の一つで、公認心理師が専門職として従事する分野を次の5つ：①保健医療分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野、に分け、それぞれの分野にどのような専門職や施設があり、どのような制度や法律が整備されているかを、具体的な事例や事件を取り上げながら履修します。効果的に学ぶためにグループ発表やペアワーク、また小テストなどを通じて総合的な理解を進めます。			この授業を通して、公認心理師養成カリキュラムが定める次の5つの分野①保健医療分野 ②福祉分野③教育分野④司法・犯罪分野⑤産業・労働分野に関する政策や法律について知識を得、具体的な適用について述べるようになる。				
教授方法	講義・グループ討論・ペアワーク						
履修条件	公認心理師または対人援助職を目指す学生						
<b>授 業 計 画</b>							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	はじめに：①公認心理師とは？（法的義務や倫理について）②授業内容、課題、評価についての説明						
2	A. 保健医療の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？ ②支える法律と政策						
3	A. 保健医療の分野について③精神科医療と地域保健医療 ④法律と政策の適用						
4	A. 保健医療の分野について⑤具体的事例からまとめる保健医療の政策と法律						
5	B. 福祉の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？ ②支える法律と政策						
6	B. 福祉の分野について③生活保護、児童、障害者、高齢者 ④支える法律と政策						
7	B. 福祉の分野について⑤具体的事例からまとめる福祉政策と法律						
8	C. 教育の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？ ②支える法律と政策						
9	C. 教育の分野について③いじめ、発達障害、いのちを守る ④支える法律と政策						
10	C. 教育の分野について⑤具体的事例からまとめる教育政策と法律						
11	D. 司法・犯罪の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？ ②支える法律と政策						
12	D. 司法・犯罪の分野について③少年犯罪、犯罪被害者、家庭裁判所 ④具体的事例から見る政策と法律						
13	E. 産業・労働の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？ ②支える法律と政策						
14	E. 産業・労働の分野について③ストレス・人間関係・ワークライフバランス ④具体的事例から見る法律と政策						
15	試験・グループ発表						
<b>成績評価方法と基準</b>							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加姿勢	20	授業における発言、グループやペアワークへの姿勢	小テスト	30	毎回授業の始めに行う（10問×13回＝130点満点）		
試験	30	最終回授業にて行う（45分）	発表	20	最終回授業でグループ（ペア、個人）ごとに選択したテーマで行う		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
*初回授業において事前学習の詳細については説明する *毎回の授業の始まりに前回授業の復習小テストを行うので、事後学習 [60分] *各グループでの発表のため、話し合いや題材集めを行う（適宜）			小テストは毎回解答を行う。				
受講生に望むこと	関係行政論は政策や法律のみに焦点を当てると煩雑で膨大になりますが、心理職としてクライアントやその関係者を支援するうえで必要不可欠な政策や法律を学べるよう、身の回りの社会でおこる具体的な事件や事例と積極的に結び付けて理解を広げてほしいと思います。		教科書・テキスト	公認心理師の基礎と実践23巻「関係行政論」 遠見書房 元永拓郎編 2018年 ISBN978-4-86616-073-3			
指定図書／参考書等	授業内で紹介する。		その他・特記事項	なし			
<b>実務経験を活かした授業の概要</b>							
これまでの対人援助専門職としての実務経験を活かし、心理的支援の際に関わる政策や法律について具体的な運用を念頭に置きながら講義を行う。							



# 教職員録

職名	氏名
学長	楠本 史郎
副学長	中島 賢介
宗教主事	矢澤 励太
図書館長	富岡 和久
地域教育開発センター長	田中 純一
教務部長	村井万寿夫
学生部長	幸 聖二郎

## 人間総合学部

学部長	真砂 良則
子ども教育学科長(兼)	中島 賢介
子ども教育学科長補佐	福江 厚啓
社会学科長	俵 希實

## 子ども教育学科

教授	伊藤 雄二
〃	川真田早苗
〃	田邊 圭子
〃	中島 賢介
〃	中野 聡
〃	宮浦 国江
〃	虫明 淑子
〃	村井万寿夫
准教授	齊藤 英俊
〃	永山 亮一
〃	福江 厚啓
〃	幸 聖二郎
講師	谷 昌代
〃	松本 理沙
〃	向出 圭吾
助教	高村 真希
〃	武田 恵美

## 社会学科

教授	勝谷 紀子
〃	楠本 史郎

職名	氏名
教授	小林 正史
〃	田中 純一
〃	田引 俊和
〃	俵 希實
〃	真砂 良則
〃	矢澤 励太
〃	若山 将実
准教授	井上 克洋
〃	竹中 祐二
〃	松下 健
〃	若杉 亮平
講師	加藤 仁

## 兼任教員(短期大学部専任教員)

兼任教員	葦名 理恵
〃	上農 肇
〃	木村ゆかり
〃	坂井 良輔
〃	田中 弘美
〃	俵 万里子
〃	富岡 和久
〃	新澤 祥恵
〃	西 正人
〃	野林 晴彦
〃	三田 陽子

## 非常勤講師

非常勤講師	荒井 紀子
〃	アンソニー タガン
〃	稲角 光恵
〃	ヴィンセント レイカー
〃	エリック モーニン
〃	大矢 正則
〃	小笠原知子
〃	岡田 文貴
〃	カーラカー

職名	氏名
非常勤講師	加藤 雅子
〃	亀田孝太郎
〃	北川 節子
〃	木藤 由麻
〃	木梨 由利
〃	熊谷 史佳
〃	河野すみ子
〃	清水 實
〃	白井 雅代
〃	側垣 二也
〃	高橋 律子
〃	竹下 正弘
〃	辰巳 平一
〃	田中 早苗
〃	田邊 浩
〃	種池有美子
〃	津田 朗子
〃	土屋 仁美
〃	堂田 俊樹
〃	徳田 茂
〃	南部 順子
〃	西山志満子
〃	濱西 和子
〃	福田 真紀
〃	本間千重子
〃	前川 直樹
〃	松多 岳史
〃	三田村悦子
〃	宮城 徹
〃	山下のぞみ
〃	大和 太郎
〃	柚木 颯颯
〃	吉井 光信
〃	鷺山 靖
〃	渡邊 彩奈

職名 氏名  
**助手(実験実習補助)**  
 教材室 瀬戸 美江(子ども教育学科)  
 助 手 澤田 里香(食物栄養学科)  
 ♪ 増 泰(♪)  
 ♪ 松本紗耶加(♪)

**教職相談支援室**  
 金丸 洋子  
 戸田 教一

**英語教育研究支援センター**  
 センター長 宮浦 国江  
 教 員 キャサリン シュリーヴズ  
 ♪ マシュー ポッシュ

**【大学キリスト教センター】**  
 センター長(兼) 矢澤 励太

**【教学・学生支援センター】**  
 センター長 池村 努

**【学術情報研究・社会連携センター】**  
 センター長(兼) 真砂 良則

**【アドミッションセンター】**  
 センター長(兼) 庭田 智史

**事務局**  
 事務局長 岩田 喜弘  
 事務局長補佐 庭田 智史  
 事務局長  
 社会連携推進コーディネーター  
 課 長 瀧 浩輔

**【教学・学生支援センター】**  
 課 長 宮本真紀子

〈教務係〉  
 係 長 山口絵美子  
 係 員 酒井 大輔  
 ♪ 下 裕祈  
 ♪ 松井 仰

職名 氏名  
 〈教務助手係〉  
 係 員 瀬戸 康代  
 ♪ 多田 昌生  
 ♪ 近岡 尚美

〈学生支援係〉  
 係 長 西野 拓哉  
 係 員 嶋崎美智代  
 ♪ 平岡 明

**【学術情報研究・社会連携センター】**  
 係 長 本丹 直哉

〈学術情報・研究支援係〉  
 係 員 飯野 昌子  
 ♪ 大桑 陸美  
 ♪ 久保 夕貴  
 ♪ 今田 容子  
 ♪ 山口 聡美

〈社会連携係〉  
 係員(兼) 久保 夕貴

**【アドミッションセンター】**  
 係 長 中島 貴史  
 係 員 瀬戸 佳子  
 ♪(兼) 八田 淳也  
 係 員 三木 香奈

**【総合政策課】**  
 課長代理 トビアス史

〈広報企画係〉  
 係長(兼) 中島 貴史  
 係員(兼) 瀬戸 佳子  
 ♪ 八田 淳也  
 ♪ 三木 香奈  
 ♪ 大桑 千佳

〈経営企画係〉  
 主 任 安部 玲子

〈補助金係〉  
 係 員 八田 淳也

〈IR推進係〉  
 係 員 小島 美紀

職名 氏名  
**【総務財政課】**

課 長 今井 誠一  
 〈総務係〉

主 任 川村 快  
 係 員 小島 妙子  
 ♪ 宮田 知佳

〈財政係〉  
 主 任 宮下 光謹  
 係 員 飯田 風香  
 ♪ 東田 彩見

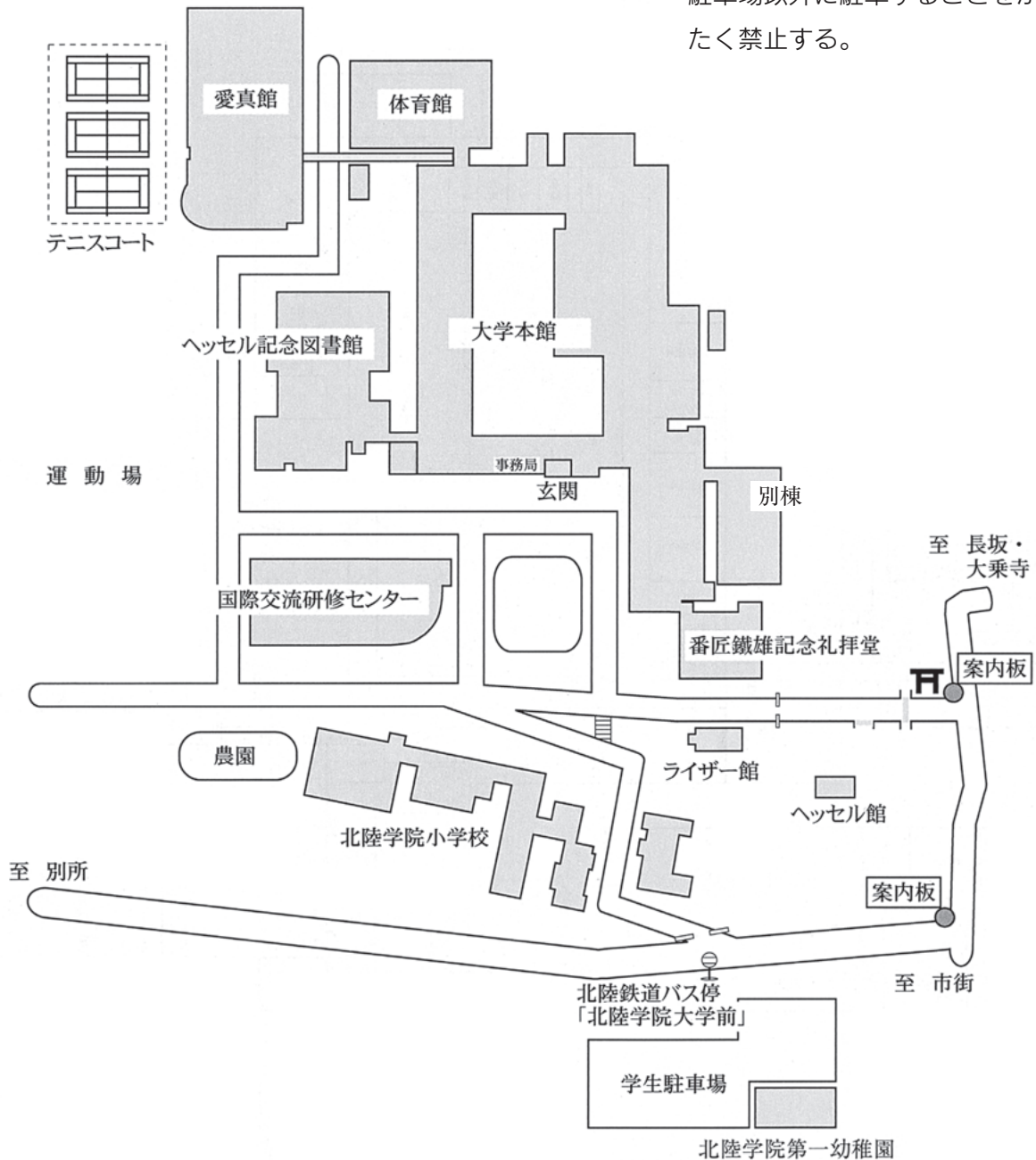
〈営繕係〉  
 主 任 荒木 高志  
 係 員 山田 元気

**保 健 室**  
 看 護 師 桑田 安彩  
 校 医 野口 隆俊  
 カウンセリング 喜多 大輔  
 ♪ 山本麻実子

# キャンパス案内図

## 北陸学院三小牛キャンパス案内図

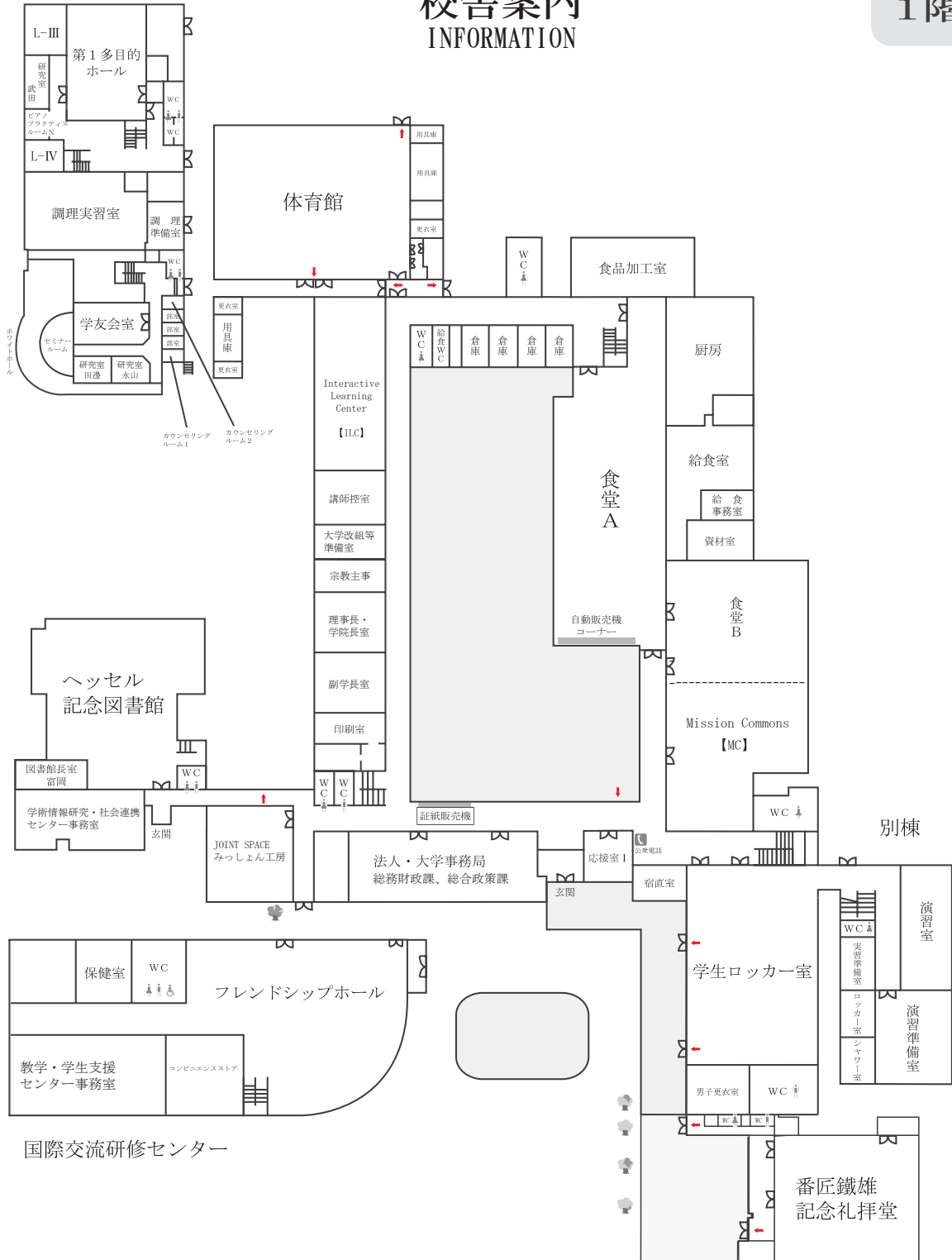
学生に関しては決められた学生  
駐車場以外に駐車することをか  
たく禁止する。



愛真館

# 校舎案内 INFORMATION

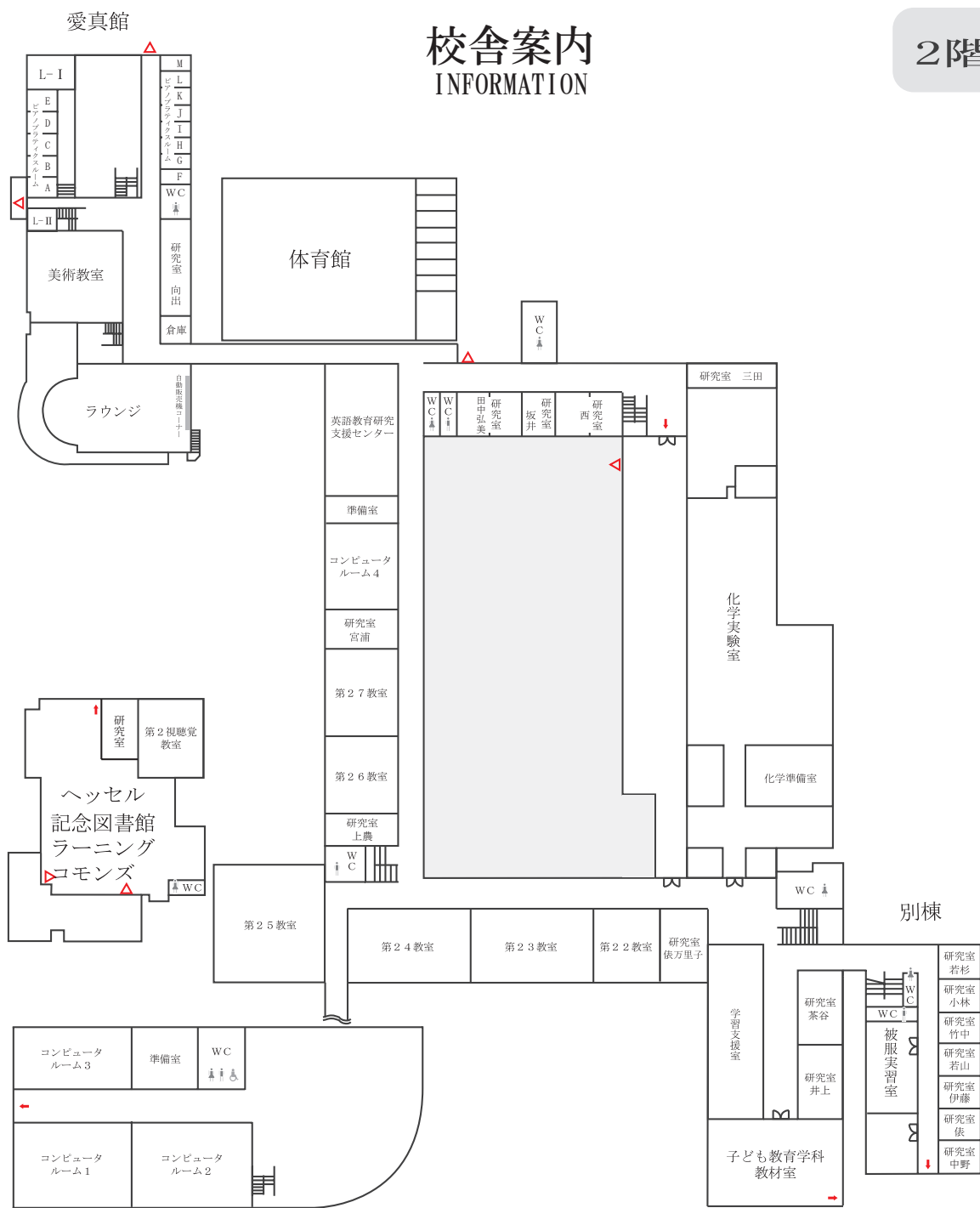
1階



凡例	
→	避難口
△	避難はしご

# 校舎案内 INFORMATION

2階



国際交流研修センター



愛真館



校舎案内  
INFORMATION

3階



国際交流研修センター







